鳥取県教育文化財団調査報告書　61

一般国道９号（北条道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県東伯郡羽合町

長瀬高浜遺跡Ⅷ

一般国道９号（青谷羽合道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県東伯郡泊村

園第６遺跡

１９９９

財団法人　鳥取県教育文化財団

建設省　倉吉工事事務所

鳥取県教育文化財団調査報告書６１

一般国道９号（北条道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県東伯郡羽合町

長瀬高浜遺跡Ⅷ

一般国道９号（青谷羽合道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県東伯郡泊村

園第６遺跡

正誤表

頁　行	誤	正
図版目次，図版７５	園第６遺跡重機表土ぎ作業	園第６遺跡重機表土剥ぎ作業
Ｐ．１５，１行目	竪穴住居跡１７基	竪穴住居跡１８基
Ｐ．４９，６行目	ＳＸ１０１	ＳＸ１００
Ｐ．８１，１０行目	破片接合	破片が接合
Ｐ．９２，１０～１１行目	Ｐｏ８５１	Ｐｏ８５０
Ｐ．１３４，６行目	０．３cm	０．３ｍ
Ｐ．１６１，１２行目	布堀	布掘り
Ｐ．１５９， 挿表18土井編年覚	上神猫山方形周溝基	上神方形周溝墓

一般国道９号（北条道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県東伯郡羽合町

長瀬高浜遺跡Ⅷ

一般国道９号（青谷羽合道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県東伯郡泊村

園第６遺跡

１９９９

財団法人　鳥取県教育文化財団

建設省　倉吉工事事務所

長瀬高浜遺跡中世島跡検出状況（西から）

長瀬高浜遺跡古墳時代前期集落完掘状況（西上空から）

長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物集合写真

序

羽合町は、北に日本海を望み白砂青松の美しい海岸線をもち、東郷池、緑豊かな馬ノ山など自然環境に恵まれた町であります。そして、天神川下流域・東郷池周辺には、弥生時代から古墳時代にかけての大規模集落である南谷遺跡群、国史跡の北山古墳、四隅突出型墳丘墓のある宮内遺跡など多くの埋蔵文化財が存在しています。なかでも、県内最大級の馬ノ山4号墳がある橋津古墳群は国史跡に指定されているほか、東郷池西岸に広がる羽合平野は条里遺構が明確に残り、古代条里復元の手がかりとして重要な地域となっています。

泊村は、山地が海岸付近まで延びており広い平野部はみられませんが、その丘陵上には古代交通関係の遺構が確認された石脇第3遺跡、朝鮮半島との交流が窺える石脇第1遺跡など多くの埋蔵文化財が存在します。なかでも池ノ谷第2遺跡では昭和初期に古式の銅鐸が出土しており、当時の歴史を考えるうえでも大変貴重な資料があります。

当財団では建設省の委託をうけ、一般国道9号北条道路建設に伴い、羽合町地内で長瀬高浜遺跡、青谷羽合道路建設に伴い、泊村地内で圏第6遺跡の発掘調査を行いました。

長瀬高浜遺跡は、これまでに天神川流域下水処理場建設、北条バイパス建設、北条道路建設（久留改良工事）に伴い発掘調査が実施されました。その結果、古墳時代の大集落、おびただしい数の埴輪からなる埴輪群、大規模な古代の畠跡をはじめとして、弥生時代から中世にいたるまでの様々な遺構・遺物が確認されています。また、弥生前期の玉作工房跡から出土した玉作関係資料は一括して県の保護文化財に、埴輪群は国の重要文化財に指定されています。

今回の調査でも、中世の畠跡、古墳、古墳時代前期の集落が調査されました。また、古墳時代の河川跡が確認されるなど、当時の自然環境や砂丘の形成を考えるうえでも重要な資料が提示できました。

今回、これらの調査結果を報告書にまとめることができましたが、本報告書が教育および学術研究のため広く活用され、郷土の歴史を解き明かしていく一助になればと期待するとともに、文化財に対する理解や認識がより深まり、その成果が長く後世に伝えられれば幸いです。

最後に、建設省倉吉工事事務所ならびに調査に参加してくださった地元の方々をはじめ、ご協力いただいた方々に対し心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成11年3月

財団法人　鳥取県教育文化財団
理事長　田　渕　康　允

序　　文

建設省が直轄管理する一般国道９号は、京都市を起点として福知山・豊岡を経由し、蒲生峠から山陰地方へ入り、日本海に沿って鳥取・島根両県を西走し、中国山地を越えて、下関に至る延長約671kmの幹線道路であり、山陰地方の産業・経済活動の動脈として大きな役割を果たしています。

このうち建設省倉吉工事事務所では、東伯郡泊村から米子市（鳥取・島根県境）まで76.6kmを管理しており、広域交流を進める道づくり、暮らしを豊かにする道づくり等各種の道路整備事業を実施しています。その一つに環日本海交流の基幹軸の一環を担う高規格幹線道路（自動車専用道路）の一部である青谷羽合道路および北条道路の整備を進めています。

青谷羽合道路は、東伯郡泊村及び羽合町地内における多種多様な交通による混雑、峠部の冬季交通障害の解消等、安全・円滑交通の確保のほか、機能分担として災害時の緊急輸送路の代替路線確保を目的として計画され、昭和61年度から事業に着手し、今年度は改良工事及び橋梁下部工事を促進しています。

また、北条道路は、東伯郡北条町及び大栄町地内において国道９号の交通混雑を緩和するバイパス道路として計画され、昭和48年度から事業に着手し現在までに一般部については全線暫定供用しています。今年度は高規格部について不足分の用地買収を促進しています。

これらルートには、多数の古墳・散布地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の３の規定に基づき文化庁長官へ通知した結果、事前に発掘調査を行い、記録保存を行うこととなりました。

このうち今年度は、「長瀬高浜遺跡」「国第６遺跡」の２箇所について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査委託契約を締結し、鳥取県教育委員会の指導のもとに発掘調査が行われました。

本書は、この調査結果に学術的な考察を加え、「記録」として保存するためにまとめられたものです。この貴重な「記録」が文化財に対する認識と理解を深めるため、並びに教育及び学術研究のために広く活用されることを期待するとともに、建設省の道路事業が文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることを理解いただけることと期待するものであります。

おわりに、事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集に至るまでご協力いただいた鳥取県教育委員会及び財団法人鳥取県教育文化財団の関係各位のご尽力に対し心から感謝申し上げます。

平成11年３月

建設省　倉吉工事事務所長

鈴　木　秀　章

例　　言

1．本書は、建設省国道９号北条道路並びに青谷羽合道路関係埋蔵文化財発掘調査事業に伴う、長瀬高浜遺跡、園第６遺跡の発掘調査報告書である。

2．本報告書に収載した遺跡の所在地は、長瀬高浜遺跡は鳥取県東伯郡羽合町長瀬字高浜1544他18筆、園第６遺跡は鳥取県東伯郡泊村園字西茄子807他３筆である。

3．本調査は、建設省中国地方建設局の委託により、財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター中部埋蔵文化財羽合調査事務所が平成10年度に行った。

4．本報告書で示す標高は、長瀬高浜遺跡では基準点基―１のH＝13.731m、基―２のH＝10.349m、基―３のH＝9.731mを起点とする標高値を使用し、園第６遺跡では基準点基②―１のH＝38.200mを起点とする標高値を使用した。方位は、いずれの遺跡も磁北を示す。X：、Y：の数値は国土座標第Ⅴ系の座標値である。

5．本報告書に記載の地形図は、国土地理院発行の１/50000地形図「青谷・倉吉」、羽合町１/2500地形図「都市計画図５地区」、中国地方建設局倉吉工事事務所１/1000地形図「泊地区平面図５」を使用した。

6．長瀬高浜遺跡の人骨および獣骨の取り上げ・鑑定を鳥取大学医学部井上貴央教授にお願いしたところ、多忙にも関わらず御寄稿頂いた。

7．長瀬高浜遺跡の畠跡の畝Ｘ線分析を立命館大学高橋学教授にお願いし、ご寄稿いただいた。

8．長瀬高浜遺跡の炭化材の樹種同定を、鳥取大学農学部古川郁夫教授にお願いしたところ、多忙にも関わらず御寄稿頂いた。

9．長瀬高浜遺跡の土師器の胎土分析を奈良教育大学三辻利一教授にお願いしたところ、多忙にも関わらず御寄稿頂いた。

10. 長瀬高浜遺跡における珪藻分析について、富桑小学校米澤伯典教諭に御寄稿頂いた。

11. 長瀬高浜遺跡の地質構造について鳥取大学赤木三郎名誉教授、西田良平教授に御教示を得た。

12. 竪穴住居内出土炭化材および粘質土の^{14}C年代測定、畠土壌中の自然科学分析、鉄滓成分分析を業者委託した。

13. 出土遺物、図面、写真等は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。

14. 現地調査および報告書の作成に当たって、下記の方々に御指導・御協力して頂いた。

赤澤秀則　安藤重敏　内田律雄　亀田修一　河瀬正利　坂本敬司　佐藤雄史　真田廣幸　瀬戸浩二
田中義昭　都出比呂志　中野知照　中山勝博　中村唯史　西尾克己　錦織　勤　根鈴智津子
根鈴輝雄　橋本久和　古瀬清秀　松本岩雄　松山智弘　村上恭通

（敬称略）

凡　　例

1．発掘調査時における遺構番号と報告書記載の遺構番号は、基本的に一致するが、以下のものは変更したものである。

調査時	報告書	調査時	報告書	調査時	報告書
2OSK8	SI262	2OSK5	SX100	2OSK7	2OSK5
2PSK1・2	SX101	整地遺構A	整地遺構1	整地遺構B	整地遺構2
土手状遺構	整地遺構3				

なお、竪穴住居跡、掘立柱建物跡及び柵列のピット番号は、調査時のものから変更したものがある。

2．本報告書における遺構記号は次のように表す。

ＳＩ：竪穴住居跡　ＳＢ：掘立柱建物跡　ＳＫ：土坑・土壙　ＳＤ：溝状遺構　ＳＡ：柵列

ＳＸ：古墳、埋葬施設　Ｐ：柱穴・ピット

3．本報告書における実測図は下記の縮尺で掲載した。

(1)　遺構図―竪穴住居跡：1/80、掘立柱建物跡・柵列：1/80、土坑・土壙：1/40、溝状遺構：1/40・1/80

整地遺構：1/150、柵列・ピット群：1/80、床面・ピット遺物出土状況：1/20・1/40

土器溜：1/40・1/50・1/100、粘土硬化面：1/40、粘土層：1/80

埋葬施設：1/40、古墳：1/150、主体部：1/40

(2)　遺物実測図―土器：1/4・1/8、金属製品：1/2、石製品：1/4、玉製品：1/1

4．遺構の測定値のうち、ピットの規模は（長軸×短軸―深さ）cmで表した。竪穴住居跡の規模は、壁溝を除いた床面の規模である。古墳墳丘の規模は、墳端（裾部）までの計測値である。

5．遺構図における表示は以下のとおりである。

：焼土面、：粘土面、：貝層

●：土製品、△：鉄製品、■：銅製品、□：石製品、☆：玉製品、＊：炭化材、✱：骨・貝

6．本報告書における遺物記号は次のように表す。

Po：土器・土製品　Ｓ：石器　Ｆ：鉄製品　Ｊ：玉製品　Ｂ：銅製品

7．土器実測図のうち、弥生土器、土師器、陶磁器は断面白抜き、須恵器は断面黒塗りで表現した。

遺物実測図中における記号は以下のとおりにする。

→：ケズリの方向（砂粒の動きで判断した）、……：擦り範囲、――：敲打範囲、

：赤色塗彩、：敲打面；、：擦り面・砥面

床面・ピット内出土遺物には、遺物番号の前に●印をつけた。また、墨書土器のうち、赤色塗彩が施されている遺物には、遺物番号の前に★印をつけた。

8．遺跡名には略号を用いた、長瀬高浜遺跡はNT、圃第６遺跡はSN６とした。

遺物には、遺跡名略号、地区名、遺構名もしくはグリッド名、取り上げ番号、取り上げ年月日を基本的に明記した。実測した遺物については、実測者番号をシールに記し、それを個体ごとに貼り付け、実測原図にもその番号を記した。

9．遺物観察表については以下のとおりとする。

(1)　法量は、土器については基本的に口径、器高、胴部最大径、底部径を記載した。石器、鉄器及び玉製品については基本的に最大長、最大幅、最大厚、重さを記載した。その他の計測値については、その都度計測位置を記載した。また、実測の際に復元した計測値には数値の前に※印、残存値は同様に△印を付した。

(2)　手法の欄に記載されている成形、調整及び施文の方向は、実測図で表された方向である。

(3)　Pは、SITEⅢで取り上げた遺物番号である。

10．文章中で触れる土器型式名及び年代（年代観）は、古墳時代前期から後期の土師器については新たな編年案、古墳時代中期から奈良及び平安時代の須恵器については陶邑・田辺編年、古代の土師器編年については伯耆国庁編年を参考にした。

目　　次

序
序　文
例　言
凡　例
目　次
第1章　調査の経緯
第1節　調査に至る経緯 …… 牧本　1
第2節　調査の経過と方法 …… 牧本　1
第3節　調査体制 …… 牧本　3
第4節　長瀬高浜遺跡の調査経過 …… 牧本　4
第5節　青谷羽合道路関係調査経過 …… 牧本　4
第2章　位置と環境
第1節　地理的環境 …… 井上　5
第2節　歴史的環境 …… 岡野　6
第3章　長瀬高浜遺跡の基本層序 …… 牧本　9
第4章　長瀬高浜遺跡古墳時代前期から中期の調査
第1節　古墳時代集落の概要 …… 岡野　15
第2節　竪穴住居跡 …… 井上　岩崎　岡野　牧本　16
第3節　掘立柱建物跡 …… 岩崎　72
第4節　土坑 …… 井上　牧本　75
第5節　柵列・ピット群 …… 井上　岩崎　牧本　77
第6節　土器溜 …… 岩崎　牧本　80
第7節　自然河川 …… 井上　93
第8節　古墳時代包含層遺物 …… 牧本　94
第5章　長瀬高浜遺跡古墳時代中期後半の調査
第1節　古墳群の概要 …… 岡野　95
第2節　古墳 …… 岩崎　岡野　96
第3節　土壙墓 …… 牧本　101
第4節　溝状遺構 …… 牧本　104
第6章　長瀬高浜遺跡古代の調査
第1節　古代検出面の概要 …… 井上　105
第2節　掘立柱建物跡・柵列 …… 井上　岡野　106
第3節　整地遺構 …… 岩崎　牧本　109
第4節　溝状遺構 …… 岩崎　岡野　114
第5節　ピット群 …… 井上　116
第6節　古代包含層遺物 …… 牧本　119
第7章　長瀬高浜遺跡中世の調査
第1節　中世検出面の概要 …… 岩崎　120
第2節　畠跡 …… 井上　岩崎　牧本　121
第3節　溝状遺構 …… 岩崎　岡野　牧本　127

第4節　中世墓・土坑 ……岡野　牧本　132
第5節　ピット群 ……牧本　137
第6節　粘土硬化面 ……井上　137
第7節　粘土層 ……岡野　138
第8節　中世包含層出土遺物 ……岩崎　140
第8章　圃第6遺跡の調査
第1節　圃第6遺跡の概要 ……岩崎　145
第2節　土坑 ……岩崎　146
第3節　溝状遺構 ……岩崎　牧本　147
第4節　柵列・ピット群 ……牧本　149
第5節　遺構外遺物 ……牧本　149
第9章　遺構、遺物の検討
第1節　古墳時代の土器について ……牧本　151
第2節　古墳時代集落について ……岡野　161
第3節　長瀬高浜古墳群の検討 ……牧本　167
第4節　古代の遺構について ……井上　170
第5節　畠跡の検討 ……岩崎　174
第6節　長瀬高浜遺跡出土の古墳時代前期の鉄器 ……岩崎　179
第7節　長瀬高浜遺跡の古環境の変化 ……牧本　182
遺物観察表 ……184～221
特論1　長瀬高浜遺跡の畝状遺構のソフトX線分析 ……立命館大学　高橋　学　222
特論2　長瀬高浜遺跡から検出された人骨と獣骨について　鳥取大学医学部解剖学第二講座　井上貴央　225
特論3　長瀬高浜遺跡内から出土した炭化材の鑑定 ……鳥取大学農学部環境樹林学研究室　古川郁夫　227
特論4　長瀬高浜遺跡出土土師器の蛍光X線分析 ……奈良教育大学　三辻利一　229
特論5　長瀬高浜遺跡における粘土層について ……米澤伯典　236
特論6　長瀬高浜遺跡における放射性炭素年代測定 ……株式会社古環境研究所　245
特論7　鳥取県、長瀬高浜遺跡の自然科学分析 ……株式会社古環境研究所　247
特論8　長瀬高浜遺跡自然科学分析 ……ジオサイエンス株式会社　257
図　版1～72　長瀬高浜遺跡
73～75　圃第6遺跡
特論図版1－1～1－5　長瀬高浜遺跡の畝状遺構のソフトX線分析
特論図版3－1～3－3　長瀬高浜遺跡から出土した炭化材の鑑定
特論図版7－1～7－4　鳥取県、長瀬高浜遺跡の自然科学分析
特論図版8－1～8－8　長瀬高浜遺跡、自然科学分析

挿 図 目 次

挿図1　長瀬高浜遺跡調査区位置図　2
挿図2　園第6遺跡調査区位置図　2
挿図3　羽合町・泊村位置図　5
挿図4　周辺遺跡分布図　8
挿図5　長瀬高浜遺跡調査区南壁土層断面図(1)　10
挿図6　長瀬高浜遺跡調査区南壁土層断面図(2)　11
挿図7　長瀬高浜遺跡シロスナ除去後地形測量図　13・14
挿図8　長瀬高浜遺跡調査後地形測量図　13・14
挿図9　長瀬高浜遺跡古墳時代前期～中期遺構配置図　15
挿図10　長瀬高浜遺跡SI245甕出土状況図　16
挿図11　長瀬高浜遺跡SI245遺構図　16
挿図12　長瀬高浜遺跡SI245出土遺物実測図(1)　17
挿図13　長瀬高浜遺跡SI245出土遺物実測図(2)　18
挿図14　長瀬高浜遺跡SI246・247遺構図　19
挿図15　長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(1)　20
挿図16　長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(2)　21
挿図17　長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(3)　22
挿図18　長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(4)　23
挿図19　長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(5)　24
挿図20　長瀬高浜遺跡SI246床面遺物出土状況図　25
挿図21　長瀬高浜遺跡SI247出土遺物実測図　26
挿図22　長瀬高浜遺跡SI248遺構図　27
挿図23　長瀬高浜遺跡SI248出土遺物実測図　27
挿図24　長瀬高浜遺跡SI249・251・252・2OSK6遺構図　29
挿図25　長瀬高浜遺跡SI249遺物出土状況図　30
挿図26　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(1)　31
挿図27　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(2)　32
挿図28　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(3)　33
挿図29　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(4)　34
挿図30　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(5)　35
挿図31　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(6)　36
挿図32　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(7)　37
挿図33　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(8)　38
挿図34　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(9)　39
挿図35　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(10)　40
挿図36　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(11)　41
挿図37　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(12)　42
挿図38　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(13)　43
挿図39　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(14)　44
挿図40　長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(15)　45
挿図41　長瀬高浜遺跡2OSK6出土遺物実測図　46
挿図42　長瀬高浜遺跡SI251出土遺物実測図　47
挿図43　長瀬高浜遺跡SI252出土遺物実測図(1)　47
挿図44　長瀬高浜遺跡SI252出土遺物実測図(2)　48
挿図45　長瀬高浜遺跡SI250出土遺物実測図(1)　49
挿図46　長瀬高浜遺跡SI250遺構図　50
挿図47　長瀬高浜遺跡SI250出土遺物実測図(2)　50
挿図48　長瀬高浜遺跡SI250出土遺物実測図(3)　51
挿図49　長瀬高浜遺跡SI250出土遺物実測図(4)　52
挿図50　長瀬高浜遺跡SI250出土遺物実測図(5)　53
挿図51　長瀬高浜遺跡SI253～256・261遺構図　54
挿図52　長瀬高浜遺跡SI253～256・261土層断面図　55
挿図53　長瀬高浜遺跡SI253出土遺物実測図(1)　58
挿図54　長瀬高浜遺跡SI253出土遺物実測図(2)　59
挿図55　長瀬高浜遺跡SI254出土遺物実測図(1)　60
挿図56　長瀬高浜遺跡SI254出土遺物実測図(2)　61
挿図57　長瀬高浜遺跡SI254出土遺物実測図(3)　62
挿図58　長瀬高浜遺跡SI255出土遺物実測図(1)　62
挿図59　長瀬高浜遺跡SI255出土遺物実測図(2)　63
挿図60　長瀬高浜遺跡SI256出土遺物実測図　64
挿図61　長瀬高浜遺跡SI261出土遺物実測図　64
挿図62　長瀬高浜遺跡SI257出土遺物実測図　65
挿図63　長瀬高浜遺跡SI257遺構図　65
挿図64　長瀬高浜遺跡SI257甕出土状況図　66
挿図65　長瀬高浜遺跡SI258遺構図　66
挿図66　長瀬高浜遺跡SI258出土遺物実測図　67
挿図67　長瀬高浜遺跡SI259遺構図　68
挿図68　長瀬高浜遺跡SI259出土遺物実測図　68
挿図69　長瀬高浜遺跡SI260遺構図　69
挿図70　長瀬高浜遺跡SI260出土遺物実測図　70
挿図71　長瀬高浜遺跡SI262遺構図　71
挿図72　長瀬高浜遺跡SI262出土遺物実測図　71
挿図73　長瀬高浜遺跡SB61遺構図　72
挿図74　長瀬高浜遺跡SB62遺構図　73
挿図75　長瀬高浜遺跡SB63遺構図　73
挿図76　長瀬高浜遺跡SB63出土遺物実測図　74
挿図77　長瀬高浜遺跡SB64遺構図　74
挿図78　長瀬高浜遺跡2OSK5出土遺物実測図　75

挿図79　長瀬高浜遺跡２OSK５遺構図　75
挿図80　長瀬高浜遺跡３PSK１遺構図　76
挿図81　長瀬高浜遺跡３PSK２遺構図　76
挿図82　長瀬高浜遺跡４PSK１遺構図　76
挿図83　長瀬高浜遺跡ピット群３P21内炭化物出土状況図　77
挿図84　長瀬高浜遺跡SA８・９、ピット群３遺構図　78
挿図85　長瀬高浜遺跡SA10、ピット群４遺構図　79
挿図86　長瀬高浜遺跡ピット群５遺構図　80
挿図87　長瀬高浜遺跡土器溜１遺物出土状況図(1)　81
挿図88　長瀬高浜遺跡土器溜１遺物出土状況図(2)　81
挿図89　長瀬高浜遺跡土器溜１出土遺物実測図(1)　82
挿図90　長瀬高浜遺跡土器溜１出土遺物実測図(2)　83
挿図91　長瀬高浜遺跡土器溜１出土遺物実測図(3)　84
挿図92　長瀬高浜遺跡土器溜１出土遺物実測図(4)　85
挿図93　長瀬高浜遺跡土器溜２遺物出土状況図(1)　86
挿図94　長瀬高浜遺跡土器溜２遺物出土状況図(2)　86
挿図95　長瀬高浜遺跡土器溜２出土遺物実測図(1)　87
挿図96　長瀬高浜遺跡土器溜２出土遺物実測図(2)　88
挿図97　長瀬高浜遺跡土器溜３出土遺物実測図　89
挿図98　長瀬高浜遺跡土器溜３遺物出土状況図　89
挿図99　長瀬高浜遺跡土器溜４遺物出土状況図　90
挿図100　長瀬高浜遺跡土器溜４出土遺物実測図　90
挿図101　長瀬高浜遺跡土器溜５遺物出土状況図　91
挿図102　長瀬高浜遺跡土器溜５出土遺物実測図　91
挿図103　長瀬高浜遺跡土器溜６遺物出土状況図　92
挿図104　長瀬高浜遺跡土器溜６出土遺物実測図　92
挿図105　長瀬高浜遺跡古墳時代包含層出土遺物実測図　94
挿図106　長瀬高浜遺跡古墳時代中期後半遺構配置図　95
挿図107　長瀬高浜遺跡SX97周溝内遺物出土状況図　96
挿図108　長瀬高浜遺跡SX97出土遺物実測図　96
挿図109　長瀬高浜遺跡SX97遺構図　97
挿図110　長瀬高浜遺跡SX97主体部人骨出土状況図　97
挿図111　長瀬高浜遺跡SX98遺構図　98
挿図112　長瀬高浜遺跡SX98周溝内遺物出土状況図　98
挿図113　長瀬高浜遺跡SX98出土遺物実測図　99
挿図114　長瀬高浜遺跡SX99遺構図　100
挿図115　長瀬高浜遺跡SX99出土遺物実測図　100
挿図116　長瀬高浜遺跡SX100遺構図　101
挿図117　長瀬高浜遺跡SX100出土遺物実測図　102
挿図118　長瀬高浜遺跡SX101遺構図　103
挿図119　長瀬高浜遺跡SX101出土遺物実測図　103
挿図120　長瀬高浜遺跡SD22遺構図　104
挿図121　長瀬高浜遺跡SD22出土遺物実測図　104
挿図122　長瀬高浜遺跡古代遺構配置図　105
挿図123　長瀬高浜遺跡SB58出土遺物実測図　106
挿図124　長瀬高浜遺跡SB58遺構図　106
挿図125　長瀬高浜遺跡SB59、SA６遺構図　107
挿図126　長瀬高浜遺跡SB60、SA５・７遺構図　108
挿図127　長瀬高浜遺跡SB60出土遺物実測図　110
挿図128　長瀬高浜遺跡整地遺構１・２遺構図　110
挿図129　長瀬高浜遺跡整地遺構１・２粘土除去後遺構図　110
挿図130　長瀬高浜遺跡整地遺構１出土遺物実測図　111
挿図131　長瀬高浜遺跡整地遺構２出土遺物実測図　112
挿図132　長瀬高浜遺跡整地遺構３遺構図　113
挿図133　長瀬高浜遺跡整地遺構３出土遺物実測図　114
挿図134　長瀬高浜遺跡SD18出土遺物実測図　114
挿図135　長瀬高浜遺跡SD18～20遺構図　114
挿図136　長瀬高浜遺跡SD24遺構図　115
挿図137　長瀬高浜遺跡ピット群１出土遺物実測図　116
挿図138　長瀬高浜遺跡ピット群１遺構図　116
挿図139　長瀬高浜遺跡古代包含層出土遺物実測図(1)　118
挿図140　長瀬高浜遺跡古代包含層出土遺物実測図(2)　119
挿図141　長瀬高浜遺跡中世遺構配置図　120
挿図142　長瀬高浜遺跡９号畠出土遺物実測図　121
挿図143　長瀬高浜遺跡畠跡遺構図　122
挿図144　長瀬高浜遺跡畠跡土層断面図　123
挿図145　長瀬高浜遺跡15号畠遺構図　126
挿図146　長瀬高浜遺跡SD９西側遺構図　127
挿図147　長瀬高浜遺跡SD11遺構図　128
挿図148　長瀬高浜遺跡SD12遺構図　128
挿図149　長瀬高浜遺跡SD13遺構図　129
挿図150　長瀬高浜遺跡SD13出土遺物実測図　129
挿図151　長瀬高浜遺跡SD14遺構図　129
挿図152　長瀬高浜遺跡SD15遺構図　130
挿図153　長瀬高浜遺跡SD16・17遺構図　130
挿図154　長瀬高浜遺跡SD15出土遺物実測図　130
挿図155　長瀬高浜遺跡SD21出土遺物実測図　131
挿図156　長瀬高浜遺跡SD21遺構図　131
挿図157　長瀬高浜遺跡SD23遺構図　132
挿図158　長瀬高浜遺跡SD23出土遺物実測図　132
挿図159　長瀬高浜遺跡２OSK１遺構図　132
挿図160　長瀬高浜遺跡２OSK２遺構図　132
挿図161　長瀬高浜遺跡２OSK３遺構図　133
挿図162　長瀬高浜遺跡２OSK４遺構図　133

挿図163　長瀬高浜遺跡３OSK１遺構図　133
挿図164　長瀬高浜遺跡３OSK２遺構図　134
挿図165　長瀬高浜遺跡３OSK２出土遺物実測図　134
挿図166　長瀬高浜遺跡３OSK３遺構図　135
挿図167　長瀬高浜遺跡３OSK４遺構図　135
挿図168　長瀬高浜遺跡３OSK５遺構図　135
挿図169　長瀬高浜遺跡３OSK６遺構図　136
挿図170　長瀬高浜遺跡３OSK６出土遺物実測図　136
挿図171　長瀬高浜遺跡３OSK７出土遺物実測図　136
挿図172　長瀬高浜遺跡３OSK７遺構図　136
挿図173　長瀬高浜遺跡ピット群２遺構図　137
挿図174　長瀬高浜遺跡粘土硬化面遺構図　137
挿図175　長瀬高浜遺跡粘土層足跡実測図　139
挿図176　長瀬高浜遺跡中世遺物出土状況図　141
挿図177　長瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(1)　142
挿図178　長瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(2)　143
挿図179　長瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(3)　144
挿図180　園第６遺跡調査前地形測量図　145
挿図181　園第６遺跡調査後地形測量図　145
挿図182　園第６遺跡SK１遺構図　146
挿図183　園第６遺跡SK２遺構図　146
挿図184　園第６遺跡SK３遺構図　146
挿図185　園第６遺跡SK４遺構図　147
挿図186　園第６遺跡SD１遺構図　147
挿図187　園第６遺跡SD２遺構図　147
挿図188　園第６遺跡SA１、ピット群遺構図　148
挿図189　園第６遺跡ピット群１出土遺物実測図　149
挿図190　園第６遺跡P26内遺物出土状況図　149
挿図191　園第６遺跡遺構外出土遺物実測図　150
挿図192　長瀬高浜遺跡土師器型式分類図　151
挿図193　天神川下流域土器編年案(1)　153
挿図194　天神川下流域土器編年案(2)　155
挿図195　天神川下流域土器編年案(3)　157
挿図196　長瀬高浜遺跡集落変遷図古墳時代前期（Ⅰ～Ⅳ期）　162
挿図197　長瀬高浜遺跡集落変遷図古墳時代中期（Ⅴ・Ⅵ期）　163
挿図198　長瀬高浜古墳群変遷図　168
挿図199　長瀬高浜遺跡の円筒埴輪　168
挿図200　長瀬高浜遺跡クロスナ分布図　182

挿表目次

挿表１　長瀬高浜遺跡高浜遺跡調査経過一覧表　4
挿表２　羽合道路関係調査経過一覧表　4
挿表３　青谷羽合道路関係調査経過一覧表　4
挿表４　長瀬高浜遺跡ピット群３、SA８・９ピット一覧表　77
挿表５　長瀬高浜遺跡ピット群４ピット一覧表　79
挿表６　長瀬高浜遺跡ピット群５ピット一覧表　80
挿表７　SB58ピット一覧表　107
挿表８　長瀬高浜遺跡ピット群１ピット一覧表　117
挿表９　長瀬高浜遺跡９号畠規模一覧表　121
挿表10　長瀬高浜遺跡10号畠規模一覧表　121
挿表11　長瀬高浜遺跡11号畠規模一覧表　124
挿表12　長瀬高浜遺跡12号畠規模一覧表　124
挿表13　長瀬高浜遺跡13号畠規模一覧表　125
挿表14　長瀬高浜遺跡14号畠規模一覧表　126
挿表15　長瀬高浜遺跡粘土硬化面内溝一覧表　138
挿表16　園第６遺跡ピット群１ピット一覧表　148
挿表17　天神川下流編年案土師器対照表　159
挿表18　古墳時代土師器編年案対照表　159
挿表19　長瀬高浜古墳群一覧（古墳に限る）　167
挿表20　長瀬高浜遺跡出土・古代の遺構一覧表　171
挿表21　鳥取県内出土帯金具・石帯一覧表　172
挿表22　鳥取県内の古代・掘立柱建物跡で構成される集落遺跡一覧表　173
挿表23　長瀬高浜遺跡古墳時代前期出土鑿形鉄器一覧表　181
挿表24～55　長瀬高浜遺跡出土土器観察表　184～215
挿表56・57　長瀬高浜遺跡出土金属製品観察表　216・217
挿表58・59　長瀬高浜遺跡出土石製品観察表　218・219
挿表60　長瀬高浜遺跡出土玉製品観察表　219
挿表61・62　園第６遺跡出土土器観察表　220・221
挿表63　園第６遺跡出土石製品観察表　221

図 版 目 次

図版1　長瀬高浜遺跡古墳時代集落完掘状況（北上空から）
長瀬高浜遺跡古墳時代集落完掘状況（北上空から）
長瀬高浜遺跡古墳時代集落完掘状況（西から）

図版2　長瀬高浜遺跡SI245～248完掘状況（東から）
長瀬高浜遺跡SI245完掘状況（北東から）
長瀬高浜遺跡SI245Po27出土状況（東から）
長瀬高浜遺跡SI246完掘状況（東から）
長瀬高浜遺跡SI246遺物出土状況（東から）
長瀬高浜遺跡SI246Po43、59、97出土状況（東から）

図版3　長瀬高浜遺跡SI247完掘状況（東から）
長瀬高浜遺跡SI248完掘状況（南東から）
長瀬高浜遺跡SI249完掘状況（南西から）
長瀬高浜遺跡SI249遺物出土状況（南西から）
長瀬高浜遺跡SI249遺物出土状況（南から）
長瀬高浜遺跡SI251・252完掘状況（南西から）

図版4　長瀬高浜遺跡SI250完掘状況（南西から）
長瀬高浜遺跡SI250遺物出土状況（南西から）
長瀬高浜遺跡SI253完掘状況（北から）
長瀬高浜遺跡SI253遺物出土状況（北から）
長瀬高浜遺跡SI254完掘状況（北東から）
長瀬高浜遺跡SI254遺物出土状況（北東から）

図版5　長瀬高浜遺跡SI255完掘状況（北から）
長瀬高浜遺跡SI255遺物出土状況（北から）
長瀬高浜遺跡SI256完掘状況（東から）
長瀬高浜遺跡SI261完掘状況（北から）
長瀬高浜遺跡SI257遺物出土状況（北から）
長瀬高浜遺跡SI258完掘状況（北東から）

図版6　長瀬高浜遺跡SI258遺物出土状況（北東から）
長瀬高浜遺跡SI259完掘状況（東から）
長瀬高浜遺跡SI260完掘状況（北から）
長瀬高浜遺跡SB61完掘状況（北東から）
長瀬高浜遺跡SB62完掘状況（東から）
長瀬高浜遺跡SB63完掘状況（東から）

図版7　長瀬高浜遺跡２OSK５完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡３PSK１完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡３PSK２完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡４PSK１完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡ピット群３完掘状況（北東から）
長瀬高浜遺跡SB64、SA10、ピット群４完掘状況(北から)

図版8　長瀬高浜遺跡ピット群５完掘状況（北から）
長瀬高浜遺跡土器溜１検出状況（東から）
長瀬高浜遺跡土器溜２検出状況（北から）
長瀬高浜遺跡土器溜３検出状況（南西から）
長瀬高浜遺跡土器溜４検出状況（南から）
長瀬高浜遺跡土器溜６検出状況（南から）

図版9　長瀬高浜遺跡自然河川堆砂その１状況（北から）
長瀬高浜遺跡自然河川堆砂その２状況（北から）
長瀬高浜遺跡SX97～99完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡SX97完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡SX97周溝内遺物出土状況（北西から）
長瀬高浜遺跡SX97主体部人骨出土状況（南西から）

図版10　長瀬高浜遺跡SX98完掘状況（北から）
長瀬高浜遺跡SX98周溝内遺物出土状況（北から）
長瀬高浜遺跡SX98周溝内遺物出土状況（南から）
長瀬高浜遺跡SX99完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡SX99完掘状況（北東から）
長瀬高浜遺跡SX100完掘状況（南西から）

図版11　長瀬高浜遺跡SX101人骨出土状況（南東から）
長瀬高浜遺跡SD22遺物出土状況（南から）
長瀬高浜遺跡SB58・59完掘状況（北東から）
長瀬高浜遺跡整地遺構１検出状況（北東から）
長瀬高浜遺跡整地遺構１粘土除去後状況(北東から)
長瀬高浜遺跡整地遺構１、SX99土層断面（北から）

図版12　長瀬高浜遺跡整地遺構３検出状況（北から）
長瀬高浜遺跡整地遺構３粘土除去後状況(北西から)
長瀬高浜遺跡整地遺構３、SX98土層断面（北から）
長瀬高浜遺跡SD18完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡SD19・20完掘状況（北から）
長瀬高浜遺跡SD24完掘状況（西から）

図版13　長瀬高浜遺跡畠跡完掘状況（南上空から）
長瀬高浜遺跡畠跡完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡畠跡完掘状況（西から）

図版14　長瀬高浜遺跡９号畠完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡10・11・12号畠完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡11号畠上面偶蹄目足跡検出状況(南西から)
長瀬高浜遺跡13号畠完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡畠跡上面足跡検出状況（西から）
長瀬高浜遺跡15号畠完掘状況（西から）

図版15 長瀬高浜遺跡SD 9 完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡SD21遺物出土状況（西から）
長瀬高浜遺跡SD23完掘状況（南から）
長瀬高浜遺跡SD16・17完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡SD15遺物出土状況（北から）
長瀬高浜遺跡SD15、ピット群２完掘状況（北から）
図版16 長瀬高浜遺跡２OSK１完掘状況（南から）
長瀬高浜遺跡２OSK２完掘状況（南から）
長瀬高浜遺跡２OSK３完掘状況（東から）
長瀬高浜遺跡２OSK４完掘状況（南から）
長瀬高浜遺跡３OSK１完掘状況（北西から）
長瀬高浜遺跡３OSK２遺物出土状況（南東から）
図版17 長瀬高浜遺跡３OSK３完掘状況（西から）
長瀬高浜遺跡３OSK４完掘状況（南から）
長瀬高浜遺跡３OSK４シジミ貝出土状況（北から）
長瀬高浜遺跡３OSK５完掘状況（東から）
長瀬高浜遺跡３OSK６遺物出土状況（南から）
長瀬高浜遺跡３OSK７遺物出土状況（北から）
図版18 長瀬高浜遺跡粘土硬化面検出状況（東から）
長瀬高浜遺跡粘土層上層足跡検出状況（西から）
長瀬高浜遺跡粘土層下層足跡検出状況（東から）
長瀬高浜遺跡粘土層人足跡検出状況（西から）
長瀬高浜遺跡粘土層人足跡検出状況（東から）
長瀬高浜遺跡粘土層偶蹄目足跡検出状況
図版19 長瀬高浜遺跡SI245 Po１・２・４・７・８・10・12・16・23・25
図版20 長瀬高浜遺跡SI245 Po17・20・21・22・24・27・28・29
図版21 長瀬高浜遺跡SI246 Po30～32・39・43・46・47・59・69・100・111
図版22 長瀬高浜遺跡SI246 Po48・51～54・56・58
図版23 長瀬高浜遺跡SI246 Po57・58・63・67・70・72・73・74
図版24 長瀬高浜遺跡SI246 Po75・76・78・79・80・97・99・102
図版25 長瀬高浜遺跡SI246 Po103～106・108・109・112・115
図版26 長瀬高浜遺跡SI247 Po113・116・117・119～121・127・128・129・130・131
図版27 長瀬高浜遺跡SI249 Po134・135・136・137・138・140・143
図版28 長瀬高浜遺跡SI249 Po144～147・149・152・154・155
図版29 長瀬高浜遺跡SI249 Po159～166
図版30 長瀬高浜遺跡SI249 Po167～171・173・174・176
図版31 長瀬高浜遺跡SI249 Po177・182・198・219・229・230・232・233
図版32 長瀬高浜遺跡SI249 Po234～240・244
図版33 長瀬高浜遺跡SI249 Po241・245～250
図版34 長瀬高浜遺跡SI249 Po251・256・261・265・268・269・279・Po279（底部）
図版35 長瀬高浜遺跡SI249 Po280・282・283・285・286・288・289・290
図版36 長瀬高浜遺跡SI249 Po291・292・294～299
図版37 長瀬高浜遺跡SI249 Po300～302・305～307・330・337・344・355・365・367・368・370・375
図版38 長瀬高浜遺跡SI249 Po331・332・334～336・338～340
図版39 長瀬高浜遺跡SI249 Po341～343・345・348・349・351・354
図版40 長瀬高浜遺跡SI249 Po353・357・358・361～364・366
図版41 長瀬高浜遺跡SI249 Po369・372～374・376～378・381・Po372（内面）
図版42 長瀬高浜遺跡SI249 Po172・193・205・213・SI249出土土器
図版43 長瀬高浜遺跡２OSK６ Po382・388・391・392・397・398・399・400
図版44 長瀬高浜遺跡SI251 Po401～403・408～411・415・419～421・423・425・426、S４
図版45 長瀬高浜遺跡SI252 Po418・427・429・430・432・436・438・442
図版46 長瀬高浜遺跡SI252 Po443・444・446・447 SI250 Po450～453・455・456・460・465～467・470・473
図版47 長瀬高浜遺跡SI250 Po461・468・469・472・488・494・495・497～502・519・524・535
図版48 長瀬高浜遺跡SI250 Po503・505・510・511・513・517・518・520
図版49 長瀬高浜遺跡SI250 Po525・526・528・529・536 SI253 Po537～539・549・557・558・566・575・576
図版50 長瀬高浜遺跡SI253 Po540・542・553・559・560・564・572・573
図版51 長瀬高浜遺跡SI253 Po574 SI254 Po578～580・

582～585

図版52　長瀬高浜遺跡SI254　Po586～592・598・601・606・607・622

図版53　長瀬高浜遺跡SI254Po604・605・608・612・618～620・623

図版54　長瀬高浜遺跡SI254Po629～636・638～640・642・643

図版55　長瀬高浜遺跡SI255Po641・644～646・650・652・654～656・664・665

図版56　長瀬高浜遺跡SI256Po657・659・660・666～673

図版57　長瀬高浜遺跡SI258Po674・679・680・683・684
SI259Po686・688・689

図版58　長瀬高浜遺跡SI260Po693～695・697
SI262Po700～703、2OSK5Po705・706
土器溜1Po709・710

図版59　長瀬高浜遺跡土器溜1Po711・716・717・719・726・728・732・734・735・740・751・752・754・772・776・778・780

図版60　長瀬高浜遺跡土器溜1Po712・714・718・724・730・756・790

図版61　長瀬高浜遺跡土器溜1Po731・733・739・757・759・766・768・779

図版62　長瀬高浜遺跡土器溜1Po785・788・789・791・792・795・796

図版63　長瀬高浜遺跡土器溜2Po793・794・799・800・803・805～807・819・820・822・823

図版64　長瀬高浜遺跡土器溜2Po808・818・824～826・828・830・831

図版65　長瀬高浜遺跡土器溜3Po832、土器溜4Po833・836・837・838・839、土器溜5Po841・844・847

図版66　長瀬高浜遺跡土器溜5Po842・843・848・849、土器溜6Po850、古墳時代包含層Po854・857・858

図版67　長瀬高浜遺跡古墳時代包含層Po855、SX97Po861・862、SX98　Po863・865～867・869

図版68　長瀬高浜遺跡SX98Po864・868、SX100　Po870・871～873・877・878、SD22Po881、整地遺構1Po897・900・902～906・908・912

図版69　長瀬高浜遺跡整地遺構3Po913・914・915・916
古代包含層Po940・941・946、3OSK2Po979・980

図版70　長瀬高浜遺跡3OSK2Po973～976、3OSK6Po833・981・982
中世包含層Po983・988・989・993～995・999・1000～1010

図版71　長瀬高浜遺跡中世包含層Po1011～1013・1032・1038、SD18B3・B4、SI249B1（鏡面、背面）、SI253S8、SI254S9、SI255S10・11、土器溜2S15・16、整地遺構3S25、古代包含層S29、中世包含層S30・36

図版72　長瀬高浜遺跡SX99S19
古代中世包含層F26・37～40・44・45・47・49・50・52・53、土器溜1J2・F21・22、土器溜2F23・24・25
古墳時代包含層J3、整地遺構1F31・33・35、整地遺構2J4、SD21J5、中世包含層J6・7・8、SI246F1、SI248F2、SI249F3・4、SI250F11、SI252F8・J1、SI255F18、SI256F19、SX97F28、SX99F29、3OSK7F42、中世包含層F43、遺跡内鉄滓・鞴

図版73　圃第6遺跡調査前状況（南上空から）
圃第6遺跡調査前状況（東から）
圃第6遺跡調査後状況（上空から）
圃第6遺跡調査後状況（北東から）
圃第6遺跡SD2・SK2完掘状況（南西から）
圃第6遺跡SD1完掘状況（東から）

図版74　圃第6遺跡ピット26内Po1出土状況（北から）
圃第6遺跡SA1完掘状況（北東から）
圃第6遺跡ピット群完掘状況（東から）
圃第6遺跡SK1完掘状況（東から）
圃第6遺跡SK3完掘状況（北西から）
圃第6遺跡SK4完掘状況（西から）

図版75　圃第6遺跡P26Po1、遺構外Po5・8・16・35・37・38・40・43、S1
圃第6遺跡重機表土ぎ作業
圃第6遺跡作業風景その1
圃第6遺跡作業風景その2
作業員一同

特論図版1－1～－5
特論図版3－1～－3
特論図版7－1～－4
特論図版8－1～－12

（文中図版）

文中写真①　長瀬高浜遺跡現地説明会風景その1
文中写真②　長瀬高浜遺跡重機表土剥ぎ作業風景
文中写真③　長瀬高浜遺跡現地説明会風景その2
文中写真④　長瀬高浜遺跡畠跡検出作業風景
文中写真⑤　長瀬高浜遺跡浄化センター調査区畠跡検出状況

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

山陰地方では、国道９号線の交通混雑緩和及び将来の国上幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県中部地域では、北条道路、青谷羽合道路が自動車専用の高規格道路として施工されている。

北条道路の計画地内には羽合町長瀬地区には長瀬高浜遺跡が、青谷羽合道路の計画地内には、泊村園地区において園第６遺跡などの多数の遺跡があり、建設に先立ち、計画地内の遺跡及び遺構の広がりを確認する必要性が生じた。このため、羽合町教育委員会は平成６年に、泊村教育委員会は平成６年度から、国庫補助事業として試掘調査を行った。

この結果を受け、建設省中国地方建設局（倉吉工事事務所）は、鳥取県教育委員会事務局文化課と協議し、文化財保護法第57条の３に基づく発掘通知を行った上、文化庁長官の指示により財団法人鳥取県教育文化財団に記録保存のための事前調査を委託した。これにより、当財団が文化財保護法第57条に基づく発掘調査届を提出し、文化庁長官から発掘調査実施の指示を受け、平成10年度は中部埋蔵文化財羽合調査事務所が、発掘調査を担当することとなった。なお、北条道路関係発掘調査のうち、平成７、８年度は中部埋蔵文化財北条道路調査事務所が長瀬高浜遺跡の発掘調査を担当し、『長瀬高浜遺跡Ⅶ』として報告を行っている。また、青谷羽合道路関係発掘調査についても、平成２～５年度に５冊、平成９年度に２冊の報告書を刊行している。

長瀬高浜遺跡の平成10年度調査区は、平成７、８年度調査区東側の高浜跨道橋を挟んで東側部分が調査対象区となり、発掘調査面積は、一部２面調査の10,283㎡となった。

園第６遺跡の発掘調査面積は、747㎡であった。　　（牧本）

第２節　調査の経過と方法

長瀬高浜遺跡の調査区には、厚さ約2.5～６mのシロスナが厚く堆積しており、壁が崩落しないように安全勾配をつけて重機によってシロスナ除去を行い、その後シートによって法面を保護した。また、周囲は耕作地および国道９号があり、調査区内からの飛砂を防ぐために調査区周囲に防砂ネットを貼った後調査を開始した。排砂は、ベルトコンベヤーと重機によって調査区外へ搬出し、ダンプで場外搬出した。

平成10年調査区では、まずクロスナ面を検出しながら調査前地形測量を行い、調査区をこれまでの調査にならいグリッドの延長線上に20mおきに基準杭を設定した。その結果、南北軸は東から－１～４、東西軸はOとなった。グリッド名は、東西南北軸の交点の北東側の杭の名称をとって呼称することとし、座標は－１O杭（X：－56162.336m、Y：－42479.391m）、４O杭（X：－56171.206m、Y：－42578.997m）となった。

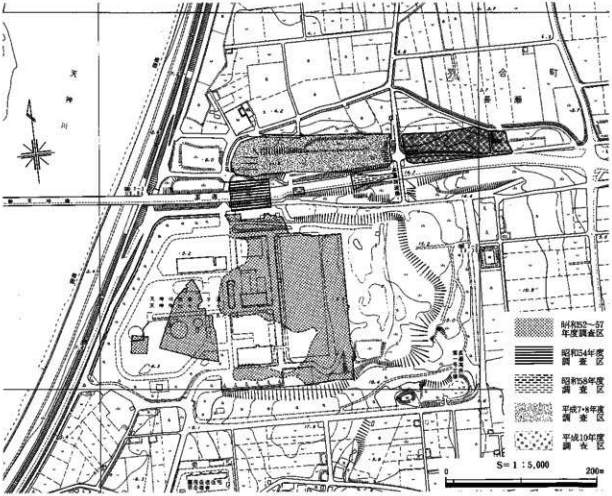
調査は、重機によるシロスナ除去と並行して検出作業を４月16日から11月16日にかけて行った。遺構の密集するクロスナ部分は全面掘り下げを行ったが、シロスナ部分に関しては、標高約2.5mで湧水が激しくなり、調査区南側部分のみにウエルポイントを設置し、部分的な掘り下げのみを行って遺構の検出にあたった。

その結果、クロスナ層中で中世の畠跡７区画、中世墓を含む土坑９基、溝状遺構10基、粘土硬化面１か所、ピット群１か所、粘土面１か所、クロスナ中で奈良から平安時代の掘立柱建物跡３基、柵列３基、整地遺構３か所、ピット群１か所、古墳時代中期の古墳３基、土壙墓２基、溝状遺構１基、さらに、古墳時代前期から中期の竪穴住居跡18基、掘立柱建物跡４基、土坑５基、ピット群３か所、自然河川を検出した。

発掘作業は11月13日に終了し、その後ウエルポイントを撤収し11月18日にすべての作業を終了した。

園第６遺跡は丘陵先端部に位置し、その下には農業用水路が走っているために、排土が流失しないように伐採木を利用してシガラミを作り、調査に取りかかった。

立木伐採後、調査区を国土座標に載るように10mグリッドに区画し、基準杭を設定した。その結果、南北軸は東から１～４、東西軸は北からA～Dとなった。グリッド名は東西南北軸の交点の北東側の杭名の名称をとって



挿図1　長瀬高浜遺跡調査区位置図

挿図2　第6遺跡調査区位置図

呼称することとし、座標はＡ１杭（Ｘ：－55080m、Ｙ：－35670m）、Ｄ４杭（Ｘ：－55110m、Ｙ：－35700m）となった。

調査は、10月15日から調査前地形測量を行い、空中写真撮影終了後重機による表土剥ぎと平行して、10月20日から検出作業を開始し、11月13日に終了した。その後、調査後地形測量を行い11月17日にすべての作業を終了した。その結果、古墳時代後期と考えられる柵列１基、ピット群１か所、時期不明の溝状遺構２基、土坑４基を検出した。（牧本）

第３節　調査体制

調査は、下記の体制で実施された。

○調査主体　財団法人鳥取県教育文化財団

理　事　長　　田渕　康允（鳥取県教育委員会教育長）
常務理事　　大和谷　朝（鳥取県教育委員会事務局次長）
事務局長　　岡山　宏徳

財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

所　　長　　古井　喜紀（県埋蔵文化財センター所長）
次　　長　　八木谷　昇

調整係

係　　長　　松田　　潔
調　査　員　　小谷　修一（平成10年６月末で退職）

庶務係

主任事務職員　　矢部　美恵、橋崎　康春

○調査担当　財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター中部埋蔵文化財羽合調査事務所

所　　長　　更田　怜治
主任調査員　　牧本　哲雄
調　査　員　　井上　達也、岩崎　康子、国野　雅則
整　理　員　　小椋　美佳

○調査指導　赤木三郎鳥取大学名誉教授、竹内芳親鳥取大学名誉教授、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センター

○調査協力　羽合町、羽合町教育委員会、泊村教育委員会、建設省中国地方建設局倉吉工事事務所

○発掘調査・整理作業従事者

秋久勝義	新　豊	荒井啓一	生田敏江	井坂幸枝	市橋貴志子	大嶋昌子	
大場　茂	尾川美佐子	尾坂　忠	尾坂富美子	尾高千代子	加嶋福枝	加嶋三枝子	
加嶋義則	勝田美登里	河口智津子	河口優子	河原義雄	蔵常　正	蔵常芳子	
桑田範子	坂本俊和	桜井敏夫	嶋崎アツ子	嶋崎久子	進木和美	陶山富恵	
厨子彰子	谷本　登	谷本美智恵	津島時三	角田磨智子	津村重男	戸崎　巌	
中田　都	中村まきゑ	西村　巌	西本てる子	西山　裕	野崎悦子	羽田政夫	
浜口みち子	福田弥千代	福永一男	藤田広子	藤田恭人	真壁　均	牧田理恵	
松井久雄	松尾冊子	松下清敏	松田アイコ	松田澄子	松田正己	松田八重子	
光井芳子	村口いつ子	森　信季	山崎　巌	山下清範	山下節子	山本清子	
山本博子	安田成行	山田暉美	米山麻紀				

（五十音順、敬称略）

第4節　長瀬高浜遺跡の調査経過

事　　業	年　　度	調査主体	調査面積	報告書名
天神川下流域下水道事業天神浄化センターの建設	昭和52（1977） 昭和53（1978） 昭和54（1979） 昭和55（1980） 昭和56（1981） 昭和57（1982）	鳥取県教育文化財団 鳥取県教育文化財団 鳥取県教育文化財団 鳥取県教育文化財団 鳥取県教育文化財団 鳥取県教育文化財団	約4,500㎡ 約18,000㎡ 約10,000㎡ 約8,500㎡ 約6,400㎡ 約4,450㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書1 鳥取県教育文化財団調査報告書5 鳥取県教育文化財団調査報告書7 鳥取県教育文化財団調査報告書8 鳥取県教育文化財団調査報告書11 鳥取県教育文化財団調査報告書12 鳥取県教育文化財団調査報告書14
北条バイパス建設	昭和54（1979） 昭和58（1983）	鳥取県教育文化財団 羽合町教育委員会	約2,000㎡ 約　800㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書3
北条道路建設	平成7・8（1995・96） 平成10（1998）	鳥取県教育文化財団 鳥取県教育文化財団	15,079㎡ 10,283㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書49 鳥取県教育文化財団調査報告書61

挿表1　長瀬高浜遺跡調査経過一覧表

第5節　青谷羽合道路関係調査経過

(1)　羽合道路建設による調査

年　度	調査主体	遺　跡　名	調査面積	報告書名
平成2（1990）	鳥取県教育文化財団	南谷ヒジリ遺跡 南谷夫婦塚遺跡・南谷19～23号墳 乳母ケ谷第2遺跡・宇野3～9号墳	1,250㎡ 3,018㎡ 5,564㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書26 〃 〃
平成3（1991）	鳥取県教育文化財団	宇谷第1遺跡 南谷大ナル遺跡 南谷大山遺跡・南谷24～26号墳	4,642㎡ 342㎡ 9,932㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書28 〃 鳥取県教育文化財団調査報告書32
平成4（1992）	鳥取県教育文化財団	園西川遺跡・園7号墳 原第2遺跡 南谷大山遺跡・南谷28号墳 南谷古墳群 南谷ヒジリ遺跡・南谷27号墳	1,383㎡ 1,907㎡ 8,632㎡ 104㎡ 371㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書33 〃 鳥取県教育文化財団調査報告書32 〃 〃
平成5（1993）	鳥取県教育文化財団	南谷大山遺跡・南谷29号墳	8,794㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書36

挿表2　羽合道路関係調査経過一覧表

(2)　青谷羽合道路建設による発掘調査

年　度	調査主体	遺　跡　名	調査面積	報告書名
平成8（1996）	鳥取県教育文化財団	石脇第3遺跡森末地区 石脇第3遺跡掘り地区・石脇8号墳 寺戸第1遺跡 寺戸第2遺跡	5,244㎡ 4,590㎡ 1,590㎡ 4,540㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書54 〃 〃 〃
平成9（1997）	鳥取県教育文化財団	石脇第1遺跡 石脇第3遺跡掘り地区 小浜ワラ畑遺跡 小浜小谷遺跡 池ノ谷第2遺跡	3,929㎡ 4,623㎡ 2,699㎡ 602㎡ 4,473㎡	〃 鳥取県教育文化財団調査報告書55 〃 〃
平成10（1998）	鳥取県教育文化財団	岡第6遺跡	747㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書61

挿表3　青谷羽合道路関係調査経過一覧表

参考文献

羽合町教育委員会『長瀬高浜遺跡緊急発掘調査報告書――般国道9号（北条道路）改築工事に伴う埋蔵文化財試掘調査―』羽合町文化財調査報告書第11集　1995．3

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

鳥取県は本州南西部の北東部に位置する。北は日本海、東は兵庫県、南は中国山地を県境として岡山県・広島県、西は島根県と接する。県域は東西126km、南北61.85km、面積約3,498㎢で日本全体の約１％を占める。鳥取県は大別すると、東部、中部、西部からなる。各地域とも地勢は山がちで、山地が県総面積の85％以上を占める。それぞれの地域には、千代川（東部）、天神川（中部）、日野川（西部）の各一級河川が流れ、その下流域には鳥取（東部）、倉吉・北条・羽合（中部）、米子（西部）の各平野が形成される。

長瀬高浜遺跡は、県中部の羽合町長瀬字高浜に所在し、海岸線から約１km上流の小高い砂丘地に立地する。羽合町は鳥取県中部にあり、東は泊村、東郷町、西は北条町、南は東郷町、倉吉市に接する。北は日本海に面する。町域は東西約5.5km、南北約3.9kmに及び、総面積12.22㎢、人口7675人（平成10年末）である。羽合町の主な基幹産業は第一次産業で、規模の縮少が進むものの、水稲を筆頭にナシ、ブドウ、スイカ、メロンなどが栽培される。羽合町の地形は、海岸線までせまる馬ノ山丘陵性山地、湖中及び周辺から温泉がわき湖畔に羽合温泉が存在する東郷池、県中部の穀倉の水田地帯を形成する羽合平野、海岸砂丘地などからなり、現在西端には、天神川が北条町との境を流れ、東端には、橋津川が東郷池を源として日本海に注ぐ。現在天神川は、北条砂丘を南北に横切って本遺跡の西側を北流している。これは江戸時代1657年（明暦３年）に始まり、1660年（寛文年間）に完成した直流工事によるもので、以前は何度も流路を変え、東郷池西岸に流れ込んだり、「東郷荘下地中分絵図」に見られるように、本遺跡南東側の長瀬集落付近を流れて、橋津川と合流したりしたとされる。本遺跡の立地する北条砂丘は、天神川の流層堆積物や陸地の沈降隆起、海進・海退、潮流、強風などの複雑な現象によって形成されたものとされ、その昔、海岸部に内湾が発達し、天神川からの土砂堆積により湾口部に沿岸州が発達し、内湾が小さくなり、海と切り離されて砂丘が発達した。弥生時代以前から奈良時代にかけて砂丘形成が一時停滞し、草原化して腐植土層が徐々に形成されたものがクロスナであるとされている。中世以降砂丘活動が再び活発化し、クロスナ上面に新たな砂丘が形成され、現在に至る。

また、圏第６遺跡は、鳥取県中部の東伯郡泊村圏字西茄子・蛇川に所在し、国道９号線から南東側に約200m、JR山陰線泊駅から南南東側約400mの標高約30mの丘陵上に立地する。泊村は先述の羽合町の東隣にあたり、さらに東には古代因幡国最西の気高郡青谷町が接し、古代伯耆国の最東部に位置する。総面積は、14.53㎢で、人口約3200人の小規模な村である。泊村の主な産業は、平地が少ないため、漁業と梨の栽培である。丘陵地は畑地・果樹園、谷部は水田にと、効率よく土地利用が行なわれている。泊村の地形は中国山地から北方に伸びた100～300mの比較的低い山地が海岸線まで突き出し、平野部は総面積の約30％、4.36㎢と非常に平地が少ない。尾根間に小河川がみられ、周りに水田がみられる。海岸線にはいくつかの漁港もあり、基幹産業の漁業を支える拠点となっている。泊村周辺の地質は、平地の大半が沖積層と砂丘である。丘陵地帯は火山灰層に覆われ、溶岩台地地形を残しており、その間を小河川が流れ、平地を造り出す。海岸には北からの強い季節風で形成された砂丘が発達している。　（井上）

挿図３　羽合町・泊村位置図

第２節　歴史的環境

１．弥生時代以前の主要な遺跡

東郷池周辺における最古の遺物として、東郷池東岸の南谷19号墳盛土下から出土した安山岩製のスクレイパーがある。縄文時代の居住地は、低地が主であったと考えられ、天神川西側の北条町島遺跡では、貝塚とともに、前期から晩期の土器、石器、丸木舟、人骨などが出土している。天神川下流の天神川下流遺跡(3)、東郷池東方の北福第３遺跡(30)でも、後期から晩期にかけての遺跡の存在が想定される。

鳥取県中部地域では、前期の水田は確認されておらず、集落も低地の長瀬高浜遺跡以外では確認されていない。長瀬高浜遺跡(1)では、玉作り工房跡のほか、土壙墓、刻目突帯文土器などが出土し、拠点的な集落の存在が窺われる。今後、長瀬高浜遺跡から東郷池にかけての低地で、前期の水田が確認される可能性は高い。中期には、長瀬高浜遺跡でわずかな土壙墓・土器片が出土するが、様相は解明されていない。

後期の集落跡は、東郷池東側および西側の丘陵上で確認されている。東岸丘陵上の南谷ヒジリ(12)、南谷大ナル(13)、南谷夫婦塚(14)、南谷大山(17)、乳母ケ谷第２(19)、宇谷第１(24)の各遺跡では、後期中葉以降、古墳時代中期に至る竪穴住居跡、掘立柱建物などが調査されている。中でも南谷大山遺跡では、一時的な停滞を除くとほぼ継続的に集落が営まれている。南谷の北側に位置する宮内第１・４・５遺跡(22)では、後期前葉から後葉の四隅突出型墳丘墓(23)を含む墳丘墓４基とともに、多数の土壙墓や住居跡が検出されている。東郷池南東丘陵上にも、藤和墳丘墓(52)が存在するなど、周辺地域と同様、集団墓との差別化を指向する墳丘墓が築造される。低地では、長瀬高浜遺跡の北東約0.7kmに位置する和助北遺跡(5)が唯一である。赤彩された脚付注口土器が出土している。長瀬高浜遺跡では、当該期の土器片がわずかに出土している。銅鐸も、泊村池ノ谷第２遺跡（外縁付鈕Ⅰ式）、長瀬高浜遺跡（小銅鐸）、北福第３遺跡（小銅鐸）などで出土している。

２．古墳時代の様相

天神川下流域は、山陰地方では最も早く前期古墳の築造が開始された地域である。主に、倉吉市上神、大谷から向山丘陵、および東郷池北方の馬ノ山に分布する。中でも倉吉市国分寺古墳は、前期でも早い段階の築造とされる。長瀬高浜遺跡の北東約１kmの馬ノ山には、山陰では最古の前方後円墳とされる橋津（馬ノ山）４号墳(8)がある。竪穴式石室内に、三角縁神獣鏡を含む舶載鏡３面、仿製鏡４面、碧玉製車輪石などの副葬品を持ち、前期後半の所産とされる。この西側に前方後円墳の２号墳がある。立地やバチ形に開く前方部の形態など、４号墳より遡る属性も指摘される。泊村には、小規模な前方後円墳である石脇２号墳（尾尻古墳）があり、仿製斜縁獣帯鏡をもつ。天神川下流域の前期古墳は、三角縁神獣鏡の保有量、古墳の規模や量から鑑みても、山陰地方の他の地域を凌駕しており、当地域の集団がいち早く畿内との繋がりを有していたことが推察される。

前期から中期にかけての集落は、低地の長瀬高浜遺跡が核をなし、東郷池北岸の宮内第１遺跡(22)、東岸の南谷大山遺跡(17)、南谷ヒジリ遺跡(12)など、丘陵上でも小規模な集落が確認できる。ただ、いずれも長瀬高浜遺跡の最盛期には、集落の形成が一時停滞する。長瀬高浜遺跡では、前期初頭に突如、大規模な集落が形成される。とくに、前期前半には、柵で囲繞される大型掘立柱建物など、集落内における中核的施設が存在し、拠点集落の様相を呈する。長瀬高浜遺跡と橋津４号墳との直接的な関係を示唆する資料はないが、橋津４号墳の築造と時を同じくして長瀬高浜遺跡が最盛期を迎えること、遺跡から橋津４号墳を間近に望めるという地理的な関係からみて、直接的な関係を有したと考えるのが自然であろう。

泊村では、石脇第１・３遺跡、寺戸第２遺跡などにおいて、前期から中期後葉の集落が確認された。石脇第１遺跡は、丘陵中程の平坦面に位置する。中期中葉に盛行し、大型の住居跡から陶質土器が出土した。その流通経路を考える上で重要な地である。須恵器窯滓も出土し、周辺で初期須恵器が生産された可能性もある。

中期においても、東郷池東岸・南岸の丘陵上に山陰有数の大型前方後円墳が築造される。北岸の橋津４号墳(8)、東岸の宮内狐塚古墳(24)、南岸の北山１号墳(46)と、前期から中期に至る首長墓が、北岸から東岸、さらに南岸へと移動した様子が窺われる。長瀬高浜遺跡では、集落の廃絶後、中期後半から後期にかけては墓域となり、古墳群

が築造される。小型の円墳が主体をなすが、中には1号墳、前方後方墳の26号墳の如き盟主的な様相を呈するものもある。また、多数の器財形埴輪が集中して出土している。

中期後半以降の集落の動向は明らかではない。東郷池東岸丘陵上の集落が再び活性化するが、長瀬高浜の集落廃絶後に大規模な古墳群が築造されることからみて、周辺の低地に集落が移動した可能性が高い。また、大型古墳の存在から、東郷池近くにも中期後半以降の大規模な集落の存在が予測される。一方、東郷湖南西岸の津波遺跡(40)では、中期の土師器、須恵器とともに、刀状木製品、火錐臼、手捏ね土器など、祭祀関係と考えられる遺物が出土している。

横穴式石室の導入以降、大型前方後円墳は築造されないが、東郷池周囲の丘陵上に中小規模の前方後円墳を含む群集墳が累々と築かれる。東郷池南西側の尾根上にある片平4号墳(53)は、基底部を箱式石棺状に組み、板石を持ち送りつつ小口積みにする導入期の横穴式石室をもつ。この後、藤津古墳群(27)、中興寺古墳群(37)、大平山古墳群(4)など、周辺で産出する板状摂理の安山岩を使用した横穴式石室をもつ群集墳が爆発的に増加する。泊村内でも、園古墳群(42)、宇谷古墳群(53)、石脇古墳群などがある。東郷池南西側、埴見川左岸には埴見古窯跡(47)がある。6世紀前葉から操業されたと考えられる。こうした、後期の群集墳を築造した集団の居住地は、現在のところ調査されていない。

3．古代の河村郡

東郷池を含む天神川流域は、山陰地方でも最初にいわゆる初期寺院の建立が開始された地域であり、国衙、国分寺が設置されるなど、伯耆国の中心的地域であったことが窺える。東郷池東方には野方・弥陀平廃寺(34)がある。7世紀後半の早い段階の瓦が出土しており、倉吉市の大御堂廃寺とともに、伯耆における最古の仏教寺院の一つと考えられる。久見(39)でも、7世紀後半頃の瓦が出土しており、寺院、官衙跡の可能性がある。

長瀬高浜を含む東郷池周辺は、律令体制下においては伯耆国河村郡に属し、河村郡は勿賀、舎人、多駄、埴見、日下、河村、竹田、三朝の八郷から成る。郡衙の所在地は不明であるが、河村郷、舎人郷、多駄郷が候補とされている。主要な駅路であった山陰道は、勿賀駅（現在の泊村付近）から東郷湖の南岸を通り、松原駅（倉吉市付近か）へ至っていたと考えられる。山陰道からは外れるが、長瀬高浜遺跡においても、奈良から平安期の掘立柱建物が確認された。墨書土器、帯金具などが出土しており、官衙に関連する施設の可能性がある。

4．中世の東郷荘と近世以降の歴史的環境

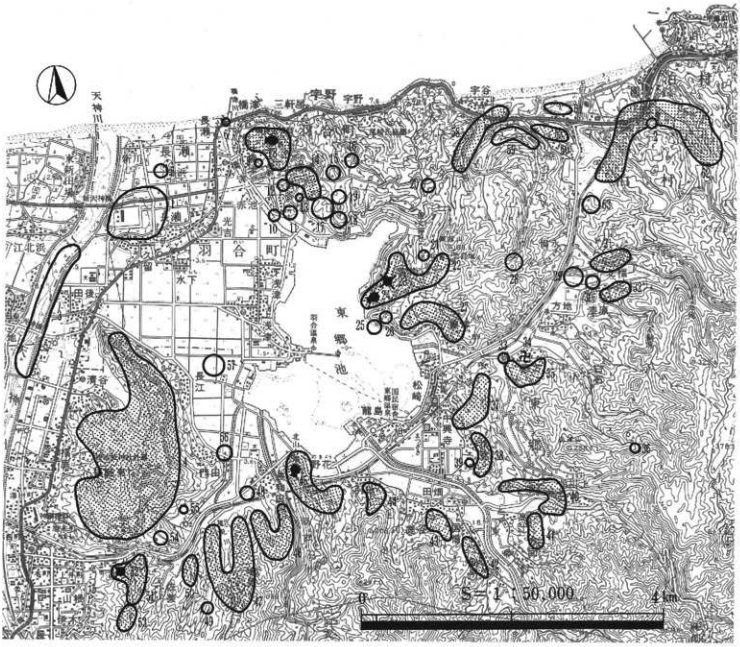
律令体制が動揺し始めると、公地公民制の崩壊とともに自墾地系荘園が増加し、土地の所有を基礎とする封建制社会が形成されてゆく。こうした中で、国司、郡司、社寺が力を得てくる。東郷池東方に、伯耆一宮である倭文神社がある。広大な社領を経済基盤として在地領主層の信仰を集め、伯耆一宮の地位を獲得したされる。倭文神社に隣接する山林では経塚(21)が発見され、金銅製経筒、金銅製観音菩薩立像などが出土した。

中世の集落が調査された例はないが、長瀬高浜遺跡では、12～13世紀頃と考えられる畠跡のほか、中世の水田跡、土葬墓、火葬墓、五輪塔などが出土した。また、橋津川右岸の南谷貝塚からは、中世の土器、漆器などが出土している。10世紀以降、在地領主が中央の寺社・貴族に領地を寄進する寄進地系荘園が増加する中で、東郷荘が京都・松尾神社領として成立する。当該期の東郷池周辺を知る史料に、正嘉2（1258）年銘の「伯耆国河村郡東郷荘下地中分絵図」がある。この絵図は、荘園侵略を図る地頭と、これを阻止しようとする荘園領主である京都・松尾社との間で行われた、下地中分（領地の分配）を示す代表的な史料である。絵図によれば、東郷荘の荘域は、東郷、埴見、河村の三郷とみられる。このうち、長瀬高浜遺跡周辺は東郷に属するものと考えられ、地頭分として配分されたことが分かる。14世紀中頃には、山名時氏をはじめとする伯耆守護による荘園侵略が開始され、15世紀後半には、応仁の乱の地方への波及に伴い、各地の荘園同様、東郷荘も消滅したとされる。

中世の山城として、東郷池南方に、南条氏が14世紀に築城した羽衣石城がある。応仁の乱後の騒擾戦乱の中、伯耆でも守護山名氏の一国統制は衰退する。羽衣石南条氏は、当初毛利氏に、後には中国侵攻を進める羽柴秀吉の配下となり、関ヶ原の戦いで敗れるまで存続した。天正9（1581）年には、羽柴秀吉と毛利方の吉川元春が、御冠山と馬ノ山において対陣した。馬ノ山、乳母ヶ谷第2遺跡(9)では、このとき築かれたとされる土塁状遺構が

確認されている。

東郷池南方の山間部には、近世の所産と考え得るタタラ跡が数か所確認されている。幕末の文久３（1863）年には、海岸防備を目的に台場が築かれた。県内では７か所に建設され、橋津川の河口西側にもその台場跡(6)がある。また、橋津には、鳥取藩の藩倉(9)が現存する。（岡野）



四隅突出型墳丘墓　古墳　古墳群　遺跡　寺院跡

1．長瀬高浜遺跡　2．園第６遺跡　3．天神川下流遺跡　4．大平山古墳群　5．和田北遺跡　6．橋津台場跡　7．橋津（馬ノ山）古墳群　8．橋津（馬ノ山）４号墳　9．橋津藩倉　10．南谷長屋　11．南谷遺跡　12．南谷ビジリ遺跡　13．南谷大ナル遺跡　14．南谷19～23号墳・南谷夫婦塚遺跡　15．宇野第五遺跡　16．宇野第四遺跡　17．南谷大山遺跡　18．孔母ヶ谷遺跡　19．孔母ヶ谷第２遺跡　20．宇野第一遺跡　21．伯耆一宮妻塚　22．宮内遺跡群　23．宮内一号墳丘墓　24．宮内狐塚古墳　25．船隠遺跡　26．大鼻遺跡　27．藤津古墳群　28．福永第三遺跡　29．北福第一遺跡　30．北福第二遺跡　31．北福古墳群　32．塗原古墳群　33．野方第三遺跡　34．野方・阿弥陀平廃寺　35．野方古墳群　36．白石第一遺跡　37．中興寺古墳群　38．久見古墳群　39．久見古瓦出土地　40．川上古墳群　41．高辻古墳群　42．別所古墳群　43．小鹿谷古墳群　44．引地古墳群　45．野花北山一号墳　46．長和田古墳群　47．境見古墳群　48．津波遺跡　49．境見中ノ谷古窯跡　50．佐美古墳群　51．山坂古墳群　52．藤柳墳丘墓　53．伊木古墳群　54．佐美遺跡　55．片平４号墳　56．門田遺跡　57．勝ヶ坪遺跡　58．宇谷古墳群　59．宇谷第一遺跡　60．敬第二遺跡　61．浜山第二遺跡　62．園古墳群　63．敬第一遺跡

挿図４　周辺遺跡分布図

第３章　長瀬高浜遺跡の基本層序

長瀬高浜遺跡は、現地表標高約６～10m前後の砂丘地上に立地する、弥生時代前期から近世初頭にかけて展開する総面積９ha以上の複合遺跡である。

平成10年度調査区の主要な遺構は、厚さ2.5～６mのシロスナ層（㉕層）の下層に形成された、厚さ0.8～1.3mのいわゆるクロスナ層中（①～⑬層）（「第１クロスナ層」）に営まれている。この層は、上層に行くにつれて黒く、下層に行くにつれて茶褐色系になり、確認された時期ごとに層位が異なっている。

クロスナ層は、調査区西側部分に限られており、今回の調査区が当遺跡の北東端付近に当たるものといえる。シロスナとの境（以下分断部）は、およそN―34°―Wである。クロスナ部分は多少の起伏が認められ、分断部が標高5.0～5.4mと高く、中央部分から南側にかけて標高4.0～4.2mと低くなっている。クロスナ層は、植物腐植層と捉えられており、弥生時代前期から中世にかけてのおよそ1800年間は、砂地であるにも関わらず、比較的安定した立地環境であったことを物語っている。

さて、遺構形成以前の層を観察すると、標高約2.5m付近で暗灰茶褐色砂（㉘層）（以下「第２クロスナ層」）が検出された。この層は、平成７・８年度調査区においても確認されており、西側にほぼ水平に形成されていることになる。この層は、東に向かって薄くなっているのが確認できる。「第２クロスナ層」から「第１クロスナ層」までは、厚さ0.5～2.0mのよく締まったシロスナが堆積している。部分的に鉄分を含んだ層となっているが、その差は明瞭ではなく、堆積後に地下水位等の関係で部分的な変化があったものと考えられる。さらに、標高1.7m前後でも走向N―２°―W、W17°に傾斜する「第３クロスナ層」（㉙層）が確認され、今回の確認されたクロスナ層は計３層となった。

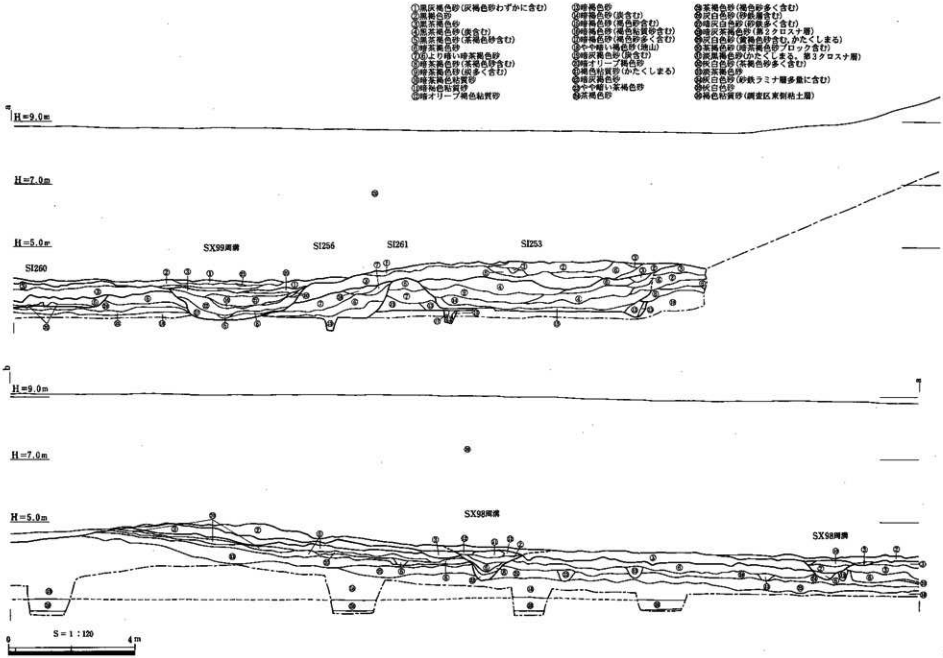
従来、クロスナは３層確認されているが、これは斜面部で観察されたものでブロック状またはレンズ状の堆積状況を示しており、イレギュラー状態であったものと考える。今回調査した限りではクロスナ層は上中下３層であるが、従来のものとは対応せず、弥生時代前期から近世初頭までの「第１クロスナ層」と、弥生時代以前の「第２クロスナ層」、「第３クロスナ層」と考えたい。

確認できた遺構面は、中世（12世紀末～15世紀）２面、奈良・平安時代（８世紀～10世紀）１面、古墳時代中期後半（５世紀後半）１面、古墳時代前期初頭から中期初頭（３世紀後半～５世紀初頭）１面で、従来の調査で検出されている弥生時代前期から中期の遺構は検出されなかった。

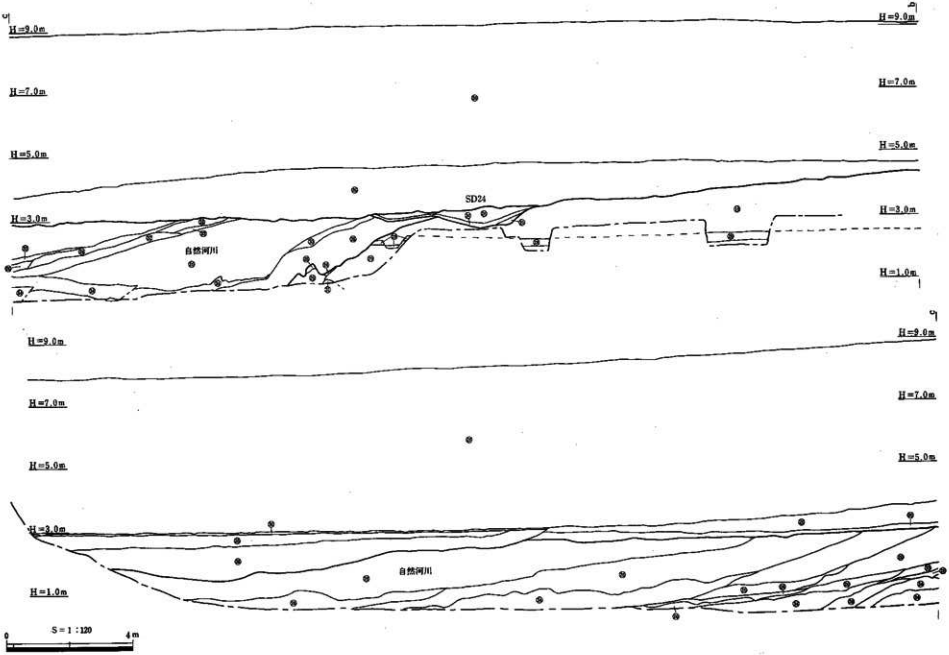
中世遺構面は、シロスナ（㉕層）直下の黒灰褐色砂層（①層）上面において畠跡、溝状遺構が検出され、さらに、①層を除去した黒褐色砂層（②層）中でも畠跡、中世墓、粘土硬化面などが検出された。当時の地表面は、標高約4.0～5.4m付近である。この時期もクロスナ分断部が高くなり、緩やかに東側に向かってシロスナが傾斜している。また、調査区南東側の標高3.0m付近で、厚さ約５cmの粘土層（⑤層）を検出した。この粘土層は、当時遺跡の東側を北流していたと考えられる旧天神川の後背湿地部分または氾濫原にあたる部分に形成されたものと考えられ、ヒト・偶蹄目（ウシ）の足跡が多数検出された。この粘土層の^{14}C年代測定では、530±50 B.P.（AD 1420年）の値を得ることができたが、この層が層位的に①層のやや上層にあたることから、畠跡の年代が15世紀まで下る可能性も考え得る結果となった。

奈良・平安時代の遺構面は、およそ黒茶褐色砂層（③層）が基盤となっている。このうち、整地遺構は、当時窪地となっていた古墳周溝部分および竪穴住居跡部分を、褐色粘土によって充填し平坦にしたものである。掘立柱建物跡は粘土面を掘り込んでいた。この時期の地表面は、標高約3.8～5.0m前後であるが、前時期同様クロスナ分断部付近が高くなり、東側に向かってシロスナが緩やかに傾斜している。シロスナ層中には、極めて薄い（１～２mm程度）粘土層が形成されており、その上面で非常に摩滅した古墳時代前期の土師器が多数検出されており、クロスナ部分から風によって吹き飛ばされていたものと考えられる。１Ｏグリッドで溝状遺構（SD24）を検出できたが、この部分の標高は約3.1mとなっている。

古墳時代中期後半の遺構面も、ほぼ③層が基盤となっているものと考えられる。⑥⑧⑰㉒㉓層は、古墳周溝埋



第図5 遺構表示遺構調査区等高線土層断面図(1)



第図6　発掘調査区南側斜面実測図(2)

砂である。

古墳時代前期から中期の遺構面は、およそ暗茶褐色砂層（⑥層）が基盤となっている。当時の地表面は、標高約3.4～5.0mで、やはりクロスナ分断部が高く、東側に向かって緩やかに傾斜するように見える。この時期、調査区東側には調査区を横断する幅40m以上の大規模な自然河川があり、その初期の埋砂（⑤層）にほとんど摩滅していない古墳時代前期の土器を含んでおり、分断部よりさらに東側にクロスナ層が延び、高くなっていたものと推定され、分断部付近が自然堤防状となっていたものと考えられる。この河川は、「第２クロスナ層」を切って形成されているが、いつの段階で形成されたものか不明である。河川埋砂には、須恵器も含まれており、古墳時代前期から後期にかけて埋没していったものと考えられる。埋砂上面は不整合面をなしており、完全に埋没した後にシロスナが堆積するまでにかなりの時間差があったものと推定される。また、河川西側断面において、河川浸食に伴うと考えられる開口割れ目が検出され、落差約16cmの断層となっていた。

なお、クロスナ上に厚く堆積したシロスナは、15世紀以降に堆積したものと考えられる。このシロスナは、東に向かってラミナが発達しており、砂の供給源が西側にあったものと考えることができる。（牧本）

参考文献　赤木三郎「長瀬高浜と周辺の第四系」『長瀬高浜遺跡Ⅲ』鳥取県教育文化財団　1997
豊島吉則「Ａ．長瀬遺跡の自然環境」『長瀬高浜遺跡Ⅱ　天神川下流域下水道事業に伴う砂丘遺跡の発掘調査概報(1)』鳥取県教育文化財団　1979
鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅱ』1981

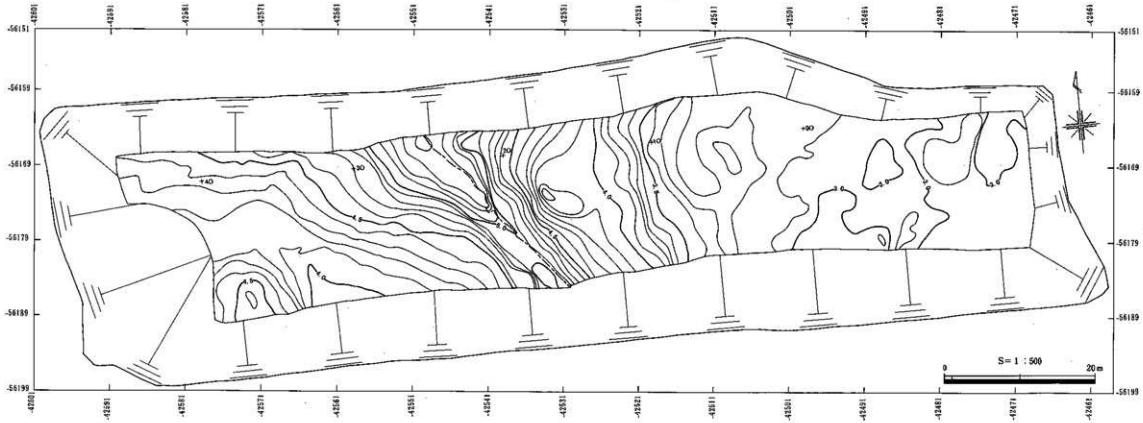
調査日誌抄

長瀬高浜遺跡

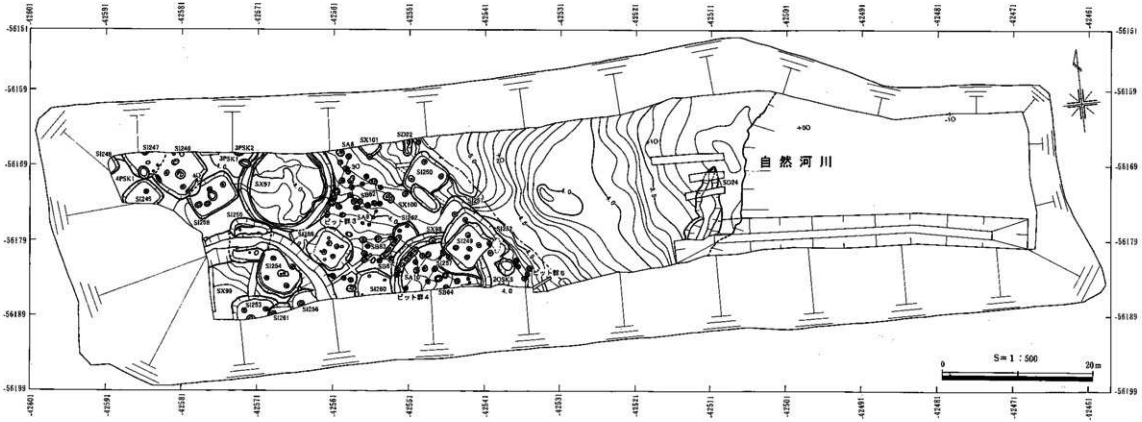
4月14日　赤木三郎氏、現場を視察
4月16日　重機による白砂除去作業終了
4月17日　長瀬高浜遺跡調査開始
4月20日　畠跡検出作業、畝間・足跡等検出（～26日）
4月24日　竹内芳雄氏、現場を指導
4月27日　畠跡検出面ラジコンヘリコプターによる空撮
5月1日　季節外れの台風接近、作業中止
5月16日　畠跡検出面の現地説明会を開催（39名参加）
5月24日　立命館大学　高橋学氏、現場を指導（～25日）
5月25日　軟X線分析資料サンプリング採取
5月27日　一10グリッド褐色粘土層完掘
6月4日　古代～古墳時代にかけての遺構面検出作業開始白磁片、黒書土器等多数出土
6月8日　SD18掘り下げ、銅製帯金具２点出土
6月15日　土器溜１よりミニチュア土器を含む土師器多数出土、２PSK２より人骨出土
6月29日　赤木三郎氏、現場を指導
7月8日　SX97周溝・主体部掘り下げ、整地遺構２完掘
7月14日　井上貴央氏による人骨・獣骨の取り上げ指導、SD23完掘
7月21日　SX96検出・掘り下げ、SI246・247完掘
7月27日　SX97～99完掘
7月30日　SI249から遺物が多数出土、厳しい猛暑の毎日が続く
8月6日　SI259検出、掘り下げ
8月26日　SI253～257掘り下げ
9月1日　SI260完掘、３PSK１・２検出
9月4日　ピット群３～５完掘、SD24完掘
9月8日　ラジコンヘリコプターによる空撮
9月12日　現地説明会開催（66名参加）、厳しい残暑続く
9月16日　調査後地形測量終了（調査区西側）
9月25日　県立米子東高等学校・鳥取県生涯学習通信公開講座（社会科）見学
10月5日　SI249完掘、SI253・256床面検出
10月6日　SB63完掘、調査区東側白砂部分断ち割りトレンチ掘り下げ開始
10月12日　断ち割りトレンチ南壁分層、自然流路、及び自然河川を検出
11月12日　断ち割りトレンチ掘り下げ終了、赤木三郎氏、現場指導
11月18日　現地調査終了

国第６遺跡

10月15日　調査前地形測量開始（～16日）
10月19日　ラジコンヘリコプターによる調査前調査区写真撮影
10月20日　調査区検出作業開始
10月30日　SA１・SD１検出
11月5日　ピット群P26内より土師器甕出土、SS１検出SD２完掘
11月9日　P35内より土器出土、取り上げ・完掘
11月11日　ラジコンヘリコプターによる調査後調査区写真撮影（～12日）
11月16日　調査後地形測量開始
11月17日　現地調査終了



挿図7　長瀬高浜遺跡シロスナ除去後地形測量図



挿図8　長瀬高浜遺跡調査後地形測量図

第４章　長瀬高浜遺跡古墳時代前期から中期の調査

第１節　古墳時代集落の概要

平成10年度調査では、当時期の遺構は、竪穴住居跡17基、掘立柱建物跡４基、土坑５基、溝列３基、ピット群３か所、土器溜６か所である。また、クロスナ分断部から約35m東には、自然河川がある。自然河川を除いて検出された遺構は、いずれもクロスナ面にあり、検出面での標高は、３０グリッド南側が約3.6mと最も低く、東に向かうにつれて若干高くなり、分断部では約5.0m程度となっている。現在２０グリッド付近でクロスナ層は途切れているが、本来のクロスナ面は、自然河川付近まで延びていたものと考えられる。

竪穴住居跡は、調査区西側の３・４０グリッドにＳＩ245～248・253～256・258～261、調査区中央の２０グリッドにＳＩ249～252・257・262がそれぞれ密集し、一部は重複して建てられている。

時期は、天神川Ⅰ期～Ⅴ期、古墳時代前期前半から中期初頭と考えられる。

平面形は、方形ないしは長方形が主流で、隅丸方形のものはＳＩ253・254・260・262の４基である。床面積30㎡以上の大型のものはＳＩ252で、推定36㎡である。10㎡以下の小型のものはＳＩ262の6.9㎡で、その他のものは、15～20㎡程度の中規模のものである。

また、住居内では、ＳＩ249・250・252・253では、剣先形鉄製品などの雛形鉄製品も出土している。

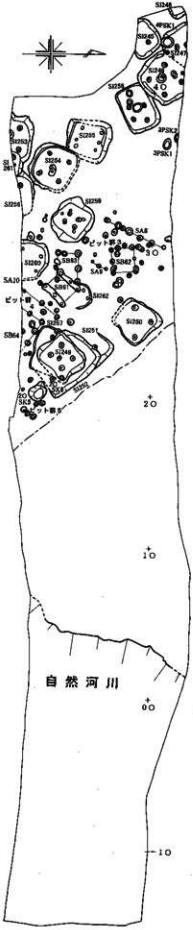
大量の土器が廃棄された状態で出土している。このうち、ＳＩ249からは、280個体以上の非常に大量の土器が出土している他、小型仿製鏡、焼成後穿孔された甕などがあり、廃棄に伴う何等かの祭祀が行われた可能性がある。

掘立柱建物跡は、４基検出された。掘立柱建物の周囲には、ＳＡ８～10があり、住居とは隔絶した存在であったものと考えられる。特に、ＳＢ61は布掘りの掘立柱建物で、堅牢な上屋構造があったものと推定され、単なる倉庫的な性格ではないと思われる。

その他、集落にともなう遺構として、土坑があるが、いずれも性格は不明である。

また、確実な時期は不明であるが、遺構内から椀形滓（精錬滓）、土器片が付着した鉄滓も出土しており、遺跡内で鉄器生産が行われた可能性もある。

この時期、調査区東側に幅40m以上の自然河川がほぼ北流していたものと推定されるが、この河川は、出土遺物から、古墳時代前期から後期にかけて埋没していったと考えられる。　（岡野）



挿図９　長瀬高浜遺跡古墳時代前期～中期遺構配置図

第２節　竪穴住居跡

ＳＩ245（挿図10～13、図版２、19、20）

調査区西側の４Ｏグリッドにあり、標高約3.23～3.35mの緩やかに西から東側に傾斜する斜面に立地する。北側は４ＰＳＫ１によって切られ、ＳＩ246、247も北側に隣接している。

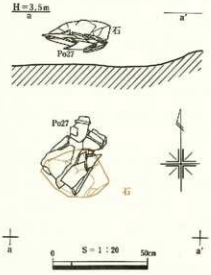
遺存状態はよい。現存するものから判断して、平面形は隅丸方形を呈するものと考えられる。規模は、北東から南西長軸4.4m以上、北西から南東短軸4.0m、床面積は9.3㎡以上である。残存壁高は、最も遺存状態のよい北壁で最大76cmを測る。壁溝等は全く検出されなかった。

主柱穴はＰ１で、規模は（54×51―20）cmを測る。このＰ１に対応するピットが調査区外の南西側にあると考えられ、この住居は２本柱の建物であったと考える。

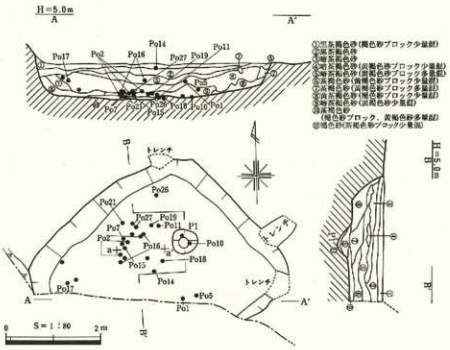
埋砂は自然堆積を窺わせるもので、11層に分層できた。調査区南側壁の土層で、僅かではあるが、床面近く（⑨層底部）の真ん中付近で、炭化物を含む層（厚さ数ミリ・幅2.15m）がみられた。当初は中央ピットが存在し、この埋砂にあたるものではないかとも考えたが、層の厚さが薄く、ピットと考えられる落ち込みを検出できなかった。このため、当遺構に中央ピットは存在しないものと考える。なお、検出できたピットの埋砂は２層に分層でき、どちらも茶褐色砂と褐色砂の混じりを基本とする層であった。

出土遺物は、図化できたものに土師器壺Ｐｏ１～３、直口壺Ｐｏ４、甕Ｐｏ５～15、高杯Ｐｏ16～19、鼓形器台Ｐｏ20、低脚杯Ｐｏ21・22、小型丸底壺Ｐｏ23、小型器台Ｐｏ24、小型丸底鉢Ｐｏ25、甑Ｐｏ26・27などがある。このうち床面からＰｏ２、Ｐｏ７、Ｐｏ11、Ｐｏ15、Ｐｏ16、Ｐｏ18、Ｐｏ27が出土している。また、Ｐｏ27の甑は横倒しの状態で、その上には大きな石が置かれ、その重さで潰れた状態で出土していた。なお、石自体には使用された痕跡等は一切なかった。

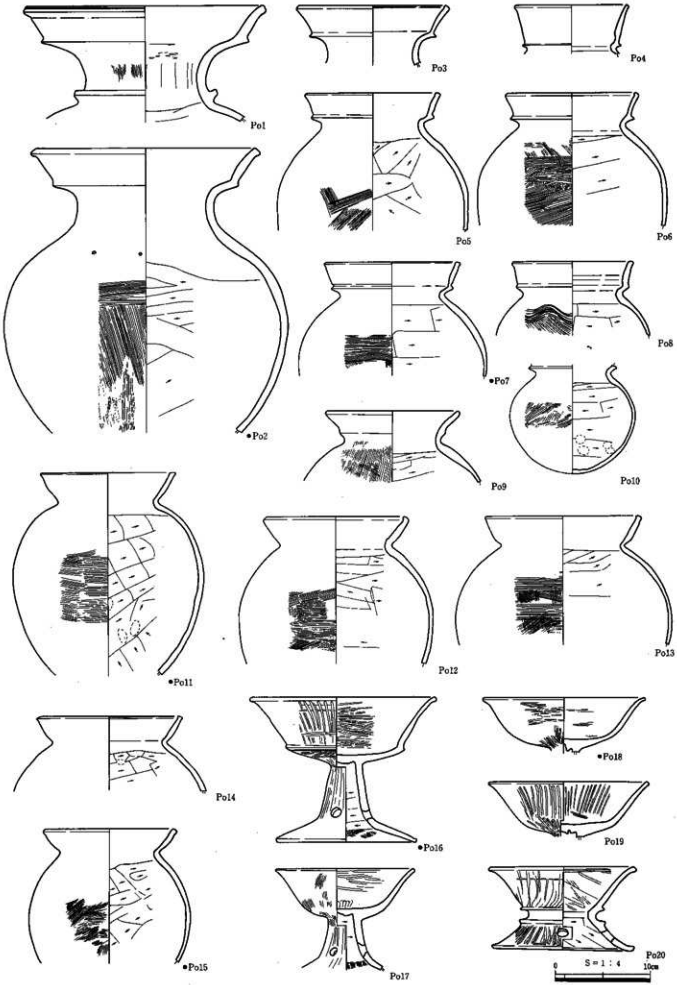
ＳＩ245の時期は、出土遺物等から天神川Ⅳ期、古墳時代前期後葉ごろのものと考えられる。　（井上）



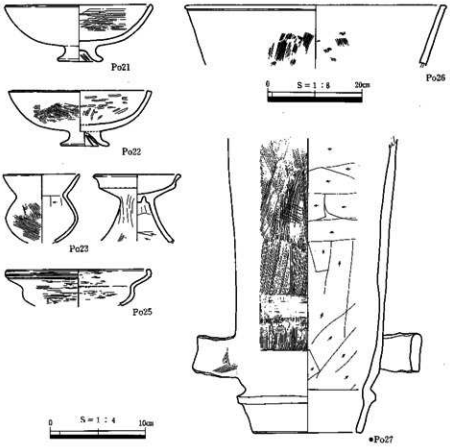
挿図10　長瀬高浜遺跡ＳＩ245甑出土状況図



挿図11　長瀬高浜遺跡ＳＩ245遺構図



挿図12　長瀬高浜遺跡ＳＩ245出土遺物実測図(1)



挿図13　長瀬高浜遺跡ＳＩ245出土遺物実測図(2)

ＳＩ246（挿図14～20、図版２、21～25、72）

調査区西側の３Ｏ・３Ｐ、４Ｏ・４Ｐグリッドにあり、標高約４ｍ前後のほぼ平坦面に立地する。西側はＳＩ247と切り合い、南西側にもＳＩ245が隣接している。また、約５ｍ東側にはＳＸ97が、２ｍ南側にはＳＤ13がそれぞれある。

遺存状態はよいが、北側が調査区外に続いており、ＳＩ247との切り合い部分が不明確であったが、残存する壁から、平面は隅丸方形か隅丸長方形を呈するものであったと思われる。規模は北西から南東5.23m以上、北東から南西5.98m、床面積は約25㎡である。残存壁高は、最も遺存状態のよい東壁で57cmを測る。壁溝は、南東側と南西側の２か所で検出された。幅約13～40cm、深さ11～13cmを測り、断面U字状を呈するものである。

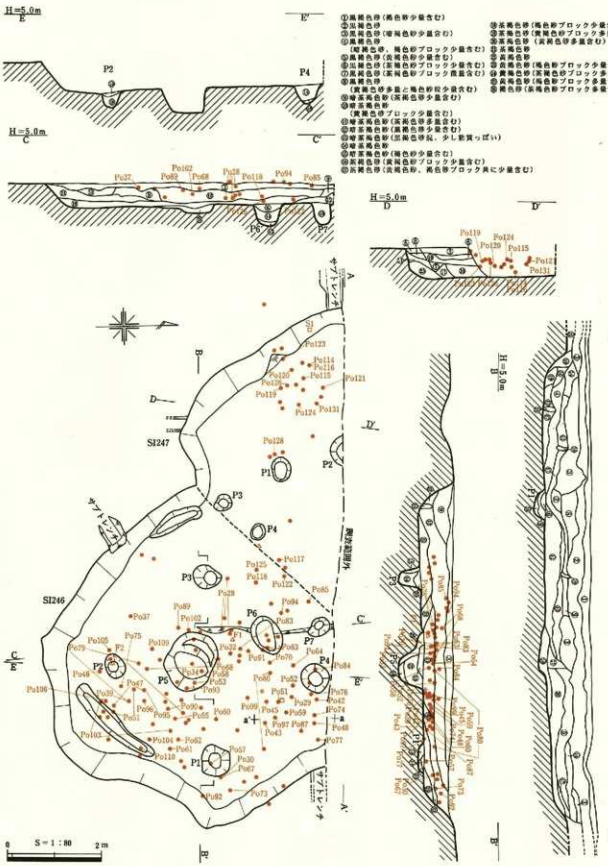
主柱穴はＰ１～Ｐ４で、規模はＰ１（67×58―35）cm、Ｐ２（53×42―39）cm、Ｐ３（60×52―64）cm、Ｐ４（62×59―76）cmを測る。主柱穴間距離はＰ１～Ｐ２間から順に2.4m、2.26m、2.56m、2.12mである。

Ｐ５は中央ピットと考えられ、二段掘りされている。規模は（129×97―61）cmを測り、最深部との差は約35cm程度である。最底部付近の埋土には僅かながら炭化物が混入していた。

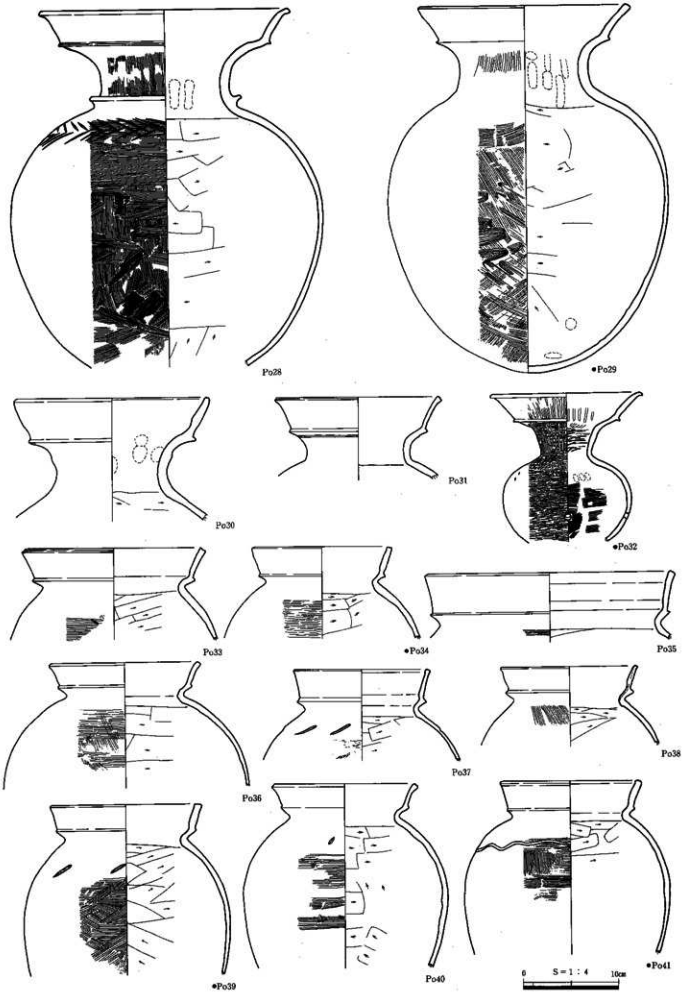
なお、その他に検出された２個のピットについての用途は不明であるが、Ｐ６は位置的に考えて、補助柱的な役割を担っていたものと考えられる。

また、Ｐ５に近くの床面からは、炭化材（No1577）が少量出土している。樹種同定の結果スギであることが判明した。焼失住居の可能性もあるが、出土した炭化材が少なく、埋砂からも炭化材が含まれている層は検出できなかったため、焼失住居ではないと考える。

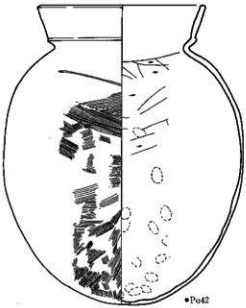
埋砂は、自然堆積したものと考えられ、９層に分層できた。埋砂④層は、黒褐色砂ではないが粘質で、土器片を多数含む。なお、埋砂中の炭化物はわずかにＰ５の最底部付近の埋砂に含まれているのみであった。

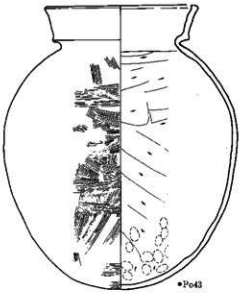


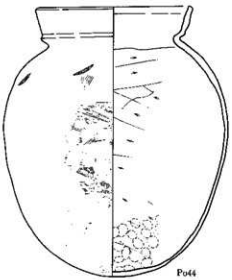
挿図14　長瀬高浜遺跡ＳＩ246・247遺構図

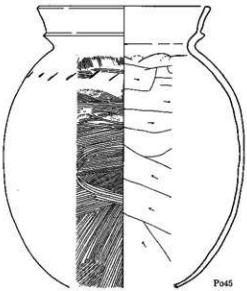


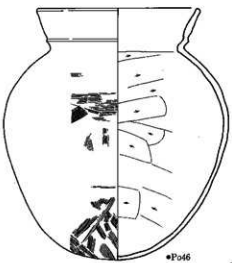
挿図15　長瀬高浜遺跡ＳＩ246出土遺物実測図(1)

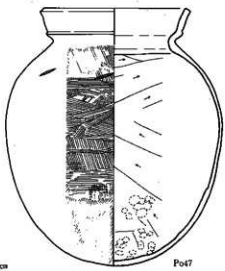




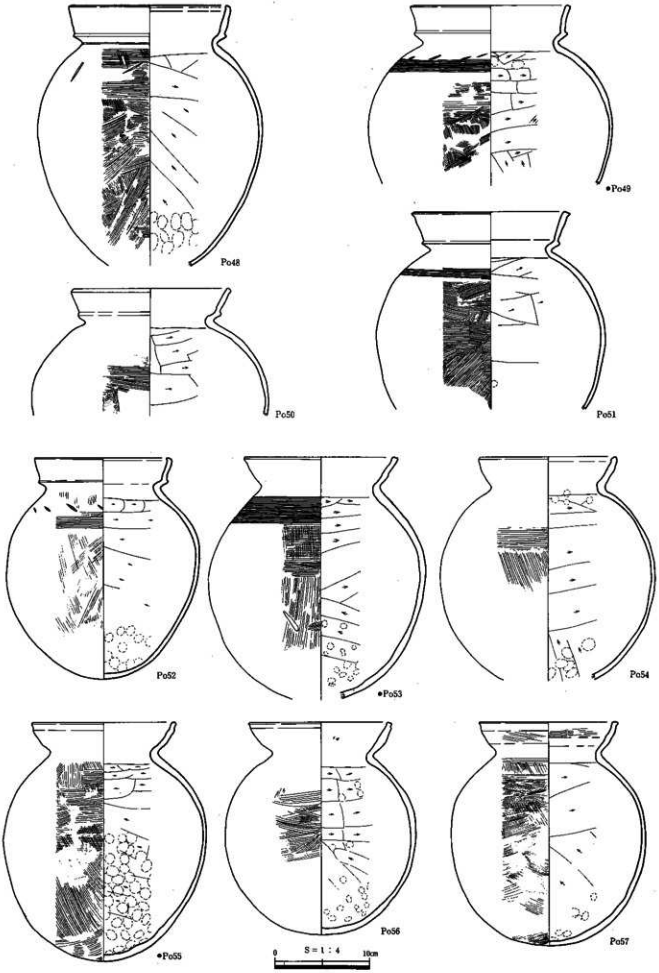




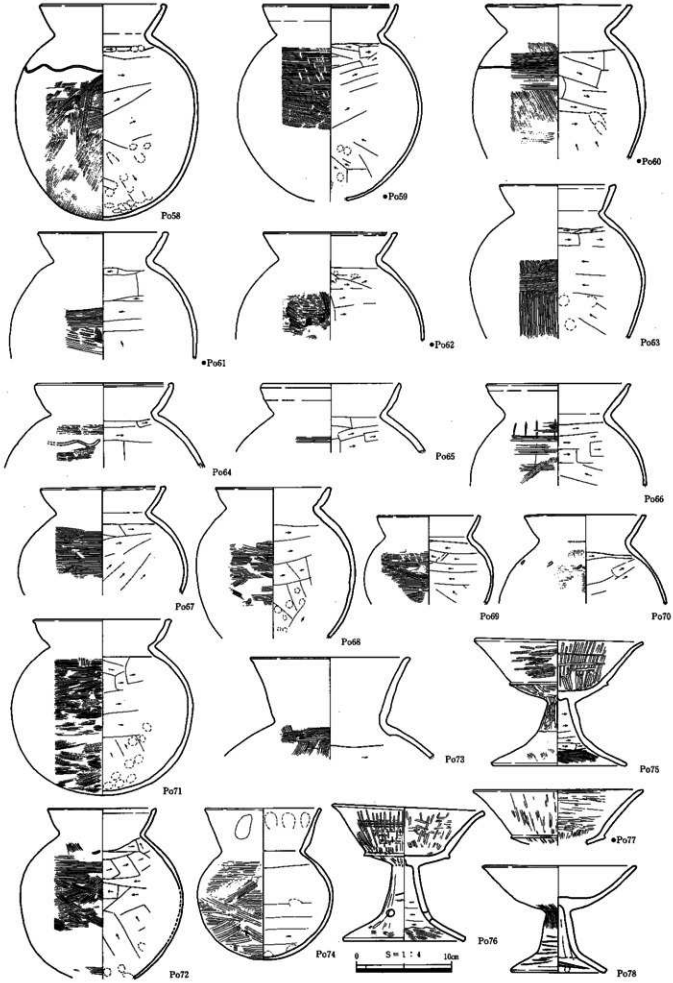




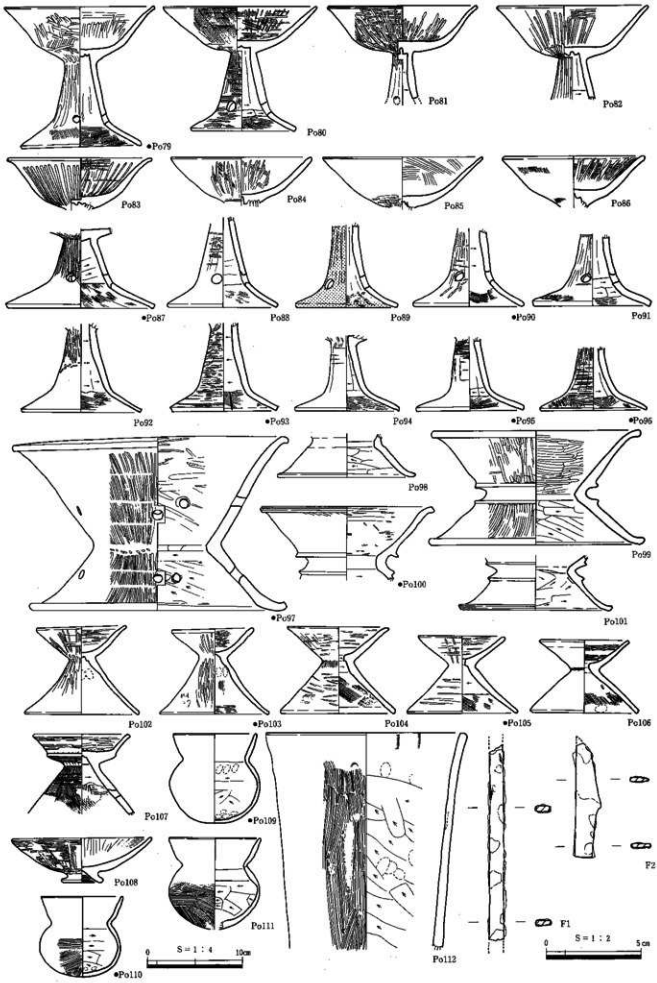
挿図16　長瀬高浜遺跡ＳＩ246出土遺物実測図(2)



挿図17　長瀬高浜遺跡ＳＩ246出土遺物実測図(3)



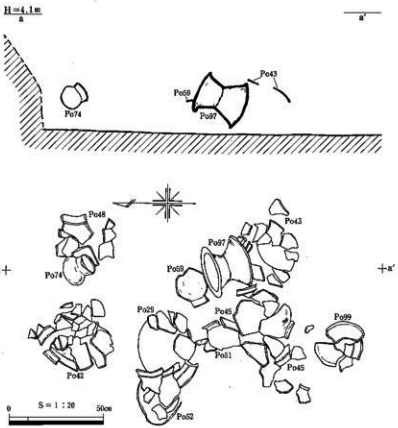
挿図18　長瀬高浜遺跡ＳＩ246出土遺物実測図(4)



挿図19　長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(5)

ほとんどの遺物は埋砂④層から下層においての出土であったが、床面近くの遺物では特に北東側において密集するように多数出土した。図化できたものに土師器壺Po28～32、甕Po33～72、直口壺Po73・74、高杯Po75～96、鼓形器台Po97～101、小型器台Po102～107、低脚杯Po108、小型丸底壺Po109～111、甑Po112、不明鉄製品F1、鏃形鉄製品（刀子形）F2などがある。このうち、Po29、Po32、Po34、Po39～Po43、Po46、Po49、Po53、Po55、Po59、Po60～Po63、Po77、Po79、Po87、Po90、Po93、Po95～Po97、Po100、Po103、Po105、Po109、Po110、F1は床面から、Po63はP6内からの出土遺物である。

また、埋砂中より出土した鉄形滓（No1123）を分析した結果、精錬滓を砂質部に放出したものと推定され、遺跡内で製鉄をおこなった施設が存在した可能性がある。



挿図20　長瀬高浜遺跡ＳＩ246床面遺物出土状況図

ＳＩ246の時期は、床面出土遺物等から判断して、天神川Ⅲ期、古墳時代前期中葉ごろと考えられる。また、住居内床面から出土していた炭化材（No1577、Beta-123123）について年代測定をおこなったところ、1700±50 B.P.(A.D.350年）という結果が得られた。（井上）

ＳＩ247（挿図14・21、図版３、26）

調査区北西側の４Ｐグリッドにあり、標高約４ｍのほぼ平坦面に立地する。東側ではＳＩ246と切り合い、南側は４ＰＳＫ１に切られている。土層の切り合い、出土遺物から、ＳＩ247がＳＩ246よりも新しいと考える。また、西側１ｍにＳＩ248、南側にＳＩ245が隣接している。さらに、この遺構上層で土器溜４を検出している。

遺存状態は比較的よい。平面形は北側が調査区外へ続いているため全体は不明瞭であるが、隅丸方形か、隅丸長方形を呈すと考えられる。規模は北西から南東4.54m以上、北東から南西4.4m、床面積は11㎡以上を測る。残存壁高は、最も遺存状態のよい西側壁で60cmを測る。

主柱穴はＰ１で、規模（54×40―18）cmを測り、埋砂中から小さな土師器片が出土している。その他の主柱穴は調査区外にある。また、中央ピットはＰ２と思われる。比較的しっかり掘り込まれ、埋砂からもわずかな土師器片が出土している。埋砂には炭化材等は一切含まれていなかった。その他、この遺構からは用途不明のピット２個を検出している。これらのピットは、ＳＩ246とＳＩ247の切り合い部分にあるため、ＳＩ246に伴う可能性も捨て切れないが、推定される遺構範囲から判断してＳＩ247に伴うものと考える。

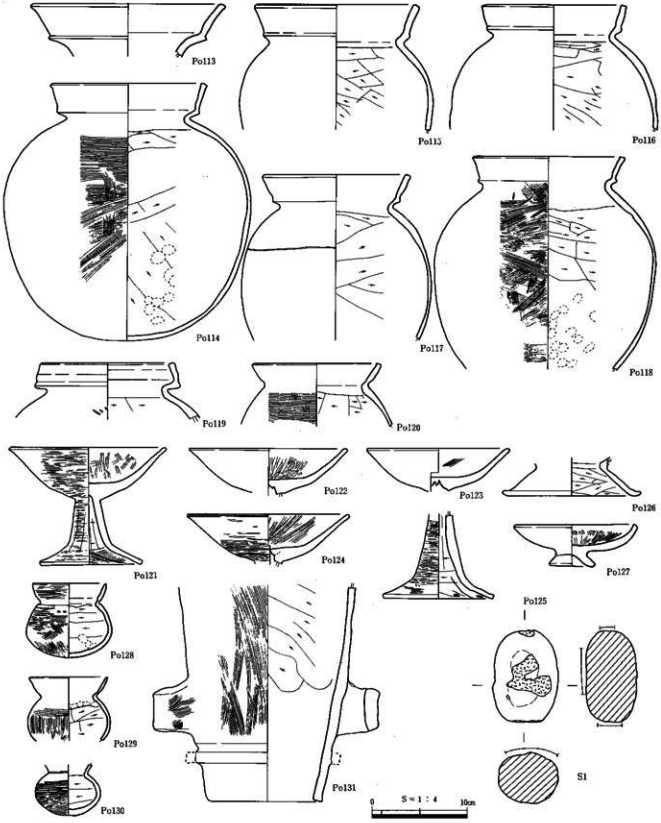
埋砂は17層に分層できた。これらは、調査区北壁土層などの観察から、住居中央部に向かって流れ込んだような堆積状況を示し、自然堆積したものと考える。

出土遺物は、図化できたものに土師器壺Po113、甕Po114～120、高杯Po121～125、鼓形器台Po126、低脚杯

Po127、小型丸底壺Po128～130、甑Po131、敲石Ｓ１がある。床面出土の遺物はないが、埋砂下層からPo114～117・Po119～128・Po130・Po131が出土している。

また、埋砂中から出土した鉄滓（No1993）は、精錬の反応がやや進行した精錬滓であることが判明した。

埋砂下層の遺物から判断して、天神川Ⅳ期、古墳時代前期後葉ごろのものと考える。　（井上）



挿図21　長瀬高浜遺跡ＳＩ247出土遺物実測図

ＳＩ248（挿図22・23、図版３）

調査区の最も西側際の４Ｐグリッドにあり、標高約4.0mのほぼ平坦面に立地する。東側１mにはＳＩ247が、約３m南東側にはＳＩ245がそれぞれ位置している。

調査区際からの検出であるため、全体の約４分の１程度しか検出することができず、全体の明確な形態はわからないが、隅丸方形か隅丸長方形を呈するものと思われる。規模は、北西から南東1.50m以上、北東から南西1.35m以上、床面積は1.5㎡以上である。残存壁高は、最も遺存状態のよい東壁で最大28cmを測る。壁溝等は全く検出されなかった。

主柱穴、ピット等も全く検出できなかったが、調査区外にあると思われる。

埋砂は６層に分層できた。これらはいずれも壁際から住居中央部に向かい、流れ込んだような堆積状況を示し、自然堆積した状況が窺われる。

出土遺物は少なく、わずかな土師器片が埋砂中から出土したのみである。図化できたものは、土師器高杯脚部Ｐo132・Ｐo133等である。このうち、Ｐo133は埋砂下層からの出土遺物である。その他の出土遺物は周辺から出土したものである。

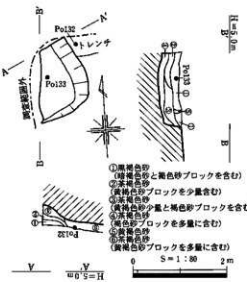
時期判断できる遺物はわずかであるが、周辺の竪穴住居跡とほぼ同時期のものと考えられ、古墳時代前期ごろのものと考えられる。（井上）

ＳＩ249・251・252、２ＯＳＫ６（挿図24～44、図版３、27～46、71、72）

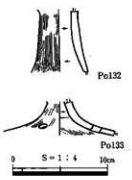
調査区西側の１・２Ｏグリッドにあり、標高4.5～5.1mの南西側へ緩やかに傾斜する斜面に立地する。ＳＩ249・251・252・257の４棟の住居が重複して作られており、切り合い関係からＳＩ251→ＳＩ252→ＳＩ249の順で作られたものと考えられる。ＳＩ257については、後述する。２ＯＳＫ６は、ＳＩ249の東コーナーに作られている。

ＳＩ249は、この３棟中では最も遺存状態がよく、ＳＸ98周溝によって一部切られているが平面いびつな方形を呈する。規模は、北西～南東4.18m、北東～南西4.32m、床面積19㎡を測る。壁高は、最も遺存状態のよい東壁で最大68cmを測る。

主柱穴はＰ１～Ｐ４の４個で、Ｐ１（58×48―33）cm、Ｐ２（62×54―57）cm、Ｐ３（61×58―58）cm、Ｐ４（67×47―58）cmを測る。主柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順に、2.0m、2.2m、1.9m、2.0mである。Ｐ１



挿図22　長瀬高浜遺跡ＳＩ248遺構図



挿図23　長瀬高浜遺跡ＳＩ248出土遺物実測図

内から甕Ｐo243・280、低脚杯Ｐo353、Ｐ２内から甕Ｐo182が出土している。

また、住居中央やや南寄りに中央ピットＰ５がある。(58×49—30) cmを測り、二段掘りとなっている。埋砂は、３層に分層できた。

ＳＩ249の南東コーナーに**２ＯＳＫ６**が作られている。切り合いが認められないことから、住居に伴うものと考えられる。長軸1.44m、短軸復元1.3m前後、深さ0.52mを測り、底面は二段掘りになっている。

出土遺物には、土師器甕Ｐo382～391、高杯Ｐo392～396、小型丸底壺Ｐo397・398、鼓形器台Ｐo399・400がある。このうち、底面からはＰo397が出土している。

埋砂は、14層に分層できた。このうち、⑧～⑪層は炭化物を含み、埋砂下層中から炭化材も検出されていることから、焼失したものと考えられる。

出土遺物には、図化できたものに壺９個体、甕146個体、直口壺５個体、小型壺３個体、高杯33個体、鼓形器台10個体、小型器台10個体、低脚杯５個体、小型丸底壺18個体、椀８個体、土玉１個、甑１個体、その他、図化できなかったが、高杯杯部24個体、脚部15個体など計280個体を越える非常に大量の土師器がある。

また、土器以外にも、埋砂上層から下層で鉄鏃Ｆ３、鉄鎌Ｆ４、雛形鉄製品(剣先形)Ｆ５、不明鉄製品Ｆ６・７、砥石Ｓ２、敲石Ｓ３、仿製小型重圏文鏡Ｂ１が出土している。

このうち床面出土の土器は、ほとんど完形かそれに近く復元できるものが多く、また、埋砂下層中のものでも高杯など、火にかけられないものにもススが付着するものがあり、焼失以前に置かれたものも含まれているものと考えられる。

埋砂下層出土の炭化材№3644はマツと同定された。また鉄滓№2531は、分析の結果砂鉄原料の精錬滓と同定された。

ＳＩ251は、大半をＳＩ252によって切られており遺存状態が悪いが、遺存する壁から平面隅丸方形を呈するものと考えられる。規模は、北西～南東1.7m、北東～南西2.8m、床面積３㎡以上を測る。壁高は最も遺存状態のよい東壁で最大59cmを測る。

主柱穴は (55×50—15) cmを測るＰ１のみ検出できた。本来は、２ないし４本柱であったと考えられる。

埋砂は、３層に分層できた。自然堆積したものと考えられる。

出土遺物には、土師器甕Ｐo401～413、高杯Ｐo414、直口壺Ｐo415、低脚杯Ｐo416・417がある。

このうち、埋砂下層からはＰo401・410が出土し、その他のものは埋砂中および上層からの出土である。

ＳＩ252は、中央部分をＳＩ249、ＳＸ98周溝によって切られているが、遺存する壁から平面長方形を呈するものと考えられる。規模は、北西～南東7.4m、北東～南西5.3mを測るものと推定される。床面積は南西側を復元して36㎡と推定される。壁高は、最も遺存状態のよい北東壁で77cmを測る。

主柱穴は、Ｐ１、Ｐ２の２個検出できたが、本来は４本柱であったものと考えられる。規模はＰ１ (57×46—25) cm、Ｐ２ (51×49—24) cmを測る。

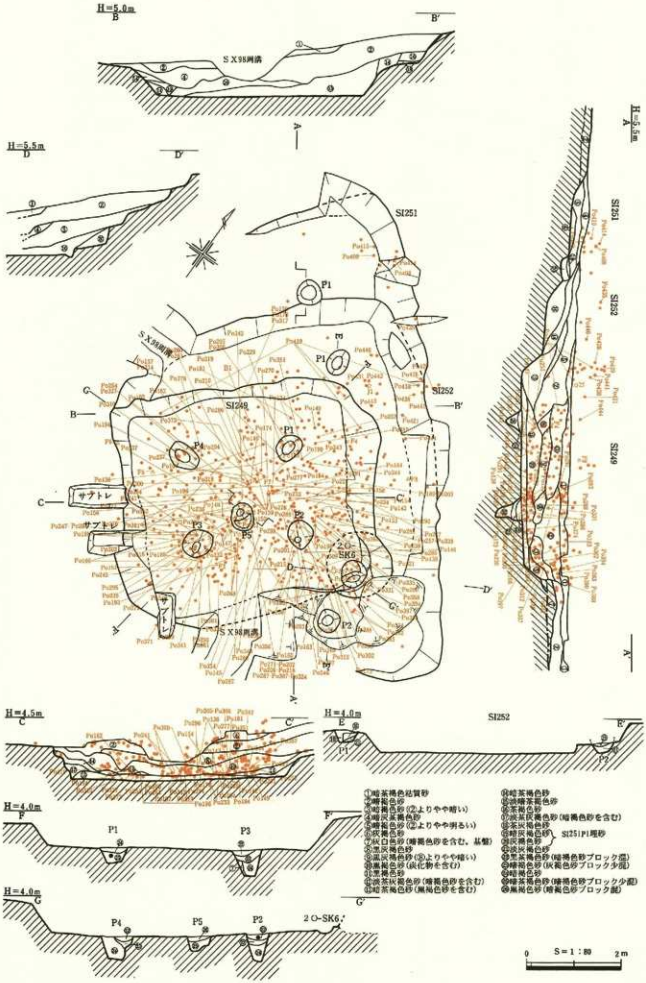
埋砂は、５層に分層できた。自然堆積したものと考えられる。

出土遺物には、土師器壺Ｐo418、甕Ｐo419～436、高杯Ｐo439～441、鼓形器台Ｐo442・443、小型器台Ｐo444、低脚杯Ｐo445、小型丸底壺Ｐo446～449、砥石Ｓ４、ガラス小玉Ｊ１、雛形鉄製品 (剣先形) Ｆ８がある。

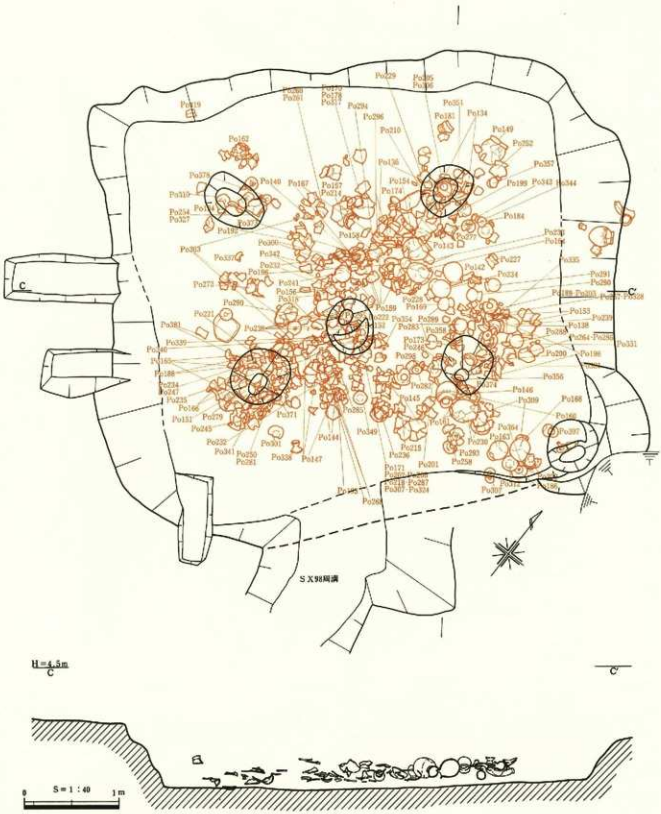
このうち、南東床面からＰo425・426が潰れた状態で、埋砂下層からＰo422～424・427・431・436・437・439・440・445が出土した。その他のものは、埋砂中および上層からの出土である。

ＳＩ249・251・252、２ＯＳＫ６の時期は、出土遺物からＳＩ249・２ＯＳＫ６は、天神川Ⅲ期、古墳時代前期中葉ごろ、ＳＩ251・252は、天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉ごろと考えられる。

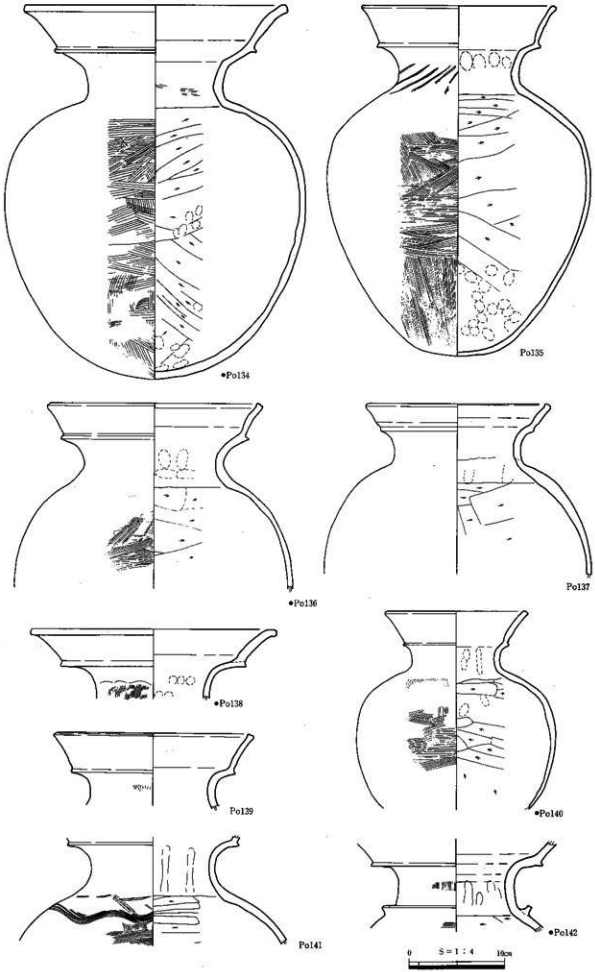
ＳＩ249は、非常に大量の土器が出土しているが、埋砂上層出土のものと床面出土のものが接合する個体があり、焼失に際し、他所から集められ廃棄されたものもあると考えられる。また、焼成後穿孔された甕、雛形鉄製品、小型青銅鏡など、住居内での祭祀または、土器廃棄に伴う祭祀があったものと推定される。 (牧本)



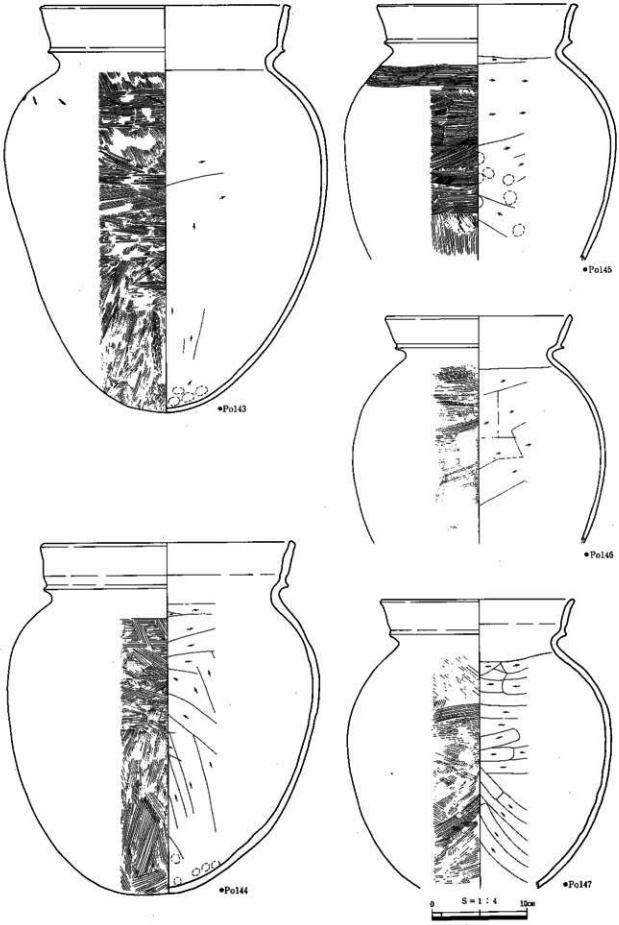
挿図24　長瀬高浜遺跡ＳＩ249・251・252・２ＯＳＫ６遺構図



挿図25　長瀬高浜遺跡ＳＩ249遺物出土状況図

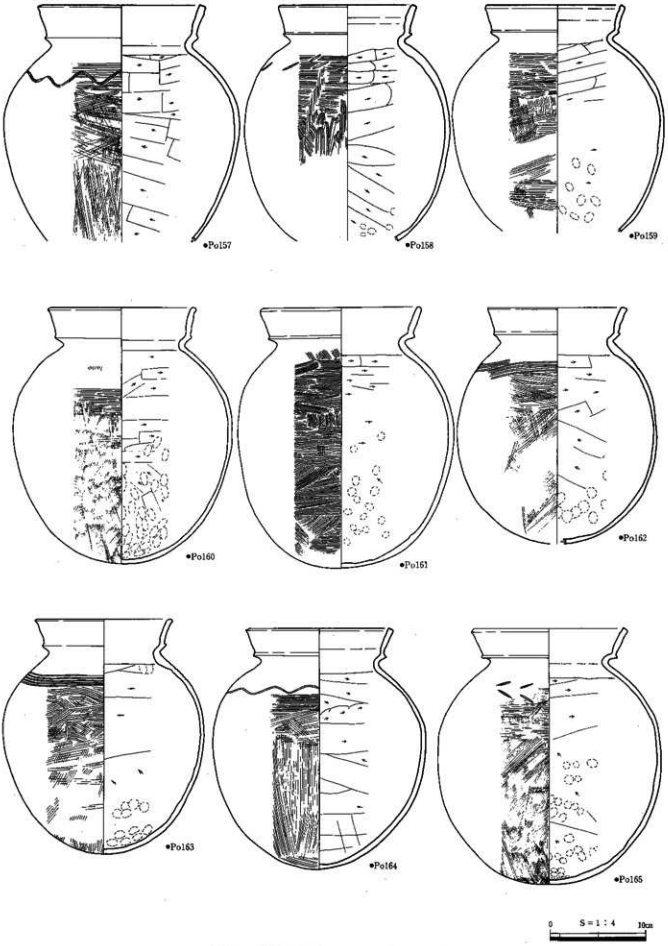


挿図26　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(1)

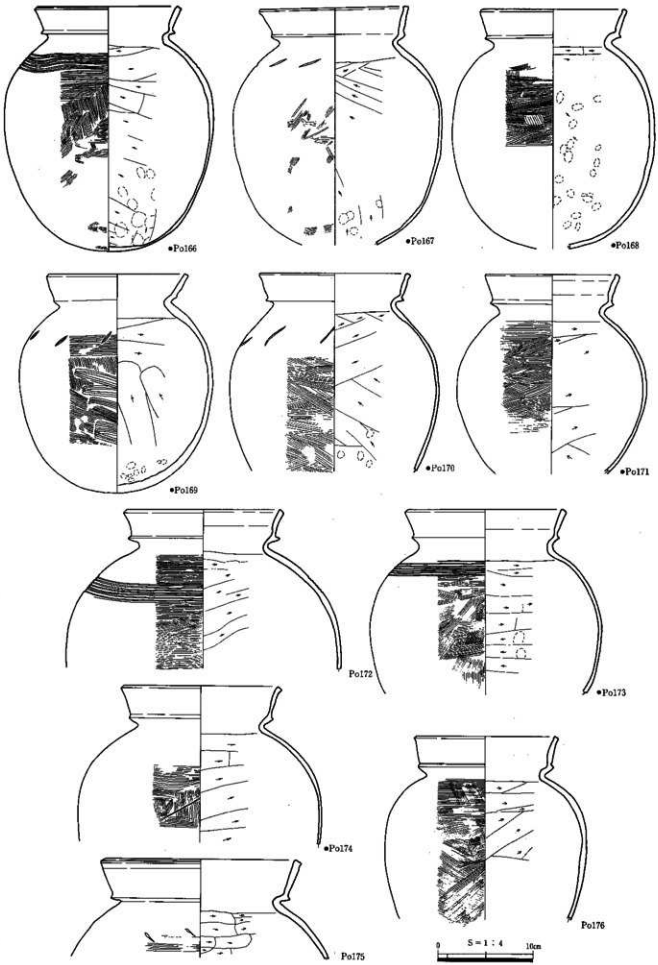


挿図27　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(2)

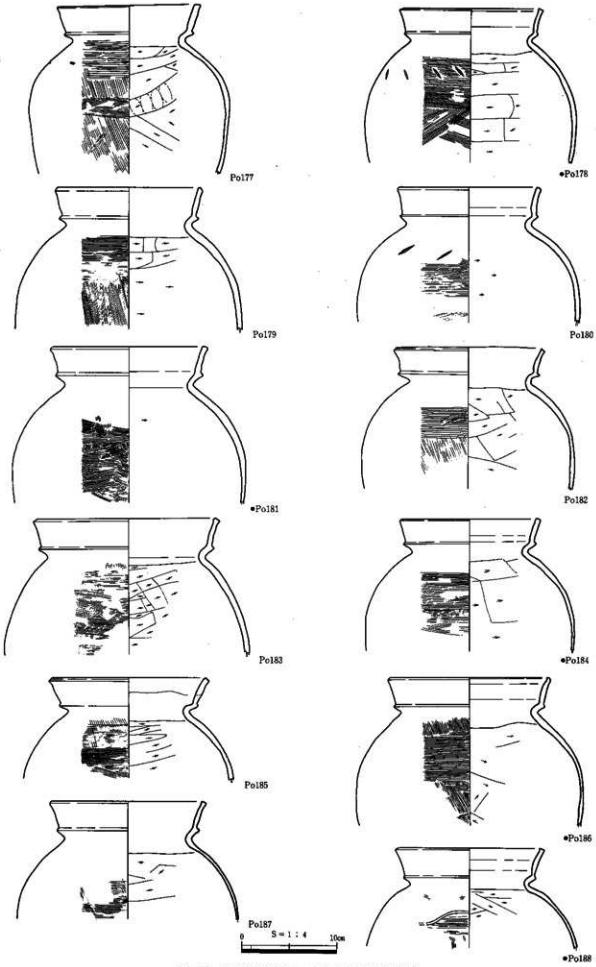
挿図28　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(3)



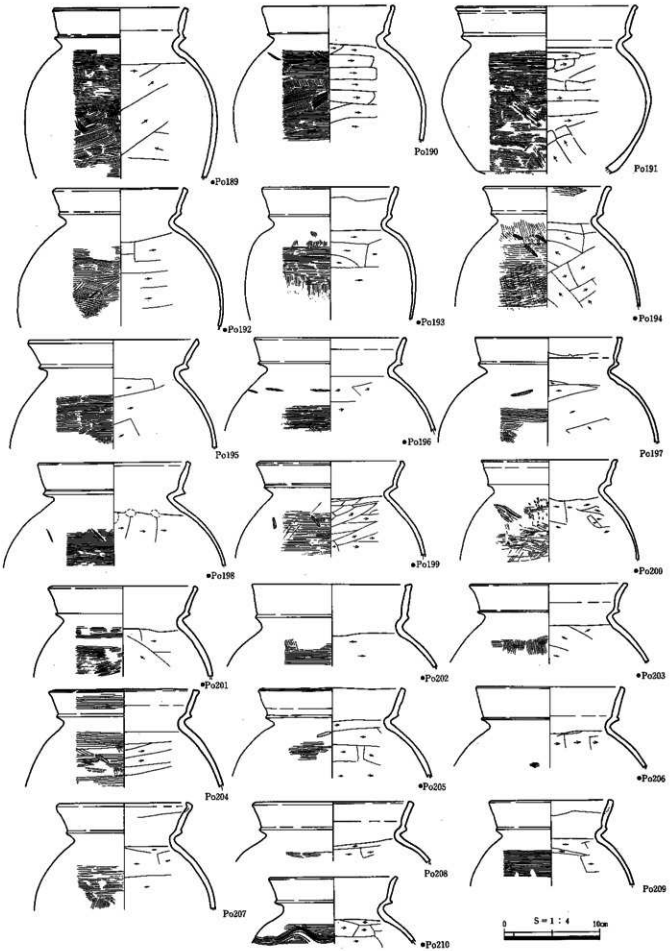
挿図29　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(4)



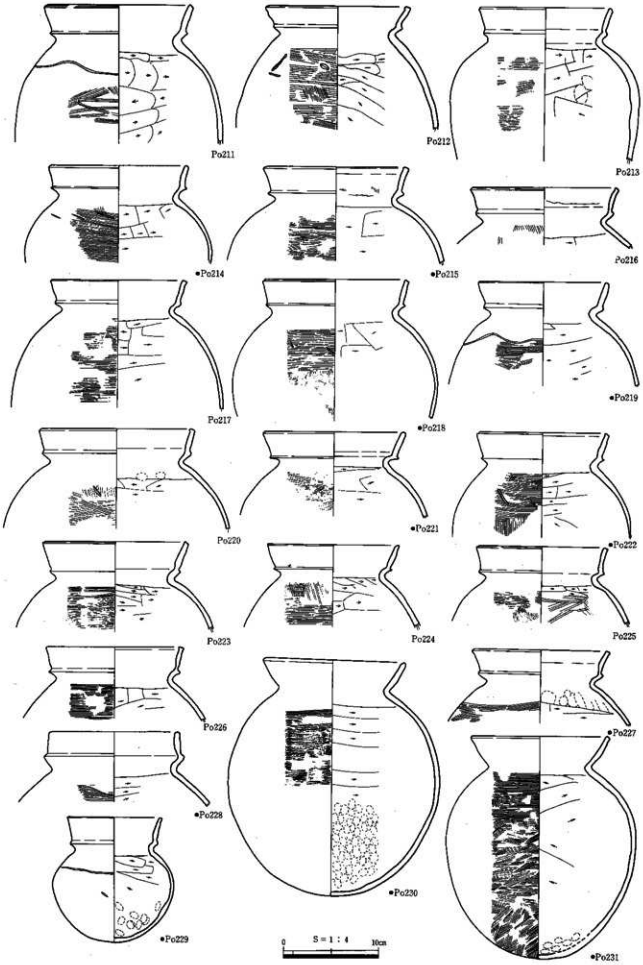
挿図30　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(5)



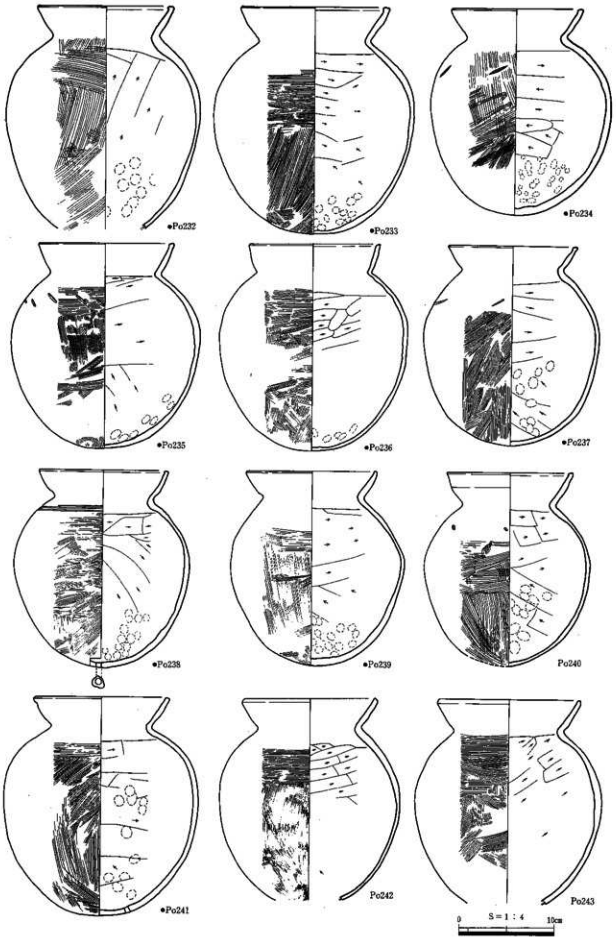
挿図31　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(6)



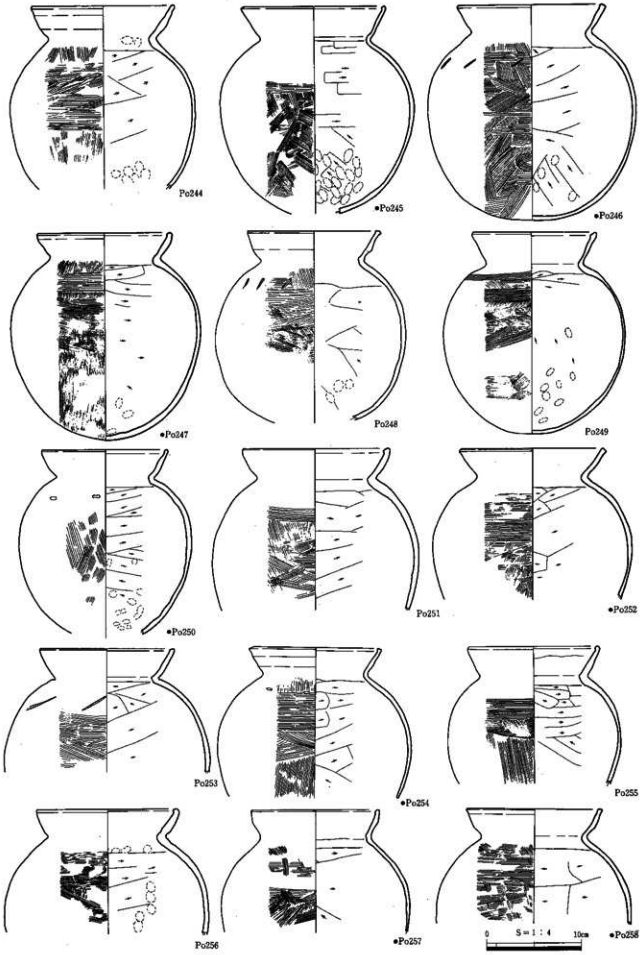
挿図32　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(7)



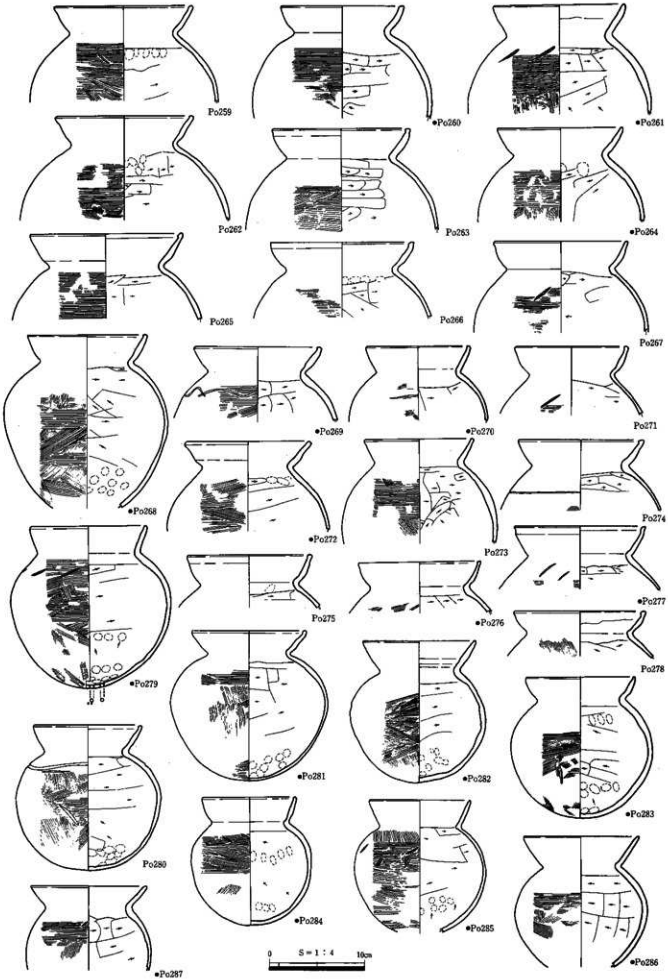
挿図33　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(8)



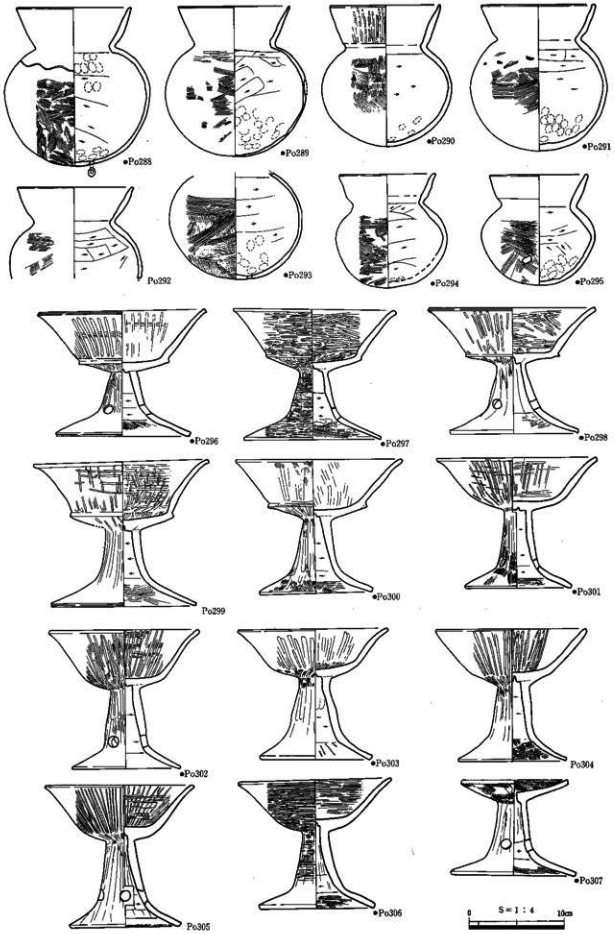
挿図34　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(9)



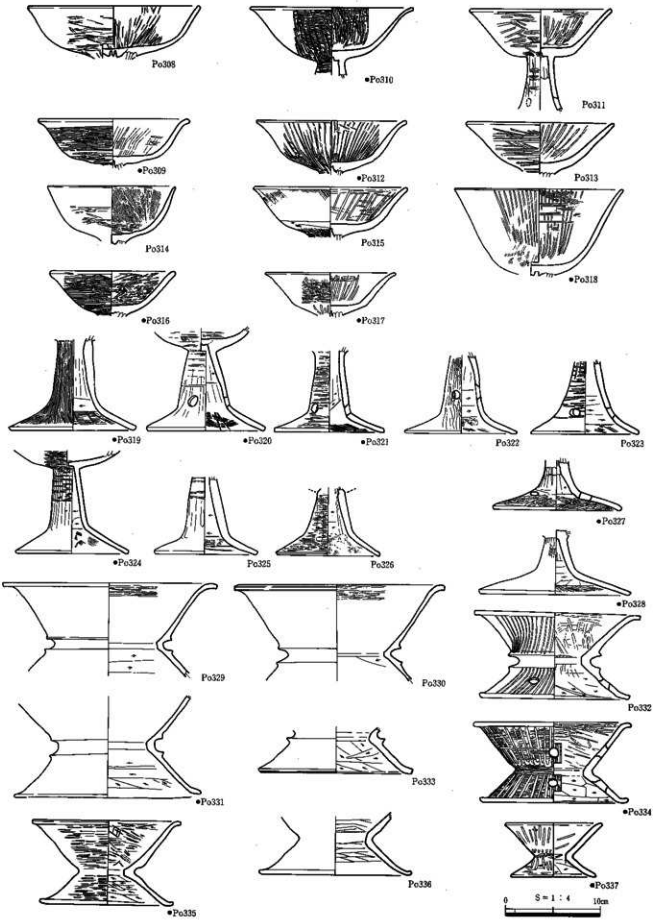
挿図35　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図⑩



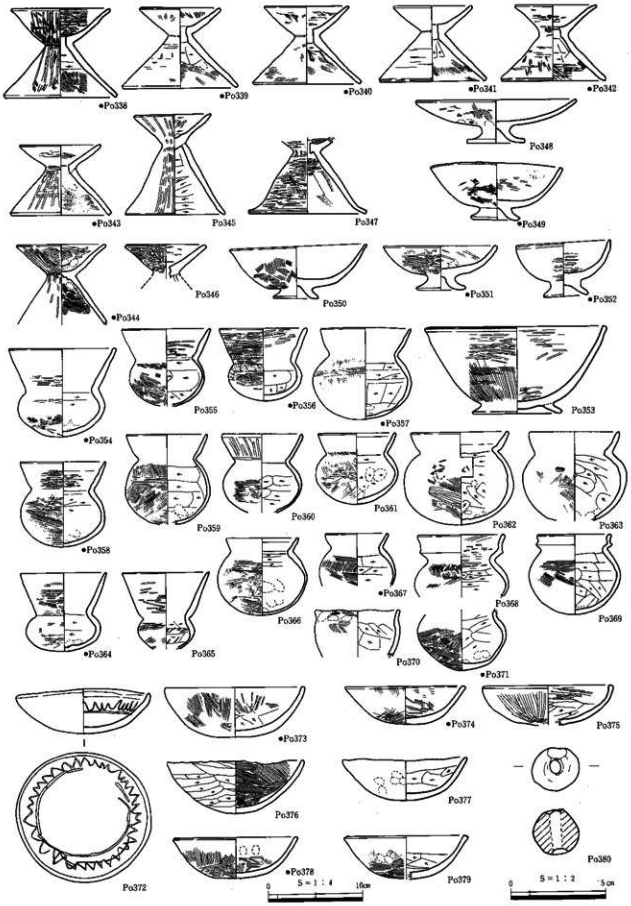
挿図36　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(11)



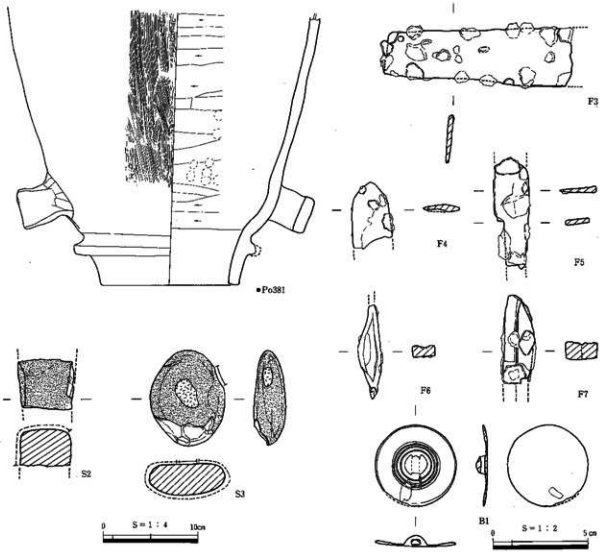
挿図37　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(12)



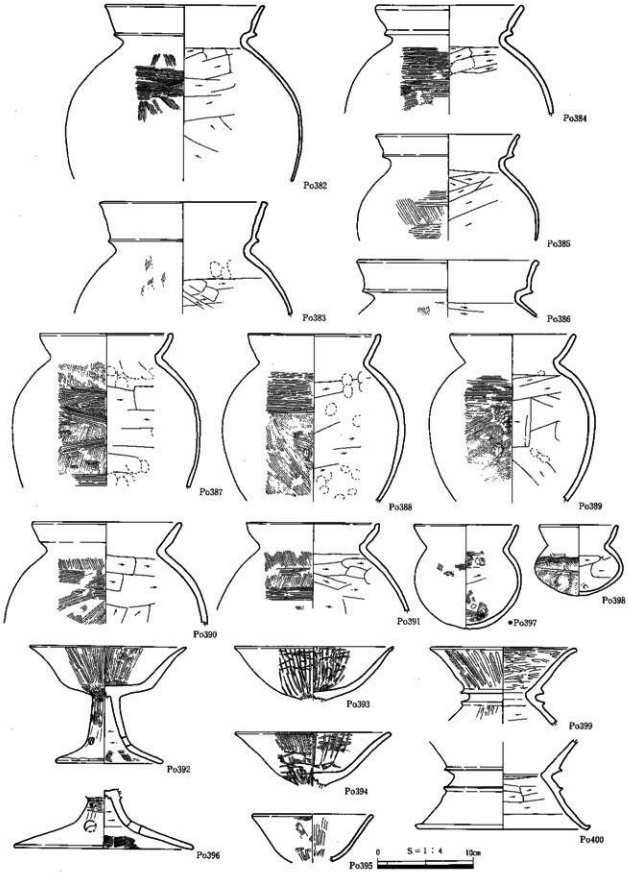
挿図38　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(13)



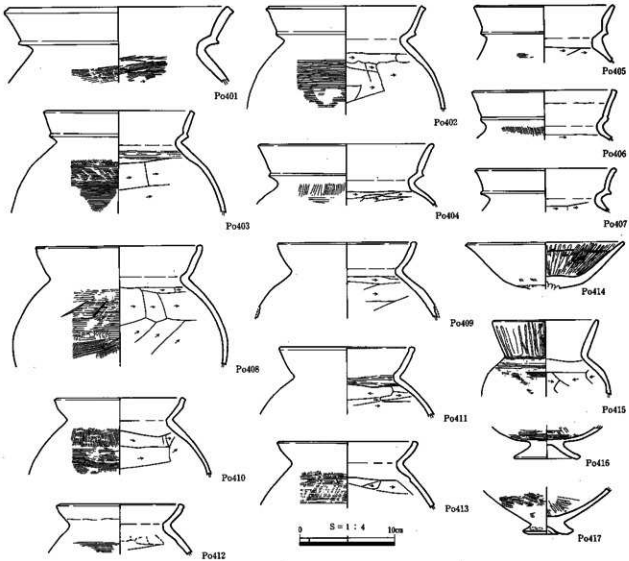
挿図39　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(14)



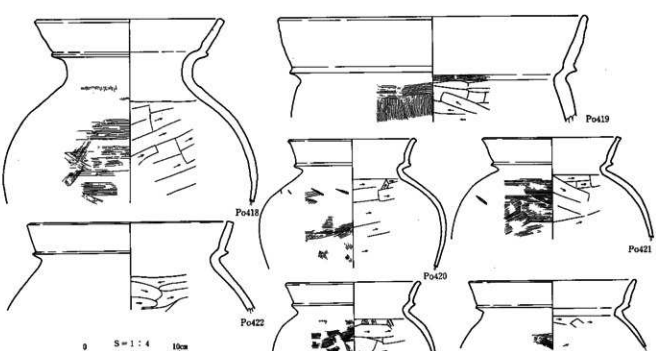
挿図40　長瀬高浜遺跡ＳＩ249出土遺物実測図(15)



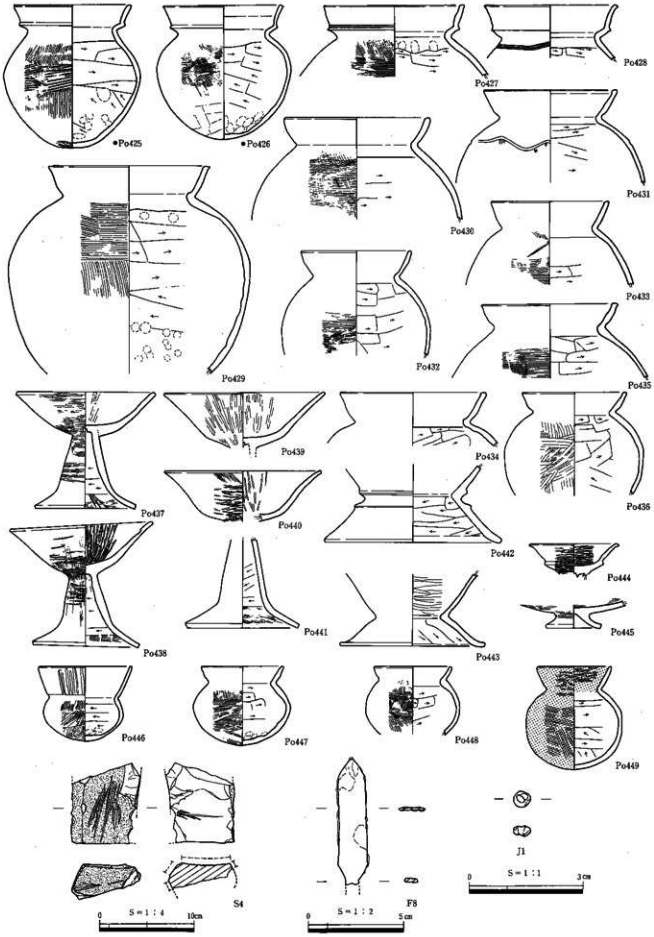
挿図41　長瀬高浜遺跡２OSK６出土遺物実測図



挿図42　長瀬高浜遺跡ＳＩ251出土遺物実測図



挿図43　長瀬高浜遺跡ＳＩ252出土遺物実測図(1)



挿図44　長瀬高浜遺跡ＳＩ252出土遺物実測図(2)

ＳＩ250（挿図45～50、図版４、47～49、72）

調査区西側の１・２Ｏグリッドにあり、標高4.5～5.1mの南西側へ緩やかに傾斜する斜面に立地する。住居南側はＳＸ100によって切られている。南東側約５mにはＳＩ251がある。

ＳＸ100に切られているものの遺存状態はよく、平面は方形を呈すと考えられる。北東～南西約4.5m、北西～南東約4.4mを測る。残存壁高は、最も遺存状態のよい北東壁で最大0.8mである。床面積は、18㎡以上（復元約20.6㎡）を測る。

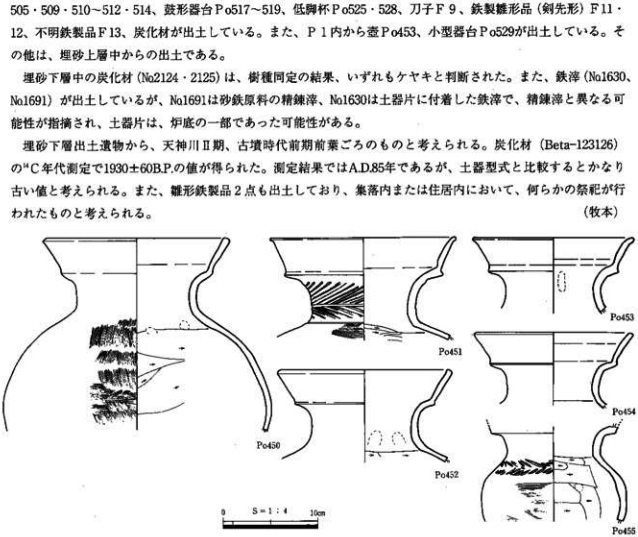
主柱穴は４本と考えられるが、南側のものはＳＸ101に切られており、検出できたものはＰ１～Ｐ３の３個である。それぞれの規模は、Ｐ１（58×49—38）cm、Ｐ２（63×61—28）cm、Ｐ３（79×73—41）cmで、主柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順に、2.9m、2.8mである。Ｐ１では柱痕を確認できた。復元される柱の径は約10cmである。壁溝、中央ピットはない。

埋砂は、10層に分層できた。このうち、①層は中世畠検出面、⑨⑩層は中世頃のピットないし土坑埋砂と考えられ、ＳＩ250の純粋な埋砂は③層以下と思われる。⑦⑧層は、壁板が腐朽したものと考えられる。

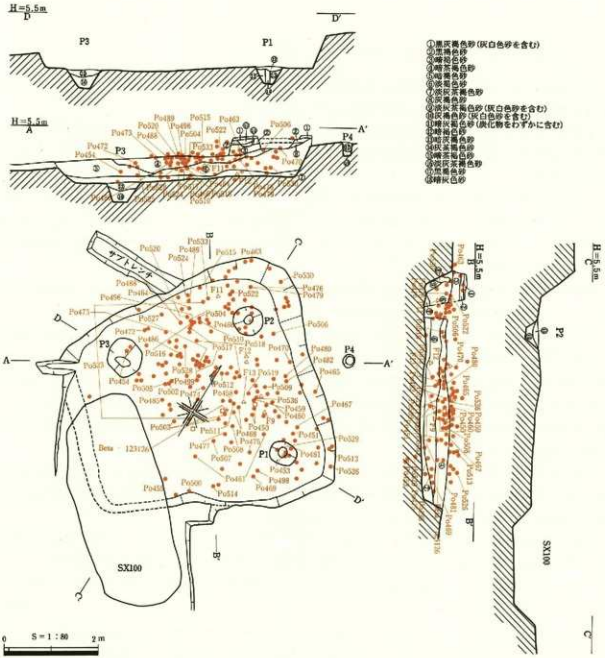
出土遺物は、埋砂中から多量の土師器片、鉄製品、炭化材、鉄滓が出土しているが、これらは、住居が埋没する段階で廃棄されたものと考えられる。このうち、埋砂下層から壺Ｐo450・452・454・455・458、甕Ｐo459～461・464・466～469・471・472・474・475・477・480・482・483・488・489・498、直口壺Ｐo500、高杯Ｐo505・509・510～512・514、鼓形器台Ｐo517～519、低脚杯Ｐo525・528、刀子Ｆ９、鉄製雛形品（剣先形）Ｆ11・12、不明鉄製品Ｆ13、炭化材が出土している。また、Ｐ１内から壺Ｐo453、小型器台Ｐo529が出土している。その他は、埋砂上層中からの出土である。

埋砂下層中の炭化材（№2124・2125）は、樹種同定の結果、いずれもケヤキと判断された。また、鉄滓（№1630、№1691）が出土しているが、№1691は砂鉄原料の精錬滓、№1630は土器片に付着した鉄滓で、精錬滓と異なる可能性が指摘され、土器片は、炉底の一部であった可能性がある。

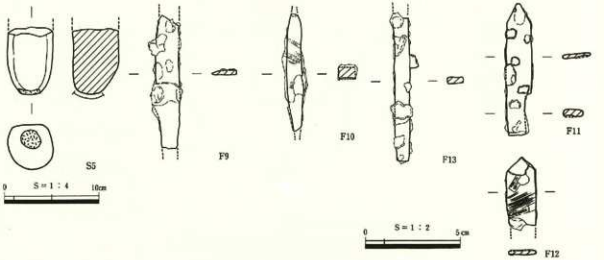
埋砂下層出土遺物から、天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉ごろのものと考えられる。炭化材（Beta-123126）の^{14}C年代測定で1930±60B.P.の値が得られた。測定結果ではA.D.85年であるが、土器型式と比較するとかなり古い値と考えられる。また、雛形鉄製品２点も出土しており、集落内または住居内において、何らかの祭祀が行われたものと考えられる。（牧本）



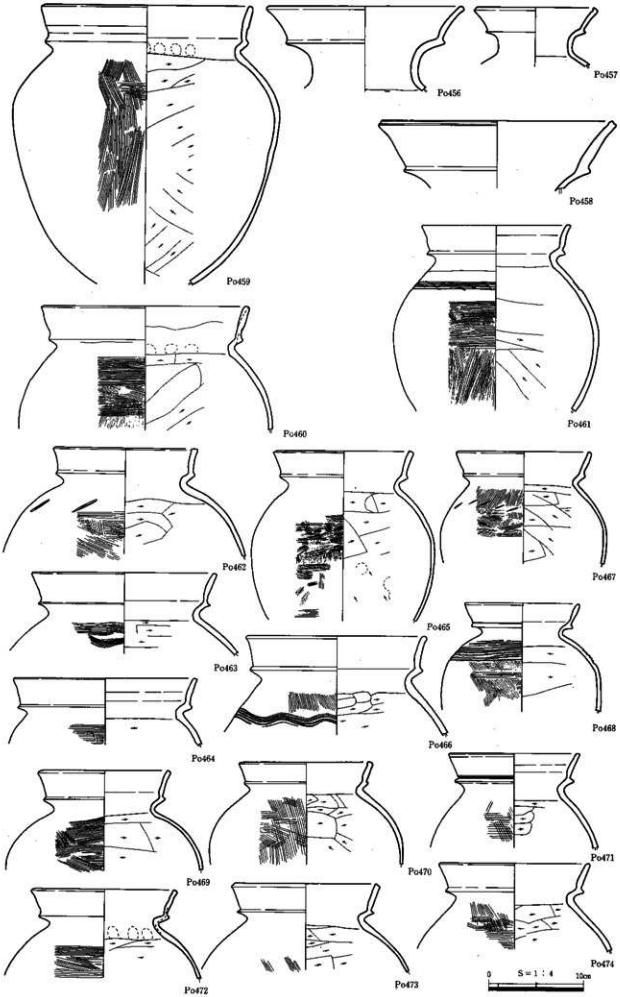
挿図45　長瀬高浜遺跡ＳＩ250出土遺物実測図(1)



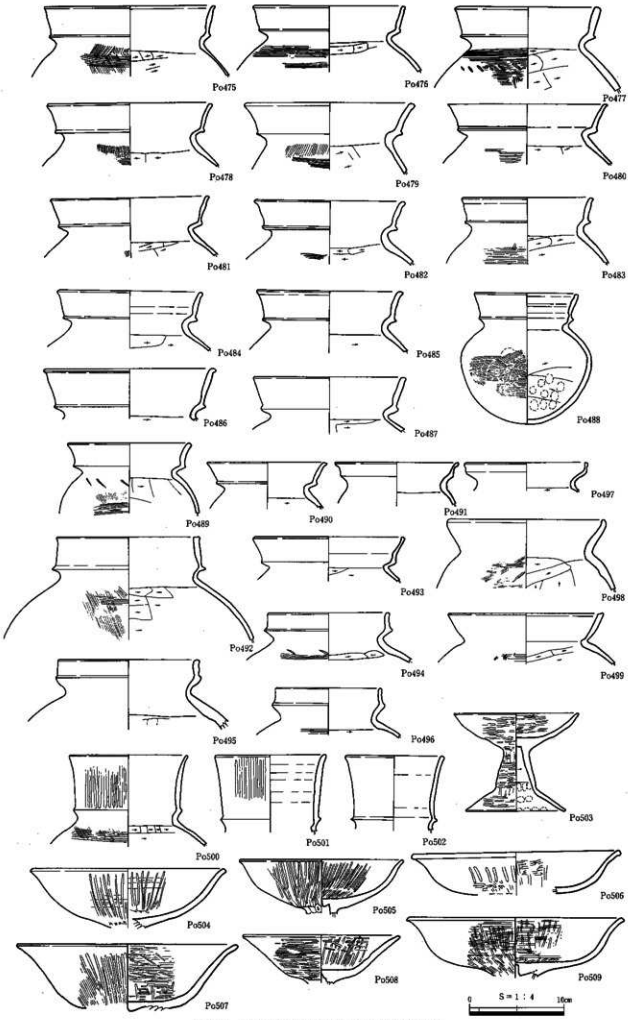
挿図46　長瀬高浜遺跡ＳＩ250遺構図



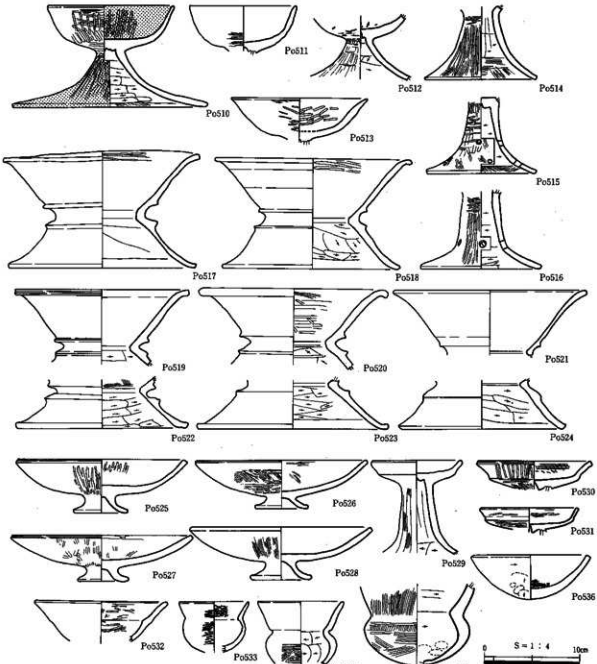
挿図47　長瀬高浜遺跡ＳＩ250出土遺物実測図(2)



挿図48　長瀬高浜遺跡ＳＩ250出土遺物実測図(3)



挿図49　長瀬高浜遺跡ＳＩ250出土遺物実測図(4)

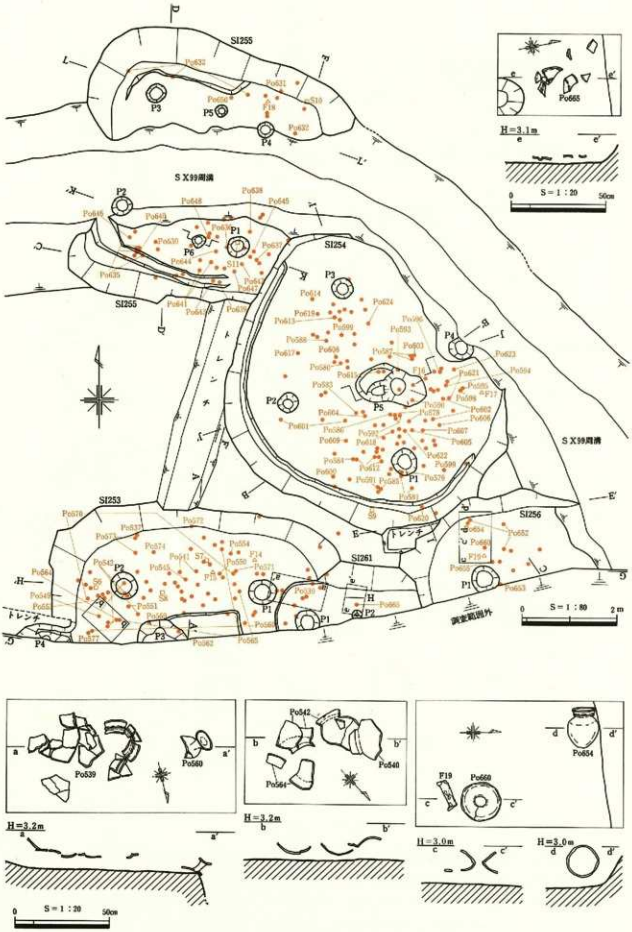


挿図50　長瀬高浜遺跡ＳＩ250出土遺物実測図(5)

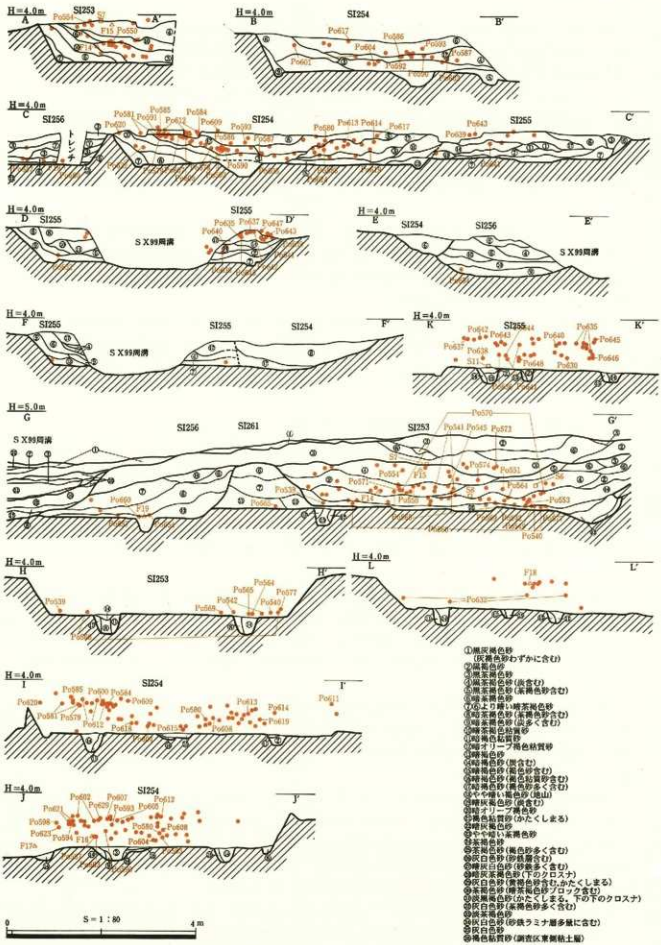
ＳＩ253（挿図51～54、図版４、49～51、71）

調査区西側の３０グリッド南西調査区際にあり、標高3.5～3.7mのほぼ平坦面に立地し、ＳＩ253～256・261の５基の竪穴住居跡が、一部重複しながらある。検出基盤面は黒茶褐色砂である。

ＳＩ253は、大半が調査区外にあり、全体の約１/３を調査した。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。規模は、東西5.2mを測り、残存壁高は、最も遺存のよい西側壁において約0.95mである。床面積は10㎡以上である。床面の標高は約2.95mであり、ほぼ水平である。



挿図51　長瀬高浜遺跡ＳＩ253～256・261遺構図



挿図52　長瀬高浜遺跡ＳＩ253～256・261土層断面図

主柱穴はＰ１（60×52―42）cm、Ｐ２（58×52―36）cmが検出されたが、未調査部分を含めて全体で４本の主柱穴をもつと推定される。主柱間距離は、2.9mである。柱穴の埋砂中には多くの炭化物を含有していた。

中央付近にＰ３、西側壁付近にＰ４がある。Ｐ３は、東西約2.2m、南北0.5m以上の平面方形のいわゆる中央ピットである。深さは、東側で２～３cm、西側で最大約８cmである。埋砂は、茶褐色砂が主体であり、とくに炭化物等は含まない。Ｐ４は、貯蔵穴であると考える。規模は、東西約1.2m、南北0.3m以上、床面からの深さは最大16cmである。埋砂は茶褐色砂を主体とし、炭化物等はみられない。

遺構埋砂は茶褐色砂を主体とし、自然堆積の様相を呈すが、④、⑤層など、特に下層において、黒褐色系砂を主体とし、炭化物の小片を比較的多量に含む層が認められることから、火災により焼失し、廃棄された可能性がある。

遺物は、床面から甕Ｐo542・543・549、高杯Ｐo560・564・565・569、低脚杯Ｐo567が出土している。床面の西側において比較的多数が出土した。埋砂中からも、壺、甕、高杯、鼓形器台、低脚杯、小型丸底鉢など30個体以上が出土している。住居廃絶後に投棄されたものであろう。特散的な遺物として、埋砂中から出土した小型丸底鉢Ｐo575・576、布留式甕口縁Ｐo555がある。

住居の時期は、床面の遺物から天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉ごろと判断できる。なお、床面から出土した炭化物の鑑定の結果、アシ（ヨシ）・ススキ（カヤ）など単子葉植物の茎部であることが判明した。屋根材の可能性がある。（岡野）

ＳＩ254（挿図51・52・55～57、図版４、52～54、71）

調査区西側３０グリッドにあり、ＳＩ253の北東側約１mに立地する。ＳＩ253同様、基盤面、遺構埋砂ともに黒茶褐色砂である。北東側の一部は、ＳＸ99の周溝により切られており遺存しない。また、北西側の一部はＳＩ255を切る。

平面は隅丸方形を呈す。規模は、北西～南東5.6m、北東～南西5.5m前後が想定される。残存壁高は、最も遺存のよい南側壁において0.8mである。床面積は、21.1㎡である。床面での標高は、約2.85mであり、ほぼ水平である。

主柱穴は、Ｐ１（57×52―42）cm、Ｐ２（44×41―30）cm、Ｐ３（47×44―22）cm、Ｐ４（55×46―20）cmの４本が確認された。主柱間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順に、2.75m、2.7m、2.8m、2.7mである。柱穴埋砂中には炭化物を含む。東および北西隅の一部を除く各側壁には、周壁溝が確認された。幅は15～18cm、床面からの深さは、おおむね３～５cmであるが、南側では約10cmを測る。周壁溝の埋砂は、暗褐色を主とし、少量の土師器片を包含していた。

住居中央部において不整楕円形のＰ５を検出した。いわゆる中央ピットである。西側では浅く皿状を呈するが、東側ではピット状をなし、深くなる。規模は、東西方向で約1.5m、南北方向で最大0.86mである。床面からの深さは、西側では５～10cm、東側では最大30cmである。埋砂は、暗褐色、暗灰褐色を主とし、炭化物を比較的多量に含む。

住居の埋砂は、自然堆積の様相を呈する。ただ、⑬、⑰層にみられる如く、下層において炭化物の小片を多量に包含する黒褐色系の層が顕著である。本住居もＳＩ253と同様、火災ののち廃棄された可能性が高い。

床面出土の遺物は、高杯脚部Ｐo615、鉄製品Ｆ17のみである。埋砂中からは、甕、高杯、低脚杯、鼓形器台、小型器台、小型丸底壺など50個体以上が出土した。⑧、⑰層には、とくに多量の土器が含まれる。その大部分が破損し、乱雑な出土状況から、住居廃絶後に投棄された結果と考えられる。

住居の時期は、床面出土の土器では判断できないため、最も床面に近い位置で出土したほぼ完形の土師器甕Ｐo604などにより、天神川Ⅲ期でも新しい段階、古墳時代前期中葉の所産と判断した。（岡野）

ＳＩ255（挿図51・52・58・59、図版５、55、71、72）

調査区西側の３０グリッドにある。検出基盤面は、南側は暗茶褐色砂、北側は茶褐色砂である。中央部をＳＸ99の周溝により、東西方向に大きく切られている。また、南東側の一部はＳＩ254に切られる。

平面形は、隅丸方形を呈する。規模は、南北約4.4m、東西4.3m程度が想定される。残存壁高は、最も遺存のよい北西側壁において約0.7mを測る。床面積は、9.3㎡以上である。床面での標高は、約3.0mであり、ほぼ水平である。

柱穴は、Ｐ１（48×45―35）cm、Ｐ２（46×39―20）cm、Ｐ３（42×38―38）cm、Ｐ４（34×32―28）cm、Ｐ５（26×25―20）cm、Ｐ６（29×27―26）cmの６本が検出され、うちＰ１～４が主柱穴と考えられる。主柱間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順に2.6m、2.45m、2.44m、2.5mである。Ｐ５、Ｐ６は補助柱穴と考えられる。柱穴埋砂中には炭化物小片を含む層が認められる。南西側および北西側において周壁溝を検出した。幅は25～55cm、床面からの深さは２～６cmであるが、最も深い南西側では約15cmを測る。周壁溝の埋砂は、暗褐色を主体とし、炭化物は含まない。屋内の施設は検出できなかった。

住居の埋砂は、自然堆積の様相を呈する。また、②、⑦、⑭層にみられるように、黒褐色を主体とし、炭化物の小片を多数包含する層が、とくに南側の埋砂において顕著に認められる。ＳＩ253、254同様に、火災を受けた可能性が考えられる。

床面出土の遺物は、土師器甕Ｐo632、敲石Ｓ10、石皿Ｓ11である。石皿は、Ｐ１の埋砂上で出土した。埋砂中からは、甕、高杯、鼓形器台、小型器台、甑など20個体以上が出土した。全て破損しており、乱雑な出土状況から、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

時期は、床面出土の甕Ｐo632などにより、天神川Ⅲ期、古墳時代前期中葉の所産と考えられる。　（岡野）

ＳＩ256（挿図51・52・60、図版５、56、72）

調査区西側の３０グリッドにあり、ＳＩ254の南東側約1.5mに立地する。検出基盤面は黒茶褐色砂である。東側はＳＸ99の周溝により切られており、南側の大半が調査区外にあたる。西側はＳＩ261を切る。

平面形は、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は、東西3.5m以上、南北1.06m以上である。残存壁高は、西側側壁において最大0.97mを測る。床面積は4.6㎡以上である。床面の標高は、2.75mでほぼ水平である。

柱穴はＰ１（60×57―30）cmのみを検出した。柱穴の埋砂は、暗褐色であり、炭化物は含まない。

住居の埋砂は、上層が少量の炭化物を含む黒茶褐色砂、暗茶褐色砂、下層が暗褐色砂を主とし、自然堆積の様相を呈する。

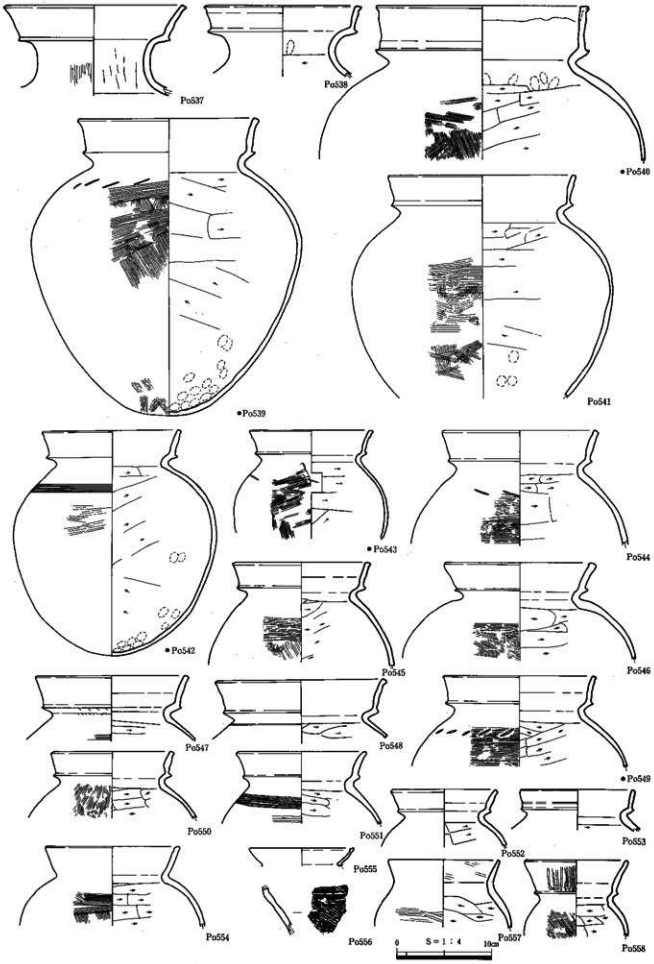
床面出土の遺物は、土師器甕Ｐo654、鼓形器台Ｐo660、高杯Ｐo657、鉄製鎌Ｆ19である。このうち、土器はほぼ完形で、鼓形器台Ｐo660は正位の状態で出土した。その他、埋砂中からは、土師器壺、甕、高杯、鼓形器台など７個体以上が出土した。住居廃絶後に投棄されたものであろう。

時期は、床面出土の土師器より判断して、天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉と判断される。　（岡野）

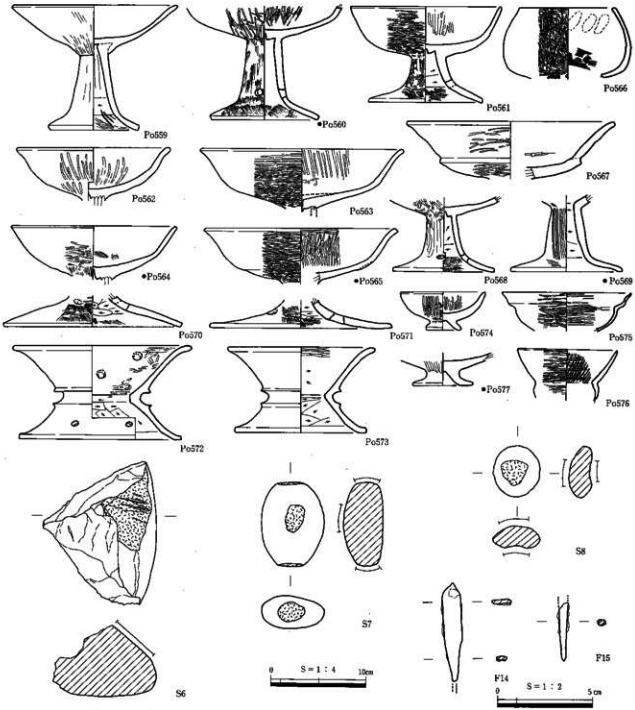
ＳＩ261（挿図51・52・61、図版６）

調査区西側の３０グリッド南西調査区際にあり、ＳＩ253とＳＩ256の間に立地する。検出基盤面は黒茶褐色砂である。南側は調査区外に延び、東西両側もＳＩ253、ＳＩ256に切られている。

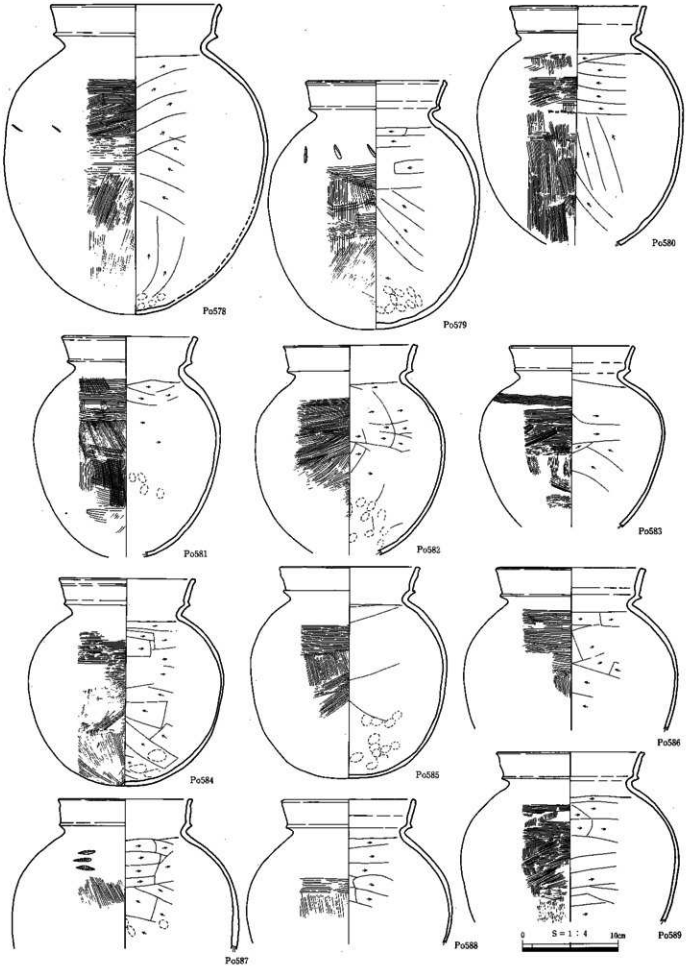
西側側壁は、ＳＩ253とＳＩ261の床面のレベル差により確認した。平面形は、隅丸方形を呈するものと想定される。床面での標高は2.9mであり、ほぼ水平である。規模は、東西3.1m以上、南北1.0m以上を測る。残存壁高は、北側側壁において最大0.77mである。床面積は、2.1㎡以上である。



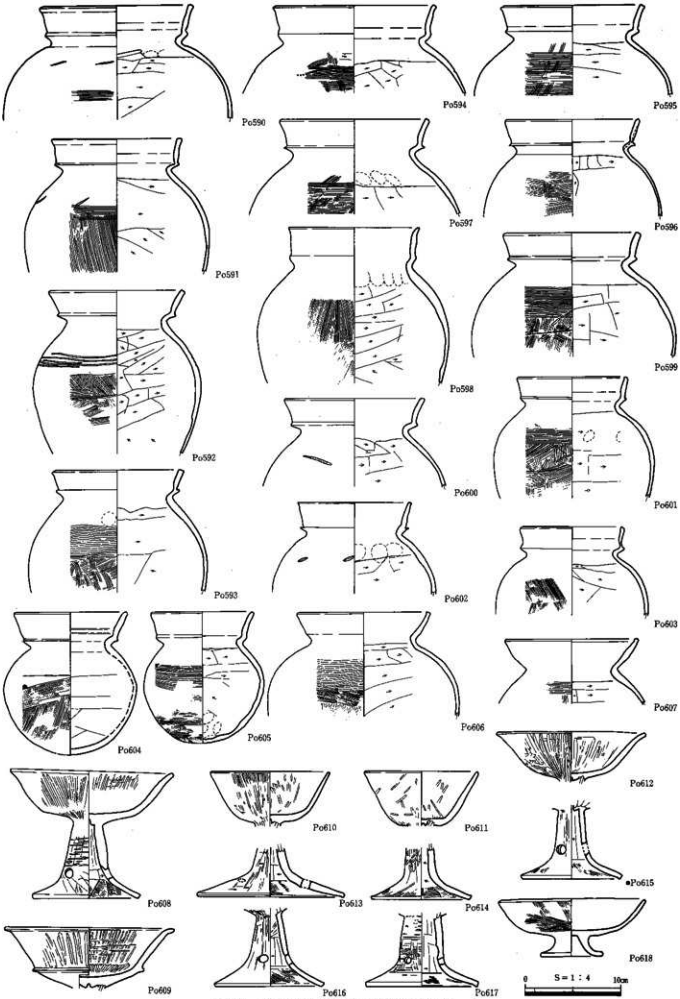
挿図53　長瀬高浜遺跡ＳＩ253出土遺物実測図(1)



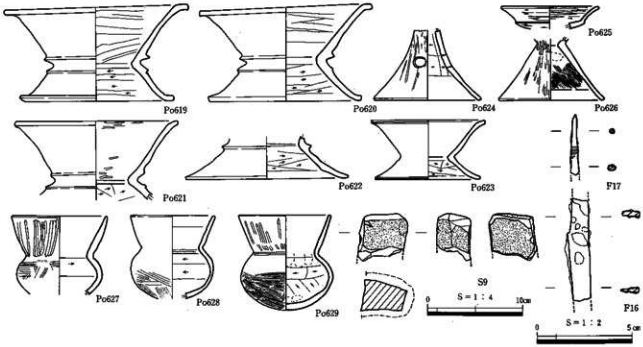
挿図54　長瀬高浜遺跡ＳＩ253出土遺物実測図(2)



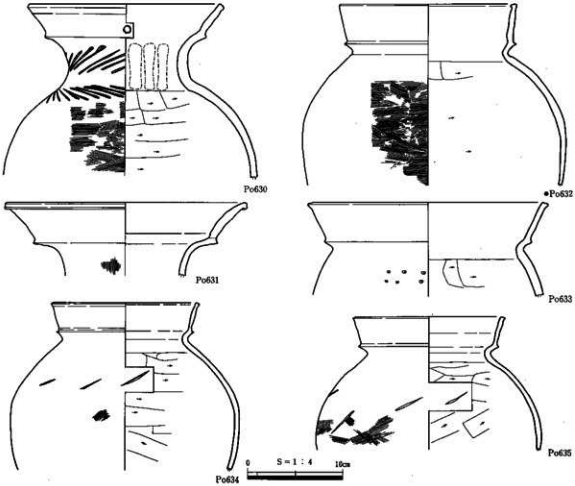
挿図55　長瀬高浜遺跡ＳＩ254出土遺物実測図(1)



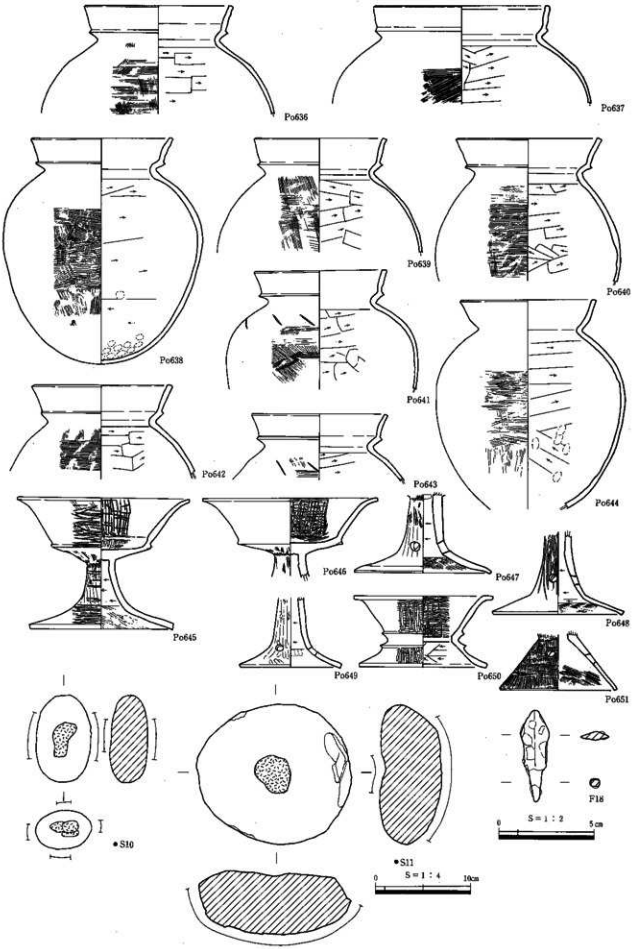
挿図56　長瀬高浜遺跡ＳＩ254出土遺物実測図(2)



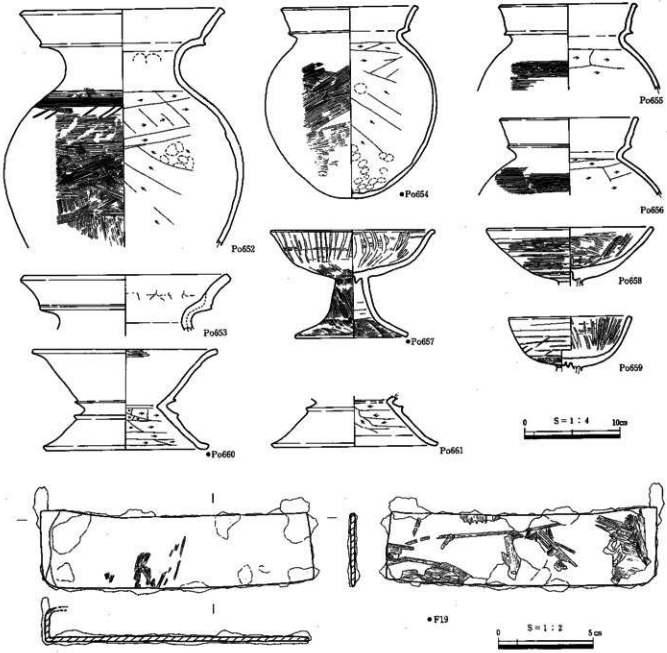
挿図57　長瀬高浜遺跡ＳＩ254出土遺物実測図(3)



挿図58　長瀬高浜遺跡ＳＩ255出土遺物実測図(1)



挿図59　長瀬高浜遺跡ＳＩ255出土遺物実測図(2)



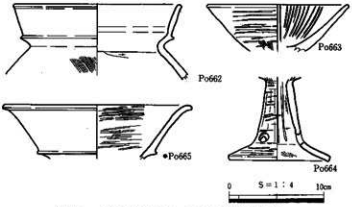
挿図60　長瀬高浜遺跡ＳＩ256出土遺物実測図

柱穴は、主柱穴と考えられるＰ１（54×48—40）cmのほか、Ｐ２（22×17—27)cmを検出した。柱穴の埋砂は暗褐色を主とする。

住居の埋砂は、暗茶褐色砂、暗褐色砂を主体とし、炭化物は含まない。埋砂の堆積状況は、東西両側が切られているため明確ではないが、自然堆積と考えて矛盾はない。

床面出土の遺物は、鼓形器台受部Ｐo665である。埋砂中の遺物は、土師器の小片のみであった。

床面出土のＰo665から、天神川Ｉ期、古墳時代前期前葉ごろと判断される。　（岡野）



挿図61　長瀬高浜遺跡ＳＩ261出土遺物実測図

ＳＩ257（挿図62～64、図版５、56）

調査区西側の２０グリッドにあり、標高約3.9mのほぼ平坦面に立地する。大半をＳＩ249によって掘り込まれている。

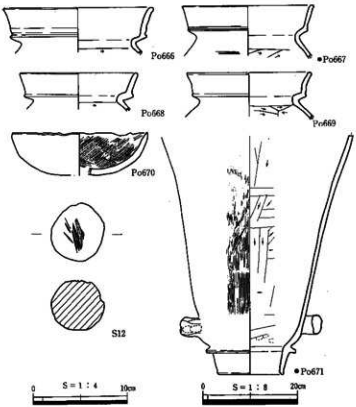
遺存状態は非常に悪く、遺存する壁から平面は方形ないしは長方形を呈するものと考えられる。規模は、北東～南西5.7m、北西～南東1.9m以上を測る。床面積7.3㎡以上を測る。壁高は、最も遺存状態のよい西壁で、10cmを測る。

主柱穴は、Ｐ１のみ検出できた。規模は、(54×51―11) cmである。

埋砂は、２層に分層できた。

出土遺物には、土師器甕Ｐo666～669、椀Ｐo670、甑Ｐo671、工具痕が認められるＳ12がある。床面からやや浮いた状態でＰo667、Ｐo671が出土している。Ｐo671は、広口部を欠くが、潰れた状態で出土している。

床面出土遺物から、天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉ごろと考えられる。　　（牧本）

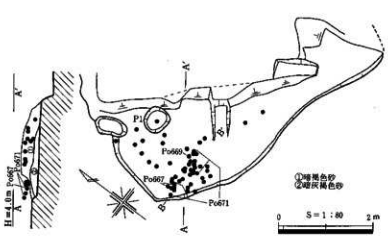


挿図62　長瀬高浜遺跡ＳＩ257出土遺物実測図

ＳＩ258（挿図65・66、図版５、６、56、57）

調査区西側の３０グリッド西側付近、標高約3.5～4.0mのほぼ平坦面に立地する。北西側にはＳＩ246が隣接し、南側約2.5mにはＳＩ255が位置している。また、北東側約1.5mには３ＰＳＫ１が、2.5mに３ＰＳＫ２がそれぞれ位置している。

遺存状態は比較的よい。形態は、東側肩部分をＳＸ97周溝部分が切っている。また、西側をわずかながらＳＩ246により掘り込まれているが、隅丸長方形を呈すると考える。規模は、北東から南東6.12m、北西から南東4.48m床面積は18.6㎡を測る。残存壁高は、最も遺存状態のよい北東壁で最大58cmを測る。なお、壁溝等は全く

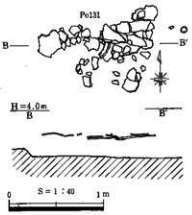


挿図63　長瀬高浜遺跡ＳＩ257遺構図

検出されていない。

主柱穴はＰ１・Ｐ２で、それぞれの規模はＰ１（54×48—26）cm、Ｐ２（80×67—10）cmを測る。主柱穴間距離は、3.26mである。その他５個のピットを検出しているが、用途は不明である。これらピットの規模は、それぞれＰ４（56×53—14）cm、Ｐ５（56×52—９）cm、Ｐ６（66×64—12）cm、Ｐ７（52×48—９）cm、Ｐ８（53×45—14）cmを測る。また、これ以外の５か所の掘り込みは、この遺構に伴わない奈良から平安時代になって、掘り込まれたピットのものである。

中央ピットは、Ｐ３であると考える。深さが非常に浅いが、ピット埋土の底面近くで僅かながら炭片がみられた。このピットの規模は（132×104—８）cmを測る。



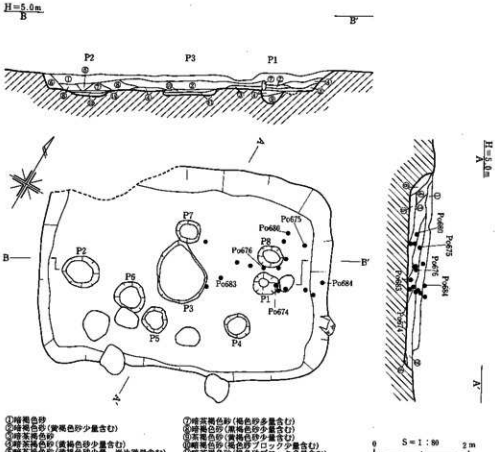
挿図64　長瀬高浜遺跡SI257甕出土状況図

埋砂は12層に分層できた。これらは、壁際から住居中央部に向かって流れ込んだような堆積状況を示し、自然堆積したものと考える。

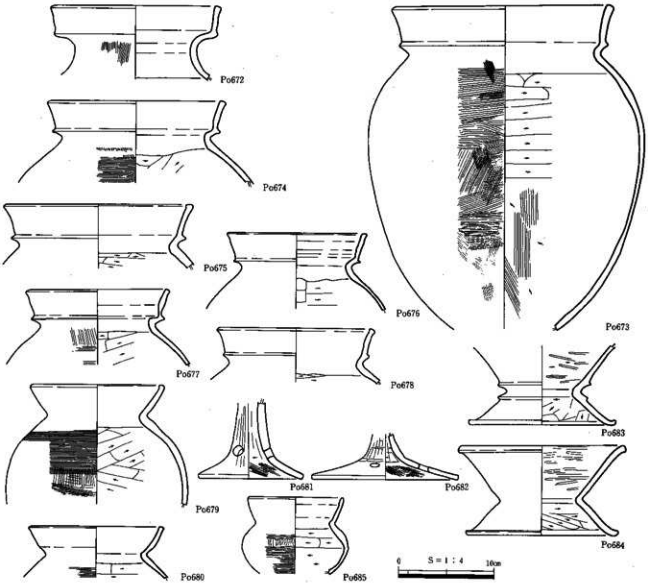
出土遺物は、図化できたものに土師器壺Ｐo672、甕Ｐo673～680、高杯脚部Ｐo681・Ｐo682、鼓形器台Ｐo683・Ｐo684、小型丸底壺Ｐo685がある。このうちＰo674～Ｐo676、Ｐo680、Ｐo683が埋砂下層、Ｐo681がＰ４内から出土している。

埋砂下層、及びＰ４内より出土した遺物等から、天神川Ⅲ期、古墳時代前期中葉ごろのものと考えられる。

（井上）



挿図65　長瀬高浜遺跡ＳＩ258遺構図



挿図66　長瀬高浜遺跡ＳＩ258出土遺物実測図

ＳＩ259（挿図67・68、図版６・57）

調査区西側の３Ｏグリッドにあり、標高3.5～3.8mのほぼ平坦面に立地する。南東側約1.5mにＳＢ61があり、西側にはＳＸ99が近接する。

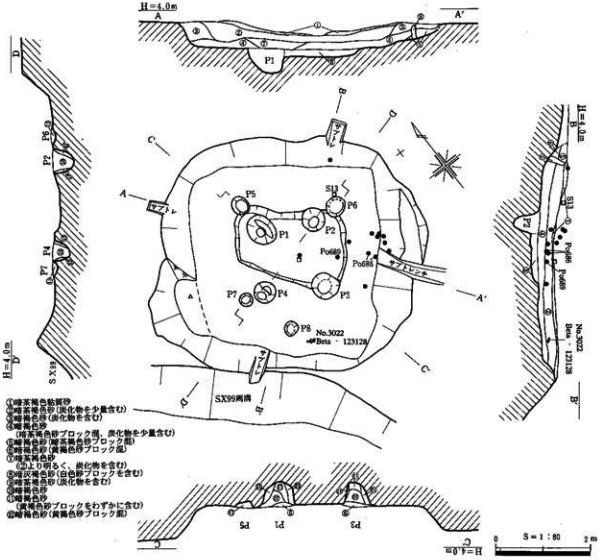
遺存状態は非常によく、平面形は北東側の広がった、いびつな方形を呈す。規模は北東～南西3.98m、北西～南東3.90m、床面積15.2㎡である。残存壁高は、最も遺存状態のよい南東壁で最大0.58mである。壁溝は検出されなかった。

主柱穴はＰ１～４で、それぞれの規模はＰ１（69×56―49）cm、Ｐ２（50×48―54）cm、Ｐ３（57×54―48）cm、Ｐ４（49×45―58）cmを測る。主柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順に1.2m、1.4m、1.3m、1.3mである。Ｐ５～７は深さ12～19cmと浅く、補助柱的なものであったと考えられる。

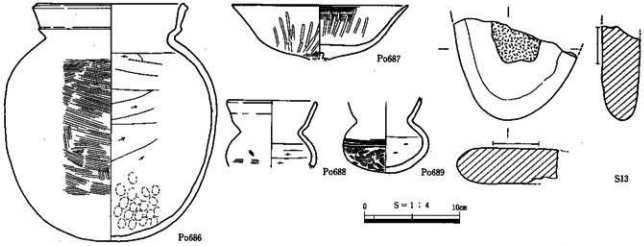
Ｐ８は壁際特殊ピットで、規模は（30×27―８）cmである。

床面は、主柱穴より内側が10～15cm程度の深さで、不整な方形にくぼむ。

埋砂は９層に分層できた。このうち①層は古代の整地層である。埋砂中からは炭化物片が多く出土しており、焼失したものと考えられる。構造材と思われる炭化材も出土しており、樹種鑑定の結果№3022はネジキと判定された。また、№3009はシキミと鑑定されたが、断定できないという結果であった。



挿図67　長瀬高浜遺跡ＳＩ259遺構図



挿図68　長瀬高浜遺跡ＳＩ259出土遺物実測図

ほとんどの遺物は住居の南東側で出土した。甕Ｐo686、高杯Ｐo687、小型丸底壺Ｐo688・689、石皿Ｓ13を図化した。このうち下層の遺物はＰo686・689で、Ｐo686は壁際で出土している。

時期は、下層出土遺物から天神川Ｖ期、古墳時代中期前葉ごろと考える。また、^{14}Ｃ年代測定ではBeta-123128（№3022）は1670±50B.P.で、３世紀中から４世紀前半ごろという年代が得られたが、土器型式より古い値と考える。

なお、住居埋砂上に整地遺構２の粘土層が検出されており、奈良から平安時代には、完全に埋まり切ってはおらず、窪みとなっていたものと考えられる。（岩崎）

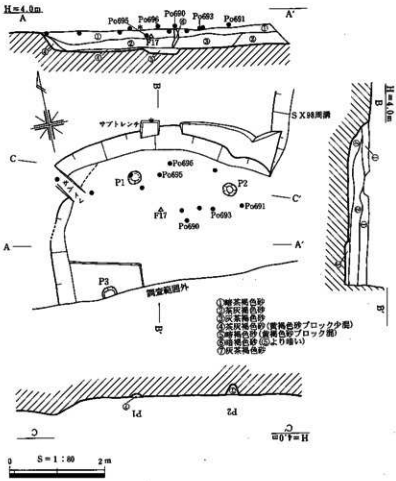
ＳＩ260（挿図69・70、図版６・58）

調査区西側の３Ｏグリッドにあり、標高3.4～3.5mの平坦地に立地する。北西側約２mにはＳＩ259、北東側約１mにはＳＢ61がある。東側はＳＸ98周溝に切られる。

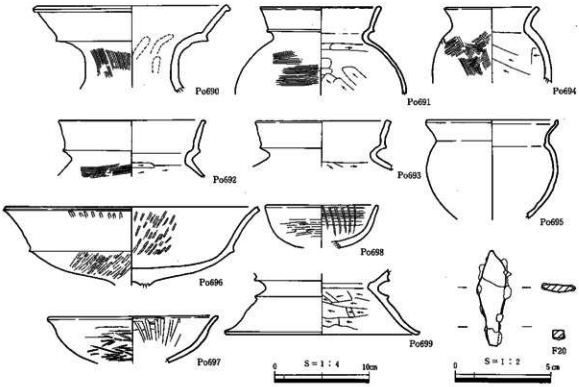
遺存状態は悪く、南半は調査範囲外にある。平面形は、残存する壁から、ややいびつな方形を呈するものと思われる。規模は北東～南西3.1m以上、北西～南東4.3m以上、床面積は残存部分で10.8㎡である。残存壁高は、最も遺存状態のよい南東壁で最大0.33mである。壁溝は検出されなかった。

主柱穴はＰ１～３が検出できた。それぞれの規模はＰ１（28×26―５）cm、Ｐ２（28×27―28）cm、Ｐ３（30×21以上―８）cmである。主柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間が2.1m、Ｐ３～Ｐ１間が2.5mである。

埋砂は５層に分層できた。比較的よくしまっている。



挿図69　長瀬高浜遺跡ＳＩ260遺構図



挿図70　長瀬高浜遺跡ＳＩ260出土遺物実測図

ほとんどの遺物は遺構の検出面である暗茶褐色砂中で出土しており、床面遺物はない。壺Ｐo690、甕Ｐo691～695、高杯Ｐo696～698、鼓形器台Ｐo699、鉄鏃Ｆ20を図化した。

Ｐo694は胴部に叩きがみられ、その形態から畿内第Ｖ様式の影響を引き継ぐ甕と思われる。Ｐo695も在地の土器にはみられない器形である。Ｆ20は、茎部が欠損したものと思われる。また、椀形滓が出土しており、分析の結果鍛冶滓である可能性が指摘された。

時期は、出土遺物から天神川Ⅱ～Ⅲ期、古墳時代前期前半ごろと考える。　（岩崎）

ＳＩ262（挿図71・72、図版58）

調査区西側の２Ｏグリッドにあり、標高3.7～4.1mのほぼ平坦面に立地する。南側をＳＸ98周溝にきられ、西側はＳＢ61と切り合っている。

遺存状態は悪く、平面形はややいびつな隅丸方形を呈するものと考えられる。規模は東西2.8m、南北2.5m以上、床面積は残存部分で6.9㎡である。残存壁高は最も遺存状態のよい東壁で最大0.29cmである。壁溝は検出されなかった。

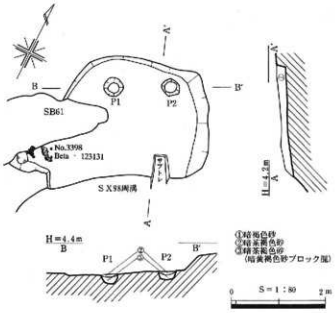
主柱穴はＰ１（41×39―23）cm、Ｐ２（40×35―25）cmの２個が検出できた。主柱穴間距離は2.2mである。

住居の南西側に接して、炭化材と、発泡したタールのような固い炭化物が検出された。№3398（Beta-123131）について樹種鑑定、^{14}C年代測定をおこなった。樹種鑑定の結果、マツに樹脂状の物質が付着していることがわかったが、付着物質が何であるのか不明であった。年代値は2740±60B.P.、縄文時代晩期前半ごろの値が得られたが、出土している遺物の年代と合致しない。

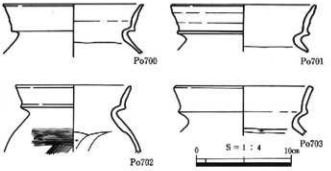
埋砂は暗褐色砂単層である。

遺物は埋砂中から破片のみ数点出土しており、甕Ｐo700～703を図化した。

時期は、出土遺物から天神川Ⅰ期、古墳時代前期前葉ごろと考える。　（岩崎）



挿図71　長瀬高浜遺跡ＳＩ262遺構図



挿図72　長瀬高浜遺跡ＳＩ262出土遺物実測図

文中写真①　現地説明会風景その１

第３節　掘立柱建物跡

ＳＢ61（挿図73、図版６）

調査区西側の２０グリッドにあり、標高3.4～3.7mのほぼ平坦面に立地する。北西側でＳＩ262、南西側でＳＢ63と重複する。東側はＳＸ98に切られる。西側約3.5mにＳＩ259、北・西側にピット群３がある。

形態はいわゆる布掘り形式で、桁行部は溝状に連続している。規模は、梁行１間（2.7m）×桁行２間（3.2m）を測る。主軸方向はN-45°-Eである。

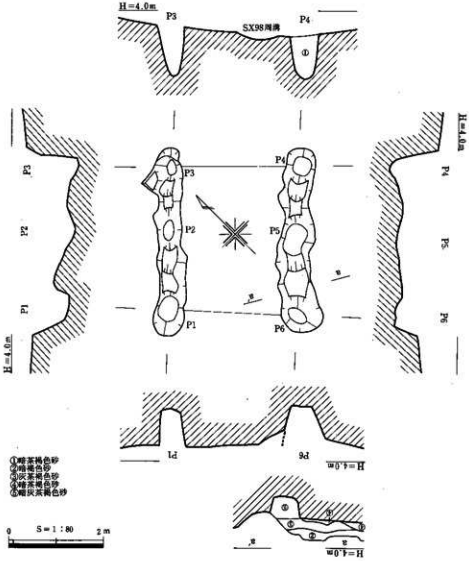
柱穴の規模は、Ｐ１（54×40―76）cm、Ｐ２（43×24―81）cm、Ｐ３（33×20―108）cm、Ｐ４（44×38―100）cm、Ｐ５（68×45―67）cm、Ｐ６（46×33―65）cmを測る。かなり深いピットで、上部構造は大型のものであったと思われる。

柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順に1.7m、1.4m、2.7m、1.5m、1.8m、2.7mを測り、梁行き2.7mとやや広い。棟持ち柱は検出されなかった。柱穴を結ぶ溝と柱穴底面とのレベル差は、12～31cmある。

柱穴の埋砂は、淡茶褐色砂から暗灰茶褐色砂がほぼ単層で入り、柱痕等は観察できなかった。

遺物は、埋砂中から土師器片が数点出土しているが、図化できなかった。

時期は、層位的にみて古墳時代前期前半ごろのものと考える。　（岩崎）



挿図73　長瀬高浜遺跡ＳＢ61遺構図

ＳＢ62（挿図74、図版６）

調査区西側の２Ｏグリッドにあり、標高4.0～4.3mのほぼ平坦面に立地する。ピット群３のなかにあり、南側約４mにはＳＢ63がある。

規模は、梁行１間（2.9m）×桁行２間（3.1m）を測る。主軸方向はN-83°-Eである。

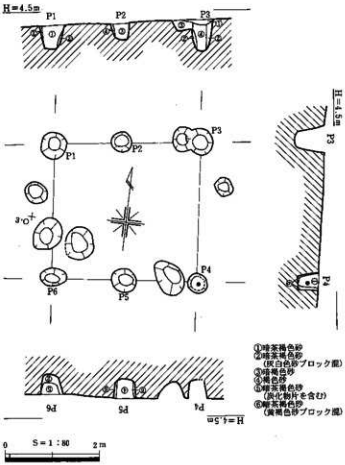
柱穴の規模は、Ｐ１（56×53—53）cm、Ｐ２（42×41—40）cm、Ｐ３（56×52—67）cm、Ｐ４（42×38—42）cm、Ｐ５（51×49—44）cm、Ｐ６（56×41—41）cm、Ｐ７（41×34—15）cmを測る。

柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順に1.4m、1.7m、3.0m、1.5m、1.6m、2.9mである。梁行きが３mと広いが、棟持ち柱は検出できなかった。

柱穴の埋砂は、褐色から暗茶褐色砂である。Ｐ６は、埋砂中にわずかに炭化物片を含んでいた。

遺物は、埋砂中から土師器片が数点出土しているが、図化できなかった。

時期は、層位的にみて古墳時代前期ごろのものと考える。（岩崎）



挿図74　長瀬高浜遺跡ＳＢ62遺構図

ＳＢ63（挿図75・76、図版６）

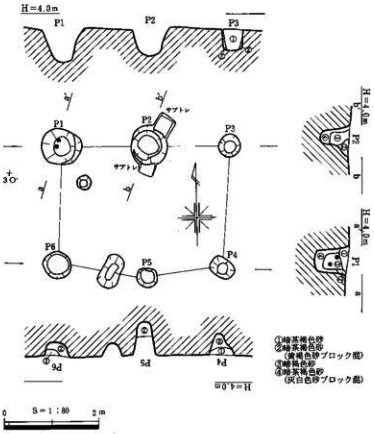
調査区西側の２Ｏグリッドにあり、標高3.4～3.7mのほぼ平坦面に立地する。ピット群３のなかにあり、北側約４mにはＳＢ62がある。南東側ではＳＢ61と重なりあう。また、上面には土器溜１が広がっている。

規模は、梁行１間（2.5m）×桁行２間（3.5m）を測る。主軸方向はN-91°-Eである。

柱穴の規模は、Ｐ１（83×73—72）cm、Ｐ２（79×77—57）cm、Ｐ３（48×46—50）cm、Ｐ４（56×40—22）cm、Ｐ５（44×41—80）cm、Ｐ６（64×49—42）cmを測る。

柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順に1.8m、1.7m、2.6m、1.6m、1.9m、2.5mである。

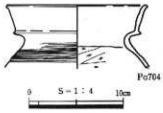
柱穴の埋砂は、暗褐色から暗茶褐色砂であった。



挿図75　長瀬高浜遺跡ＳＢ63遺構図

遺物は、Ｐ４を除く柱穴の埋砂中から土師器片が出土している。このうちＰ１内出土の土師器甕Ｐo704を図化した。

時期は、出土遺物より天神川Ｉ期、古墳時代前期前葉ごろと考える。（岩崎）



挿図76　長瀬高浜遺跡ＳＢ63出土遺物実測図

ＳＢ64（挿図77、図版７）

調査区西側の２０グリッド南側調査区際にあり、標高3.5～3.6mのほぼ平坦面に立地する。北西側２mにはＳＡ10、北東側0.5mにはＳＩ257がある。

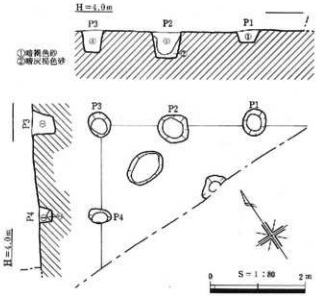
南側は調査区外に延びており、正確な形態、規模は不明であるが、梁行２間（3.0m以上）×桁行３間（4.5m以上）と推定される。主軸方向は、N-34°-Eである。

柱穴はＰ１～Ｐ４を検出できた。それぞれの規模は、Ｐ１（59×48―24）cm、Ｐ２（63×58―67）cm、Ｐ３（52×44―44）cm、Ｐ４（48×29―30）cmを測る。

柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順に、1.7m、1.6m、1.9mである。

埋砂は、暗褐色砂単層ないし２層に分層できたが、柱痕を思わせるものは検出されなかった。

出土遺物には、それぞれのピット埋砂から土師器片が出土しているが、図化できなかった。



挿図77　長瀬高浜遺跡ＳＢ64遺構図

出土遺物および検出層序から、古墳時代前期のものと考えられる。（牧本）

文中写真②　重機表土剥ぎ作業風景

第4節　土　　坑

2ＯＳＫ５（挿図78・79、図版７、58）

調査区西側の２Ｏグリッド南側調査区際にあり、標高3.3～3.5mの緩やかに南西側に傾斜する斜面に立地する。北西側はＳＩ252と接している。

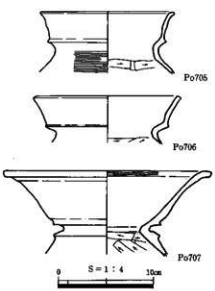
平面不整楕円形を呈し、長軸2.53m、短軸2.04m、深さ0.29mを測る。断面不整形な台形状を呈す。

埋砂は、暗褐色砂が単層ではいる。

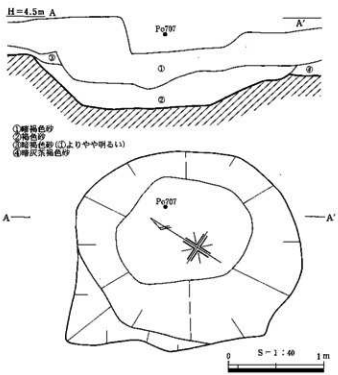
出土遺物は、図化できたものに埋砂中からの甕Ｐo705・706、鼓形器台Ｐo707がある。

出土遺物及び検出層序から、天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉ごろのものと考えられるが、性格は不明である。

（牧本）



挿図78　長瀬高浜遺跡２ＯＳＫ５出土遺物実測図



挿図79　長瀬高浜遺跡２ＯＳＫ５遺構図

3ＰＳＫ１（挿図80、図版７）

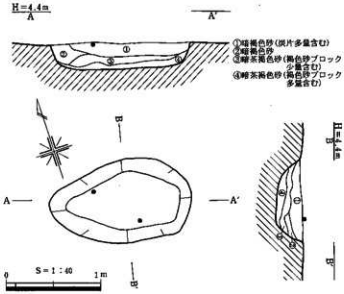
調査区西側の３Ｐグリッド調査区際にあり、標高約４mのほぼ平坦面に立地する。北側約0.5mに３ＰＳＫ２が、北西側約２mにＳＩ258が、西側約3.5mにＳＩ246がそれぞれ位置している。

遺存状態は比較的よく、形態は上縁部・底面部ともにやや不整な楕円形状を呈するものと考えられる。規模は、上縁部で長軸1.5m×短軸0.88m、底面で長軸1.2m×短軸0.6mを測る。深さは、最も遺存状態のよい南側で上縁部から27cmを測る。

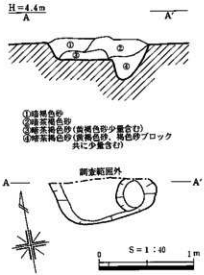
埋砂は４層に分層でき、自然堆積の様相が窺えるものであった。なお、埋砂①層の暗褐色砂は炭化物片を多量に含んでいた。

出土遺物は図化できなかったものの、埋砂中からわずかな土師器片と、いずれも埋砂上面からではあるが、炭化材（No3299・3300）が２点出土している。このうち、No3300の炭化材については年代測定をおこなった。

時期判断できる遺物が出土していないためはっきりしないが、検出面が周辺の竪穴住居跡検出面とほぼ同じであることから、層位的に古墳時代前期から中期にかけてのものであるとする。また、炭化材の年代測定では、



挿図80　長瀬高浜遺跡３ＰＳＫ１遺構図



挿図81　長瀬高浜遺跡３ＰＳＫ２遺構図

Beta-123129が3290±70B.P.(B.C.1525) という結果が得られたが、層位的な時期とかなりずれた結果である。

（井上）

３ＰＳＫ２（挿図81、図版７）

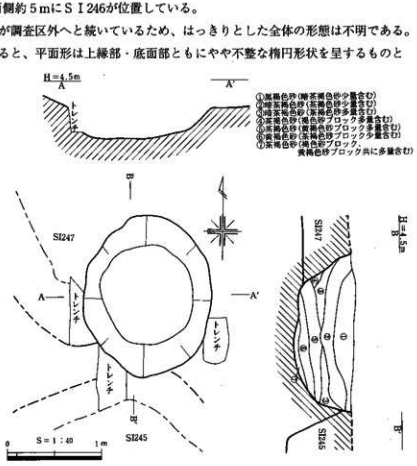
調査区西側の３Ｐグリッド調査区際にあり、標高約４ｍのほぼ平坦面に立地する。北側半分が北側調査区外へ続く。約0.5m南側に３ＰＳＫ１が、西側約５ｍにＳＩ246が位置している。

遺存状況は悪くないものの北側半分が調査区外へと続いているため、はっきりとした全体の形態は不明である。しかしながら残存するものから判断すると、平面形は上縁部・底面部ともにやや不整な楕円形状を呈するものと考えられる。底部東側でピット状の落ち込みがみられ、さらに深くなる。規模は上縁部で長軸1.10m×短軸0.47m、底面で長軸0.84m×短軸0.44mを測る。深さは最も残りのよい南東側で上縁部から約40cmを測る。

埋砂は４層に分層でき、自然堆積の様相が窺えるものであった。なお、埋砂①層の暗褐色砂は炭片を多量に含んでいた。

遺物は図化できなかったが、埋砂中からわずかな土師器片が出土している。

時期判断できる遺物が出土していないため、はっきりしないが、検出面が周辺の竪穴住居跡検出面とほぼ同じであり、古墳時代前期から中期ごろのものと考えられる。（井上）



挿図82　長瀬高浜遺跡４ＰＳＫ１遺構図

４ＰＳＫ１（挿図82、図版７）

調査区西寄りの４Ｐグリッドにあり、標高約４ｍ前後のほぼ平坦面に立地する。ＳＩ245の北側、ＳＩ247の南側に位置し、それぞれの竪穴住居跡を切る。

遺存状況は、元来よかったものと思われるが、検出時に遺構の輪郭が捉えにくく、検出面を掘り過ぎてしまった。残存するものから判断すると、形態は上縁部が楕円形状、底面がほぼ正円形状を呈するものと考える。規模は上縁部で長軸1.69m×短軸1.35m、底面で長軸1.04m×短軸0.98mを測る。深さは最も遺存状態のよい南側で、上縁部から53cmを測る。床面では、ピット等の掘り込みは認められなかった。

埋砂は７層に分層でき、自然堆積の様相が窺える。

遺物は、図化できなかったが埋砂中からわずかな土師器片が出土している。

時期判断できる遺物が出土していないが、検出状況、ＳＩ245・247との切り合い関係から判断すると、少なくとも天神川Ⅳ期ごろか、それよりもわずかに新しい時期のものと考えられる。（井上）

第５節　柵列・ピット群

ＳＡ８・９、ピット群３（挿図83・84、挿表４、図版７）

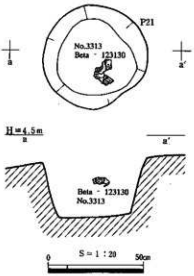
調査区西側の２Ｏ、３Ｏグリッドにまたがってあり、標高3.2～4.3mの、緩やかに南側に向かって傾斜する斜面に立地する。この区域にはピット群３、ＳＢ61～63、ＳＡ８・９などがあり、竪穴住居跡は密集していない。

ＳＡ８・ＳＡ９の主軸方向はそれぞれN-25°-E、N-29°-Eとなり、ほぼ平行に並ぶ。両者の間は約5.5m離れている。

ＳＡ８は計７個のピットからなり、ピット間距離はほぼ1.6mと統一されている。埋砂はおもに褐色砂が入る。遺物は、Ｐ３・５から土師器片が、Ｐ７から炭化物が出土している。

ＳＡ９は計３個のピットからなり、ピット間距離はＰ１～Ｐ２間から順に0.9m、1.1mである。埋砂はおもに暗茶褐色砂が入る。遺物は、Ｐ２から土師器片が出土している。

ＳＡ８・９の周辺には竪穴住居はなく、掘立柱建物跡が集中していることから、居住区とを区画する施設であったものとも考えうる。



挿図83　長瀬高浜遺跡ピット群３Ｐ21内炭化物出土状況図

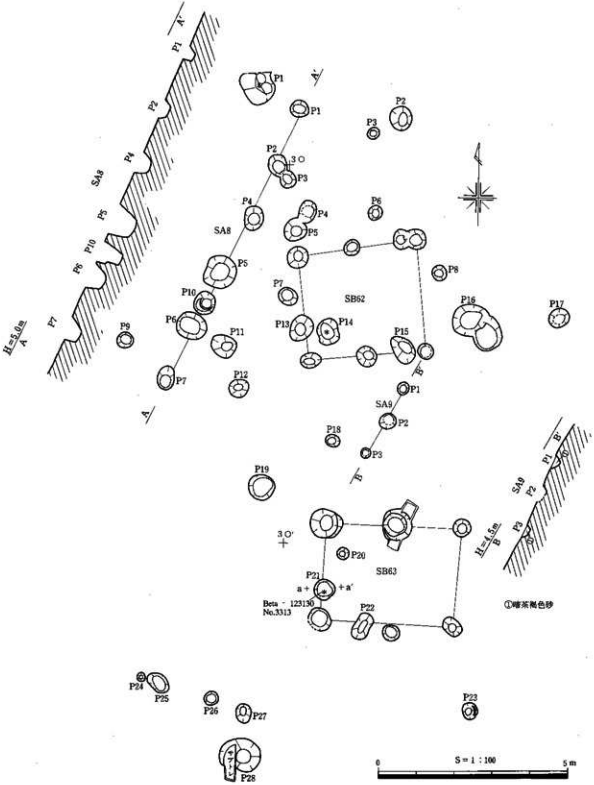
ピット番号	規　模(cm)	備　　考	ピット番号	規　模(cm)	備　　考	ピット番号	規　模(cm)	備　　考
Ｐ１（P113）	(77)×78-27		P15（P105）	78×53-38	土師器片	SA8-P1(P112)	48×44-27	
Ｐ２（P110）	62×61-64		P16（P122）	90×85-17		SA8-P2(P127)	(60)×47-18	
Ｐ３（P111）	31×28-29		P17（P121）	54×49-16	土師器片	SA8-P3(P126)	48×42-56	
Ｐ４（P117）	60×44-10		P18（P 93）	37×31-49		SA8-P4(P123)	63×53-38	土師器片
Ｐ５（P118）	60×58-43		P19（P 90）	70×66-28	土師器片	SA8-P5(P99)	85×81-65	
Ｐ６（P116）	38×37-21		P20（P133）	41×32-26	土師器片	SA8-P6(P97)	80×70-48	土師器片
Ｐ７（P102）	49×42-47	土師器片	P21（P 92）	55×53-27		SA8-P7(P96)	62×44-40	
Ｐ８（P125）	39×35-30	土師器片	P22（P132）	75×39-30	Beta-123130	SA9-P1(P107)	30×26-17	
Ｐ９（P101）	46×42-55	土師器片	P23（P128）	41×38-56	土師器片	SA9-P2(P108)	45×41-12	
P10（P 98）	62×57-61	土師器片	P24（P137）	25×21-19		SA9-P3(P109)	27×26-11	土師器片
P11（P100）	67×56-53		P25（P136）	60×42-58	土師器片			
P12（P 95）	53×47-50		P26（P135）	38×34-58	土師器片			
P13（P120）	75×58-21		P27（P134）	37×40-33	土師器片	注（　）は		
P14（P119）	68×57-32	炭化材	P28（P138）	108×85-28	土師器片	旧番号		

挿表４　長瀬高浜遺跡ピット群３、ＳＡ８・９ピット一覧表

ピット群3は、計28個のピットを検出した。それぞれの規模は、挿表4を参照されたい。いずれのピットも規則性はない。埋砂は単層～3層で、暗茶褐色砂または暗褐色・褐色砂が入る。

遺物は、12個のピットから土師器片が、P14・21から柱根と思われる炭化物が出土した。このうち、P21のNo.3313（Beta-123130）について樹種鑑定、^{14}C年代測定をおこなった。その結果、樹種はカシ類の一種（シラカシかウラジロガシ）、年代は1660±60B.P.、3世紀中から4世紀中ごろであった。

ピット群3、SA8・9は同一面で検出されており、時期は、層位的にみて古墳時代前期ごろと考えられ、^{14}C



挿図84　長瀬高浜遺跡SA8・9、ピット群3遺構図

年代測定値とも合致する。　　（岩崎）

SA10・ピット群４（挿図85、図版７）

クロスナ部分南東側の２Ｏグリッド調査区際にあり、標高3.5～3.7mの緩やかに南側に傾斜する斜面に立地する。計14個からなるピット群４内には、ＳＢ64、ＳＡ10がある。

ＳＡ10は、南西側は調査区外に延びており、正確な規模は不明であるが、直線状に並ぶ柱穴Ｐ５～Ｐ７を検出できた。それぞれの規模は、Ｐ５（55×47—30）cm、Ｐ６（58×53—40）cm、Ｐ７（31×30—20）cmを測る。

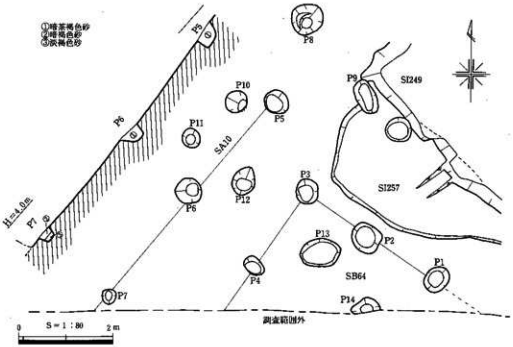
埋砂は、暗茶褐色砂単層ないし２層に分層できた。

ピット群４は、ＳＢ64の４個、ＳＡ10の３個を除く７個からなる。それぞれの規模は、挿表５を参照されたい。いずれのピットも配列に規則性はない。

ＳＡ10に関わる出土遺物はなく、正確な時期は不明であるが、検出層序から古墳時代前期のものと考えられる。ピット群４に関わる出土遺物はＰ８・Ｐ14内から、古墳時代前期の土師器片が出土しており、この時期のものと考えられる。　　（牧本）

ピット番号	規　模(cm)	備考	ピット番号	規　模(cm)	備考	ピット番号	規　模(cm)	備考
P８	71×65—98	土師器	P11	40×36—22		P13	85×59—12	
P９	73×41—48		P12	61×48—39		P14	58×28↑—26	土師器
P10	49×48—50							

挿表５　長瀬高浜遺跡ピット群４ピット一覧表　　（注　↑は計測値以上）

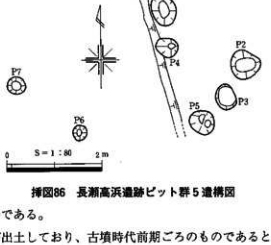


挿図85　長瀬高浜遺跡ＳＡ10、ピット群４遺構図

ピット群５（挿図86、図版８）

調査区西側の１０、２０グリッドにあり、クロスナが途切れる際あたりで標高約3.4～4.4mの東側から西側にかけ、緩やかに傾斜する斜面に立地する。２ＯＳＫ５を取り囲むように隣接し、約５m北西にはＳＩ249・252がそれぞれ位置している。

総数７個のピットを検出した。いずれもやや不整な円形を呈する、しっかりと掘り込まれたピットであるが、配列に規則性は認められない。規模等の詳細は、挿表６を参照されたい。



挿図86　長瀬高浜遺跡ピット群５遺構図

埋砂は５層に分層できた。これらは、主に暗褐色砂と暗茶褐色砂を基本に褐色砂ブロック・黄褐色砂ブロックを含むものである。

出土遺物は、Ｐ１、Ｐ２、Ｐ３、Ｐ５から数点の土師器片が出土しており、古墳時代前期ごろのものであると考える。性格ははっきりとせず、不明である。（井上）

ピット番号	規　模(cm)	備考	ピット番号	規　模(cm)	備考	ピット番号	規　模(cm)	備考
Ｐ１	61×51―71	土師器	Ｐ４	46×38―61		Ｐ６	32×29―17	
Ｐ２	61×61―84	土師器	Ｐ５	54×46―64	土師器	Ｐ７	40×35―19	
Ｐ３	56×43―76	土師器						

挿表６　長瀬高浜遺跡ピット群５ピット一覧表

第６節　土器溜

土器溜１（挿図87～92、図版８、58～62）

調査区西側の２０、３０グリッドにまたがって広がる。標高3.8～4.2m付近で検出され、南に向かって緩やかに低くなる。下面にはＳＢ61・63がある。ＳＸ98の周溝をはさんで東側には土器溜２がある。

遺物は南北約18m、東西約15mの範囲で、平面的に広がる。ほとんどの遺物が破片の状態で出土している。暗茶褐色砂内で検出され、東端はＳＸ98の周溝に切られる。土器溜の上面は、古代の整地層である褐色粘土上面とほぼ同レベルにある。

特に遺物が集中している部分は３か所ほどある。南東端のＰo720付近は、比較的原形をとどめ、かなり復元できる個体がかたまって検出された。壺・甕類が多いようである。北よりのＰo761付近、Ｐo721付近でも同様に、大きな破片がやや集中している。範囲内の中央付近には土器が集中しない。北側では、破片で出土するものが特に多く、原形のわかるものは少なかった。

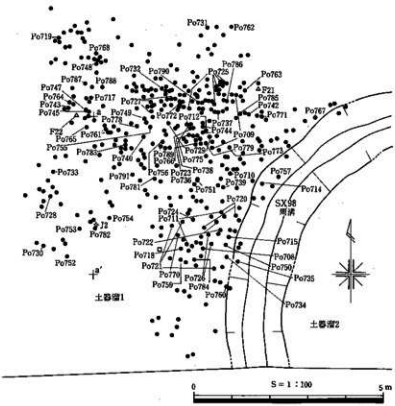
遺物は大半が土師器である。壺Ｐo708～717・719、甕Ｐo718・720～758、高杯Ｐo759～768、鼓形器台Ｐo769～782、小型器台Ｐo783、低脚杯Ｐo784～788、小型丸底壺Ｐo789・790、ミニチュア土器Ｐo791を図化した。甕は、ほとんどが複合口縁の在地系のもので、なかには大型のものもある。Ｐo720にはススは付着しておらず、煮炊に使用したものではなく、貯蔵用であったと思われる。Ｐo757・758は、その形態から考えて、搬入品の可能性がある。

その他に、管玉Ｊ２、鉄製品では鉄鏃Ｆ21、不明鉄製品Ｆ22などがある。Ｆ22は上層から出土しており、古代に属する遺物であると思われる。鍛冶などの鉄器製作に関連する遺物の可能性がある。

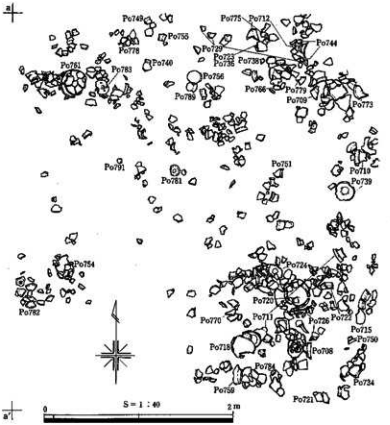
出土した遺物の時期には幅がみられるが、概ね天神川Ⅰ～Ⅲ期のあいだでおさまる。このうち主体となるのはⅢ期で、土器溜２よりやや新相を示す。

ほとんどの遺物が地形に沿って平面的に出土しており、土器溜の上層では、奈良から平安時代ごろの遺物を含む。また、１m以上離れている破片接合した個体もあり、古代の整地作業により、旧地表面が平坦にならされた影響によるものと思われる。また、土器溜の底面はほとんどフラットであり、窪地になっていた場所に不要な土器を廃棄していったという過程を考えることはできない。

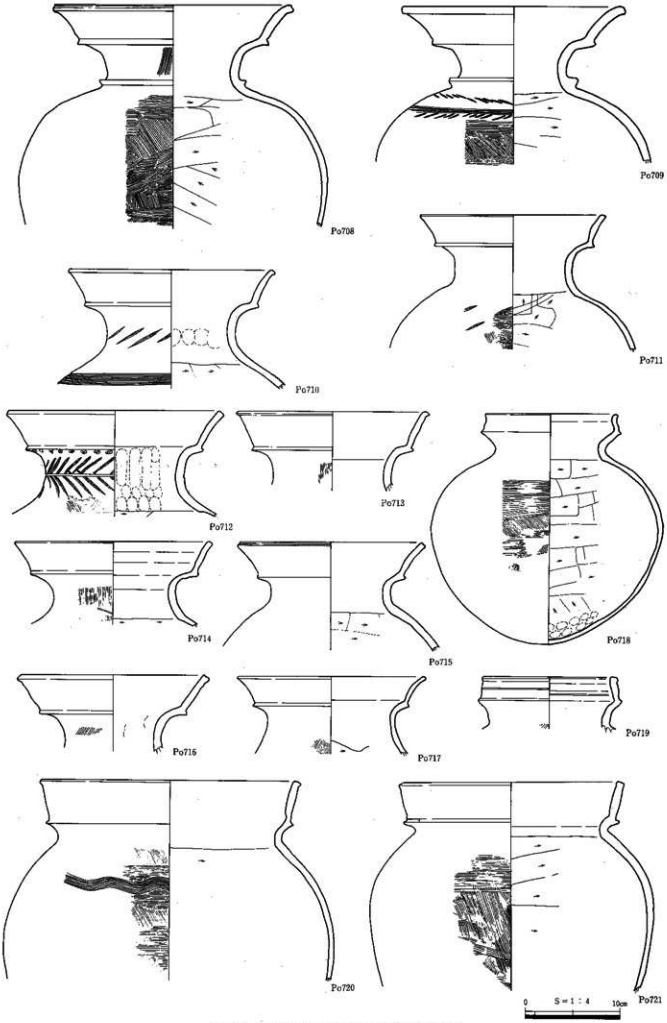
以上のことから、土器溜１の性格は一括廃棄とは考え難い。また、明確な祭祀遺物は出土しておらず、何らかの祭祀行為に伴うものと考えることも難しい。この土器溜１に関係する遺構は、ＳＢ61・63などであると思われる。しかし、一部柱穴にかかるものもあり、これらの遺物は原位置を保っているものとは思われない。　（岩崎）



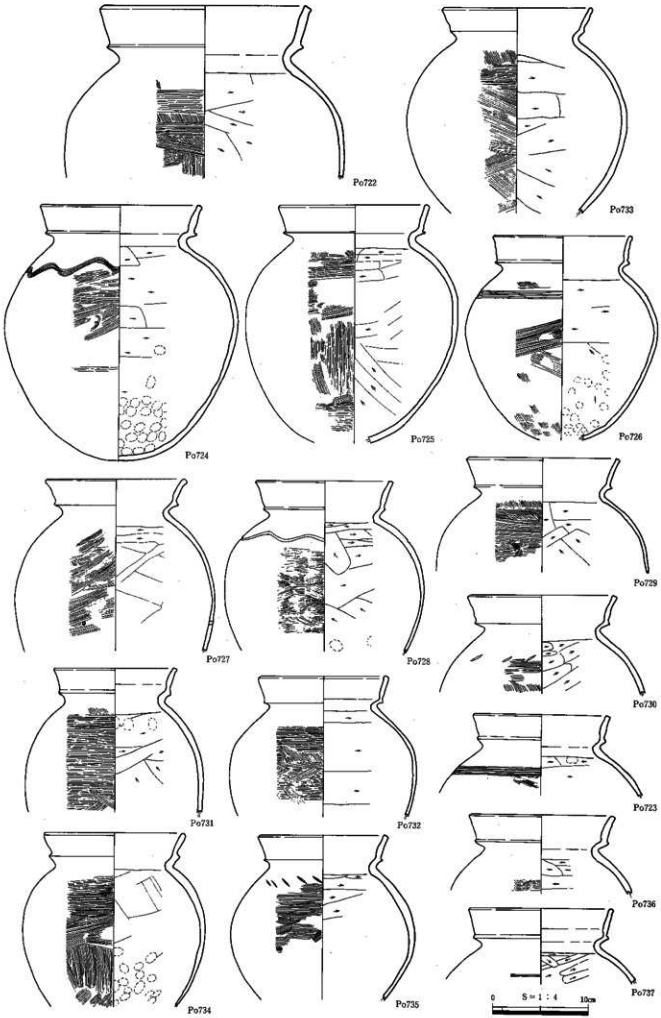
挿図87　長瀬高浜遺跡土器溜１遺物出土状況図(1)



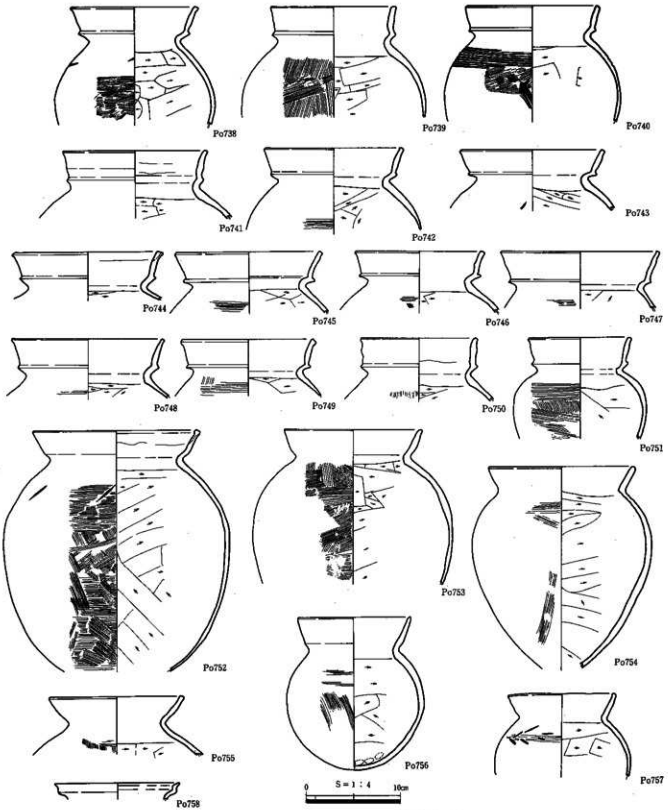
挿図88　長瀬高浜遺跡土器溜１遺物出土状況図(2)



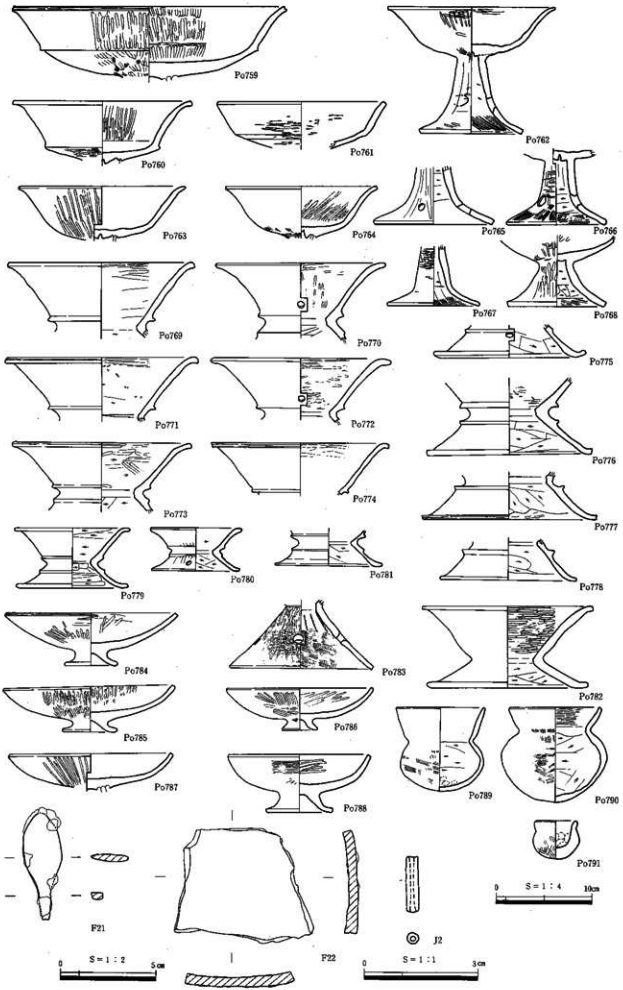
挿図89　長瀬高浜遺跡土器溜１出土遺物実測図(1)



挿図90　長瀬高浜遺跡土器溜１出土遺物実測図(2)



挿図91　長瀬高浜遺跡土器溜１出土遺物実測図(3)

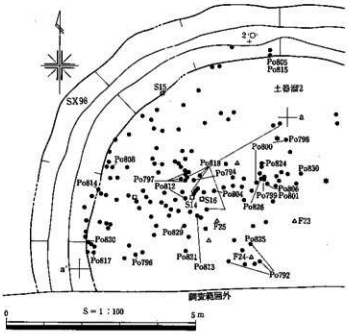


挿図92　長瀬高浜遺跡土器溜１出土遺物実測図(4)

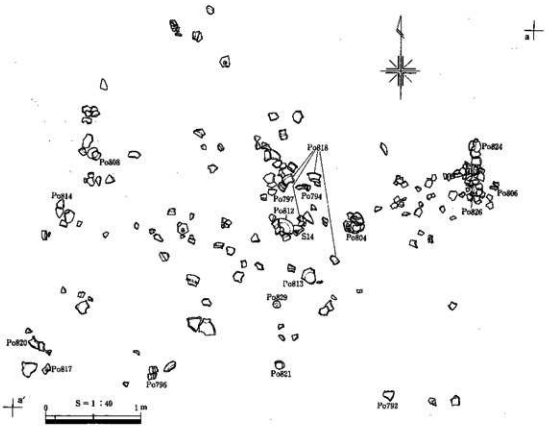
土器溜２（挿図93～96、図版８、63、71）

調査区西側の２Ｏグリッドにあり、標高3.8m前後で検出された。ＳＸ98周溝の内側に位置し、周溝をはさんで西側には、ほぼ同レベルで土器溜１が広がる。下面にはＳＩ257、ＳＢ64、ＳＡ10などがある。

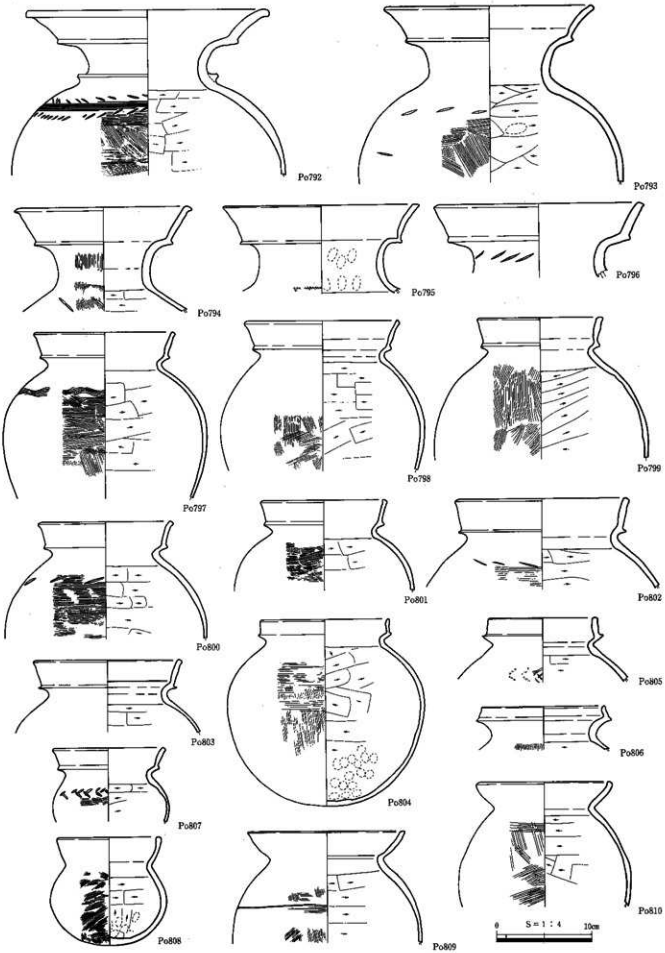
ほとんどの遺物が破片で出土しており、完全な形で出土したものはほとんどない。南北約5.5m、東西約6.5m



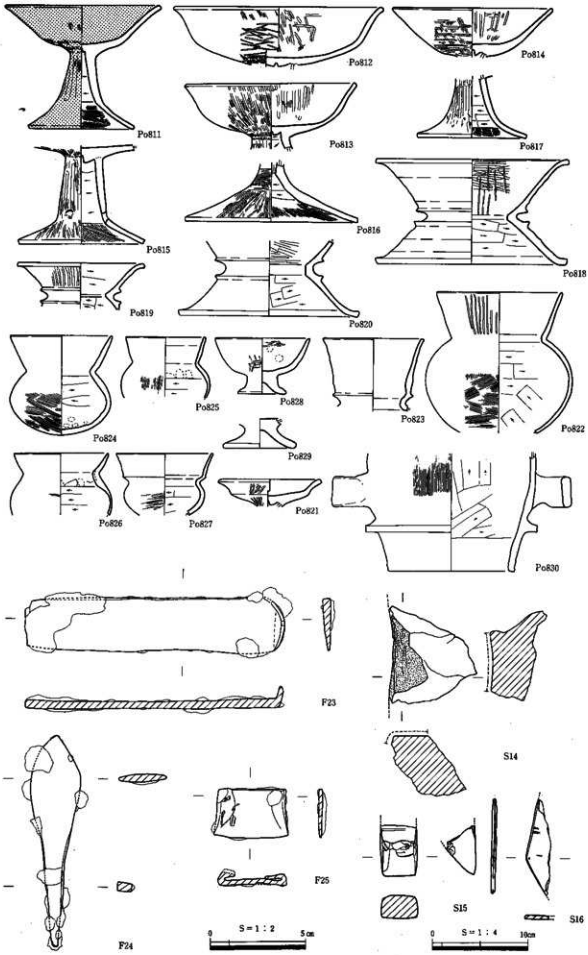
挿図93　長瀬高浜遺跡土器溜２遺物出土状況図(1)



挿図94　長瀬高浜遺跡土器溜２遺物出土状況図(2)



挿図95　長瀬高浜遺跡土器溜２出土遺物実測図(1)



挿図96　長瀬高浜遺跡土器溜２出土遺物実測図(2)

の範囲で、平面的に広がる。土器溜１と同様に、暗茶褐色砂内で検出され、大半のものが土師器である。

西端部分では土師器甕Ｐo799・801、小型丸底壺Ｐo824・826が重なるように出土しており、ほぼ元位置を保っているものと思われる。小型丸底壺を南北両側に据え、その間には数枚の甕の口縁部から胴部の破片を、ずらしながら重ねるようにして並べる。甕はほぼ２個体分あるが、故意に割られた痕跡は観察できなかった。

中央付近のものは、密度が粗であるが、２m以上離れて出土した破片どうしが接合しており、土器溜１と同様に、古代整地作業の影響を受けているものと思われる。

遺物は、土師器壺Ｐo792～796、甕Ｐo797～810、高杯Ｐo811～817、鼓形器台Ｐo818～820、小型器台Ｐo821、直口壺Ｐo822・823、小型丸底壺Ｐo824～827、低脚杯Ｐo828・829、甑Ｐo830を図化した。甕は、ほとんどが在地系のものである。小型丸底壺のなかには、Ｐo827のように口縁部が複合口縁のものも出土している。

土師器以外では砥石Ｓ14、柱状片刃石斧Ｓ15、不明石製品Ｓ16、鉄鎌Ｆ23、鉄鎌Ｆ24、鏃形鉄製品（鍬先形）Ｆ25を図化した。このうちＳ16は扁平なもので側面には稜線が、屈曲部には非常に鈍い円形のくぼみが表現されており、その窪んだ部分などに赤色塗彩痕がみられる。また、欠損部と思われる部分はシャープではなく、これが本来の形状なのか判断しがたい。Ｓ15は、おもに弥生時代に使用されるものである。刃部はよく研磨されているが、基部は欠損している。

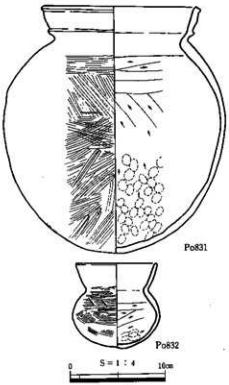
鉄製品のうち鍬先形鉄製品Ｆ25は、刃部の幅約４cm、長さ2.6cmで実用品としては小さく、厚さも薄いため鏃形品と考える。一方、木質が付着していることから着柄されていた可能性もあり、当遺跡で出土している他の鏃形品と比較して、実物に忠実で丁寧なつくりをしている印象を受ける。

出土した遺物は、概ね天神川Ⅱ～Ⅲ期の範囲内におさまるが、主体はⅡ期で、土器溜１よりやや古相を示す。

出土状況から、一括廃棄であるとは考え難い。また、土器を除去した後にＳＢ64などの遺構が検出されており、これらに関係する遺物であると考えたい。Ｐo824・826周辺はなんらかの祭祀的な意味をもつものと思われる。

（岩崎）

土器溜３（挿図97・98、図版８、65）

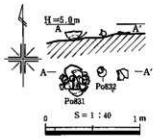


挿図97　長瀬高浜遺跡土器溜３出土遺物実測図

調査区西側の２Ｐグリッド調査区際にあり、標高4.5～4.7mの緩やかに南西側に傾斜する斜面に立地する。北側にはＳＸ101が近接している。

２個体の土師器が出土している。土師器甕Ｐo831は、潰れた状態で出土し、ほぼ完形に復元できた。小型丸底壺Ｐo832は、甕の隣で転倒した形で出土している。

これらは、天神川Ⅴ期、古墳時代中期前葉ごろと考えられ、ＳＸ101と関連があったものと考えられる。（牧本）



挿図98　長瀬高浜遺跡土器溜３遺物出土状況図

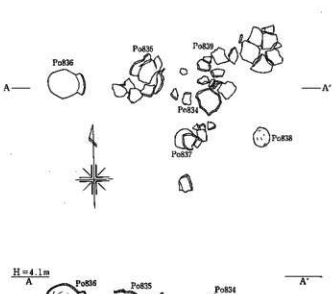
土器溜４（挿図99・100、図版８、65）

調査区西側の北寄りの４Ｐグリッドにあり、標高約4.3m前後のほぼ平坦面に立地する。西側約３mにＳＩ248が、南側には４ＰＳＫ１が隣接し、東側約３mにはＳＩ246が位置している。

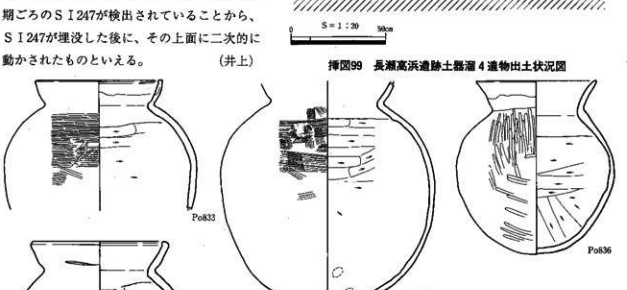
ほぼ平坦の検出面に土師器甕、小型丸底壺等がほとんど破片になった状態で出土した。

出土遺物は、図化できたものに土師器甕Ｐｏ833～Ｐｏ836、小型丸底壺Ｐｏ837・Ｐｏ838、椀Ｐｏ839等がある。これらの遺物は、一括に廃棄されたものと考えられる。

これらは、天神川Ⅲ～Ⅳ期、古墳時代前期後半ごろと考える。ところで、この遺構の下層から、土器溜４の遺物より新しい様相の天神川Ⅳ期ごろのＳＩ247が検出されていることから、ＳＩ247が埋没した後に、その上面に二次的に動かされたものといえる。（井上）



挿図99　長瀬高浜遺跡土器溜４遺物出土状況図



挿図100　長瀬高浜遺跡土器溜４出土遺物実測図

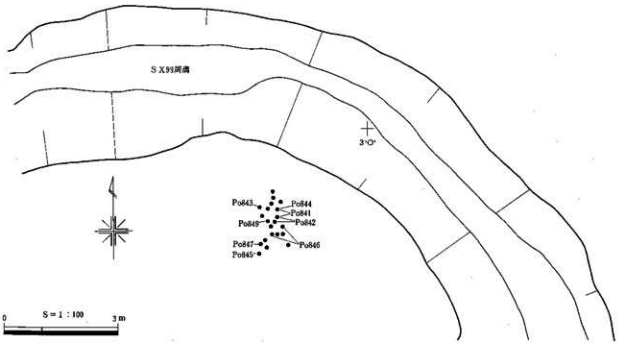
土器溜５（挿図101・102、図版65・66）

調査区西側の３０グリッドのほぼ中央に位置し、調査区南西隅の高まり部分に向かって傾斜する斜面にある。ＳＸ99周溝の内側に位置する。古墳時代の包含層である黒茶褐色砂中で検出された。下層にはＳＩ254・255などがあり、これらに伴う遺物が古墳築造時などに移動したものと思われる。

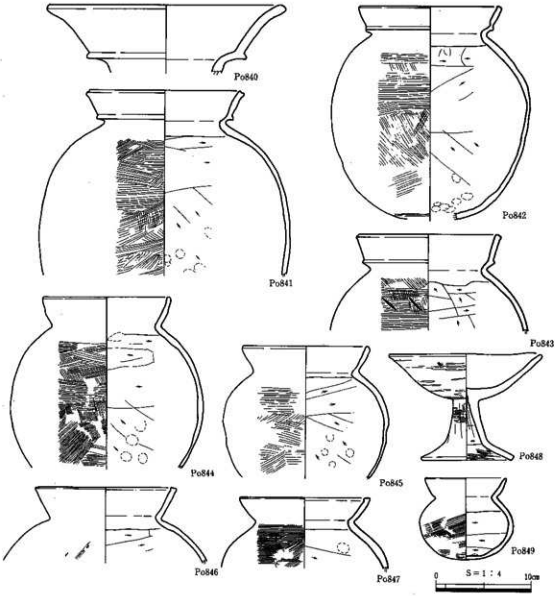
遺物の出土範囲は、南北約1.8m、東西約１m程度で、標高４m前後でまとまっている。

すべての遺物が土師器である。壺Ｐｏ840、甕Ｐｏ841～847、高杯Ｐｏ848、小型丸底壺Ｐｏ849を図化した。

時期は、天神川Ⅳ期、古墳時代前期後葉ごろと考える。（岩崎）



挿図101　長瀬高浜遺跡土器溜５遺物出土状況図



挿図102　長瀬高浜遺跡土器溜５出土遺物実測図

土器溜6（挿図103・104、図版8、66）

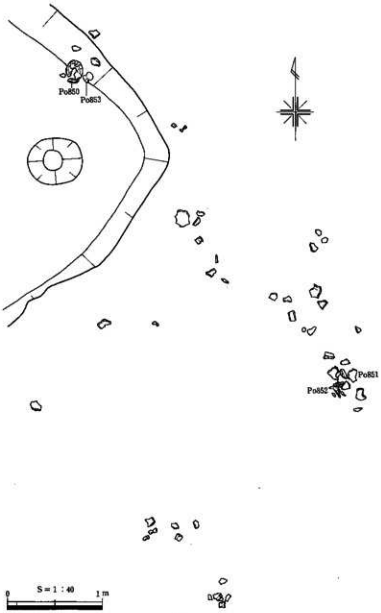
調査区西側のクロスナが途切れる2Oグリッドにあり、標高5.2mの最も高くなった部分の南西側に緩やかに傾斜する斜面に立地する。

土器溜6は、SI250の東側コーナー付近からSI251北側コーナー付近にかけて、各遺構検出前にかなり広い範囲に土師器片が散在していた箇所で、層位的にSI250・251より上層で出土している。

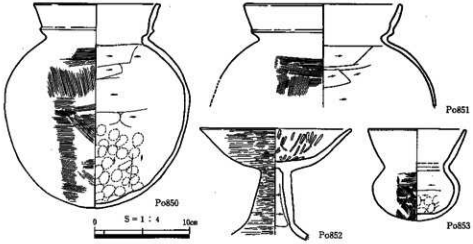
図化できたものに、甕Po851、高杯Po852、小型丸底壺Po853がある。Po851、Po853は完形に復元できるもので、近接して転倒した状態で出土している。

図化した遺物は、天神川Ⅳ期、古墳時代前期後葉ごろのもので、その他の時期のものはほとんど含まない。

これらは、SI250・251より層位的にも、型式学的にも新しい遺物であり、掘り込み等も検出されなかったことから、古墳時代前期後葉ごろの他の遺構で使用したものを廃棄したものと考えられる。（牧本）



挿図103　長瀬高浜遺跡土器溜6遺物出土状況図



挿図104　長瀬高浜遺跡土器溜6出土遺物実測図

第７節　自然河川

自然河川（挿図６・８、図版９）

調査区全体の中央からやや東よりシロスナ面が広がる００から−１０グリッドにかけての標高約３mの平坦面に立地する。クロスナ検出面との境から、約18m程度東にあり、ＳＤ24と重複している。土層観察から、ＳＤ24の方が新しい時期のものと判明した。

遺構検出にあたっては、調査区南側壁際に、深さ・幅ともに１m程度のトレンチを設定し、これを調査区東端までの長さ約40mを掘り下げた。この時点で、上面においてクロスナブロックを含む層の落ち込みを検出していたが、地下水位が上昇し、トレンチ底部から大量の湧水があり、作業を一旦中止せざるをえなくなった。そこで、トレンチの両壁外側にウエルポイントを平行に２列設定し、地下水を強制的に排出した。その結果、地下水位は以前と比べ、下がったので、トレンチの幅をさらにひろげ、深さも、さらに２m程度掘り下げた。そして、その両壁の土層断面の観察をおこなった。

その結果、トレンチ内において自然河川１か所を検出することができ、上面で検出していた落ち込みもこの遺構の影響によるものであったことが判明した。

この自然河川はおよそN−26°−Eの方向に流れ、調査区東端でも肩が検出できなかったことからみて、幅も東西方向に40m以上、深さ３m以上の河川であったことが想定される。こうしてトレンチを約３m、海抜約0.4〜0.5mのところまで掘り下げたのだが、ここで強制排水していた地下水が再び湧き出てきたため、これ以上の掘り下げは困難となり、そこで作業を打ち切った。よって、今回の調査で検出できた自然河川の正確な規模等はつかめていない。

埋砂は、自然堆積の様相を示している。西側では埋砂が東方向に約40°の傾斜で下がり続けているが、東側ほど緩やかになっている。また、埋砂上面とシロスナとの境は不整合面をなしており、河川埋没後シロスナ堆積までかなりの時間差があったものと考えられる。

さらに、この自然河川の落ち込み部分のすぐ西側で、部分的に崩落（地滑り）を起こしている断層面（幅約50cm）を検出した。この断層は「第２クロスナ層」堆積後に起こっており、走向はN−10°−Eで、約16cmの段差をもつ。これは、河川の浸食作用によって形成されたものと考えられ、河川形成以前のものと考えられる小さなクラック（N−45°−E・ＳＥ85°）も検出できている。

また、自然河川堆積層の西寄りでは、ほとんど摩滅していない古墳時代前期ごろの土師器片を含むクロスナブロックがみられたことから、このクロスナは現在の検出範囲から飛ばされてきたものと考えるよりも、むしろ当時この付近まで広がっていたクロスナ範囲が河川の浸食作用の影響を受け、その結果崩落するような形で堆積したと考えることができる。当時のクロスナ範囲は、今回検出できたクロスナの範囲よりもさらに東側まで広がっていた可能性が考えられる。

さらに、埋砂中の最も新しい遺物には、古墳時代後期ごろの須恵器片があり、古墳時代前期から後期にかけて埋没していったものと考えられる。

以上のことをまとめると、今回の調査では、完全には自然河川を検出することはできなかったが、少なくとも、古墳時代前期の集落が営まれていた段階から、中期にかけての古墳群が形成される段階までは、集落・古墳群の東側を大きな河川がほぼ南北方向に走って流れていたと考えられる。そして、この自然河川も浸食・堆積を繰り返し、古墳時代前期から後期にかけて埋没していったものと考えられる。

最後になったが、今回自然河川の調査結果をまとめるにあっては、鳥取大学名誉教授・赤木三郎氏、ならびに鳥取大学教授・西田良平氏より多大なご指導を頂いた。ここに記して感謝の意を表する。　（井上）

第８節　古墳時代包含層遺物（挿図105、図版66・67）

ここでは、茶褐色砂層～暗茶褐色砂層で出土した、古墳時代前期から中期の、遺構に伴わない遺物について触れることとする。

図化したものには、１Ｏグリッドからは、小型甕Ｐｏ855、鼓形器台Ｐｏ857、直刃鎌Ｆ26、敲石Ｓ17、浮子Ｓ18、２Ｏグリッドからは、甕Ｐｏ854、底部Ｐｏ859、ミニチュア土器Ｐｏ860、釣針Ｆ27、管玉Ｊ３、２Ｐグリッドからは、高杯Ｐｏ856、３Ｏグリッドからは、小型器台Ｐｏ858がある。

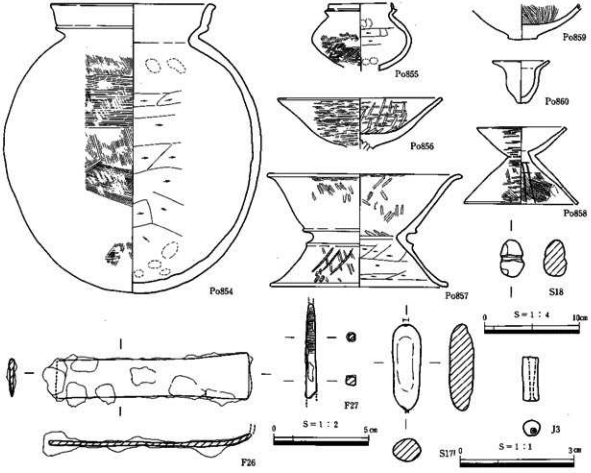
Ｐｏ857は、口径が大きいが器高が低くなりつつあることから、天神川Ⅱ～Ⅲ期、古墳時代前期中ごろと考えられる。Ｐｏ855・858も同様の時期と考えられる。

Ｐｏ854は、胴部が球形で器壁が厚く、内面肩部の指頭圧痕が明瞭であることから、天神川Ⅴ期、古墳時代中期ごろ、Ｐｏ856もほぼ同時期と考えられる。

Ｆ26は、層位的にＰｏ857と同様であり、古墳時代前期と考えられる。また、Ｆ27の時期は確実ではないが、古墳時代前期から中期のものとしてよいであろう。

Ｓ18は、軽石製で水に浮くことから、浮子と判断した。

これらの遺物は、古墳時代前期から中期にかけてのもので、集落に伴う時期のものである。　（牧本）



挿図105　長瀬高浜遺跡古墳時代包含層出土遺物実測図

第５章　長瀬高浜遺跡古墳時代中期後半の調査

第１節　古墳群の概要

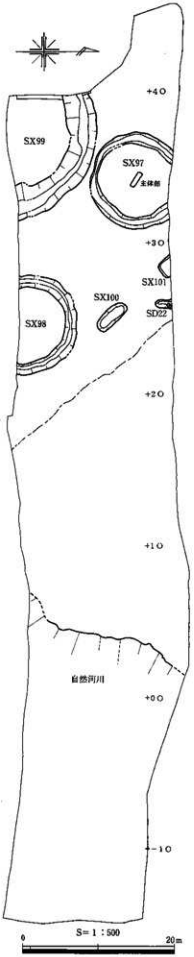
この時期の遺構は、古墳３基、土壙墓２基、溝状遺構１基である。調査区西側の黒茶褐色砂で検出した。検出面はやや南に傾斜し、標高は3.4～5.2mである。検出した周溝は、いずれも一部が調査区外に及ぶ。調査区南西隅には、大型の円墳SX99、その北側に接して円墳SX97があり、さらに両墳ともやや離れた東側に円墳SX98がある。また、古墳が分布しないSX97の東側で土壙墓SX101、およびSX98の北側には土壙墓SX100が存在する。後世の削平により古墳盛砂は遺存せず、葺石、埴輪などの外表施設も確認されない。いずれも古墳時代中期後半ごろに属するものと考えられる。長瀬高浜遺跡の過去の調査では、今回の調査区の南西、および西側において、古墳を含めた古墳時代の埋葬施設が合計96基確認されている。今回の調査区は、この古墳群の北東端にあたると想定される。

調査区内における鏃矢は、陶邑編年のTK208併行段階（５世紀後半）に比定されるSX97である。墳丘の直径が10.5mの円墳である。北西側周溝内から、原位置を保った須恵器杯身、土師器直口壺、刀子が出土した。主体部は、墳丘のほぼ中心に位置する木棺墓もしくは土壙墓である。人骨が遺存し、成人の男性と鑑定された。主軸はS—60°—E、頭位は南東方向である。

つづいて、TK23・47併行段階（５世紀末から６世紀前半）には、SX98が築造される。直径10mの円墳である。調査区内では、埋葬施設を検出しなかったが、北西側から北側にかけての周溝内から、須恵器蓋杯、土師器甕が出土した。周溝埋砂上層を、奈良から平安時代に整地を目的として、粘土で充塡している。

築造時期は不明であるが、調査区南西隅付近には、墳丘の直径が約19mの円墳と想定されるSX99がある。長瀬高浜遺跡で確認された円墳は、直径が８～12m程度のものが主体を成し、15mを越えるものは稀である。SX99は、外表施設は確認できないものの、１号墳（直径24m）、３号墳（直径20m）に次ぐ大型の墳丘をもつ。埋葬施設は検出しなかったが、墳丘中央部付近に箱式石棺を有していたと考えられる。古墳時代中期から後期の所産であろう。SX98と同様、奈良から平安時代に周溝埋砂上層を粘土で充塡する。

土壙墓SX100は、長さ4.6mの長大な墓壙をもつ。主軸はS—49°—Eである。南東端から歯が出土し、頭位は南東と推察される。これらの土壙墓は、各古墳から一定の距離を有して掘削されており、古墳に付随する埋葬施設とは考え難い。木棺墓SX101からも、人骨が出土し、成人男性と鑑定された。主軸はS—57°—E、南東方向に頭位をもつ。これら土壙墓は、出土遺物、検出層序から古墳時代中期中葉ごろのものと考えられ、



挿図106　長瀬高浜遺跡古墳時代中期後半遺構配置図

古墳より遡るものと考えられる。

検出したSX97主体部、SX100、SX101は、いずれも南東方向を頭位としている。長瀬高浜遺跡では、頭位を南東方向に向けて埋葬される例が顕著に窺われる。　（岡野）

第2節　古　　墳

ＳＸ97（挿図107～110、図版９・67・72）

調査区西側の３Ｏ、３Ｐグリッドに立地する。木棺墓もしくは土壙墓を埋葬施設に持つ古墳である。黒褐色砂検出段階ではマウンド状の高まりは確認できなかった。検出面は、周溝付近において、黒茶褐色砂である。墳丘上面で、一部に褐色砂が露出する。周溝の一部は北側の調査区外へ及ぶ。

SX97は、径10.5mの円墳で、周溝幅は、1.4～1.6mであるが、南側では狭い場所で約0.5mである。周溝の上端から周溝底までは、最も遺存のよい北東側ないし北西側において約40cm、南側では10～15cmである。周溝底部での標高は、南側が3.8mである他は、約3.9mである。盛砂は削平により遺存していない。

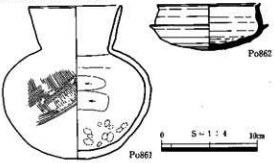
周溝の埋砂は、自然堆積の様相を呈し、上層は黒茶褐色砂、下層は暗茶褐色砂を主体とする。

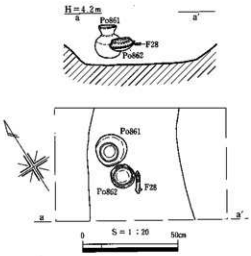
主体部ははっきりとしないが、墳丘中央付近において人骨一体を検出し、この部分が主体部にあたるものと考えられる。主体部の規模は、推定長1.6m、幅0.5m程度のものと考えられ、主軸はS—60°—Eである。木棺痕跡は認められないことから、土壙墓の可能性がある。

出土した人骨は、頭位を南東方向にもつ伸展仰臥葬である。人骨は、かなり風化が進んでいたが、頭部の遺存状況が比較的良好であった。鑑定の結果、小柄の成人男性と判断された。

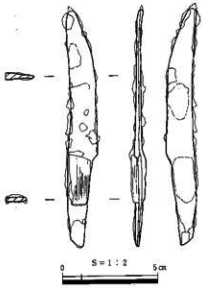
人骨左足首付近から長さ２cm程度の鉄製品が出土したが、図化できなかった。

遺物には、北西側周溝内下層より、須恵器杯身Po862、土師器直口壺Po861、鉄製刀子F28が完形で出土した。周溝底部からそれぞれ３～10cm浮いた状態である。須恵器杯身、土師器直口壺は正位の状態で、鉄製の刀子は切先を北東方向へ向けて、いずれも隣接して置かれていた。こうした状況から、これらの遺物は原位置を保持しており、古墳の築造から間もなくして周溝内に置かれたもの

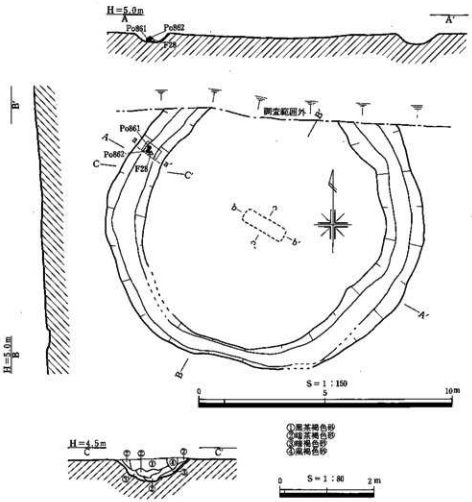




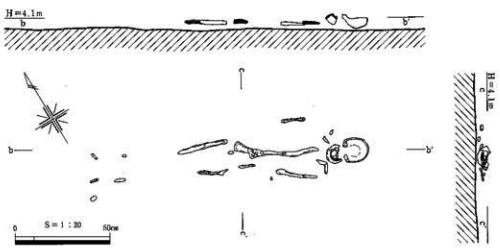
挿図107　長瀬高浜遺跡ＳＸ97周溝内遺物出土状況図



挿図108　長瀬高浜遺跡ＳＸ97出土遺物実測図



挿図109　長瀬高浜遺跡ＳＸ97遺構図



挿図110　長瀬高浜遺跡ＳＸ97主体部人骨出土状況図

と判断した。

古墳の築造時期は、北西側周溝内の須恵器杯身から、TK208併行期に比定され、主体部がほぼ旧表土面に掘り込まれていることから、低墳丘の円墳であったものと考えられる。（岡野）

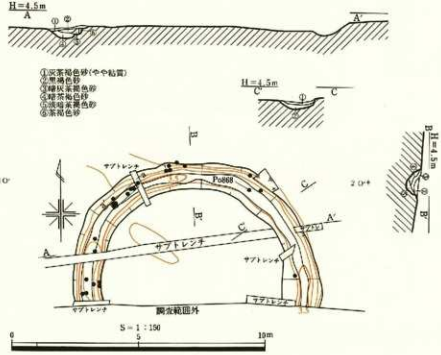
ＳＸ98（挿図111～113、図版10・12・67・68）

調査区西側の２Ｏグリッドにあり、標高3.7～4.2mの北東から南西側に向かって傾斜する緩斜面に立地する。北西側約11mにはSX97、西側約８ｍにはSX99がある。また、土壙墓SX100が北側約３ｍにある。

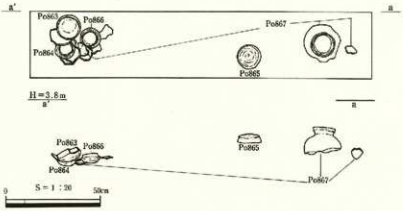
南半分は調査範囲外にあるが、径約11.2mの円墳と思われる。墳丘は削平され、盛土は遺存していない。中世包含層を除去した段階で円弧状の整地遺構３を検出し、その粘土層除去後に黒褐色砂の帯として、SX98周溝を確認できた。盛土、主体部は古代の整地作業により削平されたものと思われる。

周溝の遺存状態は比較的よい。幅は1.4～1.7m、深さは西側がやや浅く0.5m程度、北側が深く0.6～0.7m程度ある。埋砂は上層に黒褐色砂が皿状に入り、自然堆積したものと思われる。黒褐色砂上には整地遺構３の粘土層がある。

主体部、周溝内埋葬施設などは検出できなかった。



挿図111　長瀬高浜遺跡ＳＸ98遺構図

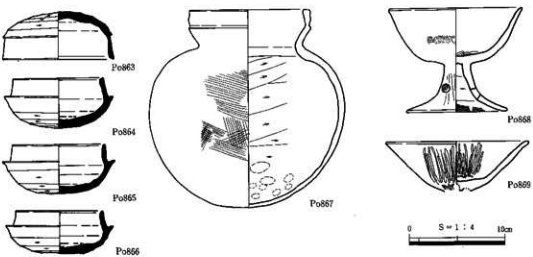


挿図112　長瀬高浜遺跡ＳＸ98周溝内遺物出土状況図

すべての遺物は周溝内から出土している。このうちPo863～867は、ほぼ周溝底面でまとまって検出された。このうちPo863・864・866とPo867の胴部破片は組合わせるようにして置かれていた。土師器高杯Po869は混入したものであると思われる。

築造時期は、出土遺物から大神川Ⅱ期、TK23～47併行期、古墳時代中期末から後期初頭ごろと考えられる。

なお、周溝部には褐色粘土層による古代の整地遺構3があることから、当時は、周溝部分は完全に埋まりきってはおらず、窪地状を呈していたものと考えられる。（岩崎）



挿図113　長瀬高浜遺跡ＳＸ98出土遺物実測図

ＳＸ99（挿図114・115、図版10・11・72）

調査区南西側、３Ｏ、４Ｏグリッドに立地する。大半が調査区外に位置するため、全体の約１/４を調査した。上層の畠の検出面においてもマウンド状の高まりが確認できた。

SX99は、円墳として復元すると、径約19mとなる。盛砂は遺存しない。土層断面の観察から、下層の古墳時代前期の住居跡の埋砂を基盤として盛土がなされたことが推察される。

周溝幅は3.2～4.4m、周溝底部の幅は最も狭い北東側、および北北西側が0.5mであるほかは、0.8～1.2mである。

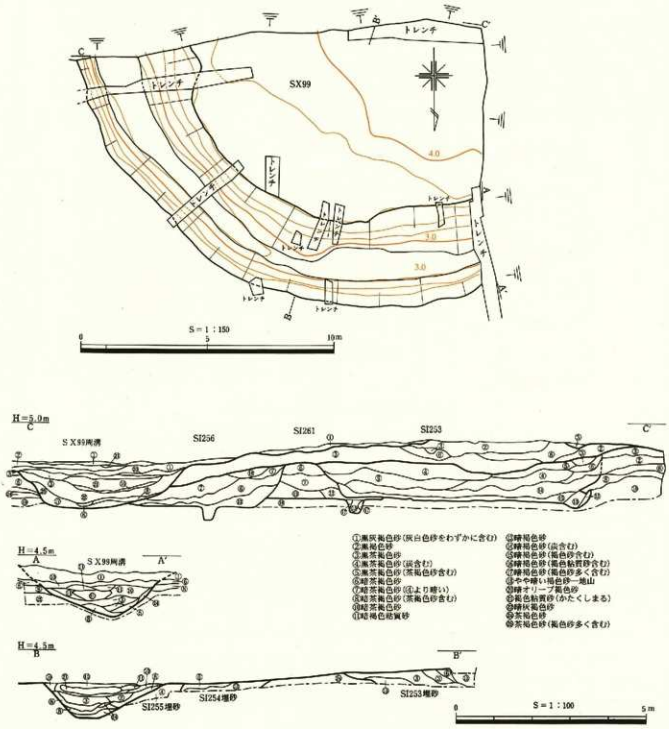
周溝上端から周溝底部までの高さは、概ね0.7～0.9mであり、最も遺存状態のよい南東側において1.1mである。周溝底部における標高は、2.6～2.9mで、墳頂部で標高約４mであることから、墳丘の高さは、本来1.5m以上あったものと考えられる。

埋葬施設は明らかでないが、墳頂部付近には板石が数枚散乱する状況から、箱式石棺を有していたと考えられる。

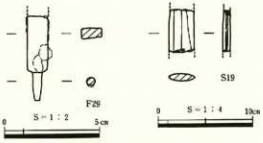
出土遺物には、墳丘上および周溝内から鉄鏃F29、磨製石剣S18の他、多数の古墳時代前期の土師器が出土しているが、古墳に伴うと考えられる遺物は出土しなかった。

築造時期は、古墳時代前期に属する下層の住居跡が埋没後に築造されていること、その他の古墳が古墳時代中期後半ごろの築造であること、３Ｏグリッドで中世畠跡検出中および古代包含層から埴輪片が出土していることから、当古墳も古墳時代中期ごろに築造されたと考えられる。

SX99は、長瀬高浜古墳群のなかでは１号墳（直径24m）、３号墳（直径20m）に次ぐ規模を測り、大型の部類にあたる。また、周溝埋砂の上層には、奈良から平安期に褐色粘土層が充填されていることから、当時は、周溝部分は完全に埋まりきってはおらず、窪地状を呈していたものと考えられる。（岡野）



挿図114　長瀬高浜遺跡ＳＸ99遺構図

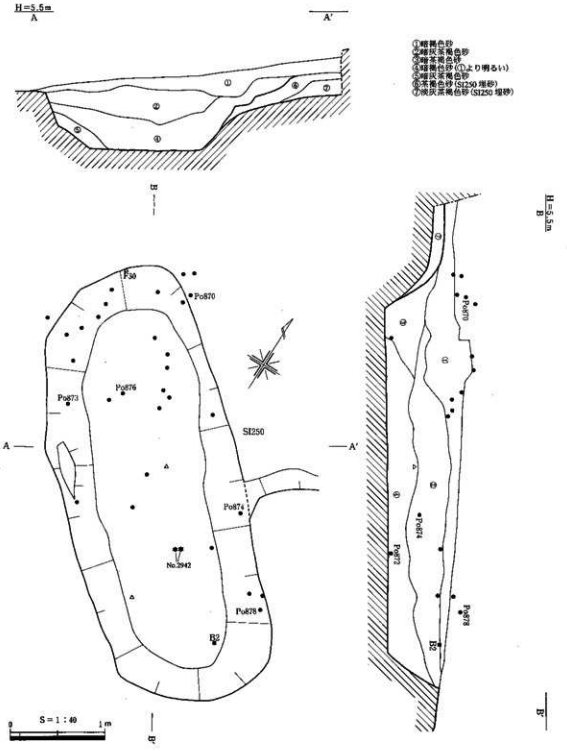


挿図115　長瀬高浜遺跡ＳＸ99出土遺物実測図

第3節　土 壙 墓

ＳＸ100（挿図116・117、図版10・68）

クロスナ部分南東側の２Ｏグリッドにあり、標高約4.4mのほぼ平坦面に立地する。北西側約６ｍにはSX101が、また、遺構北西側でSI250を切っている。



挿図116　長瀬高浜遺跡ＳＸ100遺構図

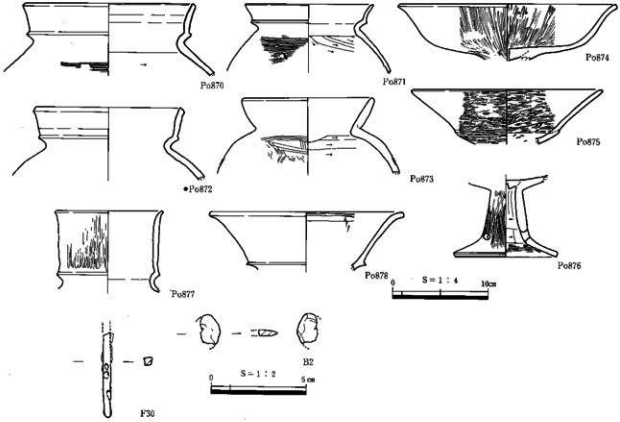
平面長楕円形を呈し、規模は上面で長さ4.60m、幅1.90m、底面の長さ3.85m、幅1.14mを測る。深さ最大0.49mを測る。断面不整形な台形状を呈す。主軸方向は、N—41°—Wである。

底面中央やや南東側で歯牙が出土している。

埋砂は3層に分層できたが、木棺痕跡は確認できなかった。

出土遺物は、図化できたものに甕Po870～873、高杯Po874～876、直口壺Po877、鼓形器台Po878、不明鉄製品F30、不明銅製品B2がある。このうち、底面からPo872、埋砂下層からPo873・874が出土している。その他のものは、埋砂上層からの出土で、砂鉄原料の精錬滓№2068も、埋砂上層から出土している。埋砂上層のものは、SI250からの転落遺物と考えられる。

底面、埋砂下層出土遺物および検出層序から、天神川Ⅵ期、古墳時代中期中葉ごろのものと考えられ、木棺等の痕跡は確認できなかったことから、土壙墓であったものと考えられる。（牧本）



挿図117　長瀬高浜遺跡ＳＸ100出土遺物実測図

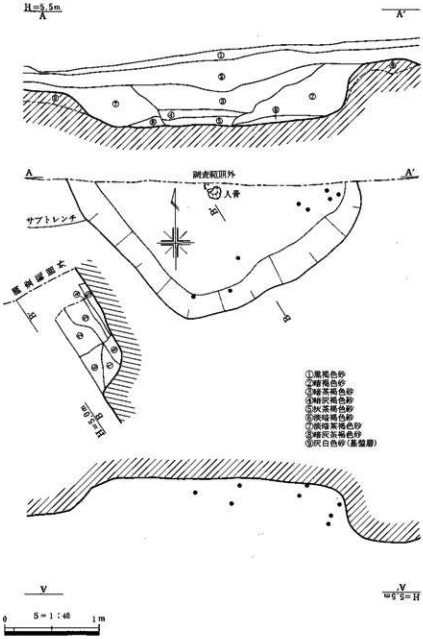
ＳＸ101（挿図118・119、図版11）

クロスナ部分北東側の2Pグリッド調査区際にあり、標高約4.8mのほぼ平坦面に立地する。南東側約6mにはSX100がある。

北西側は、大半が調査区外にあり、正確な形態、規模は不明であるが、平面長方形を呈するものと考えられる。規模は、上面で長さ2.0m以上、幅2.36m、底面の長さ1.6m以上、幅1.95mを測る。深さ最大0.57mを測り、断面逆台形状を呈す。主軸方向は、N—33°—Wである。

底面中央南東よりで、頭骨が出土している。鑑定では、成人男性の可能性が指摘された。

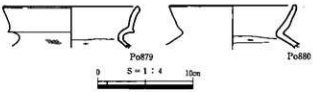
埋砂は6層に分層できた。このうち、⑤層は木棺底部が腐朽したものと考えられる。③層は棺内堆積層、④層は棺底に敷かれたものと考えられる。また、⑥～⑧層は木棺裏込め砂と考えられる。木棺側板、小口板の痕跡は確認できなかった。



挿図118　長瀬高浜遺跡ＳＸ101遺構図

出土遺物には、埋砂上層からのPo879・880がある。

遺物はいずれも古墳時代前期のものであるが、遺構に伴うものではなく、検出層序および周辺の遺構から、古墳時代中期中葉ごろのものと考えられ、無墳丘の木棺墓と考えられる。　（牧本）



挿図119　長瀬高浜遺跡ＳＸ101出土遺物実測図

第４節　溝状遺構

ＳＤ22（挿図120・121、図版11・68）

調査区西側の２Ｐグリッドの北東側の調査区際にあり、標高約5.0～5.3mの緩やかに南東側に傾斜する斜面に立地する。西側約３mにはSX101がある。

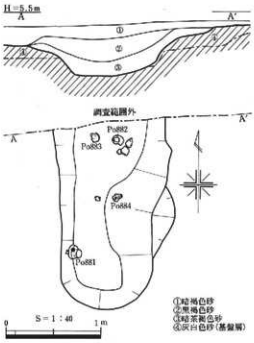
北側は、大半が調査区外にあり、正確な形態、規模は不明であるが、長さ2.0m以上、幅1.19mを測る。深さ最大0.27mを測り、断面U状を呈する。ほぼ直線的に走り、主軸方向は、N―33°―Wである。

埋砂は２層に分層できた。自然堆積したものと考えられる。

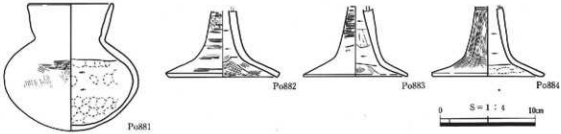
出土遺物には、図化できたものに直口壺Po881、高杯Po882～884がある。いずれも底面付近で出土している。

出土遺物および検出層序から、天神川Ⅱ期、古墳時代中期後半から後期初頭ごろのものと考えられる。

この時期の古墳周溝とも考えられるが、全形が不明なため、性格は不明である。　（牧本）



挿図120　長瀬高浜遺跡ＳＤ22遺構図



挿図121　長瀬高浜遺跡ＳＤ22出土遺物実測図

文中写真③　長瀬高浜遺跡現地説明会風景その２

第６章　長瀬高浜遺跡古代の調査

第１節　古代検出面の概要

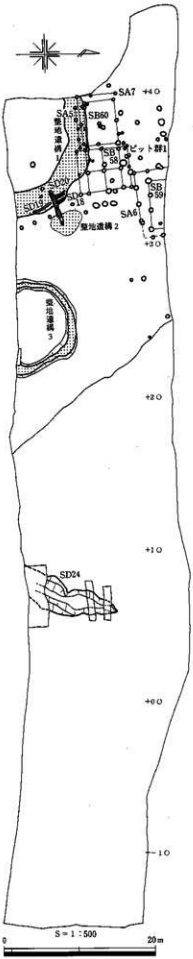
今回の調査でも古代の遺構、遺物が検出された。この古代検出面は、白砂除去後に現れた黒褐色砂を基本とした中世の畠跡検出面を約30cm程度掘り下げ現れた暗茶褐色砂を基本とした面にあたる。

今回の調査で確認された古代検出面の遺構には、庇付の総柱建物跡（SB58）を含む、計３基の掘立柱建物跡（SB58・59・60）、柵列３基（SA５・６・７）、整地遺構３基（整地遺構１・２・３）、溝状遺構４基（SD18～20・24）、総計87個のピットからなるピット群１などがある。掘立柱建物跡、柵列は、ピット群１の一角にあり、主軸はそれぞれN―９°―W（SB58）、N―87°―E（SB59）、N―84°―E（SB60）とほぼ揃い、SB58を中心に比較的密集して建てられている。またSB59には東西から南側にかけてSA６が、SB60には西から南側にかけてSA５・７の柵列が、それぞれ伴うように検出されている。ピットの深さ、規模など掘立柱建物跡、柵列間に大きな違いがみられないこと、これら遺構を含む周辺グリッドから、奈良から平安時代にかけてのものと考えられる赤色塗彩土師器片・土師器甕片・墨書土器片等が多数出土していること、SA６とSA７の一部の主軸が全く同じことなどからみて、掘立柱建物跡、柵列が時期的なことも含めて、何か関連性をもって建てられた遺構である可能性が考えられる。

整地遺構は３か所検出できた。整地遺構１・３は、古墳時代中期ごろの古墳（SX98・99）の周溝部分を、また、整地遺構２は、古墳時代中期初頭ごろの竪穴住居跡の窪地部分に粘土を敷き詰め、整地したものである。さらに整地遺構１・２の上面では、溝状遺構が３基（SD18・19・20）検出できた。この遺構の性格は、不明である。

この時期の主な出土遺物には墨書土器８点（うち、２点は「長」と書かれている）、SD18から出土した銅製帯金具（丸鞆裏金具）２点の他、奈良から平安時代ごろのものと考えられる赤色塗彩土師器片、土師器甕片、須恵器片など多数出土している。これらは、掘立柱建物跡を構成するピット群１、整地遺構、SD18～20の位置するグリッドから出土しており、このことはこの時期の遺構の性格を考える上で大変興味深い。

また、この時期の遺構検出面から出土した炭化材（№2058）の年代測定の結果では、1110±50B.P.（A.D.990）という結果が得られており、絶対年代を考える上でも興味深い結果と考える。　（井上）



挿図122　長瀬高浜遺跡古代遺構配置図

第２節　掘立柱建物跡・柵列

ＳＢ58（挿図123・124、図版11）

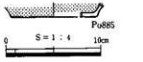
調査区西側の３Ｏグリッドに位置する。北側では暗茶褐色砂面、南側では撹乱遺構上面で検出した。母屋に南北両面の庇が取り付く総柱の建物と推察される。やや南へ傾斜した斜面上に立地し、検出面での標高は、北側で4.5m、南側で約3.9mである。

母屋は、梁行２間（4.6m）×桁行２間（5.6m）で、庇が南北両面につく。庇部分を含めると、南北6.6mの規模をもつ。主軸はN—９°—Wである。北東方向に約５mには、ほぼ同時期の所産と考えられるSB59がある。

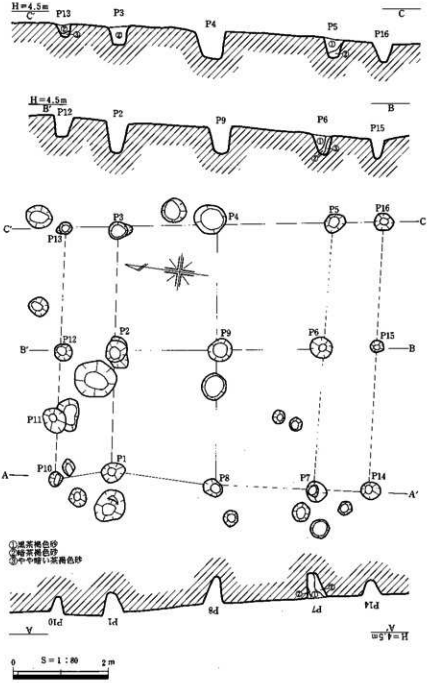
主柱穴間距離は、母屋において、Ｐ１～Ｐ２の順に、2.5m、2.6m、2.0m、2.6m、2.65m、3.0m、2.1m、Ｐ８～Ｐ１間が2.2m、Ｐ８～Ｐ９間が2.9m、Ｐ４～Ｐ９間　が2.75m、Ｐ２～Ｐ９間が2.2m、Ｐ９～Ｐ６間が2.15mである。各ピットの詳細は挿表７を参照していただきたい。

Ｐ７の埋砂中から、土師器皿Po885が出土した。

時期は、Ｐ７内出土のPo885より、伯耆国庁第２様式（SD37形式）、平安時代（９世紀代）の所産と考えられる。　（岡野）



挿図123　長瀬高浜遺跡ＳＢ58出土遺物実測図



挿図124　長瀬高浜遺跡ＳＢ58遺構図

ピット 番号	規模（cm）	備　考	ピット 番号	規模（cm）	備　考	ピット 番号	規模（cm）	備　考
P1	50×40−32		P7	46×42−56	土師器皿	P12	36×35−26	
P2	68×44−28		P8	44×32−60		P13	33×26−41	
P3	50×38−41		P9	50×46−60		P14	40×38−54	
P4	66×60−64		P10	34×27−24		P15	30×26−40	土師器皿
P5	46×38−44		P11	56×44−58		P16	40×38−44	
P6	46×44−42							

挿表7　ＳＢ58ピット一覧表

ＳＢ59、SA６（挿図125、図版11）

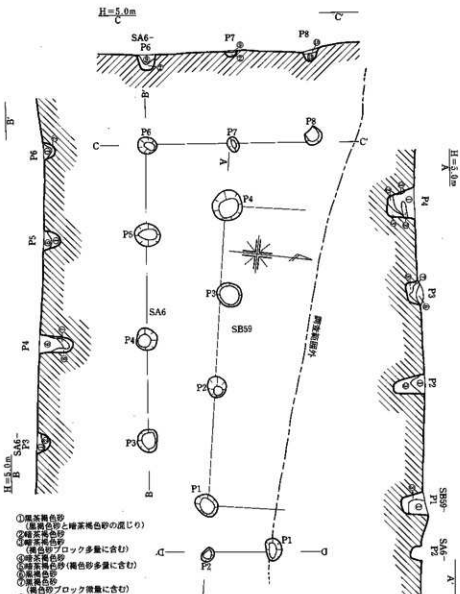
調査区西側、クロスナ検出部分のほぼ中央北壁際にあり、標高約4.2～4.6mの平坦面から緩やかに南西へ傾斜する斜面に立地する。

約２m南 側 にSB58が隣接し、南西方向約７mに はSB60、SA５・７が位置する。

全形ははっきりしないが、**SB59**は、梁 行１間以上（2.2m以上）×桁 行３間（6.4m）を測る掘立柱建物跡である。主軸方向はN−87°−Eとほぼ東西方向を向く。

柱 穴 はP１～P４を確認することができ、それぞれの規模は、P１（52×42−53）cm、P２（44×40−66）cm、P３（56×50−27）cm、P４（67×63−55）cmを測る。主柱穴間距離は、P１～P２間 か ら 順 に2.5m、2.1m、1.8mである。

SA６は、鉤状にP１～P８が並ぶ。SB59に対し主軸が若干ずれる。柱穴の径は、25～54cm、深さ14～85cmを測る。柱穴間距離は、P１～P２が1.4m、P３～P４が2.1m、P４～P５が2.3m、P５～P６が



挿図125　長瀬高浜遺跡ＳＢ59、SA６遺構図

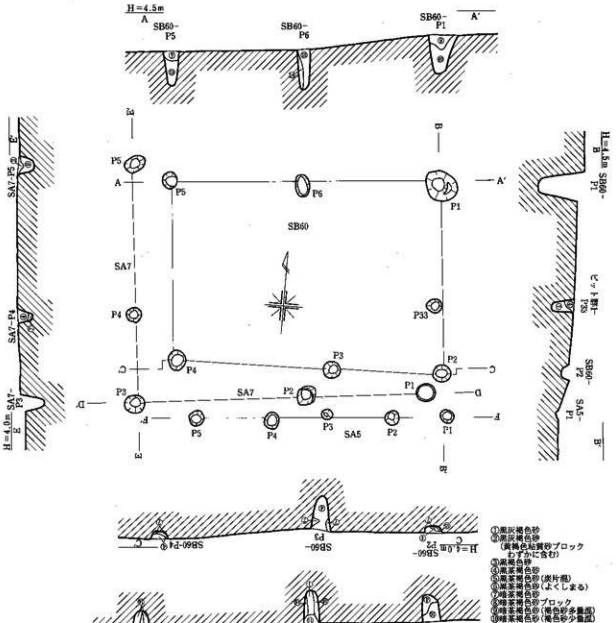
1.9m、P6～P7が1.9m、P7～P8が1.7mを測る。

SB59の埋砂は6層、SA6のそれは14層にそれぞれ分層できた。これらは基本的に黒褐色・黒茶褐色系の埋砂であった。

出土遺物は、柱穴と考えるピット12個のうち、8個の埋砂内から土師器片が出土しているが、いずれも小片のために図化できなかった。

SB59、SA6の時期は良好な遺物が出土していないためはっきりとしないが、検出面周辺から、伯耆国庁第2様式SD37～SD35形式併行の赤色塗彩土器片が多数出土しており、平安時代ごろ（9世紀代）のものと考える。

（井上）



挿図126　長瀬高浜遺跡SB60、ＳＡ５・７遺構図

SB60、SA５・７（挿図126・127）

調査区の西側、クロスナ検出部分の西端近くの、標高約3.8m～4.0mの平坦面から南側へ緩やかに傾斜する斜面に立地する。東側にはSB58が隣接する。また北東方向約７mには、SB59、SA６が位置する。

SB60の形態は、梁行１間（3.9m）×桁行２間（5.7m）を測る掘立柱建物跡である。主軸方向はN－84°－Eである。

柱穴はP１～P６を確認することができ、それぞれの規模はP１（73×61－95）cm、P２（38×35－18）cm、P３（37×37－77）cm、P４（44×41－23）cm、P５（36×32－76）cm、P６（46×30－88）cmを測る。柱穴は、北側のものが深いのに対し、南側のものは比較的浅い。主柱穴間距離は、P１～P２間から順に4.1m、2.3m、3.4m、3.7m、2.8m、2.9mである。

SA５は、東西方向に直線状にP１～５が並び、SB60に対しほぼ平行する。柱穴は、径27～36cm、深さは８～18cmを測る。柱穴間距離はP１～P２間から順に1.2m、1.4m、1.2m、1.1mである。

SA７は、南北方向にP１～P５が直線状に延びる。SB60、SA５等と主軸を異にしている。柱穴は、径27～54cm、深さは18～86cmを測る。主柱穴間距離はP１～P２間から順に2.6m、3.5m、1.8m、3.2mである。

埋砂は、SB60が９層、SA５・７がともに６層ずつに分層できた。これらは、基本的に黒茶褐色、暗茶褐色系のものであった。

出土遺物は、図化できた遺物に、SB60のP６埋砂中から出土した砥石S20があるのみで、あとはSB60、SA５・７合わせて16個検出できたピットのうち、５個のピット埋砂中から土師器片が出土したのみで、いずれも図化できなかった。

挿図127　長瀬高浜遺跡ＳＢ60出土遺物実測図

SB60、SA５・７の時期は、時期判断できる遺物が出土していないためはっきりとしないが、検出面周辺の赤色塗彩土師器から、伯耆国庁第２様式・SD37形式からSD35形式併行、平安時代ごろ（９世紀代）のものと考えられる。（井上）

第３節　整地遺構

整地遺構１・２（挿図128～131、図版11・68・72）

調査区西側の３Ｏグリッドにあり、標高3.6～3.9mのほぼ平坦面に位置する。東側８mには整地遺構３が、北側には掘立柱建物群がある。

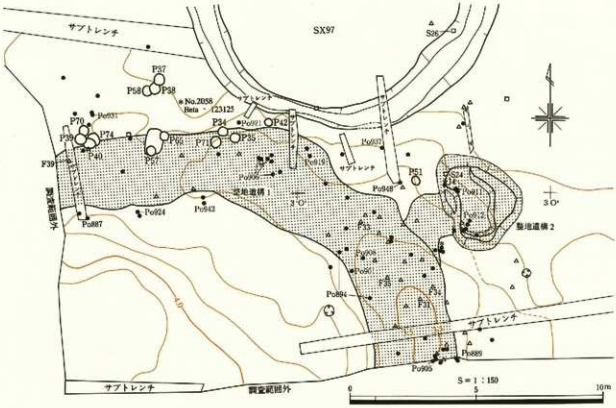
整地遺構１は幅2.5～3.5mの弧状、**整地遺構２**は長軸４m×短軸３mの隅丸三角形の褐色粘土面として検出された。整地遺構１はSX99周溝、整地遺構２はSI259の埋砂上面に位置しており、それぞれ窪地に粘土を入れ、整地作業を行っている。

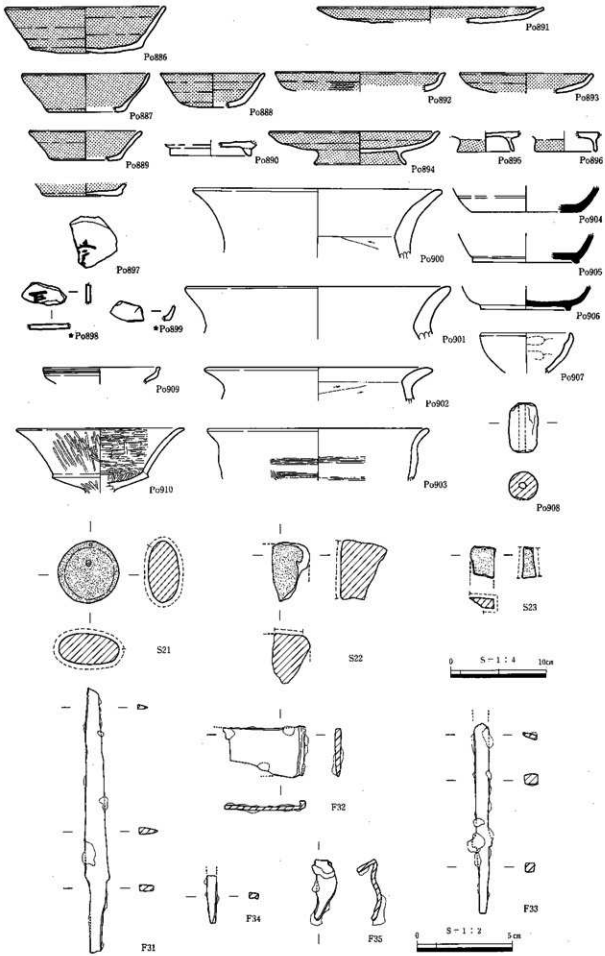
褐色粘土はレンズ状に充填されており、厚さは最大で15～25cm程度ある。粘土の周りは暗茶褐色・褐色粘質砂になる。さらに上層の標高3.9m付近では、黒褐色粘質砂が西側に10m程度の幅で広がり、この層でSD18～20が検出され、銅製帯金具などが出土している。

遺物は黒褐色粘質砂～褐色粘土層上面の間で多数出土している。土器は細片が多く、二次的に火をうけているものもある。

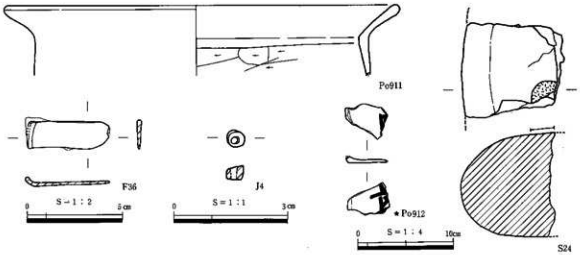
整地遺構１では土師器杯Po886～889、皿Po891～893、高台皿Po894、高台部分Po890・895・896、甕Po900～903、須恵器杯Po904、高台杯Po905・906、製塩土器Po907、土錘Po908、墨書土器Po897～899を、整地遺構２では土師器甕Po911、墨書土器Po912を図化した。

大半の土師器杯・皿は伯耆国庁第２様式SD37～35形式のものであるが、Po892はミガキがみられ、伯耆国庁第１様式のものと思われる。Po888は、小型化しロクロ目状の凸凹がみられるが赤色塗彩されており、第２様式最


サブトレンチ
SX97
SX8
P37
P58
P38
No.2058
Beta - 123125
サブトレンチ
P70
P39
P74
P40
P65
P71
P34
P35
P42
P57
P41
Po691
Po692
Po693
Po695
Po696
Po697
Po698
Po699
Po700
Po701
Po702
Po703
Po704
Po705
Po706
Po707
Po708
Po709
Po710
Po711
Po712
Po713
Po714
Po715
Po716
Po717
Po718
Po719
Po720
Po721
Po722
Po723
Po724
Po725
Po726
Po727
Po728
Po729
Po730
Po731
Po732
Po733
Po734



挿図130　長瀬高浜遺跡整地遺構１出土遺物実測図



挿図131　長瀬高浜遺跡整地遺構２出土遺物実測図

終段階のものと考える。また、Po890は断面三角形の高台を底部外縁近くに貼り付けており、第２様式SK05形式のものであろう。製塩土器は鹿蔵山式の焼塩土器である。須恵器は９世紀代のものと思われる。墨書土器も出土しており、Po897は杯底部に墨書している。判読はできないが、他の墨書土器とは筆跡が異なるものである。Po898は底部外面に「長」を墨書する。Po899は杯の口縁部外面に墨書するものである。Po912は杯底部の内外面に墨書する。外面は「長」、内面は不明である。

また、整地遺構１では古墳時代前期の土師器も出土しており、土師器甕Po909、高杯Po910を図化した。Po909は吉備系甕の口縁部である。Po910は二次的に火をうけており、外面に多量の煤が付着している。

鉄片・鉄滓なども多く出土しており、整地遺構１では刀子F31、鉄鏃F32、鉄釘F33・34、不明鉄器F35、整地遺構２では鏃形（鎌形）鉄製品F36を図化した。F35は何らかの鏃形品の可能性がある。

石器は磨石S20、砥石S21・22、石皿S23がある。その他ガラス小玉J４も出土している。

出土遺物から、整地遺構１・２ともに、平安時代（９世紀代）ごろのものと考えられる。　（岩崎）

整地遺構３（挿図132・133、図版12・69）

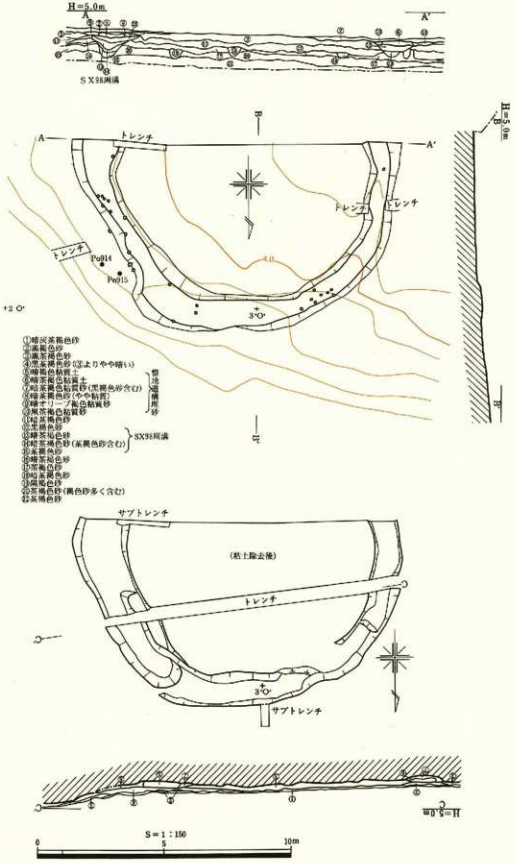
調査区西側の２Ｏグリッド南東側調査区際にあり、標高約3.8～4.3mの緩やかに南西側に傾斜する斜面に立地する。西側約８mには整地遺構１がある。

南側半分は調査区外にあり、正確な範囲は不明であるが、当時窪地になっていたSX98周溝部分を、幅1.1～2.2m、厚さ25cm前後にわたって、暗褐色粘質土をやや盛り上げるように充填している。

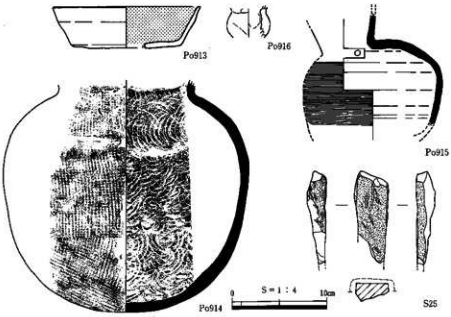
上面には、径５cm前後のピットが東側、北西側に不規則に掘り込まれていた。

出土遺物には、上面で土師器杯Po913、須恵器平瓶Po915、ミニチュア土器Po916、砥石S25が出土している。また、周辺で須恵器壺Po914も出土している。

出土遺物および検出層序から、伯耆国庁第２様式期、平安時代のものと考えられる。　（牧本）



挿図132　長瀬高浜遺跡整地遺構３遺構図



挿図133　長瀬高浜遺跡整地遺構３出土遺物実測図

第４節　溝状遺構

ＳＤ18～20（挿図134・135、図版12・71）

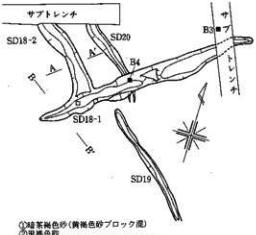
調査区西側の３Ｏグリッドにあり、標高3.9m前後の平坦面に立地する。整地遺構１・２のやや上層で検出することができた。

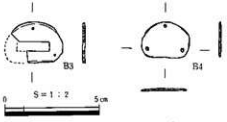
SD18はほぼ東西方向にのびるSD18―１と、それに直交するSD18―２にわかれる。SD19、SD20はSD18―１の直角方向にのびる。いずれの溝も、黒褐色粘質砂を掘り込んで作られている。

SD18―１は直線状を呈し、主軸方向はN―70°―Eである。規模は、長さ4.9m、幅0.2～0.45m、深さ約４～12cmを測る。断面は浅い逆台形状を呈する。埋砂は暗茶褐色砂・暗灰黄褐色砂を基本とする。SD18―２は緩やかな弧状を呈し、主軸方向はN―44～25°―Wである。北端は検出できなかった。規模は、長さ1.7m以上、幅0.28～0.3m、深さ約５～９cmを測る。断面は浅い皿状を呈する。埋砂は単層で、暗茶褐色砂に黄褐色砂を含む。

SD19はSD18の南側に位置する。直線状を呈し、主軸方向はN―31°―Wである。規模は、長さ2.7m、幅0.1～0.2m、深さ約２～５cmを測る。断面は浅い皿状を呈す。埋砂は単層で、暗茶褐色砂を基本にする。

SD20はSD18と交差する。北端は調査できなかった。





挿図134　長瀬高浜遺跡ＳＤ18出土遺物実測図

挿図135　長瀬高浜遺跡ＳＤ18～20遺構図

緩やかな弧状を呈し、主軸方向はN—35°—Wである。規模は、長さ1.9m以上、幅0.15～0.25m、深さ4cm前後を測る。断面は浅い皿状を呈す。埋砂は単層で、暗茶褐色砂を基本にする。

遺物はSD18から出土しており、銅製丸鞆裏金具B4を図化した。B3はSD18の20cmほど北側の包含層中で出土した。また図化していないが、埋砂中から古代ごろの瓦が出土している。

時期は、出土した遺物および検出層序から、平安時代ごろと考えられる。（岩崎）

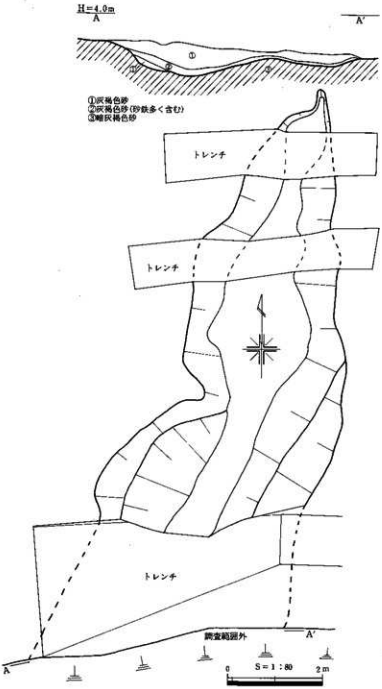
SD24（挿図136、図版12）

調査区東側の00グリッドにあり、標高約3mの平坦面に立地する。周囲は、シロスナである。

ほぼ南北に延び、長さ10m以上、幅は最も広い南側で4.1mである。上端から溝底までの深さは、北端では約5cmであるが、南へ向かい深くなり、南端では約48cmである。溝底での標高は、ほぼ水平であり2.9～3.0mである。基盤面、溝埋砂ともに灰褐色砂であるが、溝埋砂には砂鉄を比較的多量に含み、ラミナ状をなす。

埋砂中から古墳時代の土師器片が出土しているが、図化できなかった。これらは表面がやや摩耗している。

埋砂中の土器は遺構に伴うものではなく、層位的に、古代の所産と考えられる。（岡野）



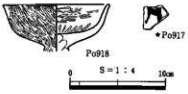
挿図136　長瀬高浜遺跡SD24遺構図

第5節　ピット群

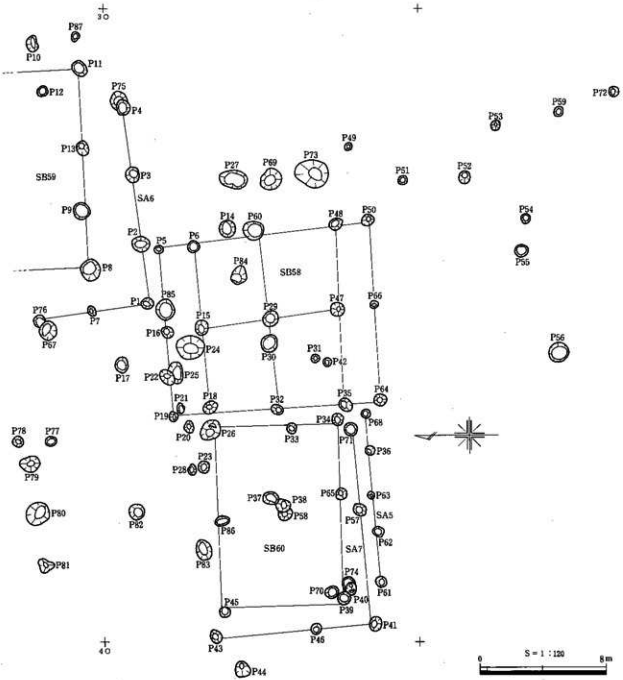
ピット群1（挿図137・138）

調査区西側の3O、3P、4Oグリッドにあり、クロスナ検出範囲のほぼ中央付近から西側にかけての、標高約4.2m～4.6mのほぼ平坦面から標高約3.5m～4.2mの北から南方向へ緩やかに傾斜する斜面に立地する。当遺構の南側には整地遺構1・2が隣接する。さらに、その2つの整地遺構に挟まれるようにSD18・19・20が密集しながら位置している。

ここでは総数87個のピットを検出した。円形・楕円形を呈するものがほとんど



挿図137　長瀬高浜遺跡ピット群1出土遺物実測図



挿図138　長瀬高浜遺跡ピット群1遺構図

で、規模はさほど大きくないが、比較的深く、しっかりと掘り込まれたようなピットがいくつもあり、後に配列等を検討した結果、ピット群1を構成する総計87個のピットのうち、平安時代ごろ（9世紀代）のものと考えられる掘立柱建物跡の柱穴になるものがあった。これらは、調査区北壁際付近のSB59、SA 6、その南西側のSB 58・60、SA 5・7等を構成するピットである。なお、それぞれのピットの詳しい規模等は、挿表8を参照されたい。

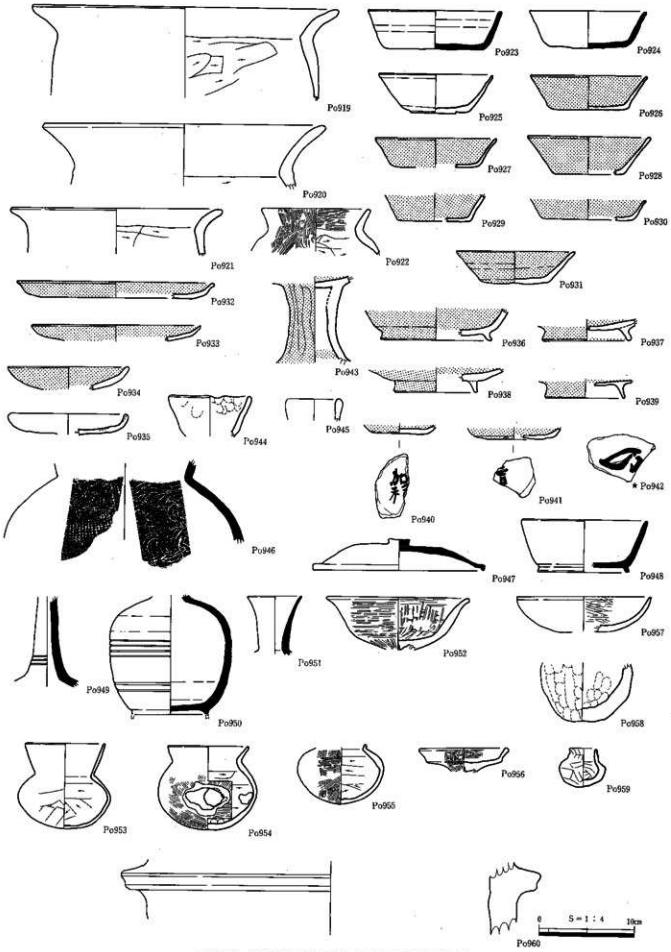
埋砂は、基本的に上層から黒褐色系・暗茶褐色系・暗褐色系に分けられる。

出土遺物は、計87個のピットのうち、35個の埋砂中から土師器片等が出土している。これらの土師器片はほとんどが小片で、時期判断できるものが非常に少なかった。しかし、図化できたものもわずかではあるが出土しており、P35（SB58—P 7）からの土師器皿、P54からの墨書土器、P83からの土師器・高杯杯部、P86（SB60—P 6）からの砥石S20などがそれらにあたる。

ピット群1の時期は、埋砂中出土遺物及び、検出面周辺グリッドから多数出土した赤色塗彩土師器等から判断して、伯耆国庁第2様式（SD37形式）、平安時代ごろ（ほぼ9世紀代）のものと考えられる。　（井上）

ピット番号	規模cm	備　考	ピット番号	規模cm	備　考	ピット番号	規模cm	備　考
P 1（SA 6－6）	40×35－42		P30	55×53－26		P59	33×30－51	
P 2（SA 6－5）	54×48－42	土師器	P31	26×24－25		P60（SB58－4）	65×61－59	
P 3（SA 6－4）	49×45－72	土師器	P32（SB58－8）	40×32－64	土師器・炭	P61（SA 5－5）	35×32－19	
P 4（SA 6－3）	47×41－85		P33	30×28－47	土師器	P62（SA 5－4）	36×30－14	
P 5（SB58—13）	26×25－26		P34（SB60－2）	38×35－18	土師器	P63（SA 5－3）	23×23－16	
P 6（SB58－3）	40×36－39		P35（SB58－7）	42×41－51	鐵	P64（SB58—14）	40×34－26	
P 7（SA 6－7）	33×25－14		P36（SA 5－2）	29×27－18	土師器	P65（SB60－3）	37×37－77	
P 8（SB59－4）	67×63－55	土師器	P37	53×39－21		P66（SB58—15）	27×24－43	土師器
P 9（SB59－3）	56×50－27	土師器	P38	45×40－40	土師器	P67	58×58－49	
P10（SA 6－1）	49×34－40	土師器	P39（SB60－4）	44×41－23	土師器	P68（SA 5－1）	30×26－8	
P11（SB59－1）	52×42－53	土師器	P40	39×35－37	土師器	P69	68×61－40	
P12	34×28－24		P41（SA 7－3）	42×39－53		P70	39×37－71	
P13（SB59－2）	44×40－66	土師器	P42	26×25－28		P71（SA 7－1）	40×38－62	
P14	51×50－53	土師器	P43（SA 7－5）	46×34－34		P72	34×31－67	土師器
P15（SB58－2）	45×42－59	土師器	P44	49×48－63		P73	87×71－63	
P16（SB58—12）	37×37－47		P45（SB60－5）	36×32－76		P74	45×（38）－74	
P17	48×46－11	土師器	P46（SA 7－4）	33×33－34		P75	56×（28）－64	
P18（SB58－1）	49×38－48		P47（SB58－6）	44×40－44		P76（SA 6－8）	37×33－24	
P19（SB58—10）	29×27－37		P48（SB58－5）	39×37－41		P77	34×29－34	
P20	40×34－42	土師器	P49	25×22－29		P78	35×32－24	
P21	37×25－25		P50（SB58—16）	38×38－45	土師器	P79	65×53－24	
P22（SB58—11）	55×44－56	土師器	P51	28×27－33	土師器	P80	77×71－34	土師器
P23	36×35－46		P52	39×35－50	土師器	P81	47×38－19	
P24	90×76－54	高杯	P53	33×29－68		P82	47×46－51	土師器
P25	68×46－19		P54	33×30－51	墨書「月」	P83	65×50－40	高杯杯部
P26（SB60－1）	73×61－95		P55	39×36－12		P84	39×48－43	
P27	90×56－46		P56	60×60－60	土師器	P85	64×59－61	土師器
P28	33×28－34		P57（SA 7－2）	41×36－81	土師器	P86（SB60－6）	46×30－88	土師器・砥石
P29（SB58－9）	48×47－57		P58	40×35－64	土師器	P87（SA 6－2）	30×24－23	土師器

挿表8　長瀬高浜遺跡ピット群1ピット一覧表



挿図139　長瀬高浜遺跡古代包含層出土遺物実測図(1)

第６節　古代包含層遺物（挿図139・140、図版69・72）

ここでは、暗茶褐色砂層から黒茶褐色砂層で出土した、奈良時代から平安時代の、遺構に伴わない遺物について触れることとする。

図化したものには、２Ｏグリッドからは、土師器杯Po929、皿Po932・933・935、製塩土器Po945、須恵器長頸壺Po951、砥石S27など、３Ｏグリッドからは、土師器杯Po925・927・928・930・、高台杯Po936～939、墨書土器Po941・942、土師器甕Po919～921、須恵器杯Po924、須恵器高台杯Po948、須恵器蓋Po947、製塩土器Po944、鉄鏃F37、釣針F39、砥石S26、敲石S28、３Ｐグリッドでは敲石S29、２Ｏグリッドと３Ｐグリッドにまたがって接合した土師器杯Po926、４Ｏグリッドからは鉈F38、不明鉄製品F40などがある。

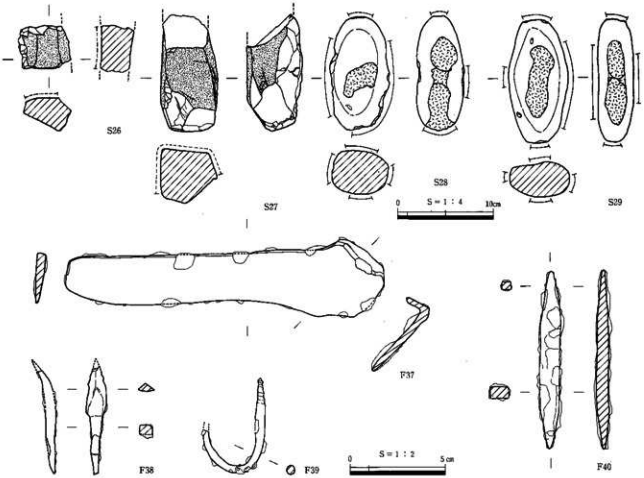
特に、３Ｏグリッドで多くの遺物が出土しており、整地遺構１などに関わるものと考えられる。

このうち、土師器杯・高台杯・皿は伯耆国庁第２様式（SD37形式）、須恵器類は、陶邑TK53～TK７併行期、おおむね８世紀後半から９世紀にかけてのものと考えられる。

製塩土器（焼塩土器）も出土しており、Po944は逆円錐形を呈す鹿蔵山式、Po945は円筒状の六連島式の可能性がある。

墨書土器のうちPo940は「加氵」、Po941は不明、絵の可能性があるPo942がある。

古墳時代遺物も含まれており、高杯Po947、小型丸底壺Po953～955、椀Po957、手捏ね土器Po958、ミニチュア土器Po959、埴輪Po960などを図化したが、これらは、古墳時代の遺構に伴うものである。（牧本）



挿図140　長瀬高浜遺跡古代包含層出土遺物実測図(2)

第７章　長瀬高浜遺跡中世の調査

第１節　中世検出面の概要

今回の調査では、中世の遺構検出面は２面確認された。シロスナ除去後の調査区内は、２Ｏグリッドの尾根状の高まりを境に、西側ではクロスナが検出された。このクロスナ上面を中世第１遺構面＝畠検出面、耕作土除去後の黒褐色砂層を中世第２遺構面とした。一方東側ではクロスナは検出されず、調査区東際で粘質土が確認された。この粘質土層は東端で最も厚く、５cm程度あり、西に向かって標高が上がるにつれ徐々に薄くなる。

第１遺構面では、畠跡約722㎡（９号畠～15号畠）、溝状遺構５基（SD８～12）、土坑４基（２OSK１～４）が検出された。本年度調査区西側に隣接する地区でも、おおよそ2,400㎡の畠跡が確認されている。時期は古代とされたが、今回の調査で下方修正されるべきものと思われる。

畠跡は、標高約4.0～5.0mの緩やかに南西～南方向に傾斜する緩斜面および平坦面に立地する。９号畠から14号畠まで６枚の畠があり、９号畠・11号畠はそれぞれSD８・SD10により明確に区画されている。11号畠をさらに掘り下げていく段階で、15号畠が検出された。各畠の埋没状況やプラント・オパール分析の結果などから、畠の作り替え、休耕地などの存在が推定される。一方、偶蹄目の足跡も大量に検出されたことから、牛馬の存在も窺える。10号畠の脇には、径２m、高さ0.1m程度の高まりが検出された。平成７年度には、同様の地形が根の痕跡であったとされており、木が植えられていたものと考えられる。

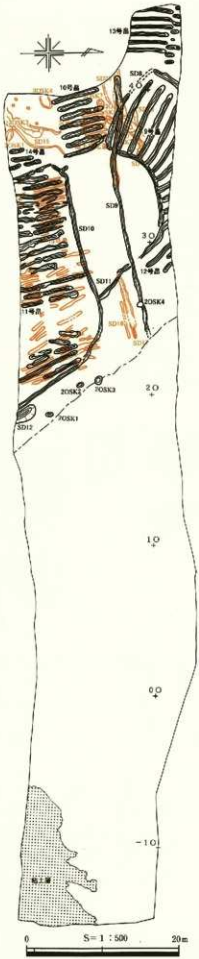
溝状遺構５基のうち、SD８・10は畠を区画するものである。SD11もなんらかの区画溝と考えられる。

クロスナ上面で検出された土坑４基は、形態および堆砂から、土葬墓と思われる。畠の区画溝外で検出されているが、堆砂がシロスナ主体であることから、畠跡より若干下るものと考える。

第２遺構面では、溝状遺構７基（SD13～17・21・23）、土坑７基（３OSK１～７）、粘土硬化面が検出された。包含層および遺構内からは古墳時代前期土師器から白磁・土師質土器まで広い時期幅の遺物が出土しているが、耕作など後世の攪乱により混入したものと思われる。時期決定のできる遺構は、３OSK６・７、SD15のみである。３OSK１・６・７は中世墓、その他の土坑、溝状遺構の性格は不明である。

畠跡→粘土硬化面→３OSK５の順に検出され、３OSK５と同一検出面の３OSK６から太宰府編年白磁Ⅳ類椀（山本Ⅳ―１a類）が、３OSK７からは同Ⅷ類椀が出土している。また、包含層中からは土師器小皿も出土していることから、第２遺構面の時期は12世紀後半ごろ、第１遺構面はそれ以降と考える。

調査区東側の粘質土では、淡水性の珪藻が検出されていることから、河川など水の働きにより生成されたもので、旧天神川の氾濫原の可能性がある。



挿図141　長瀬高浜遺跡中世遺構配置図

調査区南東端の平坦面では、この層から多量の人、偶蹄目の足跡が検出された。また、この層の^{14}C年代測定の結果は530±50B.P.（1420年）前後で、当遺跡が飛砂により埋没した時期、理由などを考えるうえで興味深い資料である。（岩崎）

第2節 畠　跡

9号畠（挿図142～144、図版13・14）

調査区西側の3O、3Pグリッドにあり、標高4.2～4.7mの北から南にむかって傾斜する緩斜面に立地する。西側に13号畠、南側に10号畠がある。北東はSD11に切られる。面積は85㎡以上である。

SD8により区画され、平面形は緩やかな弓状を呈する。遺存状態はよい。10本の畝と9本の畝間が検出できた。畝の方向は、畝1がN—64°—W、畝9がN—3°—Wで、等高線にほぼ平行する。畝幅は約108cm、畝間幅は約61cm、長さ最大11.7m、畝高約7.8cmである。他の畠跡と異なり、畝幅が大変広くなっていることが特徴である。

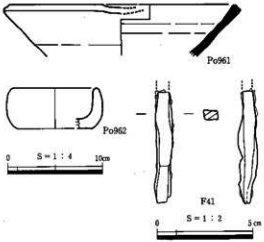
ほとんどの畝でクロスナ層にはさまれた薄いシロスナ層がみられたことから、耕作時に、飛砂の影響を受けたものと考える。畝間にはシロスナが入る。

遺物は、須恵器片口鉢Po961、手捏ね土器Po962、鉄釘F41を図化した。いずれも畠跡を検出した段階で、旧地表面に表出していたものである。Po961は、いわゆる東播系須恵器で12～13世紀ごろのものと考えられるが、畠跡に伴うものではない。

遺存状態が最もよく、最も新しい畠跡と考えられる。また、プラント・オパール分析では、耕作が行われた可能性が指摘されたが、形態が異なり、他の区画の畠と異なる作物が栽培された可能性がある。（岩崎）

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝1	7.4	115	11.3	畝間1	10.1	69
畝2	10.4	123	6.6	畝間2	10.0	62
畝3	9.7	116	5.2	畝間3	9.4	63
畝4	8.8↑	107	9.2	畝間4	8.8↑	56
畝5	6.5↑	102	3.6	畝間5	5.7↑	55
畝6	4.1↑	97	8.0	畝間6	3.1↑	55
畝7	2.2↑	98	6.3	畝間7	1.6↑	58
畝8	1.3↑	92	5.2	畝間8	1.1↑	67
畝9	0.9↑	111	11.0	畝間9	0.7↑	60
畝10	0.7↑	115	11.7			
平均	5.2↑	107.6	7.8	平均	5.6↑	60

挿表9　長瀬高浜遺跡9号畠規模一覧表（注↑は数値以上）



挿図142　長瀬高浜遺跡9号畠出土遺物実測図

10号畠（挿図143・144、図版13・14）

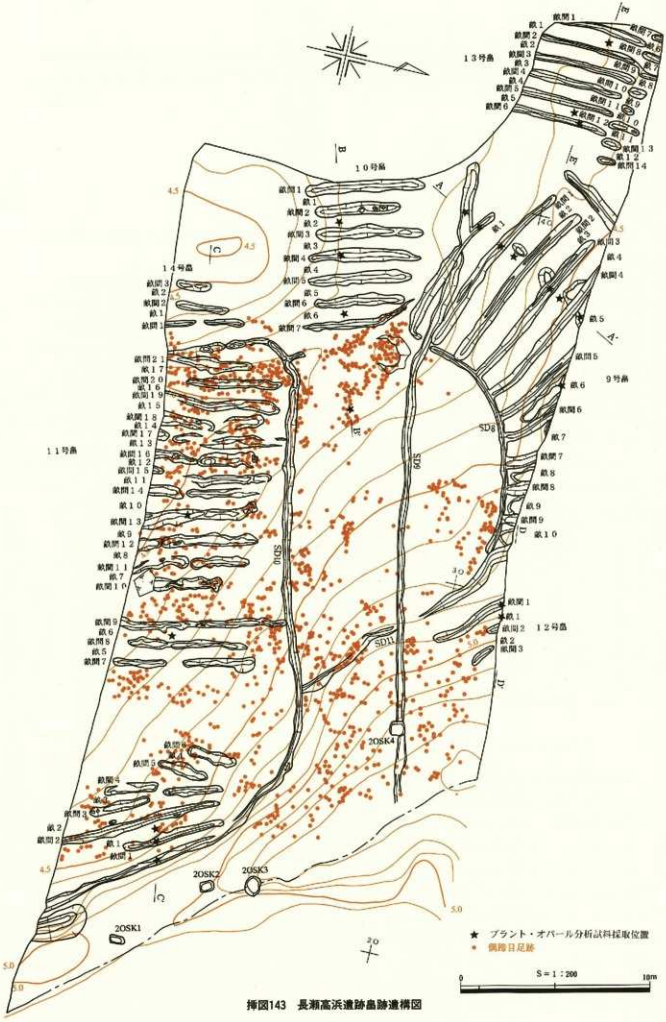
調査区の最も南西の3Oグリッドにあり、標高4.2～4.3mのわずかに北側へ傾斜する部分に立地する。北側約2mには9号畠、南側約4mには14号畠がある。

遺存状態は悪く、畝間を確認することで畠の存在が判明した。畝は6本確認できたが高まりほとんどがなく、長さ約4.71m、幅64.7cm、畝高約6.2cmを測る。畝間は7本を確認し、長さ約5.25m、幅約61.3cmを測る。畝方向は、N—15°—Wでほぼ南北を向き、等高線に対して直交方向に延びる。面積は、46㎡以上である。

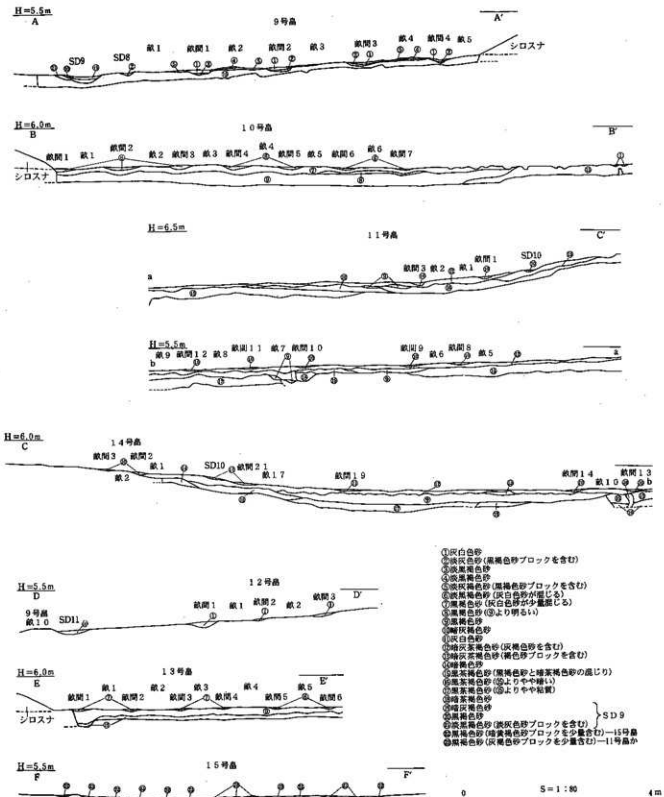
畝間の埋砂は、淡黒褐色砂が単層で入る。

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝1	4.5	60	9	畝間1	6.3	58
畝2	4.5	70	5	畝間2	4.52	67
畝3	5.6	68	6	畝間3	5.54	66
畝4	5.5	55	8	畝間4	5.94	70
畝5	4.8	60	5	畝間5	5.63	61
畝6	3.4	75	4	畝間6	4.81	55
				畝間7	4.0	52
平均	4.71	64.7	6.2	平均	5.25	61.3

挿表10　長瀬高浜遺跡10号畠規模一覧表（注↑は数値以上）



挿図143　長瀬高浜遺跡島跡遺構図



挿図144　長瀬高浜遺跡畠跡土層断面図

出土遺物には、古墳時代の土師器片等があるが伴うものではなく、正確な時期は不明であるが、畝の遺存状態が悪いことから、近接する9号畠より古い時期のものと考えられる。

畝間埋砂のプラント・オパール分析では、シバのプラント・オパールが大量に検出され、作物収穫後にはシバが繁茂していたものと考えられる。（牧本）

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝1	5.5	75	10.3	畝間1	5.5	45
畝2	7.1↑	68	6.3	畝間2	8.5↑	51
畝3	6.2↑	37	3.1	畝間3	7.2	50
畝4	1.6↑	75	2.0	畝間4	2.8	50
畝5	6.4	67	6.4	畝間5	2.7	65
畝6	6.3	78	5.7	畝間6	2.6	65
畝7	4.7↑	60	9.0	畝間7	7.9	48
畝8	6.2↑	65	6.2	畝間8	6.3	50
畝9	6.1↑	68	7.0	畝間9	8.7↑	42
畝10	5.9↑	66	6.4	畝間10	3.6↑	57
畝11	5.5↑	35	3.1	畝間11	6.3↑	50
畝12	5.4↑	57	2.9	畝間12	6.3↑	58
畝13	5.4↑	43	4.0	畝間13	6.2↑	58
畝14	5.3↑	47	3.5	畝間14	5.7↑	55
畝15	4.7↑	53	2.8	畝間15	4.6↑	44
畝16	5.1	68	1.8	畝間16	5.4↑	67
畝17	3.5↑	50	1.1	畝間17	6.7↑	58
				畝間18	5.3↑	60
				畝間19	6.0↑	50
				畝間20	5.1	68
				畝間21	4.4↑	49
平均	5.3↑	59	4.8	平均	5.6↑	54.2

挿表11　長瀬高浜遺跡11号畠規模一覧表（注↑は数値以上）

11号畠（挿図143・144、図版13・14）

調査区西側の2O、3Oグリッド南側にある。畝1～4は標高4.4～4.8mの北東から南西にむかって傾斜する緩斜面に立地する。

畝5～17は標高4.3～4.2mのほぼ平坦面に位置する。浅い皿状にくぼみ、畝15付近が標高4.0m程度と最も低くなる。西側に14号畠がある。面積は225㎡以上ある。

SD10により区画され、平面形は隅丸長方形を呈するものと思われる。偶蹄目（ウシ）の足跡により攪乱をうけており、遺存状態は非常に悪い。17本の畝と21本の畝間が検出できた。畝の方向は概ねN—15°—Wで、等高線に斜行する。ただし、畝4および畝11～17の南半分は14号畠とほぼ同じ軸方向になり、畠の作り替えがあった可能性がある。畝幅は約59cm、畝側幅は約52cm、長さ最大7.1m以上、畝高約4.8cmである。畝1～10は比較的遺存状態がよく、畝高も6cm程度あるが、畝11～17は4cm以下と残りが悪い。

畝間の埋砂にはシロスナが混じる。足跡にもシロスナが入っており、耕作土であるクロスナは、粘性の水分を含む腐植砂であったものと考えられる。

プラント・オパール分析では、イネ科の他、シバのプラント・オパールが多量に検出されており、稲作後休耕し、草原状態に戻っていたものと考えられ、偶蹄目（ウシ）が放たれていた可能性がある。（岩崎）

12号畠（挿図143・144、図版13・14）

調査区西側、ほぼ中央北側の2O、2Pグリッド付近にあり、標高約5m前後の北東から南西に向かう緩やかに傾斜する約3°の斜面に立地し、面積は11㎡以上である。

畝の遺存状態は非常に悪い。全部で2本の畝、3本の畝間を検出しており、畝の向きはN—41°—Wで等高線に対し平行する。畝の幅は、約60cm、畝間は50cm、長さは4m以上、高さは最大で4cmである。なお、周囲に道や畦になるような部分は全く認められなかった。

外周はSD11によって区画されたと考えられ、SD11は、9号畠を区画するSD8を切るように位置する。

本来は区画された範囲内に畝が存在していたと考えられるが、この付近は調査区の中でも最も標高が高い場所にあたるところから、今回調査した遺跡範囲の中でも季節風等の強風による浸食の影響を一番受けやすかった場所であったと考えられ、そのため、今回検出できた畝・畝

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝1	9.0↑	62	4.0	畝間1	4.34↑	54
畝2	5.2↑	64	2.4	畝間2	0.88↑	56
				畝間3	1.46↑	38
平均	7.1↑	63	3.2	平均	2.22↑	49.3

挿表12　長瀬高浜遺跡12号畠規模一覧表（注↑は数値以上）

間の数がわずかであった。

畝は淡黒褐色砂（シロスナ少量を含む）層で、褐色砂の牛痕が確認できた。また、畝間は淡灰色砂（黒褐色砂ブロック少量含む）層が単層で入る。

出土遺物は、土師器片、白磁片、鉄滓が出土しているが伴うものではない。

時期ははっきりとしないが、周辺遺構との関連等から判断して、SD８を伴う９号畠よりも新しい時期のものと考えられる。

なお、プラント・オパール分析の結果、稲作が行なわれていた可能性が指摘された。（井上）

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝１	5.0↑	92	4	畝間１	4.5 ↑	32
畝２	5.0↑	73	4	畝間２	5.1 ↑	30
畝３	4.9↑	69	3	畝間３	5.4 ↑	39
畝４	4.8↑	70	4	畝間４	4.8 ↑	44
畝５	4.8↑	75	4	畝間５	4.9 ↑	38
				畝間６	5.0 ↑	35
平均	4.9↑	75.8	3.8	平均	4.71	43.6
畝６	0.8↑	76	3	畝間７	0.5 ↑	30
畝７	1.0↑	68	3	畝間８	1.0 ↑	36
畝８	1.0↑	60	3	畝間９	1.0 ↑	36
畝９	1.2↑	55	6	畝間10	0.94	50
畝10	1.5↑	52	5	畝間11	0.7	41
畝11	1.9↑	63	6	畝間12	1.67	39
畝12	2.0↑	52	4	畝間13	1.0	48
				畝間14	1.0	34
平均	1.34↑	60.9	4.3	平均	1.11	44.9

挿表13　長瀬高浜遺跡13号畠規模一覧表（注↑は数値以上）

13号畠（挿図143・144、図版13・14）

調査区北西際の４Ｏ・４Ｐグリッドにあり、標高4.2～4.4mのわずかに南側へ傾斜する部分に立地する。東側約２mには９号畠がある。

遺存状態は悪く、畝間を確認することで畠の存在が判明した。畝・畝間は北側調査区際のものと、南側のもので互い違いに検出されたが、高まりはほとんどない。南側の畝は１～５の５本で、長さ約4.9m以上、幅約75.8㎝、高さ約3.8㎝を測る。北側の畝は６～12の７本確認でき、長さ約1.34m、幅60.9㎝、畝高約4.3㎝を測る。

南側の畝間は１～６の６本確認し、長さ約4.71m以上、幅約43㎝を測る。北側の畝間は７～14の８本確認でき、長さ約1.11m以上、幅約44㎝を測る。畝方向は、N－５°－Eでほぼ南北を向き、等高線に対して直交方向に延びる。面積は38㎡以上である。

畝間の埋砂は、淡黒褐色砂、黒褐色砂のいずれかが単層で入る。

出土遺物には、土師器小皿片、鉄釘片などがあるが図化できなかった。正確な時期は不明であるが、畝の遺存状態が悪いことから、近接する９号畠より古い時期のものと考えられる。

畝間埋砂のプラント・オパール分析では、シバのプラント・オパールが大量に検出され、作物収穫後にはシバが繁茂していたものと考えられる。（牧本）

14号畠（挿図143・144、図版13）

調査区の最も南西の３Ｏグリッドにあり、標高4.0～4.3mのわずかに東側へ傾斜する部分に立地する。北側約４mには９号畠がある。

遺存状態は悪く、畝間を確認することで畠の存在が判明した。畝は２本確認できたが高まりはなく、長さ約2.6m以上、幅約65.0㎝、畝高約3.0㎝を測る。畝間は３本を確認し、長さ約2.91m以上、幅約38㎝を測る。畝間１は他のものとは平行にならない。畝方向は、おおむねN－５°－Wでほぼ南北を向き、等高線に対して平行方向に延びる。

畝間の埋砂は、淡黒褐色砂が単層で入る。

出土遺物には、古墳時代の土師器片等があるが伴うものではなく、正確な時期は不明であるが、畝の遺存状態が悪いことから、近接する９号畠より古い時期のものと考えられる。

畝間埋砂のプラント・オパール分析では、シバのプラント・オパールが大量に検出され、作物収穫後にはシバ

が繁茂していたものと考えられる。　（牧本）

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝1 畝2	3.2↑ 2.0↑	60 70	2 4	畝間1 畝間2 畝間3	4.1 ↑ 2.84 1.80	30 36 48
平均	2.6↑	65.0	3.0	平均	2.91↑	38

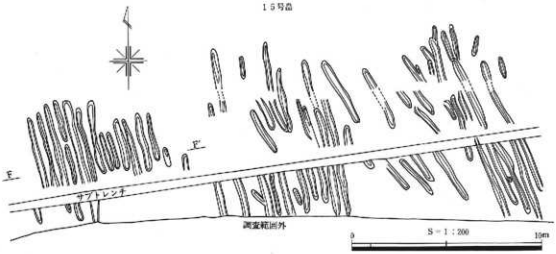
挿表14　長瀬高浜遺跡14号畠規模一覧表（注↑は数値以上）

15号畠（挿図145、図版14）

調査区西側の２０、３０グリッドの南側にあり、11号畠の耕作土掘り下げ中に検出された。

11号畠の畝間と重なるものも多いが、主軸方向が全く異なるものもあり、何度も畝の作りかえが行われていたと思われる。また11号畠の区画溝であるSD10の外にまで延びるものもあり、畠の区画も恒常的なものではなかったと思われる。遺存状態が非常に悪く、短く途切れている部分がある。畝間は非常に浅く、ほとんどのものが２cm程度である。

畝間の堆砂は、黒褐色砂と、シロスナに相当する暗黄褐色砂または灰褐色砂が混じっており、常に飛砂の影響を受けていたようである。　（岩崎）



挿図145　長瀬高浜遺跡15号畠遺構図

文中写真④　畠跡検出作業風景

第３節　溝状遺構

ＳＤ８（挿図143・144、図版14）

調査区西側の３Ｏ、４Ｏ、３Ｐ、４Ｐグリッドにあり、９号畠を区画する。南側ではSD９を切り、東はSD11に切られる。９号畠を全周せず、南西隅が途切れる。

西辺・南辺はほぼ直線状であるが、東辺は緩やかな弧を描く。西辺は、断面一部二段掘りになり、幅45～62cm、深さ9.1～14.5cmを測る。南辺は、断面浅い皿状で、幅69～40cm、深さ7.2～11.5cmを測る。東辺は、断面浅い皿状で、幅23～30cm、深さ4.7～1.7cmを測り、他辺と比べ浅く狭い。

埋砂はシロスナが入り、黒褐色砂ブロックが混じる。（岩崎）

ＳＤ９（挿図143・144・146、図版15）

調査区西側の２Ｏから４Ｏグリッド中央やや北寄りにあり、調査区西側の標高4.1mからクロスナが途切れる境付近の標高5.3mにかけて、ほぼ直線状に延びる。

長さ33m以上、幅0.26～0.88m、深さ７～12cmを測り、断面U字状を呈する。９号畠に伴うと考えられるSD８および中世墓と考えられる２OSK４に切られ、12号畠に伴うと考えられるSD11にも切られている。

埋砂は、西側は３層に分層できたが、東側は①層が単層ではいる。

出土遺物は、埋砂層中から古墳時代前期の土師器が出土しているが、伴うものではなく、検出層序から中世後半頃のもので、９号畠以前の畠跡に関わる区画溝と考えられる。（牧本）

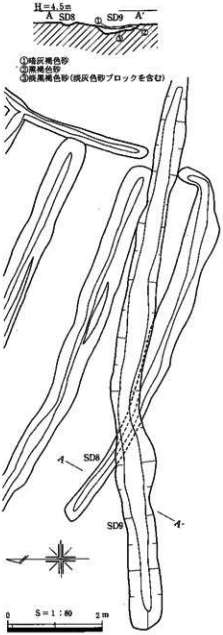
ＳＤ10（挿図143・144、図版13・14）

調査区西側の２Ｏ、３Ｏグリッドにあり、11号畠を区画する。東にはSD12が近接し、西には14号畠がある。北東コーナー付近にはSD11が接続する。

西辺は北半では溝状を呈するが、南側は畠を区画するための傾斜の変換点になる。規模は、幅15～40cm、深さ4.4～10cm程度で、断面は浅い皿状から逆台形を呈す。幅は狭いが、しっかり掘り込まれている。

埋砂は暗灰褐色砂が単層で入る。

11号畠に伴うことから、中世後半期のものであるが、９号畠より古いものと考える。（岩崎）



挿図146　長瀬高浜遺跡ＳＤ９西側遺構図

ＳＤ11（挿図143・147、図版14）

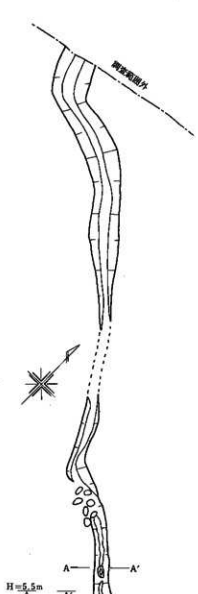
調査区西側の３Ｐから２Ｏグリッドにあり、標高4.7mの南西側に緩やかに傾斜する斜面に沿うように、一部途切れながら走る。北東側は調査区外に延び、南東側はSD10と接している。

長さ13.4m以上、幅0.25～0.6m、深さ３～11cmを測り、断面U字状を呈す。中央部は遺存状態が悪いが、SD９を切っていると考える。また、この部分は、偶蹄目（ウシ）の足跡が多数認められ、踏み荒らされたものと考えられる。

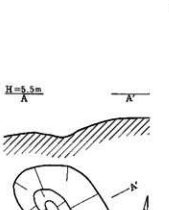
埋砂は、暗灰褐色砂が単層で入る。

出土遺物には、白磁片、古墳時代前期の土師器片、鉄滓があるが伴うものではい。

検出層序から中世後半ごろのもので、12号畠に伴うものと考えられ、最も新しい遺構の一つである。（牧本）



挿図147　長瀬高浜遺跡ＳＤ11遺構図



挿図148　長瀬高浜遺跡ＳＤ12遺構図

ＳＤ12（挿図148、図版13・14）

調査区西側の２Ｏグリッドにあり、標高4.7～4.9mの南西に向かって傾斜する緩斜面に立地する。尾根状の高まり部分の頂部近くにある。東側には11号畠の区画溝であるSD10が近接する。南側は調査範囲外にあり、完掘できていない。

形態は丸みを帯びた直線状を呈し、主軸方向はN—28°—Wである。規模は、残存部分で長さ2.8m、幅1.5m、深さ0.35mを測る。断面は上部は緩やかで、下部は傾斜をつけた二段掘りである。

埋砂はシロスナが単層で入る。

時期決定のできる遺物は出土していないが、クロスナ上面で検出できたことから、中世後半ごろのものと考える。（岩崎）

ＳＤ13（挿図149・150）

調査区西側の３Ｏ、３Ｐグリッドに立地する。黒茶褐色砂面で検出した。

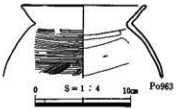
北東から南西へ蛇行する。南西方向へはさらに延びるものと考えられるが、掘り下げのため確認できなかった。中程でSD14に、南西側において３OSK２に切られている。幅は、北東側では0.7～1.0m、最も広い南西側で最大1.9mを測る。溝の上端から溝底までは、10～15cmである。溝底の標高は、北東側端で約4.2m、南西方向へ向かい低くなり、南西側端では約4.0mである。

埋砂は黒褐色砂、黒茶褐色砂を主体とする。

埋砂中から土師器甕Po963が出土しているが伴うものではない。

埋砂中の土器は、古墳時代前期のもので、混入したものと考えられる。検出層序が、隣接する粘土硬化面と同一であること、埋砂が黒褐色系のみであることから、中世に下る可能性がある。（岡野）

挿図149　長瀬高浜遺跡ＳＤ13遺構図



挿図150　長瀬高浜遺跡SD13出土遺物実測図

ＳＤ14（挿図151）

調査区西側の３Ｏグリッドに立地し、SD13を切る。黒茶褐色砂面で検出した。

東西方向へ弧状にのびる。幅は最大0.8m、溝の上端から溝底までは、最も深い南西側で約15cmのほかは、７～10cmである。埋砂は黒茶褐色砂を主とする。

南西側の溝底から、火葬骨片が僅かに出土した。

SD13との切り合い関係から、中世前半期の可能性がある。（岡野）

挿図151　長瀬高浜遺跡SD14遺構図

ＳＤ15（挿図152・154、図版15）

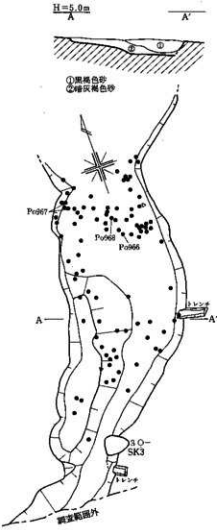
調査区西側の３Ｏグリッド南西調査区際にあり、標高4.0～4.4mの緩やかに北側に傾斜する斜面に立地する。南側で、３OSK３が掘り込まれている。

南側は調査区外に延び、北側は十分検出できなかったため、正確な規模は不明であるが、長さ9.4m以上、幅1.01～2.50m、深さ19～26cmを測る。一部二段掘りになっているが、おおむね断面U字状を呈す。

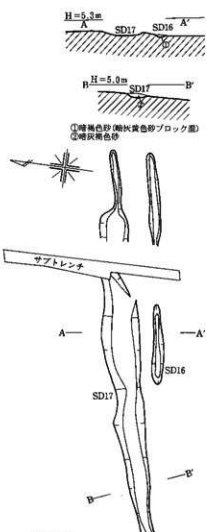
埋砂は、２層に分層できた。

出土遺物は、埋砂中から多量の古墳時代前期の土師器片が出土しているが、伴うものではない。上層から、底部糸切り底の小皿Po964が出土している。その他に、鉄滓も出土している。

出土遺物および検出層序から、中世前半ごろのものと考えられる。性格は不明である。（牧本）



挿図152　長瀬高浜遺跡SD15遺構図

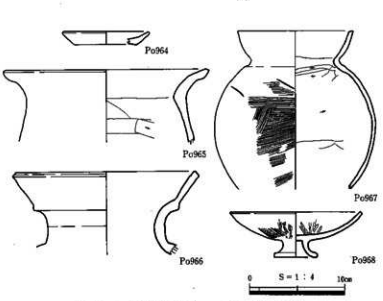


挿図153　長瀬高浜遺跡SD16・17遺構図

ＳＤ16・17（挿図153、図版15）

調査区西側の２Ｏグリッドにあり、標高4.7～5.3mの南西に向かって傾斜する緩斜面に立地する。SD16とSD17は、30～50cm程度離れてほぼ平行してあり、それぞれの主軸方向はN—80°—E、N—72°—Eである。また、第１遺構面で検出されたSD９と平行しているが、その性格は不明である。

SD16は直線状で、一部途切れるが長さ4.8m、幅0.15～0.25m、深さ約１～７cmを測る。断面は浅い皿状を呈す。埋砂は暗褐色砂にシロスナを含む。



挿図154　長瀬高浜遺跡SD15出土遺物実測図

SD17は直線状を呈し、東側は急に狭くなる。規模は、長さ8.6m、幅0.3～0.8m、深さ約1～7cmを測る。断面は浅い皿状を呈す。埋砂は暗灰褐色砂単層である。

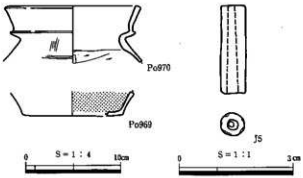
いずれも時期決定のできる遺物は出土していないが、層位的にみて中世前半のものと考える。（岩崎）

ＳＤ21（挿図155・156、図版15）

調査区西側の３０、４０グリッドに立地する。黒茶褐色砂面で検出した。

東西方向の長さ15.3m以上、幅は0.6～0.9mである。上端から溝底までは、12～21cmである。溝底における標高は、東端では3.9m、西へ向けてやや低くなり、西端では3.8mである。埋砂は、黒褐色砂、黒茶褐色砂を主とする。

遺物は、埋砂中から古墳時代前期の土師器片が出土したが、隣接する粘土硬化面と同一層位内で検出したこと、埋砂が黒褐色系を主とすることから、SD13、14、３OSK２同様、中世に下る可能性がある。（岡野）



挿図155　長瀬高浜遺跡SD21出土遺物実測図

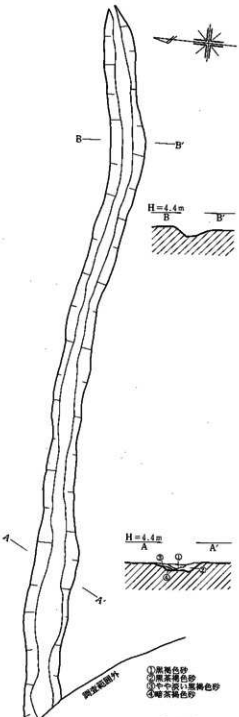
ＳＤ23（挿図157・158、図版15）

調査区西側の３０、４０グリッドに立地する。南西から北東方向へのびる。SD13、SD21、３OSK３に切られる。

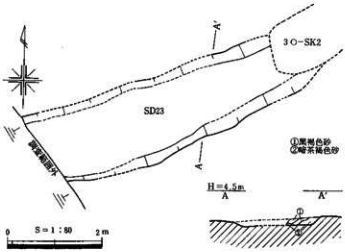
長さ5.1m以上、幅約1.4～1.6mである。上端から溝底までは４～12cmである。溝底での標高は、北東側で約4.3m、南西側で約4.35mである。埋砂は、黒褐色砂、暗茶褐色砂を主とする。

埋砂中から、土師器小片が出土した。

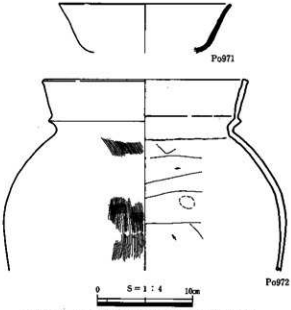
埋砂中からの出土遺物、切り合い関係から、中世ごろの所産と考え得る。（岡野）



挿図156　長瀬高浜遺跡SD21遺構図



挿図157　長瀬高浜遺跡SD23遺構図



挿図158　長瀬高浜遺跡SD23出土遺物実測図

第４節　中世墓・土坑

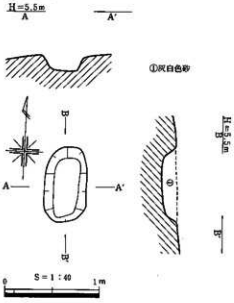
２ＯＳＫ１（挿図159、図版16）

調査区西側の１Ｏグリッド南西側にあり、標高5.0mのクロスナが途切れる境付近に立地する。北西側約５mには２OSK２がある。

平面長楕円形を呈し、長軸0.78m、短軸0.44mを測る。深さ0.15mで、断面逆台形状を呈す。

埋砂は、灰白色砂が単層で入る。検出面はクロスナ上面であったが、本来はシロスナから掘り込まれたものと考えられる。

出土遺物はなく、時期・性格は不明であるが、埋砂がシロスナであることから、中世墓の可能性がある。　（牧本）



挿図159長瀬高浜遺跡２OSK１遺構図

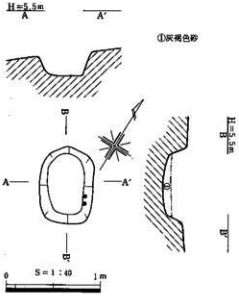
２ＯＳＫ２（挿図160、図版16）

調査区西側の２Ｏグリッド南東側にあり、標高5.0mのクロスナが途切れる境付近に立地する。北側約1.5mには２OSK３、南東側約５mには２OSK１がある。

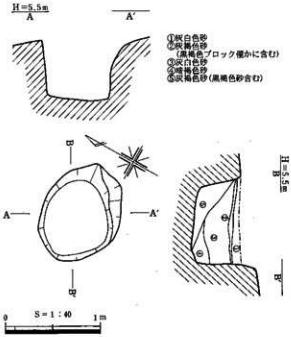
平面隅丸長方形を呈し、長軸0.82m、短軸0.56mを測る。深さ0.19cmで、断面逆台形状を呈す。

埋砂は、下層は灰褐色砂が入るが、上層は灰白色砂である。検出面はクロスナ上面であったが、本来はシロスナから掘り込まれたものと考えられる。

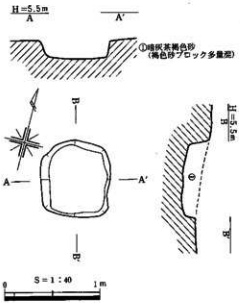
出土遺物はなく、時期・性格は不明であるが、埋砂がシロスナ主体であることから、中世墓の可能性がある。　（牧本）



挿図160　長瀬高浜遺跡２OSK２遺構図



挿図161　長瀬高浜遺跡２OSK３遺構図



挿図162　長瀬高浜遺跡２OSK４遺構図

２OSK３（挿図161、図版16）

調査区西側の２Oグリッドにあり、標高5.3mのクロスナが途切れる部分の最も高い位置に立地する。南側約1.5mには２OSK２がある。

平面不整円形を呈し、長軸0.94m、短軸0.86mを測る。深さ0.64cmで、断面逆台形状から一部袋状を呈す。

埋砂は、５層に分層できた。上層は灰白色砂主体であるが、下層は灰褐色砂が入る。検出面はクロスナ上面であったが、本来はシロスナから掘り込まれたものと考えられる。

出土遺物には、古墳時代前期の土師器片が出土しているが伴うものではなく、正確な時期・性格は不明であるが、埋砂がシロスナ主体であることから、中世墓の可能性がある。（牧本）

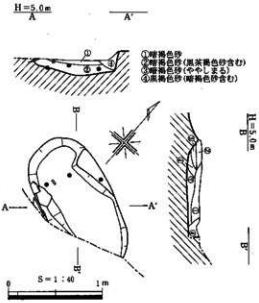
２OSK４（挿図162、図版16）

調査区西側の２Oグリッドにあり、クロスナが途切れる部分から約６m西側の、標高4.7～4.8mのわずかに南西傾に傾斜する斜面に立地する。南東側約10mには２OSK３がある。

平面不整方形を呈し、長軸0.82m、短軸0.75mを測る。深さ最大0.22cmで、断面逆台形状を呈す。

埋砂は、下層は暗灰茶褐色砂が入るが、上層は灰白色砂が入る。検出面はクロスナ上面であったが、本来はシロスナから掘り込まれたものと考えられる。

出土遺物はなく、正確な時期・性格は不明であるが、中世墓の可能性がある。（牧本）



挿図163　長瀬高浜遺跡３OSK１遺構図

3OSK1（挿図163、図版16）

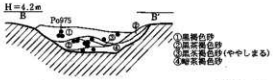
調査区西側の3Oグリッド南側調査区際にあり、標高4.5mのほぼ平坦面に立地する。西側約2mにはSD15、3OSK3がある。

南側は調査区外に延びており、正確な規模、形態は不明であるが、平面長楕円形を呈するものと考えられる。長さ1.15m以上、幅0.76mを測る。深さ最大0.18mを測り、断面不整台形を呈す。

埋砂は4層に分層でき、埋砂中から多数の安山岩板石が出土している。

出土遺物には、埋砂中から土師器片、須恵器片、人骨片の他、古墳時代前期の土師器片が多数出土している。

出土遺物および検出層序から中世墓と考えられ、本来石棺状の埋葬施設であったものと考えられる。（牧本）



3OSK2（挿図164・165、図版16・70）

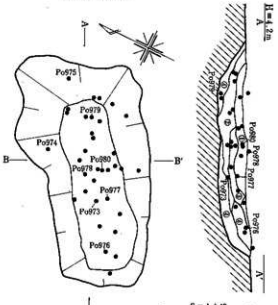
調査区西側の3Oグリッドに立地する土坑である。SD13の掘り下げ中に検出した。SD13を切り、掘り込まれている。

規模は、土坑上面において2.4m×1.1m、底面では1.8m×0.57mの不整な長方形を呈する。上端から土坑底面までの深さは、最大0.3cmを測る。

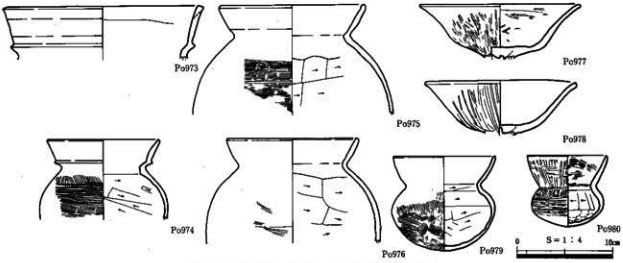
埋砂は黒褐色砂、黒茶褐色砂、暗茶褐色砂を主とする。堆積状況は、順層であり自然堆積の様相を呈する。

土坑内から土師器甕、高杯、小型丸底壺など8個体以上が出土した。底面から浮いた状態のものが大部分であり、一次堆積層内の土器は僅かである。ほとんどの個体は破損しており、土坑内での接合関係は認められない。

土坑内から出土した土器は、古墳時代前期の土師器に限定されるが、SD13が中世に下る可能性が高いことから、3OSK2も、中世以降に比定し得る。（岡野）



挿図164　長瀬高浜遺跡3OSK2遺構図



挿図165　長瀬高浜遺跡3OSK2出土遺物実測図

3OSK3（挿図166、図版17）

調査区西側の3Oグリッドにあり、標高4.2mのほぼ平坦面に立地する。西側はSD15と接し、東側約2mには3OSK1がある。

平面不整三角形を呈し、長軸0.54m、短軸0.47m、深さ0.26mを測り、断面一部袋状を呈す長方形である。

埋砂は3層に分層でき、いずれも暗褐色系の砂である。

出土遺物には、埋砂中から土師器片がわずかに出土している。

検出層序から中世墓の可能性が考えられる。（牧本）

挿図166　長瀬高浜遺跡 3OSK3遺構図

3OSK4（挿図167、図版17）

調査区西側の3Oグリッド西側調査区際にあり、標高4.8～4.9mのわずかに北側に傾斜する斜面に立地する。東側約3mにはSD15がある。

西側は調査区外に延びており、正確な形態、規模は不明であるが、平面不整楕円形を呈すものと考えられる。

長軸1.5m以上、短軸1.15m、深さ6～12cmを測る。

埋砂は、2層に分層でき、①層中からシジミ貝総計2.25kgが出土している。

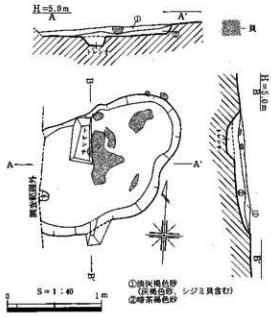
出土遺物には、古墳時代前期の土師器片が混入していたが、遺構に伴う遺物は検出されなかった。

検出層序から、中世前半期のものと考えられ、シジミ貝といった残滓が出土していることから、ゴミ捨て穴であったものと考えられる。（牧本）

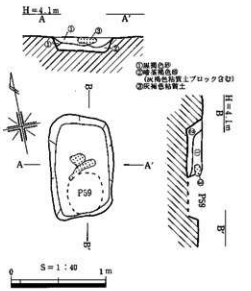
3OSK5（挿図168、図版17）

調査区西側の3Oグリッドに立地する。粘土硬化面の下層で検出した。

規模は、上面において1.1m×0.68m、底面で0.98m×0.56mの長方形を呈し、深さは最大0.15mを測る。南側半分はP59に切られている。埋砂は、黒茶褐色砂と暗茶褐色砂を主とし、これに直径10～15cm程度の灰褐色粘質



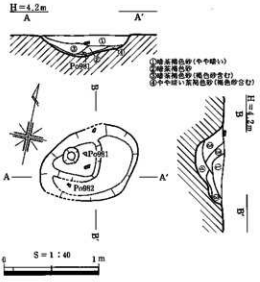
挿図167　長瀬高浜遺跡 3OSK4遺構図



挿図168　長瀬高浜遺跡 3OSK5遺構図

土のブロックが数個体含まれる。遺物は出土しなかった。

検出層序から、中世前半ごろの遺構と判断できるが、性格は不明である。（岡野）



挿図169　長瀬高浜遺跡３OSK６遺構図

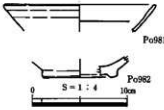
３OSK６（挿図169・170、図版17・70）

調査区西側の３Oグリッドにあり、３OSK５の北約2.5mに立地する。

規模は、上面が1.1m×0.77m、底面が0.9m×0.55mの楕円形を呈し、深さは最大0.3mを測る。埋砂は暗茶褐色砂、茶褐色砂を主体とし、これに土壙底面付近の基盤である褐色砂がブロック状に含まれる。

遺物は、埋砂中から白磁椀Po981、982、炭化物が出土した。白磁椀は、底面から10cm程度浮いた状態で出土した。このうちPo981は、遺構外出土の破片と接合したことから、本来はさらに深い土壙が攪乱された結果と推察される。

土壙内から白磁と炭化物が出土する状況から判断して、本遺構は中世墓と考え得る。遺物の時期は、Po981が白磁Ⅷ類、Po982が白磁Ⅳ類であることから、12世紀後半から13世紀ごろに比定される。（岡野）



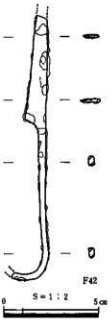
挿図170　長瀬高浜遺跡３OSK６出土遺物実測図

３OSK７（挿図171・172、図版17・72）

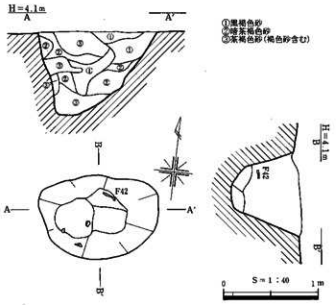
調査区西側の３Oグリッドにあり、SK５の北西約2.5m、SK６の南西約１mに立地する。

規模は上面が1.28m×0.9m、底面が0.76m×0.45mの楕円形を呈し、深さは最大0.9mを測る。埋砂は黒茶褐色砂、暗茶褐色砂、茶褐色砂がブロック状に堆積する。

遺物は、鉄製鋏F42が出土している。底面から約15cm浮いた状態で出土した。鋏の刃部は、一方が欠如している。遺物、遺構の形状から中世墓と考えられる。（岡野）



挿図171　長瀬高浜遺跡３OSK７出土遺物実測図



挿図172　長瀬高浜遺跡３OSK７遺構図

第5節　ピット群

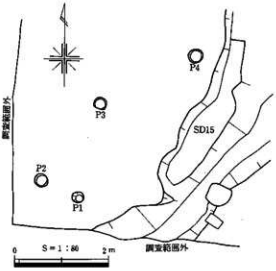
ピット群2（挿図173、図版15）

調査区西側の3Oグリッド南西調査区際にあり、標高約4.4mのほぼ平坦面に立地する。東側には、SD15がある。

4個のピットを検出した。それぞれの規模は、P1（24×23−15）cm、P2（29×26−23）cm、P3（26×25−18）cm、P4（30×28−14）cmを測る。いずれも小型で浅いピットで、不規則に並んでいる。

埋砂は、淡黒褐色砂を基本とし、1～2層に分層できた。

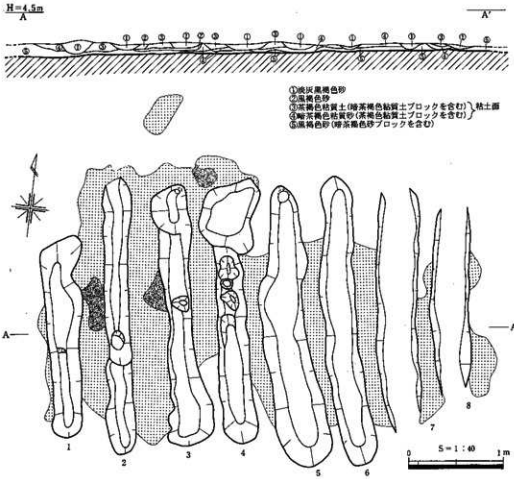
出土遺物はなく、正確な時期は不明であるが、検出層序から中世前期と考えられる。性格は不明である。（牧本）



挿図173　長瀬高浜遺跡ピット群2遺構図

第6節　粘土硬化面（挿図174、図版18）

調査区西側際近く、3Oグリッドの西側中央で標高約4.1m前後のほぼ平坦面に立地している。北側約0.5mにSD21が、同じく南側約1.9mにSD15がある。この粘土硬化面の上面には、検出できた中世畠跡の一つである10号畠が位置し、この黒褐色砂を基本とした畠跡検出面を約10cm弱掘り下げた時点で、しっかりと締め固められたよ



挿図174　長瀬高浜遺跡粘土硬化面遺構図

うな粘土面が検出された。

粘土面は、長軸約4.5m、短軸約3.0mの範囲で、厚さ約10～18cm程度に貼られ、そこから幅約25～57cm程度、長さ約1.7～3.0m程度の南北方向にのびる８本の溝が掘り込まれていた。それぞれの溝の規模等は、挿表15を参照されたい。また、粘土面の西側で溝と溝の間の比較的残りがよい部分、３か所でそれぞれ範囲は小さいながらも焼土面が検出された。この焼土面は、いずれも埋砂の③・④層にあたる部分で、厚さは５cm程度のものであった。

埋砂４層からなる。奈良から平安時代ごろの遺構検出面であると思われる⑤層の上層に、10～18cm程度の厚さで敷き詰められた③・④層があり、この粘土面を掘り込んで、８本の溝が作られている。なお、掘り込まれた溝の埋砂は①・②層にあたり、畠耕作面の埋砂よりやや淡い淡灰黒褐色砂を基本とするものであった。

粘土硬化面の時期は、下層から中世の白磁片１点が出土した中世墓３OSK７が検出されており、少なくとも３OSK７が掘り込まれた時期よりも新しい時期（中世頃）のものであると考える。粘土硬化面の性格は、遺構に伴う遺物が出土していないため不明である。（井上）

溝番号	規　模cm	溝番号	規　模cm	溝番号	規　模cm	溝番号	規　模cm
1	210×40－12	3	277×48－６	5	299×57－７	7	255×44－７
2	292×33－５	4	280×55－８	6	307×36－５	8	195×40－５

挿表15　長瀬高浜遺跡粘土硬化面内溝一覧表

第７節　粘 土 層（挿図175、図版18）

調査区東側の－１０、－２０グリッドにおいて粘土層を検出した。褐色もしくは灰褐色の粘土を主体に形成される。覆砂は灰白色砂である。

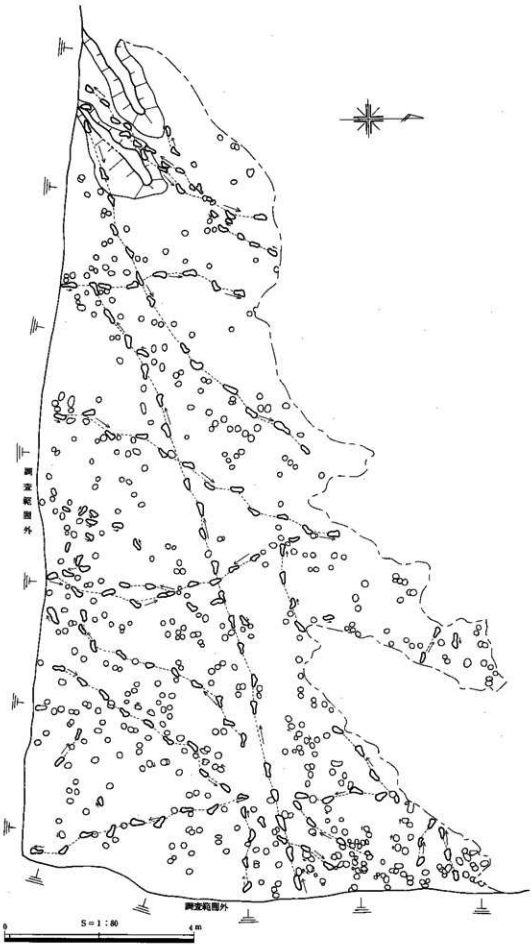
範囲は、東西約18m、南北は最大10.1mである。標高は、西端で約3.1m、東に向かい僅かに低くなり、東端では約2.9mである。厚さは、粘土面の南側の中央付近から東端にかけてが最も厚く６～７cmに達し、ここから各方向へむかい薄くなる。西端および中央部北端付近では２～５cmである。東、西方向は調査区外へ至り、さらに続くものと想定される。西端付近に粘土層が一部盛り上がる部分がみられた。北東―南西方向に細長い帯状の高まりが二本、ほぼ平行して走る。長さはそれぞれ2.6m、2.8m、幅は最大1.3mである。下端と上端との比高差は、３～８cm程度で、最大15cmである。後述のように、高まりの方向に沿うように人の足跡がみられることから、人為的に盛られたことも考え得る。

粘土層は、ほぼ水平に堆積していること、厚さに極端な差がないこと、土壌中から淡水性の珪藻が検出されていることなどから、河川後背湿地または氾濫原に形成された自然堆積層と推察される。

粘土層表面において、多数の人および牛と思われる偶蹄目の足跡を検出した。足跡は特に粘土層の厚い南、東側において遺存状態が良く、中には、足の指や蹄が鮮明に確認できたものも存在した。人の足跡は、主に東西および南北方向を指向するが、厳密ではない。足跡の埋砂は、灰褐色砂である。粘土層上面から、遺物は全く出土していない。

時期は、層位的所見が根拠となる。調査区南側の土層断面（挿図５・６）では、粘土層上面は、調査区西側の畠跡の上面と層位的にほぼ一致する。また、畠上面からも、牛の足跡が多数検出されている。

土壌の年代測定の結果、AD1420年、15世紀初頭の値が得られ、中世の所産であると考えられ、畠跡の年代決定についても示唆的である。（岡野）



挿図175　長瀬高浜遺跡粘土層足跡実測図

第8節　中世包含層出土遺物（挿図176～179、図版70・71・72）

包含層中からは、弥生時代後期から中世まで広い時期幅の遺物が出土している。畠の上面、2ライン付近の尾根状高まり上、調査区南西隅の高まり部分などの、旧地表面に表出しているものは、風化したものが多い。

また火葬骨片も散在しており、特にSD10・11以東の畠区画外に集中している。畠に隣接して小規模な墓地があったものと思われる。10世紀から13世紀にかけて、特に鎌内では、住居の屋敷地内の墳墓の調査例が多くみられる。鎌内を中心に農民層が個々に垣内（家）を構え、その周辺を開発していった時期であり、こうした垣内内に住人の墓をつくっていたものと考えられている。現在でも屋敷地内や耕作地内に墓をつくることはあり、民俗例もいくつか報告されている。例えば、岡山県苫田郡の山村では、一番の先祖をその家の最もよい田畑に埋めたといわれている。死者を田畑に埋葬する例は各地にみられ、その埋葬場所は田畑の中央という場合が多いようである。また出雲地方などでは、屋敷墓といわれる墓がみられ、屋敷地内に墓をつくることが行われてきた。今回検出された畠跡と火葬骨片が、必ずしもこの耕作地内の墓や屋敷墓にあてはまるというわけではない。しかし、当時の人々の死に対する観念を知るうえで、非常に興味深い資料である。

調査区南西端の小高い高まり部分では、シジミ貝と思われる貝殻が数か所で検出された。生活残滓を捨てたものであろう。そのほか、クジラ骨、牛馬骨なども出土している。

次に、個々の出土遺物についてみていく。ほとんどの遺物が、畠の耕作土中およびそれ以下の黒褐色砂中から出土しているものである。

土師器小皿Po983～992はすべて回転ナデ調整で、底部は回転糸切り痕が顕著である。口径7.2～9.6cm、器高1.5～1.9cmで、口径と底部径の差は2～4cmある。いままでに調査された中世墓から出土しているものと比較すると、やや古い形態を残している一群があるようである。杯Po993～995も底部回転糸切りである。柱状高台皿Po996は底部回転糸切り。柱状高台杯Po997は風化が著しいが、内面底部ロクロ目が顕著で、底部には静止糸切り痕がみられる。いずれも12世紀後半から13世紀ごろのものと考える。

白磁は、椀Ⅴ類Po1000～1002、Ⅷ類Po999・1003、皿Ⅳ類Po1008、Ⅵ類Po1006・Ⅶ類と思われるPo1004・1005を図化した。釉は薄く灰色がかり、胎土はやや粗く黒い細粒を含み、全体に粗悪なものが多い。Po1006は、薄く黄色味の強い釉で、広東省潮州筆架山産のものと思われる。今回の調査では、陶磁器は白磁しか出土しておらず、青磁が入ってくる以前、12世紀ごろのものと思われる。

その他、中世に属する土器・土製品としては、土錘Po1018・1019を図化した。

古代に属する遺物のうち、土師器杯・皿のほとんどが伯耆国庁第2様式のものである。墨書土器は4点出土している。皿Po1009は外面底部中央に「長」一字を墨書したものである。皿Po1010も外面底部中央に縦書きで墨書したもので、上は「長」、下は「二」であると思われる。底部Po1011・1012はいずれも「長」であるが、Po1012は1010と同じ2文字が書かれていたものと思われる。杯Po1013は口縁部に墨書しており、左側は「井」、右側は判読できない。その他、甕Po1020を図化した。須恵器は概ね9世紀代のものと思われる。

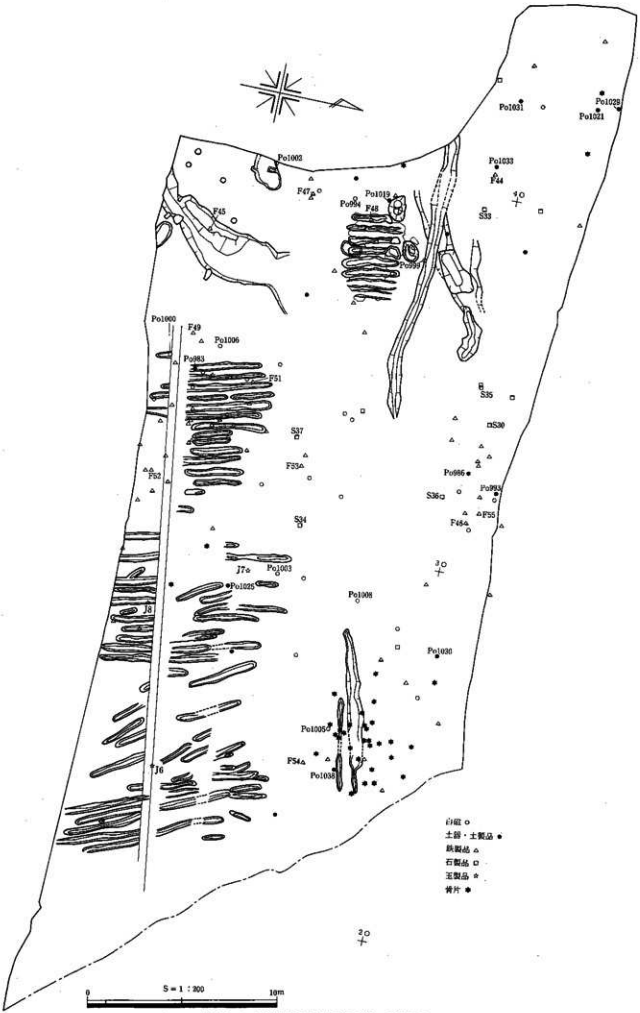
古墳時代に属する遺物としては、甕Po1030～1033、小型の甕Po1036、底部Po1035、手捏ね土器Po1037、須恵器杯蓋Po1039、埴輪片Po1040を図化した。このうちPo1035は、外面に叩き調整がみられる。Po1034ともに外来系の土器と考えられる。

弥生時代の遺物は、高杯脚部Po1038を図化した。弥生時代後期前半ごろのものである。

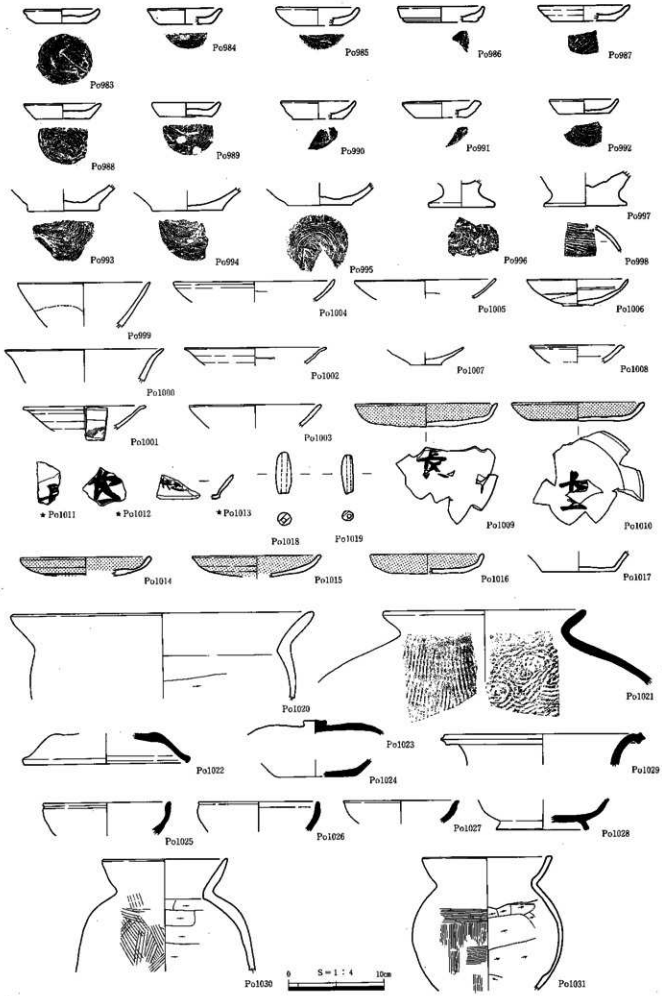
鉄製品は、紡錘車F43・44、刀子F45、鉄釘F46～51、不明鉄製品F52～55を図化した。F43の糸を巻き付ける芯棒には、糸の痕跡が一部残っている。円盤部は、断面でみると中心部がわずかに盛りあがった、扁平な円錐形をしている。鉄釘は、断面方形のものから扁平なものまである。F52・53は、断面方形の軸部に、円形もしくは隅丸方形の留め具のようなものがつく。ろうそく立てのような形であるが、その種類・用途ともに不明である。

石製品は、砥石S30～33、敲石S34～36、有溝石錘S37を図化した。

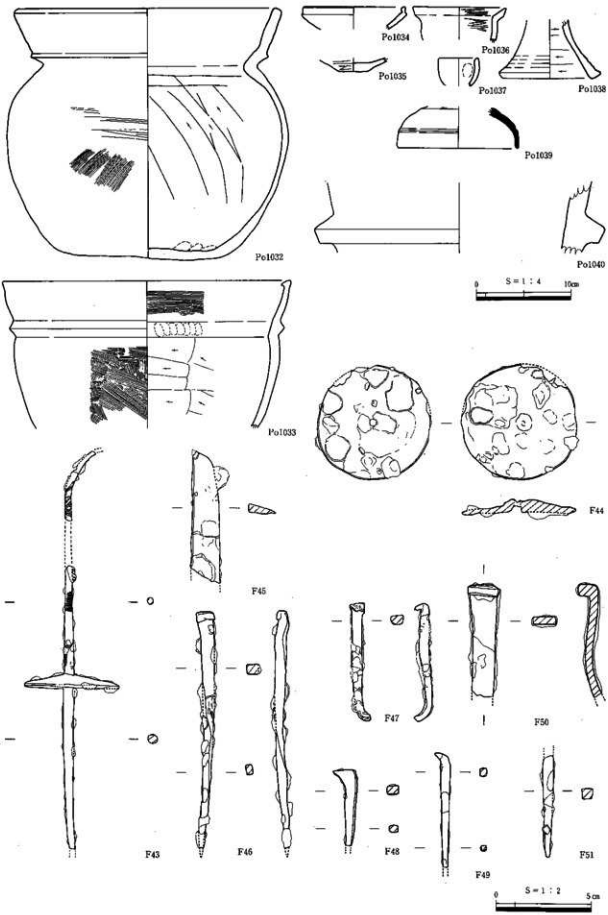
その他、土製勾玉J6、管玉J7、ガラス小玉J8がある。　（岩崎）



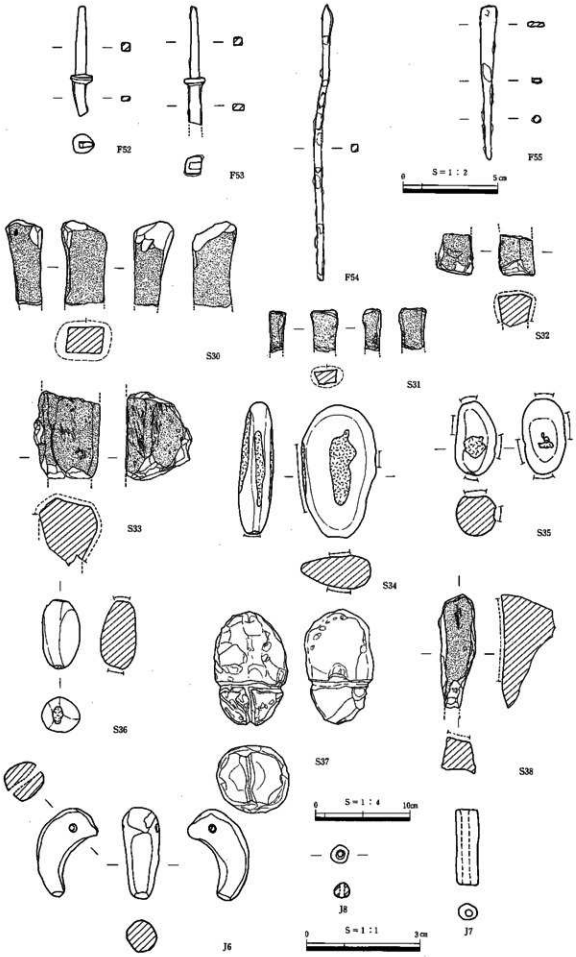
挿図176　長瀬高浜遺跡中世遺物出土状況図



挿図177　長瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(1)



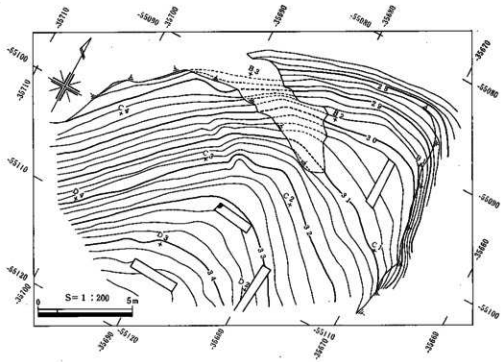
挿図178　長瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(2)



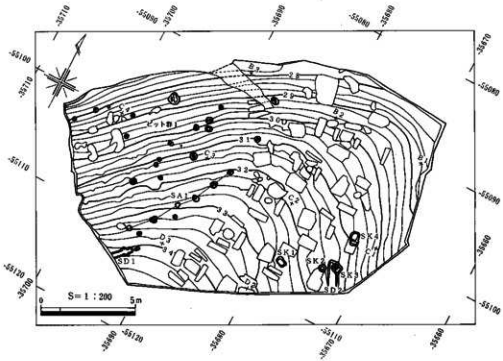
挿図179　長瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(3)

第８章　園第６遺跡の調査

第１節　園第６遺跡の概要



挿図180　園第６遺跡調査前地形測量図



挿図181　園第６遺跡調査後地形測量図

園第６遺跡は、泊村園字蛇川・西茄子に所在し、南北方向にのびる丘陵上にある。

調査区は、尾根先端部の標高27～35m付近に立地する。現況は山林・竹林となっていたが、尾根の東半は以前は桑畑として使用され、肥料穴により遺構検出面は攪乱をうけていた。土坑４基、溝状遺構２基、柵列１基、ピット群１か所を検出した。

土坑はすべて尾根の東側斜面で検出された。平面形は方形・長方形を呈し、主軸方向はSK１・３は東西、SK２・４は南北方向である。埋土中から遺物は出土していないが、その形態から中世の墓壙の可能性がある。

柵列、ピット群は西側斜面で検出された。柵列は尾根のラインに沿って立地する。ピット内からは移動式竈が出土し、朝鮮半島との交流が考えられる。

調査地裾部に沿って黒褐色腐植土層が確認された。この層からは埴輪を含め多量の遺物が出土している。遺物の時期はおもに古墳時代中期末ごろで、丘陵頂部から流出したものと思われ、現況では確認されていないが、調査区の南側には古墳が存在するものと考えられる。（岩崎）

第２節　土　　坑

SK１（挿図182、図版74）

調査区南東側のＣ１グリッドにあり、南北方向に延びる標高32.2～32.5mの東側に傾斜する斜面に立地する。

遺存状態は比較的良く、上縁部、底部ともにほぼ長方形を呈す。規模は、上縁部長軸1.05m×短軸0.7m、底部長軸0.75m×短軸0.45mを測る。断面ほぼ長方形を呈し、深さは最大0.61mである。

埋土は淡灰褐色土単層である。

遺物は出土しておらず、時期、性格ともに不明である。（岩崎）

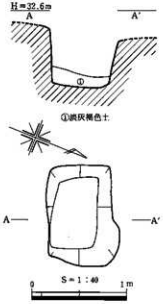
SK２（挿図183、図版73）

調査区南東側のＣ１グリッドにあり、南北方向に延びる標高31.5～31.6mの東側に傾斜する斜面に立地する。

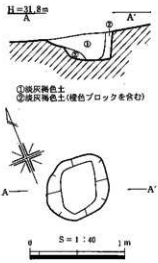
遺存状態は悪く、根により攪乱をうけていた。上縁部・底部ともにいびつな方形を呈す。規模は、上縁部長軸0.65m×短軸0.6m、底部長軸0.44m×短軸0.38mを測る。断面は逆台形状で、深さは最大0.2mである。

埋土は２層に分層できた。

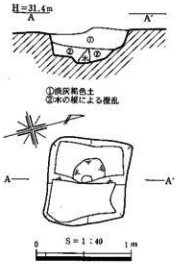
遺物は出土しておらず、時期、性格ともに不明である。（岩崎）



挿図182　園第６遺跡SK１遺構図



挿図183　園第６遺跡SK２遺構図



挿図184　園第６遺跡SK３遺構図

SK 3（挿図184、図版74）

調査区南東側のC１グリッドにあり、南北方向に延びる標高31.2～31.3mの東側に傾斜する斜面に立地する。一部SD２と切りあう。

遺存状態は比較的悪く、木の根により攪乱をうけている。上縁部・底部ともにほぼ長方形を呈する。規模は、上縁部長軸0.9m×短軸0.83m、底部長軸0.8m×短軸0.65mを測る。断面は浅い逆台形を呈し、深さは最大0.18mである。

埋土は淡灰褐色土単層である。

遺物は出土しておらず、時期、性格ともに不明である。（岩崎）

挿図185　国第６遺跡SK４遺構図

SK 4（挿図185、図版74）

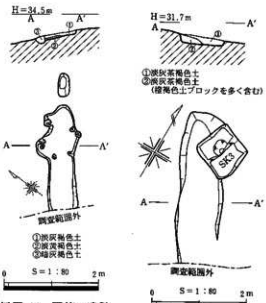
調査区南東側のC１グリッドにあり、南北方向に延びる標高30.7～30.8mの東側に傾斜する斜面に立地する。

遺存状態は比較的よいが、南辺上縁部は梨の肥料穴により攪乱をうけている。上縁部、底部ともにほぼ長方形を呈する。規模は、上縁部長軸0.88m×短軸0.85m、底部長軸0.8m×短軸0.67mを測る。断面は逆台形を呈し、深さは最大0.19mである。

埋土は２層に分層できた。

遺物は出土しておらず、時期、性格ともに不明である。

（岩崎）



挿図186　国第６遺跡SD１遺構図

挿図187　国第６遺跡SD２遺構図

第３節　溝状遺構

SD１（挿図186、図版73）

調査区の最も南西側のD３グリッドにあり、標高約34.0～34.3mの緩やかに北側に傾斜する斜面に立地する。南西側は、調査区外へ延びている。

南西側が調査区外にあり、また後世の耕作等によって遺存状態は非常に悪い。一部途切れながらほぼ直線状に走り、長さ2.9m以上、幅0.23～0.55mを測る。深さ最大６cmを測り、断面逆台形状を呈する。主軸方向は、N―52°―Eである。

埋土は３層に分層できた。

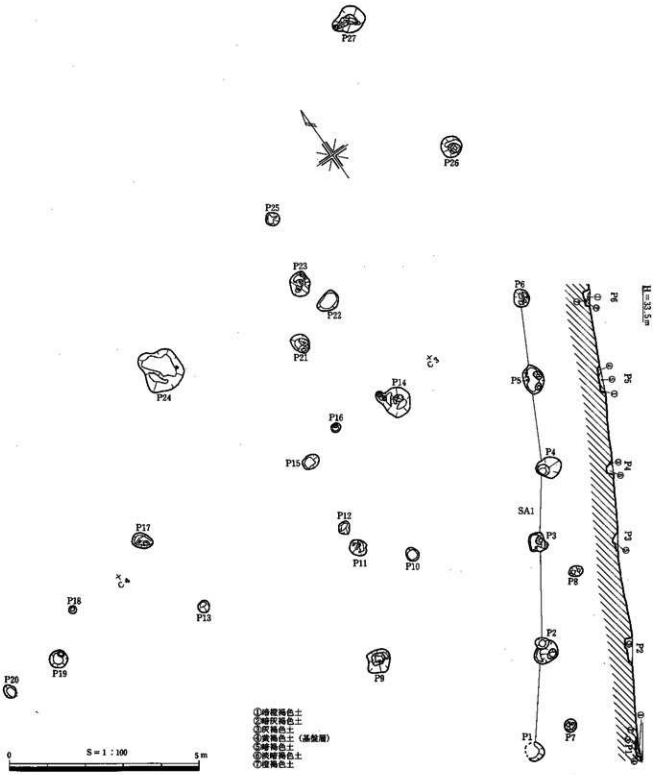
埋土中から土師器片が出土しているが、図化できなかった。

正確な時期は不明であるが、周辺の遺構の状態から、およそ古墳時代後期ごろのものと考えられる。性格は不明である。（牧本）

SD２（挿図187、図版73）

調査区南東側のC１グリッドにあり、南北方向にのびる標高31.3～31.5mの尾根の東側斜面に位置する。SK３と切り合い関係にある。

遺存状態は悪く、斜面下部ではほとんど残らない部分もある。直線状を呈し、斜面に直交するようにほぼ南北



挿図188　調査6遺跡SA1、ピット群遺構図

ピット　番号	規模（cm）	備考	ピット　番号	規模（cm）	備考	ピット　番号	規模（cm）	備考
P7	32×32−10		P14	76×70−26		P21	52×46−32	
P8	36×26−8		P15	44×34−12		P22	60×45−20	
P9	71×63−28		P16	23×22−12		P23	62×50−38	
P10	46×30−37	土器	P17	54×34−71	土器	P24	123×122−50	土器
P11	46×39−6	土器	P18	19×18−16		P25	34×32−17	
P12	32×27−22		P19	47×45−45		P26	55×53−38	土器
P13	33×29−46		P20	38×30−17		P27	88×67−50	

挿表16　調査6遺跡ピット群1ピット一覧表

方向に延びている。主軸はN—28°—Wをとる。長さ3.2m以上、幅0.9m前後、深さは最大で0.2mを測る。断面は浅い逆台形状を呈す。

遺物は出土しておらず、時期、性格ともに不明である。（岩崎）

第4節　柵列・ピット群

SA1・ピット群1（挿図188～190、図版74・75）

調査区西側の標高約28.8～33.4mの北側斜面部に立地する。ピット群1中に、柵列SA1がある。

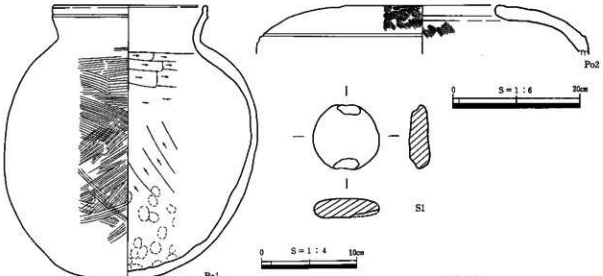
SA1は、丘陵頂部縁辺部にあり、P1～P6のピットからなり、調査区外南西側へも延びているものと考えられる。ピットの規模は、P1（49×43—14）cm、P2（67×50—33）cm、P3（51×40—15）cm、P4（68×57—31）cm、P5（78×49—18）cm、P6（46×39—22）cmである。埋土は、1～3層に分層できた。

P2・3・5・6埋土中から土師器小片が出土しているが、図化できなかった。

ピット群1は、P7～P27からなり、ピットの配列には規則性はない。それぞれの規模は挿表16を参照されたい。おおむね埋土は1～2層に分層できた。

P10・11・14・17・23・24・26内から、土師器および石器が出土している。このうち、P26内から、完形の土師器甕Po1が正立状態で、P10から土師器竈片Po2が、P23内で打ち欠き石錘S1が出土している。

SA1の時期は不明であるが、P10・26内出土遺物から、古墳時代後期初頭ごろと考えられる。（牧本）



挿図189　調査6遺跡ピット群1出土遺物実測図

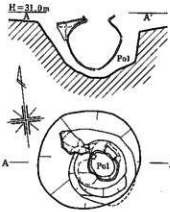
第5節　遺構外遺物（挿図191、図版75）

遺構外、特に東側斜面部において多数の土師器、須恵器が出土した。

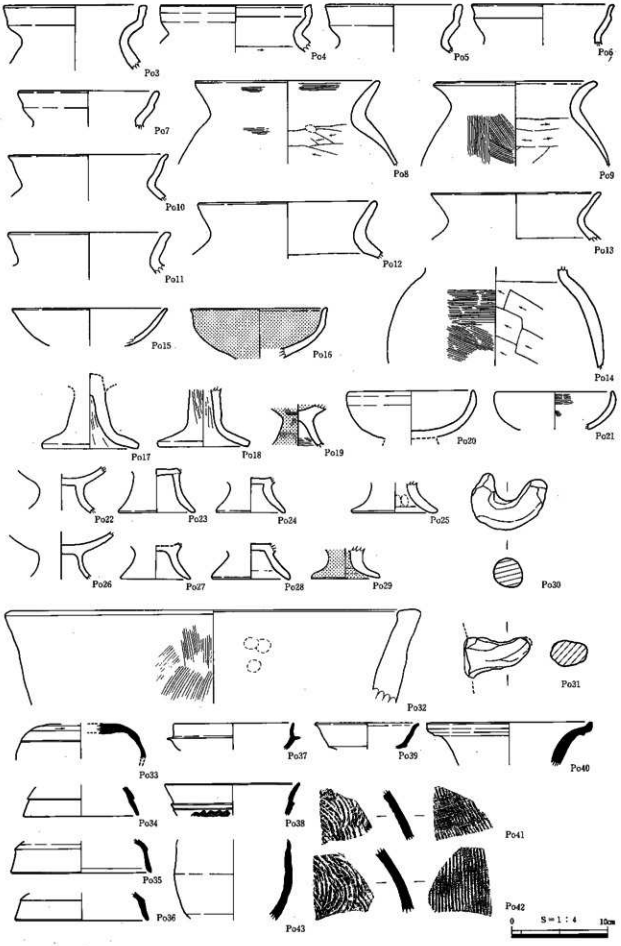
図化したものに、土師器甕Po3～13、脚部Po14、高杯Po15～19、椀・脚付椀Po20～29、甑把手Po30・31、円筒埴輪Po32、須恵器杯蓋Po33～36、杯身Po37、高杯Po38、壺Po39、壺Po40、甕Po41・42、椀Po43がある。

土師器甕には、複合口縁が退化したものと、くの字口縁のものが共伴しており、天神川X期、古墳時代後期初頭ごろ、土師器高杯、椀も同様の時期と考えられる。須恵器類は、MT15併行期と考えられ、土師器の年代観と合う。

埴輪片が出土していることから、調査区南側には、現在は確認されていないが、古墳が存在するものと考えられる。（牧本）



挿図190　調査6遺跡P26内遺物出土状況図



挿図191　圃第６遺跡遺構外出土遺物実測図

第９章　遺構、遺物の検討

第１節　古墳時代の土器について

１．はじめに

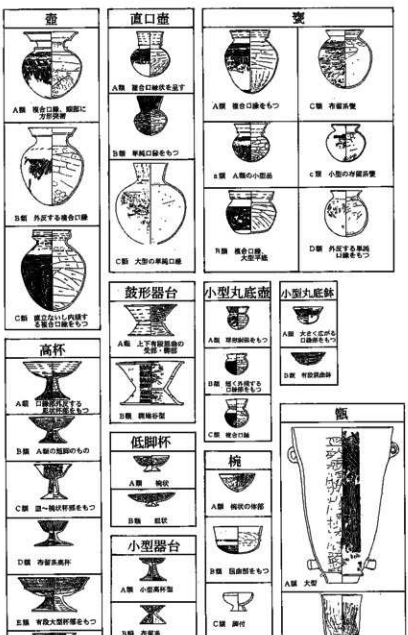
天神川下流域（羽合町、東郷町、泊村）では、近年大規模な開発工事にともない、多くの遺跡が調査されるようになった。砂丘地の長瀬高浜遺跡では、1977年～1982年・1995・1996・1998年にかけて下水処理場建設、北条バイパス、北条道路工事に伴い発掘調査が行われている[文献1～7]。東郷池周辺の丘陵地では、1990年～1993、1996～1998年にかけて羽合道路改築工事に伴い、南谷大山遺跡をはじめ９遺跡[文献8～12]、青谷羽合道路関係では石脇第１遺跡をはじめ８遺跡[文献13,14]、東郷池右岸の丘陵上で宮内第１遺跡をはじめ３遺跡[文献15]が調査された。大量の遺物が出土していることから、弥生時代後期～古墳時代後期初頭の土器編年を考える上で大変良好な地域となっている。

従来この地域では、遺跡ごとで編年作業が行われており、長瀬高浜遺跡では、古墳時代前期から中期初頭の大量の土師器を長瀬高浜Ⅰ期～Ⅲ期に編年され、さらに、高橋護氏は細分を試みられている[文献16]。

また、筆者は、南谷大山遺跡で長瀬高浜編年の問題点を指摘した上で、主に床面出土の土器を使って、弥生時代後期から古墳時代中期後半までの断続的な編年案を示した[文献12]。さらに、南谷大山編年の問題点を考慮し、泊村石脇、小浜地区での発掘調査結果から、南谷大山編年の細分化を試みた[文献13]。

土井珠美[文献17]、松井潔両氏[文献18]は東伯耆全体を概観し、弥生時代後期～古墳時代前期・中期を詳細に編年されている。

土器編年を取り巻く近年の状況は以上のようであるが、ここでは、長瀬高浜遺跡を中心に従来の調査も踏まえた上で、天神川下流域の古墳時代前期から後期にかけての一連の土師器編年案について考えてみることとする。



挿図192　長瀬高浜遺跡土師器形式分類図

2．形式分類について

まず、それぞれの土器を形式分類することとする。分類は、調整等を考慮した細かな分類は避け、主に形態的特徴をもって、系譜が追える程度の大別分類に留めておきたい（挿図192）。

3．編年案について

従来の編年案を参考にしながら、古墳時代前期初頭から後期初頭までを、以下の10期に細分した。

［天神川Ⅰ期］

壺B類は、シャープなつくりで口縁部が大きく外反し端部が折れる。胴部は長倒卵形を呈し、外面には、波状文・刺突文などが施されるものがある。

甕A類は器壁が肉薄でシャープな作りとなり、口縁部下端の突出度が増し、口縁端部が平坦面をもつ。口縁部はナデのみである。内面ケズリはやや下がって肩部付近になり、ケズリは右方向が主流である。胴部は長倒卵形を呈し、不明瞭な平底のものと丸底のものが併存すると考える。外面は肩部に施文されるものがあるが、タテ後ヨコハケが主流で、肩部に施されるヨコハケは、最大径付近までである。内面底部付近には指頭圧痕が明瞭に残る。B類の調整は、A類と同様である。D類も出現しているが、数は少ない。

高杯は、A類、B類、E類がある。A類は口径20cmを越える大型のもので、B類はA類を小型化したものである。E類は屈曲部が鋭く突出する。

鼓形器台A類は、口径が23cm前後と大きく、器高が11cm前後と高い。器壁が薄くシャープな作りである。低脚杯は、A類・B類があり、B類は口径20cm前後の大型品である。A類は小型のものであるが、器壁が薄く、シャープなつくりである。

直口壺A類がこの時期から出現する。口縁端部は引き出され、球形の胴部をもつ。

その他、椀B類、胴部を装飾した脚付短頸壺、甑A類もこの時期から出現する。細いタガ状の突帯が巡り、狭口部は高く立ち上がる。

この時期は、資料の増加を待ってさらに2時期程度に細分できるものと考える。

［天神川Ⅱ期］

この時期になって壺A類が現れる。突帯は細く、肩部に施文が施される。胴部は扁球形を呈す。壺B類は、口縁部立ち上がりが高く、頸部に施文が施されるものがある。胴部は倒卵形を呈すものと思われる。壺C類は、小型のものが見られる。調整はB類と変わりはない。

甕A類は、寸詰まりの倒卵形を呈すようになり、底部は完全に丸底となる。口縁部の形態もバラエティーが増す[(81)]。調整はⅠ期と変化はないが、外面ヨコハケの範囲が広がる。a類は、胴部が球形を呈す。B類は、前時期のものとあまり変化は見られない。この時期になってC類が出現する。胴部は長倒卵形を呈し、調整はA類と類似している。小型品のc類も出現する。

高杯A、B類は小型化する。E類はやや長脚となり、屈曲部が鈍くなる。D類、G類が出現する。

鼓形器台A類は口径は大きいが、器高が縮約する。低脚杯A類は杯部が深くなり、B類は口径が小さくなる。

直口壺A類は、口縁端部が面をもち、B類、C類が出現する。

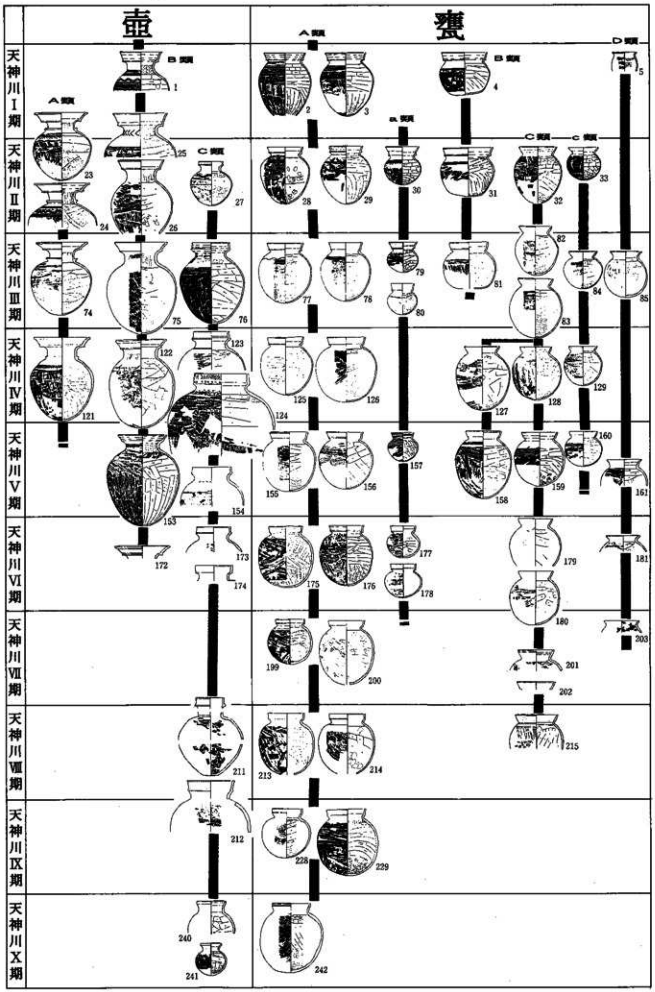
小型器台はA類、B類、C類、D類の全器種がそろう。A類は杯部屈曲部が鈍くなる。小型丸底壺もA類、B類、C類の全器種、小型丸底鉢はA類、B類が出現する。

甑A類はほとんど変化がないが、小型のB類が出現し、ペアで使用された可能性がある。

［天神川Ⅲ期］

壺A類は口縁部外反度が増し、B類も口縁端部立ち上がりが低くなり、口縁部下端の突出度も鈍くなる。胴部は依然倒卵形を呈す。C類もB類と同様の形態で、調整もほとんど変化がない。施文が施されるものもある。

甕A類は、口縁部立ち上がりが低くなり、口縁部下端の突出もさらに鈍い。胴部は丸味を帯びるようになる。口縁端部が内方へ肥厚するものも現れる。a類、B類は小型化する。C類は胴部が球形を呈すようになり、口縁部の形態がA類に遅れてバラエティーが増す。外面ヨコハケの範囲が中位以下までに広がる。



挿図193　天神川下流域土器編年案(1)

高杯A類は、杯部がさらに小型化する。B類が見られなくなり、C類が出現する。この時期は、深い杯部に長脚をもつ。屈曲部が鋭いD類も出現する。D類は杯部が丸くなる。

鼓形器台A類は明瞭に小型化し、いわゆる開地谷型器台[天神川]のB類が現れる。大小2種類が認められる。

直口壺A類は球形の胴部になり、屈曲部の稜は前時期に比べて退化している。

低脚杯A類・B類は明瞭に小型化し始めるが、椀、甑は前時期と変化はない。

[天神川Ⅳ期]

壺A類は、口縁部が退化傾向を示し、口縁部の高さが低くなり、さらに口縁部下端の稜が鈍くなる。突帯は厚く低くなり、胴部は長胴化する。この時期を最後に途絶える。B類も口縁部の外反度が増し、器壁が厚くなり長胴化する。C類は口縁部下端が鈍くなる。大型のものが現れる。

甕A類は口縁部立ち上がりがさらに低くなり、胴部は球形化し、全体的に器壁が厚くなる。外面上半部にタテハケがほとんど見られず、やや粗いヨコハケのみとなる。C類は、長胴のものと、球形のものが現れる。調整は、A類に類似する。

高杯はA類が見られなくなり、C類は杯部がやや浅く、F類は屈曲部が鈍くなる。鼓形器台A類、B類は器壁が厚くなる。低脚杯は小型のままで、この時期を最後に見られなくなる。

直口壺はA類が消滅し、B類は口縁部が高くなる。

小型器台は、いずれも退化傾向を示している。小型丸底壺A類は、前時期に比べて口径が小さくなる。

甑A・B類とも、器壁が厚くなり、突帯も厚く低く、狭口部も立ち上がりが低くなる。

[天神川Ⅴ期]

壺B、C類は口縁部がさらに退化傾向を示す。B類はこの時期を最後に、見られなくなる。

甕A類は、口縁部の退化傾向が進み、器壁が厚くなる。胴部は長胴化傾向となり、外面肩部に三個の刺突文が施されるものがある。胴部外面粗いヨコハケが施され、内面底部以外に肩部にも指頭圧痕が明瞭に残るようになる。C類は、前時期同様、胴部球形のものと長胴のものがあり、外面のヨコハケは粗くなる。内面は肩部に指頭圧痕が明瞭に残る。肩部外面にA類同様の刺突文が施されるものがあり、内面ケズリの範囲が下がる。

高杯C類は、おおむね浅い皿状杯部をもつようになる。E類も再び現れるが、系譜的につながるものか不明である。鼓形器台はほとんど見られなくなり、厚手のものとなる。小型丸底壺A類は、口縁部径が胴部最大径を上回るものはなくなり、椀は小型化する。直口壺B類は、この時期で最も口縁部が高くなる。

この時期、器種が大幅に減少する。

[天神川Ⅵ期]

壺B類、C類は退化傾向が加速する。

甕Aは口縁端部が外方へ肥厚して平坦面をもち、口縁部下端は鈍く突出するもの、凹線を巡らすことで強調するものがある。胴部は球形からやや長胴を呈し、外面は粗いヨコ～斜方向ハケ目、内面は肩部指頭圧痕が残る。C類は前時期とほとんど変化はないが、器壁がさらに厚くなる。口縁端部は依然として内方へ肥厚する。

高杯C類は、浅い椀状杯部をもつものが現れる。脚部は7.0cm前後と高いままである。F類も再び現れるが、屈曲部はさらに鈍くなる。G類は屈曲部には稜がつく。

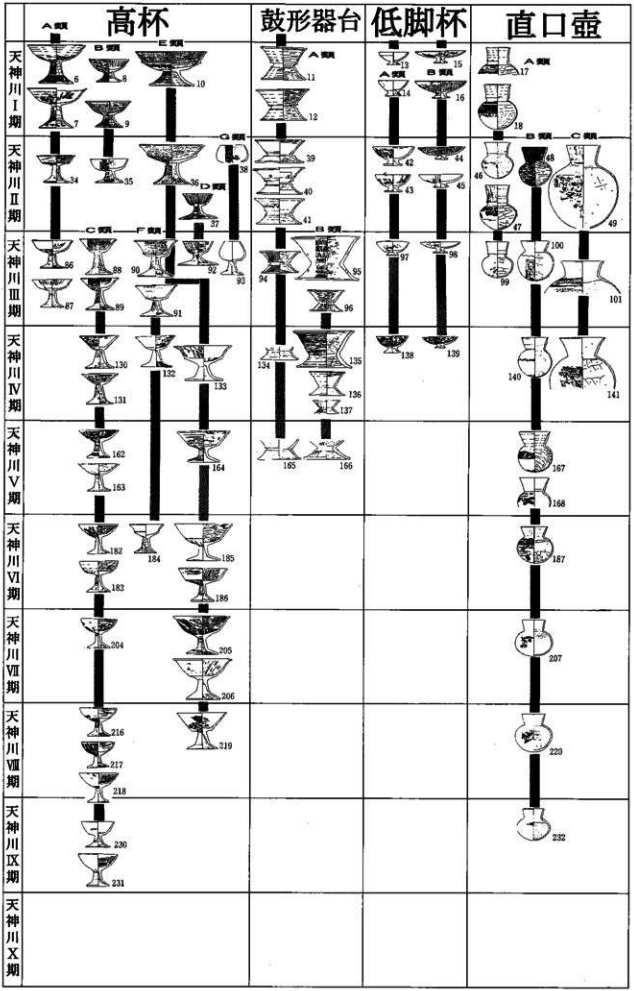
小型丸底壺A類は、口縁部径がさらに小さくなり、胴部は球形になる。小型の直口壺とでも言える形態である。この時期をもって、小型丸底壺は姿を消す。椀A類は、前時期同様体部は深く、内外面ハケ目調整である。

甑は、角状把手をもつ小型のC類が現れる。A類と系譜的にはつながらない、外来の要素をもつものと考えられる。その他の器形として、須恵器模倣逃形土器がある。

また、この時期になって須恵器が現れる。石脇第1遺跡の無蓋高杯、長瀬高浜遺跡の大型高杯形器台などがある。これらは大庭寺併行期～TK73併行期と考えられるもので、県内では最も古い須恵器の一群である。

[天神川Ⅶ期]

壺は良好なものはない。



挿図194　天神川下流域土器編年案(2)

甕A類は口縁部の退化傾向がさらに進み、口縁部下端は突出がほとんどなくなる。胴部は球形丸底のものがほとんどであるが、長胴丸底で外面平行叩き後ハケ目調整の（200）もある。C類は口縁外面にアクセントをもつ（201）、内面肥厚する（202）がある。内面肥厚するものは、この時期までと思われる。

高杯C類は、椀状杯部に変わり、脚高5.5cm前後と低くなる。G類は、屈曲部が鈍くなる。直口壺は口縁部が短くなり、扁球形の胴部をもつ。椀A類は、形態的に前時期のものと変化がないが、橙色胎土に変わる。

須恵器には遺がある。扁球形の胴部に細い頸部がつく。定型化以前のTK216～ON46併行期と考えられる。

［天神川Ⅷ期］

極めて大型の壺が見られる。口縁部は複合口縁状を呈し、胴部は球形を呈すが、平底をもつものである。内外面共に粗いハケ目調整である。長瀬高浜86号墳第３埋葬施設のものは土器棺として使用されている。

甕A類は、複合口縁が顕著に退化傾向を示し、口縁部下端が下膨らみになる。器壁が肉厚で、口縁部はほぼ直立し、口縁部の立ち上がりも３cm以下と低くなる。胴部は球形を呈し、外面肩部はヨコハケが残るが、粗い斜方向ハケが主流となる。C類は、端部が内方へ肥厚するものから丸く収められるものに変化し、胴部の調整も粗いタテ～斜方向ハケに変わる。

高杯C類は、ほとんど椀状杯部をもつものとなる。脚部もさらに短くなる。E類はやや小型化する。

直口壺B類は、やや高い頸部をもち、やや扁球形の胴部をもつ。

椀A類は端部が内湾し、同様の体部に太く短い脚部をもつC類が現れる。

TK208併行期の須恵器が共伴する。杯蓋は天井部が低く、回転カキ目調整されるものがある。口縁端部は鋸歯状を呈し、全体にシャープな作りである。杯身は、底部が扁平で、口縁部立ち上がりが高い。端部は鋸歯状を呈す。脚付壺は、頸部に２条の凸帯が巡りその間に波状文が施される。脚部に円形・方形の透かしがある。

無蓋高杯は、杯部が深く、口縁部外面には凸線が２条巡り、その下に波状文が施される。脚部には長台形の透かしが４方に入り、把手がつくものがある。その他、樽形鼎、小型鼎、大型鼎もある。

［天神川Ⅸ期］

壺は良好な資料がない。直口壺B類は、Ⅷ期に比べて口縁部の立ち上がりが低くなり、体部が扁平になる。

甕A類は、口縁部下端部が丸みを帯び屈曲するだけになる段階である。胴部はやや長球形を呈し、外面は粗い横～斜方向ハケ目、内面は肩部・底部に指頭圧痕が明瞭に残る。

高杯C類は、前時期より深い椀状杯部をもつ。E類は屈曲部がさらに鈍くなる。

椀A類は、Ⅷ期に比べて器高が低くなり、大きく内湾する傾向がある。

須恵器はTK23～TK47併行のものが共伴している。杯蓋は、天井部が高くなり全体的に丸みを帯びる。天井部との境には明瞭な稜をもつ。口縁端部は鋸歯状を呈す。杯身も全体的に丸みを帯び、高い立ち上がりをもつ。

無蓋高杯は、外反する口縁部をもつもので、脚部は短脚で３方に透かしが施される。

［天神川Ⅹ期］

壺、甕とも器壁が厚く、複合口縁の名残をとどめる最終段階のものである。この時期に、くの字の甕が共伴すると考えられる。

須恵器は、MT15併行期と考えられる。

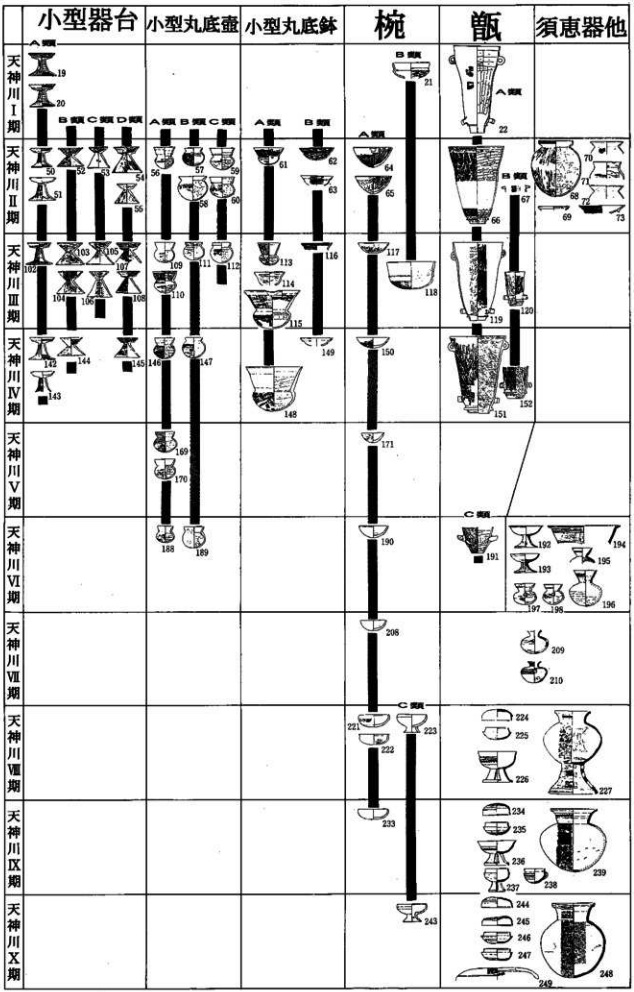
4．器種構成の変化と絶対年代

以上のように編年できたが、時期ごとに様式の変化が見受けられる。

天神川Ⅰ期の土師器は、基本的に弥生土器から系譜が追えるもので、検出された遺構も少ないことから、器種にバラエティーがない。同時期としたSI120のものは、SI112と比べてやや古相を示していると考えられ、資料の増加を待って細分できる可能性がある。小型器台A類のような器種は外来系のものと考えられるが、布留系甕の出現は、今のところⅡ期以降を待たなければならない。

天神川Ⅱ期が確実に布留併行期で、極端に器種が増えて画期を迎え、Ⅳ期までは同様の傾向が続く。

ところが、Ⅴ期になると山陰地方特有の低脚杯、甑および外来系の小型器台、小型丸底鉢が姿を消し、器種が



挿図195　天神川下流域土器編年案(3)

大幅に減少している。その後Ⅶ～Ⅷ期においても器種が減少しており、それぞれに画期を設けることができる。

さて、形式ごとにみると、甕A類は、弥生時代後期から系譜的に一貫して存在し続けるものであるが、天神川Ⅴ期前後に器壁が厚くなり、肩部まで指頭圧痕が明瞭に残る特徴がある。おそらく、「製造り」による大量生産と、煮炊きの熱効率化が進んだ結果と考えられる[文献20]。

さて、甕A類のうち天神川Ⅱ～Ⅲ期のものに胴部に叩き痕が認められるものが5点（SI246Po44・61、SI254Po580、土器溜1Po721、土器溜2Po810）確認された。いずれも左上りの叩きである。これまで、叩き技法は山陰系土器にはほとんど確認されていなかったが[19]、この技法は本来整形技法であることから、二次調整のハケ目等で完全に消されてしまうと考えられる。この技法は外来のものと考えられるが、山陰地方で定着していた可能性もある。

布留系の甕C類は、今のところ天神川Ⅱ期から Ⅷ期まで、同地域内において時期が下るにつれて退化傾向を示していることから、外来要因で出現したものが、当該地域で定着した形式であるといえる。

甕D類も、断続的ではあるが存在している。畿内Ⅴ様式系甕が祖形となった可能性がある。

甑は、Ⅰ期までは小型のB類は認められないが、Ⅱ期以降A・B類ペアで出土した遺構もSI148・220・245などがある。形態的には大きな変化は認められないが、Ⅳ期になると突帯が太く短くなり、狭口部の立ち上がりも低くなり、明かに退化傾向を示している。使用法については明確にできないが、A類の把手は、広口側のものの方が器壁に突き刺すかたちでつけられており、仮に吊して使うとすれば、広口側の把手を使用したと思われる。B類のSI247Po131は、突帯が狭口側把手部分だけ焼成前に抉られており、棒状のもので支えられた可能性も考えられ、今後使用法を考える上で重要なものとなる。

さて、県内では^{14}C年代測定、年輪年代測定の資料が増加しつつある。しかし、どの遺構も複数資料を測定しても同じ結果は得られておらず、即座に測定結果を用いることは慎重にならざるを得ない。あえて触れると、土器型式と従来の年代観と比較的符合すると思われるものに、天神川Ⅲ期の長瀬高浜遺跡SI246の1720±50、天神川Ⅴ期の長瀬高浜遺跡SI259の1670±50、天神川Ⅵ期の石脇第1遺跡SI01の1630±50～1590±60 （いずれもB.P.）などがある。この値を信用すると、天神川Ⅲ期が4世紀中葉ごろ、天神川Ⅴ期が5世紀初頭ごろ、天神川Ⅵ期が5世紀中葉ごろになる可能性があり、今後絶対年代を考える上での指標となると思われる。

5．外来系土器との併行関係について

長瀬高浜遺跡には、各地の土器がもち込まれている。最も多い畿内系土器は、Ⅴ様式系甕（SI253Po556、SI260Po694）、庄内系甕（SI69Po89、SI138Po29、SI253Po557）、布留系甕（SI69Po88、SI253Po555）で、東山陰系土器（SE12Po1、SI238Po6）、吉備系甕（SI126Po30、SI195Po44）、近江系受口状口縁甕（土器溜1Po758）も出土している。これらは、長瀬高浜遺跡の性格を物語るものとして注目される。

庄内系甕のうちSI69出土のものは、外面に細かい叩きが施され、胎土も茶褐色で庄内河内型甕と考えられる。また、SI253出土のものは、叩きが粗く、頸部がなだらかになっており、庄内大和型甕の可能性がある[文献21]。

布留系甕は、甕C類に比べ口縁部のつくりが非常にシャープで、胎土も異なることから、搬入されたものと考えられ、これらが甕C類の祖形となった可能性が考えられよう。

これら、庄内系甕、布留系甕は、層位的に遺構埋砂上層からの出土であり、さらに、SI69では庄内・布留系甕が同時に出土しており、形式的には分類できるものの良好な併行関係を示すものではない。数量的にも少なく、畿内との併行関係を考えるには、依然大きな課題として残る。

吉備系甕は10―c期[文献18]、また、近江系甕は植田分類A₂かA₃類[文献22]と考えられる。これらは、おおむね布留併行期のもので、出土遺構と併行するものと考えてよいであろう。

その後は、明確な外来系土器は見られないが、Ⅵ期に入ると、長瀬高浜遺跡で初期須恵器が出現している。遺構に伴うものとしては、SI93の大型高杯形器台などがあり、TK73併行期と考えられる。その他、石脇第1遺跡では朝鮮半島系の陶質土器高杯が出土しており、彼地との交易関係を知る手懸かりとなっている。また、この時期に、須恵器が出現していないと現れないであろう須恵器模倣の甑形土器も石脇第1遺跡から出土している。

さらに、図第６遺跡では、移動式竈も出土している。時期的にMT15併行期でかなり下るものであるが、形態的には陶邑・伏尾遺跡、寝屋川市長保寺遺跡から出土したものと類似しており[第23]、朝鮮半島系遺物の可能性がある。

1．NTSI120Po 1	37. NTSI32Po10	73. NTSE12Po 1	109. NTSI246Po110	145. NTSI88Po52	181. IW 1 SI02Po94	217. NTSX01Po 3
2．NTSI120Po 3	38. NTSI253Po566	74. NTSI06Po 1	110. NTSI127Po11	146. NTSI85Po 5	182. NTSX04Po 7	218. NTSX01Po 1
3．NTSI112Po 7	39. NTSI195Po54	75. NTSI246Po29	111. NTSI244Po27	147. NTSI85Po 1	183. NTSI117Po41	219. MOBSI09Po116
4．NTSI112Po12	40. NTSI241Po44	76. NTSI186Po 2	112. NTSI249Po369	148. NTSI85Po 7	184. IW 1 SI01Po36	220. NTSX97Po861
5．NTSE12Po 5	41. NTSI43Po16	77. NTSI249Po164	113. NTSI220Po19	149. NTSI101Po14	185. NTSX04Po 8	221. KWSI06Po34
6．NTSI118Po19	42. NTSI241Po51	78. NTSI249Po163	114. NTSI194Po48	150. NTSI85Po39	186. IW 1 SI02Po107	222. KWSI06Po35
7．NTSE12Po 7	43. NTSI69Po120	79. NTSI183Po11	115. NTSI127Po 9	151. NTSI88Po57	187. IW 1 SI02Po98	223. MOBSI22Po23
8．NTSI112Po15	44. NTSI241Po52	80. NTSI249Po229	116. NTSI47Po12	152. NTSI163Po 9	188. IW 1 SI01Po54	224. NTSX10Po17
9．NTSI118Po22	45. NTSI69Po122	81. NTSI186Po28	117. NTSI249Po378	153. NTSI123Po 1	189. IW 1 SI01Po52	225. NTSX10Po19
10. NTSI112Po13	46. NTSI32Po 2	82. NTSI249Po239	118. NTSE03Po123	154. NTSI108Po 1	190. IW 1 SI02Po151	226. MOBSI09Po124
11. NTSI120Po14	47. NTSI43Po 4	83. NTSI249Po230	119. NTSI220Po21	155. NTSI259Po686	191. NTSI49Po13	227. NTSX10Po16
12. NTSI112Po22	48. NTSI69Po15	84. NTSI49Po281	120. NTSI220Po20	156. NTSI108Po21	192. IW 1 SI13Po316	228. NTSX98Po867
13. MOCSI02Po30	49. NTSI195Po 3	85. NTSI186Po16	121. NTSI12Po 1	157. NTI08HSK01Po 7	193. IW 1 SI01Po69	229. NTSX03Po 6
14. MOCSI02Po29	50. NTSI69Po129	86. NTSI221Po21	122. NTSI181Po 1	158. NTSI108Po 1	194. NTSI93Po 9	230. NTSX98Po868
15. TD 2 SI09Po161	51. NTSI69Po124	87. NTSI183Po17	123. NTSI181Po 2	159. NTSI123Po 1	195. NTSI93Po10	231. NTSX03Po 1
16. TD 2 SK09Po210	52. NTSI32Po16	88. NTSI249Po305	124. NTSE11Po52	160. NTSI108Po 6	196. NTSX04Po10	232. NTSD22Po881
17. NTSI120Po 2	53. NTSI32Po15	89. NTSI249Po307	125. NTSI180Po 1	161. NTSE08Po11	197. IW 1 SI02Po148	233. MOBSI30Po38
18. NTSI112Po 4	54. NTSI217Po 3	90. NTSI249Po299	126. NTSI247Po114	162. NTSI108Po26	198. IW 1 SI02Po149	234. NTSX98Po863
19. NTSI112Po17	55. NTSI69Po125	91. NTSI249Po296	127. NTSI181Po 5	163. NTSI108Po28	199. NTSX10Po 6	235. NTSX98Po864
20. NTSI112Po18	56. NTSI32Po 4	92. NTSI34Po14	128. NTSI108Po 7	164. UT 1 SI03Po148	200. KWSI07Po38	236. NTSX03Po26
21. MOCSS04Po48	57. NTSI241Po55	93. NTSE03Po93	129. NTSI181Po16	165. NTSI231Po10	201. KWSI05Po13	237. NTSX03Po25
22. MOBSI20Po31	58. NTSI195Po52	94. NTSI249Po332	130. NTSI181Po19	166. NTSI231Po11	202. KWSI05Po15	238. NTSX27Po 1
23. NTSI195Po 1	59. NTSI241Po24	95. NTSI246Po97	131. NTSI181Po20	167. NTSI123Po 3	203. KWSI05Po14	239. NTSX03Po24
24. NTSI69Po 5	60. NTSI195Po61	96. NTSI249Po335	132. NTSI88Po37	168. UT 1 SI03Po143	204. NTSX09Po 1	240. 青谷19号墳Po183
25. NTSI43Po 2	61. NTSI241Po56	97. NTSI249Po349	133. NTSI19Po 6	169. NTSI108Po 2	205. NTSX09Po 3	241. 青谷19号墳Po185
26. NTSI195Po 2	62. NTSI32Po19	98. NTSI249Po348	134. NTSI85Po36	170. UT 1 SI03Po240	206. KWSI07Po48	242. SN 6 P26ｆ¶Po 1
27. NTSI241Po 4	63. NTSI253Po575	99. TD 2 SI03Po35	135. NTSI85Po37	171. NTSI22Po26	207. KWSI05Po22	243. 青谷19号墳Po184
28. NTSI195Po 9	64. NTSI69Po145	100. NTSI249Po288	136. NTSI88Po47	172. IW 1 SI02Po72	208. KWSI07Po66	244. 青谷19号墳Po195
29. NTSI69Po16	65. NTSI40Po12	101. NTSI206Po 2	137. NTSI12Po21	173. IW 1 SI13Po287	209. NTSI92Po 1	245. 青谷19号墳Po196
30. NTSI43Po 8	66. NTSI126Po48	102. NTSI198Po11	138. NTSI12Po18	174. IW 1 SI02Po74	210. KWSI07Po67	246. 青谷19号墳Po190
31. NTSI114Po13	67. NTSI149Po17	103. NTSI246Po104	139. NTSI12Po13	175. NTSI112Po15	211. MOBSI16Po 1・2	247. 青谷19号墳Po191
32. NTSI45Po 4	68. NTSI195Po44	104. NTSI249Po338	140. NTSI88Po 3	176. NTSI117Po16	212. MOCSI20Po51	248. 青谷19号墳Po202
33. NTSI152Po 3	69. NT土器溜 1 Po758	105. NTSI246Po102	141. 南谷29号墳Po 1	177. IW 1 SI01Po16	213. NTSX10Po 6	249. SN 6 P10ｆ¶Po 2
34. NTSI35Po 5	70. NTSI69Po89	106. NTSI249Po345	142. NTSI88Po54	178. IW 1 SI02Po95	214. MOBSI09Po 1	帳、211、212はS＝1/32
35. NTSI253Po561	71. NTSI253Po557	107. NTSI246Po107	143. NTSI85Po38	179. IW 1 SI13Po301	215. MOBSI09Po84	その他S＝1/16
36. NTSI241Po34	72. NTSI69Po88	108. NTSI101Po13	144. NTSI88Po53	180. IW 1 SI02Po91	216. NTSX01Po 2	

NT：長瀬高浜遺跡　MO：南谷大山遺跡　UT 1：宇谷第１遺跡　TD 2：寺戸第２遺跡　IW 1：石脇第１遺跡　KW：小浜ワラ畑遺跡　SN 6：圓第６遺跡

挿表17　天神川下流編年案土師器対照表

天神川下流編年	長瀬高浜編年	南谷大山編年	小浜ワラ畑編年	土井編年	松井編年	岩吉編年[文献26]	青木編年[文献25]
天神川Ⅰ期	長瀬Ⅰ期	大山Ⅴ期		宮ノ下４・６号住居址段階	Ⅺ期 Ⅻ期	Ⅴ（新）期	Ⅴ・Ⅵ期新相
天神川Ⅱ期		大山Ⅵ期（古）		宮ノ下３Ｂ・７号住居址段階	Ⅲ期	Ⅵ（古）期	Ⅶ期（古）
天神川Ⅲ期		大山Ⅵ期（新）		鄙塚５号住居址	Ⅳ期	Ⅵ（新）期	Ⅶ期（新）
天神川Ⅳ期	長瀬Ⅱ期			上神輪山方形周溝墓 佐美４号墳周溝底部			
天神川Ⅴ期		大山Ⅶ期				Ⅶ（古）期	Ⅷ期（古）
天神川Ⅵ期	長瀬Ⅲ期	空白期	小浜ワラ畑Ⅰ期	後谷B21・２号住		Ⅶ（新）期	Ⅷ期（新）
天神川Ⅶ期		大山Ⅷ期	小浜ワラ畑Ⅱ期			Ⅷ（古）期	Ⅸ期（古）
天神川Ⅷ期			小浜ワラ畑Ⅲ期	服部Ⅲ期		Ⅷ（新）期	Ⅸ期（新）
天神川Ⅸ期		大山Ⅸ期				Ⅸ期	Ⅹ期（古）
天神川Ⅹ期							Ⅹ期（新）

挿表18　古墳時代土師器編年案対応表

6．在地土器と布留系土器の胎土分析について

長瀬高浜遺跡では、在地産の甕A類、鼓形器台、甑などの他に、布留系の甕C類、小型器台、小型丸底壺、小型丸底鉢などが大量に出土している。

これまで、胎土分析を行ってきたが、三辻利一氏によってA、B２種類の胎土が認められることが指摘されていた[文献7]。この２種類の胎土は、いずれも在地のものと考えられ、時期ごとでの出現率をみると、天神川Ⅱ期からⅣ期に移るころに、当遺跡でA類胎土を使用する土器が多く用いられるようになったと考えることができた。

しかし、今回の解析結果では、在地系、外来系を問わず大半の器種は在地産の胎土を使用しているが、中には異なる地域の胎土が使用されたと指摘された。しかも、表面観察では明らかに外来系と思われたものが、在地産胎土を使用していたり、在地系器種であるにもかかわらず、他地域の胎土が使用された可能性も指摘されたことから、今後の土器研究を進める上で大幅な転換を求められる結果となった。

その解釈については、今後の資料の蓄積に待つところが多いため、多くは述べられない。今後の課題として残しておきたい。

（牧本）

註

1．甕A類には、内面肥厚するもの、内傾するもの、端部が強くナデられ凹線が巡るものなどが見られ、甕C類には、直線的に開くもの、内湾気味に立ち上がるもの、口縁端部外面にアクセントをもつものなどがある。
八峠興・岩崎康子「長瀬高浜遺跡出土土器の分類」『長瀬高浜遺跡Ⅷ』鳥取県教育文化財団1997

2．岩吉遺跡で弥生時代中期後半、後期後半ごろのものに呼きが認められている。
谷口恭子「土器」『岩吉遺跡Ⅲ』鳥取市教育委員会1991

3．亀田修一氏のご教示による

参考文献

1．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅰ』1978
2．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅱ』1981
3．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅲ』1981
4．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅳ』1982
5．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅴ』1983
6．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅵ』1983
7．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡Ⅷ』1997
8．鳥取県教育文化財団『南谷ヒジリ遺跡　南谷夫婦塚遺跡　南谷19～23号墳　乳母ケ谷第２遺跡　宇野３～９号墳』1991
9．鳥取県教育文化財団『宇谷第１遺跡　南谷大ナル遺跡』1992
10．鳥取県教育文化財団『南谷大山遺跡　南谷ヒジリ遺跡　南谷22・24～28号墳』1993
11．鳥取県教育文化財団『関西川遺跡　関７号墳　原第２遺跡』1993
12．鳥取県教育文化財団『南谷大山遺跡Ⅱ　南谷29号墳』1994
13．鳥取県教育文化財団『石脇第３遺跡―森末地区・操り地区―石脇８・９号墳　寺戸第１遺跡　寺戸第２遺跡　石脇第１遺跡』1998
14．鳥取県教育文化財団『小浜ワラ畑遺跡　小浜小谷遺跡　池ノ谷第２遺跡』1998
15．鳥取県教育文化財団『宮内第１遺跡　宮内第４遺跡　宮内第５遺跡　宮内２・63～65号墳』1996
16．高橋護『土師器の編年　３中国・四国』『古墳時代の研究６　土師器と須恵器』雄山閣1991
17．土井珠美「鳥取県の状況」『弥生時代後期から古墳時代初頭のいわゆる山陰系土器について』第18回埋蔵文化財研究会事務局　1986
18．松井潔「東の土器、南の土器―山陰東部における弥生時代中期後半～古墳時代初頭の非在地系土器の動態―」『古代吉備　第19集』1997
19．山本清「山陰の鼓形器台と当代の墓制」『出雲の古代文化』大興出版　1989
20．井上和人「布留式」土器の再検討」『奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集　文化財論叢』1983
21．青木勤時「大和・河内の庄内土器―その出現から盛行期を中心として―」『庄内式土器研究Ⅱ』庄内式土器研究会1996
22．植田文雄「近江湖東地域の庄内～布留併行期土器編年」『庄内式土器研究Ⅷ』庄内式土器研究会1994
23．朝大阪府埋蔵文化財協会『陶邑・伏尾遺跡―Ａ地区―』1990
24．谷口恭子「土器」『岩吉遺跡Ⅲ』鳥取市教育委員会1991
25．鳥取県教育委員会『青木遺跡発掘調査報告書ⅢＡ・Ｂ・Ｅ・Ｈ地区』1978

第２節　古墳時代集落について

長瀬高浜遺跡は、古墳時代においては前期に盛行する天神川下流域の拠点集落遺跡である。現在までに、集落関連の遺構として、竪穴住居跡262棟、掘立柱建物跡63棟、井戸跡12か所などが検出されている。

以下、天神川編年をもとに、集落の変遷を概観し[1]、続いて集落構造について検討を行う。各調査区は、A～D区の４地区に区分した。A区からC区は地形により区分し、D区については遺構の分布上、B区とは分離できるものと判断した。

１．集落の変遷

長瀬高浜の地に初めて集落が形成されるのは、弥生時代前期である。住居跡５棟で形成され、B区の南側を中心とする。１棟を除いて玉作り工房跡とされている。継続性はないが、朝鮮半島の無文土器と考え得る土器片が出土するなど、拠点集落の一角をなすと推察される。以後、古墳時代前期まで生活関連遺構は確認されていない。

Ⅰ期は、古墳時代の集落が形成され始める時期である。古墳時代前期前葉であろう。住居跡は、A区で４棟がみられるほかは、散在的な分布を示す。B区には、大型住居[2]SI142（床面積44.2㎡、平面六角形？）があり、井戸SE04が設けられる。D区では、布掘の掘り方、独立棟持柱を有する大型掘立柱建物SB30のほか、SB29が造営される。両者は、主軸が平行することから、併存した可能性が高い。これらは、集落の中枢を構成する施設であったと考え得る。以後、Ⅴ期に至るまで、B区は集落の中心的なエリアとなる。

Ⅱ期は、集落規模が急速に拡大し、中枢施設が複数形成される時期である。古墳時代前期前葉である。土器には、畿内の布留式土器群の影響がみられるようになり、器種が増加する。

住居跡は、A、D区で引き続き小規模に営まれる一方、B、C区においては急速に増加する。井戸は、C区でSE12が掘削される。埋砂中から、丹後地方からの搬入と考え得る壺の破片が出土している。B区では、SB04の周辺に密集する住居跡群と、その西側を弧状に囲む一群の合計二群に分けられ、空閑地（以下広場と呼ぶ）を隔てて北東側には、柵に囲繞された大型掘立柱建物を中心とする一群がある。

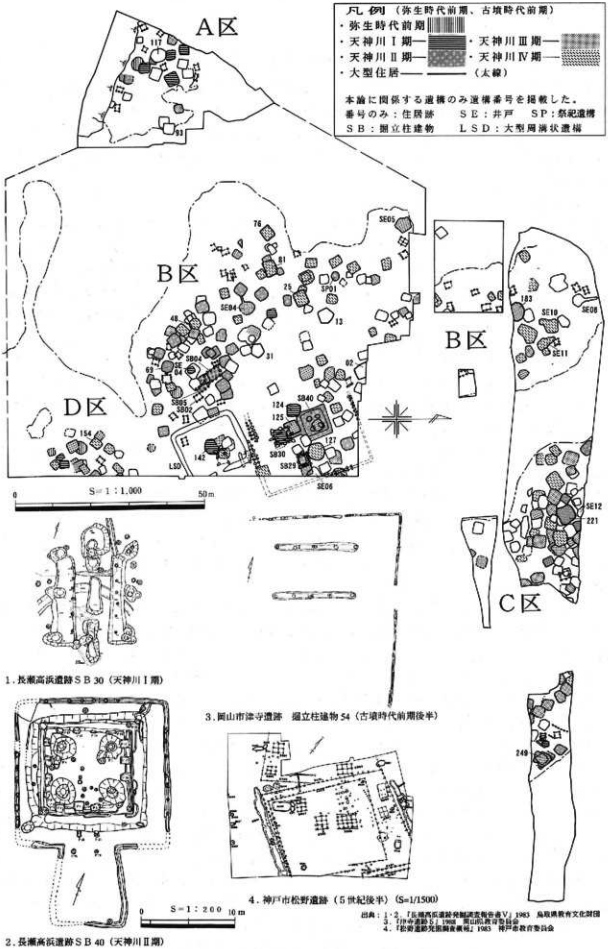
前時期のSB29の北側に、新たに大型掘立柱建物SB40が築造される。周囲は、平面前方後方形を呈する柵（板壁か）で囲繞される。さらに二重の柵により外部と隔絶されており、内部は、一般の居住地とは異質な空間を形成していたであろう。

これとは別に、南西側において、大型掘立柱建物SB04を中心とする４棟が検出されている。南東側に接するSB05も、主軸が同じであり併存する可能性がある。SB04の周囲は、住居跡群で囲まれており、中には大型住居SI31（床面積43㎡、五角形）が含まれる。ただし、遺構は重複することから、同時併存は３棟前後となろうか。

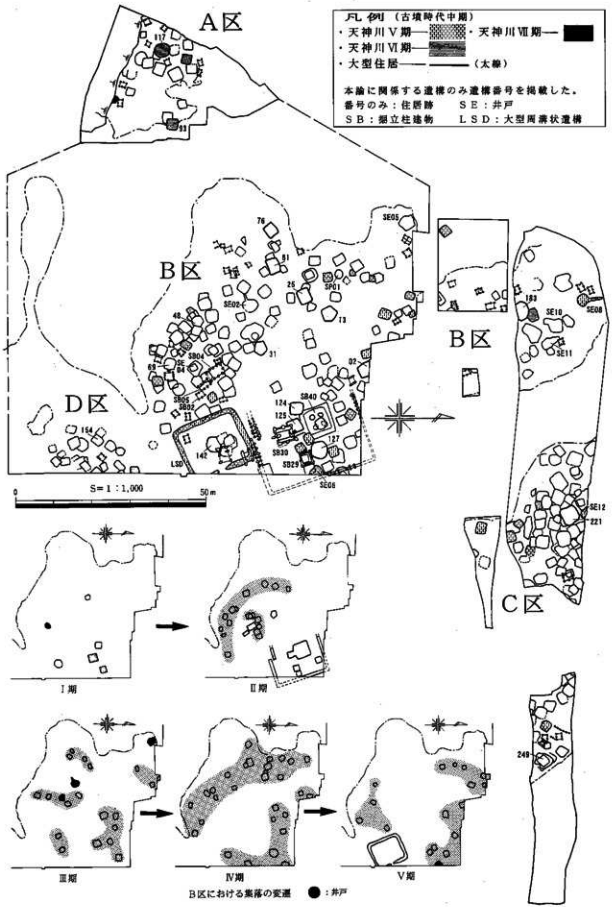
SB04周辺に密集する住居跡の周囲には、これをさらに取り巻くように数棟の住居跡が弧状を描いて分布する。このような弧状を呈する住居配置は、広場を中心とする形態としてⅣ期まで継続する。さらに、この住居跡群の約20m北側のSP01では、同時期の土器、剣先形鉄製品、素文鏡などが集中して出土し、祭祀の場と想定される。遺構埋砂中から多量の土器が出土した住居跡[3]には、SI69があり、138個体以上が出土している。

Ⅲ期には、集落規模はさらに拡大し、Ⅳ期にかけて集落の最盛期を迎える。古墳時代前期中葉である。B、C区が主体をなす。C区は遺構密度が最も高まる。B区の住居跡は、広場を中心に数群が散在する。大型住居SI125（床面積40.3㎡）を含む南側の二群、SE02を囲むように分布する二群、SE05西側の一群、さらに北側の大型住居SI183（床面積41.5㎡？）を含む一群、の合計六群程度に分けられる。弧状の住居配置は明確さを欠くが、中心に広場を設けることには変化がない。広場の中央付近にはSI14があり注目されるが、時期不明である。大量の土器を投棄した遺構に、井戸SE03（115個体以上）がある。住居群の北側には、SE05、さらにC区にSE12の井戸が設けられる。SE05からは、畿内の庄内式の特徴を持つ甕片が出土している、C区では、土器が多数廃棄された遺構SI249（280個体以上）を含む、多数の住居が重複しつつ展開する。

また、A、D区では引き続き数棟程度の小規模な集団が継続する。Ⅲ期以降、集落全体の中枢をなす施設は検出されていない。



挿図196　長瀬高浜遺跡集落変遷図古墳時代前期（Ⅰ～Ⅳ期）



挿図197　長瀬高浜遺跡集落変遷図古墳時代中期（Ⅴ・Ⅵ期）

Ⅳ期は、Ⅲ期に続き集落の最盛期であり、古墳時代前期後葉にあたる。B区の広場を囲む住居跡群は継続されるが、Ⅲ期よりも外側に配置され、広場は拡大する。同時に全体を構成する住居数が増大し、北側にも分布が拡大する。C、D区でも継続して集落が営まれる一方、Ⅰ期以来継続していたA区では廃絶する。井戸は、Ⅴ期にかけてB区北側を中心に掘削されるが、Ⅳ期ではSE10、11がある。大型住居はB区のみで確認された。SI81（床面積44.6㎡）、25（47.9㎡）、127（49.7㎡）の３棟である。SI81からは、備讃瀬戸内系とされる製塩土器が出土している。平面形が五角形という点では、SI48も特徴的であろう。

Ⅴ期は、住居数が減少し、集落が衰退し始める時期である。古墳時代中期前葉である。土器も、器種が減少するなど画期を迎える。B区の広場を取り囲んでいた住居群のうち、南西側の一群は急速に減少する。C区でも減少傾向にあり、D区に至ってはⅠ期以来継続していた住居群が廃絶する。井戸は、B区北東端にSE06が設けられ、周囲に住居が築かれる。一方、B区東側には、方形に巡る大規模な溝LSDが存在する。内部には、LSDと併存しうる遺構は確認されていない。溝埋砂上層から100個体以上の土器が出土しており、祭祀など特殊な性格を有したとも考え得る。大型住居、大量の土器が廃棄された遺構は、確認できない。

Ⅵ期は、住居跡数は急速に減少し、数棟の住居跡が分布する寒村的な状況となる。古墳時代中期中葉であろう。C区では全く分布せず、B、D区でも各１棟のみである。一方、Ⅳ、Ⅴ期と断絶していたA区に再び３棟の住居跡が確認できる。平面形が、円形または六角形の住居跡SI117（床面積30㎡）は特徴的である。なお、A区のSI93からは、TK73型式に比定される初期須恵器が出土している。

Ⅶ期は、集落自体はほぼ廃絶し、住居はA区で１棟のみになる。古墳時代中期後葉にあたる。SI92から、TK216型式に比定される須恵器の蓋が出土している。

本遺跡では、Ⅶ期を最後に集落は形成されなくなり、以後墓域として利用され、多数の古墳が築造される。Ⅶ期には、すでにA区で５基の古墳が築造されている。

２．集落の構造

集落の変遷を概観したが、古墳時代における一つの土器型式がもつ時間幅は、三、四十年程度と想定されており、同一時期に比定した遺構全てが共存するとは考え難い。従来、集落論が、とくに西日本において活発でない原因の一つは、分析段階におけるこうした不確定要因の多さに求められる。和島誠一氏に始まる集落研究の過程において、併存遺構の抽出方法についても模索が行われたが[46]、客観的な方法論の策定には至っていない。

本項では、厳密な併存住居の抽出は行わない。そこで、平面的な遺構分布状況の検討、および、大型住居、土器が大量廃棄された住居跡、大型掘立柱建物など特徴的な遺構の分析から、集落構造の解明の手がかりを得たい。

なお、C区については調査区の関係上、周囲の状況が不明瞭なため、B区を中心に分析する。

集落は、B、C区を中心に展開したと考えられるが、A区ではⅠからⅢ期まで、D区ではⅠからⅣ期まで、未調査区にかかるものの、それぞれ２～５棟程度を有する小集団が継続する。これらとB区とは、地形的または分布的なまとまりとして区分できる。A、D区の集団は、拠点集落を形成する一集団であるとしても、継続性の点からみても、B区の集団と同一とは認めがたい。また、C区とB区の間は尾根上の高まりにより分離できることから、この両者も一集落内での異なる集団と考えられる。ただ、井戸のように、各地区の集団が占有するのではなく、集落全体の共用施設は存在したと考えられる。

B区では、集落が盛行するⅡ期からⅣ期にかけて、広場を中心に弧状を呈する住居配置が行われる。配列に厳密さはなく、遺構は重複しており、併存の住居は確定できない。しかし、土器型式上の二時期以上にわたり一定の住居配置が認められる場合、その分布状況が数十年にわたる時間的な集積の結果であるとしても、少なくともある程度の期間は、その住居配置がとられたであろうことは認めてよい。広場や掘立柱建物、溝などの周囲を弧状（半円状）を呈する住居群で囲む配置形態は、早くから和島誠一氏が埼玉県五領遺跡の分析でも指摘しており、関東地方の集落跡ではよく指摘される。近畿では、兵庫県長越遺跡などで指摘されている。これは、集落がある程度の企画性を有することの傍証であり、B区がいわゆる単位集団を基礎とする集合体であったとしても、個々の集団は共同体的な関係によって結ばれていたことの表れであろう。集落構成の基礎単位が単位集団であること

は各地で検討されているが、山陰地域でこれが証明された例はみられない。しかし、Ⅰ期のA、B区では3棟程度、A、D区では、各時期とも2―4棟程度の住居跡で構成されており、掘立柱建物の保有形態は不明だが、集落の基礎単位としての小集団が存在したことは考え得る。

こうした住居群の中に、少数の大型住居跡が存在する。Ⅰ期から2棟が存在し、Ⅳ期の4棟でピークを迎える。集落が衰退するⅤ期以降には確認できない。平面形が、多角形や円形のものもある。特徴的な例として、SI13からは、土器は器台1個体のみ、時期は不明であるが、SI02でも、甕1個体のほかはすべて鉄鏃、ヤリガンナなどの鉄製品であり、17点が図化されている。遺物の残存はあくまで偶然的な結果であるが、一般の住居とは異なる可能性がある。大型の竪穴住居は、弥生時代中期以降において各地で検出されており、東郷池東岸丘陵上の南谷大山遺跡においても、弥生時代後期から天神川Ⅰ期にかけて、継続的に築かれている。住居の規模がいかなる社会構造の反映かは分からないが、大型住居は一般的に、多人数世帯の住居、集落内での有力世帯の住居、もしくは共同家屋として評価されている。弥生時代のものとは本質的に異なることもあり得るが、継続して築かれていること、通常の二倍近い規模を有すること、さらには集落が衰退するⅤ期以降に見られないことを考慮して、現状では住居群内における有力世帯の住居として理解したい。また、床面積10㎡以下のものも21棟出土しており、「住居跡」とされている遺構全てが住居としての機能を有したか疑わしい。集落内には、平地式住居、納屋、小屋、垣根、道など多様な施設が存在したことは、すでに群馬県黒井峯遺跡において証明されている。こうした施設の確認は困難だが、意識する必要はあろう。

また、土器が大量に投棄される住居跡や井戸がある。Ⅱ期のSI69、Ⅲ期のSI249、SE03である。二型式にわたる土器が出土する例があることから、土器の処分方法の一つとして、特定の住居跡の窪みが選択され、長期間に利用された結果とも考え得る。しかし、SI249では、280個体を越える土器、素文鏡、剣先形鉄製品が出土し、祭祀の過程で投棄された可能性がある。

長瀬高浜遺跡の集落構造の要をなすのが、大型掘立柱建物群である。東側が未調査地であるため、集落全体のいかなる位置にあたるのかは不明である。独立棟持柱を有する大型掘立柱建物は、近畿では、弥生時代Ⅳ期以降に増加する。鳥取県内でも、弥生中期後半から後期の例として、淀江町茶畑山道遺跡、百塚第7遺跡など、古墳時代前期には青木遺跡で確認できる。前期後半のものに、岡山県津寺遺跡の掘立柱建物54がある。布掘りの掘り方をもつ大型掘立柱建物で、周囲16×20m以上を布掘りの柵によって囲繞されている。この点、当遺跡のSB40に類似する。平面前方後円形を呈するものは他に類例をみない。また、時期不明であるが、当遺跡で布掘りの掘り方を有する掘立柱建物3棟がある。SB40を囲繞する柵の南側は、鈎状を呈し、出入口と理解されている。類例として、神戸市兵庫区の松野遺跡がある。五世紀後半の所産であるが、柵の内部に総柱の建物が3棟配置され、豪族居館として評価されている。

SB29、30、40の上部構造は不明であるが、高床建物が想定されており、「神殿」とする見解もある[10]。掘り方の規模からみても、大がかりな建物構造が想定され、集落全体のシンボル的な存在であったことは間違いない。注目すべきは、これらが神殿であれ首長の居館であれ、集落形成当初から完成された形態として導入されていることである。集落の形成過程を経て生み出されたものではなく、技術的にも外部から導入されたと考えられる。集落形成直前の弥生時代末に、天神川下流域においてこのような特異な建物は、確認できない。

また、Ⅱ期には、SB40の一群と、この南西側に位置するSB04の一群が併存していた可能性がある。SB04周辺にはこれを囲むように住居跡が分布するが、SB40周辺には稀である。両者は、建物構造の違いを含めて対照的であり、性格の違いを窺わせる。埼玉県五領遺跡では、倉と想定される掘立柱建物の周囲を囲むかたちで住居跡が配置されており、こうした一例とも理解できる。大型建物群は、Ⅲ期以降継続せず、集落の最盛期を目前に突然姿を消す。

大型掘立柱建物群の性格を推察する上で示唆的な資料として、遺跡の東側丘陵上の橋津（馬ノ山）4号墳がある。長大な竪穴式石室、三角縁神獣鏡、豊富な玉類をもち、古墳時代前期後半の所産と考え得る。集落との地理的な位置関係や、集落の最盛期に築かれることからみて、被葬者が集落内に居住していたと考えるのが自然であ

ろう。遺跡内でこの時期の大型建物は確認されないが、集落の形成当初から、首長によって統率されていた蓋然性は高い。Ⅰ～Ⅱ期に築造された大型建物群を「神殿」と評価するなら、その祭祀は、もはや集落内の共同祭祀ではなく、首長によって掌握された多分に政治的な性格を帯びたものであったとみることができる。

このように、集落内には、大型竪穴住居を含む竪穴住居が広場を中心に配置されており、こうした集団が複数存在したと考えられる。個々の集団は数棟程度の小集団によって構成されていた可能性がある。そして、集落全体は、首長を頂点として一つの共同体を形成していた。大型住居が有力者世帯の住居であるなら、集落内では、少なくとも首長―有力世帯――般世帯という階層構造が存在したことになる。

集落は、砂丘の腐植砂層（クロスナ）を基盤として形成される。クロスナ層に遺跡が形成されていることは最近になって知られつつあり、県内では鳥取市身干山遺跡がある。上下二層のクロスナ層のうち、下層から弥生時代前期の土器が、上層から古墳時代前期の箱式石棺が出土したという。北条砂丘の西側の東園でもクロスナの存在が確認されており、今後日本海沿岸においてクロスナ層に立地する遺跡が確認される可能性は高い。

集落立地は、その生業基盤と不可分の関係にある。遺跡の南側では、グライ土壌が検出されており、東郷池へ至る平野部分で当該期の水田が検出される可能性が高い。また、住居跡内から、多数の鉄製農耕具とともに、釣針や土錘、鉄鏃などが出土しており、農耕の他に、地の利を生かした漁撈、狩猟を行っていたと考えられる。福岡県御床松原遺跡は、海岸砂丘上に立地する弥生時代から古墳時代中期にかけての大集落遺跡であるが、多量の漁具、魚貝類が出土し、半農半漁民の集落と理解されている[20]。砂丘地ではあるが、砂丘形成が停滞していた当時においては、居住には適当な地であったといえる。

長瀬高浜遺跡が、古墳時代前期から中期前半における拠点集落であったことは間違いない。このことは、集落の規模、継続性、中枢施設の存在、吉備、丹後、畿内など、多方面からの搬入土器の存在などに表徴される。大型掘立柱建物群についても、各地に類似する属性が見受けられる。山陰地方の古墳時代集落において、これほど大規模かつ広範なネットワークをもつ集落は、希有であろう。また、山陰で最も早く畿内系の前方後円墳（馬ノ山４号墳）を築造し、畿内の布留式系の土器様式をいち早く取り入れるなど、畿内とのつながりの強さも窺える。天神川下流域は、三角縁神獣鏡の保有率においても他の山陰地域を凌駕しており、畿内政権が、この地域を山陰の拠点として重視したものと推察される。また、竪穴住居262棟のうち、100棟以上から何らかの鉄製品が出土している。Ⅰ期からⅡ期にかけての住居跡52棟のうち、16棟以上において鉄製品が出土しており、前期でも早い段階から、ある程度鉄器が普及していたものと推察される。Ⅳ期の住居跡SI163では、床面近くから鞴が出土したとされており、集落内に鍛冶炉が存在した可能性もある。長瀬高浜遺跡は、古墳時代前期の西伯耆における物流および情報の一大拠点であったと位置づけられる。

今後は、集落の形成、突然の廃絶の要因をいかなる点に求めるのか、廃絶後は分散したのか移動したのか、さらには、周辺の集落遺跡との間に母村―分村関係などが成立しうるのか、など周辺の遺跡を含めた広範囲な検討が必要となろう。

（岡野）

（脚註）

(1) 遺構の時期比定は、基本的に床面、および埋彩下層出土の遺物を基準とした。出土層位が報告書に記載されていない遺構については、出土した土器のうち、主体をしめる時期を遺構の時期と判断した。

(2) 長瀬高浜遺跡においては、床面積15～25㎡未満の住居が数も多く、床面積が判明または想定できる住居跡164例のうち79例と全体の48％、30㎡以下のものは75％を占める。大型とする基準は各遺跡において流動的であるべきだが、本項では、一般的な住居の約２倍の面積である40㎡以上の床面積を持つものを一律に大型住居とした。集落内で13例検出されている。

(3) 一つの遺構内から100個体を越える土器が出土した場合、これを大量に投棄された遺構と判断した。ただし、過去の調査において個体数が明示されないものについては、報告書に掲載される実測図の個体数を下限とした。

(4) 関東地方では住居同士の距離の分析から併存住居を抽出する方法なども試みられている。いずれも土器型式を基本とした上での分析であるが、研究者による個人差や、応用できる地域性の問題などがあり、試論の域を出ない。

(5) 広瀬和雄「神殿と農耕祭祀」『弥生の環濠都市と巨大神殿』1996

(6) 志摩町教育委員会『御床松原遺跡』1983

甲元眞之「農耕集落」『岩波講座　日本考古学』第４巻　1986

※参考文献は割愛させていただいた。

第３節　長瀬高浜古墳群の検討

１．長瀬高浜古墳群の変遷

今年度調査において、３基の古墳（SX97、SX98、SX99）を検出した。この結果、長瀬高浜古墳群は計44基以上の古墳から成ることが判明した。さらに、無墳丘の箱式石棺墓、土壙墓、円筒埴輪棺などを含めると、101基の埋葬施設が検出されたことになる。

これまでに、埋葬施設、土器枕、頭位方向による詳細な検討がなされていたが[文献1]、今回時期を細分できたことから、時期ごとの構成変化を中心に考えてみることにする。

古墳を概観すると、大きく２地区に分布していることがわかる。中央丘陵を挟んで西側をＡ区、東側をＢ区とする。これらは、おおむね古墳時代中期前葉から古墳時代後期後半にかけて造営された古墳群であるが、詳細にみると、挿表19のようになる。

時期が判明するものを見ると、まず、天神川Ｖ期に１辺10mの小型方墳の29号墳が造られている。29号墳は丘陵頂部付近にあり、当古墳群中では最高位にある。同様の立地の唯一の前方後方墳である26号墳も、当古墳群では古相のものと考えられる。

次の時期になると前時期に比べて大型のものが現れ、Ⅵ期には径14mの４号墳を中心に４基、Ⅶ期には径14mの58号墳を筆頭に５基確認できる。副葬品の状況を見ると、Ⅵ期では大小を問わずほとんどの古墳に鉄刀・鉄剣・鉄鏃等の武器類が副葬されている。また、古墳以外の埋葬施設のうち、SX100・101のように非常に大きな土壙墓、木棺墓も造られている。

Ⅷ期には、Ａ区に径22mを測る最大規模の１号墳が現れ、その他の４基は径10m程度の小円墳で構成されるようになる。副葬品は、１号墳、28号墳、97号墳に武器類が見られる。

大型の古墳と小規模の古墳が共存する傾向はⅨ期においても同様で、径20mの３号墳を中心に径10m前後の小円墳６基が造られ、数量的にピークを迎える。副葬品は鉇、刀子等の工具類に変化している。

後期にはいり、Ⅹ期では極端に縮小傾向になり、確実には径16mの２号墳、径18mの89号墳の２基であるが、小円墳が付随するものと考えられる。副葬品は、２号墳で鉄鏃、刀子がみられる程度である。

その後一時期断絶期があり、TK43併行期に再び出現する。数は少なく径13mの中規模円墳８号墳１基のみである。TK209併行期になると、径14mの24号墳を中心にして小規模のものが３基造られている。

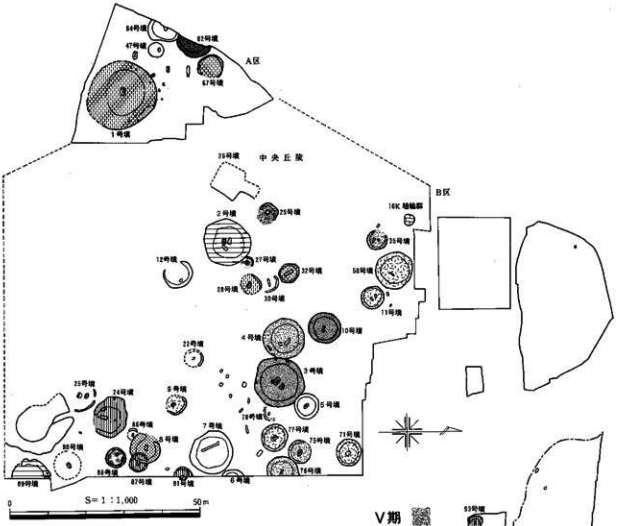
以上、全体を通してみると基数が徐々に増し、Ⅸ期でピークを迎える。古墳群形成当初、古墳の規模に差がなく、比較的均質な被葬者層が想定できるが、時期が下るにつれて、規模に著しい格差が生じている。

また、副葬品の状況を見ると、Ⅵ～Ⅷ期では鉄剣、直刀、鉄鏃などの武器類、刀子などの工具類他、玉類が見られるが、Ⅸ期に入ると武器類の副葬は少なくなり、工具類が多くなる傾向にある。また、遺存状態が悪いため

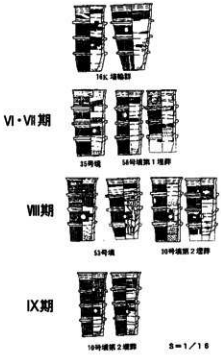
遺構名	墳形	規模m	時期	主体部構位	副葬品	人骨
1号墳	円墳	径22	TK209	墳頂	S-73°-E	?
2号墳	円墳	径15.8	MT15	Ⅹ期		
3号墳	円墳	径20	TK47	Ⅸ期	S-70°-E	杜
4号墳	円墳	径15	Ⅵ期		S-66°-E	?
5号墳	円墳	径10.2	?		S-26°-E	女
6号墳	円墳	?	?		S-36°-E	—
7号墳	円墳	径12	?		—	—
8号墳	円墳	径13.4	TK43		S-74°-E	—
9号墳	円墳	径10	墳期		S-36°-E	熟・男
10号墳	円墳	径12	Ⅷ期		S-66°-E	—
11号墳	円墳	径10	墳期		—	—
13号墳	円墳	径12	?		—	—
22号墳	円墳	径8	?		S-66°-E	—
24号墳	円墳	径14	TK209	?	S-19°-E	—
25号墳	円墳	径14.8			S-70°-E	刀子
26号墳	方・方	長30	?		—	—
27号墳	円墳	径6	TK47	Ⅸ期	S-41°-E	管玉
28号墳	円墳	径9.2	TK208	Ⅸ期	S-58°-E	鹿角鉄鏃例
29号墳	方墳	辺9.8		Ⅴ期	S-68°-E	—
30号墳	円墳	径6.4		墳期	S-102°-E	—
32号墳	円墳	径8.8		?	S-32°-E	—
33号墳	円墳	径6.8		墳期	S-70°-E	熟・女
47号墳	円墳	径10		?	—	—
56号墳	円墳	径14.4		墳期	S-23°-E	—
58号墳	円墳	径10		Ⅸ期	S-62°-E	—
64号墳	円墳	径12.8		?	S-87°-E	—
67号墳	円墳	?	TK208	墳期	—	—
71号墳	円墳	径10.4		墳期	S-40°-E	—
75号墳	円墳	径10.2		Ⅵ期	S-50°-E	鉄剣、滑石小玉
76号墳	円墳	径11.6		Ⅵ期	S-60°-E	—
77号墳	円墳	径11.9		墳期	S-49°-E	鉄斧、玉類
79号墳	円墳	径10		?	S-60°-E	杜・男
81号墳	円墳	径8	TK209	?	S-44°-E	杜・男
86号墳	円墳	径5.4		Ⅸ期	S-72°-E	—
86号墳	円墳	径8.8	TK209		S-95°-E	②刀子
87号墳	円墳	径6.5		?	S-60°-E	—
88号墳	円墳	径12?		Ⅹ期	S-120°-E	—
89号墳	円墳	径18		Ⅹ期	—	—
91号墳	円墳	径17.8		?	鉄刀、玉類	—
92号墳	円墳	径6.0		Ⅸ期	S-96°-E	—
99号墳	円墳	?	TK209		横穴式石室	—
97号墳	円墳	径10.5	TK208	墳期	S-60°-E	鉄器
98号墳	円墳	径11.2	TK25	Ⅸ期	—	—
100号墳	円墳	径10		墳期	—	—
101号墳	方・円？	長30	TK43～209		—	—

挿表19　長瀬高浜古墳群一覧（古墳に限る）

注）方・方は前方後方墳
　　方・円は前方後円墳



挿図198　長瀬高浜古墳群変遷図



挿図199　長瀬高浜遺跡の円筒埴輪

に一概には言えないが、大型墳には武器類、小型墳には玉類が副葬されることが多いようである。

このように、墳丘規模と副葬品の状況を見ると、時期が下るにつれて有力者層と中堅被葬者層との格差が広がっていき、集落内でのヒエラルヒーが生じていたと考えられるが、時期が下るにつれて、被葬者の性格も変質していったものと思われる。

さらに、近接しながら順次築造されるグループが数か所認められる。このグループは、時期不明のものがあるために確実ではないが、75～77号墳、3・4・5・10号墳のように3～4基がひとまとまりになっている。この単位が、おそらく血縁集団の単位(文献2)と考えられ、氏族の墓域を形成していたものと考えられる。

当遺跡は、集落が縮小するにつれて墓地として変化しているが、古墳群が形成される時期には、24基以上の集落が同時併存しており、集落と墓域が全く切り離されてはいない。Ⅵ期以降集落は急激に縮小しているが、古墳群はⅩ期までは連綿と造営されており、おそらく、かなりの規模の集落本体は周辺に移動しているものと考えられ、集落と墓域は近接した状態であったものと考えられる。

2．埴輪群について

さて、古墳群を分析する上で、避けて通れないものに夥しい数の家形・器財埴輪等からなる16K埴輪群の存在がある(文献3)。ここから出土している土師器は、天神川Ⅴ期の特徴をもっているが、混入したものと考えられる。

その他の遺構から出土している埴輪と比較すると、埴輪転用棺は土師器が共伴しているものは、天神川Ⅶ～Ⅸ期併行と考えられる。埴輪自体は、他の埋葬施設に用いられたものと形態的に大きな差は認められないが、タガの突出度が若干高くやや遡る可能性があり、天神川Ⅵ期前後、古墳時代中葉ごろのものと考えられる。

その性格については、樹立されるはずの古墳が築かれなくなってしまったという説、出土位置が井戸跡の直上に当たることから水に関わる祭祀説、集落から墓域に替る時期であることから地鎮祭説などが考えられている(文献4)。

出土状況では、完形のものが樹立されていたと推定されていることから、廃棄されたものでもなく、単に集積したものでもないと考えられる。また、水に関わる祭祀説についても、SE05が完全に埋没していることから、直接結びつけることはできないと思われる。

また、時期的には天神川Ⅵ期前後と、古墳群が形成される時期にあるものの、集落は存在しており、全くの墓地として変容している時期ではなく、地鎮祭説と考えることも困難であると思われる。

状況としては、窪地になっていた場所を利用して、何らかの目的のために樹立されたものと考えられる。

その他の遺構の埴輪は、周溝内埋葬か、古墳に伴わない単独の埋葬施設に限って使用され、副次埋葬施設として利用されたものである。なお、使用されたものはすべて普通円筒埴輪で、大半のものには最上段部に「V」字の記号が施されているのが特徴である。

しかし、埴輪群には普通円筒以外に、大量の器財形埴輪があり、構成としては一般の古墳に並べられるものと同様で、また、埴輪群の円筒埴輪には上記の記号がなく、埋葬用とは異なるものと考えられ、本来古墳に樹立されるべくつくられたものが不要になり樹立されたと考えた方が、より合理的に理解できると思われる。

埴輪が囲繞する古墳は、伯耆地方においては馬ノ山4号墳、北山古墳などの大型前方後円墳に限られており、埴輪群の埴輪が本来古墳に樹立されるとなると、かなり大型の古墳が築造予定であったものといえるのではないか。

（牧本）

参考文献

1．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅵ』1983

2．近藤義郎『前方後円墳の時代』岩波書店1983

3．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅳ（埴輪編）』1982

4．坂本敬司「長瀬高浜遺跡出土埴輪群の意味」『郷土と博物館』第32巻第1号　鳥取県立博物館　1986

第4節　古代の遺構について

長瀬高浜遺跡は、全国でも砂丘下にある巨大複合集落として有名な遺跡であるが、奈良から平安時代にかけての遺構・遺物が出土している点についてはあまり注目がなされていない。このことは、これまでの調査で検出された、当該期の遺構・遺物の出土数が、他の時期のそれと比べ、あまりにもわずかであるがゆえと考えることができる。しかし今回の調査で当遺跡の調査に一つの区切りがつくことから、この機会を利用し、この時期の遺構・遺物について、まとめの意味も込めながらここで少し触れてみることにする。

今回みつかったこの時期の主な遺構は、庇付きの総柱建物跡（SB58）を含む、計3基の掘立柱建物跡（SB58・59・60）、柵列3基（SA5・6・7）、整地遺構3基（整地遺構1・2・3）、溝状遺構3基（SD18・19・20）、総計87個のピットからなるピット群1か所（ピット群1）などである。

まずは、掘立柱建物跡・柵列についてから記すことにする。これらはピット群1を構成する総計87個からなるピットの一部から構成されており、主軸はそれぞれN—9°—W（SB58）、N—87°—E（SB59）、N—84°—E（SB60）と、いずれの建物軸も方位からわずかに振れる程度の庇を南北両側に配置するSB58、SA6を伴うSB59、SA5・7を伴うSB60であり、SA5の主軸が若干違うものの、SA6と7のそれは全く同一であった。またこれらからは主軸のみならず、配列自体も北側を除く西から南方向にかけての2～3方向に配列しているなど、いくつかの類似点が指摘できる。さらに出土遺物の観点からみると、この遺構検出面付近から赤色塗彩土師器片が多数出土している。これらは山陰地方、特に伯耆地方での出土が多いとされ、伯耆国庁第2様式にあたるもので、茶色味を帯びた色調で薄く塗られ、ハケの痕跡を留める第2様式・SD37形式からSD35形式にかけての、ほぼ9世紀代ごろのものと考えられるものがほとんどであった。

当遺跡外にも伯耆地方では、上福万遺跡、貝田原遺跡、向野遺跡、森藤遺跡、矢戸遺跡等からの出土例があるが、全国一律に分布せず、非分布圏も多数存在していることは、赤色塗彩土師器の出現が中央からの文化伝播ではなく、地方の選択による結果を示すとされる。このことから、長瀬高浜の地を含む伯耆地方でも伝統的な勢力に依拠し、律令体制を消化しながら在地の統制に乗り出す地方政権の姿相を窺うことはできないだろうか。

さらに以前の調査でもSB37・41・42等[注1]が出土しており、そこからは10点あまりの墨書土器、土師器、鉄製品、帯金具等が出土している。さらに、昭和55年度調査地内（14Kグリッド南西区・11号墳周溝上）からも帯金具が1点出土している。これらの遺構・遺物が「飛鳥時代の墳墓[注2]、石蓋土壙、石槨状遺構[注3]を含んで、調査区Eライン以南に集中して出土することは、この時期の遺跡の様子を語るうえで大変重要な資料になる」とされている。また、平成7・8年度調査でも、この時代に該当する遺構として、南側に庇を持つSB55（梁行2間以上、桁行3間を測る総柱の掘立柱建物跡）などが検出されている。直接の出土遺物はないものの、周囲（7Pグリッド）で8世紀後半から10世紀代にかけてのものとされる遺物[注4]が出土している。この建物の主軸方向は、N—28°—Wで、今回検出できたSB58・59・60のそれとは異なるものの、比較的Pライン付近に位置することから、この時期の掘立柱建物跡がPライン以北にかけて、さらにひろがって存在している可能性も十分に考えられ、今後の調査が大いに期待される。

このように今回検出できた各建物跡は、建物跡自体が規模・形態など類似点が多いのみならず、南側から西側にかけてを意識した構造の柵列にも類似点がみうけられる。このような状況から判断すれば、今回検出した建物跡群は、Hライン以南にあったと考える建物跡群とはっきり区画の意図をもって建てられたもので、しかもこの2つの建物群は少なくともほぼ同時期に併存していたと考えることができようか。直線距離にして約300m程離れたこの2地点で、わずかであるものの同様の遺構・遺物が出土していることから判断すると考えられないでもない。ちなみに、これまでの本遺跡調査で検出された長瀬高浜遺跡出土の古代遺構一覧を挿表20としてまとめたので参照していただきたい。

次に、その他の遺構について記す。整地遺構1・2・3があげられる。調査の結果、整地遺構1・3は、古墳時代前期から中期にかけ集落廃絶後に築造された、中期後半ごろの古墳（SX98・99）周溝部分の、また整地遺

構2は、中期ごろの竪穴住居跡の、それぞれ窪地部分をいずれもしっかりと整えるように褐色粘質土をかたくしきつめ、大規模かつ丁寧に、整地作業をおこなってできていたものである。なお、ここで使用された褐色粘質土が何処から運ばれてきたものかは今回の調査では特定するに至っていない。さらに、この整地遺構1・2検出面のやや上層にあたる場所からは、3基の溝状遺構（SD18・19・20）も検出している。これらSDについての性格等は不明であるが、整地遺構と切り合い関係にあったSD18検出面から2点の銅製帯金具の一部（丸鞆裏金具）が出土している。この裏金具は、当時の官人が用いた腰帯にとりつけられていたとされるもので、位階を示す飾り部分（丸鞆）の裏留金具であったとされる。これらの丸鞆裏金具は、丸鞆分類[185]から判断するとA—Ⅲ・A—Ⅳにあたるとされ、これから官位の比定をするとA—Ⅲ＝八位、A—Ⅳ＝大初位ということになる[186]。以前の調査でも、帯の先端に用いる飾りの部分（鉈尾）2点が出土しており、これらの大きさ・特徴等から判断しても今回のそれとほぼ同じ結果が得られるようである。なお、銙帯の制は慶雲4年（707年）から延暦15年（796年）及び、大同2年（807年）から弘仁（810年）の間に限定されることが文献資料から明らかとなっている。さらに、今回の調査では墨書土器も多数出土している。これらは整地遺構上面から出土した2点を含めて計11点で、すべてSB58・59・60検出面の3O・Pグリッド周辺から出土してものである。前述のとおり、このうち5点は「長」という文字もはっきりと確認できるもので、この時期の遺構の性格を判断する上で大変興味深い。この遺物は以前調査された11・12A・Bグリッド周辺でも多数出土しており、12BSD03からは緑釉陶器片1点も出土している。

このような状況から判断すると、前述に本遺跡調査地を含む長瀬高浜の地に、ほぼ同時期の生活拠点が2地点

遺構名	グリッド	規模	報告書頁	備考
SB37	10C	桁行1間×梁行1間 主軸N—19°—W	Ⅳ—98	P3より墨書土器「大」2点出土・当遺構検出面で銅製帯金具（鉈尾）B1出土
SB41	16H	桁行3間×梁行1間 主軸N—52°—E	Ⅳ—102	
SB42	10B	桁行1間×梁行不明 主軸N—10°—E	Ⅳ—104	柱穴内角石・砂利を敷き詰める
SB55	7P	桁行3間6.9m×梁行2間5.4m以上 主軸N—28°—W	Ⅶ—197	南東側に庇をもつ
SB58	3O	桁行2間5.6m×梁行2間4.6m 主軸N—9°—W	Ⅶ—106	南北両側に庇をもつ
SB59	3P	桁行3間約6.4m×梁行1間以上約2.2m 主軸N—87°—E	Ⅶ—107・108	SA6を伴う
SB60	3・4O	桁行2間約5.7m×梁行1間約3.9m 主軸N—83°—E	Ⅶ—109	P2内土師器皿出土 SA5・7を伴う
SI197	6N・O	東西4.0m×南北5.3m 床面積16.5m以上	Ⅶ—65	
SD02	10B	幅1m、長さ3.5m	Ⅳ—213	8世紀前後の椀・甕等が出土
SD03・05・06	10B～10・11A	不明	Ⅳ—221	須恵器片多数出土
SD01	12B	幅0.4～0.8m、長さ15m以上	Ⅲ—278	
SD03	12B	2.29×0.44—0.35m	Ⅲ—271	緑釉陶器片出土
石蓋土壙	15B	1×1—0.05～0.06m	Ⅱ—18	
石槨状遺構	12A	0.6×0.5m	Ⅱ—18	
SXA01	14E	1.84×1.0—0.37m 主軸N—32°—W	Ⅲ—214	
SXA02	13E	1.37×0.56—0.15m 主軸N—65°—W	Ⅲ—215	
SXA03	13E	2.24×0.86—0.29m 主軸N—61°—W	Ⅲ—215	
SXA04	13D	2.3×0.82—0.25m 主軸N—62°—W	Ⅲ—215	
SXA05	13D	2.2×0.67—0.17m 主軸N—83°—W	Ⅲ—215	
SXA06	13D	1.9×1.25—0.31m墓壙内に1.3×0.81mの木棺部をもつ。 主軸N—78°—W	Ⅲ—215	
SXA07	12D	2.2×1.0mの墓壙内に1.48×0.5—0.15mの木棺部をもつ。主軸N—89°—W	Ⅲ—218	
SXA08	12D	1.87×0.82mの墓壙内に1.6×0.48—0.15mの木棺部をもつ。主軸N—83°—W	Ⅲ—219	
SXA09	13E	2.65×0.6—0.2m 主軸N—52°—W	Ⅲ—220	

挿表20　長瀬高浜遺跡出土・古代の遺構一覧表

存在する可能性を指摘したが、出土遺物の観点からみるとさらに、さらに官衙関連施設を担う建物と役人の存在が十分に考えられてくる。つまり当時の役人、役所にとって、どれほどこの地が重要な場所であったかを端的に示唆していると考える。奇しくも、『この地の近くに生活し、この時代で官位七位程度の者の存在ということを考えれば、倉吉伯耆国庁の役人の内、七位の位をもつ「掾」が相当する。[註27]』とされる説があることは大変興味深い。

さて、これまで鳥取県内で発掘調査された遺跡の中で、官衙関連の遺跡であるとはっきり位置づけられているものとして、次の遺跡が挙げられる。伯耆国においては西から岸本町・長者屋敷遺跡[註28]（会見郡衙推定地とされる）、東伯町・大高野遺跡[註29]（八橋郡衙の正倉とされる）、東伯町・伊勢野遺跡[註30]（豪族の邸宅か、八橋郡衙に関係する機関とされる）、北条町・殿屋敷遺跡[註31]（久米郡下神郷の郷倉の可能性が高いとされる）、東郷町・久見地区（寺院跡か官衙跡ではないかとされる）、さらには近年調査がおこなわれた倉吉市・不入岡遺跡[註32]などがある。一方、因幡国においては気高町・上原遺跡群[註33]（気多郡衙推定地とされる）、戸島・馬場遺跡[註34]（布掘りの建物が出土し、上郡衙坂本郷の郷庁・正倉ではないかとされる）、船岡町・西ノ岡遺跡[註35]（掘立柱建物跡が土器や硯とともに出土）、郡家町・万代寺遺跡[註36]（八上郡衙推定地とされる）、岩美町・上ミツエ遺跡[註37]（円面硯、硯として使用した須恵器の皿出土）などがある。このうち戸島・馬場遺跡の調査は、郡衙の下部機関にあたるとみられる官衙施設が正倉別院以外にも存在することが確認できた遺跡として極めて重要な意味をもたらし、また地方支配が国衙・郡衙以外の官衙施設をも動員して遂行されていた実態が明らかになった。

このように、出土遺物により遺跡の性格がはっきりする遺跡がある一方で、近年、古墳時代後期以降の掘立柱建物跡で構成される集落遺跡等の遺跡が多数調査されている。鳥取県内でも、挿表22に示すとおり、該当する遺跡が多数見受けられる。これらの遺跡では、壺・甕などよりも供膳用に規格化される杯・皿類がよく見られるが、墨書土器のような遺跡の特徴を表す資料でも出土しない限り、軽率に官衙関連遺跡と判断することはできない遺跡とされている[註38]。ならばここで新たな問題が生じてくる。すなわち、帯金具の出土があった長瀬高浜遺跡の場合はともかく、表中に示した大柴町・尚野遺跡[註39]、東伯町・森藤第１・２・３遺跡[註40]、水溜り・鴛鴦掘場遺跡[註41]、倉吉市・不入岡遺跡などの場合のように、狭義の国衙・郡衙とは異なる豪族居宅・庄所などの施設を検出している遺跡の性格をどう理解するのか、どのような特徴があれば官衙施設と認定できるか、より厳しく問われなければならない[註42]。その点では、個々の遺跡の綿密な分析や、その地域におけるその遺跡の位置づけを踏まえた官衙遺跡の指標抽出作業が今後の大きな課題になってくると考えられ、この問題を解決するべく、今後、更に踏み込んだ研究がすすむことを願ってやまない。

いずれにしても今回、この長瀬高浜の地で官衙関連のものと考えられる遺構が検出できたことは、今後調査される周辺の遺跡の性格を判断する上で、優良な資料になると考えられ、大変有意義な調査であったといえる。最後になったが、この報告内容が今後おこなわれるであろう調査の一助となれば幸いであると、発掘調査を担当した者の一人として強く願う次第である。

（井上）

遺跡名	遺構名	種類	大きさ（cm）長さ×幅一厚さ	位階
1. 因幡国庁	SB105	石帯巡方表	3.5×3.3−0.5	八位（A—Ⅲ）
	SB107	石帯丸鞆表	最大幅2.2、厚≦0.6	八位（A—Ⅲ）
2. 岩吉遺跡	遺構外	石帯（丸鞆）	2.2×1.8−0.35	不明
3. 伯耆国庁	SD18近辺包含層	銅製鉸具	不明	不明
	南門推定地	銅製鉸具	不明	不明
	SD08北側土坑	石帯丸鞆表	4.2×3.7−0.57	七位（A—Ⅱ）
4. 東郷町宮内	不明	石帯	不明	不明
5. 諏訪遺跡	SI03	石帯状石製品	欠損6.0×4.0−0.2	不明
6. 青木遺跡	HSI36	銅製鉸具	4.6×2.5−1.0	七・八位（A—Ⅲ）
7. 長瀬高浜遺跡	遺構外14K南西区	銅製蛇尾	3.9×3.5−0.4	七位（A—Ⅱ）
	遺構外10B粘土面上面	銅製蛇尾	3.4×4.2−0.6	七位（A—Ⅱ）
	SD18上面	銅製丸鞆表	欠損2.2×2.55−0.1	大初位（A—Ⅳ）
	SD18上面	銅製丸鞆表	1.9×2.5−0.1	八位（A—Ⅲ）

挿表21　鳥取県内出土帯金具・石帯一覧表

註・参考文献

1．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告Ⅳ』1982
2．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告Ⅲ』1981
3．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告Ⅱ』1981
4．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡Ⅶ』1997
5．奈良国立文化財研究所『考察・金属器―瓦方・丸鞆分類表―』『平城京発掘調査報告Ⅵ』1975
6．奈良国立文化財研究所『考察・金属器―官位の比定―』『平城京発掘調査報告Ⅵ』1975
7．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡Ⅳ』
―天神川流域下水道事業に伴う砂丘遺跡の発掘調査概報(3)―1981
8．岸本町教育委員会『長者原遺跡群発掘調査報告書』1982
9．東伯町教育委員会『東伯町内遺跡発掘調査報告（大高野遺跡）』1993
10．東伯町教育委員会『伊勢野遺跡群予備調査報告』1978
11．北条町教育委員会『殿屋敷遺跡』1988
12．倉吉市教育委員会『不入岡遺跡群発掘調査報告書』1995
13．気高町教育委員会『上原遺跡発掘調査概報』1979・1982
14．気高町教育委員会『馬場遺跡発掘調査報告書』1993
15．船岡町教育委員会『西ノ岡遺跡遺跡発掘調査報告書』1981
16．郡家町教育委員会『万代寺遺跡発掘調査報告書』1983
17．岩美町教育委員会『上ミツエ遺跡発掘調査報告書Ⅱ』1987
18．鳥取県埋蔵文化財センター『鳥取埋文ニュース№18』―特集・鳥取県の官衙遺跡―1987
19．大栄町教育委員会『向野遺跡・後ろ谷遺跡発掘調査報告書』1984
20．東伯町教育委員会『森藤第1・第2遺跡発掘調査報告書』1987
21．東伯町教育委員会『水溜り・駒籠掘場遺跡・森藤第3遺跡発掘調査報告書』1988
22．山中敏史「国府・郡衙跡調査研究の成果と課題」『奈良国立文化財研究所文化財論叢Ⅱ』同朋舎出版1990

遺　跡　名	市町村名	墨書土器	備　　考
1．秋里遺跡	鳥取市	×	生活用具、円面硯、土馬など出土
2．広瀬遺跡	岩美町	×	
3．郡原遺跡	河原町	×	12×2小型、単弁7葉蓮華文軒丸瓦出土
4．大井堀遺跡	佐治村	×	
5．睦逢遺跡	気高町	×	大型建物跡2棟出土、有力首長の邸宅か？
6．山宮朱山畑遺跡	気高町	○	小規模建物跡出土
7．三王尻遺跡	気高町	×	小規模建物跡出土
8．柄杓目遺跡	鹿野町	×	大型の建物跡、総柱建物跡出土
9．森藤第1・2・3遺跡	東伯町	○	総柱建物跡出土
10.水溜り・駒掘場遺跡	東伯町	○	大高野遺跡の近くに位置し、関連があるのでは？
11.由良遺跡	大栄町	×	大型のもの多数出土、集会所的建物・役所跡・有力者の建物か？
12.向野遺跡	大栄町	○	小型の建物跡が多数の塞とともに出土
13.長瀬高浜遺跡	羽合町	○	整地面上に建物跡、鋼製帯金具が出土
14.ウナ谷遺跡地区	関金町	×	
15.観音堂遺跡	倉吉市	×	時期が建物跡の方向により4期に分かれる
16.西前遺跡	倉吉市	×	34棟の内2棟は布掘りをもつもの
17.宮ノ下遺跡	倉吉市	×	
18.不入岡遺跡	倉吉市	○	墨書銘、8世紀代（伯耆国庁1期）を中心に10世紀代の土師器出土
19.青木遺跡	米子市	×	奈良期56棟、総柱建物跡も出土
20.福市遺跡	米子市	×	青木遺跡出土のものより規模大きい
21.横ノ口遺跡群	米子市	×	規模のわりに柱穴大きい、有力者の家か？
22.西山ノ後遺跡	米子市	×	建物跡より、脇衣遺納に関わる遺構発見
23.東宗像遺跡	米子市	×	
24.陰田遺跡	米子市	×	
25.上福万遺跡	米子市	○	建物跡規模小さい
26.石州府第4遺跡	米子市	×	竈形土師、ミニチュア土器出土
27.浜ノ坂遺跡	名和町	×	奈良・平安時代の殿舎場跡ではないか？
28.小松谷遺跡	中山町	×	製鉄に関する遺構か？
29.宮尾遺跡	会見町	×	
30.下山南遺跡	溝口町	×	平安時代の殿舎人が営む作業場か？
31.陰田小犬田遺跡	米子市	○	伯耆国と出雲国の国境にあたり、駅家や宿泊施設的役割を果たす官衙的機関を配置か。
32.下山遺跡	米子市	○	福跡面に立地。作業的なものか

挿表22　鳥取県内の古代・掘立柱建物跡で構成される集落遺跡一覧表

第5節　畠跡の検討

長瀬高浜遺跡では、平成7年度2404㎡、平成10年度722㎡、合計3126㎡の畠跡が調査された。調査区の南北両側にも畝が続き、両調査区間にも畠が広がると考えられることから、畠の範囲はさらに広がり4500㎡以上になる。また、平成7年度以前の調査でも畝状の起伏が検出されており、昭和53年度調査のものと思われる写真に確認できる（文中写真⑤）。一方、米子市錦町第1遺跡でも、13世紀代の砂丘地で営まれた畠跡が検出されており（文献15）、当時の自然環境、土地利用状況などを考えるうえで興味深い。

平成7年度に調査された畠と、今年度調査された畠とは形態がやや異なる。また畠の営まれた時期が前者は古代と報告されているのに対し、今回のものは13世紀以降になることから、その位置づけについても検討の必要がある。ここでは、本年度までの調査結果をまとめ、長瀬高浜遺跡で畠が検出されたことの意味を考えてみたい。

(1)　畠の形態

溝・道などの区画が明確に残っている畠は、1・3～5・9・11号畠である。1・3～5号畠は畦と道によって区画され、一部欠列がみられる。この欠列は、南側に位置する、昭和58年度に調査された地区にまで延びている（SA01）。一方、9・11号畠では大規模な畦・道は検出されず、浅く細い溝により区画される。区画された一枚ごとの畠の平面形は、条里水田にみられるような規格的なものではない。面積は、最も広い1号畠で729㎡以上ある。全体を検出できたものはないため明確ではないが、本年度調査した9～14号畠はやや小規模なものであったようである。

1号畠は斜度おおよそ16°の比較的急な斜面部に営まれており、畝方向は等高線に直行する。このことから、大規模なかけ流し灌漑が行われていた可能性が指摘されている。その他の畠は緩斜面から平坦面にあり、畝方向はあまり意識する必要はなっかたと思われる。

各畠の畝幅、畝間幅はおおよそ50～70cmであるが、9号畠は畝幅が1m前後と広く、他の畠とは大きく異なる。その理由としては、栽培植物が異なる、同一植物でも栽培方法が違うなどが考えられる。本年度調査した9～14号畠の土壌分析の結果、10・11・13号畠では畝・畝間ともにイネのプラント・オパールが2000～2500個/gあるのに対し、9号畠畝間の密度は800個/g程度と低く、畝でもやや少ない傾向にある。このことから、陸稲以外の作物を栽培していた可能性が強いが、花粉分析では栽培植物の花粉は検出されておらず、断定はできない。

平成7年度の調査では、さまざまな理化学分析の結果から、栽培作物は陸稲と雑穀（キビ・ムギ等）の輪作と考えられている。今回の分析結果も、基本的には陸稲が栽培されていたことを示しているが、後述するように、イネのみの連作は行われなかったようである。

(2)　畠の時期

平成7年度に調査された畠は、出土遺物などから9世紀後半から12世紀頃までのものと判断された。この間区画の変更を伴う畠の切り合い関係がみられ、また、9世紀代には畠と掘立柱建物（SB55）が共存していたと考えられている。一方、本年度の調査では12世紀末から13世紀代にかけての土師質土器や白磁が出土した。大半の遺物は包含層中の出土であり、中世下層の遺構に伴うものと考えられ、畠の営まれた時期は13世紀以降になる。なお、9世紀代には官衙関係と思われる施設があり、畠はこの上層で検出されている。

前述したように二度の調査で検出された畠は形態がやや異なり、また出土遺物からも両者の間には時期差があるように思われる。しかし、いずれの畠跡ともシロスナ除去後に検出されており、同時期にシロスナで埋没したと考える方が自然である。また、出土遺物の時期から考えて、SB55が検出された面が本年度調査の古代の検出面につながる可能性が強い。層位的な連続をみることができないため確定できないが、12世紀末から15世紀ごろまでの間は、両方の畠が耕作されていたものと考えたい。平成7年度調査分の畠については、13世紀以前には耕作されていないと断定できないため、時期幅がある可能性がある。

(3)　調査結果にみる農業技術

当遺跡で検出された畠跡は、飛砂によりパックされていたため、畝立てが明確に残っている。そのため畠ごと

の畝の残り具合が違っているのが観察できる。また、切り合い関係もみられることから、すべての畠が同時に耕作されたものではないといえる。理化学分析の結果も、このことを裏付けるものである。プラント・オパール分析の結果、雑草であるシバが、9号畠で600個/g程度、他の畠ではその4倍以上の密度で検出された。このことから、9号畠が耕作されていた時期には、その周囲は雑草の茂る休耕地になっていたといえる。一般に畠で陸稲を栽培した場合、検出されるイネのプラント・オパールの密度は低い傾向にあり[注11]、イネのみの連作はできなかったものと考えられている。当遺跡でも主な栽培植物は陸稲であると思われるが、そのプラント・オパール量は少なく、休耕することで地力を回復させるという工夫がなされていたと考えられる。

11号畠とその北側のスペースには、牛と思われる偶蹄目の足跡が多数検出された。錦町第1遺跡でも牛の足跡が検出されており、当時牛馬が飼育されていたことが窺われる。耕作に牛馬を使用する例は古くからあると考えられ、鹿児島県橋牟礼川遺跡では古墳時代の畠跡（？）で、馬鍬による耕作痕が検出されている。倭名類聚抄には、「犂田之器」として犂があげられている。中世には、名主階級程度の百姓が犂・馬鍬および牛馬を所持していることは、追捕物注文などの文献資料からも明らかである[注12]。

当遺跡で検出した牛の歩行はランダムで、11号畠の耕作面は足跡により荒らされている。一方、最終段階に耕作されていたと思われる9号畠では検出されず、これらは耕作によるものではなく、刈跡放牧または休耕地での放牧の結果と思われる。また、耕作地と休耕地が隣接しており、輪換農法に伴う休閑放牧を認めることができる。島根県隠岐では、近代まで牧畑経営がおこなわれており、その原形は古代にまで遡る[文献9]。また、群馬県白井大宮遺跡では古墳時代の畠跡で多数の牛馬の足跡が検出され、牧畑の初現形態であるとされている[文献16]。これらの例をみると、輪換農法に伴う休閑放牧を認める場合、柵跡などの「垣」が伴うことが必要となる。本年度調査分の畠跡では遺構として確認できなかったが、足跡の検出範囲が限られているため、板塀や生け垣など何らかの施設があったのであろう。中世農法における牛馬の飼育・利用の意義は、①耕起・代かきなどの労働手段、②苗草・刈敷・収穫物などを運搬する手段、③糞畜としての利用などがあげられる。また、農具は出土していないが、文献でみる限り、中世段階には犂、馬鍬、鍬、鋤、鎌、臼などを当然使用していたと思われる[文献5～7]。

施肥は平安末期には文献資料に確認され、肥培技術は既に一定レベルに達していたと考えられている。中世の肥料の種類は厩肥、刈敷、草木灰（肥灰）であり、そのなかでも刈敷が主要肥料であったようである。特に肥灰は、地力不足の田地の地力回復に効果のある肥料とされていた[注13]。

畠土壌の分析を行った結果、リン酸成分の多い物質、つまり緑肥などの施肥により土壌を富化させていたことがわかった。この「緑肥」が、刈敷なのか、肥灰なのかはわからない。一方、耕作土であるクロスナは有機物の腐植により形成されたものであり、長瀬高浜遺跡では、弥生時代からこの腐植砂が累積されてきたとされている。しかし、耕作土は基本層序と比べて腐植が進んでおり、植物性の肥料が施肥されていた可能性が高い。プラント・オパール分析ではススキ・チガヤなどのウシクサ族、ササ類などのタケ亜科植物が検出された。これらの植物は、肥料としてだけでなく、畝の保湿・保温のための被覆材として使われていたと考えられる。pHは作物の生育に適した中性範囲内で、畠に適した土壌であったようである。一方、寄生虫などは検出されておらず、厩肥の利用を理化学的に証明することができなかった。

当遺跡は砂丘地に立地するため、畠を営むに際し水の確保が重要であったと思われる。旧天神川は氾濫を繰り返し、中世ごろには長瀬の集落の北側を東流して横津川に流れ込んでいた。調査区の東側の粘土層は、氾濫原または後背湿地と考えられ、遺跡の南端も河川の氾濫により何度か侵食されている。遺跡近辺には、旧天神川などの川が流れており、農業用水はある程度確保できたと思われる。土壌分析の結果、耕作土は他の砂層と比べると泥分が多く、保水力があったようである。また本年度調査した畠の下層には粘土による古代の整地層が広がっており、保水力はさらに高く、牛の足跡が残るほどに湿気を多く含んだ粘質砂だったのであろう。

(4) 自然環境について

花粉分析の結果、ほとんどすべての畠でヨモギ属が極めて優先し、それにイネ科、タンポポ亜科が伴う。ヨモギ属やタンポポ亜科は、乾燥した改変地または畑地を好む畑作雑草である。またスギ、ニヨウマツ類、ナラ類の

花粉も検出されており、周辺には二次林が広がっていたと推定されている。これらの植生から、長瀬高浜遺跡一帯は陽当たりがよく、排水の良い環境であったことがわかる。

畠が営まれたと考えられる13～15世紀ごろは、14世紀代に一時寒冷な時期があるが、温暖期にあたる。高橋氏によると、小温暖期にはさまざまな理由から砂丘の形成がストップすると考えられ、飛砂が比較的少なく、長瀬高浜遺跡でも畠を営むことができたのであろう(文献13)。中世末ごろには、天神川上流域でもカンナ流しや燃料確保のため森林伐採が行われ、自然破壊が進んでいった。そのため河口に運ばれる土砂の量が増え、同時に気候が寒冷になるのに伴い飛砂の量が急激に増え、長瀬高浜遺跡はシロスナの下に埋没したものと思われる。

正嘉２（1258）年に成立した「伯耆国河村郡東郷荘和与中分絵図」（以下絵図）は、地頭の荘園侵略を伝えるものとしてだけでなく、当時の土地利用状況や土地支配体制などを考えるうえでも有効な史料である。現地調査などから、この絵図の湖岸線や海岸線は当時の状況をかなり正確に示していると考えられている。気候が温暖であったため、東郷湖は現在より湖面が高く、南西側が大きくはりだしている(文献2)。このことから、砂丘地に畠が営まれた理由として、海面上昇のため使用不可能となった東郷湖周辺の水田の代替え地などが考えられている(文献12)。

(5) 歴史的背景

当該地で畠が営まれ始めるのは、出土遺物などから13世紀ごろと考えられる。一般に平安後期から鎌倉初期は、開墾技術の発達などを背景とした大開墾時代であるとされている。開発の形態は、荒廃荒田の再開発および水田化、水田不可耕地である未開山林原野、氾濫原、旧流路、自然堤防上の畠地化が主であると考えられる(文献5-4)。長瀬高浜遺跡内は古代に一度開発され、官衙的な性格の施設が存在しているが、10世紀以降12世紀末ごろまで、人の動きは一時断絶する。13世紀になって自然堤防上ともいえる当該地は、畠地として再び使用され始める。この開発は、領主的な大規模開発ではなく、村落共同体的な焼畑などによる小規模な畠地開発であったと思われる。また、遺跡の辺縁部では後背湿地、旧流路と考えられる粘土層が確認され、イネ科のプラント・オパールが検出された。明確な遺構は検出できていないが、これらの土地も耕作地として開発されていた可能性がある。

一般的に、中世の畠地は、その社会のなかでどのような位置にあったのかをみてきたい。古代にはすでに飢饉対策のための陸田（≒水田の代替地）、多様な雑穀の栽培がたびたび奨励され、多くの水田が畠地化している。また、1069年の延久荘園整理令の発令により、畠地が本格的に収奪対象に組み込まれていくが、その背景には畠地の安定的な経営と生産力の向上があるといわれる。鎌倉幕府は全国的に畠支配を認可し、国衙による強い畠地支配があったとされている。鎌倉後期には「瀬町」、「山田」、「棚田」などの面積一段歩未満の小田地でも収奪の対象となり得るほどに安定的経営が行われていた。後述するように、当該地の畠跡も「和与中分図」に描かれており、税の収奪対象となり得る、安定的な収穫のある畠地であったと考えられる。

長瀬高浜遺跡が立地すると思われる東郷荘は、河村郷、埴見郷、東郷が、13世紀初頭に地頭の原田氏から京都の松尾神社に寄進されて立荘した寄進地系荘園と考えられている。1258年には領家と地頭との間で和与中分が行われ、その際「伯耆国河村郡東郷荘和与中分絵図」が作成された(文献8-10-10)。この中で、旧天神川の西岸、北條内長瀬村の北を東流する河川の北岸に、田畠を示す井桁マークがみられ、これを今回検出された畠跡に比定したい。また、遺跡の南側は河川の氾濫原または後背湿地となり、粘土層が検出されている。この湿地を、北條内長瀬村の北を西流する河川に関係するものと考えたい。また、検出されたのは畠跡であることから、絵図の井桁マークは水田のみでなく畠地をも含んでいる可能性のあることが指摘できる。

この耕作地を営んでいた集団は、荘域を越えた村の人とは考え難いため、長瀬村の人ではなく東郷荘の人々であったと思われる。この場合、地頭分、領家分どちらの集団でも不都合はなく、最も近い浅津か、水路を利用して入ってくる橋津または南谷の人々であろう。この絵図の時期の集落遺跡として、橋津川左岸で南谷貝塚遺跡が調査されている。これは、現在の南谷集落に比定される対岸集落の人々のゴミ捨て場と考えられている。東郷荘は、長瀬高浜遺跡が飛砂により埋没したと思われる15世紀ごろ、南条・山名氏などの守護勢力に侵略され、事実上解体していく。

最後に、長瀬高浜遺跡で畠が検出されたことにどのような意義があるのか考えてみたい。従来、長瀬高浜遺跡は、中世には墓地になるとされてきた。実際、遺跡の南側には中世墓が多数あり、斜面下では五輪塔も多く出土している。また黒田日出男氏は、西小垣の小山にたつ朱色の陪示に着目し、墓域である長瀬高浜遺跡を神領域に取り込むのを避けたものであるとしている。遺跡南側の中世墓は比較的標高の高い部分を選んでつくられており、今回検出された畠跡よりやや新しい時期の遺物が出土している。10B地区ではクロスナ地表面でコの字状（長方形）の高まりが確認されており、土墓状遺構と報告されている。この遺構の範囲内の黒褐色砂表面の層を除去した段階で、多数の浅いピットが検出されている。本年度の調査結果を考えあわせると、ピットは牛の足跡、コの字状の高まりは畦であった可能性がある。土墓状遺構内では中世墓が検出され、中世墓→土墓状遺構→中世墓の順でつくられていると報告されている。また下層には、8～9世紀代の生活面と考えられている粘土層が広がっており、今回の調査とほぼ同じ状況を示している。土墓状遺構の時期は、出土遺物から15世紀ごろとされており、畠跡とほぼ同時期になる[文献11]。現在の長瀬の集落との関連が考えられているが、この時期ではむしろ東郷荘との関係を考えた方がよいだろう。また、耕作地や屋敷地内に墓をつくる例は民俗例に多く、畿内では、11～13世紀初頭の発掘例にみられる。当時の人々にとって、墓地と畠地は切り離して考える必要のないのものだったようである。

今回検出された畠跡・中世墓と、土墓状遺構とその周辺の中世墓との間には、その出土遺物にやや時期差がみられる。中世になって使用された土地は、遺跡北側の旧天神川沿いと、そこから西流する小河川沿いの遺跡縁辺部で、明らかに耕作の痕跡が認められる部分は河川沿いである、このことから、水を確保しやすい場所に徐々に耕地を広げていったと考えられる。

現在我々は近代以降の砂丘開発の苦労を知っているため、中世当時は砂丘地にまで畠をつくらなければならないほど、耕作地の確保に苦心していたと考えがちである。しかし、古代にはすでに、畠は安定的な収穫を期待することができるほど農業技術・肥培技術が発達していた。また、当該地は基本的に砂質土壌であるため開墾も楽で、近辺には河川があるため水も比較的容易に手に入ったものと思われる。当遺跡は弥生時代前期からすでに有機物を多くを含むクロスナが形成されており、さらに部分的ではあるが古代に行われた粘土による整地作業により保水性が高められることで、泥分を含む、ある程度耕作に適した土地として認識されていたのではないか。昨今、鳥取砂丘の草原化が問題になっているが、飛砂などの砂丘の形成活動が止まると、砂丘地にも自然に豊かな植生が広がることが証明された。以上、さまざまな要因を考えあわせると、砂丘地である当遺跡内で畠が営まれていたことは不思議なことではない。またここで行われた開発は、その規模から考えても、荒廃田の再開発などの領主クラスの開発ではなく、農民レベルの小規模開発であったと考える。このような小規模な畠地開発は領主的開発の下地となり、なおかつ絵図にみられるように収奪対象に組み込まれていったのである。

中世の畠跡および遺跡の東側にひろがる後背湿地が検出されたことで、今まで絵図からしか考えることのできなかった中世社会の様相が、徐々に具体化され明白になってきた。そして気候の寒冷化、15世紀ごろからの天神川上流域での自然破壊により砂丘の形成活動が再開され、長瀬高浜遺跡は廃絶する。クロスナという自然環境をうまく利用してきた人々の営みは、この後の山陰地方を支える製鉄という産業の発達とともに消えていくのである。

（岩崎）

註

1．水田では、1gの土の中に、5000個以上のプラント・オパールがあれば、イネが作られていた可能性が高いとされている。（文献1）

2．嘉応2年11月28日付桜住人等注進状（京都大学所蔵一条院文書）に、名主クラスの農民の逃捕された資材が書きあげられており、そのなかに馬一疋、からすき一具などがみられる。（文献6）

3．「無名抄」：「・・田つくるに、はぐさかりいれたるが、よくいでくる・・」

「延喜内膳司式」耕種園の耕作法：大麦・小麦は施肥対象外、浅耕の穀物は即効性の肥料（人肥？）、蕪・韮は左右馬寮の斎薬がよいとされている。

「永昌記」1129年紙背文書：肥灰は「御供田に入れて肥やしむる」もので、施肥しなければ「浅薄の田地」はいよいよ荒廃してしまうとする。

参考文献

1．藤原宏「中国・草鞋山遺跡における古代水田址調査―遺跡土壌におけるプラント・オパール分析」『考古学と自然科学』第30号

2．日下雅義編『古代の環境と考古学』1995　古今書院

3．大塚初重/白石太一郎/西谷正/町田章編『考古学による日本歴史16　畠業・狩猟・漁業・農業』1996　雄山閣

4．『古墳時代の研究4　生産と流通Ⅰ』1991　雄山閣

5．黒田日出男『日本中世開発史の研究』1984　校倉書房

6．木村茂光『日本古代・中世畠作史の研究』1992　校倉書房

7．木村茂光『ハタケと日本人　もう一つの農耕文化』1996　中公新書

8．太田順三「伯耆国河村郡東郷荘下地中分絵図」『絵引荘園絵図』1991　東京堂出版

9．田中重治「焼畑・牧・牧畑と日本畑作農業展開問題」『山地高原の歴史地理』歴史地理学紀要23　1981

10．鳥取県教育委員会「鳥取県生産遺跡分布調査報告書」1984

11．鳥取県教育文化財団「長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅵ」1978・1980～1983

12．鳥取県教育文化財団「長瀬高浜遺跡Ⅷ」1997

13．羽合町教育委員会「長瀬高浜遺跡発掘調査報告書」1984

14．羽合町教育委員会「南谷貝塚発掘調査報告書」1990

15．米子市教育文化財団「錦町第1遺跡」1996

16．群馬県埋蔵文化財調査事業団「白井大宮遺跡」1993

17．「鳥取県史」2　中世　1972

18．東郷町「東郷町史」1987

19．羽合町「羽合町史」1967・「新修羽合町史」

文中写真⑤　長瀬高浜遺跡浄化センター調査区畠検出写真

第6節　長瀬高浜遺跡出土の古墳時代前期の鉄器

長瀬高浜遺跡では、古墳時代前期の集落跡から農具、工具、漁撈具など多数の鉄製品が出土している。また鉄滓・棒状鉄器や鞴羽なども検出され、集落内に鍛冶工房が存在した可能性がある。一方、祭祀遺物である雛形鉄器も多数出土しており、当時の鉄器生産や鉄との関わりを考えるうえで興味深い遺跡である。ここでは古墳時代前期の集落遺構内出土の鉄製品の集成を行い、特に雛形鉄器などの祭祀具について若干の考察を加えたい。

今までの調査で報告されているものは、農工具では鎌18個体、鉄先2個体、鉄斧5個体、刀子42個体、鉋19個体、漁具では釣り針29個体、武器・武具として鉄鏃62個体ある。これらの鉄器は大部分、実用品として捉えることができるが、鎌のなかには柄に装着する前のものもあり、儀器的な性格をもつものも若干含まれる可能性がある。また、SI02からは折り曲げられたと思われる鉋が2個体出土しており、特にF9はほぼ直角に曲がっている。前方後円墳成立期には、北部九州から西部瀬戸内地方にかけて、折り曲げられた剣、鉾、刀子などが副葬される例がみられ、葬送儀礼に伴う行為として捉えられている。その背景には首長に従属する特定工人層の出現、鉄と権力との関係が考えられている。SI02からは鉄製品が大量に出土し、土器は胴部穿孔された甕一個体があるのみであり、特殊な性格をもつ竪穴住居住居であるといえる。このように、同時期の他遺構と比較して多量の鉄製品を所持しているものに、SI47、SI69、SI127、SI132、SI122、SI126などがある。このうちSI69、SI127については、不要になった生活用具の一括廃棄である。その他、不整形の棒状・板状鉄器と報告されているものがあり、これらのなかには、鉄鋌の切断片や鉄板の端切れなどの鉄器製作に関するものが含まれているものと思われる。

雛形鉄器は剣先形、刀子形、鎌形、鉄先形があり、挿表23に出土遺構の一覧を示す。このような鉄製雛形品は、長瀬高浜遺跡では、天神川Ⅰ期、古墳時代前期初頭ごろからみられ、天神川Ⅴ期の集落が衰退しはじめるころまである。今回実見できたのは、本年度出土分のみだが、他の鉄製品と比較して極端に厚さの薄いものはSI250出土のF11のみであるが、全体に比較的簡単に作られている印象をうけるものが多い。一方土器溜2出土の鉄先形F25は、実用品に忠実な作りで木質が残る部分もある。以下、雛形鉄器の様相を時期ごとにみていきたい。

天神川Ⅰ期は、SI124、SI142から出土している。SI124は、次段階に出現する大型掘立柱建物SB40の横に位置する。SI142は大型の円形住居で、他の鉄製品も比較的多く出土しているが、土器の個体数は非常に少ない。この時期、集落の中心住居といえるようなSI142から、多数の実用品と思われる鉄製品とともに出土していることが注目される。

天神川Ⅱ期になると、集落が拡大するのに伴い雛形鉄器が出土する遺構も増加する。SI69からは多量の土器類が出土しており、前述したように、土器の廃棄を行う際に鉄製品も一緒に捨てられたものと思われる。またSI132では銅鏃、SI138では素文鏡や土玉とともに比較的多数の鉄製品が出土している。15I-SP01もこの時期の遺構で、素文鏡3枚、鉄鏃1点、剣先形鉄製品42点が集中して出土している。これに伴う上屋構造はみられない。

天神川Ⅲ期にも、雛形鉄器が出土する遺構は多い。土器が大量に出土しているのはSI249で、重圏文鏡も共伴している。このSI249に関しては、単なる一括廃棄ではないとされている。

天神川Ⅳ期には、青銅製品ではなく石製模造品のような扁平で雑なつくりの勾玉、ミニチュア土器などが伴出する例がみられ始める。ミニチュア上器は前段階のⅢ期から出現するもので、天神川Ⅰ～Ⅱ期にはみられない。SI04は小型丸底壺、高杯、胴部穿孔壺のみが共伴しており、祭祀遺構的な性格の強い住居跡である。多量の土器類とともに出土しているのはSE11のみである。

天神川Ⅴ期になると、雛形鉄器出土遺構は減少する。SI131では滑石製の管玉や小玉（＝石製模造品）、手捏ね土器、勾玉に似た有溝軽石などが共伴し、土器類も高杯が多い。

天神川Ⅵ期以降、長瀬高浜遺跡では集落は後退し、雛形鉄器の消長も捉えにくくなる。当遺跡から2.5kmほど離れた南谷大山遺跡ではこれに続く時期の集落跡が調査されているが、雛形鉄器と思われる鉄製品は報告されていない。中部地域の主な遺跡で、雛形鉄器の出土は、現在までに報告されていないようである。米子市の青木遺跡では、古墳時代後期、青木Ⅸ期ごろの竪穴住居跡から、雛形鉄器と考えられる遺物が数点出土している。[21]

一般に、鏃形鉄器などの鉄製仮器が集落周辺で出土する例は、５世紀後半以降に増加するといわれている。その前段階、古墳時代前期末には石製模造品が出現する。この石製品は新しい時期には作りが簡素化し、この段階で鉄製の仮器が作られる。鏃形鉄器はおもに祭祀遺構で出土し、愛媛県出作遺跡、千葉県マミヤク・侯ヶ谷遺跡などがよく知られている。両遺跡とも、５世紀後半の土器の廃棄場で、多量の石製模造品とともに鉄製の仮器が出土している。一方、長瀬高浜遺跡では天神川Ⅰ期、古墳時代前期初頭の段階にはすでに鏃形鉄器がつくられており、天神川Ⅱ～Ⅲ期にその全盛期をむかえるものと思われる。これは出作遺跡、マミヤク遺跡などに先行しており、鏃形鉄器の出土する早い例であると思われる。また、祭祀遺構や土器の廃棄場だけでなく普通の住居跡からも出土し、剣先形が主体を占めること、石製模造品が少ないことも当遺跡の特徴といえる。

鉄製模造品の種類は、出作遺跡は斧、マミヤク遺跡は鎌などの農工具を模したものが多く、剣などの武器形、鏡などの青銅製品は石製品である。一方長瀬高浜遺跡では剣先形鉄製品が多く、天神川Ⅳ期ごろまで青銅製品が共伴する例がみられ、Ⅵ期ごろには集落自体衰退する。出作、マミヤク両遺跡の祭祀遺構の時期は５世紀後半代で、天神川Ⅵ期～Ⅶ期ごろに相当する。この時期差が青銅製品の有無と石製模造品の多少に関係するのであろう。剣先形の鏃形鉄器が多い理由については、剣は当時の威信具であると同時に、武器形祭器は弥生時代からあり「依り代」的な役割も持っていたと考えられることがあげられるだろう。遺跡によって主な種類が違う理由は現段階では不明確で、ここでは単に地域的な違いということしかできない。古墳時代中期ごろの水辺の祭祀遺構が確認された六大Ａ遺跡の井泉１からは、木製刀形と滑石製勾玉が出土しており、紀記神話「天の安の河の誓約」との対応関係が認められ、井泉で行われた祭祀内容を考えるうえで興味深いとしている。また、群馬県三ツ寺Ⅰ遺跡でも「天の安の河の誓約」[脚注]に類似した祭儀が行われ、それが服属儀礼を意味するという解釈がなされている。長瀬高浜遺跡SE11でも玉と剣先形の鏃形鉄器が出土しており、これらの例を簡単にあてはめて考えることはできないが、興味深い遺構である。

村上恭通氏は、出作遺跡SX01出土の鉄製品を①実用に耐え得る鉄製品、②斧を主とする鏃形鉄器、③鉄鉇あるいは切り取られた小型鉄板、④三角形鉄片・不整形鉄片・棒状鉄片などの鉄器製作時の副産物の４つに分類し、鉄鉇やその端切れ、鍛冶に関連する遺物が大量に出土していることから、祭祀の場に鍛冶工人が参加していたと推測している。どのような種類の鏃形品が作られるかではなく、祭祀の場で鍛冶的な行為が行われたことを重視しているようである。祭祀の内容は、鍛冶工房に近接して行われた祭祀については、近世のたたらで銑鉄を金屋子神に奉るのと類似した行為であるとするが、それ以外のものについては明言されない。長瀬高浜遺跡でも鍛冶関連遺物が多く出土しており、鍛冶工人の祭祀への参加を考えることができる。しかし明確な鍛冶炉などの遺構はみられず、その検出が今後の調査に期待される。また、他の遺跡に先駆けて鏃形鉄器がつくられ始める理由、特に威信具である剣先形を多くつくる理由は不明確であるが、前者については越敷山遺跡や妻木晩田山遺跡群では弥生時代から多くの鉄製品がみられることから、当時の山陰地方には十分な鉄器生産技術があったと考えられている。後者については古墳時代の鉄器生産の２つの流れ、つまり武器・武具生産主体の政治的色彩の濃いものと、日常生活に関する農耕具類の生産・修理を主体とする社会的色彩の濃い生産体制が関係していた可能性がある。これらのことが、長瀬高浜遺跡で早くから鏃形鉄器をつくり始めた理由の一つになるのではないかと思う。

（岩崎）

遺構名	農工具	漁具	武器・武具	錐形鉄製品	その他	備考	時期
SI124				剣先形F3	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅰ
SI142	刀子F5,6,9 鍬F8 鉋F1			剣先形F4,7	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅰ
SI49				剣先形F1		手あぶり型土器	天神川Ⅰ～Ⅱ
SI45				剣先形F1,2	管玉		天神川Ⅱ
SI58				剣先形F1 刀子形F3			天神川Ⅱ
SI61				刀子形F2	棒状・柱状鉄製品		天神川Ⅱ
SI69	刀子F3	釣り針F1,2	鉄鏃F10,13	剣先形F4～7	棒状・板状鉄製品	土器138個体以上 管玉・小玉	天神川Ⅱ
SI126	刀子F2,5	釣り針F1		剣先形F4	棒状鉄製品		天神川Ⅱ
SI132	刀子F7	釣り針F9～11	鉄鏃F1～4	剣先形F1	棒状鉄製品	銅鏃	天神川Ⅱ
SI138	鉋F7		鉄鏃F2～5	刀子形F1	針状・板状鉄製品	素文鏡・土玉	天神川Ⅱ
SI250	刀子F9			剣先形F11,12	不明鉄製品		天神川Ⅱ
SI252				剣先形F8			天神川Ⅱ
16ISP01			鉄鏃F39	剣先形42点		素文鏡3	天神川Ⅱ
SI43				剣先形F1,2			天神川Ⅱ～Ⅲ
SE01				剣先形F1			天神川Ⅱ～Ⅲ
土器溜2	鍬F23		鉄鏃F24	鍬先形F25			天神川Ⅱ～Ⅲ
SI90			鉄鏃F1,4	剣先形F8	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅲ
SI133	鍬F1	釣り針F2		鑿形F4	爪状鉄器？		天神川Ⅲ
SI146				剣先形F1,3	板状鉄製品		天神川Ⅲ
SI154				剣先形F1	棒状鉄製品		天神川Ⅲ
SI238	刀子F1 鍬F4			鑿形F5	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅲ
SI249			鉄鏃F4	剣先形F5	不明鉄製品	土器280個体以上 重圏文鏡	天神川Ⅲ
SI253				剣先形F14	不明鉄製品		天神川Ⅲ
SI127	刀子F3～6 鍬F1,8 鉋F7～9	釣り針F15	鉄鏃F18	剣先形F16,17,19 鍬先形F22	棒状・板状鉄製品	土器62個体以上	天神川Ⅲ～Ⅳ
SI194				剣先形F1			天神川Ⅲ～Ⅳ
SI04	刀子F1			剣先形F3	棒状・板状鉄製品	勾玉（模造品？） 管玉	天神川Ⅳ
SI41				剣先形F1	板状鉄製品	ミニチュア土器 管玉	天神川Ⅳ
SI48			鉄鏃F4	剣先形F1～3			天神川Ⅳ
SE11				剣先形F1		土器56個体以上	天神川Ⅳ
SI73	刀子F4			刀子形F1	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅴ
SI131	刀子F1		鉄鏃F2	剣先形F4	針状鉄製品	ミニチュア土器	天神川Ⅴ
SI136			鉄鏃F2	剣先形F1			天神川Ⅴ～Ⅵ
SI42				剣先形F2	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅰ～Ⅳ
SI57	刀子F4 鍬先F1			剣先形F5	板状鉄製品	勾玉（模造品？） 管玉未製品 土器積出土ゼず	不明
SI246				刀子形F2	不明鉄製品		不明
整地遺構2				鍛形F36			9世紀代

挿表23　長瀬高浜遺跡古墳時代前期出土錐形鉄器一覧表

（註１）　CSI08刀子状鉄器、CSI10小型の鍬先（３㎝程度）など

（註２）　アマテラスとスサノオが天真名井の水に剣と玉を制濯いで噛んで息を吹き出すと、その中から神々が現れるというもの。

参考文献

村上恭通『倭人と鉄の考古学』1998　青木書店

小野真一『祭祀遺跡』1982　ニュー・サイエンス社

『古墳時代の研究５　生産と流通Ⅱ』1991　雄山閣

鳥取県教育委員会「青木遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅲ」1976～1978

鳥取県教育文化財団「長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅵ」1980～1983

鳥取県教育文化財団「長瀬高浜遺跡Ⅶ」1997

奈良国立文化財研究所『信仰関連遺跡調査課程』1997

第７節　長瀬高浜遺跡の古環境の変化

はじめに

長瀬高浜遺跡は、標高３～11mの砂丘上に立地する複合遺跡である。これまでの調査によって、考古学的な成果を得るとともに地質学的にも貴重な成果が得られた。遺跡の性格を考える上でも、古環境の復元は重要な作業であると考える。ここでは、時期ごとの地形的変化を中心に、これまでの成果をまとめ、長瀬高浜遺跡での環境変化を考えてみたい。

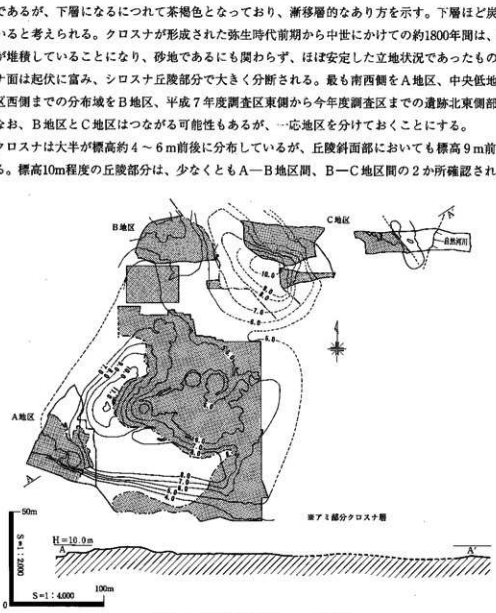
１．クロスナ面の地形

クロスナ層は、標高４～９m前後に分布しているが、その形成は、検出された遺構の時期から、弥生時代前期以前と考えられる。クロスナ層は今回の調査で計３面検出され、上層のものから「第１クロスナ層」、「第２クロスナ層」、「第３クロスナ層」と仮称するが（第３章参照）、従来確認されていたもの(文献1)とは対応しない。標高約2.5mの「第２クロスナ層」は、ほぼ水平方向に広がっているが、標高約1.7mの「第３クロスナ層」は、西側へ傾斜している。

さて、遺構が営まれている基盤は、厚さ１～1.5mの「第１クロスナ層」である。単色の層位ではなく、上層は黒褐色であるが、下層になるにつれて茶褐色となっており、漸移層的なあり方を示す。下層ほど炭化物の分解が進んでいると考えられる。クロスナが形成された弥生時代前期から中世にかけての約1800年間は、年平均１mm前後の砂が堆積していることになり、砂地であるにも関わらず、ほぼ安定した立地状況であったものといえる。

クロスナ面は起伏に富み、シロスナ丘陵部分で大きく分断される。最も南西側をＡ地区、中央低地から平成７年度調査区西側までの分布域をＢ地区、平成７年度調査区東側から今年度調査区までの遺跡北東側部分をＣ地区とする。なお、Ｂ地区とＣ地区はつながる可能性もあるが、一応地区を分けておくことにする。

さて、クロスナは大半が標高約４～６m前後に分布しているが、丘陵斜面部においても標高９m前後まで形成されている。標高10m程度の丘陵部分は、少なくともＡ―Ｂ地区間、Ｂ―Ｃ地区間の２か所確認され、クロスナ



挿図200　長瀬高浜遺跡クロスナ分布図

が消滅する3か所を見ると、シロスナとの境界が、N—22°—W、～N—37°—Wとほぼ北西方向となることから、丘陵頂部は、季節風によって消滅したものと考えられる。

2．弥生時代から古代の環境

「第1クロスナ層」中で検出された遺構は、弥生時代前期ではA・B地区南側で玉作工房などを含む小規模な集落、弥生時代中期では主に丘陵斜面部において土壙墓群、古墳時代前期から中期ではクロスナ全面で大集落、古墳時代中期～後期で古墳群、古代でも官衙関連施設が営まれている。各時期を通してクロスナ面に大きな変化は認められないが、周辺では大きな変化が認められる。今年度調査区東側で古墳時代以前の自然河川が検出されたのである。形成時期は不明であるが、「第2クロスナ層」を切っていることから、この層堆積以後であることは確実である。また、幅40m以上の大規模なものであることから、旧天神川の本流であった可能性が考えられる。

この河川は、古墳時代前期から後期にかけて埋没していたが、初期の埋砂には、ほとんど摩滅していない土師器が包含されていたことから、クロスナ面は河川の際付近まで広がっていた可能性がある。奈良から平安時代ごろには完全に埋没していたものと考えられ、この時期さらに東側に流路を移動していたと考えられる。

A地区南側は、クロスナが急激に落ち込んで低湿地となっていたが、これは、遺跡のすぐ南側を旧天神川が走っていたためと考えられ、遺跡の南側周辺で大きく蛇行していた可能性が考えられる。

さらに、A地区西側も等高線を復元すると西側に傾斜し、低地部分を形成していたものと考えられ、近年まで旧今津川が流れていたことから、遺跡の西側には、旧天神川の支流が存在していた可能性もある。

このように考えると、長瀬高浜遺跡は、東・南・西を河川に囲まれた微高地上に展開していたものと考えられ、河川流路の変化に大きく左右された立地であったことが推察される。

3．中世の環境

中世にはB地区北側、C地区において畠が営まれているが、本来は、A・B地区においても存在し、かなり広大な面積で営まれていたものと推察される。

畠跡上面、1号墳南側低湿地部分において、花粉およびプラント・オパール分析が行われており、この結果を見ると、この時期、クロスナ上面（畠跡）において、草本類では乾燥した改変地を好むヨモギ属が極めて優占し、イネ科、タンポポ亜科が伴っていた。また、イネのプラントオパールが検出されていることから、畠では陸稲が栽培された可能性も指摘されている他、シバ属のプラントオパールが卓越する箇所もあり、畠と休閑地が併存していたと考えられる。休閑地では、偶蹄目の足跡が多数検出されており、放し飼いされていた可能性がある。花粉分析では、木本類のマツ属、スギ属、ツガ属、コナラ属、ブナ属、クリーシイ属、カバノキ属などが確認されている。マツ属は、高密に検出されており遺跡周辺に繁茂していたものと推察され、それ以外のものは、中国山地から飛来したものと考えられている[文献2-2]。

また、今年度調査区東端部の標高3m前後の地点で、粘土層が広がっていた。粘土層中で、淡水産の珪藻化石が検出されていることから、この部分が旧天神川の後背湿地部分または氾濫原にあたるものと考えられる。

比較的安定していた長瀬高浜遺跡の環境が一変するのは、中世後半期、15世紀以後のことである。一面6～10mのシロスナに覆われてしまうのである。この環境変化は、当時寒冷期にあったこと、何よりもこの時期は、上流域でタタラ製鉄に関わる「鉄穴流し」が頻繁に行われていたと考えられ、土砂流失がその背景にあったと考えられる。しかし、今回得られた知見は従来考えられている時期[文献4]よりかなり遡ることから、天神川上流域のタタラ調査および地形改変の状況を調べ、総合的に環境変化の歴史を明かにしていかなければならない。（牧本）

参考文献

1．豊島吉則「A．長瀬高浜遺跡の自然環境」『長瀬高浜遺跡Ⅱ．天神川下流域下水道事業に伴う砂丘遺跡の発掘調査概報(1)』鳥取県教育文化財団1979
2．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡Ⅶ』1997
3．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅴ』1983
4．貞方昇『中国地方における鉄穴流しによる地形環境変貌』溪水社　1996

遺構名	遺物番号	取上番号	出土位置	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	器部径(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調内面	色調外面	備考	実測番号	写真番号
S124	Po1	2328	風部下層	土師器	甕	25.6	△11.6			外面口縁部ヨコナデ。頸部テクハケ後ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部指押さえ。胴部ケズリ。	密	良好	褐色	褐色		野崎123	
S124	Po2	1243 1456 1860 1863 1867 2280	床面	土師器	壺	約24.2	△30.0	約30.0		外面口縁部～胴部ヨコナデ。胴部縦位工具による斜位又ミガキ。中位ヨコハケ。以下テナデハケ。 内面口縁部～胴部ヨコナデ。胴部～中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面ススけ像。	野崎125	
S124	Po3	1243	風部中	土師器	鉢	約16.0	△6.1			内外面ヨコナデ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	福田中116	
S124	Po4	1243	風部中	土師器	底口壺	約12.0	△5.1			内外面ヨコナデ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	野下67	
S124	Po5	2327	風部下層	土師器	甕	約14.2	△14.5	約20.0		外面口縁部～頸部ヨコナデ。中位以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部右上方向ナズリ。	密(砂粒をわずかに含む)	良好	褐色	褐色	口縁部・野崎スス付着。		
S124	Po6	1243	風部中	土師器	甕	約14.0	△13.9			外面口縁部ヨコナデ。以下斜方向ケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部以下左方向ケズリ。	密(1～3mm砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		山本くず80	
S124	Po7	1864	床面	土師器	甕	約14.3	△12.0	約19.8		外面口縁部～頸部ヨコナデ。中位付近ヨコハケ。以下テナデハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部以下右方向ケズリ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい赤褐色	にぶい褐色	頸部外面ススけ像。	福田中123	
S124	Po8	1244	風部中	土師器	甕	約12.7	△7.8			外面口縁部ヨコナデ。頸部波状文。以下斜方向ケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部右方向ケズリ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	口縁部外面黒煙痕有。	福田中118	
S124	Po9	1868	堆部中	土師器	甕	約14.2	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。頸部テナハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		福田中121	
S124	Po10	2279	風部下層	土師器	小型甕		△11.5	13.3		外面胴部ヨコナデ。中位斜方向ハケ目。底部ナデ。 内面胴部横方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	外面スス付着。	山本ケ121	
S124	Po11	1865	床面	土師器	甕	約14.1	△21.4	約20.1		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半横方向の粗いハケ目。下半ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右斜め上、下半左斜め上方向のケズリ。指頭圧痕が残る。	密(2～3mm大の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	外面全体にススけ像。	山本ケ106	
S124	Po12	1800	堆部下層	土師器	甕	約15.2	△15.7	約20.4		外面口縁部ヨコナデ。以下ナデ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1～3mm砂粒を含む)	良好	明赤褐色～黄褐色	明赤褐色～黄褐色	外面スス付着。	山本くず81	
S124	Po13	2363	風部中	土師器	甕	約16.3	△13.7	約22.7		外面口縁部～頸部ヨコナデ。以下斜ハケ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(砂粒をわずかに含む)	良好	灰白色	にぶい黄橙色	外面スス付着。指頭痕。	野崎159	
S124	Po14	2273	堆部上層	土師器	甕	約15.3	△7.9			外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部右方向ケズリ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。指頭痕。	福田中119	
S124	Po15	1862	床面	土師器	甕	約14.0	△14.2	約17.0		外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部～中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密	良好	明褐色	明褐色	胴部外面ススけ像。	野下59	
S124	Po16	1858 1868 2275	床面	土師器	高杯	約19.7	15.3		約14.8	外面杯口縁部縦方向ミガキ。杯底部横方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。脚柱部ヨコナデ。 内面杯部横方向ミガキ。脚柱ケズリ。脚部ハケ目。	密	良好	褐色	褐色	脚部3方ススけ像。内面脚部ススけ像。杯部内面ススけ像。	本山110	
S124	Po17	1689	風部下層	土師器	高杯	約14.7	△10.4			外面杯口縁部ヨコナデ。底部テナハケ。脚部縦方向ミガキ。 内面杯底ミガキ。脚部ケズリ。	密	良好	褐色	褐色	脚部3方ススけ像。内面脚部ススけ。	本山57	
S124	Po18	1866	床面	土師器	高杯杯部	17.0	△5.9			外面口縁部横方向ミガキ。底部テナハケ。風化している。 内面横方向ミガキ。風化している。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面黒煙痕有。	野崎57	
S124	Po19	1870 2276 2280	堆部下層	土師器	高杯杯部	約16.9	△5.8			外面縦方向ミガキ。 内面口縁部縦方向ミガキ。底部放射状ミガキ。	密	良好	褐色	褐色	杯部内面スス付着。	本山106	
S124	Po20	1243	堆部中	土師器	鉢形器台	約15.5	12.4		約15.0	外面受部～脚部縦方向ミガキ。脚裾ヨコナデ。 内面受部横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密	良好	褐色	褐色	脚部4方ススけ像。内面脚部ススけ像。	山本くず80	
S124	Po21	1244 1687 2280	堆部下層	土師器	低脚杯	約15.6	6.0	4.7		外面ヨコナデ。 内面杯無ミガキ。脚部ヨコナデ。脚裾工具痕有。	密	良好	褐色	褐色	杯部外面スス付着。	本山107	
S124	Po22	1243 1244	堆部中	土師器	低脚杯	約15.1	5.8	5.1		外面杯部ハケ目後ヨコナデ。杯底中位にハケ目が残る。脚部ヨコナデ。 内面ナデ後横～縦方向ミガキ。脚裾ヨコナデ。4本之字状ヒズミ入り。	密(1～3mm大の砂粒をまばらに含む)	良好	にぶい黄橙色	明～にぶい黄橙色		山本ケ104	
S124	Po23	1868	堆部中	土師器	小型丸底壺	約8.0	△7.2	約7.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部斜～タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。以下左方向ケズリ。	密	良好	褐色	褐色		野崎122	
S124	Po24	1244	堆部中	土師器	小型器台	約9.2	△7.0			外面受部ヨコナデ。脚部縦方向ミガキ。脚部ハケ目。 内面受部風化著しい。脚部ケズリ。	密(砂粒をわずかに含む)	良好	褐色	褐色		野崎126	
S124	Po25	1243	堆部中	土師器	小型丸底鉢	約15.4	△3.8			外面横方向ハケ目。ヨコナデ。 内面横方向ミガキ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	福田中117	
S124	Po26	2277	堆部下層	土師器	甑	約55.0	△13.7			外面ヨコナデ。 内面ナデ。一部ハケ目。	密	良好	褐色	褐色	内面スス付着。	野崎127	
S124	Po27	1857	床面	土師器	鼎形		△31.4		11.6	外面胴部ヨコ工具方向の擬かいハケ目。把手寸法6mm大の穿孔。 内面～脚部縦方向ミガキ。受部は、把手の下に、あたる部分を横或斜に磨り減る。 内面体部上半左、下半上方向のケズリ後ナデ。脚部ナデ。脚部ヨコナデ。	(0.5～1mm大の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内面全体に煤ス付着。	山本ケ107	
S124	Po28	1100 1118 1243 1245 1316 1319 1360 1370 1435 1452 1458 1525	堆部上層	土師器	大型甕	約28.6	△37.6	約33.1		外面口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。胴部ヨコハケ後其部横棒による斜状文。中位以下タテハケ後ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部シボリ目。胴部右方向ケズリ。中位以下横方向ケズリ。底部指圧方向ケズリ。	(1～4mm程度の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	頸部外面黒煙有。	福田中45	
S124	Po29	1967	床面	土師器	壺	約22.5	28.6	29.6		外面口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。胴部ヨコハケ。以下斜～タテハケ後一部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部横方向ミガキ。胴部以下左方向ケズリ。指頭押圧痕。	密	良好	褐色	褐色	外面黒煙有。胴部ススけ像。	野下36	
S124	Po30	1490	風部下層	土師器	壺	約20.1	△12.3			外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部指押さえ後ヨコナデ。頸部左方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄色	浅黄色	口縁部外面ススけ像。	野崎67	
S124	Po31	1123 1575	堆部上層	土師器	壺	約17.4	△8.3			外面ヨコナデ。 内面口縁部～頸部ヨコナデ。胴部ケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	野崎71	
S124	Po32	1243 1366 1377	床面	土師器	壺	約16.0	△15.8	約13.5		外面口縁部縦方向ミガキ。頸部～特殊横挟縦方向ミガキ。胴部横位ミガキ。以下斜方向ミガキ。 内面口縁部縦方向ミガキ。頸部横方向ミガキ。胴部横方向ミガキ。底部ヨコナデ。	(1mm程度の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	頸部表面ススけ像。	福田中43	
S124	Po33	1452	堆部中	土師器	壺	約19.4	△8.6			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後其部横挟による横位文。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色		福田中67	
S124	Po34	1492	床面	土師器	壺	約14.8	△8.7			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	外面スス付着。	松本31	
S124	Po35	1101	堆部上層	土師器	壺	約26.3	△7.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部底面部ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	外面スス付着。	福田中62	
S124	Po36	1119	堆部上層	土師器	壺	約16.0	△13.2	約25.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙色	浅黄色	外面スス付着。	福田中78	

挿表24　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(1)

S1246	Po37	1479	埋砂下層	土師器	壺	非14.5	△9.4			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後具数服状による斜位ケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	阿田中70
S1246	Po38	1243	埋砂上層	土師器	壺	非14.3	△8.3			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	黄褐色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	野崎66
S1246	Po39	1417	座面	土師器	壺	非15.9	△17.8	非21.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部以数重種による斜位ケズ。中位以下第一ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～胴部右方向ケズリ。中位以下横上方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		山本60
S1246	Po40	1119	埋砂上層	土師器	壺	非15.3	△19.5	非21.5		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部斜向タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。以下横上方向ケズリ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	黄褐色	黄褐色	胴部外面スス付着。	阿田中45
S1246	Po41	1319 1410 1454	床面	土師器	壺	14.9	△18.1	非21.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後1条波状。以下タテ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	木山068
S1246	Po42	1497	床面	土師器	壺	非17.7	31.5	25.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部～中位ヨコハケ。以下横～ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケズリ。以下上方向ケズリ。胎土良。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面底部まで胴部外面スス付着。	野村38
S1246	Po43	1564	床面	土師器	壺	16.1	29.9	24.6		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下横～ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～胴部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面底部まで胴部外面スス付着。	山本070
S1246	Po44	1454	埋砂中	土師器	壺	16.4	28.7	23.5		外面口縁部～胴部ヨコナデ。肩部具数種状による斜位ケズ。中位以上から斜上方向ヨコハケ。以下縦方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～胴部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	山本057
S1246	Po45	1531 1563	埋砂下層	土師器	壺	非18.9	△24.9	非25.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。胴部ヨコナデ。下半右方向ケズリ。胎土良。下半縦方向のハケ目後～縦ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向ケズリ。下半斜め上方向のケズリ後ナデ。指頭圧痕がある。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	外面胴部以下の一部に煤ケズ付着。	山本044
S1246	Po46	1561 1625	床面	土師器	壺	非17.1	25.6	非23.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。中位ヨコハケ。以下ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～胴部右方向ケズリ。中位以下横方向ケズリ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	淡黄橙色～橙色	淡黄橙色～橙色	外面スス付着。	阿田中46
S1246	Po47	1318 1415 1418 1452 1453 1574	埋砂下層	土師器	壺	非15.9	27.3	非22.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。胴外文がずれる。胴部おもに横～斜の方向のハケ目。底部ハケ目後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向。下半左斜め上方向のケズリ後ナデ。底部ナデ。指頭圧痕が残る。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	明褐色	明褐色	外面胴部以下半に多量のスス付着。	野村49
S1246	Po48	1123 1383	埋砂上層	土師器	壺	非17.0	△27.5	非23.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ後1段横結文。以下第一タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	胴部外面スス付着。	野崎73
S1246	Po49	3280	床面	土師器	壺	非16.7	△19.1	非25.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部具数段結による斜位ケズ。多条平行波線。中位ヨコハケ。以下タテ後縦方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケズリ。以下上方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙～灰褐色	橙～灰褐色	外面スス付着	阿田中44
S1246	Po50	1303 1574	埋砂下層	土師器	壺	非16.9	△13.4	非25.4		外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	外面スス付着。	山本035
S1246	Po51	1111 1124 1419 1423 1966	埋砂下層	土師器	壺	非16.7	△20.8	非24.3		外面口縁部～胴部ヨコナデ。胴部4条平行沈線。中位以下斜～ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	橙色	外面スス付着。	阿田中055
S1246	Po52	1568	床面	土師器	壺	14.4	23.9	23.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ後具数種状による斜位文。以下第一タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。一部炭化。	山本033
S1246	Po53	1318 1494	床面	土師器	壺	非16.3	△25.5	22.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部3条平行沈線。中位タテ後ヨコハケ。以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面スス付着。上分析。	松本330
S1246	Po54	1453 1464 1466 1570	埋砂下層	土師器	壺	非14.4	△23.6	22.5		外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。一部横方向ケズリ。頸部屈曲部以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色	内外面スス付着。	野崎72
S1246	Po55	1124 1491	床面	土師器	壺	非15.6	25.3	21.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。中位ヨコハケ。以下第一タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位左方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	赤褐色	赤褐色	胴部外面スス付着	山本058
S1246	Po56	1453 1574 1575	埋砂中	土師器	壺	15.0	22.5	非20.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部～中位横ハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位横ケズ後右方向ケズ。以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（微砂粒を含む）	良好	明黄褐色	黄橙色	外面スス付着。胎土分析。	松本36
S1246	Po57	1568	床面	土師器	壺	14.7	23.6	20.6		外面口縁部横結ヨコナデ。中央ヨコハケ。肩部タテ後ヨコハケ。以下第一タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	橙色	外面スス付着。	阿田中3
S1246	Po58	1318 1495	埋砂下層	土師器	壺	非15.4	22.7	19.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ。2～4条の沈線による波状文が走める。胴部4文方向の細かいハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部タテ。胴部上半左右方向ケズリ。下半ケズリ後ナデ。指頭圧痕が残る。	密（砂粒を含む）	良好	明褐色	明褐色	外面胴部中位以下スス付着。	山本043
S1246	Po59	1123 1566	床面	土師器	壺	非14.2	△20.6	非19.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部～中位ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	阿田中61
S1246	Po60	1319 1387	床面	土師器	壺	非15.4	△18.1	非18.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ後1条沈線。中位以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	明褐色	淡褐色	胴部外面スス付着。	山本034
S1246	Po61	1408	床面	土師器	壺	非13.8	△13.3	非19.8		外面口縁部～肩部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。中位左上がり斜縦タテヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位横方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	外面スス付着。	松本32
S1246	Po62	1407	床面	土師器	壺	非14.0	△11.3	非19.7		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位斜～ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部指押さえ後右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	黄橙色	外面風雨スス付着。	阿田中54
S1246	Po63	1374 1375	P6内	土師器	壺	非12.2	△16.0	非18.4		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位ヨコハケ後斜向タテ。以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位左方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部中位指頭圧痕。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	外面スス付着。胴部外面一部炭化。	山本015
S1246	Po64	1379	埋砂下層	土師器	壺	非14.6	△9.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後1条孔あけ波状文。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	阿田中68

挿表25　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(2)

S12 46	Po65	1456	堀砂中	土師器	甕	※14.4	△7.3			外面口縁部～可部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部指圧部以下右方向ケズリ。	密（3mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	外面スス付着。	福田モ66
S12 46	Po66	1124	堀砂中	土師器	甕	※15.2	△10.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後刷毛文。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部指圧部右方向ケズリ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色		中原40
S12 46	Po67	1490	堀砂下層	土師器	甕	※13.2	△11.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部以下ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	外面スス付着。	福田モ72
S12 46	Po68	1369 1431 1453 1574	堀砂下層	土師器	壺	※12.0	△16.0	※16.6		外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下斜方向ハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下後押さえ後上方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	褐色	褐色	褐黄橙色	胴部外面スス付着。	松本33
S12 46	Po69	1575	堀砂中	土師器	甕	※10.9	△9.4	※13.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部以下横方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	外面スス付着。	福田モ74
S12 46	Po70	1375 1376	堀砂下層	土師器	甕	12.7	△9.3			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後横撫上具に上方向ケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	外面スス付着。	福田モ79
S12 46	Po71	324 390	堀砂上層	土師器	甕	※14.5	18.7	※19.1		外面口縁部～胴部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。中位ヨコトヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部～下半方向ケズリ。 胴部上方部ヨコハケ。胴部下部ヨコナデ。	密（1～4mm程の砂粒を含む）	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	外面スス付着。	胴部内面剥離有り。	福田モ88
S12 46	Po72	1454	堀砂中	土師器	甕	※11.4	△18.0	※17.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。底部胴部指圧。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	外面スス付着。	山本分59
S12 46	Po73	1453 1489 1575	堀砂下層	土師器	直口壺	※15.8	△10.3			外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	橙色	橙色			野崎20
S12 46	Po74	1559	堀砂下層	土師器	直口壺	12.2	16.0	14.2		外面口縁部横撫。ナデか。胴部ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部指圧痕ヨコ後ナデ。胴部以下横方向ケズリ後ナデ。底部調整不明。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。		野崎1
S12 46	Po75	1110 1454 1492 1570 1574 1966	堀砂上層	土師器	高杯	※17.7	13.5		※14.2	外面口縁部ミガキ後ナデ。杯底部ミガキ。脚部ハケ目後ナデ。ミガキ。脚端ナデ。 内面杯底ミガキ後一部ナデ。脚部右方向ケズリ。脚部ハケ目。端部ヨコナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	一次的に一部焼成。	末山63
S12 46	Po76	1569	岸 面	土師器	高杯	16.1	14.3		13.0	外面杯部横撫縦方向ミガキ。脚部横方向ミガキ。脚部ハケ目後横方向ミガキ後端方向ミガキ。 内面杯部横撫縦方向ミガキ。脚部ケズリ。端部ハケ目。	密（1～2mm程の砂粒を含む）	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	内外加熱。外面スス付着。	内外加熱。外面スス付着。	山本分4
S12 46	Po77	2118	岸 面	土師器	高杯脚部	※17.8	△5.8			外面縦方向細かい縦方向ミガキ。 内面横方向ミガキ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	外面スス付着。	福田モ77
S12 46	Po78	1128	堀砂上層	土師器	高杯	※16.1	11.2		※10.1	外面杯底ナデ。脚全面分方向ハケ目がみられる。脚端ナデ後ミガキ。脚部ナデか。 内面杯底ナデか。脚部放り目後ナデ。脚部ナデ。ヘラ状ミガキか。	密	良好	橙色	橙色	全体的に風化著しい。	末山62	
S12 46	Po79	1417 1452 1555	岸 面	土師器	高杯	※15.7	15.0		12.6	外面杯底ミガキ後ナデ。以下ミガキ。脚部縦方向ミガキ。端部ハケ目。 内面杯部ミガキ後ナデ。以下横方向ミガキ。脚部ケズリ後ナデ。脚部ハケ目。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面3方向熱変色。内面全面変色。	野崎25	
S12 46	Po80	1123 1378 1384 1575	堀砂下層	土師器	高杯	※16.1	13.1		※11.1	外面ハケ目後縦～横方向のミガキ。脚部は縦ミガキもみられる。 内面杯部ハケ目。ナデ後横ミガキ。脚部右方向のケズリ後ナデ。脚部ハケ目。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	焼成あり。脚部3方向熱変色。	末山61	
S12 46	Po81	1123 1575	堀砂中	土師器	高杯脚部	※15.8	△10.8			外面杯部横撫縦方向ミガキ。脚部ケズリ後ミガキ。 内面杯部縦方向ミガキ。脚部ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	脚部3方向熱変色。	脚部3方向熱変色。	山本分66
S12 46	Po82	1102 1319 1123 1374	堀砂中	土師器	高杯	※15.9	△9.8			外面杯部縦方向ナデ後やや横ミガキ。脚部ミガキ。端部横撫縦にハケ目が残る。 内面杯部ナデ。脚部ケズリ後ミガキ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色			末山60
S12 46	Po83	1319 1362	堀砂下層	土師器	高杯脚部	15.1	△5.6			外面タテハケ後縦方向ミガキ。 内面横撫縦方向ミガキ。以下縦方向ミガキ。	密	良好	明赤褐色	明赤褐色			野崎27
S12 46	Po84	1123 1380	堀砂下層	土師器	高杯脚部	14.9	△4.9			外面ヨコハケ後縦方向ミガキ。 内面縦方向ミガキ。	密（微砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色			松本34
S12 46	Po85	1114	堀砂上層	土師器	高杯脚部	※16.8	△5.5			外面口縁部ヨコナデ。底部ハケ目後ミガキ。 内面ハケ目後ナデ。風化している。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色			野崎26
S12 46	Po86	1306	堀砂上層	土師器	高杯脚部	※15.0	△5.3			外面横方向のナデ。一部ハケが残る。 内面口縁部ハケ目後縦なナデ。横ハケ目か。杯底部ナデ。	密（1～3mm程度の石英・砂粒を含む）	良好	明黄褐色	赤褐色			山本47
S12 46	Po87	2119	岸 面	土師器	高杯脚部		△8.4		15.6	外面脚部縦方向ミガキ。端部ミガキ。 内面脚部ケズリ。端部縦筋状ハケ目。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	脚部3方向引裂成し。外面スス付着。	中原41	
S12 46	Po88	1533	堀砂下層	土師器	高杯脚部		△8.9		※11.6	外面脚部ケズリ後横方向ミガキ。端部ナデ。 内面脚部ケズリ後ナデ。端部ミガキ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	脚部3方向引裂成し。	野崎74	
S12 46	Po89	1480	堀砂下層	土師器	高杯脚部		△8.6		10.9	外面脚部縦方向のミガキ。端部ミガキ後ナデ。 内面脚部ケズリ。端部縦かハハケ目。端部ヨコナデ。	密	良好	明橙色	明橙色	外面一内面後部変色。脚部3方向引裂成し。	末山54	
S12 46	Po90	1562	岸 面	土師器	高杯脚部		△8.1		※11.8	外面脚部ナデ後おもに縦方向ミガキ。端部ミガキ後ナデ。 内面脚部右方向ケズリ後ナデ。端部ハケ目後ナデ。脚部ヨコナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	脚部3方向引裂成し。	末山53	
S12 46	Po91	1363	堀砂下層	土師器	高杯脚部		△7.6		※12.5	外面脚部縦撫で後ナデ。端部ハケ目後縦ケナデ。 内面脚部ケズリ。脚部ナデか。ハケ目後ヨコ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	脚部3方向引裂成し。	末山56	
S12 46	Po92	1486	堀砂下層	土師器	高杯脚部		△8.8		※12.7	外面脚部下半縦方向ミガキ。下半列点状ミガキ。脚部ナデ。 内面脚部ケズリ。端部ハケ目。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色			山本分62
S12 46	Po93	1493	岸 面	土師器	高杯脚部		△9.2		※11.4	外面縦方向ミガキ。 内面脚部ケズリ。端部ハケ目。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	脚部内面ヘラ状ケズリ。	脚部内面ヘラ状ケズリ。	山本分63
S12 46	Po94	1115	堀砂上層	土師器	高杯脚部		△7.6		※11.1	外面脚部ケズリ後横方向ミガキ。端部ナデ。 内面脚部ケズリ。端部ハケ目。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色			山本分64
S12 46	Po95	1415	岸 面	土師器	高杯脚部		△7.5		※11.4	外面脚部上端チテハケ後横方向ミガキ。下半タテ方向ミガキ。脚部ナデ。端部ナデ。 内面脚部ケズリ。端部ハケ目後ナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色			山本分61
S12 46	Po96	1416	岸 面	土師器	高杯脚部		△8.5		※12.2	外面脚部ケズリ後タテハケ後横方向ミガキ。端部ハケ目。 内面脚部ケズリ。端部ハケ目。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色			山本分65
S12 46	Po97	1565	岸 面	土師器	鼓形器台	29.2	18.4		27.1	外面全部縦方向ミガキ。脚裾部列点状ミガキ。脚部縦方向ミガキ。 内面脚部ケズリ。端部ハケ目後横方向ミガキ。脚部ケズリ。端部ナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	全体・脚部3方向熱変色。	脚部3方向熱変色。	野崎5
S12 46	Po98	1123	堀砂中	土師器	鼓形器台脚部		△4.3		※14.6	外面ヨコナデ。 内面左方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色			福田モ69

挿表26　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(3)

S124	Po99	1496	床 面	土師器	鼓形器台	22.1	12.1			※22.7	外面受部縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	橙色	脚部一部剥離。	米山59
S124	Po100	2064	床 面	土師器	鼓形器台受部	※18.4	△7.7				外面ヨコナデ。内面横方向ミガキ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	淡黄色	淡黄色		福田や71
S124	Po101	1123	廃棄中	土師器	鼓形器台脚部		△5.5			※15.9	外面ヨコナデ。内面受部ミガキ。脚部右上方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	淡黄色		福田や70
S124	Po102	1125 1481 1574 1575	廃棄下層	土師器	小型器台	※9.5	9.4			※12.1	外面縦方向のミガキ後ナデ。内面受部やや「ギ」ナデ。脚部ナデ。指頭圧痕残。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黄橙色	脚土分剥。	米山59
S124	Po103	1406 1422	床 面	土師器	小型器台	8.6	9.2			11.3	外面受部ヨコナデ後縦方向ミガキ。内面縦方向ミガキ。脚部上半指頭圧痕。下半ハケ目。	密（微砂粒を含む）	良好	橙色	橙色			松本37
S124	Po104	1411	廃棄下層	土師器	小型器台	※10.7	9.2			※12.2	外面ナデ後横方向の粗いミガキ。受台部など一部にハケ目残る。内面受部縦方向ナデ後粗いミガキ。脚台部ナデ。脚部ハケ目後ナデ。指頭圧痕残る。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	一次的に一部赤化。	米山57
S124	Po105	1124 1452 1556	床 面	土師器	小型器台	※9.2	8.2			※11.6	外面ミガキ後やや粗ケズリ。内面受部ナデ後粗いミガキ。後少部付近工具痕が残る。脚台部ケズリ。脚部上半右方向ケズリ。下方ハケ目後ナデ。	密	良好	橙色	橙色			米山56
S124	Po106	1134 1447	廃棄下層	土師器	小型器台	※9.5	7.7			※11.5	外面横方向のナデ。脚台部ハケ目後ミガキ。内面受部ナデ。脚台部ナデ。脚部上半ナデ。下半ハケ目後ナデ。指頭圧痕残る。	密	良好	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色		山本48
S124	Po107	1100 1345	廃棄下層	土師器	小型器台	※10.2	△8.3				外面縦横方向のナデ後粗いミガキ。脚部縦かいハケ目後粗いミガキ。円形透かしあり。内面口縁部ミガキ。受部底部制縦。脚部上半ケズリ。下方ハケ目後ナデ。	密（1mm程度の石英を多く含む）	良好	橙色	橙色	赤土分剥。	山本46	
S124	Po108	1124	廃棄中	土師器	低脚杯	※15.0	4.7		4.5		外面杯部ハケ目後ミガキ。ナデ。脚部ナデ。内面杯部ナデ。ハケ目。ケズリ。脚部横方向の工具による痕。	密（0.5mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色			山本45
S124	Po109	1354	床 面	土師器	小型丸底鉢	9.9	9.5	9.5			外面口縁部ヨコナデ。内面ナデ。脚部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。内面横位強圧痕。中位方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（微砂粒を含む）	良好	淡橙色	淡黄橙色	外面スス付着。	福田の42	
S124	Po110	1413 1574	床 面	土師器	小型丸底鉢	※8.7	8.4		※8.5		外面口縁部ヨコナデ。脚部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。脚部横方向ケズリ。底部指頭圧痕。剥離面かい。	密（微砂粒を含む）	良好	明黄褐色	橙色	新十分剥。	松本35	
S124	Po111	1318	廃棄中	土師器	小型丸底鉢	※9.6	△9.7	※9.4			外面口縁部一部ヨコナデ。脚部下半斜ヨコハケ。内面口縁部一部ヨコナデ。中位左方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	福田や73	
S124	Po112	2528	廃棄中	土師器	鉢	※21.0	△22.7				口縁部ヨコナデ。体部ナデハケ。内面口縁部工具による3ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	野崎69	
S124	Po113	1131	廃棄中	土師器	壺	※20.4	△5.6				内外面ヨコナデ。	密	良好	灰黄褐色	灰黄褐色		福田や110	
S124	Po114	989 1395 1528	廃棄下層	土師器	壺	※16.4	27.2	※25.9			外面口縁部ヨコナデ。行縁部ヨコハケ。以下ヨコ後斜方向ハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	野崎119	胎土分剥。
S124	Po115	1395	廃棄下層	土師器	壺	※17.4	△13.2	※20.5			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部横方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	胴部外面スス付着。	山本101	
S124	Po116	1395	廃棄下層	土師器	壺	※15.2	△13.1				外面口縁部ヨコナデ。胴部不定方向のナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半ボ。中位以下左斜上方向のケズリ後不定なナデ。	密（4mm程度の石英を多く含む。1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	明褐色	外面胴部スス付着。内面ススの黒鉛化有り。	山本78	
S124	Po117	1320 1427	廃棄下層	土師器	壺	※15.6	△17.1	※20.0			外面口縁部一部ヨコナデ。胴部上半ボ。内面口縁部ヨコナデ。胴部一中位右方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	胴部外面スス付着。	野崎118	胎土分剥。
S124	Po118	1499	廃棄上層	土師器	壺	※15.9	△22.7	※25.3			外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ後ヨコハケ。見張現棒による刺突文。中位以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。行部一中位右方向ケズリ。胴部ナデ。	密	良好	淡橙褐色	淡黄褐色	外面スス付着。胴部外面黒化。内面ススの黒鉛化有り。	柳子56	胎土分剥。
S124	Po119	1400	廃棄下層	土師器	壺	※14.2	△5.8				外面口縁部一行部ヨコナデ。胴部横方向ケズリ。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	福田や111	
S124	Po120	1307	廃棄下層	土師器	壺	※13.5	△6.5				外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部横方向ケズリ。	密（3mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	橙色	外面スス付着。	福田や112	胎土分剥。
S124	Po121	1394	廃棄下層	土師器	高杯	16.5	12.5		10.8		外面杯部横方向ミガキ。脚部縦方向ケズリ後横方向ミガキ。脚部横方向ミガキ。内面杯部ミガキ。脚部ケズリ。脚部ハケ目。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	杯部内外面スス付着。	山本102	
S124	Po122	1425	廃棄中	土師器	高杯杯部	16.6	△5.0				外面ナデ。風化している。内面縦方向ミガキ。	密	良好	灰褐色	にぶい黄橙色	外面スス付着。口縁部内面黒化。	野崎77	
S124	Po123	1305 1320	廃棄下層	土師器	高杯杯部	※15.0	△4.5				外面ヨコナデ。内面ハケ目後ヨコナデ。	密	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色		野崎120	
S124	Po124	1403	廃棄下層	土師器	高杯杯部	17.1	△5.3				外面口縁部横方向ミガキ。底部ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面黒煤。	福田や114	胎土分剥。
S124	Po125	1428	廃棄下層	土師器	高杯脚部		△8.9		11.7		外面縦かい横方向ミガキ。内面脚部ケズリ。裾部ハケ目。ヘラ記号有り。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	脚部外面スス付着。	福田や113	
S124	Po126	1399	廃棄下層	土師器	高杯脚部		△3.4		※14.6	※8.1	外面ヨコナデ。内面ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	橙色	外面黒煤。	山本50	胎土分剥。
S124	Po127	1217	廃棄下層	土師器	低脚杯	※13.0	4.4		4.8		外面杯部ナデ。脚部ヨコナデ。裾台部に工具痕有り。内面杯部ミガキ。内面底部ミガキ。脚部ヨコナデ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	明褐色	明褐色	内面杯部黒煤。	山本79	
S124	Po128	1424	廃棄下層	土師器	小型丸底壺	※7.8	7.8	9.0			外面口縁部一胴部横方向ミガキ。胴部斜変換2か所。中位以下ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下横方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	橙色	橙色	胴部外面黒煤。	野崎2	
S124	Po129	1320	廃棄下層	土師器	小型丸底壺	※8.2	△6.5	※8.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ナデ。胴部縦ハケ。内面口縁部ナデ。胴部右方向ケズリ。胴部指頭痕が残る。	密（0.5～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面胴部スス付着。	山本99	胎土分剥。
S124	Po130	1320	廃棄下層	土師器	小型丸底壺		△5.3	※6.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部縦方向ミガキ。以下ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。炭化オ。炭化有り。	密	良好	にぶい黄色	橙色	胎土分剥。	山本77	
S124	Po131	1392	廃棄下層	土師器	鉢		△22.7		推円22.1		外面口縁部ヨコナデ。体部ナデハケ。胴部ナデ。内面口縁部ヨコナデ後ナデ。体部ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	橙色	体部外面黒煤。	野崎121	
S124	Po132	1108	廃棄下層	土師器	高杯脚部		△4.3				外面縦方向のハケ目。内面左方向のやや丁寧なケズリ。	密（0.5～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	黄橙色	外面一部スス付着。	山本98	胎土分剥。
S124	Po133	1106	廃棄下層	土師器	高杯脚部		△3.5				外面縦斜縦方向のミガキ。縦横ミガキ後ナデ。内面裾部左のケズリ。横部ナデ。ハケ目。	密（1mm程度の砂粒を含む。石英多くにあり）	良好	にぶい黄橙色	黄橙色	裾部及び内面黒煤。	山本97	

挿表27　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(4)

S I 2 4 9	Po134	2518 2821 2822 2823 2919 2945 3416 3664	床 面	土師器	壺	※27.9	△39.4	※31.7		外面口縁部ヨコナデ、頸部ヘラ状工具による刺突文、胴部ヒと半絡ネタ状ヨコハケ、下部ヤテハケ。内面口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、ハケ目残る。胴部上半ヨコ・ナナメ方向ケズリ、下半ヨコ・ナナメ方向のケズリ。一部指頭圧痕が残る。底部指ナデ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	赤褐色	赤褐色	内面口縁部スス付着。底部と胴部の一部に黒斑変化。	野崎26
S I 2 4 9	Po135	2683 2692 2693	堆砂上層	土師器	壺	※20.5	36.9	※27.6		外面口縁部ヨコナデ、頸部ヘラ状工具による刺突文、胴部ヒと半絡ネタ状ヨコハケ、下部ヤテハケ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヒ半位方向ナデ、下半上方向ケズリ、底部指頭圧痕。	密	良好	淡黄色	淡黄色		野崎61
S I 2 4 9	Po136	3415 3652	床 面	土師器	壺	※22.8	ハ19.6			外面口縁部ヨコナデ、胴ヒ胴部縦方向ハケ。胴部おもに横方向の横ケハケ目。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、指頭圧痕が残る。頸部胴部おもに右方向のケズリ。	密（胴部砂をわずかに含む）	良好	淡赤褐色→赤茶色	淡赤褐色→赤茶色	外面一部スス付着。	野崎29
S I 2 4 9	Po137	2624 2705 2862 2866 2886	堆砂上層	土師器	壺	※19.5	△18.0	28.2		外面口縁部ヨコナデ、頸部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ、頸部横方向のハケ目。粘土つなぎ痕がみられる。胴部ナデ、指頭圧痕が残る。胴部横方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を多く含む）	良好	にぶい赤褐→黄褐色	にぶい赤褐→暗赤褐色	外面胴部スス付着。一部黒変。	海田中35
S I 2 4 9	Po138	3436	床 面	土師器	壺	※26.0	△7.4			外面口縁部ヨコナデ、頸部ハケ目痕ナデ。内面口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、指頭圧痕が残る。	密（わずかに砂粒を含む）	良好	浅黄色	浅黄色		野崎12
S I 2 4 9	Po139	2623 2625	堆砂上層	土師器	壺	※21.2	△7.7			外面口縁部ヨコナデ、頸部テラハケ後ヨコナデ。内面ヨコナデ。	密	良好	黄褐色	黄褐色		野子5
S I 2 4 9	Po140	3661	床 面	土師器	壺	※15.0	△21.0	※21.0		外面口縁部・頸部ヨコナデ。胴部下半おもにヨコハケ、ナテ。内面口縁部ナデ。胴部指ナテ。胴部上半とを向方向、下半左斜め上方向のケズリ。一部指頭圧痕が残る。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面全体に薄付スス付着。内面部分下半にスス付着。	米山39
S I 2 4 9	Po141	2774	堆砂上層	土師器	壺		△11.4			外面胴部ヨコナデ。胴部石膏製型による刺突文。丸底状を。以下タテ後ヨコハケ。内面胴部ヨコナデ。胴部指頭圧痕以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		米山38
S I 2 4 9	Po142	3425	床 面	土師器	壺		△8.9			外面口縁部ヨコナデ。頸部縦方向のハケ目後ヨコナデ。胴部ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部横方向の指ナデ後ナデ。胴部左方向のケズリ。	やや密（3mm以下の砂粒・石英を多く含む）	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		福田中29
S I 2 4 9	Po143	2945 3657 3664	床 面	土師器	壺	※26.5	43.0	※33.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部斜め・ヨコハケ後ナデ。連続刺突文。胴部上半おもに横、下半おもに縦方向のハケ目後一部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。下半上方向へのケズリ後ナデナデ。底部指頭圧痕。	密（1～5mm の砂粒を含む）	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面口縁部一部スス付着。内面全体に黒変。	福田中22
S I 2 4 9	Po144	2937 3565	床 面	土師器	壺	26.8	37.0	33.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。中位ヨコハケ。下部ヤテハケ。内面口縁部ナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下縦方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	赤褐色	赤褐色	外面黒斑変色。内面スス付着。	野崎32
S I 2 4 9	Po145	3539 3547	床 面	土師器	壺	21.0	△27.0	※28.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部ハ本・ヨコ・ナテ。内面口縁部ナデ。頸部底部部以下右方向ケズリ下半上方向ケズリ。一部指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部スス付着。	山本D23
S I 2 4 9	Po146	3535	床 面	土師器	壺	※19.6	△24.2	※26.6		外面口縁部ヨコナデ。頸部ハケ目後ナデ。胴部上半ヨコ・ナテ。下半縦方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右一右斜め上方向のケズリ。底部ナデ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	赤褐色	赤褐色	外面口縁部スス付着。	野崎7
S I 2 4 9	Po147	3665 3668 3669	床 面	土師器	壺	※20.6	△30.4	※27.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半斜め方向のハケ目。斜め方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右、下半左斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部底部スス付着。	米山24
S I 2 4 9	Po148	3571	床 面	土師器	壺	※14.8	25.3	※21.0		外面口縁部一胴部ヨコナデ。口縁部・底部化。胴部ヨコハケ。以下斜ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面口縁部スス付着。内面部分黒斑変色。	中原15
S I 2 4 9	Po149	3406	床 面	土師器	壺	16.6	26.6	22.0		外面口縁部一胴部ヨコナデ。最大張付近以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部底面部以下横方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（2～6mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	口縁部一胴部外面スス付着。底部黒変。	山本D25
S I 2 4 9	Po150	2776 2790 2795 2853	堆砂上層	土師器	壺	※16.5	△27.8	※22.6		外面口縁部ヨコナデ。一部ヨコ平行状線。胴部一中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下下方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部中位下位スス付着。底部変。後発化。外面スス付着。	米山20
S I 2 4 9	Po151	3580	床 面	土師器	壺	※15.6	26.6	※21.6		外面口縁部一胴部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。以下斜めハケ後タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部指頭圧痕以下右方向ケズリ。中位以下斜一上方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	内外面スス付着。	中原13
S I 2 4 9	Po152	3566	床 面	土師器	壺	※14.6	26.0	※20.7		外面口縁部ヨコナデ。口縁端部化。胴部ヨコハケ後上方斜ヨコハケ。以下斜一ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部指頭圧痕以下右方向ケズリ。底部下端方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	胴部外面スス付着。内面部分黒斑変色。	山本D24
S I 2 4 9	Po153	3440 3448	床 面	土師器	壺	※17.0	△25.7	※23.1		外面口縁部ヨコナデ。胴部一中位ヨコハケ。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部指頭圧痕以下右方向ケズリ。中位以下斜一上方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	明褐色→明黄褐色	明黄褐色	口縁部外面スス付着。。胴部外面スス付着。	山本C1
S I 2 4 9	Po154	3655	床 面	土師器	壺	14.4	26.2	21.8		外面口縁部ヨコナデ。可能タテ後ヨコハケ。3条波状文。中位以下斜一タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下縦方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色	口縁部外面スス付着。内面部分黒斑変色。胴部外面スス付着。	山本C16
S I 2 4 9	Po155	3402	堆砂上層	土師器	壺	15.3	26.0	21.7		外面口縁部一胴部ヨコナデ。最大張付近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部一中位右方向ケズリ。以下縦方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（2mm程度の石英・砂粒を含む）	良好	にぶい黄色	にぶい黄橙色	口縁部外面スス付着。内面部分黒斑変色。	松本7
S I 2 4 9	Po156	3614	床 面	土師器	壺	※13.8	25.0	※20.8		外面口縁部一胴部ヨコナデ。最大張付近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（胴部砂を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	胴部外面スス付着。	松本21
S I 2 4 9	Po157	3647	床 面	土師器	壺	17.6	△25.1	※24.8		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後3条波状文。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部底面部以下右方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	浅黄色	浅黄色	内外面スス付着。	中原12
S I 2 4 9	Po158	3656	床 面	土師器	壺	14.6	△25.0	※21.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後其部縦横による刺突文。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	松本13
S I 2 4 9	Po159	3619 3620 3652 3653 3656 3659 3661 3664 3668	床 面	土師器	壺	※14.6	△24.0	△22.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後其部縦横による刺突文。中位タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部底面部以下右方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	米山15

挿表28　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(5)

S124	Po160	3537	床面	土師器	甕	15.6	27.2	22.9	外面口縁部ヨコナデ、胴部タテハケ後ヨコナデ。最大径近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、頸胴部最部一次位方向かケズリ。中位以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙～黄橙色	橙～黄橙色	外面スス付着。	中原16
S124	Po161	3534 3535	床面	土師器	甕	※17.0	27.8	※22.8	外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後胴部一部縦一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向の丁寧なヨコナデ。下半左斜の上方向のケズリ後ナデ。頂部底面が多量に残る。	密	良好	橙色	橙色	外面胴部1/3程部の一部にスス付着。	本山9
S124	Po162	3607	床面	土師器	甕	※14.5	25.1	20.8	外面口縁部ヨコナデ。胴部5条平行沈線。胴部～中位ヨコハケ。以下斜一ナデハケ。内面口縁部ヨコナデ。口部右方向ケズリ。中位以下斜一上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	外面スス付着。	山本5 27
S124	Po163	3460	床面	土師器	甕	14.4	24.8	21.0	外面口縁部工具によるヨコナデ。胴部ナデ後5条の平行沈線。胴部不定方向のやや粗いハケ目後胴分四ヒラケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向ケズリ。中位以下方向のケズリ後ナデ。底部及び胴部に放射状痕が残る。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面底部を除き口ほぼ全面にスス付着。	福田20 21
S124	Po164	2944 3654 3656 3689	床面	土師器	甕	15.5	25.4	22.4	外面口縁部ヨコナデ。胴部1条沈状。最大径付近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部屈曲部～中位右方向ケズリ。以下斜方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面スス付着。頸部外面部分黒変。	野崎33
S124	Po165	3579 3580 3586 3587	床面	土師器	甕	※16.4	27.1	23.4	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後頸部隆線による段状文2条。最大径付近タテ後ヨコナデ。以下斜一タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位指押さえ後上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（微砂粒含む）	良好	黄橙色	黄橙色	外面スス付着。	山本4 18
S124	Po166	3579 3587 3593 3608	床面	土師器	甕	※15.4	25.9	22.0	外面口縁部ヨコナデ。胴部7条平行沈線。中位ヨコハケ。以下斜一タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位横方向ケズリ。以下斜一上方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	底部外面スス付着。胴部外面黒変。	山本9 20
S124	Po167	2944 3652 3656 3661	床面	土師器	甕	※15.6	△25.2	※22.0	外面口縁部ヨコナデ。頸部ハケ目後ナデ。斜突文がそわる。胴部中位以下不定方向のハケ目後ナデ。下半部一部ふられる。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部右斜め上、胴部あたりに斜方向のケズリ。底部指頭圧痕が残る。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面全体にスス付着。	福田9 57
S124	Po168	3459	床面	土師器	甕	※15.4	△25.3	21.2	外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。胴部おもにヨコハケ。下半ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部右方向のケズリ。胴部左斜めと胴部上方向のケズリ後ナデ。頂部底部が大量に残る。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面胴部中位、内面底部に大量にスス付着。	本山8
S124	Po169	3429	床面	土師器	甕	14.9	23.3	20.4	外面口縁部～胴部ヨコナデ。最大径付近ヨコハケ。ヘラ状工具による刺突文貼付4カ所。中位以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下斜方向のケズリ。底部指頭圧痕。	密（微砂粒含む）	良好	茂黄色	淡黄色	胴部外面スス付着。内面黒ずび。	松本9
S124	Po170	3648	床面	土師器	甕	※16.0	△21.0	※22.0	外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。斜突文がそわる。胴部最一斜の方向のハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部上半右斜め上方向、下半左斜め上方向のケズリ後一部ナデ。頂部底部が残る。	密（砂粒をわずかに含む）	良好	黄橙色	にぶい黄橙色	外面全体にススが付着。	野崎30
S124	Po171	3552	床面	土師器	甕	※14.1	△20.6	※20.9	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ナデ。頸部上半右方向の粗かいハケ目、下半胴部の広い間隔不明。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右方向のケズリ。下半斜方向のケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を多く含む）	良好	にぶい橙色	橙色	外面口縁部一部スス付着。	野崎5
S124	Po172	2900	縄紋上層	土師器	甕	※16.7	△16.9	※28.4	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後7条平行沈線。胴部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部胴最部以下右方向ケズリ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面黒変者りる。	野崎16
S124	Po173	3434	床面	上師器	甕	※16.9	△19.5	※24.3	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後7条平行沈線。胴部下部方向ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部～中位右方向ケズリ。以下左方向ケズリ。	密（1～3mm程度の砂粒を多く含む）	良好	赤褐色	赤褐色	外面口縁部～胴部外面黒変。	野崎20 5
S124	Po174	3549	床面	土師器	甕	※16.9	△16.6	※25.7	外面口縁部ヨコナデ。胴部横方向のケズリ。胴部横一部方向のハケ目後ナデ。三角線有り。内面口ヨコナデ。胴部ナデ。胴部右方向のケズリ後丁寧なナデ。	密（1～2mm程度の砂粒を多く含む）	良好	茂黄褐色	茂黄褐色	外面胴部外面黒変。	野崎28
S124	Po175	3507	縄紋上層	土師器	甕	※21.2	△10.4		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部刺突文。以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密	良好	茂黄色	茂黄色		野子24
S124	Po176	3401	縄紋上層	土師器	甕	15.7	△19.4	※21.2	外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部右由部以下右方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	灰黄色	灰黄色	外面スス付着。底部黒変。	野崎17
S124	Po177	2705 2843 2915	縄紋上層	土師器	甕	15.1	△18.0	※21.0	外面口ヨコナデ。胴部ヨコハケ後隆線工具による刺突文。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部胴部最部以下右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面黒変者りる。	山本5
S124	Po178	3648	床面	土師器	甕	※15.0	△16.4	※22.2	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下左右方向ケズリ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	明黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	松本17
S124	Po179	3380	縄紋上層	土師器	甕	※15.6	△15.0	※24.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸胴部最部以下右方向ケズリ。	密（微砂粒含む）	良好	黄橙色	黄橙色	外面スス付着。	山本4 15
S124	Po180	2691	縄紋上層	土師器	甕	※15.2	△14.3	※23.5	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。以下斜一ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密	良好	黄橙色	黄橙色	外面スス付着。	本山37
S124	Po181	3405	床面	土師器	甕	※16.6	△16.5	※24.6	外面口縁部ヨコナデ。頸部ハケ目後ナデ。胴部不定方向の粗かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部ナデ以後斜方向ケズリ。	密（4mm以下の砂礫を含む）	良好	橙色	にぶい橙～茶黄橙色	外面胴部一部にスス付着。	福田6 32
S124	Po182	3696	P2内	土師器	甕	15.9	△15.0	※22.5	外面口縁部～胴部ヨコナデ。最大径付近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部胴最部以下右方向ケズリ。	密（2～3mm程度の砂粒を含む）	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	外面スス付着。	山本9 17
S124	Po183	2778	縄紋上層	土師器	甕	※19.2	△14.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。中位以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部胴最部以下右方向ケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	茂黄橙色	茂黄橙色	胴部外面スス付着。	野子13
S124	Po184	3422	床面	土師器	甕	※14.3	△14.0	※22.0	外面口縁部ヨコナデ。胴部おもに横方向の細かいハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。一部粘土つなぎ痕がみられる。胴部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（5mm以下の砂礫、石英を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面全体に薄くスス付着。	福田6 28
S124	Po185	2836	縄紋上層	土師器	甕	※16.9	△10.7		外面口縁部ヨコナデ。胴部斜め方向ハケ目後ナデ。胴部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。胴部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄色	にぶい黄色	内面胴部一部黒変。全体的に黒変ぎる。	本山31

挿表29　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(6)

S I 2 4 9	Po186	2605 2612 3457	床 面	土師器	壺	※17.3	△15.5	※24.1	外面口縁部ヨコナデ。頸部前の一後一斜め方向の細かいハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部まで。頸部上半おもに石銷の上、下半不定方向のケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙～にぶい黄橙色	内面全体・口縁部に赤色顔料塗彩。	福田や 33
S I 2 4 9	Po187	2795	堀跡上層	土師器	壺	※16.6	△12.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部不定方向の細かいハケ目後一部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴張位方向のケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄色	浅黄色		福田や 41
S I 2 4 9	Po188	3586 3587	床 面	土師器	壺	※15.5	△10.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後ナデ。胴部下の広範囲による後ケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。頸張ケズリ。胴部右方向のケズリ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄～にぶい橙色	浅黄～にぶい橙色	外面一部赤色	福田や 39
S I 2 4 9	Po189	3451	床 面	土師器	壺	※14.2	△18.0	※20.1	外面口縁部ヨコナデ。可視ヨコハケ。以下ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸張右方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	野崎14
S I 2 4 9	Po190	2576	堀跡上層	土師器	壺	※14.1	△14.3	※20.4	外面口縁部ヨコナデ。頸部おもに横～斜め方向の細かいハケ目。胴部横位ケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。頸張ナデ。胴部右方向のナデ後ケズリ後ナデか。	密（3mm以下の砂粒を多く含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体スス付着。	米山26
S I 2 4 9	Po191	2582	堀跡下層	土師器	壺	※19.0	△19.0	※22.6	※14.4	外面口縁部ヨコナデ。口縁端部下に一条の凹線がめぐる。胴張上にヨコハケ。底部端ケズリ有り。 内面口縁部ヨコナデ。頸張ナデ。胴部上半右方向、下半上方向ケズリ。	密（1～3mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面口縁・胴部スス付着。	福田や 3
S I 2 4 9	Po192	3611	床 面	土師器	壺	※14.3	△14.7	※21.6	外面口縁部ヨコナデ。胴張ナデ。胴部横・斜め方向のハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸張ナデ。胴部右方向の比較的丁寧なケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面胴部下方にスス付着。	福田や 43
S I 2 4 9	Po193	3555	床 面	土師器	壺	※14.4	△14.0	※17.9	外面口縁部ヨコナデ。胴張上半横方向、下半縦方向のハケ目後一部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（1mm以下の砂粒を多く石英を含む）	良好	浅黄～灰褐色	浅黄～灰褐色	外面全体・内面胴部スス付着。	福田や 20
S I 2 4 9	Po194	3601	床 面	土師器	壺	※13.6	△12.6		外面口縁部ヨコナデ。胴張ナデ後ヨコハケ後ヘラ状工具による刺突文。以下ヨコ～タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部縦長部右方向ケズリ。以下横～縦方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	外面スス付着。	山本0 31
S I 2 4 9	Po195	3403	堀跡上層	土師器	壺	※18.5	△11.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後一部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向の丁寧なケズリ。ケズリ後ナデか。	密（1mm以下の石英を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面一部スス付着。 外面風化気味。	福田や 31
S I 2 4 9	Po196	3597 3659 3668	床 面	土師器	壺	※16.1	△9.85		外面口縁部ヨコナデ。胴部以下ハケ目後ナデ。胴張動位ケズリがみられる。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後一部ナデ。	密（1.5mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄～灰黄色	浅黄～灰黄色	外面一部スス付着。	福田や 44
S I 2 4 9	Po197	2630	堀跡上層	土師器	壺	※15.5	△11.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ、刺突文有り。胴張ふもとにヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おもに右方向の丁寧なケズリ。	密（0.5mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙～にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	口縁部内外面に赤色顔料塗彩。	福田や 19
S I 2 4 9	Po198	2945 3444 3448	床 面	土師器	壺	※16.1	△11.0		外面口縁部ヨコナデ。胴張ヨコハケ後ナデ。胴部二条突文がめぐる。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。指頭圧痕が残る。胴部右方向のケズリ後一部ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面一部スス付着。	野崎11
S I 2 4 9	Po199	3416	床 面	土師器	壺	※15.8	△10.1		外面口縁部ヨコナデ。胴張ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。 内面口縁部ヨコナデ。頸部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	米山35
S I 2 4 9	Po200	3443	床 面	土師器	壺	※14.4	△10.6		外面口縁部ヨコナデ。胴張ヨコハケ後刺突痕。以下ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部底部以下右方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	胴部内面スス付着。	野子19
S I 2 4 9	Po201	3543	床 面	土師器	壺	※15.7	△9.6		外面口縁部ヨコナデ。口縁部ヨコハケ後ナデ。胴部横～斜め方向のハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。張部ナデ。胴部右～左斜め上方向のケズリ。	密（0.7mm以下の砂粒を含む）	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	外面胴部・内外面口縁部に赤色顔料塗彩。	福田や 10
S I 2 4 9	Po202	2708 2944 3552	床 面	土師器	壺	※16.9	△8.8		外面口縁部ヨコナデ。可視ハケ目後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。張部ナデ。胴部右方向の丁寧なケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面とも破損箇所にスス付着。	不明36
S I 2 4 9	Po203	3451	床 面	土師器	壺	※16.6	△8.3		外面口縁部工具によるヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おもに右方向の丁寧なケズリ。	密（0.5mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	外面全体スス付着。	福田や 21
S I 2 4 9	Po204	2440 2532	堀跡上層	土師器	壺	※15.8	△10.3		外面口縁部工具によるナデ後ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。刺突文有り。胴部横ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部左右方向のケズリ後ナデか。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体・内面の一部にスス付着。外面一部被熱。	福田や 34
S I 2 4 9	Po205	3414	床 面	土師器	壺	15.6	△9.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ヘラ状工具による刺突文。 内面口縁部ヨコナデ。頸部底部以下右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	浅黄橙色	外面スス付着。	山本0 32
S I 2 4 9	Po206	3552	床 面	土師器	壺	※16.6	△8.5		外面口縁部ヨコナデ。胴張ナデ、ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸張ナデ。胴部右方向の丁寧なケズリ。	密（1mm以下の砂粒を多く含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	口縁部内外面に赤色顔料塗彩。	福田や 16
S I 2 4 9	Po207	2944 2945	堀跡中	土師器	壺	※14.3	△11.4		外面口縁部ヨコナデ。胴張ハケ目後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後ナデか。	密（1.5mm以下の砂粒多く石英を含む）	良好	にぶい橙～にぶい黄橙色	浅黄橙色	外面胴部わずかにスス付着。	福田や 23
S I 2 4 9	Po208	2440 2441	堀跡上層	土師器	壺	※17.0	△6.3		外面口縁部ヨコナデ。胴張ヨコハケ後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向の比較的丁寧なケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	福田や 12
S I 2 4 9	Po209	2436	堀跡上層	土師器	壺	※13.0	△9.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部右方向の丁寧なケズリ。	密	良好	にぶい橙～橙色	にぶい橙～橙色	外面全体スス付着。	福田や 9
S I 2 4 9	Po210	3667 3668	床 面	土師器	壺	※13.6	△6.9		外面口縁部ヨコナデ。胴張4条櫛状文。 内面口縁部ヨコナデ。張部底部面以下右方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	山本0 30
S I 2 4 9	Po211	2830	堀跡上層	土師器	壺	※15.8	△14.5		外面口縁部～胴部ヨコナデ。胴部1条沈線文。中位ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。以下左方向ケズリ。	密（微砂粒含む）	良好	黄橙色	浅黄色		松本11
S I 2 4 9	Po212	2830	堀跡上層	土師器	壺	※15.2	△12.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。以下タテ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（微砂粒含む）	良好	橙色	灰オリーブ色	外面スス付着。	松本20
S I 2 4 9	Po213	2564 2581	堀跡下層	土師器	壺	※14.0	△16.1	※20.0	外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後不定方向のハケ。 内面口縁部ヨコナデ。張部ナデ。胴部上半右斜め上方向、下半左斜め上方向のケズリ。	密（1～2mm程度の石英・砂粒を多く含む）	良好	明赤褐色	灰オリーブ色	外面スス付着。胴部及び口縁部内外面に赤色顔料塗彩。内面口縁部入墨。	山本0 2
S I 2 4 9	Po214	3647	床 面	土師器	壺	※14.8	△10.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。 内面口縁部ヨコナデ。胴部底面部以下右方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	野子16

挿表30　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(7)

S124 9	Pe213	3548	床 面	土師器	甕	第15.7	△9.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。下の石英を含む。	密（2 mm以下の砂粒を含む）	良好	橙一にぶい橙色	橙一にぶい橙色	外面口縁部～胴部に煤スス付着。	福田寺 11
S124 9	Pe216	2817	柵跡上層	土師器	甕	第15.6	△6.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。 胴部・頸部ナデ。右方向のケズリ。	密（1 mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙一にぶい橙色	にぶい黄橙色	外面口縁部スス付着。	福田寺 36
S124 9	Pe217	2930	柵跡下層	土師器	甕	第13.6	△14.4	第22.0		外面口縁部ヨコナデ。頸部ハケ目後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（1～2 mm以下の砂粒を多く含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面胴部スス付着。	野崎27
S124 9	Pe218	3552	床 面	土師器	甕	第15.4	△14.7	第21.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。胴部右方向のハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向の丁寧なケズリ。下半丁寧なナデ。	密（1 mm以下の砂粒を多く含む）	良好	にぶい橙一橙色	橙一橙色	外面口縁部～胴部にススが付着。	福田寺 30
S124 9	Pe219	3583	床 面	土師器	甕	13.8	△10.9			外面口縁部ヨコナデ。肩部上赤彩跡ケズ。頸部ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部両面以下右方向ケズリ。	密（1 mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	山本ひ 18
S124 9	Pe220	2774	柵跡上層	土師器	甕	第15.4	△10.5			外面口縁部ヨコナデ。頸部縦方向のハケ目後ナデ。胴部文様。胴部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。指頭圧痕が残る。	密（1 mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体にススが付着。	福田寺 41
S124 9	Pe221	2587	床 面	土師器	甕	第15.1	△8.9			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向の丁寧なケズリ。	密（2 mm以下の石英を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面口縁部～胴部にススが付着。	福田寺 14
S124 9	Pe222	3619	床 面	土師器	甕	第14.0	△11.1			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ後ナデ。 規模による胴突。中位以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部前面下右方向ケズリ。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面スス付着。	胡子 25
S124 9	Pe223	2812	柵跡上層	土師器	甕	第15.4	△8.1			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部前面以下右方向ケズリ。	密	良好	浅黄色	浅黄橙色	外面スス付着。	胡子 9
S124 9	Pe224	2903	柵跡上層	土師器	甕	第14.0	△8.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部前面以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	浅白色		野崎19
S124 9	Pe225	2988	柵跡上層	土師器	甕	第14.0	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。一部タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部前面以下右方向ケズリ後ハケ目。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄一にぶい黄橙色	外面黑斑有。省ち。	朱山25
S124 9	Pe226	2901	柵跡上層	土師器	甕	第14.4	△7.7			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ目後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おもに右方向のケズリ。	密	良好	灰黄色	灰黄色	外面全体にススが付着。	野崎25 6
S124 9	Pe227	3423	床 面	土師器	甕	第14.4	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。指頭圧痕残る。	密（1 mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面全体にススが付着。	福田寺 6
S124 9	Pe228	3655	床 面	土師器	甕	第13.9	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後板状ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部前面以下右方向ケズ	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		胡子 22
S124 9	Pe229	3412	床 面	土師器	甕	第10.0	13.2	12.8		外面口縁部ヨコナデ。頸部上半縦方向。一定板方向の非常に細いハケ目後ナデ。中位以下表面・底部縦方向のかすかがみられる。胴部に1条の線を描く。胴部下半ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。頸部上半右方向。胴部下半右方向ケズリ。底部内面平滑。ナデ。	密	良好	橙色	橙色	胴部中位にススが付着。	朱山34
S124 9	Pe230	2594 3530 3532 3534	床 面	土師器	甕	第15.0	25.0	第22.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半に横・斜の方向の細かいハケ目後一部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向の比較的丁寧なケズリ。下半ナデ。指頭圧痕が多量に残る。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面口縁部～胴部に煤スス多量に付着。 内面底部スス付着。	朱山49
S124 9	Pe231	3567	床 面	土師器	壺	14.7	23.5	20.1		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半おもに縦方向。中央以下まもに斜方向の細かいハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半おもに右方向。中位斜め上方向のケズリ。以下ケズリ後ナデ。底部指頭圧痕。	密（1～5 mm以下の砂粒を含む）	良好	明黄一橙色	明黄一橙色	外面口縁部～胴部にかすかにススが付着。	福田寺 10
S124 9	Pe232	3533	床 面	土師器	壺	14.3	△23.5	30.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後横ハケ目ヨコハケ。中位以下横ハケ目ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。以下横方向ケズリ。胴部上半右方向ケズリ。底部は指頭圧痕。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	山本ひ 53
S124 9	Pe233	3654 3656 3668	床 面	土師器	甕	15.6	24.0	20.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。中位以下ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部前面以下右方向ケズリ。下半上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2 mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	口縁部外面黑斑有。胴部外面スス付着。	山本ひ 22
S124 9	Pe234	3427	床 面	土師器	甕	14.0	21.9	19.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部縦ハケ後ヨコハケ。規模による胴突。中央以下タテハケ。下半以下ナデハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（微砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	外面スス付着。内面黑斑有。	松本19
S124 9	Pe235	3585	床 面	土師器	甕	14.2	21.9	19.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。胴突（2～3周（6単位））。胴部中位縦方向。以下おもに横一斜め方向ハケ目後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向のケズリ。下半上方向のケズリ。指頭圧痕あり。底部指頭圧痕。	密（1～2 mm程度の砂粒を含む）	良好	橙一にぶい橙色	橙一にぶい橙色	胴部およびに口縁部にススが付着。	福田寺 13
S124 9	Pe236	2583 3549	床 面	土師器	甕	13.7	22.0	19.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。 内面口縁部一胴部ヨコナデ。肩部左方向ケズリ後ナデ。胴部胴部上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	朱山14
S124 9	Pe237	3614 3641 3651	床 面	土師器	甕	第13.6	21.2	18.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコ状工具による刺突文。最大径近以下斜方向ハケ一部ナデハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部前面一中位右方向ケズリ。下半上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2 mm程度の砂粒を含む）	良好	黄橙一赤褐色	黄橙一赤褐色	内外面スス付着。	野崎31
S124 9	Pe238	3566 3574 3576 3593 3616 3617	床 面	土師器	甕	13.6	21.0	18.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後3条赤彩跡文。最大径付近以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部右方向ケズリ。最大径以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（2～4 mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	赤彩跡残。後分孔。内面外面スス付着。	野崎34
S124 9	Pe239	3449	床 面	土師器	甕	13.8	20.7	18.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部一中位ヨコハケ。以下斜方向ハケ目後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部前面以下右方向ケズリ。	密（1～2 mm程度の砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	胴部外面スス付着。内面角ナデ。	山本ひ 20
S124 9	Pe240	2794	柵跡上層	土師器	甕	15.7	20.4	17.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部横状工具による刺突文。中央部横方向ケズリ。以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部前面以下右方向ケズ。下半指頭圧痕。	密（1～2 mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。内面輪土分痕。	山本ひ 26
S124 9	Pe241	2583 3614 3620	床 面	土師器	甕	第14.3	23.1	※20.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部上半おもに斜の方向。下半縦方向のハケ目後一部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半おもに右方向。下半左斜め上方向のケズリ後ナデ。指頭圧痕が残る。底部指頭圧痕。	密（1～2 mm程度の砂粒を含む）	良好	赤褐色	赤褐色	内面底部一外面一部スス付着。 底部スス付着。 底部に焼成外面から部分	野崎21

挿表31　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(8)

S124	No242	2875	推砂上層	土師器	甕	14.2	△21.5	※19.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半横、下半おもに縦方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半方向の丁寧なケズリ。下半左斜上方向のケズリ後丁寧なナデ。	密		良好	黄橙色	黄橙色	外面胴部中位以下多くスス付着。	東海11
S124	No243	3695	P1内	土師器	甕	※15.0	△22.6	※19.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部一中位ヨコハケ。以下前一方向ケズリ。内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部以下右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密		良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。胴部ハケ目部赤色。胴上分布。	東海17
S124	No244	2983	推砂上層	土師器	甕	※15.0	△19.5	※19.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部縦方向のハケ目後ナデ。胴部上半おもにヨコハケ。下半縦方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。指頭圧痕が残る。胴部上半右方向のケズリ。下半ナデ。指頭圧痕。	密（2～3mmの砂粒を含む）		良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体にススが付着。内面底部に炭化ススが付。	野崎4
S124	No245	3577	床 面	土師器	甕	※15.2	△22.0	※20.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。胴部不定方向のハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向、下半縦方向のケズリ後ナデ。胴部一部指ナデ跡がみられる。底部指頭圧痕。	密		良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体にススが付着。底部ススが付。	中東14
S124	No246	2659 2707 2708 2944 2945 3383 3540	南東一帯 砂上層	土師器	甕	※15.6	22.9	22.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ後ヨコハケ。中位以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸胴部内面以下右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）		良好	明橙色	明橙色		野崎18
S124	No247	3570	床 面	土師器	甕	14.2	21.9	20.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半おもに横、下半おもに縦方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部上半右方向の丁寧なケズリ。中位以下左一方向の上方向ケズリ後丁寧なナデ。底指頭圧痕。	密		良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面胴部中位スス付着。	東海18
S124	No248	2617 2846	推砂上層	土師器	甕	※14.1	△20.0	※20.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部縦方向のハケ目後ナデ。色1人間に斜向スス。胴部上半おもにヨコハケ。下半ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。胴部上半右方向のケズリ。下半左斜向上方向のケズリ後ナデ。指頭圧痕が残る。	密（2～3mm程度の砂粒を多く含む）		良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ。胴部上半スス付着。内面底部付近一部スス付着。赤色分布。	野崎6
S124	No249	2613 2614 2855	推砂上層	土師器	甕	※13.0	21.4	※19.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ後ヨコハケ。6条平行沈線。以下縦方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸胴部上半右方向のケズリ。中位以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密		良好	橙色	橙色		東海16
S124	No250	3570	床 面	土師器	甕	※13.4	△19.6	18.3		外面口縁部一肩部ヨコナデ。肩部縦状工具による斜向文7か所。以下ナデハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸胴部為部以下横方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密（2mm以下の砂粒を含む）		良好	にぶい黄橙色	浅黄橙色	外面スス付着。	松本18
S124	No251	2583 2840 2831	推砂上層	土師器	甕	※15.6	△17.0	※21.9		外面口縁部一肩部ヨコナデ。最大張付近ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密（砂粒含む）		良好	灰黄色	灰黄色	外面スス付着。	山本ひ8
S124	No252	3407	床 面	土師器	甕	※15.4	△16.0	※20.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコハケ後ナデ。以下不定方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おもに右方向のやや丁寧なケズリ後ナデ。	密（2.5mm以下の石英を含む）		良好	にぶい黄橙色～にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体に薄くスス付着。	梅田中18
S124	No253	2660	推砂上層	土師器	甕	※14.1	△13.0	※21.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。胴部上半横、下半縦方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おもに右方向のケズリ。	やや密（4mm以下の石英を多く含む）		良好	灰黄色	にぶい橙～にぶい黄橙色	外面胴部梅田中位にススが付着。	梅田中12
S124	No254	3600	床 面	土師器	甕	※14.0	△15.9	※20.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ後ヨコハケ。棒状工具による斜向文。中位以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部為部以下右方向ケズリ。	密（3mm以下の砂粒を含む）		良好	明黄橙色	黄橙色	外面スス付着。	松本15
S124	No255	2781	推砂上層	土師器	甕	※14.0	△14.4	※18.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部為部以下右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密		良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	東海26
S124	No256	2656 2888 2943	推砂中	土師器	甕	※15.0	△13.2	※15.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。胴部おもに横方向の細かいハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。指頭圧痕が残る。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）		良好	にぶい赤橙色	赤橙色	外面全体にススが付着。	野崎9
S124	No257	3448	床 面	土師器	甕	※13.5	△12.9	※18.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後縦なナデ。胴部不定方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。粘土つなぎ痕がみられる。胴部上半右方向、下半左斜め上方向への丁寧なケズリ。工具痕残る。	密		良好	にぶい橙～にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面胴部梅田中位スス付着。	梅田中17
S124	No258	3533	床 面	土師器	甕	※14.3	△12.1	※20.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部おもに横方向の細かいハケ。内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部右方向の丁寧なケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）		良好	にぶい黄橙色	橙色	外面一部スス付着。	梅田中7
S124	No259	2928	推砂下層	土師器	甕	※14.7	△10.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。刺突文有り。内面口縁部ヨコナデ。頸部胴部底面。以下右方向ケズリ。	密（1mm程度の砂粒を含む）		良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面スス付着。	野崎13
S124	No260	3643	床 面	土師器	甕	※13.0	△11.9	※19.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後一部縦突起。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密		良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	東海27
S124	No261	3643	床 面	土師器	甕	※14.0	△11.5	※19.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による斜向文。中位以下ナデハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密（砂粒含む）		良好	赤褐色	赤褐色	外面スス付着。	山本ひ14
S124	No262	2884	推砂下層	土師器	甕	※14.6	△11.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。指頭圧痕が残る。肩部右方向のケズリ。	密（かすかに砂粒を含む）		良好	淡橙色	橙色	外面一部スス付着。	野崎13
S124	No263	2706 2709	推砂上層	土師器	甕	※14.6	△10.6			外面口縁部一肩部ヨコナデ。以下ナデ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸胴部為部以下右方向ケズリ。	密		良好	橙色	橙色	外面スス付着。	東海21
S124	No264	3441	床 面	土師器	甕	※13.3	△8.9			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部指頭圧痕が残る。胴部右方向のケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）		良好	にぶい橙～にぶい黄橙色	にぶい橙～にぶい黄橙色	外面口縁部一肩部にスス付着。	梅田中15
S124	No265	2440	推砂上層	土師器	甕	※16.1	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。底部ナデ。	密（微砂粒を含む）		良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体的にスス付着。	野崎10
S124	No266	2543	推砂中	土師器	甕	※15.1	△8.6			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。指頭圧痕が残る。胴部右方向のケズリ。	密（微砂粒をかすかに含む）		良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体にススが付着。内面底部付近スス付着。	野崎23
S124	No267	2819	推砂上層	土師器	甕	※14.2	△8.6			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による斜向文。内面口縁部ヨコナデ。頸胴部為部以下右方向ケズリ。	密		良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	東海29
S124	No268	2943 3555 3565 3568	床 面	土師器	甕	12.7	△18.3	※17.3		外面口縁部一肩部ヨコナデ。中位タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸胴部為部以下右方向ケズリ。以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）		良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	山本ひ19
S124	No269	2890	床 面	土師器	甕	13.5	△7.6			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後1条波状文。内面口縁部ヨコナデ。頸胴部為部以下右方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）		良好	橙色	橙色	外面スス付着。	松本14

挿表32　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(9)

ＳＩ２４９	Ｐ０２７０	3641	床 面	土師器	甕	単11.0	△8.0			外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目後ナデ。胎部に金雲母いる。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	密	良好	にぶい橙色	浅黄～にぶい橙色	外面口縁部～胴部に黒斑	第図中30
ＳＩ２４９	Ｐ０２７１	2945	廃棄中	土師器	甕	単11.9	△7.05			外面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、剥落。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。胴部右方向のケズリ後ナデ。	密（1mm以下の石英を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	外面全体に黒くスス付着。	種図中13
ＳＩ２４９	Ｐ０２７２	3597	床 面	土師器	鉢	単13.3	△9.5			外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ、剥落・胎部ナデ、指頭圧痕が残る。内面右方向のケズリ。	密（2mm程度の砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面口縁部かすかにスス黒ずみがみられる。	野崎8
ＳＩ２４９	Ｐ０２７３	2893	廃棄上層	土師器	甕	単11.5	△11.1			外面口縁部ヨコナデ、胴部ケテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ、剥落胴底部以下右方向のケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	野子18
ＳＩ２４９	Ｐ０２７４	2917	廃棄下層	土師器	甕	単13.1	△7.5			外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目後ナデ、一条の沈線有り。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体にスス付着。	野崎22
ＳＩ２４９	Ｐ０２７５	2944	廃棄中	土師器	甕	単13.1	△5.5			外面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、指頭圧痕・軸ずつな状痕有り。胴部右方向のケズリ。	密（0.5mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体にスス付着。	種図中9
ＳＩ２４９	Ｐ０２７６	3614	床 面	土師器	甕	単12.8	△5.4			外面口縁部ヨコナデ、胴部ヨコハケ後其部故意縦に多る刺突文。内面口縁部ヨコナデ、胴部胴底部以下右方向のケズリ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	灰黄色	灰黄色	外面スス付着。	野子7
ＳＩ２４９	Ｐ０２７７	3665	床 面	土師器	甕	単13.8	△5.7			外面口縁部ヨコナデ、胴部ヨコハケ後其部故意縦に多る刺突文。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下右方向ケズリ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		野子14
ＳＩ２４９	Ｐ０２７８	2935	廃棄下層	土師器	甕	単13.9	△4.8			外面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、粘土2ヶ所がみられる。胴部ナデ、胴部右方向のケズリ。	密（微砂粒をわずかに含む）	良好	灰褐色	灰褐色	外面口縁部スス付着。	野崎24
ＳＩ２４９	Ｐ０２７９	3581	床 面	土師器	鉢	12.4	17.3	17.0		外面口縁部ヨコナデ、胴部横検文が付する。胴部上半おもにヨコハケ、下半鉛の一敲方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。胴部もに右方向、下半上方向のケズリおよび指頭圧痕、底部指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙～灰黄褐色	橙～灰黄褐色	外面口縁部～胴部に不ス付着。底部4ヶ所焼成後穿孔。内面2ヶ所は貫通しない。	種図中17
ＳＩ２４９	Ｐ０２８０	3695	Ｐ１内	土師器	甕	単12.4	15.4	15.2		外面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。条の沈線による波状文。胴部不定方向のハケ目後一部ナデ、工具痕有り。底部ナデ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。胴部上半部、下半に多部ナデ。部分的ナデ後なケズリ後ナデ。底部ナデ、指頭圧痕が残る。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面胴部にスス付着。底部ススが多い。	米山33
ＳＩ２４９	Ｐ０２８１	3579	床 面	土師器	小型甕	単12.0	15.8	単16.6		外面口縁部ヨコナデ、胴部ヨコハケ、以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、胴部右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（微砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	山本16
ＳＩ２４９	Ｐ０２８２	3545	床 面	土師器	小型甕	11.8	15.0	14.3		外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下左右方向ケズリ。底部指頭痕。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面胴外部にスス付着。	松本12
ＳＩ２４９	Ｐ０２８３	3433	床 面	土師器	甕	11.5	15.0	14.9		外面口縁～胴部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部指頭圧痕。以下ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	浅黄色	浅黄色	外面スス付着。	種図中18
ＳＩ２４９	Ｐ０２８４	3590	床 面	土師器	小型甕	10.0	13.5	12.7		外面口縁部ヨコナデ、胴部及胴部縦検文を刺突する。最大張り出ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下ケズリ。最大張付近、底部指頭痕。	密	良好	橙色	橙色	胴部外面スス付着。	米山22
ＳＩ２４９	Ｐ０２８５	3569	床 面	土師器	小型甕	単10.7	△13.9	単13.9		外面口縁部ヨコナデ、胴部タテ後ヨコハケ。胴部横検による刺突文を付加。以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ、胴部指頭痕以下右方向ケズリ。下半部方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（微砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	山本13
ＳＩ２４９	Ｐ０２８６	2872 3441	廃棄上層～埋葬	土師器	小型甕	単12.1	△13.8	単14.0		外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下横方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	山本11
ＳＩ２４９	Ｐ０２８７	2943 2944 3552	床 面	土師器	小型甕	単12.3	△8.6	単13.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。以下タテハケ。胴部外面剥離。内面口縁部ヨコナデ。胴部胴底部以下右方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面スス付着。	山本10
ＳＩ２４９	Ｐ０２８８	3442	床 面	土師器	直口壺	12.1	16.8	15.2		外面口縁部二段のヨコナデ。胴部ナデ、全周しかいち条の沈線による波状文。別部中位おもに横方向ケズリ。内面口縁部二段のヨコナデ。胴部ナデ。胴部上半右方向のケズリ。指頭圧痕多残る。下半上上方向のケズリ後ナデ。底部指頭圧痕。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	浅橙色	浅橙色	胴部中位にスス付着。底部上部のみ付着。	種図中19
ＳＩ２４９	Ｐ０２８９	3429 3544	床 面	土師器	直口壺	単11.8	16.0	14.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部横方向ミガキ。以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部胴底部以下右方向ケズリ。底部指頭痕。	密	良好	浅黄色	浅黄色	外面スス付着。	野子35
ＳＩ２４９	Ｐ０２９０	3430	床 面	土師器	直口壺	13.7	14.9	13.8		外面口縁部縦方向ミガキ。胴部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。底部指頭痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	米山12
ＳＩ２４９	Ｐ０２９１	3424	床 面	土師器	直口壺	単12.1	15.5	14.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。工具による横検文が付する。胴部中位おもにヨコハケ。以下ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部上半右方向のケズリ。下半左方向のケズリ後ナデ。底部指頭圧痕。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	胴部横検文帯にスス付着。	米山33
ＳＩ２４９	Ｐ０２９２	2930 2921 2951 2944	廃棄上層	土師器	直口壺	単12.4	△9.7			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。胴部胴部～。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下横方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	橙色	外面スス付着。	野子12
ＳＩ２４９	Ｐ０２９３	3532	床 面	土師器	直口壺胴部		△11.4	14.0		外面胴部ヨコハケ。以下タテ後斜方向ハケ目。内面右方向ケズリ後ナデ。底部指頭圧痕。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	底部横検文帯にスス付着。外面スス付着。	山本21
ＳＩ２４９	Ｐ０２９４	3662	床 面	土師器	直口壺	10.2	12.1	11.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半おもにヨコハケ。中位以下おもに斜の方向のハケ目後ナデ。底部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右～右斜め上方向のケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	橙～明赤褐色	橙～明赤褐色	外面口縁部～胴部上半～胴部ススが多い。内面胴部ほぼ全体にススが付着。	種図中12
ＳＩ２４９	Ｐ０２９５	3560	床 面	土師器	直口壺	10.2	11.7	12.0		外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部胴底部以下右方向ケズリ。底部指頭痕。	密	良好	橙～灰黄褐色	橙～灰黄褐色	外面スス付着。	中原10

挿表33　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(10)

SI249	Pc296	3650 3652	床 面	土師器	高杯	17.8	13.3		14.2	外面杯部コロハケ後縦方向ミガキ。脚部縦ハケ後ハケ後縦方向ミガキ。脚部ナデ。 内面杯部縦方向ミガキ。脚部ケズリ。脚部細かいハケ目。	密	良好	橙色	橙色	脚部3方向円形透かし。脚部内外面ハケ目。	末山92
SI249	Pc297	2905 3351	床 面	上師器	高杯	※17.3	13.8		※14.5	外面杯部縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ後一部縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。 内面杯部横方向ミガキ。脚部ケズリ。脚部ハケ目。	密（砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	脚部3方向円形透かし。	山本06
SI249	Pc298	3542	床 面	土師器	高杯	17.7	13.4		13.6	外面杯部コロナデ後縦方向ミガキ。脚部ハケ目後縦方向ミガキ。脚部ナデ。 内面杯部横方向ミガキ。脚部ケズリ後ナデ。脚部ハケ目後ナデ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	脚部3方向円形透かし。	山本04 24
SI249	Pc299	2696 2706 2905 2943 2945	埋蔵上層	上師器	高杯	※18.6	15.3		15.5	外面杯部横位縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。脚部コロナデ。 内面杯部コロハケ後横方向ミガキ後縦方向ミガキ。脚部ケズリ。脚部ケズリ後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	杯部内外面黒斑有。	山本07
SI249	Pc300	3642 3661	床 面	土師器	高杯	※17.6	14.2		※12.0	外面口縁部ナデ。杯部～脚部ナデ後縦方向ミガキ。脚部ハケ目後ナデ。 内面杯部ナデ後丁寧なミガキ。脚部ケズリ。脚部ケズリ後ナデ。脚部ハケ目後ナデ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙～明赤褐色	橙～明赤褐色	内面杯部黒斑有。	福田03 20
SI249	Pc301	2944 3558	床 面	土師器	高杯	※16.9	13.7		※11.2	外面杯部横～縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。 内面杯～縦方向ミガキ。脚部縦方向の丁寧なケズリ。脚部ハケ目後ナデ。	密（砂粒をわずかに含む）	良好	橙～にぶい橙色	橙～にぶい橙色	杯部内外面一部にスス付着。内面杯部黒斑有。脚部ケズリ。	末山86
SI249	Pc302	3455 3458	床 面	土師器	高杯	※15.8	14.7		※11.4	外面杯部～脚部縦方向ミガキ。脚部丁寧なナデ。 内面杯部コロハケ後縦方向ミガキ。脚部ケズリ。脚部ハケ目。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	脚部3方向円形透かし。	福田07 16
SI249	Pc303	3572 3575 3630	床 面	土師器	高杯	※15.8	13.8		※11.5	外面口縁端部ナデ。杯部～脚部コロナデ後縦方向ミガキ。杯底部～接合部にハケ目が残る。脚部丁寧なナデ。 内面杯部ナデ後丁寧な刷毛状ミガキ。脚部縦ナデ。左方向のケズリ。脚部ハケ目後ナデ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	内面杯底部に成型時上げ痕跡。ハケ目。	福田07 17
SI249	Pc304	2886	埋蔵下層	土師器	高杯	※15.9	13.9		※11.4	外面杯部～脚部コロナデ後縦方向の縦又状ミガキ。脚部にハケ目がわずかに残る。脚部丁寧なナデ。 内面杯部ハケ後コロナデ後横方向ミガキ。一部ハケ目が残る。脚部左方向の丁寧なケズリ。脚部ハケ目。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	杯部内面に成型時上げ痕跡有。脚部内面に成型時の波がみられる。	福田07 15
SI249	Pc305	2609 2909	埋蔵上層	土師器	高杯	※15.6	15.3		11.3	外面杯部コロナデ後縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。 内面杯部コロナデ後縦方向ミガキ。脚部ケズリ。脚部ハケ目後ナデ。	密（砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	脚部2方向円形透かし。杯部内面に成型時上げ痕跡有。	山本07 15
SI249	Pc306	2796 3414	床 面	土師器	高杯	16.1	13.7		※12.5	外面杯部コロハケ後縦方向ミガキ。脚部縦方向ケズリ後縦方向ミガキ。脚部ケズリ。 内面杯部コロハケ後縦方向ミガキ。脚部ケズリ。脚部ハケ目。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色		山本07 14
SI249	Pc307	3461	床 面	土師器	高杯	※11.3	10.2		13.1	外面杯部ハケ目。脚部縦方向ケズリ後ナデ。脚部ハケ目。 内面杯部ハケ目。脚部ケズリ。脚部ハケ目。	密（砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	杯底部線状ガキ有。	山本07 12
SI249	Pc308	2780 2793	埋蔵上層	土師器	高杯脚部	※18.3	△5.3			外面縦方向ミガキ。 内面縦方向ミガキ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	黄橙色	にぶい黄橙色		福田07 94
SI249	Pc309	2797 2944 3456 3529	床 面	土師器	高杯脚部	※16.0	△5.1			外面縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。以下横方向のミガキ。 内面ナデ後縦方向ケズリ。脚部ハケ目。	密（1mm大の砂粒。砂粒を多く含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	内面上縁部黒斑有。	山本07 65
SI249	Pc310	3602	床 面	土師器	高杯脚部	※17.1	△7.2			外面横位縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。 内面縦位縦方向ミガキ。	密	良好	橙色	橙色	杯部内面にスス付着。	中原70
SI249	Pc311	2913	埋蔵上層	上師器	高杯	※14.8	△10.7			外面杯口縁部ミガキ。杯底部ハケ目。脚部縦位横方向ミガキ。 内面杯口縁部縦方向ミガキ。脚部横方向ミガキ。転部ナデ。脚部ケズリ。	密	良好	淡黄色	淡黄色	杯内外面にスス付着。	野崎95
SI249	Pc312	3456	床 面	土師器	高杯脚部	15.9	△5.6			内外面ともナデ後縦方向のミガキ。口縁部と杯底部の接合部分さすかに若干、底受時のハケ目が残る。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		福田07 35
SI249	Pc313	2533 2661	埋蔵上層	土師器	高杯脚部	※15.6	△5.4			外面口縁端部コロナデ。以下横方向のミガキ。 内面ナデ後縦方状のミガキ。	密（砂粒をわずかに含む）	良好	黄橙色	にぶい黄橙色		末山84
SI249	Pc314	2672	埋蔵上層	土師器	高杯脚部	※13.5	△5.1			外面口縁端部コロナデ。以下縦方向ミガキ。風化している。 内面口縁部斜方向ハケ目。底部放射状ハケ目。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		野崎99
SI249	Pc315	2877	埋蔵上層	土師器	高杯脚部	15.4	△5.3			外面ハケ目後ナデ。口縁部と底部の接合部左右両方向のケズリ後ナデ。杯底部ハケ目。 内面横～縦方向のミガキ。杯底部風化のため調査不明瞭。ミガキか。	密（1～3mm大のスス。砂粒を含む）	にぶい橙色	にぶい橙色			山本04 64
SI249	Pc316	3591	床 面	土師器	高杯脚部	15.4	△4.8			内外面ともに縦で細かいはコロコロナデ。底部時の指痕は消されられる。 内面杯底部ハケ目後横方向のミガキ。	密（砂粒を含む）	良好	明黄褐色	橙色		山本07 62
SI249	Pc317	2798 3648	床面～第一遺上層	土師器	高杯脚部	※13.8	△4.5			外面縦方向ハケ目後横方向ミガキ。 内面口縁部端方向ハケ目。口縁部端方向ミガキ。	密（微砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		坂本59
SI249	Pc318	3573 3615	床 面	土師器	高杯脚部	17.7	△8.1			外面ケズリ後縦方向ミガキ。口縁部と杯底部の接合部に段が残る。杯底部ハケ目が残る。 内面口コロナデ後縦方向ミガキ。脚部ハケ目。	密	良好	橙色	橙色	外面全体にスス付着。内面にスス付着。	新子68
SI249	Pc319	3645	床 面	土師器	高杯脚部		△8.2		※13.4	外面縦方向のハケ目。 内面脚部縦合部付近上具によるナデか。上半ジボリ指ナデ痕が残る。脚部下半ケズリ。脚部上半ハケ目。下半ナデ。	密（砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	脚底有り。	山本07 63
SI249	Pc320	3583	床 面	土師器	高杯脚部		△10.7		12.5	外面杯底部～脚部ナデ後縦方向のミガキ。かすかに指ナデが残る。脚部下半ケズリ。 内面杯底部ミガキ。脚部ジボリ指上半右方向ケズリ。下半ナデ。脚部ハケ目後ナデ。ハケ記号有。	密（砂粒をかすかに含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面とも被部の一部にスス付着。内面杯底部スス付着。	末山83
SI249	Pc321	3446	床 面	土師器	高杯脚部		△8.6	※11.5		外面脚部縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。 内面脚部ケズリ。脚部ハケ目。	密	良好	橙色	橙色	外面脚底部に線状ガキ有。	野崎100
SI249	Pc322	2671	埋蔵上層	土師器	高杯脚部		△8.2		11.8	外面縦方向ミガキ。 内面脚部ケズリ。脚部ハケ目後ナデ。一部指頭圧痕。	密（砂粒をにぶく含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	坂本60
SI249	Pc323	2684	埋蔵上層	土師器	高杯脚部		△7.7		11.3	外面脚部縦方向ミガキ。脚部ナデ。 内面脚部ケズリ。脚部ハケ目後ナデ。	密	良好	橙色	橙色		中原69
SI249	Pc324	2533 2793 3356	床 面	土師器	高杯脚部		△10.8		11.9	外面脚部縦方向ミガキ。脚部ナデ。脚部ケズリ。 内面脚部ケズリ。脚部ハケ目後ナデ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	底面～脚内部に成型時上げ痕跡有。	福田07 62
SI249	Pc325	2207 2353	埋蔵下層	土師器	高杯		△8.1		10.9	外面脚部上半縦方向ミガキ。下半面取り後丁寧なナデ。脚部ナデ。 内面脚部左方向の丁寧なケズリ。脚部ハケ目後ナデ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	内面脚部端ハケ目が残る。	福田07 20

挿表34　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(11)

S124	P0326	2635	堆砂上層	土師器	高杯脚部		△7.1	10.9	外面横筋縦方向ミガキ。粘部横方向ミガキ。内面脚部ケズリ。脚部ハケ目。一部指頭圧痕。	密	良好	淡黄橙	淡黄橙	外部風蝕有り。	野村45
S124	P0327	3603	床面	土師器	高杯脚部		△5.2	第16.0	外面横筋縦方向の大きなミガキ。脚部おもに横方向ミガキ。内面脚部縦金型状痕跡等。上半形方向ケズリ。下半おもに横方向のケズリ。	密（4mm大の粒を含む。砂粒少含。）	良好	橙色	橙色	完部3方向部遺が多い。	山本く6
S124	P0328	2499 2533 2943 3448	南西一部堆砂上層	土師器	高杯脚部		△6.8	第16.0	外面脚部タテハケ後タテミガキ。粘部タテ。内面脚部ケズリ。脚部ハケ目後タテ。	密	良好	橙色	橙色		野村34
S124	P0329	2276	堆砂上層	土師器	鉢形器台	第22.1	△9.4		外面ヨコナデ。内面受部横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	部分汚れ。	野村56
S124	P0330	2270 2280 2795 2835	堆砂上層	土師器	鉢形器台	第22.1	△10.0		外面ヨコナデ。内面受部横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密（2mm大の砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	部分汚れ。	野村37
S124	P0331	3450	床面	土師器	鉢形器台		△10.6	第19.6	外面ヨコナデ。内面受部ナデ後タテナデ。脚部ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色		野村55
S124	P0332	3649	堆砂上層	土師器	鉢形器台	第17.5	9.1		第15.8	外面受部縦方向ミガキ。筒部タテ。脚部縦方向ミガキ。内面受部横一線方向ミガキ。脚部ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	受部外面大スス付着。	野村46
S124	P0333	2551	堆砂下層	土師器	鉢形器台 脚部		△4.8	第16.4	外面ヨコナデ。内面ケズリ。	密（砂粒含む）	良好	黄橙色	黄橙色		山本く6
S124	P0334	2532 2596 2621 2943 3387	床面	土師器	鉢形器台	16.7	8.4		第15.7	外面受部縦方向コケラ状縦方向ミガキ。脚部ヨコナデ後縦方向ミガキ。内面受部横方向ミガキ。脚部右方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	受部・脚部内面部分汚れ。脚部後一本分は火を受けたと考えられる。	山本く6 13
S124	P0335	3447	床面	土師器	鉢形器台	15.7	8.96	14	外面横方向のナデ後縦かいり工形。内面受部おもに左方向のケズリ後チテナデ横方向ミガキ。脚部ヨコナデ。内面受部横方向ミガキ。脚部右方向ケズリ。工具痕有り。脚痕跡ヨコナデ。	密（密但を多く含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		野村11
S124	P0336	2879 2906	堆砂上層	土師器	鉢形器台 脚部		△6.0	第16.0	外面ヨコナデ。内面受部ケズリ。脚部ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		野村92
S124	P0337	3598	床面	土師器	鉢形器台	第10.2	5.7	第8.9	外面ヨコナデ後タテナデ。脚部ヨコナデ。内面受部横・筒部横下面タテナデ後一部ミガキ。脚部右斜め上方向のケズリ。	密（1mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		山本く61
S124	P0338	3557	床面	土師器	小型器台	2.0	9.5	11.9	外面ハケ目後横方向ナデ後縦方向の粗いミガキ。内面受部ヨコナデ。内面受部おもに横方向の細なミガキ。筒全部タテ。脚部横方向ハケ目後タテ。下半ハケ目後ナデ。脚端部ヨコナデ。	密（2mm大の砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	筒部橙色有り。	福田の14
S124	P0339	3561	床面	土師器	小型器台	3.6	8.7	第12.2	外面受部タテハケ後横方向ミガキ。脚部横方向ミガキ。内面受部縦方向ハケ目後タテナデ。接続部一脚端上半ケズリ。下部ハケ目。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙～黄橙色	にぶい橙～黄橙色	部分汚れ。	福田の26
S124	P0340	2945 3563 3576	床面	土師器	小型器台	第9.0	8.3	第11.6	外面受部タテハケ後横方向ミガキ。脚部タテハケ後縦方向ミガキ。内面脚方向ハケ目後ミガキ。脚部上半タテハケ。下ヘハケ目。		良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	部分汚れ。	福田の25
S124	P0341	3578	床面	土師器	小型器台	8.3	8.1	第11.3	外面受部ヨコナデ。接続部ケズリ。脚部縦方向ミガキ。内面受部ヨコナデ。脚部上半ケズリ。下半ハケ目。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙～黄橙色	脚端部大スス付着。	福田の24
S124	P0342	2945 3613 3620	床面	土師器	小型器台	第8.7	8.1	第11.1	外面受部横方向ミガキ。脚部横方向ミガキ。筒部タテハケ。内面受部横方向ミガキ。脚部上半ケズリ。下半横方向ハケ目。	密（3mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	福田の27
S124	P0343	3419	床面	土師器	小型器台	8.5	7.4	10.6	外面受部縦方向ミガキ。脚部横筒縦方向ミガキ。内面受部横方向ミガキ。脚部指押さえ後ハケ目。	密	良好	橙色	橙色	底部蝕縁部変色。	野村36
S124	P0344	2819 3417	床面	土師器	小型器台	第9.4	△8.3		外面受部ハケ目後ナデ。縦方向のミガキ。脚部タテ。ミガキが為ハケ。接合痕付近横方向ミガキ。縦方向ハケ目。内面受部タテ後横方向ミガキ。脚部ハケ目。底部縁の指頭圧痕がかすかに残る。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		山本り79
S124	P0345	2927	堆砂上層	上師器	小型器台	8.1	10.6	10.6	外面頭部と底方向のナデ後縦金型方向ミガキ。内面受部縦金型ケズリ。上半縦金型方向のミガキ。下半ケズリ。頂部平面。脚部上半左方向。脚部方向のケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色		鉢本16
S124	P0346	2944	堆砂中	土師器	小型器台 受部	第8.5	△3.4		外面横・縦方向のミガキ。内面受部タテ後横方向の細なミガキ。脚部ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		山本り78
S124	P0347	2811	堆砂上層	土師器	小型器台 脚部		△7.6	第12.4	外面受部ミガキ。脚部縦方向ハケ目後横方向の細かいミガキ。内面受部縦方向ミガキ。脚部上半横方向の細なミガキ。下部の方向ケズリ目後ナデ。	密（1～3mmの砂粒を多く含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		山本り86
S124	P0348	2692	堆砂上層	上師器	低脚杯	第17.0	4.6	6.1	外面杯部ハケ目後縦方向ミガキ。脚部ヨコナデ。内面杯部ミガキ。横圧痕あり。脚部ヨコナデ。	密	良好	淡黄色	淡黄色		野崎36
S124	P0349	2796 3550	床面	土師器	低脚杯	14.0	6.0	5.2	外面杯部ハケ目後ミガキ。脚部ヨコナデ。内面杯部横方向ミガキ。脚部ヨコナデ。	密	良好	淡黄色	淡黄色		野子27
S124	P0350	2437		上師器	低脚杯	第14.6	5.7	第4.8	外面杯部ハケ目後横なでナデ。脚部ヨコナデ。内面杯部縦なでナデ。脚部ヨコナデ。	密（1～3mmの石英を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		山本り85
S124	P0351	3439	床面	土師器	低脚杯	12.0	4.7	第5.5	外面杯部横方向ミガキ。脚部ヨコナデ。内面杯部ミガキ。脚部ヨコナデ。	密（1～2mm粒度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	口縁部外面黒蝕有り。	山本り33
S124	P0352	3595	床面	土師器	低脚杯	10.0	5.7	第4.8	内外面とも工形部横方向ミガキ。脚部ヨコナデ。	やや粗（1～2mm粒度の砂粒を多く含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色		米山19
S124	P0353	2833 3695	堆砂上層～P1内	土師器	低脚杯	第18.9	9.3	第19.4	外面口縁部ヨコナデ。体部上半横方向ミガキ。下部ミガキ方向ケズリ後一部ミガキ。内面部ヨコナデ。	密（1～2mm粒度の砂粒を含む）	良好	赤褐色	赤褐色	外面黒蝕有り。	野崎43
S124	P0354	3551	床面	土師器	小型丸底鉢	第11.3	9.4	9.1	外面口縁部ヨコナデ。脚部ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。脚部右方向ケズリ。炭部種圧痕。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	野子21
S124	P0355	2901	堆砂下層	土師器	小型丸底鉢	第8.3	△8.2	第7.8	外面口縁部ヨコナデ。胴部縦かいミガキ。頸部不定ケズリ後一部ミガキ。内面口縁部ヨコナデ後横ケズリ。胴部上方部ケズリ。	密（1mm以下の砂粒含む。0.5～1mm大の砂粒を多く含む）	良好	橙色	橙色		山本く63
S124	P0356	3535	床面	上師器	小型丸底鉢	3.3	7.7	7.8	外面口縁部横いりタテハケ後縦方向ミガキ。胴部縦方向ミガキ。内面口縁部横方向ケズリ。胴部ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	淡赤褐色	明赤褐色	部分汚れ。	山本り54
S124	P0357	3408	床面	上師器	小型丸底鉢	第9.5	9.8	10.4	外面口縁部ヨコナデ。胴部縦方向ミガキ。中位ヨコケズ。下部タテケズリ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙～赤橙色	にぶい橙～赤橙色	外面スス付着。胴部十分焦。	福田の42
S124	P0358	3432	床面	土師器	小型丸底鉢	9.0	9.0	8.9	外面口縁部横方向ミガキ。胴部ヨコハケ。以下胴方向ハケ目。内面口縁部横方向ケズリ。胴部右方向ケズリ。	密（1mm大の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	胴部外周スス付着。	野子17
S124	P0359	2694	堆砂上層	土師器	小型丸底鉢	第8.6	△9.4	第9.0	外面口縁部ヨコナデ。胴部斜めハケ目後ナデ。胴部横・斜め方向のハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向のケズリ。底部左斜め上方向ケズリ後ナデ。指頭圧痕。	密（1mm大の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面とも胴部全体にスス付着。	山本り77

挿表35　長瀬高浜遺跡出土土器観察表②

S I 2 4 9	Po360	2912	堀跡下層	土師器	小型丸底鉢	※8.6	△5.3		外面口縁部ヨコナデ後縦方向ミガキ。胴部ナデ。胴部横・斜めの細かいハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部左方向のナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面胴部スス付着。	未山85
S I 2 4 9	Po361	2633	堀跡上層	土師器	小型丸底鉢	8.4	7.5	6.7	外面口縁部ヨコナデ。胴部粗いナデ～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ナデ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		附子20
S I 2 4 9	Po362	2915	堀跡上層	土師器	小型丸底鉢	10.4	9.7	11.6	外面口縁部ヨコナデ。胴部平滑する。多の平行沈線。輪状丸メ。工具痕多数。胴部不定方向のハケ目。底部ハケ目後ナデ。工具痕多数みられる。胴部ナデ。胴部ふもに左方向の縦ケズリ。底部ナデ。指圧痕多数ナデ。	密（3mm以下のれを多く含む）	良好	明茶褐色	黄褐～灰褐色	外面胴部下半黒色。スス付着。	松本10
S I 2 4 9	Po363	2783	堀跡上層	土師器	小型丸底鉢	※9.6	9.4	10.9	外面口縁部ヨコナデ。胴部横ハケ工具による刺突文7条帯。以下胴～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。底部指圧痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	附子23
S I 2 4 9	Po364	3458	床面	土師器	小型丸底鉢	9.0	8.3	7.8	外面口縁部縦方向ミガキ。胴部ハケ目。輔羅まし内面口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。底部指圧痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	底部外面スス付着。	附子10
S I 2 4 9	Po365	2093 2532	堀跡上層	土師器	小型丸底鉢	※9.2	△8.0	※6.0	外面口縁部～胴部上半ヨコナデ後縦方向細かいミガキ。胴部ハケ不定方向ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ後ナデ。工具痕が多数みられる。底部ナデ。	密（0.5mm以下の砂粒を多くまばらに含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		山本分82
S I 2 4 9	Po366	2879	堀跡下層	土師器	小型丸底鉢	7.6	8.2	9.4	外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。以下タテ～斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。底部指圧痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		附子15
S I 2 4 9	Po367	3552	床面	土師器	小型丸底鉢	※6.7	△5.5		外面口縁部～胴部ナデ。胴部斜め・横方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（0.5～1mmの砂粒をまばらに含む）	良好	にぶい黄色	にぶい黄色	外面胴部に黒ふスス付着。	山本分80
S I 2 4 9	Po368	2529	堀跡上層	土師器	小型丸底鉢	※9.2	△6.7	※9.8	外面口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ後斜方向細かいミガキ。胴部ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。底部指圧痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		附子47
S I 2 4 9	Po369	2892 2906	堀跡上層	土師器	小型丸底鉢	※7.9	8.5	9.7	外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部上半右、下半左方向のケズリ。底部ナデ。指圧痕が残る。	密（1mm以下の砂粒を多く含む）	良好	浅黄色	浅黄色	外面胴部中位以下スス付着。	未山13
S I 2 4 9	Po370	2852	堀跡上層	土師器	小型丸底鉢	※6.0	△5.0	※9.0	外端ナデ。ハケ目がかすかに残る。口縁部ミガキあり。内面口縁部ナデ。胴部左斜め上方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を多く含む）	良好	にぶい黄色	にぶい黄色		山本分84
S I 2 4 9	Po371	3584	床面	土師器	小型丸底鉢		△5.9	※9.3	外端ナデ。口縁部ヨコナデ。以下斜方向ハケ目。内面胴部右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（砂粒を多く含む）	良好	橙色	橙色	胎土分析。	野尾56
S I 2 4 9	Po372	2680	堀跡上層	土師器	鉢	14.1	4.7		外面口縁部ヨコナデ。底部ハケ目。内面ナデ。口縁部縦も斜面文。中位断続的な沈線。	密	良好	橙色	橙色	底部外面スス付着。	未山23
S I 2 4 9	Po373	3660	床面	土師器	鉢	※14.4	5.3		外面ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。体部ミガキ。	密（2～3mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		野尾38
S I 2 4 9	Po374	3538	床面	土師器	鉢	12.7	4.1		外面口縁部縦かいナデハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。	密	良好	橙色	橙色		中尾11
S I 2 4 9	Po375	2855	堀跡上層	土師器	鉢	※13.8	△4.1		外面横ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。底部ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	浅橙色	外面底面スス付着。	野尾39
S I 2 4 9	Po376	2690	堀跡上層	土師器	鉢	※14.4	△5.5		外面横ハケ又は。内面ハケ目。	密（1～2mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	明茶褐色	外面底面黒褐色。	野尾40
S I 2 4 9	Po377	2855 2944	堀跡上層	土師器	鉢	※13.0	4.4		外面口縁部ヨコナデ。底部指押さえ後ナデ。内面ナデ後ナデ。	密（1～3mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	明茶褐色	口縁部内面黒褐色。	野尾42
S I 2 4 9	Po378	3604	床面	土師器	鉢	※13.2	4.3		外面口縁部ヨコナデ。底部粗いハケ目。内面口縁部ヨコナデ。底部ハケ目。	密（1～3mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		野尾41
S I 2 4 9	Po379	2583 2879	堀跡上層	土師器	鉢	※13.1	△4.5		外面口縁部ヨコナデ。底部ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。底部ケズリ後ナデ。	密（砂粒をわずかに含む）	良好	橙色	橙色	底部外面黒褐色。	野尾36
S I 2 4 9	Po380	2870	堀跡上層	土製品	土玉	最大径 2.3	穴径 0.5	重さ 12.6g	平粒土成形後ナデ。	密	良好		オリーブ黒色	黒斑有り。	牧本4
S I 2 4 9	Po381	2699 2844 2891 2892 2906 3589 3594	堀跡上層～床面	土師器	鉢		△38.8		※29.2 外面体部縦方向のハケ目。把手・突帯ナデ。把手以下～胴ヨコナデ。胴部底部・右方向のケズリ。指圧痕が残る。底口部ヨコナデ。	密（2～3mmの砂粒を含む）	良好	赤褐色	赤褐色	底土を多くけりそ把手を後付。突帯2/3以上欠損。	野尾37
2 O S K 6	Po382	2826 2827 2860	堀跡中	土師器	壺	※16.8	△13.6	※24.8	外面口縁部ヨコナデ。胴横ハケ目後ヨコナデ。胴部横・斜め方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴横ナデ。胴部上半右・下半左方向の上方向のケズリ。	密（1～3mm以下の砂粒を多く含む）	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	外面胴部黒ふスス付着。	福田09 8
2 O S K 6	Po383	2850	張跡中	土師器	壺	※17.6	△11.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコナデ。一部ハケ目が残る。内面口縁部ヨコナデ。胴部～胴部横ナデ。胴部右・左斜めの上方向のケズリ。	密	良好	灰白色	灰白色	外面一部少量スス付着。口縁部黒褐色。	中尾7
2 O S K 6	Po384	2859	堀跡中	土師器	壺	※15.6	△11.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部縦ホハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部右方向のケズリ後ナデ。胴部指頭圧痕が残る。	密（1mmの砂粒を含む）	良好	橙色	明黄褐色	外面一部にスス付着。	山本くぬ5
2 O S K 6	Po385	2860	堀跡中	土師器	壺	※15.2	△11.1	※19.1	外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ。胴部横・斜め方向の粗いハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部おもに右方向のやや下寄をケズリ。	密（3mm程度の石英・砂粒を含む）	良好	浅黄色	灰褐色	外面全体に多量にスス付着。	松本2
2 O S K 6	Po386	2850	堀跡中	土師器	壺	※19.2	△5.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部右方向のケズリ。胴部右方向のやや下寄をケズリ。	密（砂粒を多く含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		山本くぬ4
2 O S K 6	Po387	2858	堀跡中	土師器	壺	※14.0	△16.2	※19.7	外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。胴部おもに横・ヨコハケ後～ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。指頭圧痕。胴部右方向の強をケズリ。指頭圧痕が残る。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	橙色	明黄褐色	口縁部黒褐色。スス付着。	山本くぬ8
2 O S K 6	Po388	2828	堀跡中	土師器	壺	※14.0	△17.7	※19.2	外面口縁部ヨコナデ。胴部横・ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。指頭圧痕。胴部おもに右方向ケズリ強をケズリ。指頭圧痕。	密（1～3mmの石英を多量に含む。3mm大の石英も含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	内面一部にほみなり。スス付着。	山本くぬ9
2 O S K 6	Po389	2895	堀跡中	土師器	壺	※15.3	△17.7	※17.4	外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後斜横・胴部下半はナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部上半右、下半左方向の強をケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面胴部中位にスス付着。	山本くぬ7
2 O S K 6	Po390	2791 2860	堀跡中	土師器	壺	※15.8	△10.7		外面口縁部ヨコナデ。胴部横・斜め方向のやや細いハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部上半右、下半上方向の強をケズリ。	密（1mm大の石英・砂粒を多量に含む）	良好	赤褐～褐色	赤褐～褐色	外面全体にスス付着。	山本くぬ10

挿表36　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(3)

2OSK6	Po261	2702	2849	堆砂中	土師器	甕	※14.0	△9.2			外面口縁部ヨコナデ、胴部縦・ヨコハケ後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ、粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部おちに右方向のケズリ。	密（1～2mm の砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	外面口縁部、胴部の一部にスス付着。	山本図6
2OSK6	Po292	2896	堆砂中	土師器	高杯	16.4	12.3	11.3		外面口縁部横方向ナデ後粗いミガキ。杯底部～脚ハケ目後ミガキ。脚部ナデ。内面口縁部ナデ。杯底部ハケ目後ナデ。脚部ハケ目後ナデ。脚部内面ケズリ。杯底部ケズリ後ナデ。3方向円孔透かし。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	橙色		福岡図3
2OSK6	Po383	2860	堆砂中	土師器	高杯	※15.8	△5.7			内外面とも丁寧な後ナデ・縦方向のミガキ。一部ハケ目がかすかに残る。	密	良好	橙色	橙色	橙色		中原9
2OSK6	Po394	2790	堆砂中	土師器	高杯	※16.3	△5.7			外面口縁部上半ハケ目後横方向ナデ。以下ハケ目後横方向の縦をミガキ。内面口縁部ハケ目後縦又状の縦をミガキ。杯底部ミガキ・ナデか。	密	良好	橙色	橙色	橙色	一部黒変者あり。内面杯底部炭化とみる。調査所の調査中明確。	中原8
2OSK6	Po395	2859	2860	堆砂中	土師器	高杯	※12.7	△5.0		外面口縁部ハケ目後ナデ。杯底部ミガキ。内面ナデ後ミガキ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	橙色		福岡図7
2OSK6	Po396	2808	堆砂中	土師器	高杯		△6.2		※15.7	外面脚部ハケ目後縦方向のミガキ。杯底風化のため調査不明確。ナデか。内面脚部ケズリ後ナデ。裾部ハケ目後ナデ。3方向円孔透かし。	密（1～2mm の砂粒を含む）	良好	淡橙色	淡橙色	淡橙色		福岡図9
2OSK6	Po397	3453	床面	土師器	甕	11.0	11.0	11.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半ハケ目後ナデ、下半比較的丁寧なナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部ハケ目後ナデ。中位には右方向のケズリがみられる。底部付近に断面に焼が残る。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	黄褐色	黄褐色	黄褐色	外面全体にスス付着。	松本8
2OSK6	Po398	2858	堆砂中	土師器	小型丸底壺	※8.3	△7.4	※9.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部横いハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半左方向ケズリ。下半ナデ後ナデ。指圧痕あ。	密	良好	明黄褐色	黄褐色	内外面とも明黄褐色	内外面とも全体にスス付着。内面に亀裂有り。	山本図11
2OSK6	Po399	2897	堆砂中	土師器	鉢形器台	※15.6	△7.8			外面脚方向ナデ後縦方向ミガキ。鍔部ナデ。内面受部縦方向のミガキ。筒部ナデ。脚部右方向のやや丁寧なケズリ。	密（2mm程度の石英・砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	橙色	外面受部部分炭。	松本3
2OSK6	Po400	2835	堆砂中	土師器	鉢形器台		△9.2		※18.4	外面ヨコナデ。内面受部丁寧なナデ。筒部ナデ。脚部上半右方向のケズリ。下半後方向のナデ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	淡橙色	淡橙色	淡橙色	外面一部黒変。	福岡図6
S1251	Po403	2534	堆砂下層	土師器	甕	※24.7	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後横方向のナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後ハケ目。	密（砂粒を含む）	良好	明褐色	黄褐色	内外面とも一部にスス付着。内面に亀裂有り。	内外面とも全体にスス付着。	山本図30
S1251	Po402	1743	堆砂中	土師器	甕	※16.8	△10.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部やや雑な右方向のケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	内外面とも一部に黒変。一部にスス付着。	内外面とも一部にスス付着。	山本図19
S1251	Po403	1743	堆砂中	土師器	甕	※15.8	△10.6			外面口縁部ヨコナデ。胴部縦・ヨコハケ後おちに雑な方向のナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部～肩部工具によるナデ。胴部右方向のケズリ。	密（1～2mm程度の石英・砂粒を多く含む）	良好	明黄褐色	しぶい橙色	外面頸部～口縁部の一部にスス付着。	外面頸部～口縁部の一部にスス付着。	山本図26
S1251	Po404	1743	堆砂中	土師器	壺	※18.3	△6.4			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のやや丁寧なケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	明黄褐色	口縁部の一部黒変。	山本図23
S1251	Po405	1633	堆砂中	土師器	壺	※14.8	△5.7			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密（0.5～1mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙～明黄褐色	しぶい橙～明黄褐色	しぶい橙～明黄褐色	外面口縁部にスス付着。	山本図24
S1251	Po406	1743	堆砂中	土師器	甕	※15.2	△5.0			外面口縁部ヨコナデ。頸部縦方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい橙色	しぶい橙色	しぶい橙色		山本図29
S1251	Po407	1743	堆砂中	土師器	甕	※15.8	△4.5			内外面とも口縁部ヨコナデ。内面頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	淡黄色		山本図22
S1251	Po408	2236	堆砂上層	土師器	甕	※17.4	△12.7	※22.6		外面頸部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。胴突文あり。胴部おちに雑なヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右・右斜め上方向のケズリ。	密（1～4mmの石英、1～2mm砂粒を多く含む）	良好	淡黄色	淡黄色	明～黄褐色	外面頸部にスス付着。内面一部にスス付着。	山本図26
S1251	Po409	2332	堆砂下層	土師器	甕	※14.6	△7.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部おちに横方向のナデ。上位風化。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おちに右方向のケズリ。	密（0.5～1mmの砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	明黄褐色	口縁部～胴部一部に黒変有り。	山本図27
S1251	Po410	2331	堆砂下層	土師器	甕	※13.8	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部縦・横方向の細かいハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おちに右方向のやや丁寧なケズリ。	密（1～2mm程度の石英、3mm大の砂粒を含む）	良好	淡黄～黄褐色	淡黄色	外面全体と一部黒変。	外面全体にスス付着。内面風化有り。	山本図20
S1251	Po411	1743	堆砂中	土師器	甕	※14.2	△7.1			外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部工具によるナデ。胴部おちに右方向のケズリ。	密	良好	明褐色	明褐色	外面全体と一部黒変。	外面全体にスス付着。	山本図25
S1251	Po412	1633	堆砂中	土師器	甕	※13.4	△5.2			外面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部風化顕著。右方向のケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	明褐色	明褐色	明褐色	外面と一部にスス付着。	山本図31
S1251	Po413	2800	堆砂中	土師器	甕	※14.8	△7.0			外面口縁部ヨコナデ。頸部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部やや雑な右方向のケズリ後一部ナデ。	密	良好	黄褐～淡橙色	淡黄褐色	明褐色	外面口縁部にスス付着。内面一部にスス付着。黒変。	山本図21
S1251	Po414	2335	堆砂上層	土師器	高杯	※16.7	△4.8			外面脚方向のケズリ。杯底部に八ケ目が残る。裾部近辺右方向方向のケズリ後ミガキ。内面脚方向ケズリ。杯底部風化。裾の方向不明確。ミガキがみられる。	密（1～3mmの石英、砂粒を多く含む。4mmの砂礫あり）	良好	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	外面裾部に炭化物。	山本図34
S1251	Po415	1743	堆砂中	土師器	高口壺	※11.0	△8.0			外面口縁部ナデ後横いミガキ。胴部ハケ目後おちに右方向のナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部左右両方向からの雑なケズリ。	密	良好	黄褐～淡橙色	黄褐～淡橙色	黄褐色	口縁部黒変有り。	山本図32
S1251	Po416	1743	1745	堆砂中	土師器	低脚杯		△3.4		※7.0	外面杯部ハケ目後ナデ。脚部ナデ。内面杯部ハケ目後ナデ。ミガキ。脚部ナデ。	密（砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色		山本図35
S1251	Po417	1633	2800	堆砂中	土師器	低脚杯		△4.7		※5.3	外面杯部ハケ目後縦ケズリ。脚部ナデ。筒部圧痕がある。内面杯部ナデ後ミガキ。杯底部圧痕有り。脚部ナデ。接地部分風化のため不明確。	密	良好	明赤褐～黄褐色	明赤褐色	明赤褐色	脚部内面ヘラ記号有り。接地部分風化部分黒変。	山本図33
S1252	Po418	2342	2541	堆砂上層	土師器	壺	※20.0	△19.4	※26.8	外面口縁部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部以下右斜め上方向のケズリ。	密	良好	橙色	橙色	橙色	外面口縁～胴部スス付着。	中原1

挿表37　長瀬高浜遺跡出土土器観察表04

SI252	Po419	617 2345 2352 3249~2621 3249~2618	堆穴上層	土師器	壺	東	※32.7	△10.6			内面ハケ目ヨコナデ。刷毛痕一縦方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ、一部ハケ目・指頭圧痕が残る。頸部左右両方向のケズリ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	口縁端部強く反る。	福岡の4
SI252	Po420	2832	堆穴中	土師器	壺	東	※13.4	△13.7	東19.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ、工具による刻み目。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（3mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面胴部に刷毛痕。	福岡の33
SI252	Po421	2772	堆穴上層	土師器	壺	東	※14.4	△10.7			外面口縁部ヨコナデ。胴部ホに3ヨコハケ後ナデ。胴部工具による刻み目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（1～2mm の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面全体にスス付着。	福岡の34
SI252	Po422	2370 2857	堆穴下層	十師器	壺	東	※21.6	△9.3			外面口縁部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部左右両方向のケズリ。	密（5mm程度の石、2～3mm の砂粒を含む）	良好	明灰黄色	灰黄色		松本1
SI252	Po423	2857	堆穴下層	上師器	壺	東	※14.1	△9.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部横・斜めの方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目状工具による左斜めの方向のケズリ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面全体にスス付着。	福岡の28
SI252	Po424	2588	堆穴下層	土師器	壺	東	※17.4	△7.1			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ、ハケ目状工具による斜状文。内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部左方向のケズリ。	密	良好	淡橙色	にぶい橙色	外面胴部にわずかにススが付着。	中原22
SI252	Po425	3621	床 面	十師器	壺	東	※12.4	15.1	※14.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後横方向ナデ。胴部上半粗いヨコハケ。下半細い縦方向ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半左方向のケズリ。指頭圧痕。下半左斜め上方向のケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面口縁部・胴部にスス付着。胴部上半部。	山本43
SI252	Po426	3621	床 面	土師器	壺	東	※12.4	14.2	※14.0		外面口縁部一頸部ヨコナデ。胴部上半上にヨコハケ。下半不規則方向のナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部縦方向のケズリ。胴部上半右方向。下半左斜め上方向のケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面全体にスス付着。内面胴部に一部スス付着。内面に粘土痕がみられる。	中原2
SI252	Po427	2371 2539	堆穴下層	土師器	壺	東	※14.6	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。下半底有り。胴部頸部のヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。指頭圧痕が残る。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面全体にスス付着。	中原17
SI252	Po428	1702	堆穴上層	十師器	壺	東	※14.0	△5.6			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	口縁部スス痕有り。	中原25
SI252	Po429	1710	堆穴上層	十師器	壺	東	※17.0	△22.0	※25.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半横一縦方向の粗いハケ目。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向。下半不規則方向のケズリ。胴部・底部に成形時の指頭圧痕が残る。	密（4mm大の砂粒、1mm以下の砂粒を多く含む）	良好	灰オリーブ色	黄褐色	外面全体にスス付着。内面口縁部に粘土つなぎ点がみられる。	松本5
SI252	Po430	1699	堆穴下層	土師器	壺	東	※15.4	△10.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後ナデ。胴部に斜方文あり。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。指頭圧痕が残る。	密（3mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄色	にぶい黄色		本山7
SI252	Po431	1704	堆穴下層	土師器	壺	東	※14.0	△8.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデか。胴部1条の沈線による波状文あり。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後ナデ。	密	良好	橙色	橙色	外面全体に多量のスス付着のため、調査不明瞭。	中原24
SI252	Po432	2458	堆穴上層	土師器	壺	東	※11.6	△11.1	※15.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコハケ後ナデ。以下縦からハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（1～2mm の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面胴部にスス付着。	福岡の25
SI252	Po433	2450	堆穴上層	土師器	壺	東	※12.5	△8.7			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ナデ。胴部に工具による刻目文帯あり。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部ケズリ後ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（1～2mm の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色		塩田の27
SI252	Po434	2461	堆穴下層	土師器	壺	東	※15.3	△5.4			外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（1～3mm の砂粒を多く含む）	良好	橙色	橙色	外面全体にスス付着。	福岡の23
SI252	Po435	1700	堆穴上層	土師器	壺	東	※14.4	△7.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部横・縦ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（1～2mm の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部風化進有り。	福岡の29
SI252	Po436	2455 2857	堆穴下層	十師器	壺	東	※11.9	△10.9	※14.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部縦、頸部横・斜め方向の粗いハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部上半右方向。下半左斜め上方向のケズリ。胴部下半に指頭圧痕がみられる。	密（1mm程度の砂粒を含む）	やや良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面全体にスス付着。内面胴部風化。	塩田の31
SI252	Po437	2451 2541 2802	堆穴下層	上師器	高杯	東	※14.6	12.4		※10.6	外面杯部一筋稜状方向の粗かいミガキ。杯底部一筋状に工具によるハケ目が残る。脚柱下端ヨコナデ。内面杯部ヨコ・タテ位置揃ミガキ。脚柱左方向の工具ケズリ後ナデ。接続ハケ目後ナデ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	内面脚柱部ハケ目粗い。	塩田の1
SI252	Po438	2344	堆穴上層	上師器	高杯		15.0	13.4		11.2	外面杯部縦方向の工具痕有り。脚部上端タテミガキ。脚柱部縦方向ハケ目後横方向の強くミガキ。脚部ナデ。内面ヨコ・タテ方向ミガキ。脚部ハケ目後ヨコ・タテ方向ミガキ。指頭圧痕が残る。	密	良好	橙色	橙色	杯部内面に絞り目に銅鏡。	中原3
SI252	Po439	2866 2857	堆穴下層	上師器	高杯		※16.9	△5.8			外面横方向のナデ後縦方向のミガキ。内面横方向のナデ後縦方向のミガキ。	密（1～2mm の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		塩田の35
SI252	Po440	2857	堆穴下層	上師器	高杯		※16.4	△5.3			外面口縁部縦ハケ目後横方向のナデ。以下縦方向の縦ミガキ。内面横方向のナデ後縦方向のミガキ。	密（1mm以下の砂粒を多く含む）	良好	橙色	淡黄褐色	黒斑有り。	中原18
SI252	Po441	2343	堆穴上層	上師器	高杯			△9.4		11.8	外面横方向ナデ。内面縦方向ケズリ。脚部ハケ目後ナデ。	密	良好	灰白色	灰白色		中原23
SI252	Po442	2351	堆穴上層	上師器	鉢形器台			△8.2		※16.7	外面口ナデ。内面受部「寒なナデ。脚部左方向のケズリ。端部ヨコナデ。	密（1mm以下の砂粒を多く含む）	良好	淡黄色	淡黄色		山本41
SI252	Po443	2348	堆穴上層	上師器	鉢形器台			△7.6		※15.3	外面口ナデ。内面受部ヨコナデ。脚部右斜めの方向ケズリ後ナデ。端部ヨコナデ。	密（1mm大の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		中原20
SI252	Po444	2789	堆穴上層	上師器	小型器台	東	※9.4	△3.2			外面縦方向の強かいミガキ。内面横方向のナデ。「寒なミガキ。ハケ目がわずかに残る。	密	良好	橙色	橙色	胎土分析。	中原19
SI252	Po445	2537	堆穴下層	十師器	鉢脚部			△2.4		※5.8	外面形態方向のミガキ。脚部ヨコナデ。内面杯部「寒なミガキ。脚部ナデ。	密（1～2mm の砂粒を含む）	良好	淡橙色	淡橙色		塩田の2

挿表38　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(15)

S I 2 5 2	Po446	2350	堀砂上層	土師器	小型丸底鉢	9.8	7.9	8.3		外面口縁部ナデ。胴部上半縦方向のハケ目。中段部にヨコナデ。以下ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。縦ハケ目が上部まで残る。胴部左方向の「事な」ケズリ。底部指圧痕後ナデ。	密	やや良	普色	橙色	外面全体スス付着。内外面とも一部黒色味帯物がみられる。	中底21
S I 2 5 2	Po447	2207 2366 2802	堀砂中	土師器	小型丸底壺	※8.6	8.3	※10.1		外面口縁部ナデ。胴部上半縦方向のハケ目。中段部にヨコナデ。以下ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部縦方向ケズリ。底部ナデ。指圧痕。	密	良好	にぶい橙色	橙色	外面全体スス付着。内面胴部中位スス付着。	稲田の34
S I 2 5 2	Po448	2457 2540	堀砂上層	土師器	小型丸底壺	※8.1	△7.2	※9.8		外面口縁部ナデ。胴部ハケ目後ナデ。胴部不定方向のハケ目。内面口縁部～胴部ナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	胴部下位スス黒変有り。	稲田の35
S I 2 5 2	Po449	2465 2540	堀砂上層	土師器	小型丸底壺	※7.8	△10.8	※10.0		外面口縁部～胴部ナデ後横方向の縦ミガキ。胴部ハケ目。内面口縁部縦方向のミガキ。胴部ナデ。指圧痕が残る。以下不定方向のケズリ。以下やや下ナデ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	外面全体スス付着。内面口縁部～胴部下位スス付着。	鉢本4
S I 2 5 0	Po430	2172 2173	堀砂下層	土師器	壺	※19.7	△20.4	※28.3		外面口縁部～頸部ヨコナデ。肩部以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。頸部指頭圧痕。以下右方向ケズリ。	密	やや不良	淡黄色	淡黄色		野崎56
S I 2 5 0	Po431	2181	堀砂中	土師器	壺	※19.7	△10.4			外面口縁部ヨコナデ。頸部沈線を挟んでハケ状に赤ムラ。胴部ナデ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密（微砂含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		野崎44
S I 2 5 0	Po432	2157	堀砂下層	土師器	壺	※18.4	△9.3			外面ヨコナデ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。頸部指頭圧痕。肩部以下右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		山本35
S I 2 5 0	Po433	2202	堀砂下層	土師器	壺	※17.0	△7.4			外面底とも口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。内面頸部指ナデ痕が残る。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		本法40
S I 2 5 0	Po434	2196	堀砂下層	土師器	壺	※16.7	△7.5			内外面ヨコナデ。	密	良好	淡黄色	淡黄橙色		稲田の52
S I 2 5 0	Po435	1632 1820	堀砂中	土師器	壺		△10.0			外面頸部ヨコナデ。胴部羽状文。以下縦かいヨコハケ。内面頸部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密（1～5mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	胴部外面スス付着。	山本45
S I 2 5 0	Po436	2299	P 1 内	土師器	壺	※20.3	△8.5			外面ヨコナデ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。頸部指頭圧痕。肩部以下左方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色		山本36
S I 2 5 0	Po437	2065	堀砂中	土師器	小型壺	※12.9	△5.9			外面ヨコナデ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。肩部以下ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		稲田の35
S I 2 5 0	Po438	2199	堀砂下層	土師器	壺	※25.0	△7.0			内外面ともにヨコナデ。口唇部凹線。	密	良好	にぶい黄橙色	黄橙色		山本50
S I 2 5 0	Po439	2171	堀砂下層	土師器	壺	※22.3	△29.6	※28.1		外面口縁部ヨコナデ。肩部～胴タテ後ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部胴由部指頭圧痕。以下右方向ケズリ。	密（砂粒をわずかに含む）	良好	淡黄色	淡黄色	外面スス付着。	野崎62
S I 2 5 0	Po440	2171	堀砂下層	土師器	壺	※22.0	△13.9	※26.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部縦かいヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴上之位まで残有。頸部胴由部指頭圧痕。以下右方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面口縁部～胴部頸部スス付着。	野崎45
S I 2 5 0	Po441	1869 2179 2193	堀砂下層	上師器	壺	15.6	△19.7	21.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部4条平行沈線後其間横線による刺突文。胴部中位タテ後ヨコハケ。下位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～胴部中位右方向ケズリ。以下縦方向ケズリ。	密（砂粒をわずかに含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。胎土分析。	野崎50
S I 2 5 0	Po442	1531	堀砂中	土師器	甕	※15.2	△11.2			外面口縁部ヨコナデ。以下ヨコハケ後横刺文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	胴部外面スス付着。	山本43
S I 2 5 0	Po443	1680	堀砂上層	土師器	甕	※19.6	△8.3			外面口縁部ヨコナデ。肩部乱れた横状文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄色	黄色	口縁部外面スス付着。	稲田の55
S I 2 5 0	Po444	2131	堀砂下層	土師器	甕	※19.3	△7.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色		稲田※6
S I 2 5 0	Po445	1651	堀砂中	土師器	中型甕	※14.7	△18.0	※19.3		外面口縁部～胴部ヨコナデ。最大径付近縦かいタテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部屈曲部以下右方向ケズリ。胴部中位以下縦方向ケズリ。器壁厚い。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。胎土分析。	山本38
S I 2 5 0	Po466	2133	堀砂下層	土師器	甕	※19.1	△10.2			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ後ナデ。5条の代紋による横状文帯。内面口縁部ヨコナデ。強制ナデ。胴部右方向のケズリ。器壁ケズリ。	密	良好	にぶい黄色	にぶい黄色		米山44
S I 2 5 0	Po467	2180	堀砂下層	土師器	甕	※14.1	△11.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部以下タテ後ヨコハケ。其他横状による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄色	黄色	胴部外面スス付着。	山本43 37
S I 2 5 0	Po468	2036 2067 2170	堀砂下層	土師器	甕	※12.1	△11.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部6条平行沈線。以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。以下以下右方向ケズリ。	密（砂粒をごく少）。	良好	にぶい黄色	黄色	外面胴部頸部スス付。	野崎47
S I 2 5 0	Po469	2185	堀砂下層	土師器	甕	※13.9	△10.6			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向のケズリ。	密（微砂含む）	良好	にぶい黄橙色	橙色	外面スス付着。胎土分析。	野崎52
S I 2 5 0	Po470	1627 2017	堀砂上層	土師器	甕	※14.0	△10.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部以下長いタテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	山本40
S I 2 5 0	Po471	2204	堀砂下層	土師器	甕	※13.8	△9.9			外面口縁部ヨコナデ、工具痕が残る。頸部横いハケ目後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい橙色	外面胴部頸部スス付着。	本法43
S I 2 5 0	Po472	2140	堀砂下層	土師器	甕	※15.3	△9.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（2～3mm大の砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	胎土分析。	野崎54
S I 2 5 0	Po473	1632 1824	堀砂中	土師器	甕	※15.6	△9.1			外面口唇部円線。口縁部ヨコナデ。肩部以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	黄橙色		山本48
S I 2 5 0	Po474	2156	堀砂下層	土師器	甕	※15.9	△9.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。或秋天少横ムラ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄色	黄色		山本44
S I 2 5 0	Po475	2183	堀砂下層	土師器	甕	※18.0	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部縦杓状ハケ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色		新子30
S I 2 5 0	Po476	1807	堀砂上層	土師器	甕	※16.1	△6.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部工具による横方向のナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	黄橙色	外面一部スス付着。内面頸部スス付着。	本法41

挿表39　長潮高浜遺跡出土土器観察表⑩

S125	Po477	2188	堆砂下層	土師器	甕	底15.3	△8.5			外面口縁部ヨコナデ。胴部平行沈線後刺突文。以下粗いヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部横位部以下右方向ケズリ。	密	良好	淡黄色	灰黄色		山本分42
S125	Po478	2067	堆砂中	土師器	甕	底17.4	△5.6			外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	内面部外面スス付着	堀田中50
S125	Po479	1807	堆砂上層	土師器	甕	底18.0	△7.1			外面口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ後平行沈線。内面口縁部ヨコナデ。頸部横倉部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内面部外面スス付着	新子29
S125	Po480	2166	堆砂下層	土師器	甕	底16.8	△5.4			外面口縁部ヨコナデ。一部平行沈線。胴部平行沈線。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	内面部外面黒鉛塗布	堀田中48
S125	Po481	1661	堆砂上層	土師器	甕	底16.7	△5.2			外面口縁部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		堀田中51
S125	Po482	2200	堆砂下層	土師器	甕	底16.0	△5.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部直線状文有。内面口縁部ヨコナデ。頸部横位以下右方向ケズリ。	密	良好	黄橙色	黄橙色		山本139
S125	Po483	2204	堆砂下層	土師器	甕	底13.9	△7.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部タテ方向のケズリ後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		米山147
S125	Po484	1739	堆砂上層	土師器	甕	底15.4	△5.9			内外面ともロ縁部ヨコナデ。内面頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	口縁部外面黒化有り。	米山148
S125	Po485	1834	堆砂上層	土師器	甕	底15.5	△5.4			外面口縁部ヨコナデ。内面頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面上縁部一部スス付着。	不山142
S125	Po486	2018	堆砂上層	土師器	甕	底18.2	△5.3			外面口縁部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部横倉部以下右方向ケズリ。	密	良好	浅黄色	浅黄色		新子28
S125	Po487	2049	堆砂上層	土師器	甕	底16.0	△5.5			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部横倉部以下右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面スス付着。	堀田中47
S125	Po488	2132	堆砂下層	土師器	小型甕	10.6	13.9	13.2		外面口縁部一部ヨコナデ。中位付近ヨコハケ。下半部タテハケ。底部ナデ。内面口縁部強いヨコナデ。頸部横倉部以下右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	橙色	橙色	頸部外面下半部以下スス付着。	野場51
S125	Po489	1820	堆砂中	土師器	小型甕	底13.0	△7.5			外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ後頁胴部にユビ押圧。内面口縁部ヨコナデ。頸部横倉部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。胴上半分ヨコ。	野場53
S125	Po490	2067	堆砂中	土師器	甕	底12.6	△5.0			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面スス付着。	堀田中49
S125	Po491	2067	堆砂中	土師器	小型甕	底13.0	△4.3			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部横倉部以下タテケズリ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	内面胴部一部有り。	山本分45
S125	Po492	2065	堆砂中	土師器	甕	底15.1	△10.7			外面口縁部ヨコナデ。頸部横いタテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部倉部以下右方向ケズリ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		山本分43
S125	Po493	1813	堆砂中	土師器	甕	底16.0	△4.5			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	米山136
S125	Po494	2065	堆砂中	土師器	甕	底12.9	△4.9			外面口縁部ヨコナデ。工具痕が残る。胴部ハケ目後ナデ。頸部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密（細砂粒に含む）	良好	浅黄色	浅黄色	胴部有り。	米山145
S125	Po495	1632	堆砂中	土師器	甕	底14.8	△8.6			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部指頭圧痕。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	橙色		福田中54
S125	Po496	2014	堆砂下層	土師器	甕	底11.2	△5.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部平行沈線。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	福田中53
S125	Po497	1740	堆砂中	土師器	甕	底12.9	△3.0			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部横向第タテ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	福田中58
S125	Po498	2184	堆砂下層	土師器	甕	底16.8	△7.3			外面口縁部ヨコナデ。胴部斜一ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部横倉部以下右方向ケズリ。	密（2～3mm程度の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	胴部外面スス付着。	山本分45
S125	Po499	1855	堆砂中	土師器	甕	底16.4	△5.2			外面口縁部ヨコナデ。胴部縦いっタテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部横倉部以下右方向ケズリ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	山本分41
S125	Po500	2194	堆砂下層	土師器	直口壺	底12.5	△9.4			外面口縁部縦方向ミガキ。胴部タテハケ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部横倉部以下右方向ケズリ。	密	良好	浅黄色	浅黄色		野場46
S125	Po501	1628	堆砂中	土師器	底口壺	底11.7	△8.1			外面口縁部縦方向ミガキ。内面ヨコナデ。内外面黄色ヨコナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		野場49
S125	Po502	2027	堆砂下層	土師器	底口壺	底10.5	△7.9			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		野場48
S125	Po503	1691 1837 2008 2011	堆砂上層	土師器	高杯	脚13.2	10.3		脚10.0	外面杯部縦方向ミガキ。脚部縦方向ケズリ後横方向ミガキ。脚部横方向ミガキ。内面杯部横方向ミガキ。脚部ナデ。脚部ケズリ。脚部ミガキ。脚部ヨコナデ。	密（2mm程度の砂粒を含む）	良好	赤橙色	赤橙色	脚部内面黒鉛有り。	堀田中39
S125	Po504	2023 2025	堆砂上層	土師器	高杯杯部	底20.8	△5.2			外面横いヨコナデ後ミガキ。内面ヨコハケ後ミガキ。	密（2mm以下の砂粒を多く含む）	良好	浅黄色	浅黄色	外面一部スス付着。	松本28
S125	Po505	2152	堆砂下層	土師器	高杯杯部	11.7	△5.5			外面杯部縦方向ミガキ。杯底部開発痕。脚部タテ方向ミガキ。内面杯部縦方向ミガキ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		野場58
S125	Po506	1675	堆砂中	土師器	高杯杯部	底22.0	△4.5			外面杯部縦方向ミガキ。杯底部ハケ目後ミガキ。内面縦方向ミガキ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		堀田中36
S125	Po507	1028 2189	堆砂下層	土師器	高杯	脚23.4	△7.0			外面口縁部縦方向ミガキ。脚部ヨコナデ。底部風化。脚部の拡方裏部不明瞭。内面口縁部横方向のミガキ。脚部ヨコナデ。底部ハケ目後ヨコミガキ。	密	良好	にぶい黄色	にぶい黄色	内面口縁部にスス付着。	米山151
S125	Po508	2009	堆砂上層	土師器	高杯	脚16.5	△5.1			外面ナデ後横方向のミガキ。工具痕有り。内面口縁部ナデ後横又状ミガキ。脚部ハケ目後ミガキ。杯底部丁寧なナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内面脚底。口縁端下半部黒鉛塗布。	米山150
S125	Po509	1883 2174 2204	堆砂下層	土師器	高杯杯部	脚23.0	△5.2			内外面ともに後後縦方向ミガキ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	口縁端内面黒鉛塗布。	山本分42
S125	Po510	1885 2067 2133 2139 2162	堆砂下層	土師器	高杯	脚13.4	10.8		脚20.6	外面口縁部ハケ目・ナデ後ミガキ。杯底部縦の方向ミガキ。接合部付近横方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。内面口縁部ナデ目状ミガキ。内面口縁部ハケ目後横又状ミガキ。杯底部ミガキ後ナデ。脚部右方向ケズリ。脚部ハケ目後ナデ。	密（1～3mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内面杯部、外面脚部スス付着。	米山152
S125	Po511	2167	堆砂下層	土師器	高杯杯部	脚11.3	△4.9			外面横方向ミガキ。風化著しい。内面ミガキ。風化著しい。	密（微砂含む）	良好	黄橙色	黄橙色	外面杯部スス付着。	松本23
S125	Po512	2186	堆砂下層	土師器	高杯		△6.1			外面杯部縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。内面ミガキ。脚部ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	脚上分約。	堀田中60
S125	Po513	1655	堆砂中	土師器	高杯杯部	脚14.3	△4.4			内外面ともに横方向ミガキ。外面剥離。内面底部剥離。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	橙色	外面スス付着。	米山51

挿表40　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(17)

S I 2 5 0	Po514	2192	堆砂下層	土師器	高杯脚部		△7.7		※11.7	外面横ナデ ナハケ。杯部接合 ヨコナデ。内面剥落ケツリ。脚部ハケ目後ナデ。	密（ごまかに砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色			野崎59
S I 2 5 0	Po515	2043	堆砂上層	土師器	高杯脚部		△7.6		11.5	外面指頭ナデ ナデ後縦方向ミガキ。脚部ハケ目。内面剥落ケツリ。脚部斜方向ハケ目。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	黄褐色	黄褐色	黄褐色	内黒。一部部内黒。清水しもてー成 におたって施される。	福田40
S I 2 5 0	Po516	2015	堆砂上層	土師器	高杯脚部		△8.0		12.8	外面縦方向ミガキ。一部横方向ミガキ。内面指頭ナデ。脚部ケズリ。脚部ケズリ後ナデ。	密（微砂多く含む）	良好	灰黄色	淡黄色	淡黄色	脚部と杯部内面に指かしを。	松本27
S I 2 5 0	Po517	2136 2147 2154	堆砂下層	土師器	鼓形器台	20.7	12.3		19.7	外面ヨコナデ。内面受部ミガキ。脚部ケズリ。	密（微砂粒をわずかに含む）	良好	淡黄色	淡黄色			野崎68
S I 2 5 0	Po518	2137	堆砂下層	土師器	鼓形器台	19.6	11.7		※18.8	外面ヨコナデ。内面口縁部横方向ミガキ。受部ケズリ後ミガキ。脚部ケズリ。	密（3mm以下の石英・砂粒を含む）	良好	明黄褐色	黄褐色	脚土分明。		松本22
S I 2 5 0	Po519	2169	堆砂下層	土師器	鼓形器台 受部	※19.4	△7.6			外面ヨコナデ。内面左方向ケズリ後ナデ。脚部ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄色	にぶい黄色			山本D39
S I 2 5 0	Po520	1823 2067	堆砂上層	土師器	鼓形器台	※20.0	△8.0			外面受部ヨコナデ。内面受部ミガキ。脚部ケズリ。	密	良好	黄褐色	黄褐色			脚子32
S I 2 5 0	Po521	1885	堆砂中	土師器	鼓形器台 受部	※20.4	△6.7			外面受部ヨコナデ。内面受部丁寧なミガキ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	浅黄色	浅黄色			脚子31
S I 2 5 0	Po522	1810	堆砂上層	土師器	鼓形器台		△5.3		18.2	外面剥落ケツリ。内面剥落ケツリ。受部ケズリ後ミガキ。	密（2mm程度の石英を多く含む）	良好	淡黄色	淡黄色	淡黄色		脚子34
S I 2 5 0	Po523	1838 2004	堆砂上層	土師器	鼓形器台		△5.1		※20.2	外面剥落ケツリ。内面剥落ケツリ。	密（2mm程度の石英を多く含む）	良好	浅黄色	浅黄色			脚子33
S I 2 5 0	Po524	2005	堆砂上層	土師器	鼓形器台		△5.0		※17.6	外面ヨコナデ。内面受部ミガキ。脚部右方向の鋭なケズリ。脚端部ヨコナデ。	密	良好	浅黄色	淡黄色			末山46
S I 2 5 0	Po525	1832 2065 2141	堆砂下層	土師器	低脚杯	※18.2	5.7		5.8	外面杯部口縁部ヨコナデ。中位ヨコナデ後縦方向ミガキ。底部ナデ ナハケ後ナデ。内面口縁部縦方向ミガキ。底部制離のため微粗ケズリ。	密（5mm以下の砂粒を含む）	良好	鈍い黄色	鈍い黄色	不定部内黒風斑有り。		松本24
S I 2 5 0	Po526	1627 1667	堆砂中	土師器	低脚杯	18.1	5.1		※5.5	外面杯部ハケ目後ミガキ。脚部ヨコナデ。内面丁寧なミガキ。脚部ヨコナデ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	口縁部内黒。		野崎65
S I 2 5 0	Po527	1828	堆砂上層	土師器	低脚杯	※19.3	4.8		※5.5	外面杯部ミガキ。脚部ヨコナデ。内面丁寧なミガキ。脚部ヨコナデ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	淡黄色	黄褐色	不定部内黒風斑有り。		福田37
S I 2 5 0	Po528	2065 2138	堆砂下層	土師器	低脚杯	※19.4	△5.5		5.4	外面杯部ナデハケ。脚部ナデ。内面杯部風化のため調整不明。ミガキか。脚部ナデ。	密（微砂を含む）	良好	黄褐色	黄褐色			松本30
S I 2 5 0	Po529	2298	P 1 内	土師器	小型器台	※9.6	△9.6			外面受部ヨコナデ。脚部縦方向ケズリ後ナデハケ。内面受部ヨコナデ。風化著しい。脚部ケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	にぶい黄色	にぶい褐色			野崎56
S I 2 5 0	Po530	1804	堆砂上層	土師器	小型器台 受部	※12.1	△2.9			外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。底部ハケ目。内面斜方向ハケ目後縦方向ミガキ。脚部ハケ目。	密	良好	にぶい黄色	淡黄色	淡黄色		野崎64
S I 2 5 0	Po531	1627	堆砂中	土師器	小型器台 受部	※10.3	△2.1			外面受部縦方向ミガキ。内面口縁部横方向ミガキ。底部風化著しい。	密（微砂粒をわずかに含む）	良好	褐色	にぶい黄褐色			野崎63
S I 2 5 0	Po532	2065	堆砂中	土師器	小型丸底鉢	※14.0	△4.3			外面風化のため調整不明。内面方向ミガキ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	褐色	浅黄褐色	外面黒斑	有り。	福田9
S I 2 5 0	Po533	2042	堆砂上層	土師器	小型丸底鉢	※7.2	△5.2			外面口縁部一部横方向ミガキ。内面口縁部縦方向ミガキ。胴部ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を多く含む）	良好	淡黄褐色	明黄褐色	内黒斑		松本26
S I 2 5 0	Po534	1627	堆砂中	土師器	小型丸底鉢	※9.2	△6.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	にぶい黄色	にぶい淡黄色	淡黄色	粘土分明。	松本29
S I 2 5 0	Po535	680	堆砂上層	土師器	小型丸底鉢	△8.2	※6.1			外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部不定方向のハケ目後一部ナデ。内面右方向のケズリ後やや丁寧なナデ。底部指頭圧痕残る。	密	良好	灰褐色	灰褐色	外面全体ススけ様。		末山55
S I 2 5 0	Po536	1623 1883 2067	堆砂下層	土師器	鉢	※12.6	4.6			外面ヨコナデ後ナデ。底部指頭圧痕有り。内面口縁部ヨコナデ。底部ハケ目。	密	良好	明褐色	にぶい黄褐色	外面黒斑ススけ様。		松本25
S I 2 5 0	Po537	2094 3019	堆砂中	土師器	壺	※19.2	△8.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ後ヨコナデ。内面口縁部一部ヨコナデ。胴部シボリ目残る。頂部ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	口縁部外面ススけ様。		中島78
S I 2 5 0	Po538	3020	堆砂中	土師器	壺	※16.4	△7.2			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部指ナデ。	密	良好	にぶい黄色	にぶい橙色	外面口縁部黒斑有り。		中島73
S I 2 5 0	Po539	3011 3262 3381 3022	床 面	土師器	壺	※19.0	31.5	※28.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部縦、ヨコハケ後ナデ。頸部丁寧なナデ。胴部上半および底部ハケ目。下半ケズリ。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右、下半左斜めの方向のケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～4mmの砂粒を含む）	良好	褐色	褐色	一～4号外面黒斑多量にススけ様。	外面胴部に一部ススけ様。	福田66
S I 2 5 0	Po540	3631	床 面	土師器	壺	※22.4	△16.2			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。底部タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。	密（1mm大の砂粒を含む）	良好	淡褐色	淡褐色	口縁部内黒斑有り。		中島77
S I 2 5 0	Po541	3011 3068 3082 3083	堆砂下層	土師器	壺	※19.5	△23.5	※27.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ後ヨコナデ。頸部上半ヨコハケ後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右方向の丁寧なケズリ。下半左斜めの方向のケズリ。縦に走る筋。底部指頭圧痕。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄褐色	明褐色	外内面とも一部ススけ様。		福田64
S I 2 5 0	Po542	3627 3632 3635	床 面	土師器	壺	※14.2	24.0	21.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ後ミガキの平行沈線が走る。胴部ハケ目。底部付近ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半ケズリ後ミガキ。下半ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1mmの砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面胴部に手風化のため調整不明。胴部全体ススけ様。	外面胴部に一部ススけ様。	松本63
S I 2 5 0	Po543	3727	床 面	土師器	壺	※13.0	△11.4	※16.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ、斜交ヨコ、工具痕有り。胴部おもにヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部右方向のやや丁寧なケズリ後一部ナデ。	密（1mm程度、他にごまかに砂粒を多く含む）	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面胴部全体ススけ様。		中島46
S I 2 5 0	Po544	3703	堆砂中	土師器	壺	※16.6	△12.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後ナデ。頂部指頭による押圧痕有り。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向のやや丁寧なケズリ。	密（石英・砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色			松本58
S I 2 5 0	Po545	3066	堆砂中	土師器	壺	※14.6	△10.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部斜・ヨコハケ後ナデ。頂部指頭による押圧痕有り。内面口縁部ヨコナデ。胴部右・右斜め上方向のケズリ。底部指頭圧痕。	密（微砂粒をわずかに含む）	良好	淡黄色	黄色	外面胴部ススけ様。		松本54
S I 2 5 0	Po546	2975 3734	堆砂中	土師器	壺	※16.1	△10.3			外面口縁部ヨコナデ。胴部斜・ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄色	外面ススけ様。	内面ススけ様。		松本70
S I 2 5 0	Po547	3021	堆砂中	土師器	壺	※16.0	△5.7			外面口縁部ヨコナデ。口縁部下端工具痕。頸部ハケ目状工具痕が残る。胴部ハケ目有り。内面口縁部ヨコナデ。底部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	赤褐色	赤褐色	外面一部ススけ様。口縁部黒斑有り。		中島47

挿表41　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(8)

S I 2 5 3	Po548	3021	堆砂中	土師器	壺	※18.0	△6.15			外面口縁部ヨコナデ。頸部工具痕有り。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）白英を含む	良好	灰白色	灰白色	外面少量にスス付着	中原43
S I 2 5 3	Po549	3631	床 面	土師器	壺	※16.2	△8.5			外面口縁部ヨコナデ。頸部ヨコハケ後ナデ、胴突又有り。 内面口縁部ヨコナデ。頸長右・右斜め上方向のケズリ。	密（石英、砂粒を多く含む）	良好	浅黄色	浅黄色	外面全体にスス付着。 内面胴部スス付着。	松本56
S I 2 5 3	Po550	3159	堆砂下層	土師器	壺	※13.0	△7.0			外面口縁部ヨコナデ。頸部斜め方向のハケ目後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向のケズリ。	密（3mm以下の石英を多く含む）	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	松本52
S I 2 5 3	Po551	3072	堆砂下層	土師器	壺	※13.8	△7.5			外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ後縦な各の平行、北端、ハケ目がかすかに残る。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向のケズリ。	密（砂粒を わずかに含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。内面口縁部薄くスス付着。	松本53
S I 2 5 3	Po552	3011	堆砂中	土師器	壺	※11.2	△6.1			外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。ハケ目状工具痕がみられる。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色		中原43
S I 2 5 3	Po553	3269	堆砂下層	土師器	壺	※12.0	△4.2			外面口縁部ヨコナデ。北端状に工具痕がまれる。胴部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密	良好	灰白色 褐灰色	灰白色 一部褐	口縁部黒ずみ。	松本48
S I 2 5 3	Po554	3058	堆砂上層	土師器	壺	※14.2	△8.3			外面口縁部ヨコナデ。胴部横・縦方向のハケ目後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部右方向のケズリ。	密（2mm以下の石英を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面頸部スス付着。	松本68
S I 2 5 3	Po555	3734	堆砂中	土師器	鉢	※12.0	△1.8			内外面ともに口縁部ヨコナデ。	細密	良好	赤褐色	赤褐色		中原61
S I 2 5 3	Po556	3620	堆砂中	土師器	須恵器					外面胴部上半位了条のナデ。 内面ナデ。	やや密（1～3mm砂粒含む）	良好	橙色	橙色	外面少量スス付着。	福田の7
S I 2 5 3	Po557	3734	堆砂中	土師器	壺	※11.7	△7.1			外面口縁部～胴部おもに横方向の磨なナデ。胴部横いハケ目後ナデ。 内面口縁部～胴部縦なナデ。ハケ目状工具痕がかすかに残る。胴部右方向の縦なケズリ。	密（1～3mmの砂粒、石英 を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	中原74
S I 2 5 3	Po558	3134	堆砂中	土師器	鉢	※11.9	△7.9	※11.0		外面口縁部ヨコナデ後縦方向ミガキ。胴部ナデ。縦方向ハケ目がかすかに残る。 内面口縁部ヨコナデ。胴部左右斜方向からのケズリ。	密（砂粒粒 を わずかに含む）	良好	明褐色	明褐色	胴部スス付着。	松本61
S I 2 5 3	Po559	2975	堆砂中	土師器	高杯	※17.8	13.2		※9.6	外面口縁部ナデ。杯底部横いハケ目後ナデ。脚部縦方向ミガキ後ナデ。脚部ナデ。 内面杯部丁寧なナデ。脚部上半ボリ目、下半左方向のケズリ。脚部ハケ目後ナデ。	密	良好	橙色	橙色		中原71
S I 2 5 3	Po560	3623 3629	床 面	土師器	高杯		△11.8		11.4	外面杯部縦方向ミガキ。脚部横のナデ。脚部縦のいハケ目後ナデ。 内面杯部縦方向ミガキ。脚部ナデ。脚部ハケ目。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	脚部3方向に孔あり。	中原79
S I 2 5 3	Po561	2971	堆砂中	土師器	高杯	※15.9	10.1		※12.0	外面杯部縦方向の細かいミガキ。脚部縦方向のハケ目後軽い横方向のミガキ。 内面口縁部ナデ後縦方向のミガキ。杯底部胴部。脚部ケズリ後ナデ。端部ハケ目。	密（1～3mm砂粒を含む）	良好	淡色	淡色	脚部スス付着。	福岡の67
S I 2 5 3	Po562	3110	堆砂中	土師器	高杯不部	※16.4	△5.7			内外面ともに縦方向のナデ後加軽ハケ目。口縁部と杯底部の境界部に段をもつ。	（砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	一部スス付着。	松本64
S I 2 5 3	Po563	3734	堆砂中	土師器	高杯脚部	※21.5	△6.3			外面口縁部横方向のミガキ。杯底部縦かいミガキ。脚部縦方向ミガキ後ナデ。 内面口縁部丁寧なナデ。杯底部風化・剥落のため詳細不明。ナデ。	密（1～3mm砂粒を含む）	良好	灰黄褐色	橙色	内面脚部スス付着。	福田の71
S I 2 5 3	Po564	3093 3259 3633	床 面	土師器	高杯脚部	※17.5	△5.7			外面口縁部上半ナデ。下半横方向ミガキ。杯底部ハケ目後ナデ。 内面ナデ。ハケ目がわずかに残る。杯底部風化・剥落。	密（砂粒粒 を わずかに含む）	良好	淡黄色	淡黄色	杯部接合部付近風化。	松本53
S I 2 5 3	Po565	3080 3112 3156 3633	床 面	土師器	高杯不部	※20.4	△5.9			外面口縁部横の細かいミガキ。杯底部ハケ目後横いい横のミガキ。口縁部と杯底部の境界部に段をもつ。 内面口縁部横。底部ハケ目後ナデ。	密	良好	灰白色	灰白色		中原80
S I 2 5 3	Po566	3011	堆砂中	土師器	高杯	※10.0	△7.45			外面口縁部おもに横方向のナデ。杯底部ハケ目後ナデ。 内面口縁部おもに横方向のナデ。杯底部丁寧に残る。杯底部ハケ目。	密	良好	赤褐色	赤褐色	内外面とも一部スス付着。	中原44
S I 2 5 3	Po567	2972 2975	堆砂中	土師器	高杯不部		△7.5		※10.8	外面杯部縦ハケ目後軽丁寧ミガキ。胴部縦方向ミガキ。脚部ケズリ。円板部かいこまり。 内面杯部横ナデ。脚部上・左方向のケズリ。脚部ハケ目後ナデ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	胴部円形透かし孔6。円板部スス付着。	福田の66
S I 2 5 3	Po569	3634	床 面	土師器	高杯脚部		△7.5		※11.8	外面胴部ナデ。縦方向ナデ。脚部ハケ目後ナデ。 内面胴部ナデ。丁寧なケズリ。脚部ナデ。	密（砂粒粒 を含む）	良好	にぶい黄色	にぶい黄色		松本62
S I 2 5 3	Po570	3059 3261	堆砂下層	土師器	高杯脚部		△3.3		※19.0	外面ハケ目後縦なナデ。横方向軽いミガキ。 内面脚部ヒのケズリ。縦部ハケ目後ナデ。	密（砂粒粒 を多く含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	脚部円形透かし孔4。	松本69
S I 2 5 3	Po571	3099	堆砂下層	土師器	高杯脚部		△3.0		※19.4	外面分割ハケ目後軽方向の強いミガキ。 内面縦部上方向ケズリ。縦部ハケ目。端端部ヨコナデ。	密（砂粒粒 を わずかに含む）	良好	淡黄色	淡黄色	脚部円形透かし孔4。	松本65
S I 2 5 3	Po572	2993	堆砂中	土師器	鉢形器台	※18.8	9.9		17.0	外面ヨコナデ。 内面縦方向丁寧なミガキ。胴部一脚部右方向・斜め方向のケズリ。脚端部ヨコナデ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	受部・脚部接合部付近スス付着。 一方胴部上・右側下方向形透かし孔。	福田の69
S I 2 5 3	Po573	2994 2995	堆砂上層	上師器	鉢形器台	※17.5	9.0		※13.9	外面ヨコナデ。 内面受部端部縦のミガキ。以下胴部まで不ケズリ後軽なナデ。脚部縦なケズリ。端部ナデ。	密（3mm以下の石英、鉄粒粒を多く含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		松本55
S I 2 5 3	Po574	3065	堆砂上層	土師器	低脚杯	9.0	4.0		3.7	外面杯部縦かいハケ目後ナデ。端丸状の縦方向ミガキ。脚部ヨコナデ。 内面杯部放射状ハケ目後ナデ。縦方向のミガキ。杯底部ナデ。脚部ナデ。	密（砂粒粒 を わずかに含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色		松本57
S I 2 5 3	Po575	467 3019 3124 3224～3324	堆砂中	土師器	小型丸底鉢	※13.6	△4.1			外面口縁部ヨコナデ後強いヨコミガキ。以下ヨコミガキ。タタンがわずかに残る。 内面ナデ。縦方向の細かいミガキ。	密者（1mm程度の砂粒をわずかに含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色		中原72
S I 2 5 3	Po576	2975 2976 3021 3011	堆砂中	土師器	小型丸底鉢	※10.6	△5.2	※6.9		外面縦方向の細かいミガキ。 内面口縁部横方向ミガキ後縦丁状の斜め方向のミガキ。脚部丁寧なナデ。	密者（1mm程度の砂粒をわずかに含む）	良好	橙色	橙色	No. 2976 同一個体か。	福田の68
S I 2 5 3	Po577	3630	床 面	土師器	鉢脚杯		△2.6		※6.4	内外面とも杯部やや丁寧なミガキ。脚部ヨコナデ。	密（砂粒粒 を多く含む）	良好	黄橙色	黄橙色	内面黒化変質。	松本66
S I 2 5 4	Po578	3321 3522	堆砂上層	十師器	壺	18.0	32.8	27.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ後ハケ状工具による刺突文4か所。中位ヨコハケ。以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部一中位右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指痕残る。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。口縁部外面黒化。	野崎117

挿表42　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(9)

S I 2 5 4	Po579	3025 3086	堀修上層	上部器	壺	14.9	26.4	22.2		外面口縁部～肩部ヨコナデ、肩部縦突文。最大径付近ヨコハケ。以下斜～テタテハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部左方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部強調底痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。胎土分析。	米山104
S I 2 5 4	Po580	3326 3357 3470 3332	堀修上層	上部器	壺	※14.3	△25.4	※21.7		外面口縁部ヨコナデ、肩部タテ後ヨコハケ。中位以下縦方後タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部～中位左方向ケズリ。以下ヨコ方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	米山102
S I 2 5 4	Po581	3024 3025 3095	堀修上層	上部器	壺	※14.4	△23.4	※19.3		外面口縁部ヨコナデ、肩部タテ後ヨコハケ。中位以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部以下右方向ケズリ。底部付近調底痕。	密	良好	褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	米山99
S I 2 5 4	Po582	3638	堀修中	上部器	壺	※14.2	△22.3	※20.5		外面口縁部ヨコナデ、肩部ヨコハケ。中位以下斜方向ハケ。内面口縁部ヨコナデ、頸部縦曲部～中位右方向ケズリ。以下上方向ケズリ。底部付近調底痕。	密	良好	淡黄色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	鈴子55
S I 2 5 4	Po583	3327 3509	堀修中	上部器	壺	13.2	△19.2	※19.5		外面口縁部～肩部ヨコナデ、肩部縦状文。中位以下ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部～中位右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密（2～3mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	野崎108
S I 2 5 4	Po584	3115	堀修上層	上部器	壺	※14.4	21.9	※20.5		外面口縁部ヨコナデ、肩部縦かいヨコハケ。中位以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ、肩部～中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部強調底痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	山本103 88
S I 2 5 4	Po585	3095 3104 3468	堀修上層	上部器	壺	※14.8	22.4	※20.8		外面口縁部ヨコナデ、肩部ヨコハケ。以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部以上横方向ケズリ。底部調底痕。	密	良好	灰白色	灰白色	外面スス付着。	野崎113
S I 2 5 4	Po586	3111 3321	堀修上層	上部器	壺	15.8	△17.1	※22.6		外面口縁部ヨコナデ、肩部ヨコハケ。中位タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密（4mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	福田98
S I 2 5 4	Po587	3325 3514	堀修上層	上部器	壺	※14.1	△15.7	※24.0		外面口縁部ヨコナデ、肩部ヘラ状工具による斜格子文。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。口縁部外面黒鉛塗り。	山本103 94
S I 2 5 4	Po588	3469	堀修上層	上部器	壺	※14.1	△15.1	※21.3		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、頸部底角部以下右方向ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	胴部外面スス付着。	野崎107
S I 2 5 4	Po589	3087	堀修中	上部器	壺	※15.5	△16.7	※22.9		外面口縁部ヨコナデ、肩部タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ、肩部以下右方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	褐色	褐色	外面スス付着。	野崎112
S I 2 5 4	Po590	3324	堀修上層	上部器	壺	※16.2	△12.0	※24.1		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部民俗技術による特殊文。中位ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ、肩部右方向ケズリ。	密	良好	褐色	褐色	胴部外面スス付着。	山本101 110
S I 2 5 4	Po591	3116	堀修上層	上部器	壺	※13.6	△14.0	※19.4		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部民俗技術による特殊文。中位ヨコナデ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部～中位右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	黄褐色	黄褐色	胴部外面スス付着。	野崎109
S I 2 5 4	Po592	3521 3525	堀修上層	上部器	壺	※14.4	18.2	※17.7		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部5条巡れた平行沈線。中位斜方向ハケ目。以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部～中位ヨコハケ。中位以下斜上方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	黄褐色	黄褐色	口縁部外面スス付着。	山本103 96
S I 2 5 4	Po593	3353	堀修上層	上部器	壺	※13.8	△13.0	※18.8		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部以下ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部右方向ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	褐色	褐色	外面スス付着。	野崎105
S I 2 5 4	Po594	3085	堀修中	上部器	壺	※17.0	△9.3			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。下端ヨコ方向ケズリ。内面口縁部ヨコナデ、肩部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	橙色	内外面スス付着。	野崎103
S I 2 5 4	Po595	3083 3094	南修中	上部器	壺	※15.0	△9.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ、頸部底角部以下右方向ケズリ。	密（2～3mmの砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	外面スス付着。	野崎101
S I 2 5 4	Po596	3239 3328	堀修中	上部器	壺	※14.1	△10.2	※18.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部右方向ケズリ。	密	良好	淡黄色	淡黄色	胴部外面スス付着。	野崎108
S I 2 5 4	Po597	3083 3094	堀修上層	上部器	壺	※15.6	△10.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部胴部底痕。以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	野崎102
S I 2 5 4	Po598	3327 3250 3496	堀修中	上部器	壺	※13.8	△16.4	※20.3		外面口縁部～肩部ヨコナデ。以下縦かいタテハケ。内面口縁部ヨコナデ、肩部胴部以後。以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。肩部外面黒斑有り。胎土分析。	山本105 95
S I 2 5 4	Po599	1164 1163 3094 3095 3237 3324	堀修中	上部器	壺	※14.4	△13.0	※21.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密（4mm以下の砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色～にぶい黄橙色	口縁部外面スス付着。	福田99 115
S I 2 5 4	Po600	3122	堀修上層	上部器	壺	※14.8	△9.2			外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部民俗技術による特殊文。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	灰白色	淡褐色	外面スス付着。	山本103 93
S I 2 5 4	Po601	3182 3469 3510	堀修上層	上部器	壺	11.7	△12.8	※17.0		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテ後斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部指押さえ後右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	福田97 107
S I 2 5 4	Po602	3036 3094 3363	堀修上層	上部器	壺	※12.0	△9.6	※17.3		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部櫛状工具による斜格文。内面口縁部ヨコナデ。肩部胴部底痕。以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	山本102 92
S I 2 5 4	Po603	3514	堀修上層	上部器	壺	※10.9	△9.4	※16.0		外面口縁部～肩部ヨコナデ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	灰白色	灰白色	外面スス付着。	野崎111
S I 2 5 4	Po604	3506	堀修下層	上部器	壺	12.1	15.2	14.0		外面口縁部～肩部ヨコナデ。口縁部刻線。中位以下ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下タズリ後タテ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面スス付着。	山本102 75
S I 2 5 4	Po605	3030	堀修上層	上部器	壺	10.8	14.0	※12.6		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部調底痕。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	橙～にぶい黄橙色	橙～にぶい黄橙色	外面スス付着。	福田99 109
S I 2 5 4	Po606	3526	堀修中	上部器	壺	※14.1	△11.6	※22.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部底角部以下右方向ケズリ。	密（細砂含む）	良好	褐色	褐色	口縁部外面スス付着。頸部外面黒鉛塗り。	野崎106 106
S I 2 5 4	Po607	3090	堀修上層	上部器	壺	※14.0	△5.7			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	山本102 89
S I 2 5 4	Po608	3501	南修中	上部器	高杯	17.2	13.8		※11.3	外面杯部縦方向ミガキ。脚柱横方向ミガキ。脚部ミガキ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	褐色	褐色	外面スス付着。	山本75
S I 2 5 4	Po609	3234	堀修上層	上部器	高杯脚部	※18.0	△6.4			外面脚部縦方向ミガキ。底部ナデ。内面脚部縦方向ミガキ後横方向ミガキ。底部放射状ミガキ。	密	良好	褐色	褐色		米山104
S I 2 5 4	Po610	3219 3723	堀修中	上部器	高杯脚部	※12.6	△5.8			内外面縦方向ミガキ。	密（4mm以下の砂粒を含む）	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		福田98 99

挿表43　長洲高浜遺跡出土土器観察表(20)

S1254	Pv641l	3245	堀修下層	土師器	高杯脚部	※12.1	△5.8			外面部分的ミガキ。 内面口縁部縦方向ミガキ。底部放射状ミガキ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。内面黒風蝕あり。	山本分90
S1254	Pv612 Pv613 Pv614 Pv615 Pv616 Pv617 Pv618 Pv619 Pv620 Pv621 Pv622 Pv623 Pv624 Pv625 Pv626 Pv627 Pv628 Pv629 Pv630 Pv631	2973 3053 3108 3109 3115	堀修上層	上師器	高杯脚部	15.7	△5.1			内外面縦方向ミガキ。	密	良好	橙色	橙色		福田や100
S1254	Pv613	3359	堀修上層	上師器	高杯脚部		△5.2		※15.5	外面縦方向ミガキ。 内面横部ケズリ。粗部ハケ目。	密	良好	淡黄色	淡黄色	脚部外面黒蝕あり。	福田や105
S1254	Pv614	3356	堀修上層	上師器	高杯脚部		△5.4		10.1	外面脚部ハケ目後縦方向ミガキ。脚端ハケ目後脚ナデ。 内面脚部ケズリ。粗部クモの巣状ハケ目。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		山本分87
S1254	Pv615	3504	堀修下層	上師器	高杯脚部		△7.5		10.7	外面脚部タテハケ。脚部ハケ目。 内面脚部ケズリ。脚端ハケ目後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	脚部3方向円形透かし。	梅田や104
S1254	Pv616	3329	堀修中	土師器	高杯脚部		△8.2		※11.5	外面脚部横方向ミガキ。脚部ナデ。 内面横部ケズリ。脚端ハケ目。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	脚部3方向円形透かし。	福田や102
S1254	Pv617	3164	堀修上層	土師器	高杯脚部		△7.7		※11.7	外面脚部タテハケ後横方向ミガキ。脚部ヨコナデ。 内面脚部ケズリ。脚部ハケ目。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	脚部3方向円形透かし。	福田や100
S1254	Pv618	3519	堀修中	土師器	鉢脚部	15.5	6.1		※6.5	外面脚部ハケ目調ナデ。底部ヘラ削。脚端ナデ。 内面脚部ナデ。	密	良好	淡黄色	淡黄色		野崎114
S1254	Pv619	3220 3325 3462	堀修上層	土師器	鼓形器台	※19.4	10.2		※16.2	外面ヨコナデ。脚部ハケ目。 内面脚部ミガキ。脚部ケズリ。	密 (1~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		野崎116
S1254	Pv620	3031	堀修上層	土師器	鼓形器台	18.2	10.3		16.2	外面ヨコナデ。 内面脚部ミガキ。脚部ケズリ。	密 (1~2mmの砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色	受部外面スス付着。	野崎115
S1254	Pv621	3084 3086 3219	堀修中	土師器	鼓形器台 受部	※17.3	△7.7			外面ヨコナデ。 内面横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密 (1~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		山本分91
S1254	Pv622	3221 3639	堀修下層	土師器	鼓形器台 脚部		△4.3		※17.1	外面ヨコナデ。 内面ケズリ。	密 (3mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田や97
S1254	Pv623	3240	堀修中	土師器	鼓形器台	※12.1	6.3		11.0	外面ヨコナデ。 内面脚部ケズリ。脚部ケズリ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良好	淡黄橙色	淡黄橙色		福田や98
S1254	Pv624	3169 3325 3466	堀修上層	上師器	小型器台 脚部		△7.4		※11.2	外面脚部方向ミガキ。 内面上半ケズリ。下半ナデ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	受部2方向円形透かし。	福田や101
S1254	Pv625	3169	堀修中	土師器	小型器台 脚部	※10.2	△2.4			内外面縦方向ミガキ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		福田や96
S1254	Pv626	3095	堀修中	土師器	小型器台 脚部		△6.5		※11.1	外面脚部方向ミガキ。 内面ハケ目。	密	良好	橙色	橙色		福田や100
S1254	Pv627	3328	堀修中	土師器	小型丸底鉢	※10.2	△8.3	※9.0		外面口縁部縦方向ミガキ。脚部タテハケ後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。脚部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		宋山101
S1254	Pv628	3618	堀修中	土師器	小型丸底鉢	※8.9	△8.8	※8.7		外面口縁部横方向ヨコナデ。中位以下ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。脚部上方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	宋山102
S1254	Pv629	3351	堀修中	土師器	小型丸底鉢	9.7	10.0	9.8		口縁部縦方向ミガキ。脚部横ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。脚部横横ミガキ。中位左方向ケズリ。以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密 (1~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	山本分100
S1254	Pv630	3477	堀修下層	土師器	壺	20.7	△18.2			外面口縁部ヨコナデ。頸部ハケ状工具による羽状刻文。脚部ヨコハケ。 内面口縁部一頸部ヨコナデ。頸部以下右方向ケズリ。	密 (1~4mmの砂粒を含む)	良好	黄橙色	黄橙色	口縁部後補。底部復元。	福田や57
S1255	Pv631	3041	堀修上層	土師器	壺		※25.6	△7.8		外内面ヨコナデ。	密	良好	淡黄色	淡黄色		中原35
S1255	Pv632	2920 3012 3044 3471 3472 3473	東面	土師器	壺	※18.7	△19.1	※27.8		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ。胴部前一ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部横部以下右方向ケズリ後ナデ。	密 (1~3mmの砂粒を含む)	良好	明赤褐色一橙色	明赤褐色一橙色	口縁部・胴部外面黒蝕あり。外面スス付着。	福田や61
S1255	Pv633	3248	堀修中	土師器	壺	※25.3	△9.7			外面口縁部ヨコナデ。胴部二段にわたって横状工具による刺突文。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密 (1~2mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		福田や58
S1255	Pv634	3096	堀修中	土師器	壺	※15.6	△17.7	※24.0		外面口縁部一頸部ヨコナデ。右結具状横方向ミガキ。 刺突文。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部一中位右方向ケズリ。以下上方向ケズリ。	密	良好	黄橙色	黄橙色	胴部内面スス付着。	中原38
S1255	Pv635	3052 3053 3096 3253	堀修上層	土師器	壺	※16.0	△14.1			外面口縁部一頸部ヨコナデ。胴部見粒板縦による刺突文。以下斜一ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部底部一中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良好	黄橙色	黄橙色	外面スス付着。	中原32
S1255	Pv636	3485	堀修下層	土師器	壺	※15.6	△11.4			外面口縁部ヨコナデ。以前タテ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部底部最部以下右方向ケズリ。	密 (1mm程度の砂粒を含む)	良好	淡黄橙色	淡黄橙色		中原30
S1255	Pv637	2483	堀修上層	土師器	壺	※18.4	△19.3			外面口縁部ヨコナデ。胴部前一ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部底部前以下右方向ケズリ。	密	良好	黄橙色	黄橙色	胴部外面スス付着。	中原27
S1255	Pv638	3487	堀修下層	土師器	壺	14.9	23.8	21.0		外面口縁部一頸部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下ヨコ一タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部底部一下半部右方向ケズリ。以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密 (1~4mmの砂粒を含む)	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	胴部外面スス付着。	福田の59
S1255	Pv639	3046	堀修上層	土師器	壺	※14.0	△12.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部底部前以下右方向ケズリ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	口縁部外面・胴部内面スス付着。	中原26
S1255	Pv640	3055 3096	堀修上層	土師器	壺	※15.2	△15.1	※19.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部一中位ヨコハケ。以下斜方向ハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部右方向ケズリ。	密	良好	明赤褐色	明赤褐色	内外面スス付着。	中原34
S1255	Pv641	3096 3251 3484	堀修下層	土師器	壺	13.9	△12.5	※20.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後頸部縦部による刺突文。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部底部以下右方向ケズリ。	密 (1~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい橙一黄褐色	にぶい橙一黄褐色	胴部外面スス付着。	福田の60
S1255	Pv642	2481	堀修上層	土師器	壺	※14.8	△9.1			外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部底部最部以下右方向ケズリ。	密	良好	灰黄色	灰黄色	外面スス付着。	中原29
S1255	Pv643	3047	堀修上層	土師器	壺	※14.2	△7.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後頸部縦部による刺突文。 内面口縁部ヨコナデ。頸部底部前以下右方向ケズリ。	密	良好	灰黄色	灰黄色	外面スス付着。	中原28
S1255	Pv644	3096 3483	堀修下層	土師器	壺	※14.2	△22.1	※19.8		外面口縁部一頸部ヨコナデ。胴部一中位ヨコハケ。以下タテ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部底部指一中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。指頭圧痕。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	中原36
S1255	Pv645	2485	堀修上層	土師器	高杯	※18.6	14.0		※15.2	外面杯に横部縦方向ミガキ。杯底部ハケ目。脚部縦方向ケズリ後横方向ミガキ。脚部端方向ミガキ。 内面杯部縦方向ミガキ。脚部ケズリ。脚部指押さえ後ハケ目。	密	良好	淡橙色	淡橙色		中原42

挿表44　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(21)

S I 2 5 5	P o646	3475	埋砂中	上層器	高杯脚部	※18.4	△8.3			外面杯部ヨコナデ。脚部タテハケ。内面杯部横撫方向ミガキ。脚部ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	橙色	矢部内面スス付着。	中東36
S I 2 5 5	P o647	3480	埋砂上層	土器群	高杯脚部		△8.2		※14.2	外面縦方向ケズリ後タテハケ。縦部タテ。内面筒部下方向ケズリ。脚端ハケ目。	密	良好	橙色	橙色	橙色	筒部3方向円形透かし。	中東37
S I 2 5 5	P o648	3482	埋砂下層	土器群	高杯脚部		△8.3		※13.6	外面筒部縦方向ミガキ。脚部タテ。内面筒部タテ。脚部ハケ目後タテ。	密	良好	橙色	橙色	橙色	筒部3方向円形透かし。外面黒斑有り。	中東33
S I 2 5 5	P o649	3012	埋砂中	上層器	高杯脚部		△7.4		※10.6	外面脚方向ミガキ。内面筒部タテ。脚端ナデ。	密（1～3mm の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	福岡26
S I 2 5 5	P o650	3039	埋砂上層	土器群	鼓形器台	※16.6	7.6		13.4	外面受部縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。内面受部タテ後ミガキ。脚部ケズリ。	密	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	淡黄橙色	脚土分析。	中東30
S I 2 5 5	P o651	2999	埋砂中	土器群	小型鼓台脚部		△6.2		※12.3	外面タテハケ。内面上半タテ後ナデ。下半ハケ目。	密	良好	橙色	橙色	橙色	内外面黒斑有り。	中東31
S I 2 5 6	P o652	3303 3332 3349 3350	埋砂中	土器群	壺	※21.6	△25.1	※25.2		外面口縁部～頸部ヨコナデ。口縁パケ目後ナデ。11条の平行沈線および刺突文がまわる。頸部横かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右、中位以下左斜の上方向のケズリ。張部・頸部平位指頭圧痕が残る。	密	良好	にぶい黄橙色	淡黄色	淡黄色	口縁部内やすかに スス付着。	出ポ70
S I 2 5 6	P o653	3038	埋砂中	十器群	壺	※22.0	△5.6			内外面ヨコナデ。	密	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	淡黄橙色	口縁部内やスス付着。	山本43
S I 2 5 6	P o654	3490	床 面	土器群	壺	14.6	20.2	18.1		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部～中位斜方向ハケ目。以下ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。口縁右方向ケズリ。中位以下横上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～3mm の砂粒を含む）	良好	明黄橙色	明黄橙色	明黄橙色	頸部外面スス付着。	山本74
S I 2 5 6	P o655	3311	埋砂中	十器群	壺	※14.6	△9.0			外面口縁部ヨコナデ。頸部ヨコナデ後頭部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密（1mm 以下の砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	外面スス付着。	山本72
S I 2 5 6	P o656	3201	埋砂中	土器群	壺	※15.6	△8.1			外面口縁部ヨコナデ。頸部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密（1～3mm の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	淡黄色			山本68
S I 2 5 6	P o657	3494	床 面	土器群	高杯	17.3	11.4		11.9	外面杯部ヨコハケ後縦方向ミガキ。底部タテハケ。脚部タテハケ。筒部横方向ハケ目。内面杯部ヨコハケ後縦方向ミガキ。脚部ケズリ。端部ハケ目。	密（1～3mm の砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	淡黄橙色		山本71
S I 2 5 6	P o658	3308	埋砂中	上層器	高杯杯部	※17.6	△5.1			外面口縁部ヨコナデ。底部タテハケ後ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。杯部ヨコナデ。底部ヨコナデ後ミガキ。	密（1～3mm の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	橙色		山本67
S I 2 5 6	P o659	3202	埋砂中	土器群	高杯杯部	※13.0	△3.7			外面口縁部ヨコナデ後一部横方向ミガキ。底部ハケ目。内面ヨコハケ後縦方向ミガキ。底部ケズ。	密（1～3mm の砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄橙色	淡黄橙色		山本73
S I 2 5 6	P o660	3491	床 面	上層器	鼓形器台	19.4	10.7		17.2	外面ヨコナデ。内面全体縦方向ミガキ。脚部ケズリ。	密（微砂を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	淡黄橙色	脚部内面黒斑有り。	野崎60
S I 2 5 6	P o661	3335	埋砂中	土器群	鼓形器台脚部		△5.3		※17.6	外面ヨコナデ。内面ケズリ。脚部ナデ。	密（1～3mm の砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	淡黄橙色		山本66
S I 2 6 1	P o662	3735	基砂中	土器群	壺	※17.9	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	橙色	口縁部外面スス付着。	本山88
S I 2 6 1	P o663	3735	基砂中	土器群	高杯杯部	※15.0	△4.9			外面ヘラ状横方向ミガキ。底部ハケ目。内面横方向ミガキ。	密	良好	橙色	橙色	橙色	口縁部外面スス付着。	本山89
S I 2 6 1	P o664	3735	基砂中	上層器	高杯杯部		△8.7		※10.7	外面胴部横方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。内面胴部ケズリ後一部縦方向ミガキ。脚部ハケ目後ナデ。	密	良好	橙色	橙色	橙色		本山90
S I 2 6 1	P o665	3728	床 面	土器群	鼓形器台受部	※20.0	△5.6			外面ヨコナデ。内面横方向ミガキ。	密	良好	橙色	橙色	橙色	内外面スス付着。	本山91
S I 2 5 7	P o666	3097	埋砂下層	土器群	壺	※15.8	△4.7			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄色	淡黄色	口縁部内面スス付着。	山本39
S I 2 5 7	P o667	3671	床 面	土器群	壺	※13.8	△5.2			外面口縁部ヨコナデ。頸部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	淡黄色	頸部内面スス付着。	山本38
S I 2 5 7	P o668	3097	埋砂下層	土器群	壺	※12.2	△3.8			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	橙色	橙色			山本37
S I 2 5 7	P o669	3685	埋砂上層	土器群	壺	※13.0	△4.6			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	淡黄色		山本40
S I 2 5 7	P o670	3097	埋砂下層	土器群	鉢	※14.2	△4.5			外面ナデ。内面ハケ目。	密（1～3mm 程度の石英を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	淡黄色		山本42
S I 2 5 7	P o671	3670 3672 3684 3687	床 面	土器群	蓋		△5.1		13.9	外面作部タテハケ。狭口部ナデ。杯手手摘ね痕跡。内面体部縦～横方向ケズリ。狭口部ナデ。	密（4～6mm 程度の石英を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	淡黄色		山本45
S I 2 5 8	P o672	3014 3170	埋砂中	十器群	壺	※18.0	△7.3			外面ヨコナデ。縦方向のナデ。外面頸部に縦方向のハケ目がかすかに残る。	密（微砂粒、稀に2mm程度の砂粒を含む）	良好	灰白色	灰白色	灰白色	口縁部、頸部部分に黒斑。	本山53
S I 2 5 8	P o673	3014 3171 3292	埋砂上層	土器群	壺	※23.4	△33.9	※29.2		外面口縁部ヨコナデ。頸部上半横方向、下半不定方向の粗いハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部上半右方向ケズリ。下半左斜の上方向のケズリ後おもに縦方向ハケ目。	密（砂粒を含む）	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	内外面ともに部分的にスス付着。	本山76
S I 2 5 8	P o674	3183	埋砂下層	土器群	壺	※18.8	△8.8			外面口縁部ヨコナデ。頸部ハケ斜後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部やや縦方向のケズリ。	密	良好	橙色	橙色	橙～灰褐色		中東50
S I 2 5 8	P o675	3184	埋砂下層	土器群	壺	※20.0	△6.3			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。以下右方向のケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体にススス付着。	本山78
S I 2 5 8	P o676	3189	埋砂下層	土器群	壺	※14.6	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。工具痕がまわる。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	内外面とも口縁部～肩部にスス付着。	中東51
S I 2 5 8	P o677	3170	埋砂中	土器群	壺	※15.0	△7.9			外面口縁部ヨコナデ。頸部縦～横方向の粗いハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面全体にススス付着。	中東49
S I 2 5 8	P o678	3099	埋砂中	十器群	壺	※16.6	△5.5			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。以下右方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面部所にススス付着。	本山74
S I 2 5 8	P o679	3100 3171	埋砂上層	土器群	壺	※14.1	△12.8	※19.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ後7～8条の沈線。頸部横～縦方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。頸部上半右斜の上、下半左斜の上方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面全体にススス付着。	本山81

表45　長瀬高浜遺跡出土器観察表(2)

S I 2 5 8	Pv680	3185	堆砂下層	土師器	壺	※14.2	△5.4			外面口縁横ヨコナデ。頸部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。頸部右方向のケズリ後一部ナデ。	密	良好	淡橙色	淡橙色	外面一部ヒス状付着。	中原52
S I 2 5 8	Pv681	3215	P4内	土師器	高杯脚部		△8.1		※11.1	外面脚部ミガキ後丁寧なナデ。裾部ナデ。内面脚部ムラ内のケズリ、シボリ目残る。裾部ハケ目後ナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	脚部3方向円形透し。	木U79
S I 2 5 8	Pv682	3100	堆砂中	土師器	高杯脚部		△4.8		※15.6	外面脚部縦・横方向のミガキ。裾部縦方向のミガキ中心。内面脚部右向方向のケズリ後ナデ。裾部ハケ目後ナデ。	密	良好	橙色	橙色	脚部3方向円形透し。	木U80
S I 2 5 8	Pv683	3192	堆砂下層	土師器	鉢形器台		△8.2		15.5	外面ヨコナデ。内面受部右方向ケズリ後ナデ。一部ミガキがみられる。脚部ナデ。脚部左一方向の下方向のケズリ後上半はナデ。端部ヨコナデ。	密（砂礫を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		木U77
S I 2 5 8	Pv684	3099 3122 3183	堆砂上層	土師器	鉢形器台	※17.8	9.6		18.0	外面ヨコナデ。内面受部縦方向の丁寧なミガキ。脚部ナデ。脚部右一左斜めで下方向の丁寧なケズリ後上半はナデ。端部ヨコナデ。	密（砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内面剥落部ススの痕跡あり。	木U75
S I 2 5 8	Pv685	3170 3171	堆砂上層	土師器	小型丸底壺	※10.1	△8.1	※11.2		外面口縁横ヨコナデ。頸部縦・縦方向のハケ目後ナデ。内面口縁横ヨコナデ。頸部左方向のケズリ後下半はナデ。	密（砂礫を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		木U82
S I 2 5 9	Pv686	2885 2886	堆砂下層	土師器	甕	※15.3	25.2	22.3		外面口縁横ヨコナデ。胴部一中位横いきヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁横ヨコナデ。胴部横方向ケズリ。中位以下縦上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面ススが付着。	木U98
S I 2 5 9	Pv687	2803 2804 2806	堆砂上層	土師器	高杯脚部	※18.6	△5.8			外面口縁横ヨコナデ。胴部縦方向ミガキ。内面口縁部ヨコハケ。以下縦方向ミガキ。	密	良好	橙色	橙色		木U97
S I 2 5 9	Pv688	2805 2861 2862	堆砂上層	土師器	小型丸底壺	※9.6	△7.0	※9.6		外面口縁横ヨコナデ。中位以下ハケ目。内面口縁横ヨコナデ。頸部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい赤橙色	にぶい赤橙色		木U95
S I 2 5 9	Pv689	2864	堆砂下層	土師器	小型丸底壺		△7.5	9.0		外面口縁横ヨコナデ。中位5条平行沈線。以下斜方向ハケ目。内面口縁横ヨコナデ。頸部左方向ケズリ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		木U94
S I 2 6 0	Pv690	3129	堆砂上層	土師器	壺	※20.8	△8.7			外面口縁横ヨコナデ。胴部タテハケ後ヨコナデ。内面口縁横ヨコナデ。胴部指押さえ後ナデ。	密（細砂を含む）	良好	橙色	橙色		町F50
S I 2 6 0	Pv691	3124	堆砂上層	土師器	壺	※12.8	△9.2			外面口縁横ヨコナデ。胴部ヨコハケ。内面口縁横ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色		木U87
S I 2 6 0	Pv692	3174	堆砂上層	土師器	壺	※15.4	△5.9			外面口縁横ヨコナデ。胴部ヨコハケ。内面口縁横ヨコナデ。胴部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	口縁部外面黒斑有。	町F49
S I 2 6 0	Pv693	3125	堆砂上層	土師器	壺	14.3	△4.9			外面ヨコナデ。内面口縁横ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	淡黄色	淡黄色	外面ススが付着。	町F51
S I 2 6 0	Pv694	3177	堆砂上層	土師器	壺	※10.0	△8.0			外面口縁横ヨコナデ。胴部以下右上が下方後斜方向ハケ目。内面口縁横ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。以下斜方向ケズリ。	密	やや不良	淡黄褐色	淡黄褐色	胴部外面ススが付着。	木U93
S I 2 6 0	Pv695	3130 3174 3177	堆砂下層	土師器	壺	※14.0	△10.4			外面底近くの調整不明。内面口縁ヨコナデ。頸部ナデ。	密	良好	淡黄色	淡黄色	胴部外面ススが付着。	木U96
S I 2 6 0	Pv696	3131	堆砂上層	土師器	高杯脚部	※27.0	△8.3			外面口縁横風化のため調整不明。脚方向ミガキ右方。高杯ハケ目後ミガキ。内面口縁横方向ケズリ。底部ミガキ。	密	良好	淡黄色	淡黄色		町F53
S I 2 6 0	Pv697	3124	堆砂上層	土師器	高杯脚部	※18.0	△4.9			外面横方向ミガキ。内面横方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		木U92
S I 2 6 0	Pv698	3128	堆砂上層	土師器	高杯脚部	※11.8	△4.5			外面横方向ミガキ。内面方向ケズリ。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色		町F52
S I 2 6 0	Pv699	3176	堆砂上層	十師器	鉢形器台脚部		△8.4		※30.6	外面ヨコナデ。内面ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色		町F54
S I 2 6 2	Pv700	3374	堆砂中	土師器	壺	※14.6	△5.2			内外面ともL字状ヨコナデ。内面胴部右方向のケズリ。	密（砂粒を わずかに含む）	良好	淡黄褐色～灰白色	淡黄褐色～灰白色		野崎85
S I 2 6 2	Pv701	3377	堆砂中	上師器	壺	※15.2	△4.7			内外面ともL字状ヨコナデ。内面胴部右方向のケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面ススが付着。	野崎91
S I 2 6 2	Pv702	3377	堆砂中	土師器	壺	※12.0	△7.0			外面口縁横ヨコナデ。内面口縁部ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ、右方向のケズリ。	密（砂粒を わずかに含む）	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	内外面上半丹塗。	野崎86
S I 2 6 2	Pv703	3377	堆砂中	土師器	壺	※14.4	△4.8			内外面ともL字状ヨコナデ。内面胴部右方向のケズリ。	密（砂粒を わずかに含む）	良好	灰黄～灰白色	灰黄～灰白色		野崎90
S B 6 3	Pv704	3281	P1内	土師器	壺	※15.0	△6.5			外面口縁横ヨコナデ。胴部平行沈線。内面口縁部ヨコナデ。頸部粘面部右方向ケズリ。	密（砂粒を わずかに含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		野崎131
2 O S K 5	Pv705	2955	堆砂中	土師器	壺	※14.0	△6.4			外面口縁横ヨコナデ。胴部ハケ目。内面口縁横ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	灰白色	灰白色	外面一部炭ススが付着。	中原5
2 O S K 5	Pv706	2955	堆砂中	土師器	壺	※15.4	△4.9			内外面ともL字状ヨコナデ。内面頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	灰白色	灰白色	外面一部炭ススが付着。	中原4
2 O S K 5	Pv707	2918	堆砂中	土師器	鉢形器台	※22.0	△8.7			外面ヨコナデ。内面受部ケズリ後やや丁寧なナデ。端部ミガキ。脚部ともに左斜め上方向のケズリ。	密	良好	にぶい橙色	橙褐色		中原6
上殿畑1	Pv708	1300		土師器	壺	※25.3	△23.3	※32.5		外面口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。胴部縦～斜方向ハケ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。以下縦方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色		山本U71
上殿畑1	Pv709	1222 1229		土師器	壺	※23.6	△15.4			外面口縁部～頸部ヨコナデ。胴部8条平行沈線を施した下段櫛描による刺突文。以下ヨコ後斜方向ハケ目。内面口縁部～頸部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		野崎84
上部畑1	Pv710	1176		土師器	壺	※21.8	△12.0			外面口縁部ヨコナデ。頸部ヨコナデ後櫛描刺突文による斜格子。胴部平行沈線。内面口縁部ヨコナデ。胴部指押さえ後ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		野崎81
上部畑1	Pv711	1182 1294		十師器	壺	※19.3	△14.1			外面口縁部～頸部ヨコナデ。肩部櫛描刺突文。胴部ヨコハケ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	黄褐色	黄褐色		山本U72
上部畑1	Pv712	1929 1979		土師器	壺	※22.7	△11.1			外面口縁部ヨコナデ。口縁部下端沈線。頸部櫛描刺突文。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色		福田053
十部畑1	Pv713	1451		土師器	壺	※20.3	△7.7			外面口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	口縁部外面黒斑有。	福田055
上部畑1	Pv714	2081		土師器	壺	20.7	△8.8			外面口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密	良好	淡橙～淡橙色	淡橙～淡橙色	口縁部外面ススが付着。	中原56
上部畑1	Pv715	1184		土師器	壺	※19.8	△11.1			外面口縁部ヨコナデ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密（3～3mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		野崎80
上部畑1	Pv716	2326		土師器	壺	※20.2	△7.7			外面口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。内面ヨコナデ。	密	良好	明赤褐色	明赤褐色	口縁部外面黒斑有。	山本U50
上部畑1	Pv717	2732		土師器	壺	※19.8	△8.2			外面ヨコナデ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。以下右方向ケズリ。	密（3mm以下の砂粒を含む）	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		福田056

挿表46　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(23)

土器番1	Po718	1292	土師器	甕	※13.9	24.4	※24.4	外面口縁部～胴部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。以下タテ～ヨコハケ。胸横ヘラ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部指圧部～底部右方向ケズリ。指頭圧痕。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	底部外面黒斑有	国府外遺跡第4地点	51	福田の82
土器番1	Po719	1358	土師器	壺	※14.2	△5.5		内外面ヨコナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	褐色	褐色	褐色	口縁部外面黒斑有	国府外遺跡第4地点	82	国府の82
土器番1	Po720	1181 1188 1190 1198	土師器	甕	※27.4	△21.0	※35.0	外面口縁部ヨコナデ。付属タテ強ヨコハケ後5条波状文。以下タテ強ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	褐色	胴部内面炭化物付着	第4地点遺跡	86	国府の86
土器番1	Po721	1192 1182 1185 1316	土師器	甕	※23.6	△21.3	※29.8	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。以下左上斜ハケ。以下タテ～ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部以下左方向ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	褐色	口縁部外面炭化物付着	国府外遺跡第4地点	61	山本の61
土器番1	Po722	1188 1189 1190	土師器	甕	22.2	△18.2	※29.4	外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ強ヨコハケ。以下斜～タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	やや粗	良好	浅黄色	黄褐色	褐色	胴部外面スス付着。	第4地点遺跡	61	山本の61
土器番1	Po723	1931	土師器	甕	※14.4	△8.4		外面口縁部ヨコナデ。口縁3条平行沈線。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	浅黄色	浅黄色				58	山本の58
土器番1	Po724	1199	土師器	甕	17.0	27.0	※24.5	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後4条波状文。以下斜～ヨコハケ。底部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部頭部～中位右方向ケズリ。以下左方向ケズリ。丸形指頭圧痕。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	明黄褐色	浅黄褐色	浅黄褐色	胴部外面スス付着。	国府外遺跡第50地点	50	福田の50
土器番1	Po725	1033 1051 1055 1220 1224 1225 1242 1938	土師器	甕	※15.8	△25.1	※21.9	外面口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコハケ。下半タテハケ。ハケ状工具痕あり。 内面口縁部ヨコナデ。胴部上半おもに右方向ケズリ。下半左斜め上方向のケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面胴部中位以下、一部に煤ケズス付着。	胴部内面スス付着。	第73	山本の73
土器番1	Po726	1196 1200 1201	土師器	壺	※14.6	△21.6	※20.2	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後3条平行沈線。以下斜～タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部～中位右方向ケズリ。以下斜方向ケズリ。底部指圧痕。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	明黄褐色	胴部外面スス付着。	第4地点遺跡	57	山本の57
土器番1	Po727	1013 1014 1206	土師器	甕	※14.8	△18.3	※21.0	外面口縁部～胴部ヨコナデ。以下斜～ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部上方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	褐色	褐色	褐色	外面スス付着。	第4地点遺跡	83	野崎の83
土器番1	Po728	869	土師器	甕	※14.5	△18.0	※21.0	外面口縁部ヨコナデ。胴部1条波状文。以下ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密（1mmの砂粒を含む）	良好	褐色	褐色	褐色	外面スス付着。	第4地点遺跡	69	山本の69
土器番1	Po729	1928 1938	土師器	甕	※16.2	△12.0	※22.3	外面口縁部ヨコナデ。胴部斜～タテハケ後刺突文。以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向のケズリ。胴部中位及斜上方向のケズリ。	密（1mmの砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	胴部外面スス付着。	第4地点遺跡	75	福田の75
土器番1	Po730	2727	土師器	甕	※15.8	△10.3		外面口縁部ヨコナデ。口縁ヨコハケ及其後横ヘラによる刺突文。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（2mm以下の石英を含む）	良好	浅黄色	浅黄色	浅黄色	外面スス付着。	第4地点遺跡	43	松本43
土器番1	Po731	954	土師器	甕	※12.9	△15.2	※18.8	外面口縁部ヨコナデ。胴部～中位タテ強ヨコハケ。以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部指押さえ後右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密（2mmの砂粒を含む）	良好	赤褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	外面スス付着。	第4地点遺跡	78	野崎の78
土器番1	Po732	1203	土師器	甕	※13.7	△14.8		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。以下タテ強斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部以下右方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	外面スス付着。	第4地点遺跡	79	山本の79
土器番1	Po733	877	土師器	甕	※15.8	△21.5	※23.0	外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ強ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部～中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密（2mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	外面スス付着。	第4地点遺跡	87	野崎の87
土器番1	Po734	1343	土師器	甕	※14.8	△18.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部～中位ヨコハケ。以下斜タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下ケズリ。底部指圧痕顕著。	やや不良	良好	浅黄色	浅黄色	胴部外面スス付着。	胴部外面スス付着。	第4地点遺跡	42	山本の42
土器番1	Po735	1341	土師器	甕	※13.6	△17.5	※19.4	外面口縁部～胴部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後扁平板押による刺突文。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。口縁右方向ケズリ。	密	良好	褐色	褐色	褐色	外面スス付着。	第4地点遺跡	40	山本の40
土器番1	Po736	1931	土師器	甕	※15.4	△8.1		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。右方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	褐色	外面スス付着。	第4地点遺跡	44	松本44
土器番1	Po737	1945	土師器	甕	※15.4	△7.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	褐色	外面スス付着。	第4地点遺跡	39	松本39
土器番1	Po738	1933	土師器	甕	※13.4	△12.5	※16.9	外面口縁部～胴部ヨコナデ。胴部刺殺横ヘラによる刺突文。以下斜～ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	浅黄色	浅黄褐色	褐色	胴部外面スス付着。	第4地点遺跡	70	山本の70
土器番1	Po739	1179	土師器	甕	13.2	△11.7		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ強斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	褐色	褐色	褐色	外面スス付着。	第4地点遺跡	73	山本の73
土器番1	Po740	1919	土師器	甕	※14.1	△12.2	※18.5	外面口縁部ヨコナデ。胴部8条の乱れたヘラ沈線。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部以下右方向ケズリ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	褐色	褐色	胴部外面スス付着。	胴部外面スス付着。	第4地点遺跡	92	福田の92
土器番1	Po741	1449 1451	土師器	甕	※15.2	△7.0		外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（2mm以下の石英を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	口縁部外面黒斑炭化物。松本51と同一個体か。	胴部外面スス付着。	第4地点遺跡	46	松本46
土器番1	Po742	1949	土師器	甕	※14.8	△8.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（2mm以下の石英を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色				41	松本41
土器番1	Po743	1902	土師器	甕	※15.4	△6.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部斜度。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色				40	松本40
土器番1	Po744	1939 1940	土師器	甕	※15.8	△4.9		外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部右方向ケズリ。	密（2mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	外面スス付着。	第4地点遺跡	54	中原54
土器番1	Po745	2117	土師器	甕	※15.6	△6.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい褐色	外面スス付着。	外面スス付着。	第4地点遺跡	51	山本の51
土器番1	Po746	1963	土師器	甕	※13.6	△6.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい赤褐色	外面スス付着。	外面スス付着。	第4地点遺跡	80	福田の80
土器番1	Po747	2116	土師器	甕	※16.8	△5.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面スス付着。	外面スス付着。	第4地点遺跡	55	山本の55
土器番1	Po748	2113	土師器	甕	※16.2	△6.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部かすかにヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部右方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	外面スス付着。	第4地点遺跡	49	松本49
土器番1	Po749	1922	土師器	甕	※14.2	△6.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ強ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下左方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面スス付着。	外面スス付着。	第4地点遺跡	54	山本の54
土器番1	Po750	1342	土師器	甕	※12.4	△6.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	口縁部外面黒斑有。	外面スス付着。	第4地点遺跡	51	松本51
土器番1	Po751	1232	土師器	小型甕	※10.7	△10.8	※13.9	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。以下タテ強ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面スス付着。	外面スス付着。	第4地点遺跡	82	野崎の82

挿表47　長瀬高浜遺跡出土土器観察表24

土器溜1	Po752	1345		土師器	甕	第17.6	△25.5	第23.8	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後只数条線による斜四文。以下斜一ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部斜条筋一中位右方向ケズリ。下方斜上方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	中原57
土器溜1	Po753	1349		土師器	甕	第14.6	△16.2	第21.2	外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後ヨコハケ。以下斜方向ケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部以下右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	福田や53
土器溜1	Po754	886		土師器	甕	第15.4	△21.3	第18.8	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。中位以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部斜条筋一中位右方向ケズリ。以下斜上方斜ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	にぶい黄色	外面スス付着。	松本48
土器溜1	Po755	1920		土師器	甕	第14.2	△5.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ後一部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部内面スス付着。	福田や51
土器溜1	Po756	919		土師器	小型甕	12.0	16.1	12.5	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。中位以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下左方向ケズリ。胴部指頭痕。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		福田の48
土器溜1	Po757	2083		土師器	小型甕	11.3	△8.7		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後刷毛文。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	胴部外面スス付着。	原田や84
土器溜1	Po758	377 457		土師器	甕	第13.0	△1.7		内外面ヨコナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	中原58
土器溜1	Po759	2078		土師器	高杯杯部	第20.0	△7.3		外面口縁部縦方向ミガキ。底部ハケ目後ミガキ。 内面縦方向ミガキ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色		福田の54
土器溜1	Po760	1168		土師器	高杯杯部	第18.9	△6.3		外面口縁部ヨコナデ。底部横方向ミガキ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ。底部ヨコナデ。	密（砂粒をわずかに含む）	良好	橙色	橙一赤色	外部スス付着。	野崎85
土器溜1	Po761	1911 1912		土師器	高杯杯部	第17.8	△4.9		外面横方向ミガキ。 内面ミガキ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田や85
土器溜1	Po762	437 456 572 724 911 951 966		土師器	高杯	第17.6	13.2		第11.0 外面杯口縁部横強撫方向ミガキ。胴部縦方向タテ後ヨコハケ。脚部ミガキ。 内面杯部縦方向ミガキ。脚部ヨコナデ。脚部縦方向ミガキ。	密（1mm砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		山ふ75
土器溜1	Po763	1064		土師器	高杯杯部	第17.6	△5.6		外面タテ後縦方向のミガキ。 内面口縁部剥離気味、丁寧なタテ。杯底部剥離のため調整不明。	密	良好	橙色	橙色		末山67
土器溜1	Po764	1901 1096		土師器	高杯杯部	第16.0	△5.4		外面口縁部ヨコナデ。底部タテハケ。 内面口縁部縦方向ミガキ。底部ミガキ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	明赤褐色	赤褐色	外部スス付着。	山本47 59
土器溜1	Po765	1906		土師器	高杯脚部		△5.0		第12.8 外面筒部縦方向ミガキ。裾部ミガキ。 内面筒部ナデ。裾部ナデ。	密（微砂粒を含む）	良好	明黄褐色	橙色	裾部人方向円形痕かし。	松本47
土器溜1	Po766	923		土師器	高杯脚部		△7.5	10.5	内外面とも杯底部剥離のため調整不明瞭。外面八方行後ヨコナデ。内面筒部縦八方後ナデ。後方向ミガキ。裾部八方行。 内面筒部ムカデ文。裾部ハケ目後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	裾部3方向円形痕かし。	末山64
土器溜1	Po767	1958		土師器	高杯脚部		△6.2	第9.7	外面筒部上半縦方向ミガキ。裾部ナデ。 内面筒部ナデ。脚部ハケ目。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	脚部内面ヘラ記号あり。	福田や88
土器溜1	Po768	2111		土師器	高杯脚部		△7.0	第10.5	外面杯底部ミガキ。脚部縦方向ミガキ。 内面杯底部ナデ。脚部ヨコナデ。脚部ハケ目。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の32
土器溜1	Po769	1696		土師器	鼓形器台受部	第19.8	△7.2		外面ヨコナデ。 内面タテ以後縦方向ミガキ。	微（1～2mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		山本43
土器溜1	Po770	1191		土師器	鼓形器台受部	第18.0	△7.9		外面ヨコナデ。 内面ミガキ。	密	やや不良	浅黄橙色	浅黄橙色	内部凝かし有り。	野子41
土器溜1	Po771	1950		土師器	鼓形器台受部	第20.5	△6.7		外面ヨコナデ。 内面ミガキ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色		福田や80
土器溜1	Po772	1107 1031		土師器	鼓形器台受部	第19.0	△6.5		外面ヨコナデ。 内面横方向ミガキ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	内部凝かし有り。	野子39
土器溜1	Po773	950		土師器	鼓形器台受部	第19.0	△7.2		外面ヨコナデ。 内面受部右方向ケズリ後横方向ミガキ。筒部ナデ。裾部左方向ケズリ。工具痕多数あり。	密（微砂粒を少量含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		末山65
土器溜1	Po774	1451		土師器	鼓形器台受部	第18.8	△5.5		外面ヨコナデ。 内面ケズリ後横方向ミガキ。	密（微砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	修色	山本42 32
土器溜1	Po775	1930		土師器	鼓形器台脚部		△3.4	第16.0	外面ヨコナデ。 内面ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	脚部円形透かし。	福田や91
土器溜1	Po776	1990		土師器	鼓形器台脚部		△7.7	第17.2	外面ヨコナデ。 内面ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		福田や90
土器溜1	Po777	2208		土師器	鼓形器台脚部		△4.7	第18.4	外面ヨコナデ。 内面ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		松本50
土器溜1	Po778	1696 1918		土師器	鼓形器台脚部		△4.0	第14.4	外面ヨコナデ。 内面ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色		松本42
土器溜1	Po779	925		土師器	鼓形器台	第12.2	6.3		第11.8 外面おもに横方向のナデ。 内面受部横部分ヨコナデ。上半右方向ケズリ。下半タテ方向ナデ。裾部ナデ。胴部タテ方向ケズリ。脚部左方向ケズリ。	密（微砂粒を多く含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色一橙色	内部黒斑有。	末山66
土器溜1	Po780	1316		土師器	鼓形器台	第9.6	4.6		第9.3 外面縦方向のミガキ後ナデ。裾部ナデ。 内面受部左方向ケズリ後ナデ。脚部ケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	灰白色一淡黄橙色	灰白色一淡黄橙色	脚部円形透かし有り。	末山72
土器溜1	Po781	438 897		土師器	鼓形器台脚部		△3.7	第11.3	外面ヨコナデ。 内面ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		福田や87
土器溜1	Po782	887		土師器	鼓形器台	18.0	8.6	16.9	外面ヨコナデ。 内面受部横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		山本68
土器溜1	Po783	909		土師器	小型器台脚部		△6.8	15.1	外面横強撫方向ミガキ。 内面ハケ目。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	脚部人方向円形透かし。	福田の47
土器溜1	Po784	1298		土師器	甑脚杯	第18.2	5.6	5.5	外面杯部縦方向ミガキ。脚部ヨコナデ。 内面杯部ヨコハケ後縦方向ミガキ。脚部ヨコナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色		山本57
土器溜1	Po785	1947		土師器	甑脚杯	18.1	4.8	5.7	外面杯部ハケ目後縦方向ミガキ。脚部ナデ。 内面杯底ミガキ。脚部ナデ。	微（1～2mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の50
土器溜1	Po786	1057		土師器	甑脚杯	第15.9	4.5	3.8	外面杯部おもに縦一横方向のミガキ。後谷部ハケ目状工具痕あり。脚部ヨコナデ。 内面口縁部丁寧なミガキ。杯底部剥離のため調整不明。脚部ヨコナデ。	密（微砂粒を少量含む）	良好	橙色	橙色	内面杯底部剥離。	末山69
土器溜1	Po787	2114		土師器	甑脚杯脚部	第17.4	△3.9		外面杯部縦方向のやや丁寧なミガキ。一部縦ハケ目少のやなし。脚部ヨコナデ。 内面丁寧なナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	橙色一暗黒色	内面スス付着。	末山71
土器溜1	Po788	456 982		土師器	甑脚杯	第15.2	6.1	7.0	外面杯底工具によるヨコナデ。脚部ヨコナデ。 内面杯底横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密（微砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色		松本45

挿表48　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(25)

土器溜1	No789	920	土師器	小型丸底 小型丸底	9.3	8.8	8.7		外面口縁部ヨコナデ、胴部タテハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下横方向ケズリ。底部ヨコ圧。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	橙色		福田の49
土器溜1	No790	456 571 1040	土師器	小型丸底 小型丸底	※9.7	10.0	11.1		外面口縁部ヨコナデ、胴部タテハケ、中位以下斜ハケ。内面口縁部ヨコハケ、胴部～中位左方向ケズリ。以下上方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	橙色		中尾59
土器溜1	No791	896	土師器	ミニチュアミ器	4.4	4.1	4.8		外面口縁部ナデ、底部粗いハケ目。内面ナデ。	密	良好	橙色	橙色	橙色		中尾56
土器溜2	No792	1523 1524 2110 2736	土師器	壺	※25.8	△17.6			外面口縁部～頸部ヨコナデ、胴部5～6条の平行沈線、斜変文。胴部細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ、頸部タテ、以下右方向のやや下傾ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	淡黄色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	口縁部馬蹄状。	福田の83
土器溜2	No793	1746 1995	土師器	壺	※22.0	△18.5			外面口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヨコハケ。胴部横板による斜変文。以下斜方向ハケ目。内面口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～中位右方向ケズリ。	密（3mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄色	浅黄色	浅黄色	口縁部内傾。頸部高杯。	松本77
土器溜2	No794	2110 2568	土師器	壺	※18.6	△10.9			外面口縁部ヨコナデ、頸部～胴部タテハケ。胴部下半ヨコハケ目。内面口縁部～頸部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密	良好	淡黄褐色	浅黄褐色	浅黄褐色		中尾82
土器溜2	No795	1745 2209 2542 2736	土師器	壺	※20.6	△8.9			外面口縁部～頸部ヨコナデ。胴部タテハケ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密	良好	黄橙色	黄橙色			中尾87
土器溜2	No796	2545	土師器	壺	※22.2	△7.1			外面口縁部ヨコナデ、頸部具体痕跡による斜変文。内面ヨコナデ。	密	良好	黄橙色	黄橙色	黄橙色	口縁部馬蹄状。	松本76
土器溜2	No797	2571 2572 2573	土師器	壺	※14.85	△17.6	第21.4		外面口縁部～胴部ヨコナデ、波状文がまわる。胴部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ、頸部上半右、下半左方向のハケ。平タタケ。	密（1～4mmの砂粒を含む）	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	淡黄褐色	外面胴部一部黒ずむ。	福田の81
土器溜2	No798	1506	土師器	壺	※16.2	△15.9			外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部～中位右方向ケズリ。以下横方向ケズリ。	密（微砂粒をわずかに含む）	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	淡黄褐色	外面スス付着。	中尾89
土器溜2	No799	2735	土師器	壺	※13.2	△14.8	第22.5		外面口縁部ヨコナデ、胴部以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下横方向ケズリ。	密（微砂粒をわずかに含む）	良好	橙色	橙色	橙色	外面スス付着。	松本75
土器溜2	No800	1506 2753	土師器	壺	※14.2	△12.4			外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目後タテ、斜変文。がまわる。以下細かいヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下右方向のケズリ後一部タテ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	橙色	外面口縁部・胴部スス付着。	福田の72
土器溜2	No801	2755 3173	土師器	壺	※13.3	△9.5			外面口縁部ヨコナデ、胴部細かいヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向のケズリ後タテ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	橙色	外面スス付着。	福田の78
土器溜2	No802	1450 1500	土師器	壺	※18.2	△9.1			外面口縁部ヨコナデ、胴部ヨコハケ後貝殻腹縁による斜変文。内面口縁部ヨコナデ。胴部横向き粗以下右方向ケズリ。	密（微砂粒をわずかに含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黄橙色	口縁部外面黒ずむ。	松本71
土器溜2	No803	2110	土師器	壺	※15.6	△7.6			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	橙色	口縁部外面スス付着。	中尾60
土器溜2	No804	2744	土師器	壺	※13.6	19.7	※20.7		外面口縁部～胴部ヨコナデ。胴部上半タテ～ヨコハケ後ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右、下半左方向のケズリ。底部ヨコ圧。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	淡黄～淡黄色	淡黄～淡黄色	外面口縁部・胴部スス付着。	福田の82
土器溜2	No805	1519	土師器	壺	※11.4	△6.4			外面口縁部～胴部ヨコナデ。胴部以下タテ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密	良好	淡黄色	淡黄色	淡黄色		中尾85
土器溜2	No806	2110 2209 2749 2807	土師器	壺	※13.0	△4.5			外面口縁部～頸部ヨコナデ。胴部タテハケ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	橙色	口縁部外面黒ずむ。口縁端内面スス付着。	中尾67
土器溜2	No807	1995 2110	土師器	壺	※11.8	△7.8	※12.2		外面口縁部ヨコナデ、胴部タテ後上段による調ハケ目。頸部横方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部横方向のケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	淡黄～淡黄色	淡黄～淡黄色			福田の76
土器溜2	No808	1500 1995 2502	土師器	小型壺	※11.0	11.4	17.7		外面口縁部ヨコナデ、胴部以下横方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部～中位右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1mmの砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	淡黄色	底部内面スス付着。	中尾88
土器溜2	No809	1995	土師器	壺	※16.4	△11.8			外面口縁部～胴部ヨコナデ。胴部～中位タテ後以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下右方向ケズリ。	密（1mmの砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色	淡黄色	外面スス付着。	中尾64
土器溜2	No810	2110	土師器	壺	※14.2	△13.3	第18.0		外面口縁部ヨコナデ、胴部タテ後以下ハケ。中位以下左上がり斜3条縦方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下左方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	橙色	外面スス付着。	中尾66
土器溜2	No811	1500 1573 2498	土師器	高杯	※16.4	△13.0		※11.1	外面杯底ハケ目後ヨコ横方向ナデ。胴部タテハケ目後ヨコ横方向ナデ。脚部ヨコナデ。内面杯底～脚部ヨコナデ。脚部ヨコ方向ケズリ。脚部ヨコ方向ケズリ。	密（1～4mmの砂粒を含む）	良好	淡黄褐色	明黄褐色	杯底部外面スス付着。	福田の74
土器溜2	No812	2110 2564	土師器	高杯脚部	※22.0	△5.1			外面口縁端部ヨコナデ。脚部全面ハケ目。内面口縁端部横方向ミガキ。以下縦方向ケズリ。	密	良好	黄橙色	黄橙色	黄橙色	口縁端部外面スス付着。	中尾91
土器溜2	No813	2556	土師器	高杯脚部	※18.1	△6.9			外面縦方向ハケ目後タテミガキ。ヨコナデ。内面タテ状縦方向の粗いミガキ、ハケ目が残る。脚部左方向のケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色			福田の77
土器溜2	No814	1995 2110 2498	土師器	高杯脚部	※16.8	△5.1			外面口縁部上半ヨコナデ、以下タテハケ後横方向の細かいミガキ。内面タテ状ミガキ、ハケ目がかすかに残る。脚部ヨコナデ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	橙～淡黄色	橙～淡黄色	橙～淡黄色	スス或あり。	福田の80
土器溜2	No815	1519	土師器	高杯		△10.2		※13.3	外面杯底部ハケ目後タテ。脚部タテハケ後タテミガキ。脚部ヨコナデ。内面杯底部丁寧なタテ～横ミガキ。脚部左方向のスズ状ケズリ。脚部内面ケズリ。	密（微砂粒をわずかに含む）	良好	明黄褐色	淡黄褐色	淡黄褐色	脚部3方向円形透孔。	福田の73
土器溜2	No816	1947 2209	土師器	高杯脚部		△5.3		※18.2	外面脚部タテハケ後横方向ミガキ。脚部ハケ目後ヨコミガキ。内面脚部ケズリ。脚部ハケ目。	密	良好	にぶい黄橙色				山本くま56
土器溜2	No817	3487	土師器	高杯脚部		△5.5		※11.5	外面脚部ハケ目後タテミガキ、弱い斜変文がまわる。脚部ヨコナデ。内面脚部左のケズリ。脚部ハケ目後タテ。	密（1mmの砂粒を含む）	良好	淡黄色～淡白色	淡黄色	脚部あり。		福田の75
土器溜2	No818	1504 2110 2539 2563 2567 2570	土師器	鉢形器台	※20.2	11.1		※20.0	外面口縁部ヨコナデ。脚部ヨコハケ。内面受部横板縦方向ミガキ。脚部ケズリ。	密（微砂粒をわずかに含む）	良好	黄橙色	黄橙色			中尾92
土器溜2	No819	1450	土師器	鉢形器台	※13.4	△4.6			外面受部ヨコナデ後横い縦方向のミガキ。脚部ミガキ。内面ヨコナデ。脚部ケズリ。脚部ヨコナデ。脚部ケズリ後ナデ。脚部内面ケズリ。	密（1mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	橙色		福田の79
土器溜2	No820	3490	土師器	鉢形器台		△7.9		※19.0	外面ヨコナデ。内面受部横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密	良好	橙色	黄橙色			中尾83
土器溜2	No821	2734	土師器	小型鉢台	※10.8	△2.9			外面ミガキ。内面黒色の為調整不明。	密	良好	淡黄橙色	淡黄橙色			松本72
土器溜2	No822	1573 1745 1995 2209 2277	土師器	高口器	※13.2	△14.9	第15.4		外面口縁端部ヨコナデ。胴部ヨコナデ。中位以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	橙色		中尾90
土器溜2	No823	459 2756	土師器	高口器	※10.6	△7.2			内外面ヨコナデ。	密	良好	黄橙色	黄橙色			中尾84

挿表49　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(26)

土器番2	Pe834	2750		土師器	小型丸底鉢	10.7	10.5	10.6		外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部横方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（微砂粒をわずかに含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	明黄褐色	外黒スス付着。	松本73
土器番2	Pe825	1524		土師器	小型丸底鉢	※8.4	△6.4	※9.4		外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。容器指頭圧痕。中位以下左方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	橙色		中原61
土器番2	Pe826	2754		土師器	小型丸底鉢	※10.0	△6.6	※10.2		外面口縁部～胴部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。容器左方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	胴部外面黒煤	中原62
土器番2	Pe827	1573		土師器	小型丸底鉢	※10.2	△6.6			外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位以下横方向ミガキ。内面口縁部ヨコナデ。容器左方向ケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい橙色	胴部内面黒煤	中原62
土器番2	Pe828	1746		土師器	低脚杯	※10.0	△5.8		5.1	外面杯部口縁部ヨコナデ。底部ミガキ。脚部ナデ。内面杯部ミガキ。脚部ナデ。	密（微砂粒をわずかに含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色			松本74
土器番2	Pe829	2554		土師器	長脚杯脚部		△3.1		11.7	内外面ヨコナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色			中原86
土器番2	Pe830	3149		土師器	甕		△12.5		狭口部※13.4	外面体部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。外面体部ナデ。狭口部ヨコナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	胴打撃外面スス付着	中原90
土器番3	Pe831	1152		土師器	甕	※16.7	26.4	23.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部前半、ヨコハケ後ナデ。胴部後半に斜めの長いハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右、左斜め上方向ケズリ。下部タテ以後ナデ。指頭圧痕。	密（砂粒を含む）	良好	淡黄褐色～にぶい黄色	淡黄褐色～にぶい黄色	外面黒スス付着。	米山70
土器番3	Pe832	1151		土師器	小型丸底壺	5.6	8.9	9.2		口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。ミガキあり。胴部又ラ。胴部ハケ目。底部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部右・斜め上方向のケズリ。底部ナデ。指頭圧痕。	密	良好	にぶい橙～にぶい黄色	にぶい橙～にぶい黄色	外面スス付着。	米山111
土器番4	Pe833	1149		土師器	甕	※13.4	△13.7	※10.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ナデ。胴部横・斜め方向ハケ目後、部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。口下約5にの部ケズリ後ナデ。指頭圧痕が残る。	密（砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	米山112
土器番4	Pe834	1145 1146 1149		土師器	甕	※14.5	△14.5	※20.0		外面口縁部ヨコナデ。ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。指頭圧痕が残る。胴部左方向のケズリ。	（白雲母・砂粒を多く含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面多量にスス付着	米山109
土器番4	Pe835	1140		土師器	甕		△23.4	※11.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ後ヨコハケ。以下ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。右方向ケズリ。胴部左斜め上の方ケズリ後ナデ。指頭圧痕。	密（石英・砂粒を多く含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色～淡黄色	外面・内面胴部下半スス付着。口縁部全周に朝ヶ丘ふくら。	米山116
土器番4	Pe836	1139		土師器	甕	12.7	18.2	16.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部縦方向ミガキ。胴部ナデ。ミガキがみられる。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部上半左方向、下半斜めと方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面胴部全面スス付着。口縁部粘土つなぎ痕がみられる。	米山108
土器番4	Pe837	1141		土師器	小型丸底壺	※9.5	10.5	11.0		外面口縁部横方向のミガキ。胴部前のハケ目後ナデ。胴部ハケ目後ナデ。一部横ミガキ。内面口縁部タテ後横方向ミガキ。胴部ナデ。胴部左・斜め方向のケズリ。底部指頭圧痕。	密（砂粒を多く含む）	良好	灰黄色	灰黄色	外面口縁部～胴部に多色顔料。口下2又3付着。内面口縁部赤彩。	米山113
土器番4	Pe838	1144		土師器	小型丸底壺	※8.1	8.5	9.3		外面口縁部～胴部ヨコナデ。以下ナデ。ハケ目がかすかに残る。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部左方向の雑なケズリ。指頭圧痕が残る。	密	良好	橙色	橙色		米山113
土器番4	Pe839	1147		土師器	椀	※13.6	5.9			外面口縁部ナデ。丁寧にミガキ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。底部ナデ。指頭圧痕がかすかに残る。	密	良好	黄褐色	黄褐色	内外面と内面胴部下半黒化。	米山114
土器番5	Pe840	1624		土師器	壺	※25.2	△7.7			内外面ともにヨコナデ。	密（砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色			山本5
土器番5	Pe841	1592 1603 1606		土師器	鉢	※16.6	△14.5	※26.5		外面口縁部ヨコナデ。以下粗雑なハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。以下左方向のケズリ。指頭圧痕が残る。	密（1～3mm大の石英・砂粒を多く含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面少量スス付着。	山本6
土器番5	Pe842	1596 1603		土師器	甕	※15.1	△22.4	※30.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。胴部横・斜め方向の低いハケ目。底部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右・右斜め上、下半左斜め上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～3mm大の石英・砂粒を多く含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面胴部下半スス多量に付着。	山本7 32
土器番5	Pe843	1600		土師器	甕	※15.2	△10.2			外面口縁部ヨコナデ。胴部横・斜め方向ハケ目後ナデ。下位横方向による雑なケズリ。内面口縁部ヨコナデ。胴部横・斜め上方向のケズリ。ナデがみられる。	密（微砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	明黄褐色	外面全体にスス付着。	山本7 91
土器番5	Pe844	1604		土師器	甕	※13.6	△13.1	※20.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部以下横・斜め方向のハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。以下右・左斜め上方向ケズリ。指頭圧痕が残る。	密（1～3mm大の石英・砂粒を含む）	良好	にぶい黄色	明黄褐色	外面全体にスス付着。	山本7 89
土器番5	Pe845	1588		土師器	甕	※13.5	△13.9	※17.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部以下横・斜め方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。以下右・左斜め上方向ケズリ後ナデ。指頭圧痕が残る。	密（1～3mm大の石英・砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面胴部スス付着。	山本7 83
土器番5	Pe846	1592 1595		土師器	甕	※14.9	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目がみられる。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向のケズリ。	密（1～3mm大の砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	口縁部黒煤あり	山本7 84
土器番5	Pe847	1590		土師器	壺	※12.8	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。胴部横・斜め方向の細かいハケ目。底部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。指頭圧痕が残る。工具痕あり。	密（1mm大の石英・砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面 黎明期、内面 後期スス付着。	山本7 87
土器番5	Pe848	1592 1593 1601		土師器	高杯	※16.3	11.25		※9.8	外面杯部横方向ミガキ後ナデ。胴部縦方向の太きなミガキ後ナデ。脚部ナデ。内面杯部丁寧なナデ。脚部ふかり目強左方向のケズリ。指頭ハケ目後ナデ。	密（1～2mm大の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	橙色内面一部スス。	山本7 88
土器番5	Pe849	1598		土師器	小型丸底壺	8.6	8.7	9.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部ふもに斜めの方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部左右斜方向のケズリ後ナデ。底部指頭圧痕あり。	密（1～3mm大の石英・砂粒を多く含む）	良好	明黄褐色	橙色	全体的に風化・剥離著しい。	山本7 90
土器番6	Pe860	317		土師器	甕	13.2	21.6	19.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。以下中位までタテハケ。中位以下横一ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部一中位右方向ケズリ。以下指頭圧痕。	密（1mm大の砂粒を含む）	やや不良	浅黄色	浅黄色	胴部外面スス付着。	山本7 45
土器番6	Pe851	250	2 ONE	土師器	甕	16.7	△10.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。以下縦方向ケズリ。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄色	浅黄色	胴部外面スス付着。	山本7 122
土器番6	Pe852	249	2 ONE	土師器	高杯	16	△11.2			外面杯部～脚部縦方向ミガキ。内面杯部縦方向ミガキ。脚部ケズリ。	密（1～3mm大の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色			山本7 117
土器番6	Pe853	316	2 ONE	土師器	小型丸底鉢	10.3	9.7	9.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面スス付着。	中原96

揮表50　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(2)

古墳時代 包含層	Pc654	2393	2394	2 O	土師器	甕	17.2	30.6	27.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半横・斜め方向のハケ目後ナデ。下半ナデ。内面口縁部ヨコナデ。屈折ナデ。指頭圧痕残る。胴部上半ミガキ。下半上方向のケズリ。底部ナデ。指頭圧痕。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面胴部上半ハケ目ナデ下半ナデ。内面胴部下半ヘラ状ケズリ。	松本85
古墳時代 包含層	Pc855	2705	1 OSW	土師器	小型壺	6.7	△7.1	10.3			外面口縁部～胴部ヨコナデ。比較高る。中位タテ方向ケズリ。下位上方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部指頭圧痕。中位上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2mm の砂粒を含む）	良好	明赤褐色	明赤褐色		福田87
古墳時代 包含層	Pc856	602	2 P	土師器	高杯杯部	※17.4	△5.3				外面杯方向ミガキ。内面横方向ミガキ。内面横位ケズリ。	密（1～2mm の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		山本O 119
古墳時代 包含層	Pc857	2477	1 O	土師器	鉢形器台	※20.6	11.9		18.8		外面受部ヨコナデ後ミガキ。脚部ヨコナデ後ミガキ。ヘラ状工具による配。内面受部ミガキ。脚部ケズリ。	密（1～3mm の砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色		山本O 121
古墳時代 包含層	Pc858	1767	3 OSW	土師器	小型器台	3.4	8.2		※11.9		外面受部ヨコナデ後一部横方向ミガキ。脚部ヨコナデ後ミガキ。内面ヨコナデ。脚部ハケ目。	密	良好	橙色	橙色	脚部内面ヘラ記号。	中原95
古墳時代 包含層	Pc859	1249	2 O	土師器	底部		△3.2		3.1		外面ナデ。内面斜ハケ目。	密（1～2mm の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面底部 ヘラ状。	福田89
古墳時代 包含層	Pc860	1996	2 ONE	土師器	ミニチュア土器	※6.0	4.5				内外面手捏ね成形。	密	良好	灰白色	灰白色	外面底部 ヘラ状。	中原 103
S X 9 7	Pc861	1622	周溝	土師器	直口壺	3.8	16.3	15.5			外面口縁部～胴部ヨコナデ。中位以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位左方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		松本84
S X 9 7	Pc862	1621	周溝	須恵器	杯身	10.8	4.9				外部ヘラ上げ？部回転ナデ。底部約1/2回転ヘラケズリ。内面底部不整方向ナデ。他回転ナデ。	密	良好	灰色	灰色		オカノ 31
S X 9 8	Pc863	2316	周溝底面	須恵器	杯蓋	11.8	5.0				外部天井部約1/2回転ヘラケズリ。以下周転ナデ。内面天井部不整方向ナデ。他回転ナデ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	灰色	灰色		松本80
S X 9 8	Pc864	2317	周溝底面	須恵器	杯身	9.5	5.2				外部丸ち上げ？部回転ナデ。底部約1/2回転ヘラケズリ。内面底部不整方向ナデ。他回転ナデ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	灰色	灰色		松本79
S X 9 8	Pc865	2315	周溝底面	須恵器	杯身	9.9	5.1				外部丸ち上げ？部回転ナデ。底部約2/3回転ヘラケズリ。内面底部不整方向ナデ。他回転ナデ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	灰色	灰色		松本82
S X 9 8	Pc866	2318	周溝底面	須恵器	提瓶胴部	杯身	9.2	4.4			外面丸ち上げ？部回転ナデ。底部約2/3回転ヘラケズリ。内面底部不整方向ナデ。他回転ナデ。	密（4mm以下の砂粒を含む）	良好	灰色	灰色		松本81
S X 9 8	Pc867	2313 2314 2319	周溝底面	土師器	甕	※12.7	26.0	※20.5			外面口縁部ヨコナデ。胴部以下粗い斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄橙色	黄橙色	外面スス付着。	松本78
S X 9 8	Pc868	2243	周溝底面	土師器	高杯	14.1	10.0		※10.6		外面杯口縁部ヨコナデ。以下狭いナデ。脚部縦方向ミガキ。内面杯部口縁部ヨコナデ。底部ミガキ。筒部タテ方向ケズリ。脚部ハケ目。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面スス付着。	松本83
S X 9 8	Pc869	2007 2213 2217	周溝相当	土師器	高杯	※15.1	△5.2				内外面とも横方向のナデ後、縦方向の粗く雑なミガキ。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色		松本6
S X 1 0 0	Pc870	1779	堆砂下層	土師器	甕	※18.2	△7.3				外面口縁部ヨコナデ。胴部タテ後手行ミガキ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ後ナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田 124
S X 1 0 0	Pc871	2308	堆砂中	土師器	甕	※13.6	△7.1				外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部はもに右斜め下方向のナデ後ナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	褐灰色	褐灰色	外面胴部縦ハケスス付着。内面胴部黒変。	福田 126
S X 1 0 0	Pc872	1874 2108 2312	底面	土師器	甕	※15.9	△7.3				外面ヨコナデ。砂部に長使用か。内面下半ヨコナデ。頸部以下ナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	にぶい黄橙～橙色	にぶい黄橙～橙色	外面スス付着。		福田 125
S X 1 0 0	Pc873	2311	堆砂下層	土師器	甕	※13.9	△8.0				外面口縁部ヨコナデ。肩部斜ハケ・ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向のケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	福田 127
S X 1 0 0	Pc874	2040	堆砂下層	十師器	高杯杯部	※23.1	△5.85				外面口縁部ヨコナデ後タテミガキ。杯底部タテ後一部ミガキ。ハケ目がかすかに残る。内面口縁部ナデ後タテミガキ。底部時の縦横底痕・ハケ目が残る。底部ハケ目後ミガキ。	密（1mm以下の石英、砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	黄橙～にぶい黄橙色	黒斑、スス触あり。	福田 130
S X 1 0 0	Pc875	1971	堆砂上層	十師器	高杯杯部	※20.1	△5.5				内外面とも主もに横方向の細かいミガキ。外面一部に縦ミガキ痕跡。	密	良好	橙～にぶい橙色	にぶい橙色		福田 131
S X 1 0 0	Pc876	2035 2068	堆砂上層	土師器	高杯		△8.0		※10.6		外面杯表部風化のため調整不明瞭。脚部タテハケ目後一部ナデ。筒部ナデ。内面杯底部ミガキ。脚部ハケ目後ナデ。	密	良好	にぶい橙色～にぶい黄橙色	明黄褐色～にぶい黄橙色	脚部2方向円形透孔。面部黒変。	福田 132
S X 1 0 0	Pc877	2068	堆砂中	土師器	高口壺	※11.3	△8.2				外面口縁部ヨコナデ後縦タテミガキ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	密（0.5mm以下の砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色～にぶい橙色		福田 128
S X 1 0 0	Pc878	1793	堆砂上層	土師器	鉢形器台	※20.5	△6.2				外面ヨコナデ。内面受部縦横方向のミガキ。以下ミガキ後丁寧ナデ。	密（3mm以下の石英、砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	黄橙色		福田 129
S X 1 9 1	Pc879	591	堆砂上層	土師器	甕	※14.4	△4.2				内外面とも口縁部ヨコナデ。内面胴部上方向のケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	山本O 113
S X 1 9 1	Pc880	733	堆砂上層	土師器	甕	※13.5	△4.2				外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部肩表部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	褐灰色	外面スス付着。	野崎 130
S D 2 2	Pc881	1546	堆砂下層	十師器	直口壺	9.0	13.4	14.1			外面口縁部～肩部ヨコナデ。胴部おもに横方向の強いハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部～底部指頭圧痕、ナデ。底部指頭圧痕。指頭圧痕が残る。	密（0.5～1mm大の砂粒をまばらに含む）	良好	橙色	橙色	外面胴部スス付着。	山本O 113
S D 2 2	Pc882	1549	堆砂下層	土師器	高杯脚部		△7.0		12.0		外面筒部部約ハケ目後ナデ。ヨコミガキ。脚部ナデ。内面筒部方向ケズリ。脚部ハケ目後ナデ。	密（0.5～1mm大の砂粒を含む）	良好	淡黄橙色	淡黄橙色		山本O 116
S D 2 2	Pc883	1550	堆砂下層	土師器	高杯脚部		△7.2		※11.0		外面筒部タテハケ後ナデ。ヨコミガキ。脚部下端部ヨコナデ。内面筒部方向ケズリ。中位シボリ目残る。脚部ハケ目後ナデ。	密（0.5mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		山本O 115
S D 2 2	Pc884	679 1547	堆砂下層	土師器	高杯脚部		△7.3		11.8		外面筒部方向の粗いハケ目。脚部縦ナデ。内面筒部左方向ケズリ。脚部ナデ。指頭圧痕が残り、脚部に残る。	密（0.5～1mm大の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	橙色		山本O 114
S B 5 8	Pc885	1436	P35内	土師器	杯		△1.1		※10.3		外面口縁部ヨコナデ。底部ナデ調整。内面ヨコナデ。	密	良好	にぶい橙色	橙色	外面スス付着。内面にも炭化物。	山本O 112

挿表51　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(26)

整地遺構1	Po886	969 1258 1327 1473	3 OSE 3 ONE	土師器	杯	底17.0	縁4.9		縁12.0	内外面とも口縁部ヨコナデ、ロクロ目秋の凸条あり。外面底部周縁へラ切り後ナデ、以下ナデ。内面底部ナデ。	密（砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面とも赤色顔料塗彩。口縁部スス付着。	山本く96
整地遺構1	Po887	1718	3 OSW	土師器	杯	底13.6	高4.0		縁8.0	内外面とも口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色顔料塗彩。口縁部スス付着。	松本88
整地遺構1	Po888	884 1576	3 ONW	土師器	杯	底11.1	高3.6		縁7.0	内外面とも口縁部ヨコナデ、ロクロ目秋の凹凸あり。底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色顔料塗彩。	松本89
整地遺構1	Po889	726	3 OSE	土師器	杯	底12.0	3.1		縁7.6	内外面とも口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄色	浅黄色	内外口縁部、外面底部赤色顔料。	山本く98
整地遺構1	Po890	739	3 OSE	土師器	高台杯		高1.2		縁8.6	高台部ヨコナデ。底部外周へラ切り後ナデ。内面ナデ。	密	良好	浅赤橙色	浅赤橙色	浅赤橙色	内面底部スス付着。	松本91
整地遺構1	Po891	739 969 1878	3 OSE	土師器	皿	底23.8	高1.7		縁19.2	内外面とも口縁部ヨコナデ。底部周縁へ切り後ナデ。以下ナデ。内面口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面とも赤色塗彩。	野子61
整地遺構1	Po892	739 1878	3 OSE	土師器	皿	底18.0	高2.0		縁15.1	内外面とも口縁部ヨコナデ。外面口縁部下半ヨコミガキ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面とも赤色塗彩。	山本く98
整地遺構1	Po893	1137 1640	3 ONE	土師器	皿	縁14.2	高2.1		縁12.8	内外面とも口縁部ヨコナデ。底部外周ヘラ切り後ナデ。内面ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面赤色顔料塗彩。内面底部に文様。	松本90
整地遺構1	Po894	969 1271 1725 1971	3 OSE	土師器	高台皿	縁18.1	3.55		縁9.8	外面口縁部ヨコナデ。底部へラ切り後ナデか。高台部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	底の内面に赤色顔料塗彩。一部スス付着。	山本く100
整地遺構1	Po895	1878	3 OSE	土師器	高台皿？		高6.0			外面底とも高台部ヨコナデ。底部ナデ。	密	良好	明黄褐色～浅黄色	浅黄橙色～浅黄色	浅黄橙色～浅黄色	内面一内面底部赤色塗彩。	山本く97
整地遺構1	Po896	739 969	3 OSE	土師器	高台皿？		高2.0		縁6.35	外面底とも底部ヨコナデ。高台部ヨコナデ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	赤色顔料塗彩。	野子60
整地遺構1	Po897	1639	3 ONW	土師器	墨書土器 杯底部		高1.3		縁7.9	内外面とも口縁部ヨコナデ。底部外側へラ切り後ナデ。墨書「口」。内面ナデ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色～浅黄色	浅黄橙色～浅黄色	内面赤色塗彩。	米山 127
整地遺構1	Po898	1971	3 OSW	土師器	墨書土器 杯					底部内外面とも ナデ。外周墨書「長」。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色塗彩。	米山 128
整地遺構1	Po899	969	3 OSE	土師器	墨書土器 杯		高1.6			内外面とも口縁部ヨコナデ。底部ナデ。外面口縁部墨書。はもいか。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色塗彩。	野子62
整地遺構1	Po900	1252 1326	3 OSW	土師器	甕	底26.3	高5.7			外面口ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下左方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	橙色	外面スス付着。	野崎 150
整地遺構1	Po901	2055	3 OSE	土師器	甕	底28.0	高4.9			外面口ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下左方向ケズリ。	密（砂粒を多く含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	野崎 156
整地遺構1	Po902	1639	3 ONW	土師器	甕	底24.0	高3.3			外面口ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下右方向ケズリ。	密（砂粒を多く含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色		野崎 158
整地遺構1	Po903	687	3 OSE	土師器	甕	底23.4	高5.3			外面口縁部ヨコナデ。胴部以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下ヨコハケ。	密（砂粒を多く含む）	良好	にぶい黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	外面スス付着。	野崎 157
整地遺構1	Po904	1881	3 ONW	須恵器	杯		高2.5		縁11.3	外面ヘラ削り調整ナデ。底部調整ヘラ切り。内面口縁部調整ナデ。底部ナデ。	密	やや良好	浅黄色	浅黄色			野崎 160
整地遺構1	Po905	717 1971	3 OSE	須恵器	高台杯		高3.0		縁11.1	外面ヘラ削り調整ナデ。底部ヘラ切り。内面口縁部調整ナデ。底部不整方向ナデ。	密	良好	灰色	灰色			野崎 161
整地遺構1	Po906	1613 1614 1615	3 ONW	須恵器	高台杯		高2.4		縁9.4	外面ヘラ削り調整ナデ。底部調整ヘラ切り。内面底部不整方向ナデ。	密	良好	灰色	灰色			野崎 162
整地遺構1	Po907	969	3 OSE	土師器	製塩土器	縁6.4	高4.2			外面ヘラ状のにぶ を受け風化。内面ナデ。	密	良好	橙色	橙色	鹿鹿山色		山本く102
整地遺構1	Po908	1862	3 OSE	土師器	土鍋	最大底径 5.1	最大径 5.8	重さ 49g		手捏ね成形。	密	良好		浅黄橙色	浅黄橙色	外面スス付着。	野崎 164
整地遺構1	Po909	1971	3 O	土師器	鍋	縁12.5	高1.7			内外面とも ヨコナデ。外面2条の平行沈線。	密	良好	橙色	橙色	橙色		野崎 173
整地遺構1	Po910	2104	3 ONW	土師器	高杯杯部	縁17.8	高6.8			外面縦方向のミガキ。内面口縁部横、杯底部縦方向のミガキ。	密（0.5mmの砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	山本ひ118
整地遺構2	Po911	2051	3 OSE	土師器	甕	縁43.6	高7.3			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部以下左方向ケズリ。	密	良好	明褐色	明褐色	明褐色	外面スス付着。	山本く95
整地遺構2	Po912	1728	3 OSE	土師器	墨書土器 杯底部		高6.6			底部外周周縁へラケズリ後ナデ。内面ナデ。墨書外面「長」か、内面不明。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色塗彩。	米山 131
整地遺構3	Po913	2222	東上	土師器	杯	縁15.6	高4.4		縁11.2	外面ヨコナデ。口縁部ヨコナデ。底部内面ナデ。外面風化のため調整不明瞭。ナデか。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色	明黄褐色	内外面赤色顔料塗彩。外面底部スス付着。	松本87
整地遺構3	Po914	93 144 210 263 374 680 1181 1899	2 O	須恵器	瓶		高26.5	縁25.9		外面平行叩き。他部後ナデ有。内面同心円文叩き。	密	良好	灰色	灰色	灰色	外面胴部に赤色顔料か。	野崎 160
整地遺構3	Po915	1868 1994	東上	須恵器	平瓶		高11.4			外面口縁部縦転ナデ。体部カキ目。胴部形態化したかく。内面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色			山本く93
整地遺構3	Po916	1998	東上	土師器	ミニチュア土器		高3.0	縁4.6		手捏ね成形。	密	良好	黄橙色	黄橙色			山本く94
ピット群 F5 4	Po917	1444	耀砂中	土師器	墨書土器 皿形					内外面ともナデ。外面墨書「月」か。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色塗彩。	野子63
ピット群 F8 3	Po918	2066	耀砂中	土師器	高杯杯部	縁11.3	高4.8			外面杯部縦方向ミガキ。脚部ハケ目。内面口縁部横、杯底部縦方向のミガキ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	黄橙色		山本ひ111
古代包含層	Po919	1269	3 O	土師器	甕	縁32.2	高8.5			外面ナデ。内面口縁部ナデ。胴部右方向ケズリ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	黄橙色	外面スス付着。	野崎 139
古代包含層	Po920	1136 1137	3 ONE	土師器	甕	縁29.9	高6.4			外面ナデ。内面口縁部ナデ。胴部右方向ケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	外面スス付着。	野崎 141
古代包含層	Po921	1266	3 ONW	土師器	甕	縁22.4	高4.7			外面ナデ。内面口縁部ナデ。胴部右方向ケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	外面スス付着。	野崎 142
古代包含層	Po922	439	2 ONW	土師器	甕	縁11.4	高4.5			外面ナデ。内面口縁部ヨコハケ。胴部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい赤橙色	にぶい赤橙色	外面スス付着。		野子43
古代包含層	Po923	573	3 OSE	土師器	杯	縁14.0	4.1		縁10.2	外面回転ナデ。底面ヘラ切。内面回転ナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	橙色	外内面赤色塗彩。	中原55
古代包含層	Po924	1136 1533	3 O	須恵器	杯	縁12.3	4.0		縁7.8	外面口縁部回転ナデ。底部周縁へラ切り未調整。内面回転ナデ。	密（砂粒を含む）	良好	灰色	灰色	灰色		野崎 143
古代包含層	Po925	1136 1137	3 ONW	土師器	杯	縁12.0	高4.2		6.2	内外面ヨコナデ。外面底部回転ヘラ切り。	密	良好	橙色	橙色	内外面スス付着。	中原 117	
古代包含層	Po926	176 736	2 OSE 3 PSE	土師器	杯	縁12.3	3.6		※7.3	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内外面赤色塗彩。	福田の 110	
古代包含層	Po927	1316	2 OSW	土師器	杯	縁12.8	高3.1		※8.8	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内外面赤色塗彩。	中原 111	
古代包含層	Po928	1137 1256	3 ONE	土師器	杯	縁12.8	高4.0		※7.6	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	内外面赤色塗彩。	福田の 111	
古代包含層	Po929	441	2 OSW	土師器	杯		高2.7		※7.8	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内外面赤色塗彩。	中原 112	

挿表52　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(2)

古代包含層	Pe690	441 570	2 OSW	土師器	杯		△2.1		※9.6	外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。底部ヘラ切り。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内外面赤色粒多し。	中原109
古代包含層	Pe691	1714	3 ONW	上師器	杯	※16.6	3.4		※7.6	内外面とも口縁部ヨコナデ、ロクロ目状の凹凸あり。底部中心部欠。底部外面ヘラ切り後縁なナデ、内面ナデ。	密	良好	浅黄橙色	明黄褐色	内面赤色粒多し。外面スス付着。	松本96
古代包含層	Pe692	1240 1316	2 OSE	土師器	皿	※20.8	△1.7		※16.0	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	内外面赤色粒多。	松本93
古代包含層	Pe693	441	2 OSW	土師器	皿	※16.8	△1.7			内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内面赤色粒多し。	中原112
古代包含層	Pe694	1244	2 ONW	土師器	皿	※12.6	△2.4			内外面ヨコナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内外面赤色粒多し。	中原116
古代包含層	Pe695	379	2 OSW	土師器	皿	※12.6	△2.1			外面一次的に火を受けている。	密	良好	橙色	橙色		野崎124
古代包含層	Pe696	684 1136	3 ONW	上師器	高台杯		△3.0		※11.7	内外面ヨコナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		塩田の109
古代包含層	Pe697	130 676	3 ONE	土師器	高台杯		△2.2		※9.4	内外面とも底部ナデ。底台部ヨコナデ。	密（砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	橙灰黄色	高台内底部に砂粒多し。赤色粒多。	山本くぼ105
古代包含層	Pe698	1327	3 OSE	土師器	高台杯		△2.3		※8.8	内外面ヨコナデ。	密（微砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	内外面赤色粒多。	松本92
古代包含層	Pe699	573	3 OSE	土師器	高台杯		△2.0		※8.4	内外面ヨコナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面赤色粒多。	中原106
古代包含層	Pe640	759 1471	3 OSE	土師器	蓋か土器か		△1.8		※6.2	底部内面ともナデ。外面焦痕「加工」。	密	良好	浅黄～黄橙色	浅黄～灰白色	内外面赤色粒多。	東山130
古代包含層	Pe641	1137	3 ONE	土師器	蓋か土器か底部		△1.0		※15.6	口縁部内外面ともヨコナデ。底部外面縦横ヘラナデ、ナデ。器壁不明。内面ナデ。	密	良好	浅黄橙色	にぶい黄橙色	内面、外面に砂粒赤色粒多。	東山133
古代包含層	Pe642	1256	3 OSW	土師器	蓋か土器か底部					底部内面ヨコナデ、ロクロ目状の凸凹あり。外面ヘラ切り後ヨナデ。器壁不明。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面赤色粒多。	東山132
古代包含層	Pe643	1136 1530	3 OSW	土師器	高杯脚部		△8.3			外面縦方向ケズリ。内面ケズリ	密	良好	橙色	橙色	外面赤色粒多。	野崎179
古代包含層	Pe644	1476	3 ONW	土師器	製塩土器	※8.8	△4.4			外面ナデ。内面指押さえ。	密	良好	にぶい黄橙色	橙黄褐色	雲母含む。	山本くぼ103
古代包含層	Pe645	1466	2 ONW	土師器	製塩土器	※5.6	△2.3			内外面ナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	六角高穴か。	塩田の92
古代包含層	Pe646	427 1166	2 OSW	須恵器	壺		△8.0			外器平行帯あり。内面内心円文切る。	密	良好	灰色	灰色	胴部外面自然釉。	厨子44
古代包含層	Pe647	98 171 579 739 1136 1137 1471 1607	3 OSE	須恵器	蓋	※18.0	3.2			外面ヘラ切り後ナデか。他部転ナデか。内面天井部不整方向ナデか。他部転ナデか。	密	良好	灰色	灰色		野崎153
古代包含層	Pe648	1096	3 OSE	須恵器	高台杯	※15.2	5.5		※9.6	内外面回転ナデ。	密	良好	黒色	灰黄色	内面黑色粒多。	野崎146
古代包含層	Pe649	1690	4 PSE	須恵器	胴部器		△8.7			内外面回転ナデ。外面3条沈線。	密	良好	灰オリーブ色	灰色		山本竹74
古代包含層	Pe650	170 435 438 1072 1317	3 O	須恵器	壺		△12.5		※22.0	外面回転ナデか。中位・底部沈線が巡る。内面回転ナデ。	密	良好	灰黄色	青灰色		野崎149
古代包含層	Pe651	1462	2 OSE	須恵器	長頸壺	※5.6	△5.9			内外面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		中原105
古代包含層	Pe652	1612	3 OSW	土師器	高杯杯部	※15.0	△5.5			外面縦方向ミガキ。内面横位縦方向ミガキ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	山本くぼ123
古代包含層	Pe653	1609	3 OSW	土師器	小型丸底壺	※8.4	△8.0	9.7		外面口縁部ヨコナデ。胴部工具によるナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄色	浅黄色		中原101
古代包含層	Pe654	625	2 ONE	土師器	小型丸底壺	8.5	8.8	10.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部横ハケ→タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面焼成前穿孔。	塩田の54
古代包含層	Pe655	1612	3 OSW	土師器	小型丸底壺		△6.2	9.0		外面胴部タテ長方ハケ。以下斜方向ハケ目。内面左方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色		中原102
古代包含層	Pe656	1582	3 OSW	土師器	小型器台か壺か	※9.4	△2.5			外面口縁部ミガキ。胴部縦横ハケ目。内面横方向ミガキ。	密	良好	橙色	橙色		中原94
古代包含層	Pe657	576	2 ONE	土師器	鉢	※14.0	△3.8			外面ナデ。内面横いハケ目。	密	良好	橙色	橙色		中原104
古代包含層	Pe658	1579	3 OSW	土師器	手捏ねミニチュア器		△6.2			内外面手捏ね底部。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		塩田の86
古代包含層	Pe659	1510	3 OSW	土師器	ミニチュア土器	2.8	4.1	4.8		内外面手捏ね底部。	密	良好	にぶい橙色	橙色		中原100
古代包含層	Pe660	562	3 ONW	埴輪	円筒埴輪			※38.2		外面ナデ。内面ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		牧本29
9号墓	Pe961	10 71	鉄関9	須恵器	片口鉢	※24.8	△5.4			内外面回転ナデ。	密	良好	灰色	灰色		野崎165
9号墓	Pe962	24		土師器	手捏ねミニチュア	※9.2	4.3		※7.8	手捏ね底部。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	外面赤褐色粒有り。	塩田の107
SD13	Pe963	418 419	堀移中	土師器	壺	※13.2	△7.5	※16.8		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密（砂粒をわずかに含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		野崎129
SD15	Pe964	450	堀移上層	土師器	小皿	※9.2	1.3		※6.4	外面口縁部回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	橙色	橙色		野崎167
SD15	Pe965	424	堀移上層	上師器	壺	※21.8	△7.5			外面ナデ。内面口縁部ナデ。頸部以下ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色		野崎136
SD15	Pe966	423 795	堀移上層	土師器	壺	※19.8	△7.7			内外面ヨコナデ。	密（砂粒をわずかに含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	野崎135
SD15	Pe967	423 424 776 777	堀移上層	土師器	壺	※12.1	△15.8	※16.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後具殻底端による刷毛目。中位ナデ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部肌面第一中位右方向ケズリ。	密（砂粒をわずかに含む）	良好	橙色	橙灰色	外面スス付着。	野崎137
SD15	Pe968	791	堀移上層	土師器	低脚杯	※13.9	4.8		4.5	外面杯部縦方向ミガキ。脚部ナデ。内面杯部縦方向ミガキ。脚部ナデ。	密	良好	橙色	橙色		野崎138
SD21	Pe969	1281	堀移中	土師器	杯		△2.1		※10.6	外面口縁部ヨコナデ。底部ナデ痕跡。内面口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	密	良好	橙色	褐色	内外面とも にスス付着。内面赤色粒多。	山本竹113
SD21	Pe970	732	堀移中	土師器	壺	※14.4	△5.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ、ハケ目がかすかに残る。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向のケズリ。	密（0.5～1mmの砂粒を含む）	良好	浅黄色	浅黄色	外面口縁部スス付着。	山本竹109
SD23	Pe971	1856	堀移中	縄文部	高杯杯部	※18.1	△5.2			内外面回転ナデ。	密	良好	灰色	灰色		野崎129

挿表53　長瀬高浜遺跡出土土器観察表90

SD23	Pw972	1761	堆積中	土師器	甕	※21.7	△20.0	※29.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ。中位以下タテ及ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部～中位右方向ケズリ。以下上方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		野崎132
3OSK2	Pw973	476 SD21～677	堆積中	土師器	壺	※21.0	△5.5			内外面とも口縁部ヨコナデ。内面肩上つる丁寧ミガキ。	密（砂粒粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	橙色		堀越や 153
3OSK2	Pw974	491	埋没中	土師器	甕	※11.9	△8.4	※13.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部縦ハケ目後ナデ、6条の平行沈線。胴部横ハケ目ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部横方向のケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内面口縁部一部黒斑スス付着。	堀田や 135
3OSK2	Pw975	489	堆積中	土師器	甕	※15.4	△11.5			外面口縁部ヨコナデ。胴部横方向の細かいハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ、右ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）。角粒を含む。	良好	にぶい橙色	にぶい橙～にぶい黄橙色	外面全体スス付着。	堀田や 136
3OSK2	Pw976	469	堆積中	土師器	壺	※14.0	△11.1	※18.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ、ハケ目がかすかに残る。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	にぶい黄橙色	外面全体に炭化物付着。	堀田や 134
3OSK2	Pw977	494	堆積中	土師器	高杯杯部	※17.0	△5.7			外面縦方向ミガキ。内面横方向ミガキ。	密（3mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		堀田や 138
3OSK2	Pw978	495	堆積中	土師器	高杯杯部	※16.1	△5.8			外面ナデ後縦方向ミガキ。内面口縁部上ミガキか。ヨコナデがみられる。杯底部風化・剥離のため調査不明。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい橙色～橙色	にぶい橙色～橙色		堀田や 137
3OSK2	Pw979	501	堆積中	土師器	小型丸底壺	10.8	10.0	10.8		外面口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ。以下胴方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下ヨコナデ。	密（3mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		堀田や 140
3OSK2	Pw980	481	堆積中	土師器	小型丸底壺	8.5	7.5	7.4		外面口縁部～胴部縦方向ミガキ。中位以下横方向ミガキ。内面口縁部ハケ目。胴部左方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面黒斑有り。	堀田や 139
3OSK6	Pw981	1331 3O～110	堆積中	白磁	椀	※16.0	△2.8			内面体部上位に1条の沈線。	密	良好	灰白色	灰白色	釉薬と素入みられる。	末山122
3OSK6	Pw982	1332	堆積中	白磁	椀		△1.7		※7.8	削り出し高台。高台部縦沈、調り出し浅い。	極（黒い粒粒を若干含む）	良好	灰白色	灰白～黄灰色	内面黒斑。内面釉薬状色調無。Tr－1・a部。	末山120
中世包含層	Pw983	218	3OSE	土師器	小皿	※8.1	1.5		5.4	内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		堀田の 93
中世包含層	Pw984	168	2ONE	土師器	小皿	※7.9	1.7		※5.4	内外面回転ナデ。外底底部回転糸切り。	密（～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		堀田の 100
中世包含層	Pw985	1325	3OSW	土師器	小皿	※8.8	1.9		※5.1	内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		堀田の 101
中世包含層	Pw986	346	3PSE	土師器	小皿	※9.2	1.7		※7.4	内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。沈線底部。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		堀田の 102
中世包含層	Pw987	9	調査区南西部	土師器	小皿	※9.6	1.65		※6.2	口縁部二段ナデ。内面回転ナデ。底部回転糸切り。	密（砂粒を含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		堀田や 1
中世包含層	Pw988	15	2O	土師器	小皿	※8.2	1.6		※5.7	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。	密（1～3mmの大きめ砂粒を多量含む）	良好	淡橙色	淡橙色		山本の 2
中世包含層	Pw989	16 17	3O	土師器	小皿	※7.2	1.5		※5.4	内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	淡橙色	淡橙色		堀田の 94
中世包含層	Pw990	1327	3OSE	土師器	小皿	※7.9	1.9		※5.3	内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		堀田の 99
中世包含層	Pw991	1137	3O	土師器	小皿	※8.3	1.7		※5.4	内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		堀田の 103
中世包含層	Pw992	130	4ONE	土師器	小皿	※7.3	1.5		※5.4	内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		堀田の 98
中世包含層	Pw993	349	3PSE	土師器	杯		△2.4		※7.5	内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密（～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		堀田の 97
中世包含層	Pw994	1536	3ONW	土師器	杯		△2.0		※7.4	内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		堀田の 95
中世包含層	Pw995	1235	3OSW	土師器	杯		△1.8		※6.7	内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		堀田の 96
中世包含層	Pw996	1	4O	土師器	経状高台皿？		△2.5		※7.0	内外面風化著しい。底部外面回転糸切り。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	淡橙色	淡橙色		堀田の 104
中世包含層	Pw997	426	2ONE	土師器	経状高台杯？		△3.2		※8.7	内外面風化著しい。粗転ナデか。	密（1～2mm程度の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		堀田の 105
中世包含層	Pw998	129	3PSW	土師器	壺？					外面ヨコナデ。内面ハケ目。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	灰白	橙色		堀田の 90
中世包含層	Pw999	107 584	3OSE	白磁	椀	※14.0	△4.8				やや粗	良好	灰白色	灰白色～黄橙色	釉やや厚く黄色味がかる。貫入入られる。胴部。	末山125
中世包含層	Pw1000	401	3OSE	白磁	椀	※16.6	△3.5				やや粗	良好	乳白色	乳白色	釉薄い。V部か。	末山126
中世包含層	Pw1001	17	3O	白磁	椀	※13.0	△2.5			外面ヘラケズリ。内面体部上位1条の沈線、胴巨文。	密	良好	灰白色	灰白色	釉薄く、灰色強い。V－1・b部。	鍋子4
中世包含層	Pw1002	1719	3OSW	白磁	椀	※18.0	△1.8			外部ヘラケズリ。内面体部上位1条の沈線。	密（黒い粒粒を若干含む）	良好	灰白色	灰白色	釉厚く灰色強い。V－1部。	末山121
中世包含層	Pw1003	406	2ONW	白磁	椀	※14.0	△2.5				密	良好	灰白色	灰白色	釉やや厚く灰色強い。胴部。	末山123
中世包含層	Pw1004	255	2ONW	白磁	皿	※17.0	△2.2			内面見込み近くに1条の沈線がまわると思われる。	密	良好	灰白色	灰白色	釉薄い。貫入に近い。	末山119
中世包含層	Pw1005	137	2ONW	白磁	皿	※15.0	△2.0			内面見込み近くに1条の沈線。	密	良好	灰白色	灰白色	釉薄い。貫入に近い。	末山118

揮表54　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(31)

中世包含層	Pa1008	15 124 215	3 PSW 3 O	白磁	皿	※10.7	※2.9		※3.2	内面体部中位に段をもつ。 底部やや上げ底ぎ。	やや粗	良好	灰白色	灰白色	胎土に黒色粒含む。外面体部下半横位ケズリ。	米山 124	
中世包含層	Pa1007	1642	3 OSE	白磁	皿		△1.6		※3.2	内外面回転ナデ。底部ケズリ。 内面全面、外面口縁部に釉薬。	密	良好	明オリーブ灰	明オリーブ灰	口縁部又は腰。	野崎 163	
中世包含層	Pa1006	77	2 O	白磁	皿	※10.0	△1.9			内面見込み迄くに一条の沈線。 口縁端部丸くする。	密（黒い細砂を若干含む）	良好	灰白色	灰白色	胎土に黒色粒含む。	米山 117	
中世包含層	Pa1009	171	2 PSW	土師器	皿	※15.1	△2.4		※11.7	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内面赤色化。	野崎 174	
中世包含層	Pa1010	171	2 PSW	土師器	墨書土器	※14.0	1.9		※10.7	内面ヨコナデ。底部ロクロ目状の凸凹あり。外面口縁部ヨコナデ。底部ケズリ。墨書「民」。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色塗彩。	米山 129	
中世包含層	Pa1011	10	調査区全域 西側 4 F	土師器	墨書土器 底部					外面横撫ヘラケズリ、ナデ。墨書「民」。 内面ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	浅黄色	内面赤色塗彩。	福田や 2	
中世包含層	Pa1012	444	3 OSE	土師器	墨書土器 底部					内外面ヨコナデ。 外底墨書「民口」。	密	良好	黄橙色	浅黄橙色	内面赤色塗彩。	野子 64	
中世包含層	Pa1013	684	3 ONW	土師器	墨書土器 杯		△2.6		※7.8	内外面ともに口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 外面口縁部墨書「示口」。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色塗彩。	野子 65	
中世包含層	Pa1014	1255	3 OSW	土師器	皿	※13.8	△2.0			内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	橙色	橙色	内外面赤色塗彩。	中原 114	
中世包含層	Pa1015	383	2 OSE	土師器	皿	※13.4	△2.3			内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	橙色	橙色	内外面赤色塗彩。	中原 118	
中世包含層	Pa1016	171	2 PSW	土師器	鍋	※12.0	△2.1			内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	橙色	橙色	内外面赤色塗彩。	中原 112	
中世包含層	Pa1017	129	3 PSW	土師器	杯		△1.6		※7.4	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	底部内面スス付着。	福田の 112	
中世包含層	Pa1018	91	3 O	土師器	土鍋	最大径 4.4	最大径 1.6	重さ 5.8g		手残る底部ナデ。	密	良好		にぶい橙色	黒変有り。	いわさ 8	
中世包含層	Pa1019	1275	3 ONW		土鍋	最大径 4.2	最大径 1.9	重さ 5.9g		手残る底部。	密	良好		黄橙色		中原97	
中世包含層	Pa1020	1137	3 ONE	土師器	甕	※31.9	△8.2			外面ナデ。 内面口縁部ナデ。胴部右方向ケズリ。	密（砂粒を含む）	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	外面スス付着。	野崎 140	
中世包含層	Pa1021	132 334	4 PSE	須恵器	甕	※21.4	△7.5			外面口縁部ナデ。胴部ケズリ。 内面口縁部ナデ。胴部横心円文叩き。	密	良好	青灰色	灰黄色	内面自然釉。	野崎 166	
中世包含層	Pa1022	426	2 ONE	須恵器	壺	※17.6	△3.2			内外面回転ナデ。	密	良好	灰黄色	灰黄色	口縁直外面釉薬残る。	野崎 147	
中世包含層	Pa1023	426	2 ONE	須恵器	壺		△1.4			外面天井部回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	灰色	灰色		野崎 149	
中世包含層	Pa1024	10 79 158 169	2 ONW	須恵器	杯		△1.5		※8.1	外面口縁部回転ナデ。底部板目。 内面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		野崎 145	
中世包含層	Pa1025	152 167	2 ONE	須恵器	杯	※13.3	△3.5			内外面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		野崎 152	
中世包含層	Pa1026	12	3 OSW	須恵器	杯	※12.7	△3.2			内外面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		野崎 151	
中世包含層	Pa1027	380	2 ONW	須恵器	杯	※12.0	△2.4			内外面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		野崎 152	
中世包含層	Pa1028	128 173 212	3 OSE	須恵器	高台杯		△3.2		※6.7	外面口縁部回転ナデ。底部静止糸切り。 内面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		野崎 144	
中世包含層	Pa1029	100 704	4 PSE	須恵器	壺	※21.5	△3.2			内外面回転ナデ。	密	良好	灰色	青灰色		野崎 162	
中世包含層	Pa1030	171 308 361	2 PSW	土師器	甕	※13.1	△11.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部以下粗いハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部以下右方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	福田の 84	
中世包含層	Pa1031	294	2 ONE	土師器	甕	※13.6	△19.0	※15.8		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。以下タタキ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部以方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	山本の 120	
中世包含層	Pa1032	272 273 296	4 ONE	土師器	甕	28.1	26.4	※29.5	※16.7	外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。ハケ目がかすかにみられる。底部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部下から上へのケズリ。 底部ナデ、指頭圧痕。	密（砂粒を多く含む）	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内面焦部凝縮。内面口縁部一部凝縮。一部外面部分に黒変。	野崎 134	
中世包含層	Pa1033	277	4 ONE	土師器	甕	※30.5	△15.5			外面口縁部ヨコナデ。胴部縦一方ケハケ。 内面口縁部ヨコハケ。胴部左方向ケズリ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	灰黄褐色	明黄褐色	外面・口縁内面スス付着。	福田の 45	
中世包含層	Pa1034	465	3 OSW	土師器	甕？	※10.9	△2.4			内外面ヨコナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	野崎 172	
中世包含層	Pa1035	452	2 ONW	土師器	底部		△1.2		3.0	外面浮き。 内面ケズリ。	密	良好	橙色	橙色		中原 103	
中世包含層	Pa1036	1133	3 O	土師器	小型甕	※9.6	△3.5			外面ナデ。 内面ミガキ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	内外面スス付着。	野崎 171	
中世包含層	Pa1037	1260	3 OSW	土師器	ミニチュア土器	※4.2	△2.9			平坦な底部。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		野崎 177	
中世包含層	Pa1038	142	2 OSW	弥生土器	高杯脚部		△6.2		10.6	外面強撫ナデ。裾部3条凹線。 内面ケズリ。	密	良好	黄橙色	黄橙色		中原90	
中世包含層	Pa1039	11	4 O	須恵器	杯蓋	※12.8	△4.3			外面天井部回転ケズリ。以下回転ナデか。 内面回転ナデ。	密（1～4mmの砂粒を含む）	良好	灰白色	灰白色		福田の 108	
中世包含層	Pa1040	1	4 O	埴輪	円筒埴輪					内外面風化のため調整不明。	密（1～4mmの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		福田の 108	

挿表55　長瀬高浜遺跡出土土器観察表(3)

遺構名	遺物番号	取上番号	出土位置	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	形態上の特徴	備考	実測者番号
S I 2 4 6	F 1	1557	床面	不明鉄製品	10.4	0.80	0.30	8.8	断面長方形。末貫付看。鳴鏑を先端。		オカノ27
S I 2 4 6	F 2	1429	堆砂下層	鏃形鉄製品(刀子形)	6.0	1.30	0.30	7.7	刀部先端板欠損。断面三角形。カマス切先。片関。茎部断面長方形。		オカノ26
S I 2 4 9	F 3	2655	堆砂上層	鉄 鏃	10.2	3.00	0.20	29.8	直刀鏃。刃部先端部虫喰。断面三角形。使い込まれてやや湾曲。柄鏃着部欠損。		牧本15
S I 2 4 9	F 4	2622	堆砂上層	鉄 鎹	3.4	2.00	0.24	4	棒鎹錆か。刃部下部欠損。断面半楕。		牧本16
S I 2 4 9	F 5	2433	堆砂上層	鏃形鉄製品(剣先形)	5.8	刃部1.79 茎部1.2	0.28	9.5	剣先形鉄製品。刃部断面長方形。片関。茎部断面長方形。		牧本18
S I 2 4 9	F 6	2587	堆砂上層	不明鉄製品	5.0	1.17	0.45	5.5	先端部欠損。中央部分錆膨れか。		牧本24
S I 2 4 9	F 7	2902	堆砂下層	不明鉄製品	4.7	1.64	0.80	22.4	端部欠損。断面方形のもの2個体付着。		牧本25
S I 2 4 9	B 1	2244	堆砂上層	直角文鎹	径4.3		0.60	14.0	小型伊勢鎹。平鎹の内側に3条束置溝る。絡方形孔。鎹面鉤掛けの痕跡有り。		米山6
S I 2 5 2	F 8	2454	堆砂上層	鏃形鉄製品(剣先形)	6.7	1.60	0.23	6.4	剣先形鉄製品。刃部断面長方形。鋒関。茎部先端欠損。断面長方形。		オカノ23
S I 2 5 0	F 9	2177	堆砂下層	刀 子	7.1	刃部1.45 茎部0.96	0.27	9.6	刀部先端部、茎部先端部欠損。断面三角形。片関。茎部断面長方形。		牧本20
S I 2 5 0	F 10	1664	堆砂上層	不明鉄製品	6.2	1.02	0.63	9.2	鑿状工具か。刃部先端欠損。断面長方形。		牧本21
S I 2 5 0	F 11	2128	堆砂下層	鏃形鉄製品(剣先形)	6.9	1.31	0.15	9.1	剣先形鉄製品。刃部断面長方形。片関。茎部断面長方形。		牧本19
S I 2 5 0	F 12	2161	堆砂下層	鏃形鉄製品(剣先形)	3.8	刃部1.55	0.24	4.9	剣先形鉄製品。茎部欠損。刃部断面長方形。	木貫付看。	牧本26
S I 2 5 0	F 13	2201	堆砂下層	不明鉄製品	7.9	0.80	0.35	8.6	先端部欠損。断面長方形。		牧本17
S I 2 5 3	F 14	3066	堆砂下層	鏃形鉄製品(剣先形)	5.2	1.00	0.30	3.1	剣先形鉄製品。刃部断面長方形。鋒関。茎部断面長方形。		オカノ13
S I 2 5 3	F 15	3152	堆砂上層	不明鉄製品	3.1	0.49	0.32	0.7	端部尖る。先端部欠損。断面長方形。		オカノ17
S I 2 5 4	F 16	3511	堆砂下層	刀 子	5.4	1.30	0.30	5.9	切先、茎尻欠損。刀部断面三角形。片関。茎部断面長方形。		オカノ16
S I 2 5 4	F 17	3528	堆砂下層	釣針軸部	3.2	0.4	0.4	0.6	釣り針軸部片。カエシ部尖る。断面円形。	カエシ部糸付看。	オカノ20
S I 2 5 5	F 18	3045	堆砂中	鉄 鏃	4.9	1.50	0.58	7.5	圭頭鏃A1類。刃部断面両鎬造。鋒部断面長方形。鋒関。茎部断面方形。[10]		オカノ21
S I 2 5 6	F 19	3492	床 面	鉄 鏃	14.3	4.10	0.45	127	大型の直刀鏃。刃部長方形。断面長方形。先端部虫喰。柄鏃着部折り返し。柄は純角に付くと考えられる。	発掘柄代状の付看物有り。	オカノ25
S I 2 6 0	F 20	3128	堆砂上層	鉄 鏃	5.0	1.54	刃部0.22 茎部0.45	7	棒鏃鏃I形式。刃部断面円丸造。無関。茎部断面長方形。[11]		いわき17
土器溜1	F 21	1984		鉄 鏃	5.6	1.98	刃部0.2 茎部0.4	7.1	棒鏃鏃I形式。刃部断面平造。無関。茎部断面長方形。[11]		いわき19
土器溜1	F 22	1904		不明鉄製品	6.0	7.40	0.81	132	やや湾曲し、錆形に開く。		いわき24
土器溜2	F 23	2723		鉄 鏃	13.2	2.78	0.30	60.5	直刀鏃。刃部先端部虫喰。断面三角形。柄鏃着部折り返し。柄は直角に付く。		いわき27
土器溜2	F 24	2722		鉄 鏃	11.1	2.46	刃部0.3 茎部0.63	29.2	棒鏃鏃I形式。刃部断面両丸造。無関。茎部断面長方形。[12]		いわき15
土器溜2	F 25	2757		鏃形鉄製品(槍先形)	2.6	3.93	0.24	10.5	鉄製鉇先の鏃形品。刃部や や錆形に開く。鏃着部は折り返し。	木貫付看。	いわき25
古墳時代包含層	F 26	2466	1 O	鉄 鏃	10.3	2.30	0.30	26.4	直刀鏃。刃部先端部虫喰。断面三角形。柄鏃着部欠損。		オカノ28
古墳時代包含層	F 27	2305	2 ONW区	釣針軸部	5.0	0.50	0.50	2.6	釣り針軸部片。カエシ部尖る。断面方形。	カエシ部糸付看。	オカノ18
S X 9 7	F 28	1623	周濠内	刀 子	12.5	1.70	0.40	15	刀部湾曲。先端部欠損。片関。茎部断面長方形。茎部木貫付看。		オカノ15
S X 9 9	F 29	2359	周濠内	鉄 鏃	4.4	1.10	0.60	7.9	刃部欠損。虫喰錆か。頸部断面長方形。両関。茎部断面円形。		オカノ12
S X 1 0 0	F 30	2034	堆砂中	鉄 釘	6.5	0.37	0.36	1.9	頭部欠損。断面方形。		牧本22
S X 1 0 0	B 2	1762	堆砂中	不明鉄製品	1.5	1.10	0.29	1.7	指円形状を呈す。やや湾曲。		牧本27
整地遺構1	F 31	1270		小 刀	13.9	1.22	0.36	13	刀部先細る。カマス切先。断面三角形。両関。茎部断面長方形。		いわき30
整地遺構1	F 32	853		鉄 鏃	4.3	2.80	0.22	10.8	直刀鏃。刃部先端部欠損。刃部使い込んで湾曲。断面三角形。柄鏃着部折り返し。柄は直角に付く。		いわき36
整地遺構1	F 33	1896		鉄 鏃	10.0	0.71	0.55	12.2	長鏃か。鏃身部欠損。頸部断面方形。台形関。茎部断面方形。		いわき18
整地遺構1	F 34	2000		鉄 釘	2.6	0.60	0.38	1	鉄釘先端部片。断面長方形。		いわき22
整地遺構1	F 35	2001		不明鉄器	3.3	1.0	0.2	3.3	端部折れ曲がる。		いわき32
整地遺構2	F 36	2107		鏃形鉄製品(槍形)	4.3	1.4	0.3	5.0	鉄製の鏃形品。先端部フクラ状。断面三角形。		いわき31
S D 1 8	B 3	543	堆砂中	丸鞍裏金具	2.2	2.55	0.11	1.9	半楕円形を呈す。一部欠損。中央長方形孔。端部3方に貫孔があると思われる。	銅鋲帯A一II[9]	梅田や3
S D 1 8	B 4	409	堆砂中	丸鞍裏金具	1.9	2.50	0.12	2.7	半楕円形を呈す。端部3方に貫孔。	銅鋲帯A一II[9]	野崎3
古代包含層	F 37	1611	3 OSW区	鉄 鏃	16.8	3.64	0.48	125	直刀鏃。刃部先端欠損。断面三角形。使い込まれて湾曲。柄鏃着部折り返し。柄は純角に付く。		いわき28

挿表56　長瀬高浜遺跡出土金属製品観察表(1)

古代包含層	F38	729	4 ONEK	鉋	5.70	刃部1.1 茎部0.7	刃部0.5 茎部0.55		刃部平・断面三角形。やや反る。先端部欠損。茎部断面方形。		牧本28
古代包含層	F39	554	3 ONWK	針 針	5.0	最大径 0.45		5.2	針先部欠損。軸部断面円形。カエシ部尖る。	カエシ部糸付着。	牧本11
古代包含層	F40	413	4 ONEK	不明鉄製品	9.4	1.00	0.70	20.8	両端尖る。断面長方形。		オカノ30
9号墓	F41	57		鉄 釘	5.9	0.70	0.58	9	頭部欠損。断面長方形。		いわきき21
3 O S K 7	F42	1338	煙抄中	鉄製鉄	13.9	刃部1.22	0.5	11.0	横り鉄。一方を欠損。刃部先端部欠損。横り部断面方形。		オカノ24
中世包含層	F43	221	3 OSE区	鉄製紡錘車	18.6	円盤径 4.8	軸径0.52	28.2	軸部断面円形。先端部欠損。糸巻き付け部糸の痕跡有り。円盤部湾曲している。		いわきき23
中世包含層	F44	95	4 O	鉄製紡錘車 円盤部	最大径 4.1		0.28	48.6	鉄製紡錘車円盤部と思われる。中央盛り上がり、穴があくと考えられる。		牧本14
中世包含層	F45	301	3 OSW区	刀 子	7.0	1.76	0.35	8.5	茎部欠損。刃部フララ切先。断面三角形。		牧本13
中世包含層	F46	118	3 P	鉄 釘	12.5	0.63	0.50	14.4	断面長方形。端部折れ曲がる。	木質付着。	牧本10
中世包含層	F47	68	2 O	鉄 釘	6.2	0.75	0.5	8.6	断面方形。端部L字。先端部折れ曲がる。		井上12
中世包含層	F48	155	3 ONWK	鉄 釘	4.1	0.6	0.6	4.1	断面方形。端部L字。先端部欠損。		オカノ19
中世包含層	F49	217	3 OSEK	鉄 釘	6.0	0.51	0.49	4.7	断面方形。端部L字。先端部欠損。		オカノ22
中世包含層	F50	177	3 PSEK	鉄 釘	6.0	1.6	0.5	20.8	断面扁平。端部L字。先端部欠損。		オカノ29
中世包含層	F51	550	3 OSE区	鉄 釘	5.4	0.60	0.46	5.1	断面方形。頭部欠損。		牧本23
中世包含層	F52	547	3 OSEK	不明鉄製品	5.8	0.55	0.54	5.8	軸部断面方形。先端部尖る。円形留め部有り。茎部断面長方形。ロウソク立てか。		いわきき30
中世包含層	F53	70	3 O	不明鉄製品	6.2	0.76	0.46	7.2	軸部断面方形。先端部尖る。円形留め部有り。茎部断面長方形。先端部欠損。ロウソク立てか。		いわきき29
中世包含層	F54	304	3 OSEK	不明鉄製品	14.6	0.42	0.38	7.5	棒長い釘状鉄製品。断面方形。両端尖る。		牧本12
中世包含層	F55	149	3 PSW区	鉄釘？	8.2	0.90	0.40	5.6	鉄釘か。端部屈平。		オカノ14

挿表57　長瀬高浜遺跡出土金属製品観察表(2)

註

1．鉄鏃の分類は、杉山分類に依った。
　杉山秀宏「古墳時代の鉄鏃について」『橿原考古学研究所論集８』1989

2．奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告Ⅳ』1975

遺構名	遺物番号	取上番号	出土位置	種類	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	形態上の特徴	備考	実測者番号
SI247	S1	1301	埋砂上層	敲石	閃緑岩	9.7	6.8	5.5	520	楕円形を呈す。敲打面を6面もつ。	長石の大きな結晶を含む。	井上5
SI249	S2	2939	埋砂上層	砥石	細粒花崗岩	5.4	5.8	3.9	200	両端部・表裏を欠く。砥面は2面ある。		牧本2
SI249	S3	2950	埋砂上層	磨石	安山岩	10.1	8.0	3.2	355	扁平で楕円形を呈す。全体を磨き、側面・平面に1カ所ずつ敲打面をもつ。一部剥離。	一部被熱黒変。一部面赤色塗彩。	牧本3
SI252	S4	2387	埋砂上層	砥石	流紋岩	8.4	6.7	2.5	215	おもな砥面は5面、うち2面にスジ状使用痕あり。本来断面六角形、全面砥面と思われる。側縁後使用痕あり。		牧本1
SI250	S5	1844	埋砂中	敲石	安山岩	7.3	4.7	4.9	270	楕円形を呈す。敲打面を1面もつ。		牧本9
SI253	S6	3075	埋砂中	石斧	閃緑岩	15.3	12.1	8.5	1120	片面を砥面として使用、スジ状使用痕あり。	石英の大きな結晶を含む。	オカノ32
SI253	S7	3151	埋砂上層	敲石	安山岩	14.0	6.6	3.5	390	楕円形を呈す。敲打面は3面ある。全体に磨かれている。		オカノ2
SI253	S8	3076	埋砂下層	敲石	安山岩	5.4	4.9	2.4	75	扁平な円形を呈す。両面中央に敲打面。		オカノ10
SI254	S9	3023	埋砂中	砥石	流紋岩	4.9	5.0	3.6	110	断面不正方形を呈す。おもな砥面は4面、1面風化。		オカノ7
SI255	S10	3474	床面	敲石	安山岩	9.2	5.8	4.0	320	楕円形を呈す。6面に敲打痕あり。全体に磨かれている。	石英の大きな結晶を含む。	オカノ4
SI255	S11	3485	床面	石皿	流紋岩	16.3	14.8	6.6	2170	扁平な不整楕円形を呈す。表面中央部に敲打面がある。	表面被熱変色、黒色付着物。	オカノ3
SI257	S12	3682	埋砂下層	不明石製品	安山岩貫入流紋岩	6.0	5.5	5.2	75	ほぼ球状を呈す。一部に研磨痕と考えられるスジ状使用痕あり。		オカノ9
SI259	S13	2765	埋砂上層	石皿	安山岩	10.8	12.9	3.9	720	1面に敲打痕あり。両面とも磨かれている。		いわさき5
十器溜2	S14	2566		砥石	流紋岩	10.3	9.1	6.2	530	砥面は2面確認できる。他は欠損。1面には施痕状の使用痕あり。		いわさき4
土器溜2	S15	2847		錘製紡糸状片刃石斧	砂岩?	5.3	3.8	3.1	80	紡状片刃石斧刃部。		いわさき11
土器溜2	S16	705		不明石製品	砂岩?	9.9	2.5	0.5	14	磨製石製品の一部。表面に擦痕あり、1mm程度の溝みを帯つ。側面に接痕あり。	側面・歯みに赤色塗彩が残る。	いわさき10
古墳時代包含層	S17	2395		敲石	安山岩	9.1	2.0	2.4	100	断面はほぼ円形の棒状を呈す。両端に敲打痕あり。全体によく磨かれる。	スス薄く付着。	井上2
古墳時代包含層	S18	2473	1O	浮子?	軟石	3.8	2.5	2.4		断面はほぼ円形を呈す。中央溝が走る。		野崎185
SX99	S19	2863	周溝掘砂中	石剣	結晶質	4.5	2.7	0.8	16.6	断面菱形を呈す。両端欠損。磨滅著しく、鋭・刃部ともに不明瞭。		オカノ5
SB60	S20	2969	P86内	敲石	流紋岩	8.9	4.9	5.8	240	紡面は2面ある。他は欠損。1面には施痕状の使用痕あり。		オカノ6
整地遺構1	S21	1620	暗茶褐色砂2ONW	磨石	石英安山岩	6.6	6.4	3.2	190	扁平ではほぼ円形を呈す。全体が磨かれる。	風化気味。	井上1
整地遺構1	S22	1637	暗茶褐色粘質砂	砥石	花崗岩	△6.2	△4.0	△4.9	110	砥面は1面、他は欠損。		いわさき3
整地遺構1	S23	577	黒褐色粘質砂3ONE	砥石	流紋岩	△3.3	△2.6	1.6	20	砥面は3面ある。断面長方形を呈するものと思われる。		井上8
整地遺構2	S24	2082	暗茶褐色粘質砂下	石皿	安山岩	△10.0	△10.6	11.2	1940	石皿の一部。断面扁平な楕円形を呈すと思われる。全体によく磨かれる。敲打痕あり。	黒色付着物。欠損後被熱。スス付着。	いわさき6
整地遺構3	S25	1998	盛上	砥石	安山岩貫入流紋岩	△8.8	3.5	1.9	60	砥面は3面、1面はよく使い込まれている。2面にスジ状使用痕あり。		いわさき2
古代包含層	S26	591	暗茶褐色砂3ONE	砥石	細粒花崗岩	△4.2	△5.2	△3.8	140	砥面は2面あるが、角が丸くなっている。欠損後工具痕が2カ所みられる。		井上9
古代包含層	S27	664	2OSW	砥石	花崗岩貫入アプライト	△12.3	5.9	5.5	600	おもな砥面は6面、うち1面はあまり使用していない。使用痕が多数みられる。		井上11
古代包含層	S28	1099	暗茶褐色砂3ONE	敲石	石英安山岩	11.8	6.2	3.0	490	楕円形を呈す。おもな敲打痕はきか所あり、よく使い込まれている。	スス付着か。	井上6
古代包含層	S29	1008	暗茶褐色砂3PSE	敲石	石英安山岩	13.1	6.4	3.6	490	扁平な小判形を呈す。敲打面は6面あり、よく使い込まれている。全体に磨かれる。	風化気味。	井上3
中世包含層	S30	158	3PSW	砥石	流紋岩	△8.9	4.5	4.1	280	方柱形を呈す。おもな砥面は4面あり、3面は良く使い込まれ内湾する。	鐵粘花崗岩か。	いわさき1
中世包含層	S31	427	2OSW	砥石	アプライト	△4.4	2.8	1.9	30	方柱形の手持ち砥か。砥面は4面あり、よく使い込まれ内湾する。スジ状使用痕あり。		オカノ1
中世包含層	S32	653	2ONW	砥石	流紋岩	△6.2	3.6	△3.3	85	断面5角形を呈するものと思われる。おもな砥面は4～5面あり、よく使われている。		牧本7

挿表58　長瀬高浜遺跡出土石製品観察表(1)

中世包含層	S33	179	3 ONW	砥 石	流紋岩	△8.3	△6.9	△6.7	470	おもな砥面は4面ある。断面多角形を呈す。各砥面にはスジ状使用痕が多数みられる。		井上10
中世包含層	S34	596	3 ONW	敲 石	安山岩	13.9	7.8	3.6	560	扁平でややいびつな楕円形を呈す。敲打面は3方所、側面のものはよく使われている。		牧本6
中世包含層	S35	344	3 PSE	敲 石	石英安山岩	7.9	4.2	4.1	210	いびつな楕円形を呈す。敲打痕は6面にあり、よく使われている。		井上4
中世包含層	S36	342	3 ONE	敲 石	安山岩	7.2	4.0	3.8	160	角のとれた三角柱状の長楕円形を呈す。両端に敲打痕。全体に磨かれている。		オカノ8
中世包含層	S37	111	3 O	有溝石錘	角閃安山岩	12.4	7.6	7.0	440	いびつな楕円形を呈す。下半に溝をある。上半は欠けた痕がかすかにみられる。	長石の大きな結晶を含む。	牧本8
調査区一括	S38	101		砥 石	安山岩質凝灰岩	12.0	3.6	△6.1	270	おもな砥面は1面。よく使い込まれスジ状使用痕が多数みられる。	スス薄く付着。大きな石英含む	井上7

挿表59　長瀬高浜遺跡出土石製品観察表(2)

遺構名	遺物番号	取上番号	出土位置	種 類	材 質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 さ(g)	形 態 上 の 特 徴	備 考	実測番号
S I 2 5 2	J 1	1698	種砂上層	ガラス小玉	ガラス	長径0.46	短径0.4	0.29	0.076	扁平楕円形。	穴径0.16～0.23	牧本5
土器溜1	J 2	1277		管 玉	緑色凝灰岩	1.43	径0.33	穴径0.11～0.16	0.258	片側穿孔か。		いわさき8
古墳時代包含層	J 3	3091	2 OSW区	管 玉	緑色凝灰岩	1.130	径0.44	穴径0.06～0.2	0.319	片側穿孔。		いわさき7
整地遺構2	J 4	2054		ガラス小玉	ガラス	長径0.44	短径0.39	0.35～0.39	0.084	断面不定形。	穴径0.35～0.39	いわさき14
S D 2 1	J 5	585	3 ONW区	管 玉	頁石化した結晶岩	2.3	径0.6	穴径0.28～0.19	1.732	片側穿孔。		オカノ11
中世包含層	J 6	553	2 OSE区	土製勾玉		4.8	1.9	穴 径3.8～4.0	17.400	手捏ね成形後ミガキ。両側穿孔。	黒斑有り。	いわさき12
中世包含層	J 7	366	2 ONW区	管 玉	緑色凝灰岩	2.0	径0.56	穴径0.18～0.24	0.608	片側穿孔。		いわさき9
中世包含層	J 8	402	2 OSW区	ガラス小玉	ガラス	長径0.53	短径0.46	0.29～0.37	0.095	断面不定形。	穴径0.18～0.23	いわさき13

挿表60　長瀬高浜遺跡出土玉製品観察表

遺構名	遺物番号	取上番号	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大径(cm)	底部径(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調内面	色調外面	備考	実測番号
ピット群1	Po 1	73	P26	上師器	甕	16.3	29.3	26.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ後粗いヨコハケ。底部ヘラ切り→ヨコハケ。 内面口縁部→胴部ヨコナデ。胴部方向ケズリ。 中位以下上方向ケズリ。最胴部横位調。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。底部スス付着。底部外面赤色。	東山 135
ピット群1	Po 2	95	P10	土師器	移動式竈	※25.4	△7.7			外面天井部横いハケ目。口縁部ヨコナデ。 内面横いハケ目。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	黄橙色	天井部外面黒煤有り。	山本 132
遺構外	Po 3	43		上師器	甕	※15.1	△5.0			内外面ともに風化のため調整不明瞭。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田 149
遺構外	Po 4	53		土師器	甕	※15.8	△4.0			口縁部内外面ともヨコナデ。 内面胴部右方向のケズリ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面一部スス付着。	福田 147
遺構外	Po 5	49	B 3	土師器	壺	※14.4	△4.6			口縁部内外面ともヨコナデ。 内面胴部風化のため調整不明瞭、ケズリか。	密（砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		福田 148
遺構外	Po 6	53		土師器	甕	※15.0	△5.2			内外面ともにヨコナデ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		山本 128
遺構外	Po 7	5	A 1	土師器	甕	※14.8	△3.8			内外面ともにヨコナデ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色		山本 124
遺構外	Po 8	22 50	B 3 B 4	土師器	甕	※19.5	△8.8			外面ナデ、ハケ目がかすかにみられる。 内面口縁部横方向のハケ目後ナデ。胴部左方向のケズリ。指圧痕あり。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面一部スス付着。	野崎 179
遺構外	Po 9	95		土師器	甕	※17.2	△9.6			外面口縁部ヨコナデ。胴部あるいは縦方向のキザミ後いハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部両方向のケズリ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面全体内面胴部スス付着。	野崎 178
遺構外	Po10	38 42		土師器	甕	※16.8	△4.4			内外面ともにヨコナデ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色		山本 131
遺構外	Po11	42	A 1	土師器	甕	※17.2	△5.9			口縁部内外面ともヨコナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	福田 146
遺構外	Po12	72		土師器	甕	※19.0	△5.5			外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。	密（2～3mmの砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面スス付着。	山本 129
遺構外	Po13	80		土師器	甕	※17.9	△4.9			外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色		山本 125
遺構外	Po14	40	A 1	土師器	鉢形		△10.0	※22.8		外面胴部横・斜の方向のハケ目。 内面胴部ナデ。胴部左寄の方向のケズリ。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	橙色		福田 152
遺構外	Po15	95		土師器	高杯杯部	※16.4	△4.0			内外面ともにヨコナデ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色		山本 127
遺構外	Po16	82 95		土師器	高杯杯部	※14.5	△5.3			内外面ともにヨコナデ。	密（1mm程度の砂粒を含む）	良好	黄橙色	黄橙色	内外面赤色塗彩。	山本 126
遺構外	Po17	77		土師器	高杯脚部		△7.9		10.2	外面ナデ。 内面横部シボリ目残る。脚部ナデ。	密	良好	橙色	橙色		東山 134
遺構外	Po18	92		土師器	高杯脚部		△6.1		9.7	外面脚部縦方向ハケ目。脚部ナデ。 内面脚部ヨコ目後ナデ。脚部ナデ。	やや粗（砂粒を含む）	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		野崎 177
遺構外	Po19	21	B 1	七師器	高杯		△3.9			外面杯部・脚部縦・横方向の粗いハケ目後一部ヨコナデ。 内面杯部ナデ。脚部ナデ。脚部ハケ目。	密（2mmまでの石英砂粒を多く含む）	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面・内面赤彩。	福田・内田 150	
遺構外	Po20	86		七師器	脚付鉢脚部	※13.0	△5.0			外面風化のため調整不明瞭、ヨコナデか。 内面ナデ。	密（3mmまでの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		福田 153
遺構外	Po21	42	A 1	土師器	鉢	※12.3	△4.05	※12.8		内外面ともナデ。 内面ハケ目がかすかにみられる。	密（2mmまでの砂粒を含む）	良好	橙色	橙色		福田 151
遺構外	Po22	24	B 1	土師器	脚付鉢		△4.0			外面鉢部ナデ。脚部ヨコナデ。 内面ナデ。	密（砂礫を含む）	良好	橙→黄橙色	橙→黄橙色		野崎 182
遺構外	Po23	9	A 2	土師器	脚付鉢脚部		△4.3		※8.1	脚部風化のため調整不明。 脚部内外面ともナデ。	やや密（2mm以下の砂粒を多く含む）	良好	浅黄→にぶい橙色	浅黄→にぶい橙色		福田 142
遺構外	Po24	16	B 3 B 4	土師器	脚付鉢脚部		△3.2		※7.3	内外面ともナデ。	粗（1mm以下の砂粒を含む）	良好	橙→黄橙色	橙→黄橙色		福田 143
遺構外	Po25	87 88 95		土師器	脚付鉢脚部		△3.1		※9.2	内外面ともにヨコナデ。	密	良好	黄橙色	黄橙色		山本 130
遺構外	Po26	87		土師器	脚付鉢		△4.4			風化のため調整不明瞭、ナデか。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	橙→黄橙色	橙→黄橙色		福田 145
遺構外	Po27	85		土師器	脚付鉢脚部		△3.5		※7.4	外面風化のため調整不明瞭、ナデか。 内面ナデ。	密（砂粒を含む）	良好	橙→浅黄橙色	橙→浅黄橙色		野崎 175
遺構外	Po28	92		上師器	脚付鉢脚部		△3.0		8.3	鉢部ナデ。脚部内外面ともナデ。	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田 144
遺構外	Po29	51	C 1	土師器	脚付鉢脚部		△3.1		※7.2	内外面ともナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面赤色塗彩。	福田 141
遺構外	Po30	6	B 2	土師器	把手					手捏ね整形後ナデ。	密（2～3mmの砂粒を含む）	良好		浅黄橙→黄色		野崎 181
遺構外	Po31	46	B 1	上師器	把手					手捏ね整形後ナデ。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好		橙色		野崎 184
遺構外	Po32	49	B 3	土師器	埴輪杯	※43.8	△8.5			外面ナデ、縦方向の強いハケ目がかすかにみられる。 内面ナデ、成型時の指頭圧痕・工具痕あり。	密（1～3mmの砂粒を含む）	良好	淡黄色	淡黄色		野崎 183
遺構外	Po33	10	B 2 B 3 C 4	須恵器	杯蓋		△3.7			外面天井部上半右方向回転ケズリ。以下回転ナデ。 口縁部回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	灰～褐灰色	灰色		野子 71
遺構外	Po34	20	B 1	須恵器	杯蓋	※12.2	△3.05			内外面ともに回転ナデ。	密	良好	青灰色	灰～青灰色		野子 70
遺構外	Po35	50	B 4	須恵器	杯蓋	※14.8	△3.45			内外面ともに回転ナデ。	密（2mm程度の砂粒を含む）	良好	灰色	灰～青灰色		野子 69
遺構外	Po36	53		須恵器	杯蓋	※14.0	△2.85			内外面ともに回転ナデ。	密（1～2mmの砂粒を含む）	良好	青灰色	灰色		野子 66
遺構外	Po37	50	B 4	須恵器	杯身	※12.6	△2.3			内外面ともに回転ナデ。	密	良好	明るい灰～灰色	灰色		野子 67
遺構外	Po38	108	A 1 B 1	須恵器	高杯	※14.2	△3.4			内外面ともに回転ナデ。外面口縁接続状態。	密	良好	灰色	灰色		野子 74

挿表61　国府６遺跡出土土器観察表(1)

遺構外	Po39	11	C2	須恵器	口縁部	復11.0				内外面とも回転ナデ。	密	良好	灰色	暗青灰～灰色		胴子72
遺構外	Po40	15	B3 B4	須恵器	壺	復17.4	△4.5			内外面とも回転ナデ。	密	良好	灰オリーブ～青黒	灰オリーブ～青黒	内外面一部赤色釉がみられる。	胴子68
遺構外	Po41	10	B2 B3 C4	須恵器	壺					外面平行叩き後ナデ。 内面同心円文当て。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	暗青灰色	灰色		福田や153
遺構外	Po42	15	A1 B1	須恵器	壺					外面平行叩き。 内面同心円文当て。	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	灰黄色	灰白～灰黄色		福田や154
遺構外	Po43	2	調査区一括	須恵器	椀		△3.4	復12.4		外面口縁部回転ナデ。底部回転ケズリ。 内面口縁部回転ナデ。底部ナデ。	密	良好	赤灰～灰赤色	青灰～暗灰色		胴子73

挿表62　調査第6遺跡出土土器観察表(2)

遺構名	遺物番号	取上番号	出土位置	種類	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	形態上の特徴	備考	実測者番号
ピット群1	S1	31	P25	石錘	安山岩	6.8	7.0	1.9	140	扁平ではほぼ円形を呈す。両端を打ち欠く。		野崎180

挿表63　調査第6遺跡出土石製品観察表